ワークスペース環境マネジメント™ サービス

注:

- Workspace Environment Management サービスは、米国、EU、およびアジア太平洋南部を拠点とするインスタンスでグローバルに利用できます。Citrix は、より多くの地域で Workspace Environment Management サービスインスタンスを有効にするよう取り組んでいます。
- Workspace Environment Management サービスは、Citrix Cloud とは分離された独立したクラウドである Citrix Cloud Japan でも利用できます。日本の顧客は、Citrix が管理する専用環境でこのサービスを使用できます。詳細については、「Citrix Cloud Japan」を参照してください。
- Workspace Environment Management サービスの顧客データストレージ、保持、および制御に関する情報については、「顧客データ管理」を参照してください。
- 2023 年 7 月以降、Microsoft は Azure Active Directory (Azure AD) を Microsoft Entra ID に名称変更しました。このドキュメントでは、Azure Active Directory、Azure AD、または AAD へのすべての参照は、Microsoft Entra ID を指します。

はじめに

Workspace Environment Management サービスは、インテリジェントなリソース管理とプロファイル管理テクノロジーを使用して、以下の展開で最高のパフォーマンス、デスクトップログオン、およびアプリケーション応答時間を提供します。

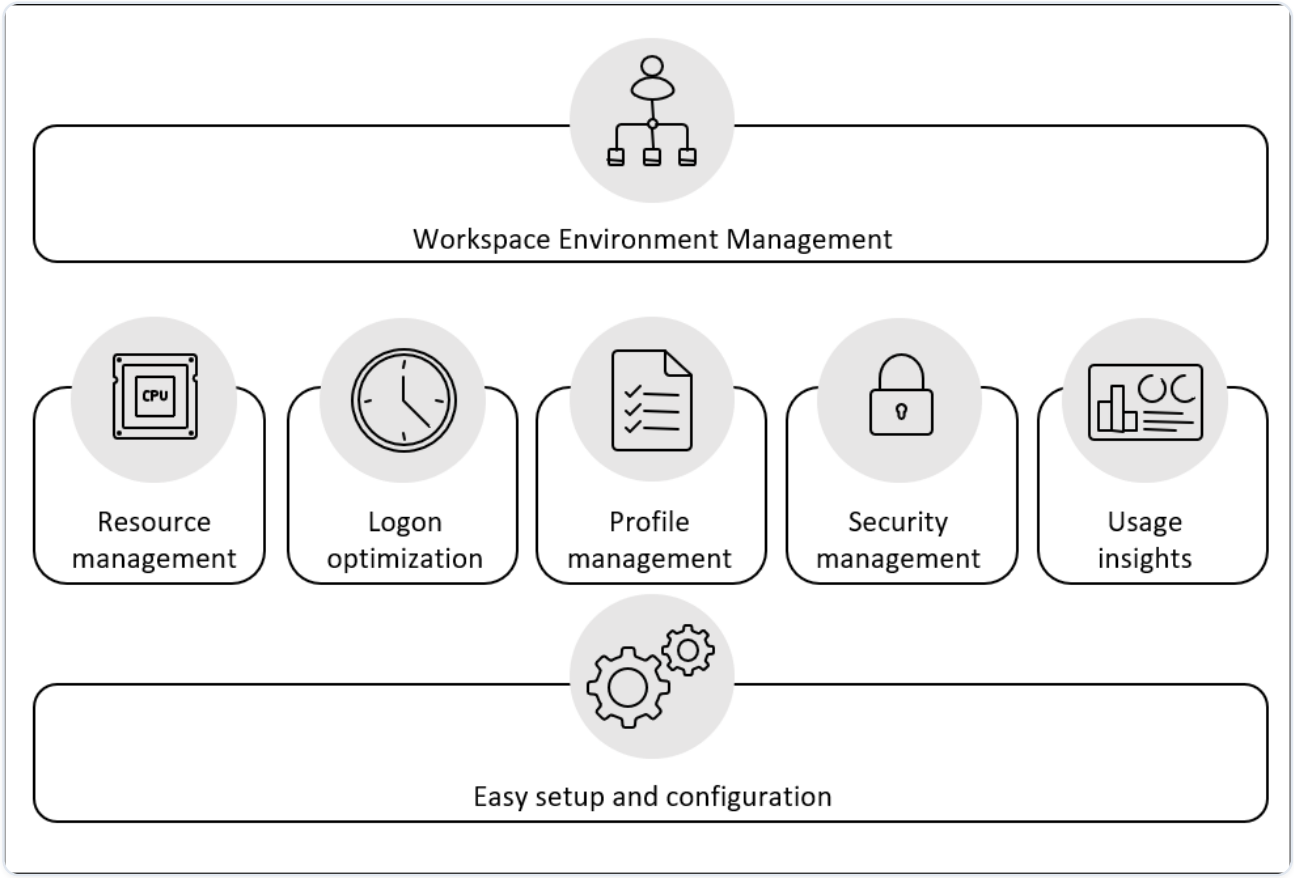
- Citrix DaaS (旧称 シトリックス バーチャル アプリケーションズ アンド デスクトップ サービス) および Citrix Virtual Apps and Desktops

これは、IT 管理を簡素化し、最高のユーザーエクスペリエンスのためにデスクトップを最適化する、軽量でスケーラブルなユーザー環境管理ソリューションです。

重要:

Workspace Environment Management サービスで Azure Virtual Desktop を管理するには、Citrix Optimization Pack を購入する必要があります。

Workspace Environment Management サービスの主な機能は次のとおりです。

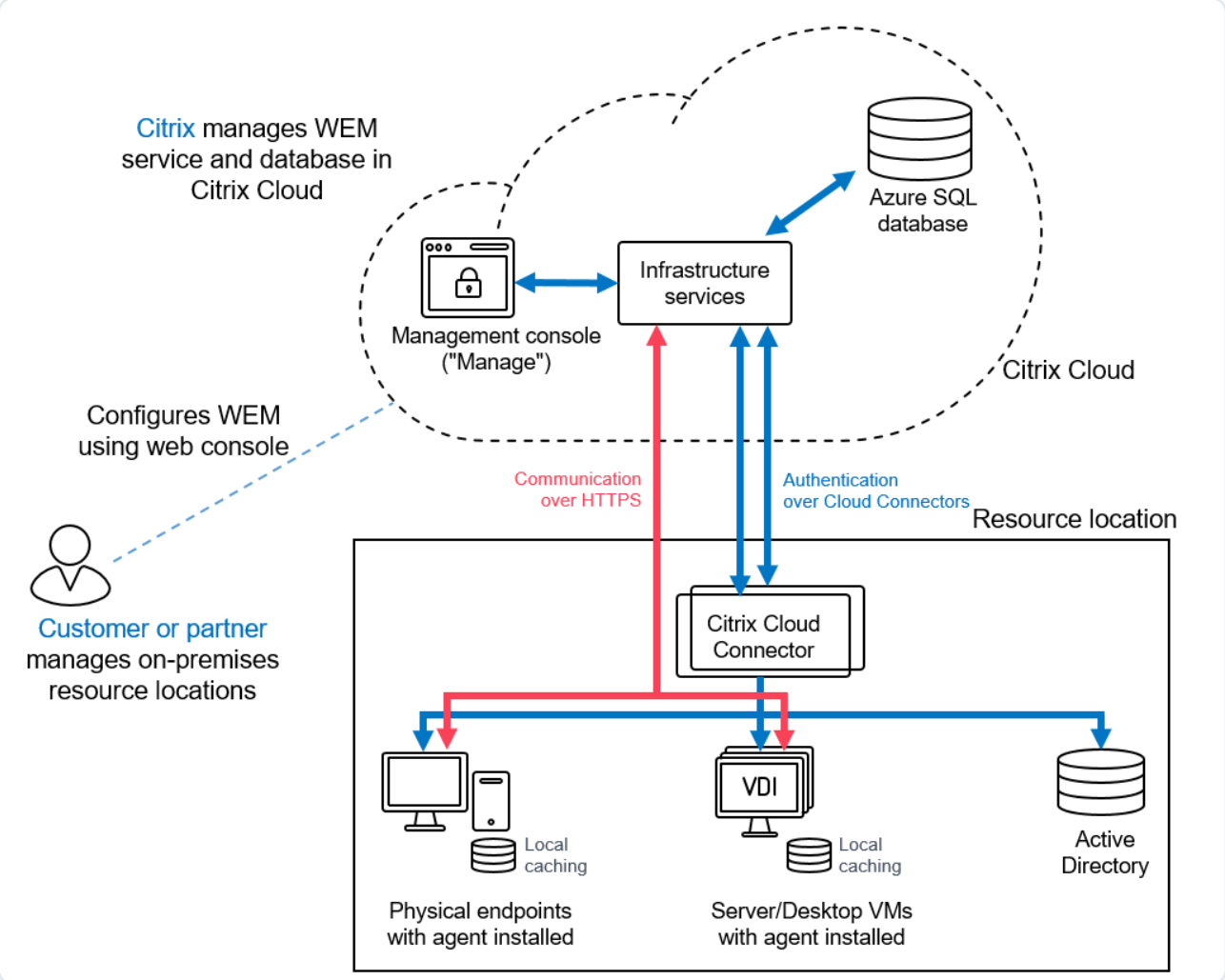


- **ユーザーワークスペース管理**
  - アプリケーション、プリンター、ネットワークドライブ、外部タスクなどを管理します
  - 割り当てをフィルタリングします
- **ユーザーリソース管理**
  - アプリケーションの動作をリアルタイムで監視および分析します
  - ユーザー環境でRAM、CPU、I/Oをインテリジェントに調整します
  - 焦点が当てられているアプリケーションに必要なリソース量を保持します
  - ユーザーエクスペリエンスを損なうことなく、バックグラウンドプロセスを調整します
  - アプリケーションの応答性を向上させます

- **ユーザープロファイルの管理**
  - Citrix Profile Managementを使用して、セッションとエンドポイント間でユーザープロファイルを管理します
- **ログオンパフォーマンスの最適化**
  - ログオンプロセスから不要なプロセスを遅延させ、ログオン時間を改善します
  - ユーザーがログオンした後、バックグラウンドでログオン関連の構成を適用します
- **簡単なセットアップと構成**
  - Workspace Environment Managementのオンプレミスバージョンで必要となるセットアップタスクのほとんどを排除します

技術概要

Workspace Environment Management (WEM) サービスには、次のアーキテクチャがあります。



以下のコンポーネントはCitrix Cloud™でホストされ、サービスの一部としてCitrixによって管理されます。

- **インフラストラクチャサービス**。インフラストラクチャサービスは、マルチセッションOSにインストールされます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント（SQL ServerおよびActive Directory）をフロントエンドコンポーネント（管理コンソールおよびエージェント）と同期します。Citrix Cloudで十分なインフラストラクチャサービスが提供されるようにします。
- **管理コンソール**。サービスの**管理**タブから利用できる管理コンソールを使用して、Webブラウザでユーザー環境を管理します。管理コンソールは、Citrix CloudベースのCitrix Virtual Apps™サーバーでホストされています。このサーバーは、管理コンソールへのHTML5接続用のCitrix Workspace™アプリを提供します。
- **Azure SQL Database**。Workspace Environment Managementサービスの構成は、エラスティックプールに展開されたMicrosoft Azure SQL Databaseサービスに保存されます。このコンポーネントはCitrixによって管理されます。

次のコンポーネントは、各リソースの場所でお客様/パートナーによってインストールおよび管理されます。

- **エージェント**。Workspace Environment Managementサービスエージェントは、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービスに接続し、管理コンソールで構成した設定を適用します。すべての通信は、Citrix Cloud Messaging Serviceを使用してHTTPS経由で行われます。エージェントはVirtual Delivery Agent（VDA）に展開できます。これにより、シングルセッションまたはマルチセッション環境を管理できます。物理Windowsエンドポイントにエージェントを展開することもできます。

  すべてのエージェントはローカルキャッシュを使用するため、ネットワーク接続が中断されても、エージェントは最新の設定を引き続き使用できます。

  > **注:**
  >
  > Transformer機能は、マルチセッションオペレーティングシステムではサポートされていません。

- **Microsoft Active Directoryサーバー**。Workspace Environment Managementサービスは、ユーザーに設定をプッシュするためにActive Directoryへのアクセスを必要とします。インフラストラクチャサービスは、Citrix Cloud IDサービスを使用してActive Directoryと通信します。

- **Cloud Connector**。Citrix Cloud Connector™は、リソースの場所にあるマシンがCitrix Cloudと通信できるようにするために必要です。使用しているすべてのリソースの場所に、少なくとも1台のマシンにCitrix Cloud Connectorをインストールします。継続的な可用性を確保するために、各リソースの場所に複数のCloud Connectorをインストールします。高可用性を確保するために、各リソースの場所に少なくとも2つのCloud Connectorをインストールすることをお勧めします。いずれかのCloud Connectorが一定期間利用できない場合でも、他のCloud Connectorが接続を維持できます。

はじめに

Workspace Environment Managementの展開を設定するには、「展開の構築」を参照してください。

エージェントをインストールするには、「インストールと構成」を参照してください。

新機能

Citrix® の目標は、Workspace Environment Management™ (WEM) サービスのお客様が利用可能になった時点で、新機能と製品アップデートを提供することです。新しいリリースはより多くの価値を提供するため、アップデートを遅らせる理由はありません。アップデートは、約4週間ごとにサービスリリースに展開されます。

このプロセスは透過的です。アップデートは最初にCitrixの内部サイトに適用され、その後、お客様の環境に段階的に適用されます。アップデートを段階的に提供することで、製品の品質を確保し、可用性を最大化できます。

一般に、ドキュメントの更新は、新機能や製品の更新がすべてのお客様に利用可能になる前に提供されます。

クラウドスケールとサービス可用性に関するWEMサービスのサービスレベル目標については、「サービスレベル目標」を参照してください。サービスの中断とスケジュールされたメンテナンスを監視するには、「サービス正常性ダッシュボード」を参照してください。

2026年9月

グループポリシー設定の自己修復

Process GPOs の下の新しい **Enforce processing of GPOs** オプションを使用すると、WEMエージェントは、構成の変更が検出されない場合でも、更新サイクルごとにグループポリシー設定を自動的に再処理します。再処理により、エージェントマシン上のずれが修正され、ポリシーが一貫して適用されます。

詳しくは、「グループポリシー設定」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン：2608

ネットワーク共有およびマップされたドライブ上のアプリケーションに対する特権昇格

ローカルドライブに加えて、**特権昇格**セキュリティ機能は、UNCパス（ネットワーク共有）またはマップされたドライブでホストされているアプリケーションをサポートするようになりました。

これらのアプリケーションに対して、実行可能ファイル、MSI、および自己昇格ルール（パス、発行元、またはハッシュ基準を使用）を作成できます。エージェントサービスが直接読み取れないファイルの公開元またはハッシュ基準を評価するために、WEMはユーザーのセッションコンテキストでファイルを読み取るため、ネットワーク共有およびマップされたドライブ上のアプリケーションは、ローカルアプリケーションと同じ方法で照合および昇格されます。

この機能は、Citrix Virtual Apps and Desktopsの展開にのみ適用されます。詳しくは、「特権昇格」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン：2608

管理用テンプレート（ADMX/ADML）のインポートの改善

WEM WebコンソールでGPO管理用テンプレートをインポートすると、ファイルはアップロード前に検証され、次のような問題のあるファイルが明確にフィードバックされます。

- ペアになっていないADMXファイルまたはADMLファイル。
- 重複するADMLファイル（各ADMXは1つのADML言語フォルダーのみをサポート）。
- スキーマ（XSD）または解析エラー。

一部のテンプレートが検証に失敗した場合でも、合格したテンプレートはインポートされ、失敗したテンプレートは名前で一覧表示されます。

詳しくは、「テンプレートのインポート」を参照してください。

構成テンプレート

WEM Webコンソールで構成テンプレートを適用できるようになりました。テンプレートは、サイトや環境全体で構成を標準化し、反復的な構成タスクを削減する、再利用可能な事前定義済み設定を提供します。

詳しくは、「推奨設定の適用」を参照してください。

修正

- Ivanti Migrationツールは、非標準のGPOタイプが存在する場合、移行中に特定のGPO構成を失う可能性があります。

2026年7月

管理ログ

管理ログを使用して、WEM Webコンソールで管理者によって行われたすべての構成変更を追跡できるようになりました。各ログエントリには、アクションを実行した管理者のID、影響を受けたオブジェクト、操作タイプ、変更前後の概要が記録されます。

ログは180日間保持され、最大100,000レコードです。ログの表示は役割によって制御されます。WEM Full管理者にはすべてのログが表示され、WEM Restricted管理者には割り当てられた構成セットにスコープされたログが表示されます。

詳しくは、「ログ」を参照してください。

モデリングウィザード

モデリングウィザードは、特定のユーザーに適用されるWEMアクションとセキュリティを理解するのに役立ちます。ユーザーを選択すると、割り当てられたすべての項目がアクションタイプ別に整理されて表示され、ユーザーのグループメンバーシップとディレクトリ内のOU配置も確認できます。

詳細については、モデリングウィザードを参照してください。

レポートページの概要ビュー

レポートページに**概要**ビューが追加され、**イベントの種類**、**アクション処理結果**、**構成セット**、**スクリプト実行結果**の4つのグラフが表示されるようになりました。これにより、レポートデータの統計的な概要をすばやく確認できます。

詳細については、概要ビューを参照してください。

Agent Insightsのプロファイルタブの機能強化

Agent Insightsの**プロファイル**タブは、プロファイルコンテナだけでなく、より広範なユーザープロファイルタイプをサポートするようになりました。また、プロファイルデータが更新されている間、リアルタイムのスキャン進行状況と残り推定時間が表示されます。

詳細については、Agent Insightsを参照してください。

AOT診断およびログ収集用の新しい組み込みスクリプト

WEMには、Citrix Always On Tracing (AOT) および診断データの診断と収集に役立つ5つの新しい組み込みスクリプトが含まれるようになりました。

- **Citrix AOTの問題を診断**: Citrix Always On Tracing (AOT) の構成を検証し、一般的な問題を診断し、トラブルシューティングをサポートするためのAOT診断レポートを生成します。
- **Citrix診断ログを収集**: VDAからCitrix AOTログとWindowsイベントログを収集し、タイムスタンプ付きのZIPファイルとして保存します。
- **Windowsイベントログを収集**: Virtual Delivery Agent (VDA) からWindowsイベントログを収集し、タイムスタンプ付きのZIPファイルとして保存します。
- **Citrix Scout診断を収集**: ScoutCLI.exeを実行してVDAからCitrix診断データを収集し、出力をタイムスタンプ付きのZIPファイルとして保存します。

詳細については、スクリプトタスクのスクリプトを参照してください。

修正

- ログオフ外部タスクトリガーが有効で、多数のGPOが構成されている場合、セッション起動中にWEMエージェントが過剰なリソースを消費する可能性があります。

2026年6月

トランスフォーマー設定

WEM Webコンソールから直接トランスフォーマー設定を構成できるようになりました。詳細については、「トランスフォーマー設定」を参照してください。

環境設定

WEM Webコンソールから直接環境設定を構成できるようになりました。レガシーコンソールから既存の構成を移行するには、組み込みの移行機能を使用します。詳細については、「環境設定」を参照してください。

プロファイル管理

Workspace Environment Managementは、*2603*までのProfile Managementのすべての*サポートされているバージョン*をサポートするようになりました。

- **BindLinkリダイレクトを有効にする**。有効にすると、Profile ManagementはMicrosoft BindLink APIを使用して、プロファイルコンテナ内のファイルシステムリダイレクトを処理します。この機能は、Windows 11 24H2、Windows Server 2025、またはそれ以降でのみサポートされています。

  この機能は、**プロファイル > プロファイル管理設定 > プロファイルコンテナ**の各構成セットで利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management設定」を参照してください。

2026年4月

ログオン期間診断の強化

改善されたメトリック編成により、より詳細なログオン診断を表示できるようになりました。シェル起動関連のメトリックは、より明確な構造、説明、および統合されたガイダンスで強化され、ログオンパフォーマンスの遅延を特定してトラブルシューティングすることが容易になりました。詳細については、「Windowsログオン分析」を参照してください。

スクリプトから直接外部タスクを作成

既存のスクリプトから直接外部タスクを作成できるようになりました。この機能強化により、**スクリプトタスク**ページから外部タスクをすばやく生成できるため、スクリプトの再利用が簡素化され、管理性と効率が向上します。詳細については、「スクリプトから外部タスクを作成」を参照してください。

Citrix Environment Tool Hubの新しいProfile Managementヘルスチェックツール

Citrix Environment Tool Hubには、健全なProfile Management環境を維持するのに役立つ2つの新しいツールが含まれるようになりました。

- **Profile Managementログパーサー**: ログファイルを分析し、セッションレベルの詳細、検出されたエラー、およびアクティブなポリシー設定を表示して、プロファイルの問題をより迅速に解決するのに役立ちます。
- **Profile Managementヘルスチェック**: ローカル構成、ポリシー設定、およびイベントログをスキャンし、ヘルスステータスインジケーターと修復の推奨事項とともに結果を提示して、構成ミスをプロアクティブに検出し修正するのに役立ちます。

詳細については、Profile Management Log ParserおよびProfile Management Health Checkを参照してください。

修正

- 外部タスクが**ログオフ**トリガーで構成されている場合、`gpt.ini`ファイルが破損する可能性があります。その結果、ローカルグループポリシーが正しく適用されない場合があります。

2026年3月

単一のスクリプトから複数のスクリプトタスクを作成する

単一のスクリプトを使用して複数のスクリプトタスクを作成できるようになりました。この機能により、重複するタスクが減り、展開が迅速化され、メンテナンス作業とエラーのリスクが軽減されます。タスク定義から設定へのより迅速なナビゲーションにより、管理がさらに効率化され、環境全体での管理者生産性が向上します。詳細については、Scripted Tasksを参照してください。

Active DirectoryとのLDAPS通信のサポート

LDAPSを使用してWEMとActive Directory間の通信を保護できるようになりました。この機能により、暗号化されたディレクトリトラフィックが確保され、企業のセキュリティおよびコンプライアンス要件を満たすのに役立ち、規制された環境での露出が軽減されます。LDAPS通信を有効にする方法の詳細については、Manage Active Directory objectsを参照してください。

プロファイル管理

Workspace Environment Management™ は、*2603*までのProfile Managementのサポートされているすべてのバージョンをサポートするようになりました。

- **マシンの休止状態に対するマルチセッションサポートを有効にする**。有効にすると、休止状態のセッションで使用されているVHDXディスクは、他のセッションに再割り当てされません。これにより、マシンが休止状態から回復した後もユーザープロファイルを再開でき、セッションの継続性が確保されます。

  この機能は、**Profiles > Profile Management Settings > Advanced settings > VHD settings** の各構成セットで利用できます。詳細については、Citrix Profile Management Settingsを参照してください。

2026年1月

ログオンしたユーザーセッションでスクリプトタスクを実行する

ログオンしたユーザーのセッションで、スクリプトタスクをオンデマンドで直接実行できるようになりました。ユーザー名またはセッションIDを指定することで、そのユーザーの権限でタスクを実行するようにトリガーできます。この機能により、ユーザー固有のアクションや環境とのリアルタイムでのシームレスな対話が可能になります。詳細については、Add a scripted taskを参照してください。

ローカルのCitrixアプリケーションをCitrix Environment Tool Hubに追加する

ローカルのCitrix関連アプリケーションをCitrix Environment Tool Hubに自動的に追加して、すばやくアクセスできるようになりました。この機能強化により、アプリケーションの検出と可用性が合理化され、単一の場所からCitrixアプリケーションを起動および管理しやすくなります。詳細については、Add local applications for quick accessを参照してください。

マイクロソフト ユーザー状態仮想化 (USV) 設定

WebコンソールからMicrosoft User State Virtualization (USV) 設定を直接構成できるようになりました。詳細については、Microsoft User State Virtualization (USV) settingsを参照してください。

レガシーアクショングループを割り当てグループに移行する

レガシーコンソールのアクショングループをWebコンソールの割り当てグループに移行できるようになりました。この機能により、既存の構成を迅速かつシームレスに移動し、中断することなく最新のインターフェイスを採用できます。詳細については、「レガシーアクショングループを割り当てグループに移行する」を参照してください。

修正

- マスターイメージの準備中に「**Machine Creation Services に自動的に実行させる**」が選択されている場合、「**CVADサービスからCitrix Cloud Connectorを検出する**」WEMエージェントポリシーが有効にならないことがあります。
- ルールファイルのサイズが100 KBを超えると、AppLockerルールのインポートが失敗する可能性があります。
- WEMエージェントは、`HKCU\Control Panel\Desktop\DragFullWindows`に対してSTRINGレジストリキーではなくDWORDレジストリキーを作成する場合があります。

2025年12月

グループポリシー移行ツールの機能強化

グループポリシー移行ツールを強化し、Windowsショートカット管理ポリシーをWorkspace Environment Management (WEM) に移行するサポートを追加しました。この更新により、ポリシーの移行がより簡単になり、構成移行時の管理効率が向上します。

詳細については、「グループポリシー移行ツール」を参照してください。

Ivanti Workspace Control用の新しい移行ツール

Citrix Environment Tool Hubの新しいツールを使用して、Ivanti Workspace ControlからCitrix Workspace Environment Managementに構成を移行できるようになりました。この移行パスにより、手作業が減り、組織は最小限の中断でスムーズに移行できます。移行後、WEMの最新の集中型プラットフォームを通じてユーザー環境を管理し、柔軟性と拡張性を向上させることができます。

詳細については、「Ivanti Workspace Control用移行ツール」を参照してください。

修正

- 構成に多数のプリンターが含まれている場合、構成の復元がタイムアウトする可能性があります。

2025年10月

トラブルシューティングを容易にする新しい組み込みスクリプトタスク

新しい組み込みスクリプトタスクを使用して、診断を簡素化し、手作業を減らすことができるようになりました。これらのタスクは、Citrix環境全体で一般的なトラブルシューティングアクションを自動化し、問題を迅速に特定して解決するのに役立ちます。

次のスクリプトタスクが利用可能です。

- **AOT Log Collection**: AOTログの収集と処理を自動化します。
- **DNS設定の確認**: DNS構成を検証し、潜在的な問題を特定します。
- **RDSライセンスの確認**: RDSライセンス構成とコンプライアンスを検証します。
- **VDA登録解除の診断**: VDA登録解除の原因を特定するために診断チェックを実行します。
- **プロファイル管理のヘルスチェックを実行:** Citrix Profile Managementの構成を検査し、ログを分析してプロファイル関連の問題を特定します。
- **プロファイルリセットトリガーの設定:** ユーザーの既存のプロファイルをバックアップし、次回のログオン時にクリーンなプロファイルフォルダーを作成します。

詳細については、組み込みのスクリプトタスクを参照してください。

アプリケーションセキュリティ管理用の時間範囲条件テンプレート

新しい時間範囲条件テンプレートが利用可能になりました。このテンプレートを使用すると、アプリケーションセキュリティルールがアクティブになる期間を定義でき、ニーズに合わせてルール適用を調整するためのより優れた制御と柔軟性を得られます。

詳細については、テンプレートからフィルターを作成を参照してください。

修正

- Azure AD参加済みマシンでのAzure ADユーザーログオンの場合、ログオン分析データが生成されないことがあります。
- デフォルト値を含むテンプレートベースのグループポリシーのインポートが失敗する場合があります。
- トランスフォーマーのWebページでタブ機能が動作しません。
- データベースのバージョンが2411未満の場合、オンプレミスデータベースのWEMクラウドサービスへの移行が失敗する可能性があります。
- エージェントキャッシュの同期は、次の例外で失敗する可能性があります。`System.TypeLoadException: Could not load type 'Microsoft.Extensions.Logging.Abstractions.Internal.NullScope' from assembly 'Microsoft.Extensions.Logging.Abstractions, Version=8.0.0.1'`。

2025年9月

セキュリティルールテーブルの「説明」列

アプリケーションセキュリティ、**特権昇格**、および**プロセス階層制御**の各ページにあるテーブルに、新しい**説明**列が追加されました。この列にはルールの説明が表示されるため、構成されたルールを確認し、理解しやすくなります。

フィルター条件がデリバリーグループとマシンカタログのフォルダーパスをサポート

サブフォルダーに保存されているデリバリーグループとマシンカタログをフィルター条件として使用できるようになりました。**デリバリーグループ名**または**マシンカタログ名**を使用してフィルター条件を作成または管理する際に、名前にフルパスを指定することで、サブフォルダー内の項目を含めることができます。 例: `Subfolder name\Delivery group name`、`Subfolder name\Machine catalog name`

エージェント統計ページの機能強化

エージェント統計ページには、次の改善点が含まれています。

- 新しい**MACアドレス**列が利用可能です。表示するには、**表示する列**を選択し、**MACアドレス**を選択します。一意のMACアドレスを持たず、**代替エージェント識別子を使用**が有効になっているエージェントを除き、MACアドレスをフィルター条件として使用することもできます。
- エージェントバージョン用の3つの新しいフィルター条件: **含まない**、**より前**、および**より後**。

ロールベースのアクセス制御のサポート

Workspace Environment Management は、大規模または複雑なエンタープライズ環境での管理アクセスを管理するのに役立つロールベースのアクセス制御 (RBAC) をサポートするようになりました。

この機能強化により、セキュリティを強化し、運用効率を向上させるきめ細かな権限モデルが導入されます。RBAC を使用すると、WEM のフル管理者は、不要なレベルのアクセス権を付与することなく、特定の責任をチームに委任できます。各管理者にその役割に必要な権限のみを付与することで、RBAC は組織のセキュリティ体制を強化し、運用リスクを軽減し、管理の俊敏性を向上させるのに役立ちます。

RBAC の設定には、次の3つのステップがあります。

1. **ロールの指定:** 各管理者に Citrix Cloud でロールを割り当てます。WEM フル管理者 (無制限アクセス) または WEM 制限付き管理者 (スコープに基づく制限付きアクセス) のいずれかです。詳細については、「管理者権限の管理」を参照してください。
2. **スコープの定義:** WEM Web コンソールで、制限付き管理者のスコープを定義します。詳細については、「スコープの作成」を参照してください。
3. **スコープの割り当て:** 関連するアクセスポリシーと権限を適用するために、制限付き管理者にスコープを割り当てます。詳細については、「制限付き管理者へのスコープの割り当て」を参照してください。

ログオン期間診断の強化

ログオン期間の診断に関する詳細情報を表示できるようになりました。メトリック「ユーザープロファイルの読み込み」と「グループポリシー処理」には、問題をより効果的に特定して解決するのに役立つ、より多くのサブメトリックとヒントが含まれています。詳細については、「Windowsログオン分析」を参照してください。

デフォルトのレジストリ値の構成のサポート

レジストリキーの下にある**(Default)**値名のデータを、**値の名前**フィールドを空のままにすることで構成できるようになりました。この機能強化により、構成可能なレジストリエントリの範囲が広がり、次のシナリオに適用されます。

- **レジストリエントリ**アクションの作成または編集。
- **レジストリベースのグループポリシー設定**アクションの作成、編集、またはインポート

詳細については、「レジストリベースのGPOの作成」および「レジストリエントリの追加」を参照してください。

アプリケーションアクセス制御用ルールジェネレーターがFSLogix Appsルールセットのインポートをサポート

アプリケーションアクセス制御用ルールジェネレーターが、FSLogix Appsルールセットのインポートをサポートするようになりました。この機能強化により、既存のFSLogix構成を再利用して同等のアプリケーションアクセス制御ルールを迅速に作成できるため、移行が簡素化され、一貫したアプリケーションアクセスルールが保証されます。詳細については、「FSLogixルールセットのインポート」を参照してください。

修正

- **一度だけ実行**設定で構成されたスクリプトベースの外部タスクが、一度だけではなく複数回実行される場合があります。
- 最初のユーザーログオン時に、Active Directoryクエリのタイムアウトにより遅延が発生する場合があります。

2025年7月

エージェントインサイトパネル

このリリースでは、WEMエージェントの新機能である**Agent Insights**が導入されました。これにより、ユーザーはセッションパフォーマンス、プロファイルコンテナの使用状況、ログオンアクティビティを監視およびトラブルシューティングできます。ユーザーは通知領域のエージェントアイコンからパネルを開き、問題を迅速に特定してトラブルシューティングするのに役立つ詳細なメトリックを表示できます。

このリリースには、パネルの表示方法や、エージェントが生成するレポートの収集および保存方法を制御するための新しい設定も含まれています。

詳細については、「Agent Insights」を参照してください。

スクリプトベースの外部タスクのレポート

WEM Webコンソールで、スクリプトベースの外部タスクの実行結果レポートを直接表示できるようになりました。この機能強化により、環境全体の可視性が向上し、タスクの成功または失敗をより簡単に追跡できるようになります。手動でログを確認する必要が減るため、監視が効率化され、問題解決が迅速になります。

詳しくは、「スクリプトベースの外部タスクのレポートを有効にして表示する」を参照してください。

ドメイン参加環境での特権昇格の簡素化

特権昇格に、特定のアクティブディレクトリグループへのアカウントの割り当ては不要になりました。以前は、アカウントが**Pre-Windows 2000 Compatible Access**グループの**Authenticated Users**や、**Windows Authorization Access Group**の**Enterprise Domain Controllers**などのグループのメンバーである必要がありました。この機能強化により、これらのグループ割り当てなしで特権昇格を有効にできるようになり、セキュリティ構成がよりシンプルで柔軟になります。

詳しくは、「特権昇格」を参照してください。

修正

- 一括操作中にレジストリの更新がタイムアウトする場合があります。
- 期限切れのユーザー数が多い場合、期限切れのユーザーを削除するとWEMサービスがハングアップしたり失敗したりする可能性があります。
- アプリケーションセキュリティモードを**マージ**として構成しても、WEMサービスが**上書き**モードで動作する場合があります。

2025年6月

テンプレートからのフィルター作成のサポート

定義済みのテンプレートを使用してフィルターを作成できるようになりました。この機能強化により、条件が事前入力されるため、フィルターの作成が簡素化されます。現在、Citrix Virtual AppsおよびCitrix Virtual Desktopsの展開を識別するためのフィルターをすばやく作成するのに役立つ2つのテンプレートが利用可能です。詳しくは、「テンプレートからフィルターを作成する」を参照してください。

条件値の文字数制限の増加

割り当てフィルターで使用する条件を作成する際、条件値に最大10,000文字（以前の制限は256文字）まで入力できるようになりました。この機能強化はすべての条件タイプに適用され、複雑な条件を定義する際の柔軟性が向上します。詳しくは、「条件を作成する」を参照してください。

「レポートの表示」ボタンの動作の改善

レポートの表示ボタンが、レポートのステータスに基づいて動的に更新されるようになりました。レポートの生成中は、ボタンは無効のままで、最大30秒間、5秒ごとに自動的にチェックします。レポートの準備が完了すると、ボタンが有効になります。30秒経過してもレポートの準備ができていない場合、ボタンは再度アクティブになり、再試行できるようになります。この機能強化により、レポートがいつ利用可能になるかについての混乱を防ぐことができます。詳しくは、「エージェント」を参照してください。

2025年5月

スクリプトタスク検証ツール

以前は、スクリプトタスクを使用してWEM内でスクリプトを検証するには、複雑で時間のかかるワークフローに従う必要がありました。

新しいスクリプトタスク検証ツールを使用すると、完全な展開を必要とせずにWEMスクリプトタスクを迅速に検証できます。この機能強化により、スクリプトをローカルでテストおよび調整できるようになり、スクリプト開発が簡素化され、トラブルシューティングが高速化され、テスト時間が短縮されます。展開前にスクリプトを検証することで、信頼性を高め、効率を向上させ、ユーザーへの影響のリスクを最小限に抑えることができます。

この機能は、WEMエージェントがインストールされており、バージョンが2505.1.0.1以上であるすべての環境に適用されます。

詳細については、「スクリプトタスク検証ツールを使用したWEMスクリプトタスクの検証」を参照してください。

修正

- Citrix Optimizerの処理で**毎週実行**を有効にすると、英語以外のシステムのエージェントが例外をスローし、スケジュールされたタスクの実行に失敗する場合があります。
- アプリケーションに高解像度アイコンを選択すると、エージェントがぼやけて表示されたり、低解像度で表示されたりする場合があります。

2025年4月

WEM WebコンソールでのAppLockerルールのインポートのサポート

WEM Webコンソールで、`AppLocker` XMLファイルを使用してアプリケーションセキュリティルールを一括インポートできるようになりました。以前は、コンソールを通じてルールを個別に作成する必要があり、これは広範なアプリケーション制御が必要な環境では反復的で非効率的でした。

新しいインポートインターフェイスを使用すると、既存のAppLocker構成から複数のルールをすばやく取り込むことができ、セットアップを合理化し、環境全体で一貫性を向上させることができます。詳細については、「WEM WebコンソールでAppLockerルールをインポートする」を参照してください。

プロファイルクリーンアップツール

WEMツールコンソールでプロファイルクリーンアップツールが利用可能になりました。このツールは、非アクティブなユーザープロファイルを削除またはアーカイブすることで、ストレージスペースを効率的に管理し、セキュリティを強化するのに役立ちます。一般的な使用例は次のとおりです。

- 従業員の退職処理：組織を離れた従業員のプロファイルを削除します。
- 非アクティブなアカウントの管理：指定された期間ログインしていないユーザーのプロファイルを削除またはアーカイブします。
- ストレージ制限への対処：不要なプロファイルを特定して削除することで、ディスクスペースを解放します。
- セキュリティの強化: 非アクティブまたは侵害されたアカウントから機密データを削除します。

  詳細については、「プロファイルクリーンアップツール」を参照してください。

プロファイル移行ツールでのWindowsローミングプロファイルのサポート

Citrix Profile Migration Toolを使用して、WindowsローミングプロファイルからCitrixコンテナベースのプロファイルにデータを移行できるようになりました。この機能強化により、Citrixコンテナベースのプロファイルソリューションへの移行が容易になります。詳細については、「プロファイル移行ツール」を参照してください。

プロファイル管理

Workspace Environment Managementは、*2503*までのProfile Managementのすべての*サポート対象*バージョンをサポートするようになりました。

- **プロファイル読み込みタイムアウトの設定。** この設定を使用すると、Citrix Profile Managementがユーザープロファイルの読み込みを待機する秒数を指定し、一時プロファイルに切り替えるまでの時間を設定できます。これにより、ニーズに合わせて、よりスムーズで効率的なログオンエクスペリエンスが保証されます。

  この機能は、各構成セットの **［プロファイル］>［Profile Management設定］>［詳細設定］** で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management設定」を参照してください。

- **ログオフ時に同期されるユーザーストアの数を制限する。** **［ユーザーストアのレプリケート］** 設定が有効な場合、この設定により、ユーザーログオフ時に同期するユーザーストアの数を制限することで、ログオフを高速化できます。残りのユーザーストア（存在する場合）は、ログオフ完了後に同期されます。

  この機能は、各構成セットの **［プロファイル］>［Profile Management設定］>［詳細設定］>［ユーザーストア］>［ユーザーストアのレプリケート］** で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management設定」を参照してください。

2025年3月

UIの機能強化

WEM UIの機能強化は次のとおりです。

- **エージェントUIの更新**: **［エージェント］** セクションのすべてのUIインターフェイスが、**Windows 11のテーマスタイル**を採用するように更新されました。
- **システムトレイアイコンのコンテキストメニュー**: エージェントUIのシステムトレイアイコンの右クリックメニューが、新しいモダンなデザインで最適化されました。
- **ライトモードとダークモードのサポート**: システムトレイアイコンのコンテキストメニューを含むすべてのエージェントUI要素が、**ライトモード**と**ダークモード**をサポートするようになりました。これらのモードは、**システムテーマ**の設定に自動的に合わせられます。
- **エージェントスキンのカスタマイズ**: バージョン2502.1.0.1以降、新しいエージェントでは、**コンソールのWorkspace Environment Management > 構成セット > UIエージェントのパーソナライズ**機能によるスキンの変更機能が削除されました。バージョン2502.1.0.1より前のエージェントは、引き続きスキンのカスタマイズをサポートします。詳細については、Webコン

ソールの「UIエージェントのパーソナライズ」を参照してください。また、「UIエージェントオプション」の**UIエージェントスキン**オプションも参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン：2502.1.0.1

エージェント統計の概要ビュー

- この機能強化には、統計結果を表示する4つのチャートを備えた新しい概要ビューと、検索バーとフィルターを移動した再配置されたレイアウトが含まれています。詳細については、概要ビューを参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン：2502.1.0.1

ユーザーログオン時のプロセスアクティビティの分析強化

ユーザーがより多くのログオンパフォーマンスの問題を特定できるように、**Windows ログオン分析**にユーザーログオン時のプロセスアクティビティの分析を導入しました。詳細については、プロセスアクティビティと詳細を参照してください。

構成におけるパスワード保存のセキュリティ強化

ネットワークドライブやプリンターなどの構成に含まれるパスワードをより安全に保存するために、内部ワークフローを更新しました。この変更はバージョン2005.2.0.1以降と互換性があります。

2005.2.0.1より前の古いバージョンを使用すると、次の問題が発生する可能性があります。

- バージョン2005.2.0.1より古いWEMエージェントは、パスワードを含む構成を正しく処理できません。
- バージョン2005.2.0.1より古いコンソールでエクスポートされた構成セットをインポートすると、パスワードを含む構成はインポートされません。
- バージョン2005.2.0.1より古いコンソールでバックアップされたアクションまたは設定を復元すると、パスワードを含む構成は復元されません。
- バージョン2005.2.0.1より古いオンプレミスからクラウドサービスに移行する場合、パスワードを含む構成は移行されません。

Webコンソールの新機能

Webコンソールの新機能は次のとおりです。

- **保存して割り当て**ボタン: 新しい**保存して割り当て**ボタンが追加され、アクションを継続的に作成できるようになりました。

- **割り当ての管理**リンク: トースト通知に新しい**割り当ての管理**リンクが追加されました。
- **レジストリ操作**列: データテーブルに**レジストリ操作**列が追加されました。

詳細については、「GPOの作成」および「GPOの割り当ての管理」を参照してください。

割り当てターゲットとディレクトリオブジェクトのパフォーマンス向上

以前は、「**ディレクトリオブジェクト**」ページと「**割り当てターゲット**」ページの読み込み時に多数の翻訳リクエストがトリガーされ、特に大規模なデータセットでは読み込み時間が遅くなっていました。

この機能強化により、オブジェクト名はデータベースに保存され、必要な場合にのみ翻訳されるため、パフォーマンスが大幅に向上します。個々のレコードを手動で更新して、更新された名前を確認できます。さらに、すべてのレコードまたは選択したレコード、あるいはユーザー名のみを更新するための「**更新**」オプションが追加されました。詳細については、「割り当てターゲット」および「マシンまたはマシングループの追加」の「**注**」を参照してください。

修正

- インポートされたGPOレジストリ`.zip`ファイルの`.zip`ファイルコンテンツが無効な場合、エラープロンプトが表示されます。`.zip`ファイルが有効であっても、コンテンツのレジストリへの変換は失敗します。
- お客様がハッシュタイプでプロセス階層制御ルールを構成すると、バージョン2412より前のエージェントは、プロセス階層制御ルールを取得する際にサービスログにエラーを生成します。
- お客様がアクショングループを作成し、外部タスクを追加すると、「**Legacy Console** > **Actions** > **Action Groups**」でアクショングループのコンテンツを表示しているとき、または「**Legacy Console** > **Assignments** > **Action Assignment**」でこれらのアクショングループに関連付けられた割り当てを表示しているときに、レガシーコンソールがクラッシュします。
- プロセス階層制御ルールを含むアクショングループを含む構成サイトを復元すると、これらのアクショングループ内のプロセス階層制御ルールが失われます。

2025年1月

非管理者ユーザーへのアクセス拡張

- 非管理者ユーザーは、WEM Tool Hubの機能の一部に直接アクセスできるようになりました。このサブセットには、「**Windows Logon Analysis**」とユーザーがピン留めしたサードパーティアプリケーションが含まれます。非管理者ユーザーが制限された機能を使用する必要があ

る場合は、メインページの上部への切り替えが推奨されます。この更新によりアクセシビリティが広がり、より多くのユーザーが主要な機能を効率的に利用できるようになると同時に、堅牢なセキュリティと制御が維持されます。

プロセス階層制御

- このリリースでは、Webコンソールに「**プロセス階層制御**」機能が導入されました。この機能を使用すると、特定のチャイルドプロセスがその親プロセスによって開始できるかどうかを制御できます。親プロセスを定義し、そのチャイルドプロセスに対して許可リストまたはブロックリストを指定することでルールを作成します。その後、ユーザーごとまたはユーザーグループごとにルールを割り当てます。次のルールタイプが利用可能です。
  - **パス**。実行可能ファイルのパスに基づいて、実行可能ファイルにルールを適用します。
  - **発行元**。発行元情報に基づいてルールを適用します。
  - **ハッシュ**。指定された同一の実行可能ファイルにルールを適用します。
- 詳細については、「プロセス階層制御」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2501.1.0.1

WEMエージェントにおける一意の識別サポート

- 以前は、WEMエージェントはMACアドレスをデバイス識別子として使用していました。特定のシナリオでは、MACアドレスが一意でなかったため、一部のWEM機能が誤動作していました。
- この機能強化により、エージェントIDの概念を使用して、WEMエージェントのデバイス識別子としてMACアドレスを置き換えることができます。この機能は、ドメイン参加済みエージェントと非ドメイン参加済みエージェントの両方に適用できます。
- 詳細については、「設定」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2501.1.0.1

WEMオプティマイザーテンプレートの機能強化

WEMサービスを使用して、Windows 11 2009およびWindows Server 2025 2009マシンに対してテンプレートベースのシステム最適化を実行できるようになりました。WEMオプティマイザーテンプレートは、Citrixオプティマイザーのメモリ圧縮およびキャッシュディスクマウントの機能強化をサポートするように更新されました。

修正

- ユーザーログオン中に、WEMユーザーログオンサービスによって追加の遅延が発生し、それに伴い、CVADセッション起動イベントのユーザー情報の取得に失敗したWindowsイベントログとADクエリのタイムアウト例外が発生します。
- トリガーソースがマシン起動スクリプトタスクの場合、タスク実行結果トリガーは有効になりません。
- Windows 10マシンの一部のプロファイルで、ソースプロファイルパスが実際のユーザーストアプロファイルパスと一致しません。

2024年12月

正確な条件によるOU（組織単位）の正確な検索

- 以前は、ドメインコントローラーに重複する名前のOUが多数存在したため、WEMはターゲットOUを正確に特定できませんでした。これにより、IT管理者に大きな不便が生じていました。
- この機能により、IT管理者がOU検索スコープを特定の場所ノードに制限できる場所構成オプションが導入されました。これにより、目的のターゲットOUをすばやく見つけることができます。
- 詳細については、「割り当てターゲットの追加」および「OUにマシンを追加」を参照してください。

新しいフィルターデザインをサポートし、既存のフィルターの更新または削除を保存

- 使用したフィルターをフィルターセットとして保存し、これらのフィルターセットを直接管理できるようになりました。必要なデータをクエリする際に、異なるフィルターセット間を簡単に切り替えることができます。この機能は、**レポート**ページ、**エージェント統計**ページ、および**ユーザー統計**ページで利用できます。
- 詳細については、「表示する列とフィルター」を参照してください。

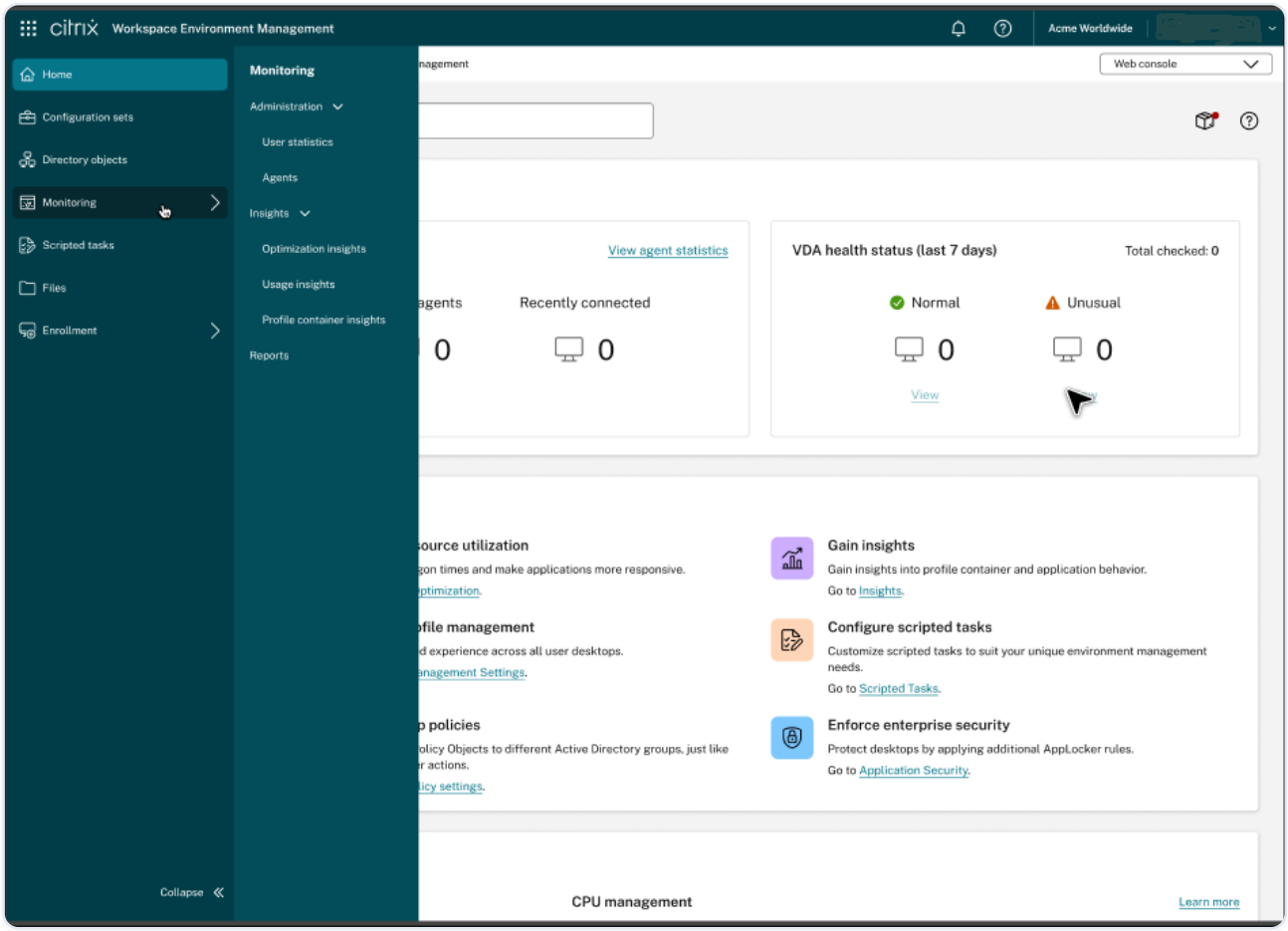
修正

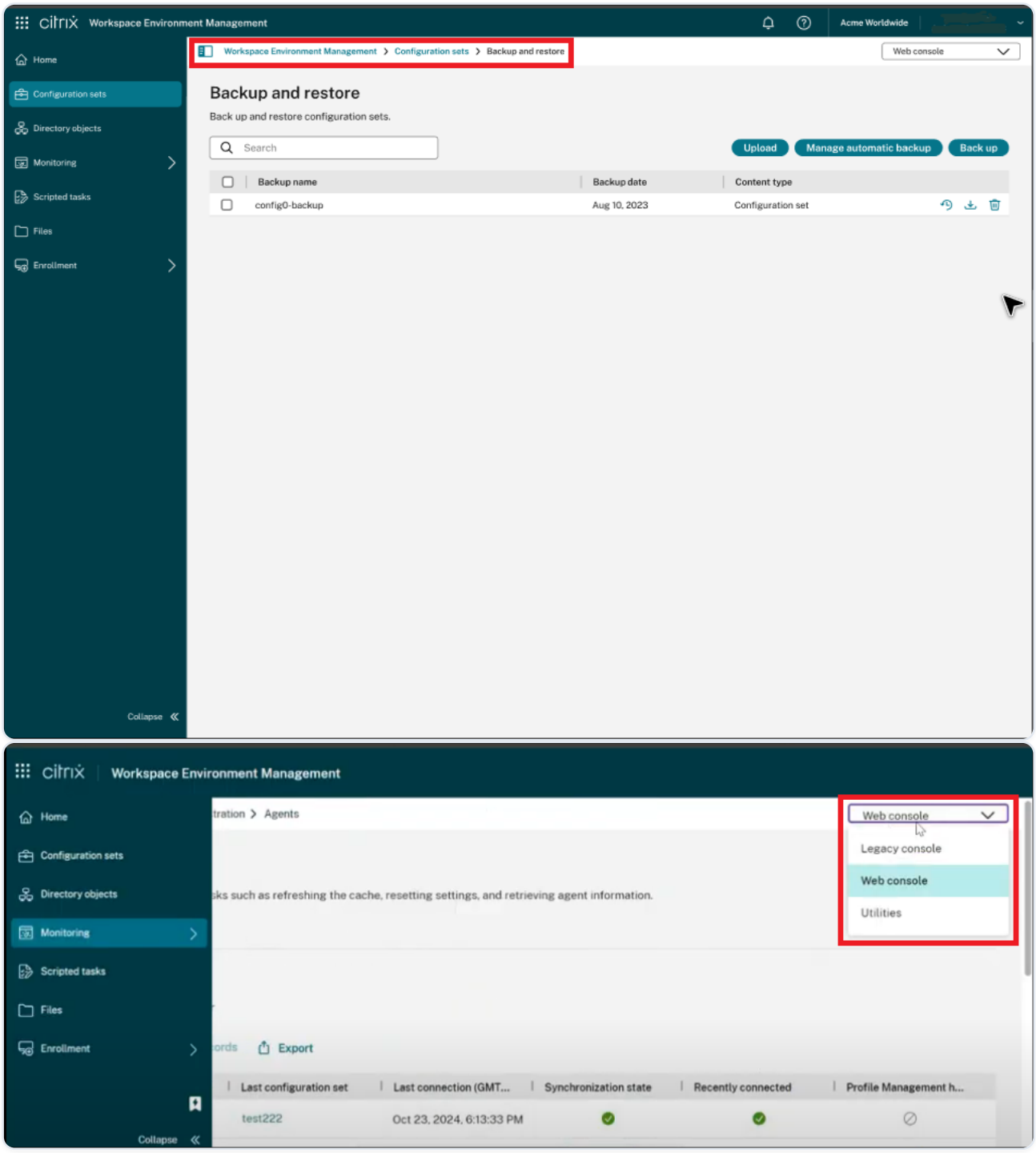
- 構成セットにAppLockerルールなどの多数のセキュリティルールが含まれている場合、構成セットの復元プロセスが遅くなることがあります。Webコンソールを使用しているときにタイムアウトエラーが発生する可能性がありますが、エラーが発生してもバックエンドの復元プロセスは成功する場合があります。

2024年11月

ナビゲーションのための統合プラットフォームエクスペリエンス

WEM Webコンソールの**監視**および**登録**メニュー項目に、プライマリナビゲーションメニューがセカンダリナビゲーションメニューを含むように拡張されました。ナビゲーションのパンくずリストがすべてのページの上部に表示されるようになりました。統合されたプラットフォームエクスペリエンスを提供するために、ページの右上隅にドロップダウンメニューが追加され、**レガシーコンソール**、**ユーティリティ**、または**Webコンソール**に切り替えることができます。変更を示すスクリーンショットは次のとおりです。





ユーザー統計のクイック検索と更新アイコン

この機能強化により、ユーザー名や表示名、メールなどの関連プロパティを使用して、ユーザー統計テーブルを検索できるようになりました。

SIDの代わりに、各レコードまたはユーザー表示名にマウスを重ねると表示される更新アイコンを使用できるようになりました。詳細については、「ユーザー統計」を参照してください。

外部タスク用のスクリプトをアップロード

以前は、外部タスク機能を使用するには、エージェントマシン（またはネットワークストレージ）上のスクリプト（または実行可能ファイル）へのパスを指定する必要がありました。これにより、スクリプトファイルをネットワークストレージの場所またはWEMを実行しているVDA上にローカルで保守する必要があり、不便でした。

この機能により、外部タスクを構成する際にスクリプトを直接アップロードできるようになりました。外部タスクを作成する際、タスクを実行するためのスクリプトファイルをアップロードするオプションが利用できます。アップロード後、スクリプトの内容を表示することもできます。

詳細については、「外部タスクの作成」を参照してください。

必要なエージェントの最小バージョン: 2410.1.0.1

拡張されたアプリアクセス制御機能でルールジェネレーターを更新

アプリアクセス制御ツール用のルールジェネレーターは、アプリアクセス制御ポリシーの拡張機能をサポートするようになりました。このツールを使用すると、リダイレクトルールを作成し、ルール割り当ての除外を構成できます。

詳細については、「アプリアクセス制御用ルールジェネレーター」を参照してください。

グループポリシー移行ツールの機能強化

この機能により、**グループポリシー移行**ツールを使用してWindowsログオンスクリプトをWEM外部タスクに移行する際に、`script path`とパラメーターを自動構成できます。

詳細については、「グループポリシー移行ツール」を参照してください。

ログオン期間を診断するための新しい詳細

この機能は、ログオン期間を診断するための新しい詳細を導入します。すべてのメトリック、サブメトリック、およびヒントを詳細にリストした表で、サブメトリックである**FSLogixプロファイル読み込み**とWEMログオンサービスに関する詳細を確認できます。

詳細については、「Windowsログオン分析」を参照してください。

プロファイル管理

Workspace Environment Managementは、*2411*までのProfile Managementのすべての*サポートされている*バージョンをサポートするようになりました。以下の機能がWebコンソールで利用可能です。

- **プロファイルサイズがクォータを超過した場合にユーザーに警告する。** この機能は、プロファイルサイズがクォータを超過したときにユーザーに通知することで、データ損失を防ぐのに役立ちます。デフォルト設定に基づいて、クォータ制限と通知内容をカスタマイズできます。 この機能は、各構成セットの **> >** で利用できます。詳しくは、「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/citrix-profile-management.html#other-options)を参照してください。
- **UWPアプリの読み込みアクセラレーションを有効にする。** この機能は、UWPアプリの読み込みを高速化し、非永続環境での一貫性を向上させます。デフォルトでは、WindowsはUWPアプリの登録情報を各マシンにローカルに保存しますが、非永続環境では再起動時に失われる可能性があります。このポリシーを有効にすると、Profile ManagementはUWPアプリの登録データを保存するために各マシンにVHDXコンテナを作成し、ユーザーログオンを高速化し、再起動時のデータ損失を防ぎます。 この機能は、各構成セットの **> >** で利用できます。詳しくは、「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/citrix-profile-management.html#applications)を参照してください。
- **アプリアクセス制御ポリシーの拡張。** このポリシーにより、ファイル、フォルダー、レジストリキー、レジストリ値に対してマシンレベルのリダイレクトを実装できるようになりました。さらに、より正確な制御のために、特定のユーザー、マシン、プロセスをルール適用から除外できるようになりました。 この機能は、各構成セットの **> >** で利用できます。詳しくは、「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/citrix-profile-management.html#app-access-control)を参照してください。
- **フォルダーリダイレクトポリシーが強化され、より安全なアクセス制御が可能に。** 新しいオプション を使用すると、特定ユーザーまたはグループにリダイレクトターゲットフォルダーに対する読み取りおよび実行権限を付与できるようになりました。詳しくは、「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/citrix-profile-management.html#folder-redirection)を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン：2411.1.0.1

修正

このリリースでは、問題は確認されていません。

2024年10月

グループポリシーのWEMへの移行

- グループポリシー移行を使用して、サインオンの遅延を引き起こすグループポリシー設定をWEMアクションに移行し、サインオンエクスペリエンスを向上させることができるようにな

りました。WEM Tool Hubでは、ログオン期間レポート内、GPO処理時間の表示中、または から移行ワークフローを開始できます。このツールを使用すると、現在適用されているGPOをスキャンできます。

- 移行がサポートされているリスト項目から選択できます。選択された項目はZIPファイルとしてローカルマシンにエクスポートされ、後でWEMアクションとしてインポートされます。この機能は、エクスポートされた設定で割り当てグループを作成するプロセスをガイドし、そのグループをそれぞれのユーザーに割り当てるように強化されています。
- 詳しくは、「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/reference/wem-tool-hub.html#group-policy-migration-tool)および「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/assignment.html#create-an-assignment-group-using-the-exported-settings)を参照してください。

ログオン期間を監視および診断するための新しいインサイトの導入

- この機能強化により、ログオン期間を監視および診断するためのプロファイルコンテナとGPP処理のインサイトが導入されます。この機能により、ログオンの遅延を引き起こす可能性のある問題を特定し、問題を解決するための推奨事項を提供できます。
- 詳しくは、「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/reference/wem-tool-hub.html#windows-logon-analysis)および「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/how-to/analyze-logon-duration.html)を参照してください。

集中型構成セットレベルのエージェントキャッシュ同期

- この機能は、既存のエージェントキャッシュ同期メカニズムを強化するために導入されました。
- 新しいメカニズムに基づいて、大規模なWEM展開におけるパフォーマンスの問題を回避でき、クラウド上のデータベースコストも削減されます。詳細については、エージェントおよびエージェントキャッシュユーティリティオプションを参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2409.1.0.1

修正

- スタートメニューのショートカットを作成し、アプリケーションをスタートメニューにピン留めする際、指定されたパスに作成されるのではなく、スタートメニューのルートフォルダーにショートカットが生成されます。この問題はWindows Server 2022/2019でのみ発生し、Windows Server 2016では発生しません。

2024年9月

Splunkへのデータエクスポートをサポート

以前は、エージェントレポートをサードパーティプラットフォームにエクスポートする場合、Grafanaにのみ制限されていました。

この機能により、データをSplunkにも簡単にエクスポートできるようになりました。

詳細については、レポートを参照してください。

特権昇格

- この機能強化により、特権昇格ルールを設定し、Webコンソールを使用してユーザーに割り当てることができます。 ルール設定に必要なファイル情報（パス、発行元、ハッシュ値など）を取得するために、WEM Tool Hubの既存の**ファイル情報ビューア**を使用できるようになりました。
- 詳細については、特権昇格、ターゲットの割り当てを管理する、およびセキュリティルールを使用して割り当てグループを作成するを参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2408.1.0.1

非永続マシンでの永続キャッシュに対するWEMエージェントのサポート

- この機能強化により、WEMエージェントはMCSまたはPVSによってプロビジョニングされた非永続マシンを自動的に検出し、基盤となるプロビジョニングサービスによって提供される永続データロケーションを使用して、エージェントキャッシュやその他の重要な情報を永続化できます。これにより、非永続マシンでのWEMのパフォーマンスと回復性が向上します。また、WEMエージェントの登録は非永続マシンをサポートするようになりました。マスターイメージを登録できるようになり、プロビジョニングされた非永続マシンは自動的に登録されます。
- 詳細については、前提条件、使用するセットアップ方法を決定する、およびはじめにを参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2408.1.0.1

新しいレジストリ値の型でレジストリとGPO設定を構成する

- `REG_NONE` レジストリ値の型が導入され、文字列、整数、バイナリデータなどの他の事前定義されたデータカテゴリに収まらない設定やパラメータを指定する方法を提供することで、よりカスタマイズされた構成が可能になりました。この柔軟性を利用して、固有または特殊な構成を処理できます。

- `REG_NONE` レジストリ値の型は、次の機能をサポートしています。
  - レジストリエントリのアクションの作成/更新時
  - レジストリエントリベースのGPOアクションの作成/更新時
  - レジストリエントリベースのGPOをインポートする場合
  - エージェント側で
  - レガシーコンソールの場合
  - Webコンソールおよびレガシーコンソールからのバックアップと復元の場合
- 詳細については、GPOの作成およびグループポリシー設定のインポートを参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン：2408.1.0.1

WEM選択的リセット機能

- WEMは、WEMアクションの追跡キャッシュを選択的にリセットするように強化されました。**キャッシュされたアクションのリセットをユーザーに許可**を有効にすると、**キャッシュされたアクションのリセット**がオンになります。これをクリックすると、新しいウィザードが表示され、リセットが必要なキャッシュされたアクションを選択できます。この機能強化により、JSONファイルまたはユーザーグループポリシーオブジェクトの処理履歴をリセットできます。リセット後、アクションは後続のユーザーログオン時に処理されます。
- 必要なエージェントの最小バージョン：2408.1.0.1

修正

- パラメータを指定してスクリプトタスクを実行しても、出力は生成されません。
- スクリプト化されたタスクサービスは、サービスパスにスペースが含まれており、引用符で囲まれていないため、特別なパスを持つ未知のバイナリファイルを実行できます。
- Active Directoryとトークンを使用して、**WEM Tool Hub** > **アプリケーションアシスタンス**からWorkspaceにサインインしようとすると、空白のワークスペースウィンドウが表示されなくなります。

2024年8月

Microsoft Entra ID (Azure AD) グループまたはユーザーの選択機能の強化

Microsoft Entra ID (Azure AD) グループまたはユーザーに割り当てられたポリシー（アクションやセキュリティルールを含む）は、手動でのユーザーデバイス関連付けを必要とせずに、エージェント側で自動的に適用されるようになりました。この機能が適切に機能するように、以下の要件に従ってください。

- エージェントのバージョンは2407.2.0.1以降である必要があります。
- **Citrix WEM User Logon Service Properties**ダイアログで、**スタートアップの種類**を**自動**に設定します。
- ローカルマシンからログアウトし、再度ログインします。

運用作業を削減するための新しい組み込みスクリプトタスクの追加

管理者が組み込みスクリプトタスクを直接使用し、運用作業を削減するのに役立つ、より価値のある組み込みスクリプトタスクが追加されました。この機能は、未登録のVDAの問題を解決し、CDFトレース構成を設定します。詳細については、「スクリプト化されたタスク」を参照してください。

VHDディスク圧縮レポート

管理者は、VHDディスク圧縮レポートの収集を有効にすることで、WebコンソールでVHDディスク圧縮レポートを表示できるようになりました。詳細については、「レポート」および「監視設定」を参照してください。

プロファイル管理

Workspace Environment Managementは、2407までのProfile Managementのすべての*サポートされているバージョン*をサポートするようになりました。以下の機能がWebコンソールで利用可能です。

- **ユーザーストア間のセッション内プロファイルコンテナフェールオーバーを有効にする** ユーザーストア間のセッション内プロファイルコンテナフェールオーバーを有効にするかどうかを指定します。この機能は、コンテナベースのソリューションにおけるプロファイルの冗長性を強化し、コンテナフェールオーバーの範囲を*ユーザーログオン時のみ*から*セッション全体*に拡大します。

この機能は、**プロファイル > プロファイル管理設定 > 詳細設定 > ユーザーストアのレプリケート**の各構成セットで利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management設定」を参照してください。

- **フォルダーリダイレクト**が2つの新しいオプションで強化されました。
  - **ローカルユーザープロファイルへのリダイレクト**。これにより、フォルダーをローカルユーザープロファイルにリダイレクトできます。
  - **コンテンツを新しい場所に移動**。これにより、リダイレクトターゲットフォルダーを設定または変更する際に、以前のフォルダーから新しいフォルダーにコンテンツを移動するかどうかを決定できます。

  詳細については、「Citrix Profile Managementの設定」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2407.1.0.1

修正

- クラウド環境では、選択したWEMエージェントのバージョンが古い場合、デリバリータスクの編集時にエラープロンプトが表示されるはずです。
- WEMトランスフォーマーが画面に表示されている場合、ホットキー（CTRL+ALT+U）によるロック解除機能は動作しません。アプリにフォーカスを切り替えると、ロック解除ホットキーが再び動作します。

2024年6月

アプリケーションアクセス制御ルールのテストのサポート

テスト環境または本番環境に展開する前に、ローカルマシンでアプリケーションアクセス制御ルールを検証できるようになりました。詳細については、「アプリケーションアクセス制御のルールジェネレーター」を参照してください。

GPOの表示

WEMグループポリシー設定を表示できるようになりました。GPOを編集せずに、読み取り専用モードでGPOの概要を確認できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤設定のリスクが排除されます。

詳細については、「グループポリシー設定」を参照してください。

柔軟な管理のためのサードパーティプラットフォームへのデータエクスポートのサポート

以前は、レポートのエクスポートはクラウドストレージまたはローカルマシンのみに制限されており、タスクの結果を効果的に分析および監視する能力が妨げられていました。

この機能により、レポートデータをGrafanaなどのサードパーティプラットフォームに簡単に構成してエクスポートできるようになりました。この機能強化により、自動的にスケジュールされたか手動で開始されたかにかかわらず、外部分析ツールをシームレスに統合して利用し、包括的なパフォーマンス監視と分析を行うことができます。

詳細については、「レポート」を参照してください。

WEM Health CheckツールとWEM Tool Hubの統合

- WEM Health CheckツールがWEM Tool Hubのホームページに統合され、アクセスと使用が容易になりました。このツールは、WEMエージェントまたはインフラストラクチャサーバーでチェックを実行し、WEM展開における潜在的な問題を特定します。詳細については、「WEM Health Checkツール」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/reference/wem-tool-hub.html#wem-health-check-tool)を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2401.1.0.1

ハブエージェント

- この機能を使用すると、WEMエージェントをハブエージェントの役割に昇格させることができます。ハブエージェントは、複数の構成セットを管理するように構成でき、オンプレミスリソースの利用を支援します。現在、ハブエージェントには次の2つの主要な利点があります。
    - アプリケーションパッケージの配信: ハブエージェントが構成されると、アプリケーションパッケージを追加する際に、オンプレミス環境のSMB共有からファイルを閲覧できるようになります。

> **注:**
>
> ハブエージェントは、SMB共有が配置されているサイトを管理するように設定する必要があります。

    - オンデマンドタスクの実行: WEMコンソールからエージェントのオンデマンドタスクを開始し、クラウドコネクタに到達できない場合、ターゲットエージェントが属する構成セッ

トを管理するハブエージェントに通知が送信されます。その後、ハブエージェントは同じサブネット上のターゲットエージェントに通知して、タスクを実行しようとします。

- 詳細については、「ハブエージェント」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/monitoring/administration.html#hub-agents)を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2406.1.0.1

WEM Tool Hubのプロファイル移行ツール

新しいプロファイル移行ツールを使用すると、さまざまな種類のプロファイルをCitrixコンテナベースのプロファイルソリューションに移行できるようになりました。この機能により、プロファイルの移行プロセスが簡素化され、スムーズな移行とユーザーワークフローへの影響を最小限に抑えることができます。次の種類のプロファイルがサポートされています。

- **FSLogixプロファイルコンテナ**
- **Citrixファイルベースソリューション**
- **ローカルプロファイル**

詳細については、「プロファイル移行ツール」を参照してください。

WEM Webコンソール用のアプリケーションセキュリティルール

- この機能を使用すると、さまざまな種類のアプリケーションセキュリティルールを作成および構成し、Webコンソールでユーザーに割り当てることができます。この機能は、アクションの割り当てに使用されるワークフローと同じワークフローを使用します。AppLockerで構成されたルールをインポートして、WEMで管理できるようになりました。また、WEM Tool Hubを使用して、パス、発行元、ハッシュ値など、ルール構成に必要な情報を取得することもできます。詳細については、「アプリケーションセキュリティ」、「ファイル情報ビューア」、および「割り当てグループ」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン：2406.1.0.1

修正

- ユーザーは、特定のタイプ **UPM health check** を使用して、**Task history** ページから **Reports** ページにアクセスできるようになりました。
- Workspace Environment Managementバージョン2402にアップグレードすると、**Actions > External Tasks > Run Once** の構成が、場合によっては期待どおりに機能しません。
- WEMエージェントは、ユーザーが属するすべてのグループを列挙できません。`Everyone` と `Administrator` のみが一覧表示されます。

2024年5月

外部タスク用のWindowsイベントベースのトリガー

- 外部タスク用のWindowsイベントベースのトリガーにより、外部タスク（セッションレベルタスク）を関連付けることができるようになりました。Windowsイベントが定義された基準を満たすと、トリガーがアクティブになります。このトリガーは、Windowsイベントに基づいてセッションレベルタスクを自動的に管理するのに役立つ関連する外部タスクの実行を開始します。詳細については、「考慮事項」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン：2404.1.0.1

WEMエージェントの基本展開モード

- WEMエージェントの基本展開モードが導入され、インフラストラクチャサービスに接続することなく、システム最適化やログオン期間分析などの基本的なエージェント機能が提供されます。WEMには、展開全体のためにBroker、データベース、コンソールなどのバックエンドコンポーネントの展開を必要とするユーザー環境管理のための強力な機能があります。一部のユーザーは、基本的な機能のみを使用したい場合があります。たとえば、以前は最適化機能のみを使用したい場合、すべてのバックエンドコンポーネントを展開する必要がありました。この機能により、WEMを軽量な方法で展開できるようになりました。この展開方法を使用して、WEMの基本機能を簡単に利用できます。WEMヘルスチェックツールは、これらのタイプのエージェントに対してチェックを実行し、エージェントをオンプレミスまたはサービスエージェントとして再構成する機能を提供します。基本展開モードのエージェントでヘルスチェックツールを開始してチェックを実行できるようになりました。また、インフラストラクチャサービスまたはクラウドコネクタに関する必要な情報を提供することで、エージェントタイプをオンプレミスまたはサービスエージェントに切り替えることもできます。詳細については、「エージェントのインストール」、「基本展開エージェントの管理」、および「Windowsログオン分析」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン：2404.1.0.1

プロファイル管理

フォルダーリダイレクト設定：この機能を使用すると、ローカルフォルダーのパスを新しい場所にリダイレクトするためのルールセットを構成できます。各ルールセットは、アクセスするユーザーに基づいてフォルダーをリダイレクトする場所を指定します。

構成セットのフォルダーリダイレクトを構成するには、セットを見つけて、**Profiles > Profile Management Settings > Folder redirection** に移動し、ルールセットを追加します。詳細については、「Citrix Profile Management Settings」を参照してください。

修正

- ユーザーログオン中に、WEMユーザーログオンサービスによって追加の遅延が発生し、以下のWindowsイベントログの例外「**CVADセッション起動イベントのユーザー情報の取得に失敗しました**」および「**ADクエリがタイムアウトしました**」が伴います。
- 一部のアプリケーションには32ビットバージョンしかありません。呼び出し元が32ビットアプリケーションの場合、Windows 2010 OS VDIはデフォルトでパス`system32`を`syswow64`にリダイレクトします。昇格エンジンが`OptionalFeatures.exe`などのファイルにアクセスしようとすると、ファイルが見つかりません。デフォルトのリダイレクト動作を無効にすると、アプリケーションが昇格されます。

2024年3月

構成セットの自動バックアップ制限の強化

WEMは構成セットの自動バックアップを提供します。自動バックアップ制限が強化され、各構成セットに対して最大25個のバックアップファイルを保存できるようになりました。これは、最も古い既存のファイルを上書きする前に行われます。この強化により、特に大規模で複雑な環境での運用作業が軽減されます。詳細については、自動バックアップの管理を参照してください。

Windows 11のスタートメニューレイアウトのカスタマイズ

- ユーザーレベルの割り当てをサポートするために、Windows 11のスタートメニュー構成にWEMアクションの**JSONファイル**を適用できるようになりました。WEM Tool Hubの新しいツール**Start Menu Configurator for Windows 11**を使用すると、**スタート**メニューの**ピン留め済み**セクションに追加したいアプリケーションを選択し、必要に応じてレイアウトを配置できます。レイアウトをカスタマイズした後、**JSONファイル**ページで新しいJSONオブジェクトを追加する際に、構成データをコピーしてWebコンソールに貼り付けます。詳細については、Windows 11のスタートメニューレイアウトをカスタマイズするを参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2403.1.0.1

ユーザー ストア作成ツール

このツールは、ユーザー ストアの作成を支援するためにWEM Tool Hubに導入されました。ユーザー ストアは、Citrixユーザープロファイルを保存するための中央ネットワークロケーションです。このツールは、ファイル共有を作成し、仕様に応じて適切なアクセス許可を設定することで、ユーザー ストアをセットアップするのに役立ちます。このツールは、構成プロセスを簡素化し、エラーを削減します。ユーザー ストアを現在のマシン（ツールを実行しているマシン）または別

のマシンに作成することを選択できます。詳細については、ユーザー ストア作成ツールを参照してください。

修正

- WEM Webコンソールでプリンター、ネットワークドライブ、またはユーザーDSNの作成または複製が非常に遅い。
- WEMデータベースを連続してアップグレードすると、「**指定されたキーが辞書に存在しませんでした**」というエラーが発生する。
- **Profile Management**が正しく構成されている場合でも、Profile Managementの健全性列に疑問符が表示されることがあります。この問題は、WEMエージェントが使用する `UpmConfigCheck.ps1` スクリプトが期待どおりに機能しない場合に発生します。この問題は、Profile Management 2203 LTSRがインストールされているマシンに影響します。

2024年2月

割り当てグループ (プレビュー)

この機能を使用すると、個々のアクションをグループ化し、それらの割り当てを一元的に管理できます。割り当てはグループレベルではなく、アクションごとに作成されます。アクションをグループに追加し、割り当てターゲットを選択したり、割り当てグループを作成、編集、削除したりできるようになりました。フィルターやオプションなどの割り当ての詳細は、個々のアイテムレベルで維持されます。詳細については、割り当てグループを参照してください。

Webコンソールでのヘルスチェックの機能強化

Workspace Environment Management を通じて、Profile Management のステータスをより明確かつ詳細に把握できるようになりました。

- **無効**: Profile Management が見つからないか、有効になっていないことを示します。
- **エラー**: Profile Management の構成に関する問題を示します。
- **警告**: Profile Management が最適ではない状態であることを示します。
- **通知**: Profile Management が許容できる状態であることを示します。
- **良好**: Profile Management が正常な状態であることを示します。

詳細については、統計 の **Profile Management の正常性** 列の説明を参照してください。

Windows ログオンの分析機能の強化

- この機能強化により、**ユーザープロファイル**と**Citrix Profile Management**のより詳細なデータ分析が提供されます。**グループポリシーオブジェクト**サブメトリックが導入され、**HDX接続**サブメトリックが有効になりました。詳細については、Windows ログオン分析 を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2401.1.0.1

WEM ヘルスチェックツール

WEM スタンドアロンツールを開いて、WEM コンポーネントのステータスを確認し、トラブルシューティングできるようになりました。このツールは、WEM エージェントまたはインフラストラクチャサーバーで実行でき、選択された（チェック）項目ごとに結果を提供します。チェックが完了すると、レポートがマシンに保存されます。デバッグモードをオンにして、ログファイルを指定された場所に取得できます。一部の構成の問題を自動的に修正することもできます。詳細については、WEM ヘルスチェックツール を参照してください。

修正

- WEM エージェントが Windows Server 2022 で実行されている場合、特定のプロセスに適用するメモリ使用量制限が期待どおりに機能しない可能性があります。

2024年1月

ユーザーデータソース名

Web コンソールを使用して、ユーザーデータソース名 (DSN) を追加し、ユーザーに割り当てることができるようになりました。詳細については、ユーザー DSN を参照してください。

ポート

ウェブコンソールを使用して、ポートマッピングを追加し、ユーザーに割り当てることができるようになりました。詳細については、「ポート」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/actions.html#ports)を参照してください。

INIファイル

ウェブコンソールを使用して、INIファイル操作を追加し、ユーザーに割り当てることができるようになりました。詳細については、「INIファイル」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/actions.html#ini-files)を参照してください。

エージェントのオンデマンドタスク履歴

この機能強化により、過去24時間以内に開始されたタスクの進行状況と結果を確認できます。タスクをトリガーした後、各ターゲットエージェントのタスクステータスを確認できます。また、最近のタスクとそのステータスの履歴を表示することもできます。レポート付きのタスクの場合、**レポート**タブから直接それらのレポートにアクセスできます。詳細については、「エージェント」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/monitoring/administration.html#agents)を参照してください。

レポート管理のための強化されたフィルター条件機能

この機能強化により、**結果の概要**条件を選択する際に、各値をセミコロンで区切って複数の値をフィルターして追加できるようになり、システムを監視および最適化できるレポート管理の柔軟な方法が提供されます。

プロファイル管理

Workspace Environment Managementは、2311までのProfile Managementの*サポートされている*すべてのバージョンをサポートするようになりました。次の機能がウェブコンソールで利用可能になりました。

- **ユーザーストアの選択方法。** 複数のユーザーストアが利用可能な場合に、ユーザーストアの選択方法を指定します。オプションは次のとおりです。
  - **構成順序。** Profile Managementが最も早く構成されたストアを選択できるようにします。
  - **アクセスパフォーマンス。** Profile Managementが最も優れたアクセスパフォーマンスを持つストアを選択できるようにします。

  この機能は、**プロファイル > Profile Management設定 > 詳細設定 > ユーザーストアのレプリケート**の各構成セットで利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management設定」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/citrix-profile-management.html#advanced-settings)を参照してください。
- **このサイズ以上のファイルを重複排除する (MB)。** プロファイルコンテナから重複排除するファイルの最小サイズを指定します。デフォルトサイズは256 MBです。

  この機能は、**プロファイル > Profile Management設定 > ファイルの重複排除 > ファイルの重複排除を有効にする**の各構成セットで利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management設定」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/citrix-profile-management.html#file-deduplication)を参照してください。

- **ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーをログオフする。** ユーザーログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合に、ユーザーを強制的にログオフするかどうかを指定します。

  この機能は、各構成セットの **> > >** で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management の設定」を参照してください。
- **プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループを設定する。** どのADドメインユーザーとグループがプロファイルコンテナに対する `Read & Execute` 権限を持つかを指定します。デフォルトでは、プロファイルコンテナはその所有者のみがアクセスできます。

  この機能は、各構成セットの **> >** で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management の設定」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2311.1.0.1

修正

- エージェントの自動アップグレード機能を使用すると、x32プラットフォームでのアップグレードが失敗します。
- ドメイン内の他のADオブジェクトがエージェントと同じ名前を持つ場合、エージェントに割り当てられたマシンレベルのGPOが失敗する可能性があります。

2023年11月

エージェントの自動アップグレード

エージェントの自動アップグレード機能には、以下の機能強化が加えられています。

- 一元化されたSMB共有パッケージストレージの場所から目的のエージェントパッケージを選択し、構成セット内のすべてのエージェントマシンに対して自動アップグレードをスケジュールできます。
- WEMが構成セット内のすべてのエージェントマシンにアップグレードを自動的に展開する期間と曜日を指定できるようになりました。
- WEMがアップグレードを自動的に展開する構成セット内のエージェントマシンのデバイス名とIPを指定できるようになりました。詳細については、「アプリパッケージの配信」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2310.1.0.1

メモリ使用量制限機能の制限の拡張

- この機能は、64ビットOSにおけるメモリ使用量制限機能の最大値の制限を4GBから32GBに拡張するように強化されました。この機能強化により、顧客のシステム環境における実際の状況に基づいて、より柔軟な対応が可能になります。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2310.1.0.1

Windowsログオン分析

このツールは、ログオン期間データを収集し、最近のログオン期間に関するレポートを生成します。各ログオンレポートはさらに分類され、潜在的な問題やボトルネックを特定できます。詳細については、「Windowsログオン分析」を参照してください。

アプリケーションセキュリティログレポート

- 管理者は、構成セットごとにアプリケーションセキュリティログの収集を有効にすることで、Webコンソールでアプリケーションセキュリティログを確認し、対応するレポートを取得できるようになりました。管理者は、各レポートの詳細内でサブタイプ別にログを表示できます。詳細については、「レポート」の**アプリケーションセキュリティログ**と、「監視設定」の**セキュリティログ**の説明を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2310.1.0.1

修正

このリリースでは問題は確認されていません。

2023年10月

レジストリエントリ

Webコンソールを使用して、レジストリエントリを割り当て可能なアクションとして追加できるようになりました。これにより、ユーザー環境でレジストリ値を作成、設定、または削除できます。この機能は、より良いユーザーエクスペリエンスを提供するために強化されました。さらに、レジストリエントリにタグを追加したり、複数のレジストリエントリを同時に割り当てたりできるようになりました。詳細については、「レジストリエントリ」を参照してください。

レポートの拡張データの機能強化

エージェントレポートに、**CSV（フォーマット済み）とJSON（フォーマット済み）**の2つの新しいエクスポートオプションが導入されました。これらのオプションにより、レポート内の拡張

データの可読性が向上します。詳細については、「レポートのエクスポート」を参照してください。

Webコンソールでのプロファイル管理設定の分類

この機能を使用すると、プロファイル管理設定の表示を再編成できます。**ファイルベース**、**コンテナベース**、**アプリのアクセス制御**の3つの組み込みタグはフィルターのように機能し、選択したタグで利用可能な設定に集中するのに役立ちます。最後に選択されたタグは、管理者設定として保持されます。詳細については、「プロファイル管理設定」を参照してください。

最適化と使用状況インサイトの機能強化

この機能を使用すると、アプリケーション名を提供することで、除外するアプリケーションのリストを構成できます。**基本設定**の下の設定を使用して、除外するアプリケーションを追加、編集、削除できます。詳細については、「除外されたアプリケーション」を参照してください。

Webコンソールでのファイルタイプ関連付け (FTA) 設定のサポート

この機能により、管理者はFTAを作成、管理し、ユーザーに割り当てることができます。管理者は、**WEM Tool Hub** の **ファイルタイプ関連付けアシスタント** ツールを使用して、WebコンソールでFTAを構成するために必要な情報を簡単に取得することもできます。詳細については、「ファイルタイプ関連付け」を参照してください。

エージェント設定の強化

- 新しい設定 **エージェントがキャッシュされたドメイン検索結果を使用できるようにする** がエージェント設定に追加されました。有効にすると、エージェントはドメインクエリ結果のキャッシュを使用してパフォーマンスと回復性を向上させます。エージェントがドメインに接続できない場合でも、WEMグループポリシーを更新できます。詳細については、「エージェント設定」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2309.2.0.1

Webコンソールでのヘルスチェックレポート機能の強化

この機能により、WEMを介したProfile Managementの構成におけるユーザーエクスペリエンスが向上します。エージェントヘルスチェック結果ページのリンクをたどって **Profile Management** 設定に移動すると、結果のエラー/警告と、Webコンソールの **Profile Management** 構成ページで強調表示されている対応する設定を確認できます。その後、フッターに表示される結果に従って設定を変更できます。詳細については、「レポート」を参照してください。

WEM Tool Hub の新バージョン

WEM Tool Hub の新バージョンが利用可能になりました: `2309.2.0.1`。このバージョンには、パフォーマンスの向上、AAD/NDJオブジェクトセレクターのサポート、およびバグ修正が含まれています。詳細については、「WEM Tool Hub」を参照してください。

修正

- お客様がアプリケーション設定をファイルにエクスポートし、ファイルをASCIIエンコーディングで保存し、変更したファイルをWEMに再度インポートすると、アプリケーションが消えることがありました。
- マシンの再起動後、WEMエージェントは **詳細設定** > **ファイル共有** で構成された以前のSMB共有を失う可能性があります。

2023年9月

Citrix Optimizer での Windows 11 および Windows Server 2022 のサポート

- Citrix Optimizer で、Windows 11 バージョン 21H2 (ビルド 2009) および Windows Server 2022 21H2 (ビルド 2009) のサポートを追加しました。WEMサービスを使用して、Windows 11 2009 および Windows Server 2022 2009 マシンに対してテンプレートベースのシステム最適化を実行できるようになりました。さらに、既存のすべてのテンプレートを更新し、最新のスタンドアロンCitrix Optimizerで導入された変更を反映させました。 Citrix Optimizer の使用方法については、「Citrix Optimizer」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2309.1.0.1

手動バックアップ制限の強化

アカウントあたりの手動エクスポートの最大制限を10から25に強化しました。詳細については、「構成セットのバックアップ」を参照してください。

最適化および使用状況インサイトアプリケーションの制限の強化

最適化インサイトアプリケーションと使用状況インサイトアプリケーションの制限を10から20に強化しました。詳細については、「インサイト」を参照してください。

レジストリエントリ (プレビュー)

Webコンソールを使用して、レジストリエントリを割り当て可能なアクションとして追加できるようになりました。これにより、ユーザー環境でレジストリ値を作成、設定、または削除できま

す。この機能は、より良いユーザーエクスペリエンスを提供するために強化されました。さらに、レジストリエントリにタグを追加したり、複数のレジストリエントリを同時に割り当てたりできるようになりました。詳細については、「レジストリエントリ」を参照してください。

AAD/NDJオブジェクトセレクターツール

- 現在サポートされているADユーザー/グループおよびドメイン参加済みマシンに加えて、AADユーザー/グループおよびNDJマシンにアプリアクセスルールを割り当てることができるようになりました。Webコンソールで**AAD/NDJオブジェクトセレクター**ツールが利用可能になり、オブジェクトデータを取得してルールジェネレーターに貼り付けることができます。詳細については、「AADユーザー/グループおよびNDJマシンへのアプリアクセスルールの割り当て」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2309.1.0.1

Webコンソールでのファイルシステム操作

管理者は、Webコンソールを使用してファイルシステム操作を作成および管理し、ユーザーに割り当てることができるようになりました。詳細については、「ファイルシステム操作」を参照してください。

ユーザーレベルのプロファイル管理設定

この機能を使用すると、カスタマイズと正確な制御のために、ユーザーレベルでプロファイル管理設定を構成できます。この機能を使用して、特定のプロファイル管理設定を個々のユーザーまたはユーザーグループに適用し、必要に応じてプロファイルエクスペリエンスを調整します。詳細については、「ユーザーレベルのプロファイル管理設定」を参照してください。

エージェントレポートによるレポートのサポート

- 管理者は、構成セットごとにセキュリティログ収集を有効にすることで、Webコンソールで特権昇格ログを確認し、対応するレポートを取得できるようになりました。管理者は、各レポートの詳細内でサブタイプ別にログを表示できます。詳細については、「監視設定」の**セキュリティログ**の説明を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2309.1.0.1

プロファイル管理

- Workspace Environment Management は、2308 までの Profile Management のサポートされているすべてのバージョンをサポートするようになりました。以下の機能が Web コンソールで利用できるようになりました。

- **プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にする**。有効にすると、プロファイルコンテナの使用率が90%に達したときに、自動的に10 GB拡張され、最大容量は80 GBになります。必要に応じて、次のオプションを使用してデフォルトの自動拡張設定を調整できます。**自動拡張トリガーしきい値 (%)**、**自動拡張増分 (GB)**、**自動拡張制限 (GB)**。

  この機能は、**プロファイル > プロファイル管理設定 > プロファイルコンテナ** の各構成セットで利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。

- **VHDコンテナのデフォルト容量**。各VHDコンテナのデフォルトのストレージ容量 (GB単位) を指定します。

  この機能は、**プロファイル > プロファイル管理設定 > 詳細設定** の各構成セットで利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。

- **プロファイルコンテナへの排他的アクセスを有効にする**。有効にすると、プロファイルコンテナは一度に1つのアクセスのみを許可します。

  この機能は、**プロファイル > プロファイル管理設定 > 詳細設定** の各構成セットで利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。

- **OneDriveコンテナへの排他的アクセスを有効にする**。有効にすると、OneDriveコンテナは一度に1つのアクセスのみを許可します。

  この機能は、**プロファイル > プロファイル管理設定 > 詳細設定** の各構成セットで利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。

- **UWPアプリのローミングを有効にする**。有効にすると、UWP (Universal Windows Platform) アプリはユーザーとともにローミングします。その結果、ユーザーは異なるコンピューターから同じUWPアプリにアクセスできます。

  この機能は、**プロファイル > プロファイル管理設定 > 詳細設定** の各構成セットで利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン: 2307.1.0.1

タスク設定の構成

スクリプトタスク ページに新しいオプション **タスク設定の構成** が導入されました。これにより、**スクリプトタスク設定** ページで特定の選択されたフィルター済みタスクウィザードに移動できます。詳細については、「タスク設定の構成オプション」を参照してください。

WEM Tool Hub の新バージョン

WEM Tool Hub の新しいバージョンが利用可能です: `2309.1.0.1`。このバージョンには、パフォーマンスの向上、AAD/NDJ オブジェクトセレクターのサポート、およびバグ修正が含まれています。詳細については、WEM Tool Hub を参照してください。

修正

- Profile Management が正しく構成されている場合でも、Profile Management の正常性列にエラーが表示されることがあります。この問題は、WEM エージェントが使用する `UpmConfigCheck.ps1` スクリプトが期待どおりに機能しないために発生します。この問題は、Profile Management 設定の **Path to log file** が有効になっており、そのパスに `%SystemRoot%` が含まれているマシンに影響します。
- WEM エージェントは、ポリシー設定が更新されるたびに SMB 接続を更新するようになりました。これにより、15 分ごとの次回の更新を待つ必要がなくなります。

2023年7月

ユーザーレベルのProfile Management設定 (プレビュー)

- この機能を使用すると、カスタマイズと正確な制御のために、ユーザーレベルでProfile Management設定を構成できます。この機能を使用して、特定のProfile Management設定を個々のユーザーまたはユーザーグループに適用し、必要に応じてプロファイルエクスペリエンスを調整できます。詳細については、ユーザーレベルのProfile Management設定 を参照してください。
- この機能を有効にするには、**Home** に移動し、右上隅にある **preview features** アイコンをクリックして、**User-level Profile Management settings** を有効にします。プレビュー機能 を参照してください。

WEMエージェントイベントログの強化

トラブルシューティング機能を向上させることを目的として、WEMエージェントのイベントログに機能強化を加えました。機能強化には以下が含まれます。

- 包括的なイベントログ: エージェントのアクティビティの全体像を把握できる、包括的なイベントログを提供しました。
- 一意のイベントID: 各イベントログには一意のIDが付与され、特定のイベントをフィルタリングして識別しやすくなりました。

詳細については、エージェントイベントログ を参照してください。

WEM TransformerのMicrosoft Edgeブラウザサポート

- WEM Transformerは、Microsoft Edgeブラウザの最新バージョンをサポートするようになりました。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2307.1.0.1

JSONオブジェクトの割り当て

- JSONオブジェクトを追加し、JSONファイルの作成または変更に割り当てることができるようになりました。この機能を使用すると、JSON構成ファイルを持つアプリケーション（例：Microsoft Teams）にパーソナライズされた設定を適用できます。この機能はWebコンソールでのみ利用可能です。詳細については、アクションを参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2306.1.0.1

クイックアクセス用にローカルアプリケーションを追加する

- この機能により、WEM Tool Hubにローカルアプリケーションをクイックアクセス用に追加できます。追加されたアプリケーションは個人データと見なされ、Profile Management環境内でマシンを切り替えても保持されます。一度に複数のアプリケーションを追加および削除できます。詳細については、クイックアクセス用にローカルアプリケーションを追加するを参照してください。

WEM Tool Hubの新しいバージョン

WEM Tool Hubの新しいバージョンが利用可能になりました: `2307.1.0.1`。このバージョンには、パフォーマンスの向上とバグ修正が含まれています。詳細については、WEM Tool Hubを参照してください。

修正

- 構成セットにテンプレートベースのGPOが多すぎる場合（例: 10,000個）、構成セットの復元が失敗する可能性があります。

2023年6月

CPUスパイク保護の機能強化

- このリリースでは、CPUスパイク保護機能が強化され、よりきめ細やかな制御が可能になりました。機能強化には、以下の変更が含まれます。

- CPUスパイク保護オプションを、より直感的なロジックで再編成し、設定を容易にしました。
- CPUスパイク保護をカスタマイズする際、CPU使用率の制限を非整数値で設定できるようになりました。
- 新しいオプション「**単一CPUコアに対する制限を設定**」が利用可能になり、単一CPUコアを基準としてCPU使用率の制限を設定できるようになりました。

詳細については、CPUスパイク保護を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン: 2306.1.0.1

環境変数

- Webコンソールを使用して、環境変数を割り当て可能なアクションとして追加できるようになりました。割り当てられると、それらの環境変数はユーザー環境で作成または設定されます。この機能は、より良いユーザーエクスペリエンスを提供するために強化されました。詳細については、環境変数を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2306.1.0.1

グループポリシー設定の動的トークンサポート

グループポリシー設定で動的トークンを使用できるようになりました。この機能により、さまざまな環境でより適応性の高いポリシー構成が可能になり、手動構成が削減され、ポリシー管理が簡素化されます。詳細については、グループポリシー設定の動的トークンサポートを参照してください。

グループポリシー設定の処理結果

このリリースでは、アクション処理結果レポート機能が導入されました。この機能により、ユーザーに割り当てられたすべてのアクションの結果を、4時間ごとに更新される統合レポートで表示できるようになりました。レポートには、アクションの名前、割り当てられたユーザー、使用されたフィルター、処理結果などの情報が含まれます。この機能はすべてのアクション向けに設計されていますが、現在はグループポリシー設定の処理結果のみをサポートしています。この機能を使用するには、まずグループポリシー設定の結果収集を有効にしてください。詳細については、レポートおよび監視設定を参照してください。

JSONオブジェクトの割り当て (プレビュー)

- JSONオブジェクトを追加し、それらを割り当ててJSONファイルを作成または変更できるようになりました。この機能を使用すると、JSON構成ファイルを持つアプリケーション

(Microsoft Teamsなど) にパーソナライズされた設定を適用できます。この機能はWebコンソールでのみ利用可能です。詳細については、アクションを参照してください。

- この機能を有効にするには、ホームに移動し、右上隅にあるプレビュー機能アイコンをクリックして、JSONオブジェクトの割り当てを有効にします。プレビュー機能を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2306.1.0.1

2023年5月

Profile Managementのバックアップとクイックセットアップ

- Profile Managementの設定をバックアップおよび復元できるようになりました。詳細については、バックアップと復元を参照してください。さらに、クイックセットアップ機能が利用可能になり、新しいテンプレートから開始するか、バックアップから復元するかにかかわらず、Profile Managementを迅速にセットアップできます。詳細については、クイックセットアップを参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2304.2.0.1

ネットワークドライブ

- Webコンソールを使用して、ネットワークドライブを割り当て可能なアクションとして追加できるようになりました。割り当てられると、それらのネットワークドライブはユーザーのデスクトップ内で使用可能になります。この機能は、より良いユーザーエクスペリエンスを提供するために強化されました。詳細については、アクションを参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2304.2.0.1

仮想ドライブ

- Webコンソールを使用して、仮想ドライブを割り当て可能なアクションとして追加できるようになりました。割り当てられると、これらの仮想ドライブはユーザーのデスクトップ内で使用できるようになります。この機能は、より良いユーザーエクスペリエンスを提供するために強化されました。詳しくは、「アクション」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2304.2.0.1

Webコンソールで利用可能になった改善された詳細設定

詳細設定はWebコンソールに移行され、各構成セットの**詳細設定**で利用できます。より良いユーザーエクスペリエンスを提供するために、設定を再編成しました。詳しくは、「詳細設定」を参照してください。

スタートページを設定する

Webコンソールにサインインするたびに表示されるように、次のいずれかのページをスタートページとして設定できるようになりました。

- エージェント
- レポート
- ユーザー統計
- 使用状況インサイト
- 最適化インサイト
- プロファイルコンテナインサイト

スタートページが設定されていない場合、代わりにホームページが表示されます。スタートページを設定すると、コンソールの左ナビゲーションにある稲妻アイコン () をクリックしてすばやくアクセスできます。

WEM Tool Hubの新しいバージョン

WEM Tool Hub の新しいバージョン 2304.2.0.1 が利用可能になりました。このバージョンには、パフォーマンスの向上とバグ修正が含まれています。詳細については、WEM Tool Hub を参照してください。

修正

- Profile Management が正しく構成されている場合でも、Profile Management の正常性列にエラーが表示されることがあります。この問題は、WEM エージェントが使用する `UpmConfigCheck.ps1` スクリプトが期待どおりに動作しないために発生します。この問題は、システムボリュームが1つしかないマシンに影響します。

2023年4月

アプリのアクセス制御

- Web コンソールを使用して、ファイル、フォルダー、レジストリなどの項目へのユーザーアクセスを制御するルールを追加できるようになりました。一般的なユースケースは、マシンにインストールされているアプリへのユーザーアクセスを制御するルールを適用することです。これは、関連するユーザーに対してアプリを非表示にするかどうかを制御します。この機能により、アプリケーションとイメージの管理を簡素化できます。たとえば、この機能を使用すると、異なる部門に同じマシンを提供しながら、それぞれの異なるアプリケーションニーズを満

たすことができ、イメージの数を減らすことができます。詳細については、アプリのアクセス制御 を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン: 2304.1.0.1

プリンター

- Web コンソールを使用して、ユーザーに割り当てるプリンターを追加できるようになりました。割り当てられたプリンターは、ユーザーのデスクトップ内で使用できます。この機能は、より良いユーザーエクスペリエンスを提供するために強化されました。詳細については、アクション を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2304.1.0.1

WEM Tool Hub (プレビュー)

WEM Tool Hub で以下の2つのツールが利用可能になりました。

- **プリンターアシスタント**。これを使用して、印刷サーバーからプリンターのリストを取得し、管理コンソールで割り当て可能なアクションとして追加できます。
- **アプリのアクセス制御用ルールジェネレーター**。これを使用して、ファイル、フォルダー、レジストリなどの項目へのユーザーアクセスを制御するルールを作成します。これらのルールは Citrix Profile Management を介して実装されます。一般的なユースケースは、マシンにインストールされているアプリへのユーザーアクセスを制御するルールを適用することです。これは、関連するユーザーに対してアプリを非表示にするかどうかを制御します。

詳細については、WEM Tool Hub を参照してください。

プロファイル管理

- Workspace Environment Management は、2303 までの Profile Management のすべての *サポートされている* バージョンをサポートするようになりました。以下の機能は、レガシーコンソールと Web コンソールの両方で利用できます。
    - **セッションロック時および切断時のアクティブライトバックを有効にする**。有効にすると、プロファイルファイルとフォルダーはセッションがロックまたは切断されたときにのみ書き戻されます。このオプションと **レジストリのアクティブライトバックを有効にする** オプションの両方が有効になっている場合、レジストリエントリはセッションがロックまたは切断されたときにのみ書き戻されます。
        - Web コンソールでは、この機能は **プロファイル > Profile Management 設定 > 基本設定** の各構成セットで利用できます。詳細については、Citrix Profile Management 設定 を参照してください。

    - レガシーコンソールでは、この機能は **> >** で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。

- **アプリのアクセス制御を有効にする**。有効にすると、Profile Management は、指定したルールに基づいて、アイテム（ファイル、フォルダー、レジストリなど）へのユーザーアクセスを制御します。
    - Web コンソールでは、この機能は各構成セットの **> >** で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。
    - レガシーコンソールでは、この機能は **> >** で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。
- **VHD ディスクの圧縮を有効にする**。有効にすると、特定の条件が満たされたときに、ユーザーのログオフ時に VHD ディスクが自動的に圧縮されます。このオプションを使用すると、プロファイルコンテナ、OneDrive コンテナ、およびミラーフォルダーコンテナによって消費されるストレージスペースを節約できます。
    - Web コンソールでは、この機能は各構成セットの **> >** で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。
    - レガシーコンソールでは、この機能は **> >** で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。
- **VHD ディスクの圧縮をトリガーする空き領域の比率を設定する**、**VHD ディスクの圧縮をトリガーするログオフ回数を設定する**、および **VHD ディスクの圧縮のデフラグを無効にする**。「**VHD ディスクの圧縮を有効にする**」が有効になっている場合、これら3つのポリシーを使用して、デフォルトの VHD 圧縮設定と動作を調整します。
    - Web コンソールでは、この機能は各構成セットの **> >** で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。
    - レガシーコンソールでは、この機能は **> >** で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン: 2304.1.0.1

2023年2月

アプリケーション

- Web コンソールを使用して、ユーザーに割り当てるアプリケーションを追加できるようになりました。割り当てられると、それらのアプリケーションのショートカットは、構成に応じてデ

スクトップ、スタートメニュー、またはタスクバーに作成されます。この機能は、より良いユーザーエクスペリエンスを提供するために強化されました。詳細については、「アクション」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン: 2302.1.0.1

WEM Tool Hub (プレビュー)

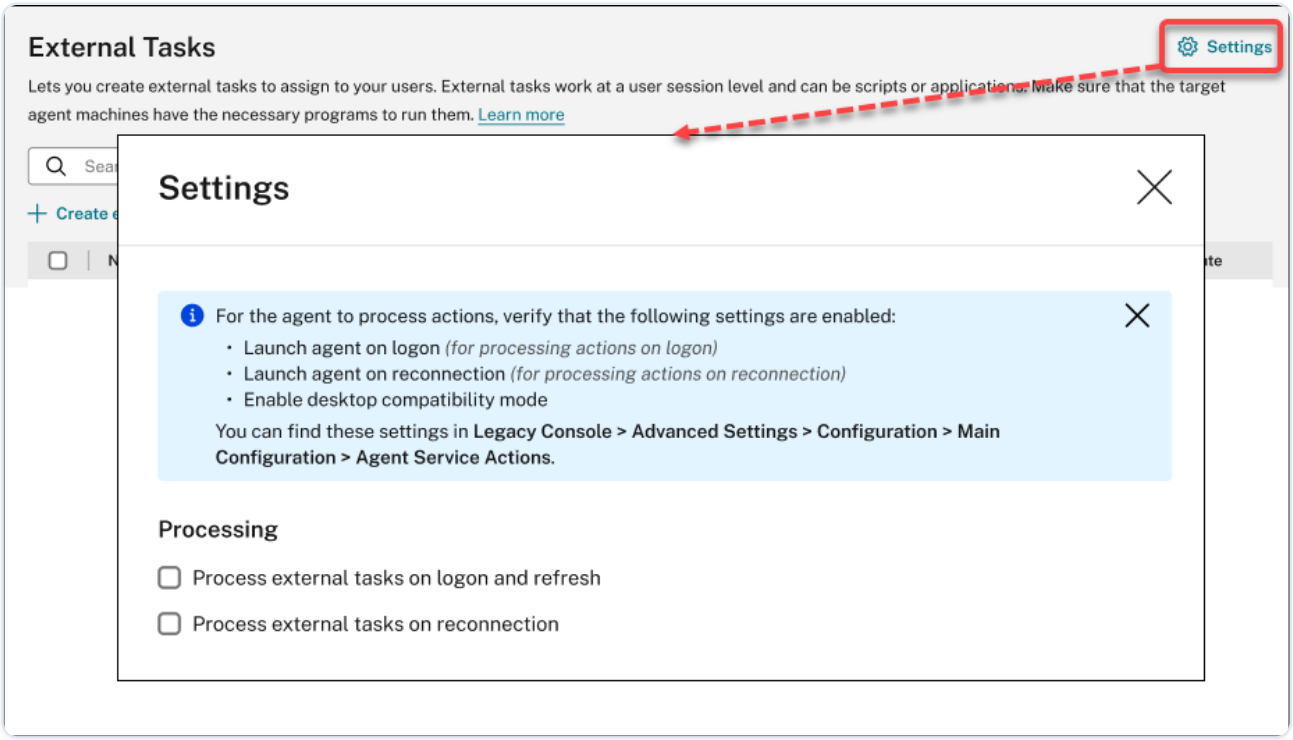
WEM 管理者向けのツールセット **WEM Tool Hub** が利用可能になりました。これは、管理者の構成エクスペリエンスを簡素化することを目的としたツールのコレクションです。ダウンロードするには、 **> >** に移動します。詳細については、「WEM Tool Hub」を参照してください。

外部タスクに追加された新しい設定

Webコンソールで外部タスクを使用する場合、関連設定のために**Legacy Console > Advanced Settings**に移動することなく、エージェントが外部タスクを処理するタイミングを直接構成できるようになりました。新しく追加された設定は次のとおりです。

- ログオン時および更新時に外部タスクを処理する
- 再接続時に外部タスクを処理する

この機能強化により、エージェントが外部タスクを確実に処理する方法に関する詳細情報も提供されます。外部タスクの詳細については、「Actions」を参照してください。



修正

- StudioポリシーのCitrix Cloud™ Connectorsを使用してWorkspace Environment ManagementのCloud Connectorを構成すると、ポリシーが期待どおりに機能しません。
- レガシーコンソールで、State列ヘッダーをクリックして並べ替えると、項目が期待どおりに並べ替えられません。
- レガシーコンソールでは、構成セットにWebコンソールを使用して作成されたリソースが含まれていない場合でも、バックアップウィザードを使用してグループポリシー設定をバックアップするときに、Backup Actionsボタンが使用できません。
- 特権昇格機能が期待どおりに機能しない場合があります。この問題は、Citrix WEMソフトウェアの署名に使用された証明書の有効期限が切れているために発生します。回避策として、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host`の下にDWORDレジストリ値を作成し、その値を1に設定することで、証明書の有効性チェックをバイパスします。

2023年1月

エージェントの自動アップグレードの機能強化

- エージェントの自動アップグレード機能はWebコンソールに移行され、各構成セットの**Advanced Settings > Agent Settings**で利用できます。この機能は、より優れたユーザーエクスペリエンスを提供し、追加機能を提供します。エージェントの自動アップグレードをスケジュールするだけでなく、エージェントのアップグレードを永続マシンまたは非永続マシンに適用するかどうかを制御する柔軟性が得られます。詳細については、「Advanced Settings」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2301.1.0.1

ドメインに参加していないエージェントを目的の構成セットに自動的にバインドする

- *バインドされていない*ドメインに参加していないエージェントのバインディングルールを設定できるようになりました。これらのルールは、一致するエージェントをどの構成セットにバインドするかを決定します。この機能により、WEMが管理するドメインに参加していないエージェントを追加するプロセスが簡素化されます。詳細については、「Directory Objects」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2301.1.0.1

GPOを組織単位に割り当てるサポート

- Webコンソールを使用して、GPOを組織単位に割り当てることができるようになりました。これにより、WEMで使用するためにActive Directory構造を変更する必要がなくなります。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2301.1.0.1

修正

- オフラインモードで実行している場合、エージェントは**詳細設定 > ファイル共有**で構成したSMB共有に接続できません。この問題はエージェントの機能には影響しません。

2022年11月

外部タスク

- Webコンソールを使用して、ユーザーに割り当てる外部タスクを作成できるようになりました。外部タスクはスクリプトまたはアプリケーションにすることができます。ユーザー環境を正確かつ効果的に管理するために、外部タスクを実行するタイミングを指定します。また、Webコンソールは外部タスクの追加機能を提供します。これにより、スケジュールされたトリガーを外部タスクに関連付けて、実行するタイミングをスケジュールできます。詳細については、「外部タスク」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2211.1.0.1

必要な場合にのみ構成データをダウンロードするエージェント

- 以前は、WEMエージェントは構成の変更があるかどうかにかかわらず、定期的にWEMサービスに接続して構成データをダウンロードしていました。エージェントは、構成の変更が行われたかどうかをサービスに定期的に確認するようになりました。
    - 変更があった場合、エージェントは構成データをダウンロードします。
    - 変更がなかった場合、構成データはダウンロードされません。

  この機能強化により、特に多数のエージェントを持つ大規模な展開の場合、帯域幅の消費が大幅に削減されます。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2211.1.0.1

修正

- 以前のバックアップから設定を復元すると、ユーザー ストア関連の資格情報で問題が発生します。

    - レガシーコンソールでは、資格情報に加えた変更を保存できません。
    - Webコンソールでは、復元された資格情報が**Advanced Settings > File Shares**に表示されません。

- Mozilla Firefoxブラウザでは、組み込みのスクリプトタスクCloud Health Checkがカスタムスクリプトタスクの上に表示されません。
- 以下の両方の条件が満たされると、アプリケーションセキュリティルールが機能しません。
    - パブリッシャータイプの例外ルールである。
    - ファイルバージョンに「And above」または「And below」が選択されている。
- レジストリファイルにレジストリ値のないレジストリキーが含まれている場合、Workspace Environment Managementへのインポートのためのファイルのスキャンが停止します。すでにスキャンされたレジストリキーはリストに表示されます。

フィルターの機能強化

- この機能を使用すると、**AND**および**OR**演算子を使用してフィルターを作成できます。これらの演算子を使用して、2つ以上の条件を複合条件に結合できます。この機能により、割り当てやスクリプトタスクで使用するフィルターをより柔軟に作成できます。詳細については、「フィルター」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2210.2.0.1

2022年10月

追加のトリガータイプが利用可能

- トリガーを作成する際に、以下の組み込みトリガータイプが利用可能になりました。
    - **マシンのシャットダウン**。マシンがシャットダウンしたときにトリガーをアクティブにします。
    - **マシンの起動**。マシンが起動したときにトリガーをアクティブにします。
- これらのタイプのトリガーを作成し、タスクを関連付けることができます。アクティブ化されると、トリガーはユーザー環境でそれらのタスクを開始します。この2つの追加トリガータイプにより、スクリプトタスクを実行するタイミングをより柔軟に制御できます。詳細については、「トリガー」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2210.1.0.1

タスク結果をトリガーとして使用するためのサポート

- トリガーを作成する際に、以下のトリガータイプが利用可能になりました

  - **Cloud Health Checkの結果**。Cloud Health Checkが指定されたヘルスステータスを返したときにトリガーをアクティブにします。
  - **Profile Managementヘルスチェックの結果**。Profile Managementヘルスチェックが指定されたヘルスステータスを返したときにトリガーをアクティブにします。
  - **カスタムスクリプトタスクの結果**。スクリプトタスクが指定された結果を返したときにトリガーをアクティブにします。

  これらのタイプのトリガーを作成し、タスクを関連付けることができます。アクティブ化されると、トリガーはユーザー環境でそれらのタスクを開始します。これらのトリガータイプを使用すると、タスクの実行結果に基づいてユーザー環境を自動的に管理できます。詳細については、「トリガー」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン: 2210.1.0.1

プロファイル管理

- Workspace Environment Managementは、2209までのProfile Managementのすべての*サポート対象*バージョンをサポートするようになりました。以下の機能は、レガシーコンソールとWebコンソールの両方で利用可能です。

  - **ファイル重複排除**。有効にすると、Profile Managementはユーザーストアから重複ファイルを削除し、それらのコピーを1つ中央の場所に保存します。これにより、ファイルの重複を回避することでユーザーストアへの負荷が軽減され、ストレージコストが削減されます。

    - Webコンソールでは、この機能は各構成セットの**プロファイル > Profile Management設定 > ファイル重複排除**で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management設定」を参照してください。
    - レガシーコンソールでは、この機能は「ポリシーとプロファイル > Citrix Profile Management設定 > ファイル重複排除」で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management設定」を参照してください。

  - **プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**。以前のリリースにあった**FSLogix Profile Containerのマルチセッションライトバックを有効にする**に代わり、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナのマルチセッションライトバックサポートに対応します。

- **フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**。有効にすると、フォルダーはアクセスされたときにのみフェッチされます。
- **VHDディスク圧縮をトリガーする空き領域比率を設定する**、**VHDディスク圧縮をトリガーするログオフ回数を設定する**、および**VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする**。「**VHDディスク圧縮を有効にする**」が有効になっている場合、これら3つのポリシーを使用して、デフォルトのVHD圧縮設定と動作を調整します。
  - Webコンソールでは、この機能は各構成セットの **Profiles > Profile Management Settings > Advanced settings** で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management Setting」を参照してください。
  - レガシーコンソールでは、この機能は **Policies and Profiles > Citrix Profile Management Settings > Advanced Settings** で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management Setting」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン: 2210.1.0.1

エージェントの登録ステータスを表示する

Webコンソールでは、**Monitoring > Administration > Agents** に **Registrations** タブが追加されました。このタブでは、WEM展開におけるエージェントの登録ステータスを表示できます。この情報を使用して、エージェントの登録に関する問題をトラブルシューティングできます。詳細については、「Administration」を参照してください。

割り当てターゲットのクローン作成のサポート

割り当てターゲット（ユーザーおよびグループ）を、最初から追加することなく、ある構成セットから別の構成セットにクローンできるようになりました。詳細については、「Assignment targets」を参照してください。

修正

- Webコンソールで、**Monitoring > Administration > User Statistics** の結果を絞り込むために **Last logon** フィルターを使用すると、フィルターが期待どおりに機能しない場合があります。この問題は、終了日を指定しない場合に発生します。回避策として、フィルターを使用する際は終了日を指定してください。
- **Legacy Console > Policies and Profiles > Citrix Profile Management Settings** には、ストリーミングプロファイルとクロスプラットフォームプロファイルが使用されるユーザーグループを追加するオプションがありません。

2022年9月

インストールとアップグレード: Workspace Environment Management エージェント

Workspace Environment Management エージェントは、VDAインストールに追加コンポーネントとして含まれなくなりました。インストールするには、スタンドアロンWEMエージェントインストーラー または Citrix Virtual Apps and Desktops製品ISOのフルプロダクトインストーラー を使用してください。

2022年8月

Windowsイベントをトリガーとして使用する

- トリガーを作成する際に、新しいトリガータイプである **Windows event** が利用可能になりました。これにより、Windowsイベントベースのトリガーを作成できます。その後、タスクを関連付けることができます。Windowsイベントが定義された基準を満たすと、トリガーがアクティブ化され、関連付けられたタスクが開始されます。このトリガータイプを使用すると、Windowsイベントに基づいてユーザー環境を自動的に管理できます。詳細については、「Triggers」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2208.1.0.1

エージェント側でのファイルダウンロードにファイル共有を使用する

- 以前は、エージェント側のファイルダウンロードは常にCitrix Cloud経由で行われていました。エージェント側のファイルダウンロードをファイル共有経由で行うことができるようになりました。これにより、他の重要な操作に必要なネットワークリソースが削減されます。この機能により、ネットワークトラフィックが削減され、エージェントマシンへのファイルダウンロード時間が短縮されます。詳細については、「ファイル共有」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2208.1.0.1

スクリプトタスクのタイムアウトを設定する

- スクリプトタスクを構成する際に、**タイムアウト値を設定**するオプションが利用できるようになりました。このオプションを使用すると、タスクが強制終了されるまでの時間（分単位）を指定できます。タイムアウトを指定しない場合、タスクが実行を継続し、他のタスクの実行を妨げる可能性があります。詳細については、「スクリプトタスク設定」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2207.2.0.1

ユーザーを招待してエージェントを登録する

- Webコンソールに新しいノード「**登録**」が追加されました。このノードには2つのページが含まれています。
  - **登録済みエージェント**。すべての登録済みエージェントを一覧表示します。必要に応じて管理できます。
  - **招待**。ユーザーに登録招待を送信できます。各招待には、招待コードと登録を完了するために必要な手順が含まれています。

  詳細については、「登録」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2207.2.0.1

スクリプトタスクをコンテキスト化する

- スクリプトタスクを構成する際に、**一般**に**フィルター**オプションが利用できるようになりました。このオプションを使用すると、フィルターを使用してタスクをコンテキスト化できます。その結果、WEMエージェントは、選択したフィルターのすべての条件が満たされた場合にのみタスクを実行します。詳細については、「スクリプトタスクの構成」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2207.2.0.1

修正

10 MBを超えるスクリプトタスクを追加すると、タスクが正常に追加された場合でも、次のエラーメッセージが表示されます: `Failed to add the scripted task`。ビューを更新すると、タスクが表示されます。

2022年7月

ドメインに参加していない登録済みエージェントの管理タスク実行のサポート

- 他のエージェントと同様に、管理コンソールから、*ドメインに参加していない*エージェントおよび*登録済み*エージェントに対して、管理タスク（キャッシュの更新、設定のリセット、エージェント情報の取得など）を実行できるようになりました。技術的には、この機能は異なる実装です。ターゲットエージェントは、これらのタスクの実行をすぐに通知されません。通知は、ターゲットエージェントまたは同じサブネット上の他のエージェントがCitrix Cloudに接続して設定を更新するときに送信されます。そのため、タスクがエージェント側で実行されるまでに遅延が発生する可能性があります。同じサブネット上のエージェントが多いほど、遅延は短くなります。

- この機能は、レガシーコンソールとWebコンソールの両方で利用できます。
  - Webコンソールで、**［監視］>［管理］>［エージェント］**に移動します。詳しくは、「管理」を参照してください。
  - レガシーコンソールで、**［管理］>［エージェント］**に移動します。詳しくは、「管理」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン：2207.1.0.1

グループポリシー管理用テンプレートを使用したWindows GPOの構成

- Webコンソールでは、各構成セットの**［アクション］>［グループポリシー設定］に［テンプレートベース］**タブが追加されました。このタブを使用すると、グループポリシー管理用テンプレートを使用してWindows GPOを構成できます。GPOは、マシンレベルとユーザーレベルで構成できます。その後、レジストリベースのGPOと同様に、ユーザーに割り当てることで展開します。詳しくは、「グループポリシー設定」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン：2207.1.0.1

スクリプトタスク設定で利用可能な新機能

- スクリプトタスクを構成する際に、以下の新機能が利用できるようになりました。
  - **ファイルパス**。ファイルパスを`System.IO.FileInfo`クラスにパラメーターとして渡すことができるパラメータータイプです。
  - **実行時エラーが発生した場合でも出力を収集する**。タスクの実行中にエラーが発生した場合でも、出力ファイルの内容とコンソール出力を収集するかどうかを制御するオプションです。

  詳しくは、「スクリプトタスク設定」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン：2207.1.0.1

修正

- 組み込み管理者に対してアプリケーションセキュリティルール (AppLockerルール) を割り当てた場合、ログオンしているユーザーが管理者グループに属していても、エージェントマシンでルールが有効にならないことがあります。
- 管理コンソールでProfile Managementの健全性ステータスを表示すると、Profile Managementが正しく構成されていてもエラーが表示されることがあります。この問題は、エージェントが実行されているローカルシステムアカウントにユーザーストアへのアクセス許可がない場合に発生します。

- Webコンソールで、次の種類のレジストリ操作を追加または編集しようとすると失敗する場合があります: `REG_QWORD` および `REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN`。この問題は、`9007199254740991` を超える10進値または `1FFFFFFFFFFFFF` を超える16進値を入力した場合に発生します。回避策として、代わりにレガシーコンソールを使用してください。

  Webコンソールを使用して、値が制限を超える2種類のレジストリ操作を編集すると、**無効な値または形式**というエラーメッセージが表示されます。このメッセージは無視できます。

Webコンソールを介したGPOの展開

- Webコンソールで、グループポリシー設定を管理できるようになりました。管理は、Windowsグループポリシーオブジェクト (GPO) の構成という形で行われます。設定を追加またはインポートした後、ユーザーに割り当てることで展開します。詳細については、「」を参照してください。(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/actions.html#group-policy-settings).
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2206.2.0.1

プロファイル管理

- Workspace Environment Managementは、2206までのすべてのバージョンのProfile Managementをサポートするようになりました。以下の新しいオプションは、レガシーコンソールとWebコンソールの両方で利用できます。
  - **保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする**。有効にすると、保留領域のファイルは要求されたときにのみローカルプロファイルにフェッチされます。これにより、同時セッションシナリオでの最適なログオンエクスペリエンスが保証されます。
    - Webコンソールでは、このオプションは**プロファイル > プロファイル管理設定 > ストリーミングユーザープロファイル**の各構成セットで利用できます。詳細については、「」を参照してください。(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/citrix-profile-management.html#streamed-user-profiles).
    - レガシーコンソールでは、このオプションは**ポリシーとプロファイル > Citrix Profile Management設定 > ストリーミングユーザープロファイル**で利用できます。詳細については、「」を参照してください。(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/policies-and-profiles/citrix-upm-settings.html#streamed-user-profiles).
  - **同時セッションのサポートを有効にする**。同時セッションでネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを提供します。有効にすると、各同時セッションは個別のOutlook OSTファイ

ルを使用します。Outlook OSTファイルを保存するためのVHDXディスクの最大数を指定できます。

ログオン時のユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする。有効にすると、Profile Managementは、Windowsが次回のユーザーログオンの処理モード（同期または非同期処理モード）を決定するために使用するレジストリ値をユーザーとともにローミングします。これにより、ユーザーがログオンするたびに実際の処理モードが適用されます。

OneDriveコンテナを有効にする。有効にすると、Profile ManagementはOneDriveフォルダーをVHDXディスクに保存することで、ユーザーとともにローミングします。ディスクはログオン時にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされます。

- Webコンソールでは、これら3つのオプションは**プロファイル > プロファイル管理設定 > 詳細設定**の各構成セットで利用できます。詳細については、「」を参照してください。(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/citrix-profile-management.html#advanced-settings).
- レガシーコンソールでは、3つのオプションは**ポリシーとプロファイル > Citrix Profile Management設定 > 詳細設定**で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management設定」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/policies-and-profiles/citrix-upm-settings.html#advanced-settings)を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン: 2206.2.0.1

アプリケーションランチャー

- アプリケーションランチャーツールである**AppLauncherUtil.exe**が、エージェントのインストールフォルダーで利用できるようになりました。このツールは、管理コンソールを通じてユーザーに割り当てたすべてのアプリケーションを集約します。このツールを使用すると、ユーザーは割り当てられたすべてのアプリケーションを1か所から起動できます。詳細については、「アプリケーションランチャー」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/actions/applications.html#application-launcher)を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2206.2.0.1

修正

- 現在のユーザーのアクショングループを通じて適用されたアクションに関する結果を表示するためにVUEMRSAV.exeを使用すると、**適用されたアクション**タブにアクションの誤ったソースが表示されることがあります。例: 2つのアクショングループ (`Group1` と `Group 2`) がユー

ザーに割り当てられ、`Group1`に`Application1`が含まれているとします。**適用されたアクション**タブには、`Group2`に`Application1`が含まれていない場合でも、`Application1`が`Group2`からのものであると表示されることがあります。(デフォルトでは、VUEMRSAV.exeはエージェントのインストールフォルダーにあります: %ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMRSAV.exe。)

2022年5月

Citrix Cloud Connectorを構成せずにエージェントを登録する

- 以前は、WEMエージェントを管理するためにCloud Connectorを構成する必要がありました。Cloud Connectorは次の2つの方法で構成できます。
  - エージェントのインストール中にCloud Connectorを構成します。詳細については、「エージェントのインストール」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/get-started/install-and-configure.html#step-3-install-the-agent)を参照してください。
  - **CVADサービスからCitrix Cloud Connectorを検出**ポリシーを構成します。これにより、エージェントは関連するCitrix DaaS (旧称Citrix Virtual Apps and Desktops™サービス) 展開からCloud Connector情報を検出し、対応するCloud Connectorマシンに接続します。詳細については、グループポリシーの構成 (オプション)を参照してください。

  このリリースから、Citrix Cloud Connectorを構成せずにWEMエージェントを登録できるようになりました。この登録は、ドメイン参加済みマシンと非ドメイン参加済みマシンの両方に適用されます。詳細については、「エージェントの登録」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/get-started/enroll-agent.html)を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2205.1.0.1

スクリプトタスクの更新

- スクリプトタスクで次の機能が利用できるようになりました。
  - **複数のファイルを単一のzipファイルにバンドルしてアップロードするサポート**。スクリプトタスクを追加する際、複数のファイルを単一のzipファイルにバンドルしてアップロードできるようになりました。この機能は、複数のスクリプトファイルで構成されるスクリプトタスクを実行したい場合に役立ちます。zipファイルをアップロードした後、タスクの開始時に実行するファイルを示すエントリポイントを指定します。詳細については、「スクリプトタスク」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/scripted-tasks.html#add-a-scripted-task)を参照してください。

- **スクリプトタスクレポートに正規表現の一致のみを含める**。スクリプトタスクを構成する際に、**出力**に新しいオプション「**レポートに正規表現の一致のみを含める**」が利用可能になりました。このオプションは、レポートにすべての出力コンテンツを含めるか、正規表現に一致するコンテンツのみを含めるかを制御します。このオプションを有効にすると、Citrix Cloudに送信されるデータ量が削減されます。詳細については、「スクリプトタスク」を参照してください。
- **スクリプトタスクを識別するためのタグの使用機能**。スクリプトタスクを識別するためにタグを使用できるようになりました。また、タグはフィルターとして機能し、重要な基準に基づいてタスクの表示を再配置できます。詳細については、「スクリプトタスク」を参照してください。
- **スクリプトタスクで利用可能なスケジューリングオプションの追加**。スクリプトタスクの実行時期を制御するための追加オプションが利用可能になりました。1時間ごとの繰り返しパターンに加えて、日次、週次、月次の繰り返しパターンを設定できるようになりました。スクリプトタスクを実行する日時を指定することもでき、より正確な制御が可能になります。エージェントのバージョンが2205.1.0.1より前の場合は、この機能を使用する際の考慮事項に注意してください。詳細については、「スクリプトタスクの構成」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン：2205.1.0.1

Profile Managementヘルスチェックの機能強化

- このリリースには、Profile Managementヘルスチェック機能に対する以下の機能強化が含まれています。
  - **監視 > 管理 > エージェント**の**その他**メニューで：
    - 理解しやすくするために、**Profile Management構成チェックの更新**を**Profile Managementヘルスチェックの実行**に名称変更しました。
    - オプション「**Profile Managementヘルスチェックレポートの表示**」を追加しました。このオプションを使用すると、ターゲットエージェントマシンに関連するProfile Managementヘルスレポートにすばやくアクセスできます。

    詳細については、「管理」を参照してください。
  - 構成セットの**詳細設定 > 監視設定**で：
    - セクション「**Profile Managementヘルスチェック**」を追加しました。このセクションでは、Profile Managementヘルスチェックレポートに含める側面を指定できます。詳細については、「詳細設定」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン：2205.1.0.1

新しいエージェントバージョン

WEMサービスエージェントの新しいバージョンが利用可能になりました: `2205.1.0.1`。

修正

- Microsoft AppLocker コンソールからエクスポートした AppLocker ルールを WEM にインポートすると、ハッシュタイプのルールはインポートできません。
- **レガシーコンソール > 割り当て > モデリングウィザード**を使用している場合、ネストされたグループ内のユーザーの結果アクションを表示できないことがあります。この問題は、アクションまたはアクショングループが割り当てられている最上位グループにユーザーが存在しない場合に発生します。例: 最上位グループが `GroupA` で、`GroupB` がそのメンバーであり、`UserA` が `GroupB` に属しているとします。アクションまたはアクショングループを `GroupA` に割り当てた場合、**モデリングウィザード**を使用して `UserA` の結果アクションを表示することはできません。

レジストリファイルからグループポリシー設定をインポートする機能

レガシーコンソール > アクション > グループポリシー設定に、**レジストリファイルからグループポリシー設定をインポート**オプションが追加されました。このオプションを使用すると、Windows レジストリエディターを使用してエクスポートしたレジストリ値を、管理および割り当て用の GPO に変換できます。レジストリエントリ で利用できる**レジストリファイルのインポート**オプションに慣れている場合、この機能は次のとおりです。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE` と `HKEY_CURRENT_USER` の両方のレジストリ値をインポートできます。
- `REG_BINARY` および `REG_MULTI_SZ` タイプのレジストリ値をインポートできます。
- .reg ファイルで定義したレジストリキーおよび値に関連付けられた削除操作の変換をサポートします。

詳しくは、「グループポリシー設定」を参照してください。

Web コンソールでフィルターが利用可能に

Web コンソールでは、各構成セットの**割り当て**内に新しいページ**フィルター**が利用できるようになりました。このページを使用して、ユーザーにアクションを割り当てるタイミングを制御するためのフィルターを追加します。詳しくは、「フィルター」を参照してください。

新しいエージェントバージョン

WEM サービスエージェントの新しいバージョンが利用可能になりました: `2204.2.0.1`。

修正

- 自己昇格または特権昇格が無効になっている場合、ユーザーが環境で問題に遭遇していなくても、WEM エージェントは次のエラーを Windows イベントログに書き込むことがあります: `System.ArgumentException: Cannot delete a subkey tree because the subkey does not exist`。

2022年4月

監視 > 管理の「その他」メニューの更新

- このリリースでは、**Web コンソール > 監視 > 管理**の**その他**メニューにある既存のオプションが、**エージェント**、**プロファイル**、**電源管理**のグループに整理されました。この更新により、必要なものを見つけやすくなります。オプションを使用するためのワークフローは変更ありません。
- 「**その他**」メニューのその他の更新には、以下が含まれます。
  - 「**エージェントの起動**」を「**起動**」に名前変更し、「**電源管理**」グループに移動
  - 次の4つの電源管理オプションを追加:
    - 「**シャットダウン**」。エージェントをシャットダウンできます。
    - 「**再起動**」。エージェントを再起動できます。
    - 「**スリープ**」。エージェントをスリープモードにできます。
    - 「**休止状態**」。エージェントを休止状態にできます。

  詳細については、「管理」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2204.1.0.1

スクリプトタスクのクローン作成のサポート

既存のスクリプトタスクをクローンして新しいタスクのテンプレートとして使用できるようになりました。類似のタスクを最初から作成する必要はありません。詳細については、「スクリプトタスク」を参照してください。

修正

- 自己昇格ルールを別の構成セットに復元しようとすると、失敗する可能性があります。

Citrix Optimization Packを使用したAzure Virtual Desktopの管理

Azure Virtual Desktop用Citrix Optimization Packは、Azure Virtual Desktopのワークロードを最適化するためのCitrixの新しい製品です。WEMサービスは、このCitrix Optimization Packに含まれる主要な製品です。このパックを使用すると、WEMサービスを使用して、ネイティブのAzure Virtual Desktop環境を管理、最適化、保護できます。

2022年3月

プロファイル管理がWebコンソールで利用可能になりました

Webコンソールで、Citrix Profile Managementを使用してセッションおよびデスクトップ間でユーザープロファイルを管理できるようになりました。詳しくは、「プロファイル管理設定」を参照してください。

スクリプト化されたタスクにパラメータを渡す機能

- Webコンソールを使用すると、スクリプト化されたタスクの実行時に、パラメータ変数として入力を提供できるようになりました。これにより、基になるコードを変更することなく、スクリプト化されたタスクの動作を制御できます。また、WEMは、使用するパラメータの種類（文字列、整数、スイッチなどの特定の種類のオブジェクトのみを受け入れるパラメータ、および名前付きパラメータ（パラメータの名前を使用））において柔軟性を提供します。詳しくは、「スクリプト化されたタスク設定」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2203.2.0.1

オンデマンドでエージェントをアップグレードするオプション

- コンソールからWEMエージェントをオンデマンドでアップグレードできるようになりました。このオプションは、レガシーコンソールとWebコンソールの両方で利用できます。この機能を使用するには、次の手順を実行します。
  - レガシーコンソールで、 > に移動し、エージェントを右クリックして、 を選択します。詳しくは、「管理」を参照してください。
  - Webコンソールで、 > > に移動し、1つまたは複数のエージェントを選択して をクリックし、 を選択します。詳しくは、「管理」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2203.2.0.1

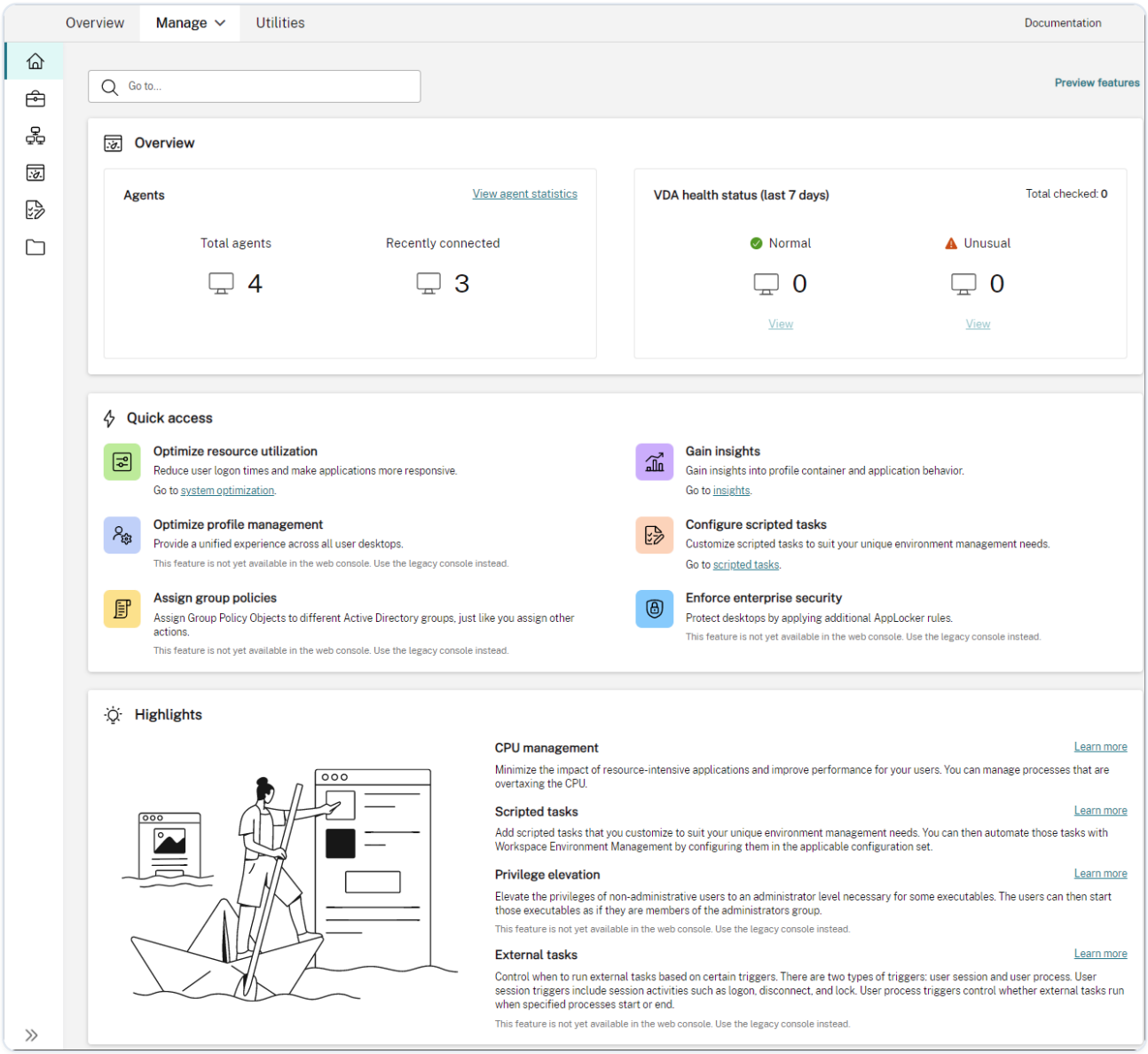
Webコンソールの更新

このリリースでは、Webコンソールに次のページが導入されました。

- **Home**。WEMの展開の概要と、WEMをすばやく理解して使い始めるために必要な情報を提供します。インターフェイスは次の4つの部分で構成されています。
  - **Overview**。WEM展開の概要を提供します。
  - **Quick access**。WEMが提供する主要機能の一部にすばやくアクセスできます。
  - **Highlights**。WEMが提供する主要機能を表示します。
  - **プレビュー機能**。現在プレビュー中の機能を表示します。プレビュー機能は、ご自身で有効または無効にできます。

  詳しくは、「ホーム」を参照してください。
- **ディレクトリオブジェクト**。WEMで管理するマシン、グループ、OUなどを追加できます。次のことができるようになりました。
  - WEMで管理するマシン、グループ、組織単位（OU）などを追加します。
  - どの構成セットにもバインドされていないエージェントに設定を適用します。これにより、バインドされていないエージェントの動作を制御できます。

  詳細については、「ディレクトリオブジェクト」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/directory-objects.html)を参照してください。
- **割り当てターゲット**。ユーザーとグループ（ターゲット）を追加して、アクションとセキュリティルールを割り当てることができます。詳細については、「割り当て」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/assignment.html)を参照してください。



サービスインスタンスを自分で移行するためのサポート

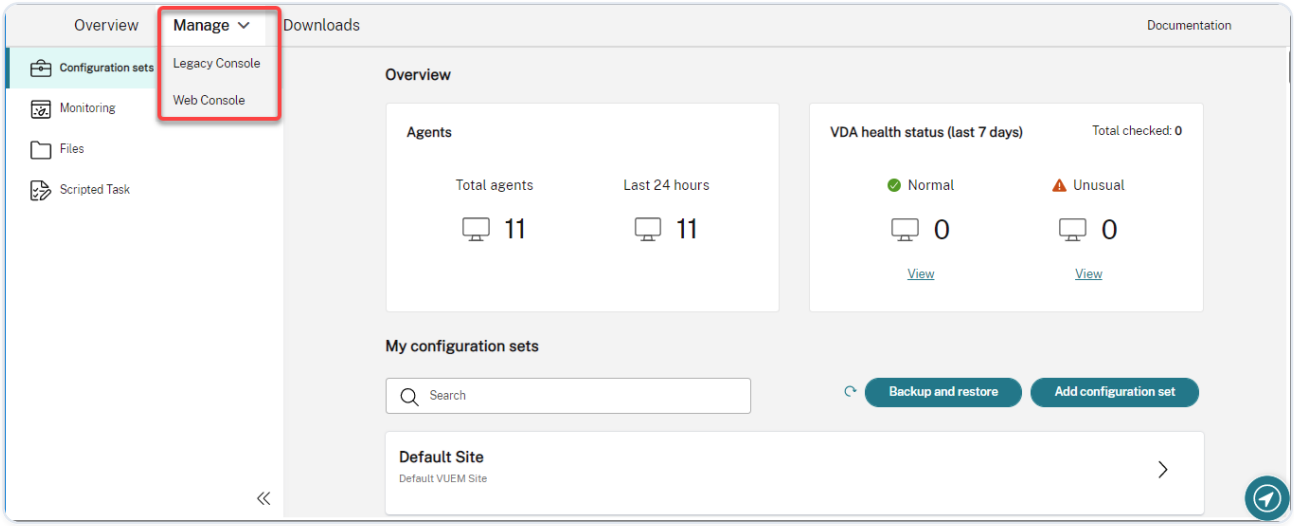
WEMサービスインスタンスが現在のリージョンにない場合でも、Citrixテクニカルサポートに連絡することなく、インスタンスを現在のリージョンに自分で移行できるようになりました。Citrix Cloudにサインインし、**Workspace Environment Management > Utilities**に移動して、**Start migration**を選択します。移行が正常に完了すると、通知が届きます。通知が届くまで最大2日かかる場合があります。最高のパフォーマンスを得るために、インスタンスを現在のリージョンに移行することをお勧めします。

2022年1月

Webコンソールがプレビューとして利用可能に

新しいWebベースのWorkspace Environment Management（WEM）コンソールが利用可能になりました。レガシーコンソールの全機能をWebコンソールに移行する作業を進めています。Webコンソールは通常、レガシーコンソールよりも高速に応答します。**Manage**タブ内からWebコンソールとレガシーコンソールを簡単に切り替えて、構成または展開管理タスクを実行できます。**Manage**の横にある下矢印をクリックしてオプションを選択します。

- **レガシーコンソール**。レガシーコンソールに移動します。
- **Webコンソール**。新しいWebベースのコンソールに移動します。



次の機能はWebコンソールでのみ利用できます。

- **スクリプト化されたタスクを実行する**。独自の環境管理ニーズに合わせてカスタマイズしたスクリプト化されたタスクを追加できます。その後、該当する構成セットで構成することにより、WEMでこれらのタスクを自動化できます。詳細については、「スクリプト化されたタスク」を参照してください。
- **構成セットのバックアップを自動的に保存する**。構成セットの自動バックアップを管理できます。詳細については、「構成セット」を参照してください。
- **プロファイルコンテナ内の大きなファイルをスキャンする**。コンテナの使用量が指定されたしきい値を超えたときに、WEMエージェントがプロファイルコンテナ上の大きなファイルをスキャンするように設定できます。詳細については、「詳細設定」を参照してください。
- **子プロセスがCPU優先度を継承するのを防ぐ**。CPUスパイク保護を適用すると、CPUスパイク保護をトリガーするプロセスのCPU優先度が低いレベルに調整されます。そのプロセスの子プロセスは、低下したCPU優先度を自動的に継承します。**構成セット > システム最適化 > CPU管理 > CPUスパイク保護を有効にする**タイルに、**子プロセスがCPU優先度を継承するの**

を防ぐというオプションを追加しました。このオプションを使用すると、子プロセスにCPU優先度を継承させたくないプロセスを指定できます。詳細については、「システム最適化」を参照してください。

- **Webコンソールでの言語ローカリゼーションのサポート**。Webコンソールは、英語以外の言語での使用に適応しています。Webコンソール自体が管理者の優先言語にローカライズされていない場合でも、Webコンソールは英語以外の文字とキーボード入力をサポートします。サポートされている言語は、フランス語、ドイツ語、スペイン語、日本語です。

バインドされていないエージェントに設定を適用する

- 構成セットにバインドされていないエージェントに設定を適用できるようになりました。この機能により、バインドされていないエージェントの動作を制御できます。詳細については、「Active Directoryオブジェクト」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン：2201.2.0.1

Citrix Virtual Apps and Desktops Standard for Azure展開におけるドメインに参加していないマシンの管理のサポート

- Citrix Virtual Apps and Desktops Standard for Azure展開において、WEMサービスを使用してドメインに参加していないマシンを管理できるようになりました。このサポートにより、ドメインに参加しているマシンと同様に、ドメインに参加していないマシンにポリシーと設定を割り当てることができます。詳細については、「ドメインに参加していないマシンを管理する」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン：2201.2.0.1

Azure ADユーザーとグループの列挙のサポート

WEMサービスは、Azure Active Directory (AD) ユーザーとグループの列挙をサポートするようになりました。Citrix CloudアカウントをAzure ADに接続した後、WEMで管理したいAzure ADユーザーとグループを追加できます。Citrix CloudアカウントをAzure ADに接続する方法については、「Azure Active DirectoryをCitrix Cloudに接続する」を参照してください。

外部タスク

- このリリースには、外部タスク機能の機能強化が含まれています。この機能には、外部タスクを実行するタイミングを制御するための3つの追加オプションが用意されています。
    - **Disconnect**。エージェントが実行されているマシンからユーザーが切断したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。

- **Lock**。ユーザーがエージェントが実行されているマシンをロックしたときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。
- **Unlock**。ユーザーがエージェントが実行されているマシンのロックを解除したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。

詳しくは、「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/actions/external-tasks.html)を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン：2201.1.0.1

プロファイル管理

- Workspace Environment Management は、2112 までのすべてのバージョンの Profile Management をサポートするようになりました。また、**管理コンソール > ポリシーとプロファイル > Citrix Profile Management 設定**インターフェイスで、次の新しいオプションが利用可能になりました。
  - **Enable File Exclusions for Profile Container**。**プロファイルコンテナ設定**タブで利用でき、リストされたファイルをプロファイルコンテナから除外するかどうかを制御します。
  - **Enable File Inclusions for Profile Container**。**プロファイルコンテナ設定**タブで利用でき、親フォルダーが除外されている場合に、リストされたファイルをプロファイルコンテナに保持するかどうかを制御します。
  - **Customize storage path for VHDX files**。**詳細設定**タブで利用でき、異なるポリシーの VHDX ファイルを指定されたストレージパスの下の異なるフォルダーに保存するかどうかを制御します。

  このリリースでは、Profile Management のワイルドカードサポートも追加されました。ファイルまたはフォルダーを指定する際に、ワイルドカードを使用できるようになりました。詳しくは、「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/policies-and-profiles/citrix-upm-settings.html)を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン：2110.2.0.1

Azure Active Directory (AD) グループメンバーシップに基づく WEM サービスへの管理アクセス

Azure AD グループメンバーシップに基づいて、WEM サービスへの管理アクセスを管理できるようになりました。Azure AD グループ内のユーザー（管理者）は、Citrix Cloud に直接オンボードして WEM サービスにアクセスできます。Citrix Cloud で手動で追加する必要はありません。この機能を使用するための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Citrix Cloud アカウントを Azure AD に接続します。
2. Azure AD から該当するグループを Citrix Cloud に追加します。

ユーザーはAzure ADの資格情報を使用してCitrix Cloudにサインインできます。詳細については、Azure Active DirectoryをCitrix Cloudに接続するを参照してください。

修正

- **管理コンソール > ポリシーとプロファイル > Microsoft USV設定 > フォルダーリダイレクト**タブで、**AppData (ローミング) のリダイレクト**と**ローカルリダイレクトフォルダーの削除**の両方が有効になっている場合、WEMエージェントは次の設定を適用できません。
  - **連絡先のリダイレクト**
  - **ダウンロードのリダイレクト**
  - **リンクのリダイレクト**
  - **検索のリダイレクト**
- 2103以降にアップグレードすると、ユーザーの環境に問題がなくても、WEMエージェントが5分ごとにWindowsイベントログにエラーを書き込むことがあります。
- VUEMRSAV.exeを使用して、現在のユーザーの除外されたアクションまたは除外されたアクショングループに関する結果を表示すると、**除外されたアクション**タブにアクショングループが表示されません。(デフォルトでは、VUEMRSAV.exeはエージェントのインストールフォルダー %ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMRSAV.exe にあります。)

2021年11月

インスタンスの移行に関するメッセージ

別のリージョンでサービスを使用している場合、管理コンソールにサインインするとメッセージが表示されるようになりました。このメッセージは、サービスインスタンスを現在のリージョンに移行するよう促すものです。最適なパフォーマンスを得るために、移行することをお勧めします。必要に応じて、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

統計をエクスポートするオプション

移行ツールに**統計のエクスポート**オプションを追加しました。このオプションを使用して、エージェントとユーザーの統計をエクスポートするかどうかを制御します。詳細については、移行を参照してください。

修正

- 環境設定を保存するために**適用**をクリックすると、管理コンソールが予期せず終了する場合があります。この問題は、**環境設定 > スタートメニュー > 壁紙の設定**の**スタイル**設定が空のままになっているために発生します。(以前に**スタイル**を**塗りつぶし**または**フィット**に設定していた場合、管理コンソールをバージョン2109にアップグレードすると、この設定は空になります。) 回避策: **スタイル**設定を空のままにしないでください。

2021年10月

ユーザーが特定のアプリケーションを自己昇格できるようにする

- このリリースでは、特権昇格機能に自己昇格が導入されました。自己昇格を使用すると、特定のユーザーの特権昇格を、事前に正確な実行可能ファイルを提供することなく自動化できます。これらのユーザーは、該当するファイルを右クリックし、コンテキストメニューで**管理者権限で実行**を選択するだけで、任意のファイルに対して自己昇格を要求できます。その後、昇格の理由を提供するよう求めるプロンプトが表示されます。この理由は監査目的のためです。基準が満たされると、昇格が適用され、ファイルは管理者権限で正常に実行されます。さらに、自己昇格により、ニーズに最適なソリューションを柔軟に選択できます。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格を防止したいファイルのブロックリストを作成したりできます。詳細については、自己昇格を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2109.2.0.1

Citrix DaaS™ カタログを構成セットにバインドする

Citrix DaaS (旧 Citrix Virtual Apps and Desktops サービス) の完全構成管理インターフェイスを使用して、カタログを WEM 構成セットにバインドできるようになりました。これにより、WEM サービスを使用して、Citrix DaaS の展開に基づいてユーザーエクスペリエンスを最適化できます。既存のカタログ設定を再利用することで、ユーザーに最高のワークスペースエクスペリエンスを迅速に提供できます。詳細については、「マシンカタログの作成」および「マシンカタログの管理」を参照してください。

Workspace Environment Management が Citrix Cloud Japan で利用可能になりました

Workspace Environment Management サービスが、Citrix Cloud とは分離された独立したクラウドである Citrix Cloud Japan で利用可能になりました。日本のお客様は、専用の Citrix 管理環境でこのサービスを使用できます。このサービスには、Citrix Cloud Connector バージョン `6.29.0.58841` 以降が必要です。詳細については、「Citrix Cloud Japan」を参照してください。

Windows 11 のサポート

このサポートには、エージェントの最小バージョン 2109.2.0.1 が必要です。

修正

- WEM エージェントは、かなりの量のメモリを使用する可能性があります。場合によっては、セッションあたり 3 GB までメモリ消費量が増加することがあります。

2021年9月

子プロセスへの特権昇格の適用をよりきめ細かく制御

- 以前は、ルールで 設定を使用すると、実行可能ファイルが開始したすべての子プロセスにルールが適用されていました。このリリースでは、子プロセスへの特権昇格の適用をよりきめ細かく制御できる 3 つの追加オプションが提供されます。
  - **同じフォルダー内の実行可能ファイルにのみ適用**
  - **署名された実行可能ファイルにのみ適用**
  - **同じ発行元の実行可能ファイルにのみ適用**

  詳細については、「特権昇格」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2109.2.0.1

Windows Server 2022 のサポート

このサポートには、エージェントバージョン 2109.2.0.1 以降が必要です。

修正

- WEM PowerShell SDK モジュールを使用して WEM 構成セットをエクスポートまたはインポートすると、アプリケーションセキュリティ (AppLocker) ルールなどの特定の設定は含まれません。
- 32ビット実行可能ファイルに特権昇格を適用すると、64ビットWindowsオペレーティングシステムを実行しているマシンで、その実行可能ファイルの特権を正常に昇格できます。ただし、実行可能ファイルルールで 設定が選択されているかどうかにかかわらず、その子プロセスは自動的に特権を継承します。
- WEM を使用して特定のアプリケーションをタスクバーにピン留めすると、正常にピン留めされない場合があります。この問題は、Windows マルチセッション OS マシンで発生します。

- レジストリキーのパスにスラッシュ (`/`) が含まれている場合、WEM はレジストリキーの展開に失敗します。この問題は、WEM がスラッシュを区切り文字として誤って処理するために発生します。

2021年8月

アジア太平洋南部ベースのインスタンスの有効化

WEM サービスはグローバルに利用可能です。当初は米国ベースとEUベースのインスタンスのみでしたが、現在はアジア太平洋南部ベースのインスタンスも提供しています。

2021年7月

新しいエージェントバージョンに関する通知

このリリースでは、 タブで利用できるメール通知機能が更新されます。以前は、WEM サービスの今後のアップグレードに関する通知を受け取るかどうかを決定できました。このリリース以降、WEM サービスのアップグレードに関する通知は届きません。Workspace Environment Management サービスエージェントの新しいバージョンが利用可能になったことを通知するかどうかを決定できます。

修正

- Microsoft Windows オペレーティングシステムの非英語バージョンでは、ユーザーが環境で問題に遭遇していなくても、WEM エージェントはログオン中にエラーをWindowsイベントログに書き込みます。
- WEM エージェントは、 機能が有効になるたびに、Windows イベントログにエラーを書き込みます。この機能が動作しない場合にも、エージェントは Windows イベントログにエラーを書き込むことがあります。
- `[ADAttribute:objectSid]` 動的トークンを使用して `objectsid` 属性を抽出すると、WEM エージェントは対応する AD オブジェクトの属性を抽出できません。
- 管理コンソールを使用してデスクトップの壁紙を設定すると、WEM エージェントは壁紙を塗りつぶし、フィット、またはタイル表示できません。

2021年6月

特権昇格のパラメーターマッチング

- このリリースでは、特権昇格機能にパラメーターマッチングが導入されました。パラメーターマッチングを使用すると、指定されたパラメーターに一致する実行可能ファイルに特権昇格を制限することで、よりきめ細かな制御が可能になります。パラメーターは一致基準として機能します。基準をさらに拡張するには、正規表現を使用できます。詳細については、「特権昇格」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン：2106.2.0.1

Windowsインストーラーファイルに対する特権昇格のサポート

- このリリースから、`.msi` および `.msp` Windowsインストーラーファイルに特権昇格を適用できるようになりました。この機能を使用すると、一部のWindowsインストーラーファイルに必要な管理者レベルに、非管理者ユーザーの特権を昇格させることができます。その結果、これらのユーザーは、管理者グループのメンバーであるかのようにこれらのファイルを実行できます。詳細については、「特権昇格」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン：2105.1.0.1

プロファイル管理

- Workspace Environment Management は、2106 までのすべてのバージョンの Profile Management をサポートするようになりました。**管理コンソール > ポリシーとプロファイル > Citrix Profile Management 設定** のユーザーインターフェイスが変更されました。
    - **ユーザーストアのレプリケート。ユーザーストアへのパスを設定** オプションで指定されたパスに加えて、ログオンおよびログオフごとにユーザーストアを複数のパスにレプリケートできる新しいオプションです。セッション中に変更されたファイルとフォルダーをユーザーストアに同期するには、アクティブライトバックを有効にします。このオプションを有効にすると、システムI/Oが増加し、ログオフが長くなる可能性があります。この機能は現在、完全なコンテナソリューションをサポートしていません。
    - **フォルダーミラーリングの高速化。** フォルダーミラーリングを高速化する新しいオプションです。このオプションを有効にすると、Profile Management はミラーリングされたフォルダーをVHDXベースの仮想ディスクに保存します。その結果、Profile Management はログオン時に仮想ディスクをアタッチし、ログオフ時にデタッチするため、ユーザーストアとローカルプロファイルの間でフォルダーをコピーする必要がなくなります。
    - **ユーザーストアの資格情報。** ユーザーストアへのアクセス時に Profile Management が現在のユーザーを偽装するかどうかを制御できる新しいタブです。Profile Management が現在

のユーザーを偽装することを許可するには、この設定を無効にします。Profile Management が現在のユーザーを偽装することを防止するには、この設定を有効にします。その結果、Profile Management は指定されたユーザーストアの資格情報を使用して、ユーザーに代わってユーザーストアにアクセスします。

詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。

- 必要な最小エージェントバージョン：2106.2.0.1

修正

- フィルターに基づいてユーザーにプリンターを割り当て、その割り当てがフィルター条件を満たしている場合、WEMエージェントはプリンターをユーザーに割り当てます。ただし、割り当てがフィルター条件を満たしていない場合でも、ユーザーが次回ログオンしたときにエージェントはプリンターをユーザーに割り当てます。
- エージェントホストマシンでWindows PowerShellスクリプト実行ポリシーが **署名済みスクリプトのみを許可** に設定されている場合、WEMはProfile Managementのヘルスチェックを実行できません。ポリシーが **ローカルスクリプトとリモート署名済みスクリプトを許可** または **すべてのスクリプトを許可** に設定されている場合、WEMはProfile Managementのヘルスチェックを実行できますが、エラー情報をWindowsイベントログに書き込みます。
- アクショングループを介してユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てた場合、管理コンソールで **無効** に設定されていても、そのアクションは引き続き有効になります。
- WEMエージェントは、VUEMRSAV.exe（**Workspace Environment Management 結果アクションビューア**）をインストールします。これは、管理者が定義したWEM構成をユーザーが表示できるユーティリティです。ただし、このユーティリティの **エージェント設定** タブでは、管理コンソールで構成されている **キャッシュを使用してアクション処理を高速化** オプションに関連付けられている設定をユーザーは確認できません。

2021 年 5 月

ユーザープロセスを外部タスクのトリガーとして構成する

- このリリースには、外部タスク機能の機能強化が含まれています。この機能により、外部タスクを実行するタイミングを制御するための2つの追加オプションが提供されます。
    - **プロセス開始時に実行**。指定されたプロセスが開始したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。

- **プロセス終了時に実行**。指定されたプロセスが終了したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。

これら2つのオプションを使用すると、特定のプロセスが実行されている場合にのみリソースを供給し、プロセスが終了したときにそれらのリソースを取り消すように外部タスクを定義できます。外部タスクのトリガーとしてプロセスを使用すると、ログオン時またはログオフ時に外部タスクを処理する場合と比較して、ユーザー環境をより正確に管理できます。詳細については、「外部タスク」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン: 2104.1.0.1

プロセス階層制御の機能強化

- このリリースでは、全体的なパフォーマンスと安定性を向上させるプロセス階層制御機能の機能強化が導入されています。機能強化には、次の変更が含まれます。
  - **AppInfoViewer**ツールが更新され、次の2つのオプションが含まれるようになりました: **プロセス階層制御を有効にする**および**プロセス階層制御を無効にする**。プロセス階層制御機能が機能するには、まず各エージェントマシンでツールを使用してこの機能を有効にする必要があります。この機能を有効または無効にするためにツールを使用するたびに、マシンの再起動が必要です。
  - 特定のシナリオでは、エージェントのアップグレードまたはアンインストール後にエージェントマシンを再起動する必要があります。詳細については、「考慮事項」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2105.1.0.1

修正

- ファイルシステム操作アクションを割り当てて後でアクションを更新すると、以前にユーザー環境にコピーされたファイルまたはフォルダーが削除される可能性があります。この問題は、アクションを更新した後、WEMエージェントが以前に行われた割り当てを元に戻すために発生します。
- **Advanced Settings > Configuration > Main Configuration**タブで**Agent Type**が**CMD**に設定されている場合、**Monitoring > Daily Reports > Daily Login Report**タブに、現在の構成セットに接続されているすべてのユーザーのログオン時間の概要が表示されないことがあります。

2021年4月

プロセス階層制御

- このリリースでは、プロセス階層制御機能が導入されています。この機能により、特定の子プロセスを親プロセスを介して開始できるかどうかを制御できます。親プロセスを定義し、その子プロセスに対して許可リストまたはブロックリストを指定することで、ルールを作成します。その後、ユーザーごとまたはユーザーグループごとにルールを割り当てます。次のルールタイプが利用可能です。

  - **パス**。実行可能ファイルのパスに基づいて、実行可能ファイルにルールを適用します。
  - **発行元**。発行元情報に基づいてルールを適用します。
  - **ハッシュ**。指定された同一の実行可能ファイルにルールを適用します。

  詳細については、「プロセス階層制御」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2103.2.0.1

アプリケーションセキュリティルールを上書きまたはマージする

このリリースでは、**管理コンソール > セキュリティ > アプリケーションセキュリティ**タブに、**上書き**と**マージ**の2つの設定が追加されました。これらの設定により、エージェントがアプリケーションセキュリティルールをどのように処理するかを決定できます。

- 既存のルールを上書きする場合は、**上書き**を選択します。選択すると、最後に処理されたルールが、以前に処理されたルールを上書きします。この設定は、シングルセッションマシンにのみ適用することをお勧めします。
- 既存のルールとルールをマージする場合は、**マージ**を選択します。競合が発生した場合、最後に処理されたルールが、以前に処理されたルールを上書きします。

詳細については、「アプリケーションセキュリティ」を参照してください。

修正

- WEMエージェントがアプリケーションの処理中に応答しなくなり、正常に処理できない場合があります。
- 公開アプリケーションセッションの起動時または切断時に、ログオンの遅延やセッション切断の遅延などのパフォーマンスの問題が発生する場合があります。この問題は、WEMエージェント2005以降で発生します。

2021年3月

CVADサービスからCitrix Cloud Connectorを検出する

このリリースでは、**CVADサービスからCitrix Cloud Connectorを検出する**というポリシー設定が導入されました。エージェントのCloud Connectorをまだ構成していない場合は、この設定を使用して、エージェントが関連するCitrix Virtual Apps and Desktops (CVAD) サービス展開からCloud Connector情報を検出するかどうかを制御します。その後、エージェントは対応するCloud Connectorマシンに自動的に接続します。詳細については、「手順2：グループポリシーを構成する（オプション）」を参照してください。

Windows 10 2009テンプレートのサポート

Citrix Optimizer で導入された Windows 10 2009 (20H2 とも呼ばれる) テンプレートのサポートが追加されました。WEM サービスを使用して、Windows 10 2009 マシンに対してテンプレートベースのシステム最適化を実行できるようになりました。さらに、既存のすべてのテンプレートを更新し、最新のスタンドアロン Citrix Optimizer で導入された変更を反映させました。Citrix Optimizer の使用については、「Citrix Optimizer」を参照してください。

最新のホームページ

このリリースでは、WEM 管理コンソールのホームページが、WEM サービスを開始するために必要な情報を提供するクイックスタートページに置き換えられます。画面の指示に従って、WEM 展開の構成を開始します。クイックスタートページを再度開くには、コンソールの右上隅にある (リボンで使用可能) をクリックします。詳細については、「Workspace Environment Management サービスの使用を開始する」を参照してください。

プロファイル管理

Workspace Environment Management サービスは、2103 までのすべてのバージョンの Profile Management をサポートするようになりました。また、 **> >** インターフェイスで、次の新しいオプションが使用できるようになりました。

- **プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする**
  - タブで使用できます。
  - 有効にすると、各ローカルプロファイルがプロファイルコンテナのローカルキャッシュとして機能します。
- **プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**
  - タブで使用できます。

    - 以前のリリースでの に代わり、Citrix Profile Management プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックサポートに対応します。

- **フォルダのプロファイルストリーミングを有効にする**
    - タブで使用できます。
    - 有効にすると、フォルダはアクセスされたときにのみフェッチされます。

詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。

修正

- ログレベルの変更をすぐに有効にするために、WEM エージェントが特定のレジストリキーに非常に頻繁にアクセスし、パフォーマンスに影響を与える可能性があります。
- 複数のユーザーまたはユーザーグループに割り当てられているアクショングループを、特定のユーザーまたはユーザーグループから割り当て解除すると、割り当てが期待どおりに機能しない場合があります。たとえば、アクショングループを2つのユーザーグループ（**グループA**と**グループB**）に割り当てたとします。**グループA**からアクショングループの割り当てを解除すると、**グループA**ではなく**グループB**からアクショングループの割り当てが解除されます。
- 環境変数（**アクション > 環境変数**）を構成するときに、`$Split(string,[splitter],index)$` 動的トークンを使用しようとすると失敗する場合があります。この問題は、動的トークンが複数行文字列をサポートしていないために発生します。

2021年1月

Microsoft Sync Framework 2.1の非推奨化

Microsoft Sync Framework 2.1 は、January 12, 2021 にサポート終了となりました。WEM は、このフレームワークに基づいた従来の同期サービスを削除し、代わりにオープンソースの同期フレームワークである新しい同期フレームワーク *Dotmim.Sync* を使用しています。この変更は、お客様にどのような影響を与えますか？

- WEMエージェントバージョン1911以降を使用している場合、この変更に関してお客様側で対応する必要はありません。
- WEMエージェントバージョン1911より前のバージョンを使用している場合は、エージェントを1911にアップグレードしてください。

WEMエージェントとCitrix Virtual Apps and Desktops製品ソフトウェアの統合

WEMエージェントはCitrix Virtual Apps and Desktops製品ソフトウェアと統合されており、Virtual Delivery Agent（VDA）のインストール時にWEMエージェントを含めることができます。この統合は、Citrix Virtual Apps and Desktops 2012製品ソフトウェア以降に反映されています。詳しくは、「VDAのインストール」を参照してください。

グループポリシー設定の条件付き割り当てのサポート

- このリリース以降、フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化することで、グループポリシー設定を条件付きにできます。フィルターは、ルールと複数の条件で構成されます。WEMエージェントは、実行時にユーザー環境でルールのすべての条件が満たされた場合にのみ、割り当てられたグループポリシー設定を適用します。それ以外の場合、エージェントはフィルターを適用する際にそれらの設定をスキップします。詳しくは、「グループポリシー設定のコンテキスト化」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン：2101.1.0.1

特権昇格

- このリリースでは、特権昇格機能が導入されました。この機能により、非管理者ユーザーの特権を、一部の実行可能ファイルに必要な管理者レベルに昇格させることができます。その結果、これらのユーザーは、管理者グループのメンバーであるかのように、それらの実行可能ファイルを開始できます。

  この機能により、特定の実行可能ファイルに対してルールベースの特権昇格を実装できます。次のルールタイプが利用可能です。

  - **パス**。実行可能ファイルのファイルパスに従って、実行可能ファイルにルールを適用します。
  - **発行元**。発行元情報に従ってルールを適用します。
  - **ハッシュ**。指定された同一の実行可能ファイルにルールを適用します。

  オペレーティングシステムの種類に応じて、ルールの動作を設定できます。また、特定の時刻または特定の時間範囲内でルールを有効にするかどうかを設定することもできます。ルールは、ユーザーごとまたはユーザーグループごとに割り当てます。詳しくは、「特権の昇格」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン: 2010.2.0.1

修正

- 特権昇格機能が正常に動作しない場合があります。この問題は、WEMエージェントの次のバージョンで発生します: **2010.2.0.1**、**2011.1.0.1**、および **2101.1.0.1**。この問題は、Citrix WEMソフトウェアの署名に使用された証明書の有効期限が切れているために発生します。この問題を回避するには、関連するWEMエージェントをアンインストールし、最新のWEMエージェントをインストールしてから、エージェントホストを再起動します。
- WEMエージェントがログオン中にアプリケーション処理を実行している間、Windowsは**ショートカットの問題**ダイアログボックスを表示し、エンドユーザーに正常に機能しなくなったショートカットを削除するように促すことがあります。この問題は、ショートカットが参照する項目が変更または移動された場合に発生します。
- アプリケーションセキュリティ機能を使用している場合、**ルールの編集**または**ルールの追加**ウィンドウの**割り当て**セクションの**割り当て済み**列に、ユーザーまたはユーザーグループの横に緑色のチェックマークが表示されます。緑色のチェックマークアイコンは、必ずしもそのユーザーまたはユーザーグループにルールが割り当てられていることを示すものではありません。ルールが割り当てられているのは、青い背景を持つユーザーまたはユーザーグループのみです。

非推奨

この記事では、Workspace Environment Management™ (WEM) サービス機能の段階的な廃止について事前にお知らせし、お客様がタイムリーなビジネス上の意思決定を行えるようにします。Citrix® は顧客の使用状況とフィードバックを監視し、機能がいつ廃止されるかを決定します。発表は以降のリリースで変更される可能性があり、すべての非推奨の機能や機能が含まれていない場合があります。

製品ライフサイクルサポートの詳細については、製品ライフサイクルサポートポリシーの記事を参照してください。

非推奨と削除

次の表は、WEMサービスで非推奨または削除された機能を示しています。

*非推奨*の項目はすぐに削除されません。Citrixは引き続きそれらをサポートしますが、将来のリリースで削除されます。

*削除済み*の項目は、WEMサービスで削除されるか、サポートされなくなります。

項目	発表時期	削除時期	代替
Microsoft Sync Framework 2.1に基づくレガシーエージェントキャッシュ同期サービスのサポート。	2020年9月	2021年1月	WEMエージェントバージョン1911より前のバージョンを使用している場合は、エージェントを1911以降にアップグレードしてください。

サードパーティ通知

ワークスペース環境管理には、以下のドキュメントに定義されている条件に基づいてライセンスされたサードパーティ製ソフトウェアが含まれる場合があります。

ワークスペース環境管理 サードパーティ通知

既知の問題

このリリースには、以下の既知の問題が含まれています。

- 以前のリリースで作成されたバックアップファイルの場合、構成セットのインポートまたは復元が失敗する可能性があります。回避策スクリプトが必要な場合は、Citrixサポートにお問い合わせください。
- 2.44より前（スキーマバージョン2605以前）にエクスポートされたバックアップを2.44以降（スキーマバージョン2606以降）に復元すると、「復元できません。後でもう一度お試しください。」というメッセージが表示されて失敗します。アップロード時に「無効なコンテンツ」と表示されることもあります。この問題は、古いバックアップのみに影響します。2.44以降でエクスポートされたバックアップは、期待どおりに復元されます。

WEMサービスの以前のバージョンで確認された既知の問題については、以前のリリースでの既知の問題を参照してください。

以前のリリースにおける既知の問題

ワークスペース環境管理サービス 2507.1.0.1

- Azure AD参加済みマシンでのAzure ADユーザーログオンの場合、ログオン分析データが生成されないことがあります。

ワークスペース環境管理サービス 2505.1.0.1

- レジストリエントリを更新する際、一括更新中に操作がタイムアウトする場合があります。回避策として、更新をページごとに処理してください。
- 有効期限切れのユーザーを削除する際、有効期限切れのユーザー数が多すぎると、サービスがハングしたり失敗したりする可能性があります。

ワークスペース環境管理サービス 2504.1.0.1

- PowerShell実行ポリシーが `RemoteSigned` に設定されている場合、クラウドヘルスチェックが失敗します。この問題は、お客様がポリシーを `RemoteSigned` に設定したときに発生します。

- WEM Webコンソールでは、 ウィンドウでユーザー名の代わりにSIDが表示されます。割り当てターゲットは、 ウィンドウでSIDのみを表示します。

ワークスペース環境管理サービス 2501.1.0.1

- インポートされたGPOレジストリ`.zip`ファイルの`.zip`ファイルコンテンツが無効な場合、エラープロンプトが表示されます。`.zip`ファイルが有効であっても、コンテンツのレジストリへの変換は失敗します。
- お客様がハッシュタイプでプロセス階層制御ルールを構成すると、2412より前のバージョンのエージェントは、プロセス階層制御ルールを取得する際にサービスログにエラーを生成します。
- お客様がアクショングループを作成し、外部タスクを追加すると、 > > でアクショングループのコンテンツを表示しているとき、または**** > > でこれらのアクショングループに関連付けられた割り当てを表示しているときに、レガシーコンソールがクラッシュします。
- プロセス階層制御ルールを含むアクショングループが含まれる構成サイトを復元すると、これらのアクショングループ内のプロセス階層制御ルールが失われます。

ワークスペース環境管理サービス 2412.1.0.1

- Windows 10マシンの一部のプロファイルで、ソースプロファイルパスが実際のユーザーストアプロファイルパスと一致しません。

ワークスペース環境管理サービス 2410.1.0.1

- Windows 10マシンの一部のプロファイルで、ソースプロファイルパスが実際のユーザーストアプロファイルパスと一致しません。

ワークスペース環境管理サービス 2409.1.0.1

- Windows 10マシンの一部のプロファイルで、ソースプロファイルパスが実際のユーザーストアプロファイルパスと一致しません。

ワークスペース環境管理サービス 2408.1.0.1

- **スタート**メニューのショートカットを作成し、アプリケーションを**スタート**メニューにピン留めすると、指定されたパスに作成されるのではなく、**スタート**メニューのルートフォルダーにショートカットが生成されます。この問題は、Windows Server 2022/2019でのみ発生し、Windows Server 2016では発生しません。

ワークスペース環境管理サービス 2407.2.0.1

- アプリケーションセキュリティルールを作成し、発行元条件を追加すると、レガシーコンソールを開いたときに削除されます。発行元条件のファイルパス値はnullであり、レガシーコンソールによって無効なルールとして指定されます。
- Active Directoryとトークンを使用して、**Citrix Environment Tool Hub > Application assistance**経由でWorkspaceにログインしようとすると、空白のワークスペースウィンドウが表示されます。
- **スタート**メニューのショートカットを作成し、アプリケーションを**スタート**メニューにピン留めすると、指定されたパスに作成されるのではなく、**スタート**メニューのルートフォルダーにショートカットが生成されます。この問題は、Windows Server 2022/2019でのみ発生し、Windows Server 2016では発生しません。

ワークスペース環境管理サービス 2403.1.0.1

- **スタート**メニューのショートカットを作成し、アプリケーションを**スタート**メニューにピン留めすると、指定されたパスに作成されるのではなく、**スタート**メニューのルートフォルダーにショートカットが生成されます。この問題は、Windows Server 2022/2019でのみ発生し、Windows Server 2016では発生しません。

ワークスペース環境管理サービス 2401.1.0.1

- **スタート**メニューのショートカットを作成し、アプリケーションを**スタート**メニューにピン留めすると、指定されたパスに作成されるのではなく、**スタート**メニューのルートフォルダーにショートカットが生成されます。この問題は、Windows Server 2022/2019でのみ発生し、Windows Server 2016では発生しません。

ワークスペース環境管理サービス 2311.1.0.1

このリリースでは、問題は確認されていません。

ワークスペース環境管理サービス 2310.1.0.1

このリリースでは、問題は確認されていません。

ワークスペース環境管理サービス 2309.2.0.1

このリリースでは、問題は確認されていません。

ワークスペース環境管理サービス 2309.1.0.1

- 「Citrix Workspace™ (StoreFront™) リソース」タイプの特定のアプリケーション (SaaS アプリケーションなど) が、エージェントマシンで起動に失敗する場合があります。
- WEM エージェントが Windows Server 2022 で実行されている場合、特定のプロセスに適用するメモリ使用量制限が期待どおりに機能しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 2307.1.0.1

- 「Citrix Workspace (StoreFront) リソース」タイプの特定のアプリケーション (SaaS アプリケーションなど) が、エージェントマシンで起動に失敗する場合があります。
- WEM エージェントが Windows Server 2022 で実行されている場合、特定のプロセスに適用するメモリ使用量制限が期待どおりに機能しない場合があります。
- WEM エージェントが起動時にポリシー設定の取得に失敗した場合、意図した SMB 接続 (SMB 共有設定で構成されているもの) にすぐにアクセスできません。このシナリオでは、15 分ごとに発生する次回の接続更新を待つ必要があります。

ワークスペース環境管理サービス 2306.1.0.1

- 「Citrix Workspace (StoreFront) リソース」タイプの特定のアプリケーション (SaaS アプリケーションなど) が、エージェントマシンで起動に失敗する場合があります。
- Windows イベントログに断続的に表示される次のエラーが表示されることがあります: `HostDirectoryServicesController.IsCurrentDomainReachable(): Checking domain status timed out`。WEM がドメインに到達可能であることを確認できないたびに、エラーが Windows イベントログに書き込まれます。WEM がポリシーを処理する際に、これらのチェックが必要です。この問題は WEM エージェントの機能には影響しません。
- 構成セットにテンプレートベースの GPO が多すぎる場合 (たとえば 10,000 個)、構成セットの復元が失敗する可能性があります。
- WEM エージェントが Windows Server 2022 で実行されている場合、特定のプロセスに適用するメモリ使用量制限が期待どおりに機能しない可能性があります。

ワークスペース環境管理サービス 2304.2.0.1

- 「Citrix Workspace (StoreFront) リソース」タイプの特定のアプリケーション (SaaS アプリケーションなど) が、エージェントマシンで起動に失敗する場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 2304.1.0.1

- 「Citrix Workspace (StoreFront) リソース」タイプの特定のアプリケーション (SaaS アプリケーションなど) が、エージェントマシンで起動に失敗する場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 2302.1.0.1

- 「Citrix Workspace (StoreFront) リソース」タイプの特定のアプリケーション (SaaS アプリケーションなど) が、エージェントマシンで起動に失敗する場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 2301.1.0.1

- レガシーコンソールで、**State** 列ヘッダーをクリックして並べ替えると、項目が期待どおりに並べ替えられません。
- レガシーコンソールで、バックアップウィザードを使用してグループポリシー設定をバックアップする際に、**Backup Actions** ボタンが使用できません。この問題は、構成セットに Web コンソールを使用して作成されたリソースが含まれていない場合でも発生します。

ワークスペース環境管理サービス 2211.1.0.1

- オフラインモードで実行している場合、エージェントは **Advanced Settings > File Shares** で構成した SMB 共有に接続できません。この問題はエージェントの機能には影響しません。

ワークスペース環境管理サービス 2210.2.0.1

- 以前のバックアップから設定を復元すると、ユーザーストア関連の資格情報で問題が発生します。
    - レガシーコンソールでは、資格情報に加えた変更を保存できません。
    - Webコンソールでは、復元された資格情報が**Advanced Settings > File Shares**に表示されません。
- Mozilla Firefoxブラウザでは、組み込みのスクリプトタスクCloud Health Checkがカスタムスクリプトタスクの上に表示されません。
- 次の2つの条件が両方とも満たされている場合、アプリケーションセキュリティルールが機能しません。
    - パブリッシャータイプの例外ルールである。
    - ファイルバージョンに「And above」または「And below」が選択されている。

ワークスペース環境管理サービス 2210.1.0.1

- 以前のバックアップから設定を復元すると、ユーザーストア関連の資格情報で問題が発生します。
  - レガシーコンソールでは、資格情報に加えた変更を保存できません。
  - Webコンソールでは、復元された資格情報が**Advanced Settings > File Shares**に表示されません。
- Mozilla Firefoxブラウザでは、組み込みのスクリプトタスクCloud Health Checkがカスタムスクリプトタスクの上に表示されません。

ワークスペース環境管理サービス 2208.1.0.1

- Webコンソールで、**Monitoring > Administration > User Statistics**の結果を絞り込むためにフィルター**Last logon**を使用すると、フィルターが期待どおりに機能しない場合があります。この問題は、終了日を指定しない場合に発生します。回避策として、フィルターを使用する際は終了日を指定してください。

ワークスペース環境管理サービス 2207.2.0.1

このリリースでは問題は確認されていません。

ワークスペース環境管理サービス 2207.1.0.1

このリリースでは問題は確認されていません。

ワークスペース環境管理サービス 2206.2.0.1

- Webコンソールで、次の種類のレジストリ操作を追加または編集しようとすると、失敗する可能性があります: `REG_QWORD` および `REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN`。この問題は、`9007199254740991` を超える10進値または `1FFFFFFFFFFFFF` を超える16進値を入力した場合に発生します。回避策として、代わりにレガシーコンソールを使用してください。

  Webコンソールを使用して、値が制限を超える2種類のレジストリ操作を編集すると、次のエラーメッセージが表示されます: **無効な値または形式**。このメッセージは無視できます。

ワークスペース環境管理サービス 2205.1.0.1

- VUEMRSAV.exe を使用して、現在のユーザーのアクショングループを介して適用されたアクションに関する結果を表示すると、**適用されたアクション**タブにアクションの誤ったソースが表示されることがあります。例: 2つのアクショングループ (`Group1` と `Group 2`) がユーザーに割り当てられ、`Group1` には `Application1` が含まれていました。**適用されたアク**

ションタブには、`Group2` に `Application1` が含まれていない場合でも、`Application1` が `Group2` からのものであると表示されることもあります。(デフォルトでは、VUEMRSAV.exe はエージェントのインストールフォルダーにあります: %ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMRSAV.exe。)

ワークスペース環境管理サービス 2204.2.0.1

- VUEMRSAV.exe を使用して、現在のユーザーのアクショングループを介して適用されたアクションに関する結果を表示すると、**適用されたアクション**タブにアクションの誤ったソースが表示されることがあります。例: 2つのアクショングループ (`Group1` と `Group 2`) がユーザーに割り当てられ、`Group1` には `Application1` が含まれていました。**適用されたアクション**タブには、`Group2` に `Application1` が含まれていない場合でも、`Application1` が `Group2` からのものであると表示されることもあります。(デフォルトでは、VUEMRSAV.exe はエージェントのインストールフォルダーにあります: %ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMRSAV.exe。)
- Microsoft AppLockerコンソールからエクスポートしたAppLockerルールをWEMにインポートすると、ハッシュタイプのルールはインポートできません。
- **レガシーコンソール > 割り当て > モデリングウィザード**を使用すると、ネストされたグループ内のユーザーの結果アクションを表示できない場合があります。この問題は、ユーザーがアクションまたはアクショングループが割り当てられているトップグループに存在しない場合に発生します。例: トップグループは `GroupA` で、`GroupB` はそのメンバーであり、`UserA` は `GroupB` にあります。アクションまたはアクショングループを `GroupA` に割り当てた場合、**モデリングウィザード**を使用して `UserA` の結果アクションを表示することはできません。

ワークスペース環境管理サービス 2204.1.0.1

- Microsoft AppLockerコンソールからエクスポートしたAppLockerルールをWEMにインポートすると、ハッシュタイプのルールはインポートできません。
- 自己昇格または特権昇格が無効になっている場合、ユーザーが環境で問題に遭遇していなくても、WEMエージェントは次のエラーをWindowsイベントログに書き込むことがあります: `System.ArgumentException: Cannot delete a subkey tree because the subkey does not exist`。

ワークスペース環境管理サービス 2203.2.0.1

- 自己昇格ルールを別の構成セットに復元しようとすると、失敗する可能性があります。

ワークスペース環境管理サービス 2201.2.0.1

- Windows 10およびWindows 11マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定など、特定の機能が機能しない場合があります。
- 自己昇格ルールを別の構成セットに復元しようとすると、失敗する可能性があります。

ワークスペース環境管理サービス 2201.1.0.1

- Windows 10およびWindows 11マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定など、特定の機能が機能しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 2110.2.0.1

- Windows 10およびWindows 11マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定など、特定の機能が機能しない場合があります。
- **管理コンソール > ポリシーとプロファイル > Microsoft USV 設定 > フォルダーリダイレクト**タブで、**AppData (Roaming) のリダイレクト**と**ローカルでリダイレクトされたフォルダーの削除**の両方が有効になっている場合、WEMエージェントは次の設定を適用できません。
  - **連絡先のリダイレクト**
  - **ダウンロードのリダイレクト**
  - **リンクのリダイレクト**
  - **検索のリダイレクト**
- 2103以降にアップグレードした後、ユーザーが環境で問題に遭遇しなくても、WEMエージェントは5分ごとにWindowsイベントログにエラーを書き込む可能性があります。

ワークスペース環境管理サービス 2110.1.0.1

- Windows 10 および Windows 11 マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定など、特定の機能が動作しない場合があります。
- Windows Update がエージェントホストに KB5005033 をインストールした後、割り当てられたプリンターが機能しません。この問題は、更新プログラムによって Windows Print Spooler サービスの自動起動が妨げられるために発生します。回避策として、サービスを手動で開始してください。
- Windows Server 2022 にアップグレードした後、WEM インフラストラクチャサービスが応答しなくなることがあります。回避策として、インフラストラクチャサービスを再インストールし、WEM データベースに接続するように構成してください。

- 2103 以降にアップグレードすると、ユーザーが環境で問題に遭遇していなくても、WEM エージェントが 5 分ごとに Windows イベントログにエラーを書き込むことがあります。
- 環境設定を保存するために **適用** をクリックすると、管理コンソールが予期せず終了する場合があります。この問題は、**環境設定 > スタートメニュー > 壁紙の設定** の **スタイル** 設定が空のままになっているために発生します。(以前に **スタイル** を **塗りつぶし** または **フィット** に設定していた場合、管理コンソールをバージョン 2109 にアップグレードした後、設定が空になりました。) 回避策: **スタイル** 設定を空のままにしないでください。

ワークスペース環境管理サービス 2109.2.0.1

- Windows 10 および Windows 11 マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定など、特定の機能が動作しない場合があります。
- Windows Update がエージェントホストに KB5005033 をインストールした後、割り当てられたプリンターが機能しません。この問題は、更新プログラムによって Windows Print Spooler サービスの自動起動が妨げられるために発生します。回避策として、サービスを手動で開始してください。
- Windows Server 2022 にアップグレードした後、WEM インフラストラクチャサービスが応答しなくなることがあります。回避策として、インフラストラクチャサービスを再インストールし、WEM データベースに接続するように構成してください。
- 環境設定を保存するために **適用** をクリックすると、管理コンソールが予期せず終了する場合があります。この問題は、**環境設定 > スタートメニュー > 壁紙の設定** の **スタイル** 設定が空のままになっているために発生します。(以前に **スタイル** を **塗りつぶし** または **フィット** に設定していた場合、管理コンソールをバージョン 2109 にアップグレードした後、設定が空になりました。) 回避策: **スタイル** 設定を空のままにしないでください。

ワークスペース環境管理サービス 2107.2.0.1

- 32 ビット実行可能ファイルに特権昇格を適用すると、64 ビット Windows オペレーティングシステムを実行しているマシンで実行可能ファイルの特権が正常に昇格されます。ただし、実行可能ファイルルールで **子プロセスに適用** 設定が選択されているかどうかにかかわらず、その子プロセスは自動的に特権を継承します。
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の機能が動作しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 2107.1.0.1

- `[ADAttribute:objectSid]` 動的トークンを使用して `objectsid` 属性を抽出すると、WEM エージェントは対応する AD オブジェクトの属性を抽出できません。

- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の設定が機能しない場合があります。

ワークスペース エンバイロメント マネジメント サービス 2106.2.0.1

- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の設定が機能しない場合があります。

ワークスペース エンバイロメント マネジメント サービス 2105.1.0.1

- フィルターに基づいてユーザーにプリンターを割り当て、その割り当てがフィルター条件を満たしている場合、WEM エージェントはユーザーにプリンターを割り当てます。ただし、次回ユーザーがログオンしたときに、割り当てがその時点でフィルター条件を満たしていなくても、エージェントは引き続きユーザーにプリンターを割り当てます。
- アクショングループを介してユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てた場合、管理コンソールで **Disabled** に設定されていても、そのアクションは引き続き有効になります。
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の設定が機能しない場合があります。

ワークスペース エンバイロメント マネジメント サービス 2104.1.0.1

- フィルターに基づいてユーザーにプリンターを割り当て、その割り当てがフィルター条件を満たしている場合、WEM エージェントはユーザーにプリンターを割り当てます。ただし、次回ユーザーがログオンしたときに、割り当てがその時点でフィルター条件を満たしていなくても、エージェントは引き続きユーザーにプリンターを割り当てます。
- ファイルシステム操作アクションを割り当てて後でアクションを更新すると、以前にユーザー環境にコピーされたファイルまたはフォルダーが削除される可能性があります。この問題は、アクションを更新した後、WEM エージェントが以前に行われた割り当てを元に戻すために発生します。
- **Advanced Settings > Configuration > Main Configuration** タブで **Agent Type** を **CMD** に設定すると、**Monitoring > Daily Reports > Daily Login Report** タブに、現在の構成セットに接続されているすべてのユーザーのログオン時間の概要が表示されない場合があります。
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の設定が機能しない場合があります。

ワークスペース エンバイロメント マネジメント サービス 2103.2.0.1

- 公開アプリケーションセッションの起動時または切断時に、ログオンの遅延やセッション切断の遅延などのパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。この問題は、WEM エージェント 2005 以降で発生します。
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の設定が機能しない場合があります。

ワークスペース エンバイロメント マネジメント サービス 2101.2.0.1

- ログレベルの変更をすぐに有効にするために、WEMエージェントが特定のレジストリキーに頻繁にアクセスし、パフォーマンスに影響を与える可能性があります。
- 複数のユーザーまたはユーザーグループに割り当てられているアクショングループを、特定のユーザーまたはユーザーグループから割り当て解除すると、割り当てが期待どおりに機能しない場合があります。たとえば、アクショングループを2つのユーザーグループ（**グループA**と**グループB**）に割り当てたとします。**グループA**からアクショングループの割り当てを解除すると、**グループA**ではなく**グループB**からアクショングループの割り当てが解除されます。
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の設定が機能しない場合があります。

ワークスペース エンバイロメント マネジメント サービス 2101.1.0.1

- アプリケーションセキュリティ機能を使用している場合、**Edit Rule**または**Add Rule**ウィンドウの**Assignments**セクションの**Assigned**列で、ユーザーまたはユーザーグループの横に緑色のチェックマークが表示されます。緑色のチェックマークアイコンは、必ずしもそのユーザーまたはユーザーグループにルールが割り当てられていることを示すものではありません。ルールが割り当てられているのは、背景が青色のユーザーまたはユーザーグループのみです。
- 特権昇格機能が正常に動作しない場合があります。この問題は、WEMエージェントのバージョン**2010.2.0.1**、**2011.1.0.1**、および**2101.1.0.1**で発生します。この問題は、Citrix WEMソフトウェアの署名に使用された証明書の有効期限が切れているために発生します。この問題を回避するには、関連するWEMエージェントをアンインストールし、最新のWEMエージェントをインストールしてから、エージェントホストを再起動します。
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の設定が機能しない場合があります。

ワークスペース エンバイロメント マネジメント サービス 2011.1.0.1

- アプリケーションセキュリティ機能を使用している場合、**Edit Rule**または**Add Rule**ウィンドウの**Assignments**セクションの**Assigned**列で、ユーザーまたはユーザーグループの横に緑色

のチェックマークが表示されます。緑色のチェックマークアイコンは、必ずしもそのユーザーまたはユーザーグループにルールが割り当てられていることを示すものではありません。ルールが割り当てられているのは、背景が青色でハイライト表示されているユーザーまたはユーザーグループのみです。

- 特権昇格機能が正常に動作しない場合があります。この問題は、WEMエージェントのバージョン**2010.2.0.1**および**2011.1.0.1**で発生します。この問題は、Citrix WEMソフトウェアの署名に使用された証明書の有効期限が切れているために発生します。この問題を回避するには、関連するWEMエージェントをアンインストールし、最新のWEMエージェントをインストールしてから、エージェントホストを再起動します。
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の設定が機能しない場合があります。

ワークスペース エンバイロメント マネジメント サービス 2010.2.0.1

- WEMエージェントをバージョン1912にアップグレードすると、**Citrix WEM Agent Host Service**のメモリ消費量が2Gを超える場合があります。デバッグモードが有効になっている場合、**Citrix WEM Agent Host Service Debug.log**ファイルに次のメッセージが何度も表示されることがあります。
  - **DBライターキューに履歴エントリを追加しています**
  - **プロセス のプロセス制限スレッドを初期化しています**
- WEMエージェントをバージョン2005にアップグレードした後、**Citrix WEM Agent Host Service**がCPUリソース全体の10%から30%を消費し、ユーザーエクスペリエンスに影響を与える可能性があります。
- アプリケーションセキュリティ機能を使用している場合、**Edit Rule**または**Add Rule**ウィンドウの**Assignments**セクションの**Assigned**列で、ユーザーまたはユーザーグループの横に緑色のチェックマークが表示されます。この緑色のチェックマークアイコンは、必ずしもそのルールがそのユーザーまたはユーザーグループに割り当てられていることを示すものではありません。ルールが割り当てられているのは、背景が青色でハイライトされているユーザーまたはユーザーグループのみです。
- **Import from Registry File**ウィンドウでレジストリファイルを選択した後、**ESC**キーを押してウィンドウを終了し、**Yes**をクリックすると、**Manage**タブに黒い画面が表示されます。
- 特権昇格機能が正常に動作しない場合があります。この問題はWEMエージェントバージョン2010.2.0.1で発生します。この問題は、Citrix WEMソフトウェアの署名に使用された証明書の有効期限が切れているために発生します。この問題を回避するには、関連するWEMエージェ

ントをアンインストールし、最新のWEMエージェントをインストールしてから、エージェントホストを再起動してください。

- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の機能が機能しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 2010.1.0.1

- WEMエージェントをバージョン1912にアップグレードした後、**Citrix WEM Agent Host Service**のメモリ消費量が2Gを超える場合があります。デバッグモードが有効になっている場合、**Citrix WEM Agent Host Service Debug.log**ファイルに次のメッセージが何度も表示されることがあります。
  - **DBライターキューに履歴エントリを追加しています**
  - **プロセス のプロセス制限スレッドを初期化しています**
- WEMエージェントをバージョン2005にアップグレードした後、**Citrix WEM Agent Host Service**がCPUリソース全体の10%から30%を消費し、ユーザーエクスペリエンスに影響を与える可能性があります。
- アプリケーションセキュリティ機能を使用している場合、**Edit Rule**または**Add Rule**ウィンドウの**Assignments**セクションの**Assigned**列で、ユーザーまたはユーザーグループの横に緑色のチェックマークが表示されます。この緑色のチェックマークアイコンは、必ずしもそのルールがそのユーザーまたはユーザーグループに割り当てられていることを示すものではありません。ルールが割り当てられているのは、背景が青色でハイライトされているユーザーまたはユーザーグループのみです。
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の機能が機能しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 2009.1.0.1

- WEMエージェントをバージョン1912にアップグレードした後、**Citrix WEM Agent Host Service**のメモリ消費量が2Gを超える場合があります。デバッグモードが有効になっている場合、**Citrix WEM Agent Host Service Debug.log**ファイルに次のメッセージが何度も表示されることがあります。
  - **DBライターキューに履歴エントリを追加しています**
  - **プロセスのプロセス制限スレッドを初期化しています**

- WEMエージェントをバージョン2005にアップグレードした後、**Citrix WEM Agent Host Service**がCPUリソース全体の10%から30%を消費し、ユーザーエクスペリエンスに影響を与える可能性があります。
- WEM管理コンソールは、インストールされているアプリケーションの作業ディレクトリに対して行った変更を、次回アプリケーションを編集するときに表示できない場合があります。
- 非永続環境では、管理コンソールを通じて行った変更がエージェントホストに適用されない場合があります。この問題は、ベースイメージ内のエージェントキャッシュファイルがキャッシュ同期の問題を引き起こす可能性があるために発生します。回避策として、ユーザーはまずエージェントホスト上のキャッシュを削除し、その後手動でキャッシュを更新して、インフラストラクチャサービスとキャッシュを同期する必要があります。

  エージェントキャッシュには永続的な場所を使用することが推奨されるベストプラクティスです。エージェントキャッシュが非永続的な場所にある場合は、ベースイメージをシールする前に以下の手順を実行してください。

  a. **Citrix WEM Agent Host Service**を停止します。
  b. これらのエージェントローカルデータベースファイル（**LocalAgentCache.db**および**LocalAgentDatabase.db**）を削除します。

- 以下のオプションは相互に排他的ではありません。ただし、管理コンソールでは同時に設定することはできません。
  - **エクスプローラーから指定されたドライブを非表示にする** および **エクスプローラーから指定されたドライブを制限する** （**ポリシーとプロファイル > 環境設定 > Windowsエクスプローラー** タブ）
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで設定した環境設定やその他の特定の設定が機能しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 2008.1.0.1

- Windows 10マシンでは、管理コンソールで設定した環境設定やその他の特定の設定が機能しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 2007.2.0.1

- デフォルトのパッケージ化されたルールを編集する際、「**ルールの編集**」ウィンドウの「**発行元**」タブで有効な値を入力するように求められ、「**OK**」ボタンがグレー表示されます。しかし、後で「**発行元**」タブに有効な値を入力しても、「**OK**」ボタンはグレー表示されたままになります。

- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定およびその他の特定の機能が動作しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 2007.1.0.1

- グループポリシー設定をWEMにインポートし終えると、管理コンソールを使用している管理者があなた一人であっても、以下のメッセージが表示されることがあります。
    - 構成変更の更新: 管理者が構成関連の変更を行いました。現在の管理コンソールに変更を反映するには、OKをクリックしてください。
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定およびその他の特定の機能が動作しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 2006.2.0.1

- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定およびその他の特定の機能が動作しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 2006.1.0.1

- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定およびその他の特定の機能が動作しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 2005.1.0.1

- Transformer (キオスク) モードで、**ウィンドウモードを有効にする**が有効になっている場合、WEMエージェントが予期せず終了することがあります。
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定およびその他の特定の機能が動作しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 2004.1.0.1

- エージェントUIの**マイアプリケーション**アイコンリストからアプリケーションを起動しようとすると、失敗する場合があります。この問題は、StoreFront URLを使用して作成されたアプリケーションショートカットで発生します。
- エージェントがCitrix CloudのWEMサービスと同期できない場合があります。この問題は、エージェントがサービスと通信する方法を定義するためにHTTPSプロキシを構成した場合に発生します。
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の機能が動作しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 2002.1.0.1

- エージェントホストで、公開アプリケーションをアプリケーションショートカットとして起動しようとすると失敗する場合があります。この問題は、StoreFront URLを使用して作成されたアプリケーションショートカットで発生します。
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の機能が動作しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 2001.1.0.1

- WEMサービス管理コンソールの**Active Directoryオブジェクト**タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。マシンリストにマシンの新しい名前を表示するには、マシンリストからマシンを手動で削除し、再度追加する必要があります。
- レジストリエントリをアクショングループを介してユーザーまたはユーザーグループに割り当てた場合、有効にならないことがあります。ただし、直接割り当てた場合は有効になります。この問題は、レジストリエントリを以下のいずれかの場所に作成するように割り当てた場合に発生します。
  - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Policies
  - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies
- Workspaceエージェントの更新に時間がかかる場合があります。この問題は、現在のユーザーが多数のユーザーグループに属しており、エージェントが処理するアクショングループまたは多数のアクションがある場合に発生します。
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の機能が動作しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 1911.1.0.1

- WEMサービス管理コンソールの**Active Directoryオブジェクト**タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。マシンリストにマシンの新しい名前を表示するには、マシンリストからマシンを手動で削除し、再度追加する必要があります。
- レジストリエントリをアクショングループを介してユーザーまたはユーザーグループに割り当てた場合、有効にならないことがあります。ただし、直接割り当てた場合は有効になります。この問題は、レジストリエントリを以下のいずれかの場所に作成するように割り当てた場合に発生します。

- %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Policies
- %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies

- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の機能が動作しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 1910.1.0.1

- WEMサービス管理コンソールの**Active Directoryオブジェクト**タブに表示されるエージェントホストマシンの名前は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。マシンリストに新しいマシン名を表示するには、マシンをマシンリストから手動で削除し、再度追加する必要があります。
- 復元するADオブジェクトの種類として**マシン**を選択し、**次へ**をクリックした後、復元ウィザードでActive Directory (AD) オブジェクトの読み込みに時間がかかる場合があります。この問題は、多数のOU（例: 4,000個）が存在する場合に発生します。
- アクショングループを介してユーザーまたはユーザーグループにレジストリエントリを割り当てた場合、レジストリエントリが有効にならない場合があります。ただし、直接割り当てた場合は有効になります。この問題は、レジストリエントリを次のいずれかの場所に作成するように割り当てた場合に発生します。
  - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Policies
  - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies
- **管理コンソール > 詳細設定 > 構成 > エージェントオプション**タブの**オンライン時でもキャッシュを使用**オプションが機能しない場合があります。
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の機能が動作しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 1908.2.0.1

- WEMサービス管理コンソールの**Active Directoryオブジェクト**タブに表示されるエージェントホストマシンの名前は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。マシンリストに新しいマシン名を表示するには、マシンをマシンリストから手動で削除し、再度追加する必要があります。
- オンプレミスのWEMデータベースをWEMサービスに移行した後、最新バージョンがマシンにインストールされている場合でも、WEMサービスエージェントを再インストールする必要が

あります。これは、WEMサービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュがWEMサービスデータベースと同期できないためです。

- Transformer (キオスク) モードで、ログオフ画面のリダイレクトが有効になっている場合、WEMはログオフ後にユーザーをログオンページにリダイレクトできない場合があります。
- 「復元ウィザード」で、復元するADオブジェクトのタイプとして**「マシン」を選択し、「次へ」**をクリックした後、Active Directory (AD) オブジェクトの読み込みに時間がかかる場合があります。この問題は、OUが多数（例: 4,000個）ある場合に発生します。
- レジストリエントリをアクショングループを介してユーザーまたはユーザーグループに割り当てた場合、レジストリエントリが有効にならないことがあります。ただし、直接割り当てた場合は有効になります。この問題は、レジストリエントリを次のいずれかの場所に作成するように割り当てた場合に発生します。
  - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Policies
  - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定のオプションが機能しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 1908.1.0.1

- WEMサービス管理コンソールの****タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。マシンリストに新しいマシン名を表示するには、マシンリストからマシンを手動で削除し、再度追加する必要があります。
- 管理コンソールの**タブで、と**を使用してオブジェクトを検索および追加する場合、一度に追加できるオブジェクトは1つだけです。別のオブジェクトを追加するには、ダイアログを閉じてから再度開く必要があります。（Workspace Environment Management™のオンプレミスバージョンでは、ダイアログを毎回閉じなくても複数のオブジェクトを識別して追加できます。）
- オンプレミスのWEMデータベースをWEMサービスに移行した後、最新バージョンがマシンにインストールされている場合でも、WEMサービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、WEMサービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュがWEMサービスデータベースと同期できないためです。
- Transformer (キオスク) モードで、ログオフ画面のリダイレクトが有効になっている場合、WEMはログオフ後にユーザーをログオンページにリダイレクトできないことがあります。

- 「復元ウィザード」で、復元するADオブジェクトのタイプとして**「マシン」を選択し、「次へ」**をクリックした後、Active Directory (AD) オブジェクトの読み込みに時間がかかる場合があります。この問題は、OUが多数（例: 4,000個）ある場合に発生します。
- レジストリエントリをアクショングループを介してユーザーまたはユーザーグループに割り当てた場合、レジストリエントリが有効にならないことがあります。ただし、直接割り当てた場合は有効になります。この問題は、レジストリエントリを次のいずれかの場所に作成するように割り当てた場合に発生します。
  - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Policies
  - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定のオプションが機能しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 1907.2.0.1

- WEMサービス管理コンソールの**Active Directoryオブジェクト**タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。マシンリストにマシンの新しい名前を表示するには、マシンをマシンリストから手動で削除し、再度追加する必要があります。
- 管理コンソールの**Active Directoryオブジェクト**タブで、**オブジェクトの追加**と**名前の確認**を使用してオブジェクトを検索および追加する場合、一度に1つのオブジェクトしか追加できません。別のオブジェクトを追加するには、 ダイアログを閉じてから再度開く必要があります。(Workspace Environment Management のオンプレミスバージョンでは、ダイアログを毎回閉じずに複数のオブジェクトを識別して追加できます。)
- オンプレミスのWEMデータベースをWEMサービスに移行した後、マシンに最新バージョンがインストールされている場合でも、WEMサービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、WEMサービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュがWEMサービスデータベースと同期できないためです。
- Transformer (キオスク) モードで、ログオフ画面のリダイレクトが有効になっている場合、WEMはログオフ後にユーザーをログオンページにリダイレクトできない場合があります。
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の機能が動作しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 1907.1.0.1

- Windows Server 2012 R2にインストールされているAdobe Readerのインスタンスは、Workspace Environment ManagementがPDFファイルを他のPDFリーダーアプリケーションと関連付けるのを妨げます。ユーザーはPDFを開くたびにPDFリーダーアプリケーションを選択する必要があります。
- WEMサービス管理コンソールの**Active Directoryオブジェクト**タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。マシンリストにマシンの新しい名前を表示するには、マシンをマシンリストから手動で削除し、再度追加する必要があります。
- 管理コンソールの**Active Directoryオブジェクト**タブで、**オブジェクトの追加**と**名前の確認**を使用してオブジェクトを検索および追加する場合、一度に1つのオブジェクトしか追加できません。別のオブジェクトを追加するには、 ダイアログを閉じてから再度開く必要があります。(Workspace Environment Management のオンプレミスバージョンでは、ダイアログを毎回閉じずに複数のオブジェクトを識別して追加できます。)
- オンプレミスのWEMデータベースをWEMサービスに移行した後、マシンに最新バージョンがインストールされている場合でも、WEMサービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、WEMサービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュがWEMサービスデータベースと同期できないためです。
- Transformer (キオスク) モードで、ログオフ画面のリダイレクトが有効になっている場合、WEMはログオフ後にユーザーをログオンページにリダイレクトできない場合があります。
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の機能が動作しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 1906

- Windows Server 2012 R2にインストールされているAdobe Readerのインスタンスは、Workspace Environment ManagementがPDFファイルを他のPDFリーダーアプリケーションと関連付けるのを妨げます。ユーザーはPDFを開くたびにPDFリーダーアプリケーションを選択する必要があります。
- WEMサービス管理コンソールの**Active Directoryオブジェクト**タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。マシンリストにマシンの新しい名前を表示するには、マシンをマシンリストから手動で削除し、再度追加する必要があります。
- 管理コンソールの**Active Directoryオブジェクト**タブで、**オブジェクトの追加**と**名前の確認**を使用してオブジェクトを検索および追加する場合、一度に追加できるオブジェクトは1つだけです。別のオブジェクトを追加するには、ダイアログを閉じてから再度開く必要があります。

(Workspace Environment Managementのオンプレミスバージョンでは、ダイアログを毎回閉じなくても複数のオブジェクトを識別して追加できます。)

- オンプレミスのWEMデータベースをWEMサービスに移行した後、最新バージョンがマシンにインストールされている場合でも、WEMサービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、WEMサービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュがWEMサービスデータベースと同期できないためです。
- Transformer (キオスク) モードで、ログオフ画面のリダイレクトが有効になっている場合、WEMはログオフ後にユーザーをログオンページにリダイレクトできないことがあります。
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の機能が機能しない場合があります。

ワークスペース エンバイロメント マネジメント サービス 1904

- Windows Server 2012 R2にインストールされているAdobe Readerのインスタンスは、Workspace Environment ManagementがPDFファイルを他のPDFリーダーアプリケーションと関連付けるのを妨げます。ユーザーはPDFを開くたびにPDFリーダーアプリケーションを選択することを余儀なくされます。
- WEMサービス管理コンソールの**Active Directoryオブジェクト**タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。マシンリストにマシンの新しい名前を表示するには、マシンをマシンリストから手動で削除し、再度追加する必要があります。
- 管理コンソールの**Active Directoryオブジェクト**タブで、**オブジェクトの追加**と**名前の確認**を使用してオブジェクトを検索および追加する場合、一度に追加できるオブジェクトは1つだけです。別のオブジェクトを追加するには、ダイアログを閉じてから再度開く必要があります。(Workspace Environment Managementのオンプレミスバージョンでは、ダイアログを毎回閉じなくても複数のオブジェクトを識別して追加できます。)
- オンプレミスのWEMデータベースをWEMサービスに移行した後、最新バージョンがマシンにインストールされている場合でも、WEMサービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、WEMサービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュがWEMサービスデータベースと同期できないためです。
- Transformer (キオスク) モードで、ログオフ画面のリダイレクトが有効になっている場合、WEMはログオフ後にユーザーをログオンページにリダイレクトできないことがあります。
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の機能が機能しない場合があります。

ワークスペース エンバイロメント マネジメント サービス 1812.1.0.1

- Windows Server 2012 R2にインストールされているAdobe Readerのインスタンスは、Workspace Environment ManagementがPDFファイルを他のPDFリーダーアプリケーションと関連付けるのを妨げます。ユーザーはPDFを開くたびにPDFリーダーアプリケーションを選択することを余儀なくされます。
- WEMサービス管理コンソールの**Active Directoryオブジェクト**タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。マシンリストにマシンの新しい名前を表示するには、マシンをマシンリストから手動で削除し、再度追加する必要があります。
- 管理コンソールの**Active Directory Objects**タブで、**Add Object**と**Check Name**を使用してオブジェクトを検索および追加する場合、一度に追加できるオブジェクトは1つだけです。別のオブジェクトを追加するには、ダイアログを閉じてから再度開く必要があります。(Workspace Environment Managementのオンプレミスバージョンでは、ダイアログを毎回閉じなくても複数のオブジェクトを識別して追加できます。)
- オンプレミスのWEMデータベースをWEMサービスに移行した後、最新バージョンがマシンにインストールされている場合でも、WEMサービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、WEMサービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュがWEMサービスデータベースと同期できないためです。
- Transformer (キオスク) モードで、ログオフ画面のリダイレクトが有効になっている場合、WEMはログオフ後にユーザーをログオンページにリダイレクトできないことがあります。
- **Administration Console \> Monitoring \> User Trends \> Devices Types**タブでまたはをクリックすると、レポートを表示できない場合があります。代わりに、**Administration Console \> Actions \> Applications \> Application List**タブに戻されます。
- Windows 10バージョン1809およびWindows Server 2019では、Workspace Environment Managementはアプリケーションをタスクバーにピン留めできません。
- WEMが最新バージョンにアップグレードされた後、以前のバージョンのエージェントを使い続けている場合、エージェントはオフラインモードで正常に動作しません。この問題は、最新リリースでのエージェントローカルキャッシュファイルのスコープ変更が原因で発生します。回避策として、古いエージェントローカルキャッシュファイルを削除し、WEM Agent Host Service (Norskale Agent Host service) を再起動してください。
- 管理コンソールのタブで、ファイルハッシュ条件を使用して.exeまたは.dll拡張子を持つファイルのAppLockerルールを作成しても、そのルールは機能しません。この問題は、WEMがそのファイルのハッシュコードを誤って計算するため発生します。

- 管理コンソールのタブで、発行元条件を使用してファイルのAppLockerルールを作成しても、そのルールは機能しません。この問題は、WEMがファイル名を誤って解決するため発生します。
- 管理コンソールで**Add OU**をクリックすると、WEMが**Organizational Units**ウィンドウに何も表示しない場合があります。この問題は、フォレスト (現在または信頼済み) に多数のOUが含まれている場合に発生します。回避策として、**Cancel**をクリックしてから**Add OU**を複数回クリックする必要がある場合があります。
- アプリケーションセキュリティ機能は、英語以外のWindowsオペレーティングシステムを使用するWindowsサーバーでは機能しません。この問題は、WEMが英語以外の言語環境でApplication Identityサービスを開始できないために発生します。
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定のオプションが機能しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 1812.0.0.1

- Windows Server 2012 R2にインストールされているAdobe Readerのインスタンスは、Workspace Environment ManagementがPDFファイルを他のPDFリーダーアプリケーションと関連付けるのを妨げます。ユーザーはPDFを開くたびにPDFリーダーアプリケーションを選択することを余儀なくされます。
- WEMサービス管理コンソールの**Active Directory Objects**タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。マシンリストに新しいマシン名を表示するには、マシンをマシンリストから手動で削除し、再度追加する必要があります。
- 管理コンソールの**Active Directory Objects**タブで、**Add Object**と**Check Name**を使用してオブジェクトを検索および追加する場合、一度に追加できるオブジェクトは1つだけです。別のオブジェクトを追加するには、ダイアログを閉じてから再度開く必要があります。(Workspace Environment Managementのオンプレミスバージョンでは、ダイアログを毎回閉じなくても複数のオブジェクトを識別して追加できます。)
- オンプレミスのWEMデータベースをWEMサービスに移行した後、最新バージョンがマシンにインストールされている場合でも、WEMサービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、WEMサービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュがWEMサービスデータベースと同期できないためです。
- Transformer (キオスク) モードで、ログオフ画面のリダイレクトが有効になっている場合、WEMはログオフ後にユーザーをログオンページにリダイレクトできないことがあります。
- **Administration Console \> Monitoring \> User Trends \> Devices Types**タブで「Apply Filter」または「Refresh Report」をクリックすると、レポートを表示できない場合がありま

す。代わりに、**Administration Console \> Actions \> Applications \> Application List**タブに戻されます。

- Windows 10バージョン1809およびWindows Server 2019では、Workspace Environment Managementはアプリケーションをタスクバーにピン留めできません。
- WEMが最新バージョンにアップグレードされた後、以前のバージョンのエージェントをまだ使用している場合、エージェントはオフラインモードで正常に動作しません。この問題は、最新リリースでのエージェントローカルキャッシュファイルのスコープ変更が原因で発生します。回避策として、古いエージェントローカルキャッシュファイルを削除し、WEM Agent Host Service (Norskale Agent Host service) を再起動してください。
- 管理コンソールの「Security」タブで、ファイルハッシュ条件を使用して.exeまたは.dll拡張子を持つファイルのAppLockerルールを作成しても、そのルールは機能しません。この問題は、WEMがそのファイルのハッシュコードを誤って計算するため発生します。
- 管理コンソールの「Security」タブで、発行元条件を使用してファイルのAppLockerルールを作成しても、そのルールは機能しません。この問題は、WEMがファイル名を誤って解決するため発生します。
- **Assign Filter & Drive Letter**ウィンドウで、ネットワークドライブのドライブ文字として文字「#」を選択すると、ユーザーへのネットワークドライブのマッピングが失敗します。この問題は、WEMが現在「#」を使用してネットワークドライブにランダムな文字を割り当てることをサポートしていないために発生します。
- WEMデータベースをWEMサービスに移行しようとすると失敗する場合があります。この問題は、オンプレミスのWEMデータベースのVUEMTasksHistoryテーブルのエントリに特殊文字が含まれている場合に発生します。回避策として、オンプレミスのWEMデータベースからそれらのエントリを削除し、移行プロセスを再開してください。
- 管理コンソールで**Add OU**をクリックすると、WEMが**Organizational Units**ウィンドウに何も表示しない場合があります。この問題は、フォレスト（現在または信頼済み）に多数のOUが含まれている場合に発生します。回避策として、**Cancel**をクリックしてから**Add OU**を複数回クリックする必要がある場合があります。
- アプリケーションセキュリティ機能は、英語以外のWindowsオペレーティングシステムを使用するWindowsサーバーでは機能しません。この問題は、WEMが英語以外の言語環境でApplication Identityサービスを開始できないために発生します。
- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の機能が機能しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 1811

Workspace Environment Managementサービスには、次の問題が含まれています。

- Windows Server 2012 R2にインストールされているAdobe Readerのインスタンスは、Workspace Environment ManagementがPDFファイルを他のPDFリーダーアプリケーションと関連付けるのを妨げます。ユーザーはPDFを開くたびにPDFリーダーアプリケーションを選択することを余儀なくされます。
- Internet Explorer 11 (IE11) または Microsoft Edge を使用して Workspace Environment Management サービス管理コンソールを開き、開発者ツールペイン (F12) を開いた後、開発者ツールペインを閉じると、管理コンソールが元のサイズに再描画されません。この問題が発生した場合は、ブラウザウィンドウを更新して管理コンソールを正しく再描画してください。
- WEM サービス管理コンソールの **Active Directory オブジェクト** タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。マシンリストに新しいマシン名を表示するには、マシンをマシンリストから手動で削除し、再度追加する必要があります。
- 管理コンソールの **Active Directory オブジェクト** タブで、**オブジェクトの追加** と **名前の確認** を使用してオブジェクトを検索および追加する場合、一度に追加できるオブジェクトは1つだけです。別のオブジェクトを追加するには、 ダイアログを閉じてから再度開く必要があります。(Workspace Environment Management のオンプレミスバージョンでは、ダイアログを毎回閉じなくても複数のオブジェクトを識別して追加できます。)
- オンプレミスの WEM データベースを WEM サービスに移行した後、最新バージョンがマシンにインストールされている場合でも、WEM サービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、WEM サービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュが WEM サービスデータベースと同期できないためです。
- Workspace Environment Management サービスの **管理** タブから管理コンソールにアクセスしようとすると失敗します。回避策として、ブラウザウィンドウを更新して再試行してください。
- Windows 7 Service Pack 1、Windows 2008 R2 Service Pack 1、または Windows Server 2008 Service Pack 2 で UpmConfigCheck スクリプトを実行しようとすると失敗します。これらのオペレーティングシステムでスクリプトを実行するには、Windows Management Framework 3.0 を手動でインストールする必要があります。Windows Management Framework 3.0 をインストールしても UpmConfigCheck が機能しない場合は、WEM エージェントホストサービス (Norskale Agent Host Service) を再起動してください。
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定やその他の特定の設定が機能しない場合があります。

ワークスペース環境管理サービス 1807

Workspace Environment Management サービスには、以下の問題が含まれています。

- Windows Server 2012 R2 で Adobe Acrobat Reader がインストールされている場合、Workspace Environment Management が PDF ファイルを他の PDF リーダーアプリケーションに関連付けるのを妨げます。ユーザーは PDF を開くたびに PDF リーダーアプリケーションを選択することを余儀なくされます。
- セキュリティタブで、**DLL ルールの処理** オプションをオフにすると、「DLL ルール」コレクションの横に報告されるルールカウントは、WEM データベース内の実際の数に関係なくゼロに設定されます。
- Windows サーバー OS マシンで複数セッションサポートが有効になっている場合、以前にログオンしたユーザーのアプリケーションセキュリティルールは、より最近ログオンしたユーザーのルールに置き換えられます。たとえば、ルールが user1 に割り当てられているが user2 には割り当てられていない場合、user2 がログオンすると、そのルールはローカルの AppLocker ルールから削除されます。したがって、user1 に対してもルールを適用できなくなります。
- Internet Explorer 11 (IE11) または Microsoft Edge を使用して Workspace Environment Management サービス管理コンソールを開き、開発者ツールペイン (F12) を開いた後、開発者ツールペインを閉じると、管理コンソールが元のサイズに再描画されません。この問題が発生した場合は、ブラウザウィンドウを更新して管理コンソールを正しく再描画してください。
- WEM サービス管理コンソールの **Active Directory オブジェクト** タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。マシンリストに新しいマシン名を表示するには、マシンをマシンリストから手動で削除し、再度追加する必要があります。
- Workspace Environment Management (WEM) のオンプレミスバージョンでは、Active Directory セキュリティグループを WEM エージェントのコンテナとして使用できます。ただし、WEM サービスは Active Directory セキュリティグループをエージェントコンテナとして使用することをサポートしていません。オンプレミスインフラストラクチャサービスは、直接および間接 OU をエージェントコンテナとして使用することもサポートしています。ただし、WEM サービスは間接 OU をサポートしていません。たとえば、WEM エージェント AGENT1 が OU2 に属し、OU2 が OU1 に属している場合 (OU1>OU2>AGENT1)、オンプレミスインフラストラクチャサービスは AGENT1 を OU1 と OU2 の両方のメンバーとして認識しますが、WEM サービスは AGENT1 を OU2 のメンバーとしてのみ認識します。
- 管理コンソールのActive Directoryオブジェクトタブで、**「オブジェクトの追加」**と**「名前の確認」**を使用してオブジェクトを検索および追加する場合、一度に1つのオブジェクトしか追加できません。別のオブジェクトを追加するには、「コンピューターまたはグループの選択」ダイアログを閉じてから再度開く必要があります。(Workspace Environment Managementのオンプレミスバージョンでは、ダイアログを毎回閉じなくても複数のオブジェクトを識別して追加できます。)

- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定およびその他の特定の構成が機能しない場合があります。

システム要件

ソフトウェアの前提条件

Citrix Cloud Connector。このコンポーネントは、Workspace Environment Management サービスエージェントをインストールする前に、使用するすべてのリソースロケーションの少なくとも1台のマシンにインストールする必要があります。Cloud Connector のインストールを参照してください。

.NET Framework 4.8 以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Management インフラストラクチャサービス、管理コンソール、エージェント、およびWebコンソールに必要です。インストールされていない場合、セットアップ中に自動的にインストールされます。ただし、インストールを進める前に、この前提条件を手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、インストールを続行するためにマシンを再起動する必要がある場合があり、かなりの時間がかかる可能性があります。

Microsoft Visual C++。このコンポーネントは、Workspace Environment Management™ サービスエージェントに必要です。インストールされていない場合、Microsoft Visual C++ 2015–2019 再頒布可能パッケージはエージェントのインストール中に自動的にインストールされます。

Microsoft Edge WebView2 Runtime バージョン 98 以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Management サービスエージェントに必要です。インストールされていない場合、エージェントのインストール中に自動的にインストールされます。

注:

- バージョン 2209 以降のみ、このコンポーネントが必要です。
- バージョン 2203 以降、Microsoft Edge WebView2 Runtime インストーラーはエージェントインストーラーに同梱されています。
- Microsoft Edge WebView2 Runtime をダウンロードしてインストールするには、インターネットアクセスが必要です。

> **Microsoft Active Directory**。Workspace Environment Management サービスは、構成された設定をユーザーにプッシュするために、Active Directory への**読み取りアクセス**を必要とします。

Citrix DaaS (旧 Citrix Virtual Apps and Desktops サービス) または Citrix Virtual Apps and Desktops。Citrix Virtual Apps またはデスクトップのサポートされているバージョンが必要です。

Windows 用 Citrix Workspace™ アプリ。Workspace Environment Management サービス管理コンソールから構成された Citrix StoreFront™ ストアリソースに接続するには、Windows 用 Citrix Workspace アプリがエージェントホストマシンにインストールされている必要があります。以下のバージョンがサポートされています。

- Windows 用 Citrix Receiver のバージョン: 4.4 LTSR CU5、4.7、4.9、4.9 LTSR CU1、および 4.10
- Windows 用 Citrix Workspace アプリ 1808 以降

Transformer キオスク対応マシンでは、Windows 用 Citrix Workspace アプリをシングルサインオンを有効にしてインストールし、パススルー認証用に構成する必要があります。詳細については、Citrix Workspace アプリを参照してください。

オペレーティングシステムの前提条件

> **注:**
>
> Workspace Environment Management エージェントは、製造元によってサポートされているオペレーティングシステムバージョンでのみサポートされます。オペレーティングシステムの製造元から拡張サポートを購入する必要がある場合があります。

> **エージェント**。Workspace Environment Management エージェントは、次のオペレーティングシステムでサポートされています。

- Windows 11、32ビットおよび64ビット
- Windows 10 バージョン 1607 以降、32ビットおよび64ビット
- Windows Server 2025 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2022 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2019 スタンダード および データセンター エディション*

- Windows Server 2016 スタンダード および データセンター エディション*

* Transformer 機能は、マルチセッションオペレーティングシステムではサポートされていません。

> **注:**
>
> マルチセッションオペレーティングシステムで実行されている Workspace Environment Management サービスエージェントは、Microsoft の Dynamic Fair Share Scheduling (DFSS) が有効になっている場合、正しく動作できません。DFSS を無効にする方法については、CTX127135 を参照してください。

ハードウェアの前提条件

エージェント: 平均 RAM 消費量は 10 MB ですが、安全のため 20 MB を提供することをお勧めします。利用可能なディスク容量は 40 MB (インストール中は 100 MB)。

接続の前提条件

WEM サービスエージェントが動作するには、ファイアウォールとプロキシサーバーを構成して、アウトバウンド接続を許可する必要があります。詳細については、インターネット接続要件 を参照してください。

エンタープライズネットワークでは、WEM サービスは Cloud Connector が WEM サービスエージェントと通信することも必要とします。したがって、WEM サービスエージェントポートが正しく構成されていることを確認するために、ファイアウォール設定を確認してください。詳細については、ポート情報 を参照してください。

サービス依存関係

Netlogon。エージェントサービス（「Citrix WEM Agent Host Service」）は、ログオンが行われる前にエージェントサービスが実行されていることを確認するために、Net Logon Dependencies リストに追加されます。

ウイルス対策の除外

Workspace Environment Managementサービスエージェントは、次のデフォルトフォルダにインストールされます。

- `C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent` (64ビットOSの場合)
- `C:\Program Files\Citrix\Workspace Environment Management Agent` (32ビットOSの場合)

Workspace Environment Managementエージェントの場合、「Citrix」インストールフォルダ全体でオンアクセススキャンを無効にする必要があります。これが不可能な場合は、次のプロセスをオンアクセススキャンから除外する必要があります。

- AgentCacheUtility.exe
- AgentGroupPolicyUtility.exe
- AppInfoViewer.exe
- エージェントログパーサー.exe
- AppsMgmtUtil.exe
- Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe
- Citrix.Wem.Agent.Service.exe
- Citrix.Wem.Agent.LogonService.exe
- Citrix.wem.dbsync.client.agent.exe
- PrnsMgmtUtil.exe
- VUEMAppCmd.exe
- VUEMAppCmdDbg.exe
- VUEMAppHide.exe
- VUEMCmdAgent.exe
- VUEMMaintMsg.exe
- VUEMRSAV.exe
- VUEMUIAgent.exe

制限

Workspace Environment Management™ (WEM) サービスは、大規模なエンタープライズ展開向けに設計されています。サーバー側では、WEM サービスは、フロントエンドコンポーネントとバックエンドコンポーネント間の通信フローを監視し、転送中のデータに基づいて動的にスケールアップまたはスケールダウンします。

WEM サービスのサイジングとスケーラビリティを評価する際は、次の制限を考慮してください。この記事の値は、単一の WEM サービスインスタンスの制限を示しています。

使用制限

次の表に、使用制限を示します。

リソース	制限
同時完全管理接続	5
Citrix Cloud Connector™ ごとのエンドユーザー接続	10,000 人のエンドユーザー (マシン仕様: 4 vCPU、8 GB RAM、80 GB の空きディスク容量)
WEM エージェント接続	100,000

重要:

高可用性を確保するため、各リソースの場所に少なくとも 2 つの Cloud Connector を配置することをお勧めします。WEM エージェントは、Cloud Connector 間で負荷を自動的に分散します。既存の Citrix Cloud Connector が WEM サービス専用でない場合は、追加の Cloud Connector の展開を検討してください。Cloud Connector の詳細については、Citrix Cloud Connector を参照してください。

開始する: 展開を計画して構築する

Workspace Environment Management (WEM) サービス展開で使用されるコンポーネントに慣れていない場合は、Workspace Environment Management サービスを参照してください。

オンプレミスのWEM展開から移行する場合は、クラウドへの移行を参照してください。

この記事の使用方法

WEM展開をセットアップするには、以下にまとめたタスクを完了してください。各タスクの詳細へのリンクが提供されています。

展開を開始する前にプロセス全体を確認し、何が予想されるかを把握してください。この記事では、その他の役立つ情報源へのリンクも提供しています。

計画と準備

目標を設定し、ユースケースとビジネス目標を定義し、構成に関する考慮事項を理解するために、Citrix Tech Zoneのドキュメント記事を参照してください。

- WEMが全体的なエクスペリエンスをどのように改善し、展開のセキュリティを強化するかについては、Tech Brief: Workspace Environment Managementを参照してください。
- このクラウドベースサービスのアーキテクチャと展開に関する考慮事項については、Reference Architecture: Workspace Environment Managementを参照してください。
- WEMがリソース使用率、ログオン時間、RAM使用量をどのように最適化するかについては、Tech Insight: Workspace Environment Managementを参照してください。そこにあるビデオをご覧ください。

サインアップ

Citrixアカウントにサインアップし、WEMサービス試用版をリクエストしてください。オンボーディングの手順は次のとおりです。

1. Citrixアカウントにサインアップし、WEMサービス試用版をリクエストします。
2. Citrixと統合要件について話し合います。

3. Citrix Cloud™ポータルで設定を完了します。

Citrixアカウントにサインアップして試用版をリクエストするには、Citrixの営業担当者にお問い合わせください。準備ができたら、https://onboarding.cloud.comにアクセスしてください。

ログオン後、WEMサービスタイルで をクリックします。テキストが に変わります。試用版が利用可能になったら、メールが届きます。

> **注:**
>
> 試用版を待っている間、*「次に進む場所」*で参照されている情報を確認できます。CitrixがWEMサービスソリューションをホストおよび提供しますが、アプリケーションとデスクトップを提供するマシン、およびアプリケーションとユーザーは、お客様が管理します。この時間を利用して、Active Directoryなどの企業サービス用のインフラストラクチャをセットアップできます。

どのセットアップ方法を使用するかを決定する

WEM が管理する各マシンには、WEM エージェントがインストールされている必要があります。WEM エージェントは WEM サービスに接続し、管理コンソールで構成した設定を適用します。エージェントをインストールする前に、展開のニーズに合ったセットアップ方法を決定してください。

エージェントを WEM サービスに接続するには、3 つのセットアップ方法があります。

- **Cloud Connector**。マシンがドメインに参加している場合は、この方法を使用します。この方法では、リソースの場所を設定し、各場所に少なくとも 1 つの Citrix Cloud Connector™ をインストールする必要があります。
  - 高可用性を実現するために、各リソースの場所に 2 つの Cloud Connector をインストールすることをお勧めします。
  - リソースの場所には、インフラストラクチャサービス (Active Directory や Cloud Connector など) と、ユーザーにアプリやデスクトップを提供するマシンが含まれます。

  「リソースの場所」と「Cloud Connector のインストール」を参照してください。

  Cloud Connectorのインストールに関するビデオ:

- **ドメイン非参加**。Citrix DaaS 展開でドメイン非参加マシンを管理する場合は、この方法を使用します。この方法では、エージェントのインストール時に を選択する必要があります。
- **登録**。Cloud Connector を構成せずにWEM エージェントを登録するには、この方法を使用します。この方法では、エージェントのインストール時に を選択する必要があります。

以下に、どの方法を使用するかを決定するのに役立つ一般的なガイダンスを示します。

- **Citrix DaaS™ で管理されるマシン向け**。Virtual Delivery Agent (VDA) と同じ方法で、エージェントを Citrix Cloud に接続します。つまり、Cloud Connector またはドメイン非参加の方法を使用します。
- **Citrix DaaS で管理されないマシン向け**。Cloud Connector または登録方法を使用します。

エージェントをインストールする

WEM が管理する各マシンには、WEM エージェントがインストールされている必要があります。「エージェントをインストールする」を参照してください。

展開を管理する

WEM展開を設定する上記のタスクを完了したら、WEM管理コンソールを起動します。利用可能なコンソールは2つあります。

- レガシーコンソール
- Webコンソール

レガシーコンソールからWebコンソールへの機能移行を進めています。Webコンソールはレガシーコンソールよりも応答が速く、より多くの機能を提供します。Webコンソールでのみ利用可能な機能については、新機能を参照してください。

詳細情報

- 単一のWEMサービスインスタンスの制限
- REST API

エージェントのインストール

この記事では、Workspace Environment Management™ (WEM) エージェントについて説明します。記事の残りの部分では、エージェントインストールウィザードの手順について説明します。エージェントに関する追加情報も提供されています。

はじめに

WEM が管理する各マシンには、WEM エージェントがインストールされている必要があります。WEM エージェントは WEM サービスに接続し、管理コンソールで構成した設定を適用します。すべての通信は、Citrix Cloud™ Messaging Service を使用して HTTPS 経由で行われます。すべてのエージェントはローカルキャッシュを使用するため、ネットワーク接続が中断されても既存の設定を引き続き使用できます。

WEM は、ドメイン参加済みマシンと非ドメイン参加済みマシンの両方の管理をサポートしています。

- ドメイン参加済みマシンの場合、エージェントホストマシンが、構成済みの Cloud Connector と同じ Active Directory ドメインに属していることを確認してください。また、各リソースの場所にあるエージェントホストマシンが正しく参加していることを確認してください。
- 非ドメイン参加済みマシンにエージェントをインストールするプロセスは、ドメイン参加済みマシンにインストールするプロセスと似ています。ただし、すべての要件を満たし、プロセス全体で正しいオプションを選択していることを確認してください。詳しくは、「非ドメイン参加済みマシンの管理」を参照してください。

エージェントを WEM サービスに接続する方法は 3 つあります。

- クラウドコネクタ
- ドメイン非参加
- 登録

これらの方法について詳しくは、「使用するセットアップ方法の決定」を参照してください。

エージェントのインストール

> **注:**

> 管理コンソールからアプリケーションショートカットとして Citrix Workspace で公開されているリソースにアクセスするには、Citrix Workspace app for Windows がエージェントマシンにインストールされていることを確認してください。詳しくは、「システム要件」を参照してください。

> WEM エージェントをインストールするには、次の手順に従います。

手順 1：エージェントのダウンロード

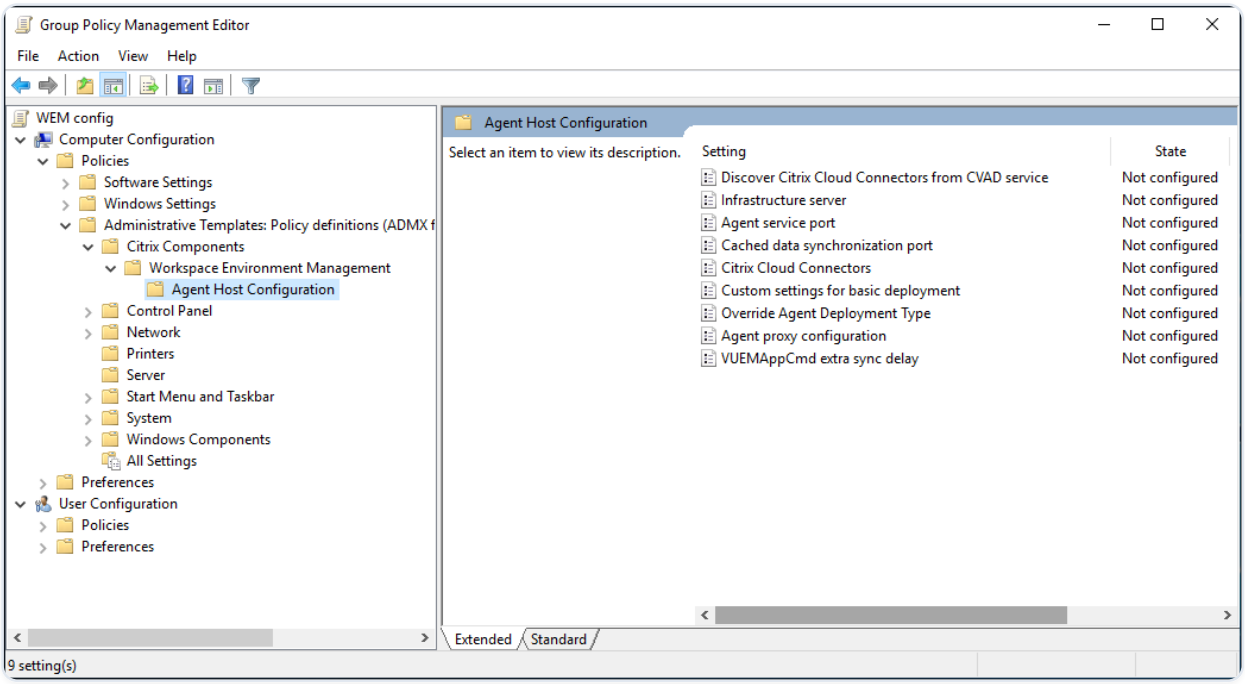
WEM サービス **Utilities** タブから WEM エージェントパッケージ (*Citrix-Workspace-Environment-Management-Agent-Setup.zip*) をダウンロードし、各エージェントホストにコピーを保存します。

手順 2：グループポリシーの構成（オプション）

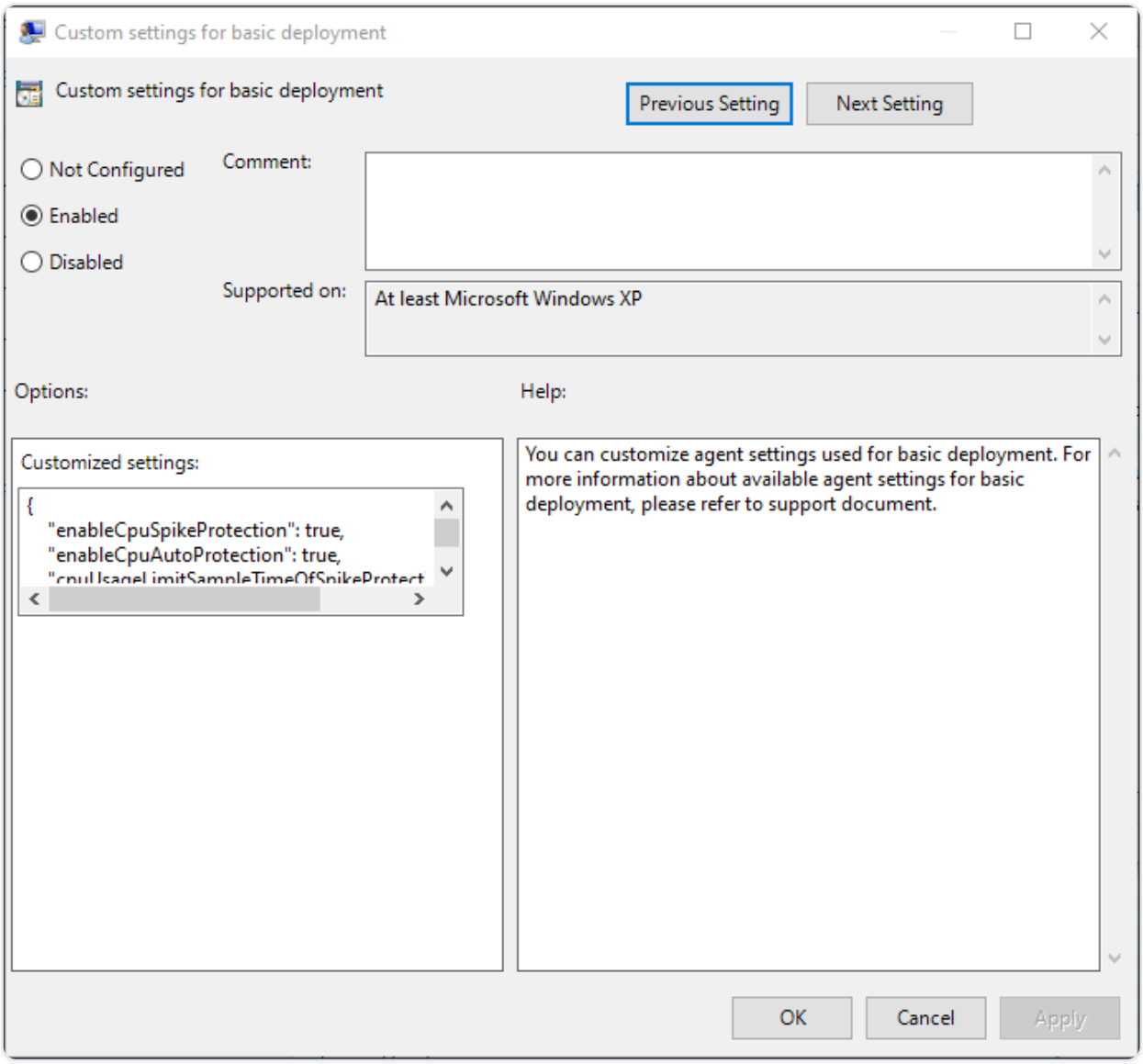
> **重要:**
>
> 非ドメイン参加または登録方法を使用する場合は、この手順をスキップしてください。

> オプションで、グループポリシーを構成できます。WEMエージェントパッケージで提供される**Agent Group Policies**管理用テンプレートは、Agent Host Configurationポリシーを追加します。

1. WEMインストールパッケージに含まれる**Agent Group Policies**フォルダーをWEMドメインコントローラーにコピーします。
2. .admxファイルを追加します。
   a. **Agent Group Policies > ADMX**フォルダーに移動します。
   b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.admx*および*CitrixBase.admx*）をコピーします。
   c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions`フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。
3. .admlファイルを追加します。
   a. **Agent Group Policies > ADMX > en-US**フォルダーに移動します。
   b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.adml*および*CitrixBase.adml*）をコピーします。
   c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions\en-US`フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。
4. グループポリシー管理エディターウィンドウで、**Computer Configuration > Policies > Administrative Templates > Citrix Components > Workspace Environment Management > Agent Host Configuration**に移動し、次の設定を構成します。



Custom settings for basic deployment。展開に使用されるカスタマイズされたエージェント設定。基本的な展開で利用可能なエージェント設定の詳細については、「Manage Basic Deployment-agents」を参照してください。



Override Agent Deployment Type。WEMエージェントの展開タイプを上書きします。次のいずれかのオプションを選択します。

- **Cloud service deployment:** エージェントをCitrix CloudのWEMサービスに接続し、WEMの全機能を提供します。
- **オンプレミス展開:** エージェントをオンプレミスのWEM展開に接続し、完全なWEM機能を提供します。
- **基本展開:** エージェントを単一マシンモードで実行し、機能が制限され、WEMインフラストラクチャに接続しません。
- **無効:** エージェントがインストールされているマシン上のすべてのWEM機能を無効にします。

エージェントプロキシ構成。WEMエージェントは、Citrix CloudのWEMサービスに接続するためにインターネット接続に依存します。エージェントとサービス間の通信は、以下の目的を果たします。

- 統計とステータスをWEMサービスにアップロードする
- エージェントキャッシュをWEMサービスデータベースと同期させる
- エージェント設定と、エージェントの構成セットに固有のWEM設定を取得する

オプションで、HTTPSプロキシを構成して、エージェントがサービスと通信する方法を定義できます。そのためには、**エージェントプロキシ構成**ポリシーをダブルクリックし、この形式でプロキシサーバーアドレスを入力します: `http://<FQDN or IP address>:<port number>`。例: `http://10.108.125.51:8080`。

> **注:**
>
> WEMサービスは、認証を必要とするプロキシサーバーをサポートしていません。

> **エージェントサービスポート**。WEMサービスには不要です。状態を「未構成」のままにします。

キャッシュデータ同期ポート。WEMサービスには不要です。状態を「未構成」のままにします。

Citrix Cloud Connectors。少なくとも1つのCitrix Cloud Connectorを構成します。エージェントホストマシンは、構成されたCloud Connectorマシンと同じADドメインにある必要があります。

CVADサービスからCitrix Cloud Connectorを検出する。エージェント用にCloud Connectorをまだ構成していない場合に、エージェントが関連するCitrix DaaS（旧Citrix Virtual Apps and Desktops™サービス）展開からCloud Connector情報を検出するかどうかを制御できます。その後、エージェントは対応するCloud Connectorマシンに接続します。

> **注:**
>
> - この設定は、WEMエージェントがCitrix DaaS™展開で実行されているシナリオ向けに設計されています。
> - エージェントのインストール中にCloud Connectorが構成されている場合、またはCitrix Cloud Connectorsポリシー設定が有効になっている場合、このポリシー設定は機能しません。

> **インフラストラクチャサーバー**。WEMサービスには不要です。状態は「未構成」のままにします。

VUEMAppCmd の追加同期遅延。公開されたリソースが起動される前に、エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が待機する時間をミリ秒単位で指定します。これにより、必要なエージェント作業が最初に完了することが保証されます。推奨値は100～200です。デフォルト値は0です。

ステップ3：エージェントをインストールする

> **重要:**

> .NET Framework はエージェントのインストール中に自動的にインストールできますが、エージェントをインストールする前に手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、エージェントのインストールを続行するためにマシンを再起動する必要があり、完了までに時間がかかる場合があります。

> エージェントセットアッププログラム *Citrix Workspace™ Environment Management Agent* は、エージェントのダウンロードに含まれています。エージェントは、対話形式またはコマンドラインを使用してインストールできます。デフォルトでは、エージェントはオペレーティングシステム (OS) に応じて、次のいずれかのフォルダーにインストールされます。

- C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent (64ビットOSの場合)
- C:\Program Files\ Citrix\Workspace Environment Management Agent (32ビットOSの場合)

エージェントを対話形式でインストールするには、次の手順を実行します。

1. マシンで **Citrix Workspace Environment Management Agent.exe** を実行します。
2. 「ライセンス条項と条件に同意します」を選択し、**インストール** をクリックします。
3. ようこそページで、**次へ** をクリックします。

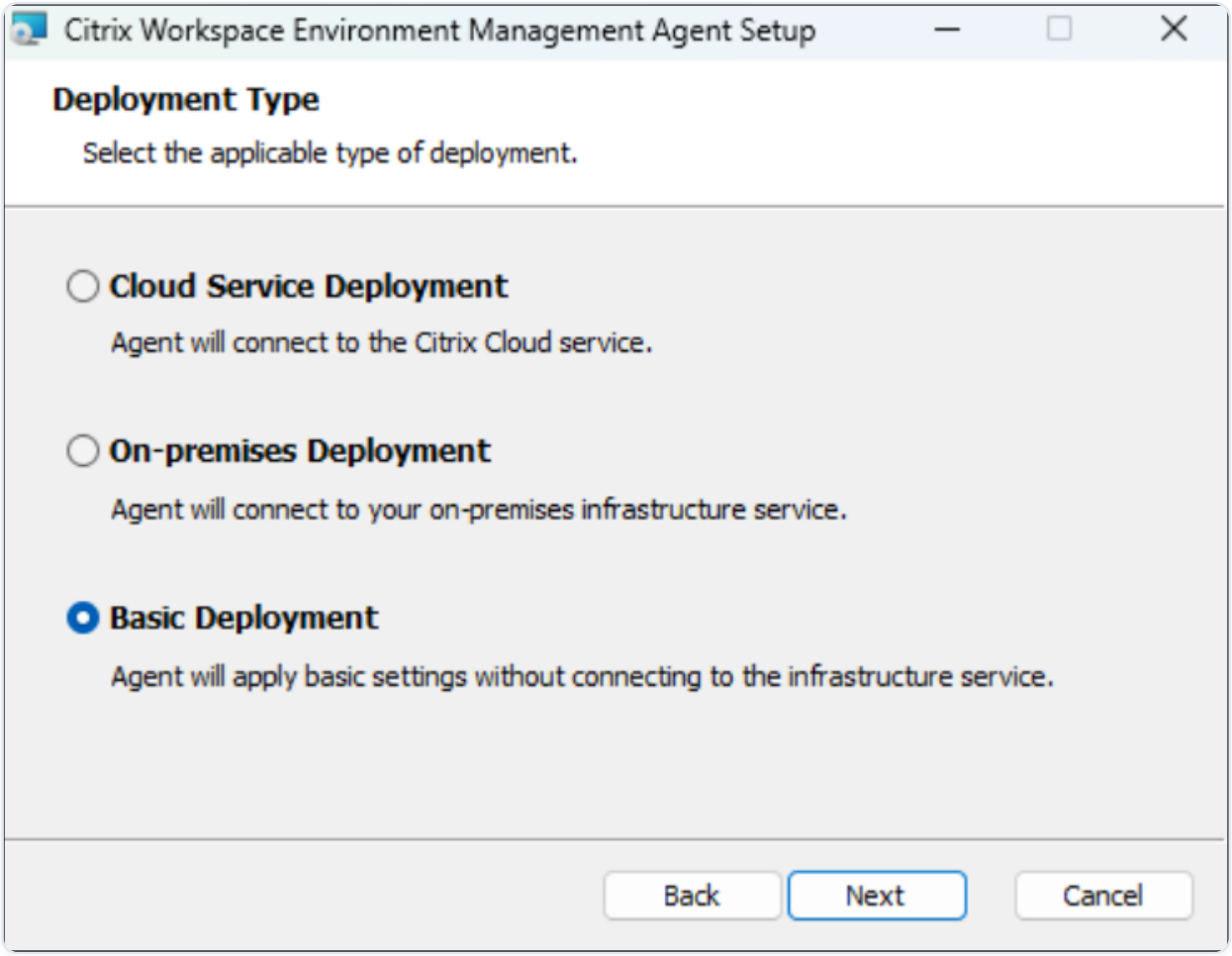
   > **注:**

   > ようこそページが表示されるまでに時間がかかる場合があります。これは、必要なソフトウェアが不足しており、バックグラウンドでインストールされている場合に発生します。

4. 宛先フォルダーページで、**次へ** をクリックします。

- デフォルトでは、宛先フォルダーフィールドにはデフォルトのフォルダーパスが自動的に入力されます。エージェントを別のフォルダーにインストールする場合は、**変更** をクリックしてそのフォルダーに移動し、**次へ** をクリックします。
- WEMエージェントがすでにインストールされている場合、宛先フォルダーフィールドには既存のインストールフォルダーパスが自動的に入力されます。

5. 「展開の種類」ページで、該当する展開の種類を選択し、「**次へ**」をクリックします。この場合は、「**Cloud Service Deployment**」を選択します。
6. 「**Basic Deployment**」タイプを選択することもできます。「**Basic Deployment**」タイプを選択すると、エージェントはインフラストラクチャサービスに接続せずに、デフォルトの最適化設定をオンにします。「**Basic deployment**」タイプは、新規インストールの場合のデフォルトの展開タイプです。



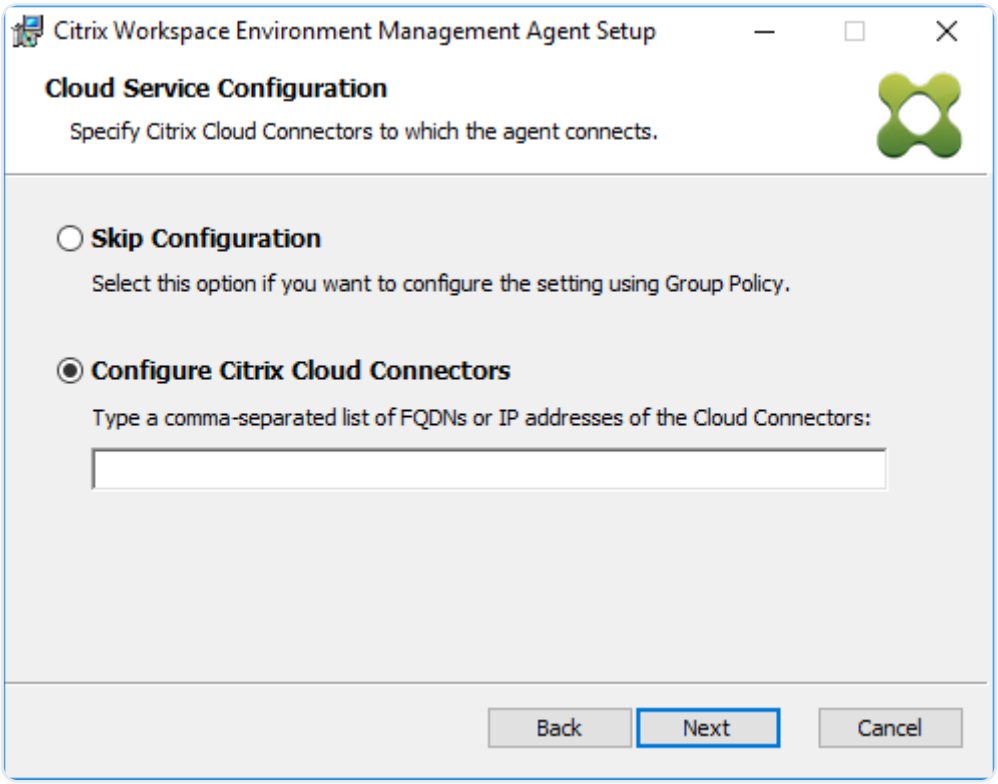
7. 「Cloud Service Configuration」ページで、エージェントが接続するCitrix Cloud Connectorを指定し、「**次へ**」をクリックします。

- 「**構成をスキップ**」。次の場合にこのオプションを選択します。
  - グループポリシーを使用して設定をすでに構成している場合。

- エージェントマシンがドメインに参加していないマシンである場合。「ドメインに参加していないマシンの管理」を参照してください。
- Cloud Connectorを構成せずにエージェントを登録する場合。「エージェントの登録」を参照してください。

- 「**Citrix Cloud Connectorの構成**」。エージェントが接続するCitrix Cloud Connectorを、Cloud ConnectorのFQDNまたはIPアドレスをコンマ区切りリストで入力して構成します。

> **注:**
>
> - 各Citrix Cloud ConnectorのFQDNまたはIPアドレスを入力します。FQDNまたはIPアドレスをコンマ (,) で区切ってください。
> - 複数のCloud Connectorが構成されているシナリオでは、WEMエージェントはリストから到達可能なCloud Connectorをランダムに選択します。この設計は、すべてのCloud Connectorにトラフィックを分散することを目的としています。



8. 「Advanced Settings」ページで、エージェントの詳細設定を構成し、「**次へ**」をクリックします。

- 「**代替キャッシュの場所 (オプション)**」。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。「**参照**」をクリックして、該当するフォルダーに移動します。または、レジストリを介して行うこともできます。そのためには、まずCitrix WEM Agent Host Serviceを停止し、次のレジストリキーを変更します。

  HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\エージェント ホスト

  名前: AgentCacheAlternateLocation

  種類: REG_SZ

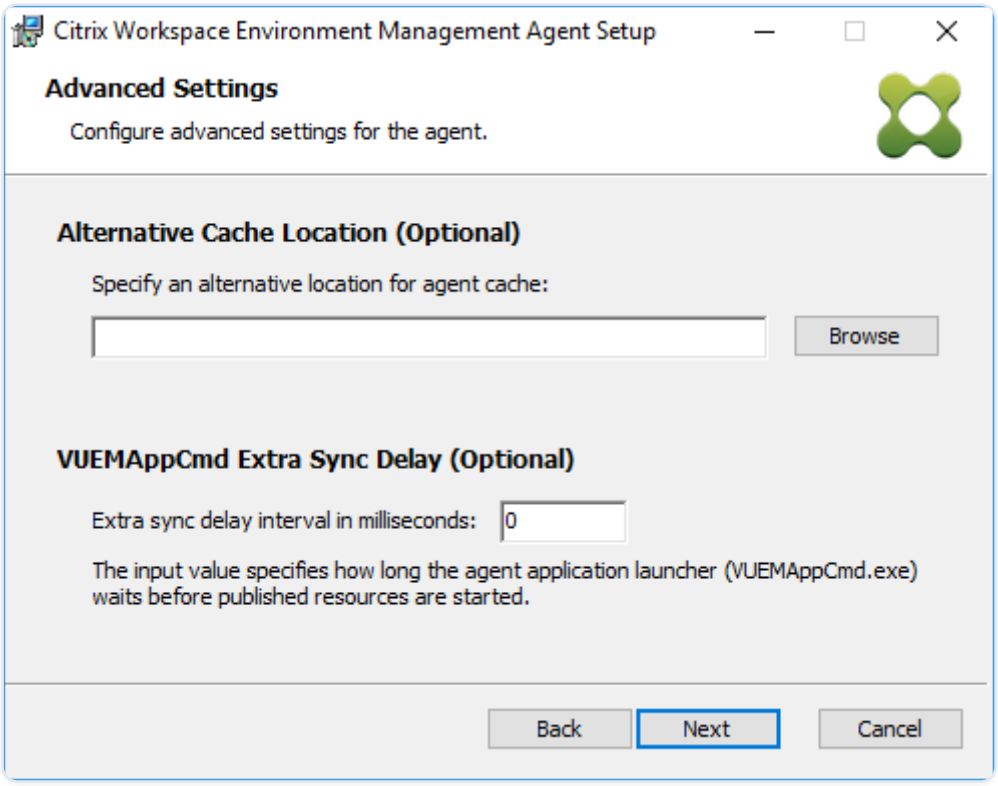
  値: 空

  デフォルトでは、値は空です。デフォルトのフォルダーは `<WEM agent installation folder path>\Local Databases Set` です。必要に応じて、別のフォルダーパスを指定します。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Service を再起動します。変更が有効になると、フォルダーに次のファイルが表示されます: **LocalAgentCache.db** および **LocalAgentDatabase.db**。

  > **注意:**
  >
  > レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **VUEMAppCmd 追加同期遅延 (オプション)**。エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が公開されたリソースを開始する前に待機する時間を指定できます。これにより、必要なエージェント作業が最初に完了することが保証されます。デフォルト値は 0 です。

  > **注:**
  >
  > 追加同期遅延間隔に入力する値は、0 以上の整数である必要があります。



9. ページで、 をクリックします。
10. をクリックして、インストールウィザードを終了します。

または、コマンドラインを使用して WEM エージェントのサイレントインストールを選択することもできます。これを行うには、次のコマンドラインを使用します。

- `Citrix Workspace Environment Management Agent.exe /quiet Cloud=1`

ヒント:

- WEM サービス展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=1` を入力します。オンプレミス WEM 展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=0` を入力します。
- エージェントのインストールをトラブルシューティングするために、ログファイルを参照することをお勧めします。デフォルトでは、インストール中に発生するすべてのアクションを記録するログファイルは %TEMP% に作成されます。`/log log.txt` コマンドを使用して、ログファイルを保存する特定の場所を指定できます。

コマンドラインオプションを使用してカスタム引数を指定することもできます。これにより、インストールプロセス中にエージェントとシステムの設定をカスタマイズできます。詳細については、「知っておくと良いこと」を参照してください。

インストール後、エージェントは次のサービスとして実行されます: **Citrix WEM Agent Host Service** および **Citrix WEM Agent User Logon Service**。エージェントは `LocalSystem` として実行されます。このアカウントの変更はサポートされていません。エージェントサービスには、「ローカルシステムとしてログオン」権限が必要です。

ステップ 4: インストールを完了するためにマシンを再起動します

エージェントのアンインストール

1. エージェントがインストールされているマシンで、システムの**コントロールパネル**を開きます。
2. **プログラムと機能**をクリックします。
3. **Citrix Workspace Environment Management Agent**を選択し、メニューの**アンインストール**をクリックします。

VDAのインストール時にエージェントを追加コンポーネントとしてインストールした場合は、VDAインストーラーで利用可能なWEMインストーラー（MSI）を使用してエージェントをアンインストールします。WEMインストーラー `citrix_wem_agent_core.msi` は `<VDA installer path>\x64\Virtual Desktop Components` にあります。VDAの追加コンポーネントとしてインストールされたエージェントをアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. フォルダー内で、`citrix_wem_agent_core.msi` を右クリックします。
2. **アンインストール**を選択します。

> **注:**
>
> エージェントをアンインストールした後、VDAインストーラーまたはWEMインストーラーを使用してインストールできます。Citrix Virtual Apps and Desktops 2209以降、WEMエージェントはVDAインストールに追加コンポーネントとして含まれなくなりました。インストールするには、Citrix Virtual Apps and Desktops製品ISOにあるフルプロダクトインストーラーを使用します。詳しくは、「コアコンポーネントのインストール」を参照してください。

次のステップ

既存のオンプレミスWEMデータベースをWEMサービスに移行する場合は、「クラウドへの移行」を参照してください。

WEMサービスをすぐに開始するには、管理コンソールを起動し、必要に応じて設定を構成します。利用可能なコンソールは2つあります。

- レガシーコンソール
- Webコンソール

レガシーコンソールからWebコンソールへの機能移行を進めています。Webコンソールはレガシーコンソールよりも応答が速く、より多くの機能を提供します。Webコンソールでのみ利用可能な機能については、「新機能」を参照してください。

前提条件と推奨事項

WEMエージェントが適切に動作するように、以下の前提条件と推奨事項に注意してください。

前提条件

次の要件が満たされていることを確認します。

- Windowsサービス「**System Event Notification Service**」は、起動時に自動的に開始するように構成されています。
- WEMエージェントサービス「**Citrix WEM Agent Host Service**」と「**Citrix WEM User Logon Service**」は、起動時に自動的に開始するように構成されています。
- エージェントキャッシュは、可能な限り永続的な場所に配置されます。非永続的なキャッシュの場所を使用すると、キャッシュ同期の問題、過剰なネットワークデータ使用量、パフォーマンスの問題などが発生する可能性があります。
- Citrix Virtual Apps and Desktopsを使用している場合、WEMエージェントは永続的なシステムロケーションを自動的に検出し、手動設定の必要がなくなります。

おすすめ

エージェントの展開を成功させるには、このセクションの推奨事項に従ってください。

- ログオンスクリプトやスタートアップスクリプトを使用して、**Citrix WEM Agent Host Service**を手動で操作しないでください。**Citrix WEM Agent Host Service**の停止や再起動などの操作は、Net Logonサービスが機能しなくなる原因となり、他のアプリケーションに問題を引き起こす可能性があります。
- UIモードまたはCMDモードのエージェントを起動するためにログオンスクリプトを使用しないでください。そうしないと、一部の機能が動作しない可能性があります。

エージェントの起動動作

- **Citrix WEM Agent Host Service**は、サービス開始後、グループポリシーを通じて構成されたCloud Connector設定を自動的に再ロードします。
- **Citrix WEM Agent User Logon Service**は、最初のログオン時にエージェントホストサービスが起動しない場合、**Citrix WEM Agent Host Service**を自動的に起動します。この動作により、ユーザー構成が適切に処理されます。
- **Citrix WEM Agent Host Service**は、起動時に次のローカルデータベースファイル（`LocalAgentCache.db`および`LocalAgentDatabase.db`）のチェックを自動的に実行します。仮想マシンがプロビジョニングされており、ローカルデータベースファイルがベースイメージからのものである場合、データベースファイルは自動的にパージされます。
- **Citrix WEM Agent Host Service**が起動すると、エージェントのローカルキャッシュが最近更新されたことを自動的に確認します。キャッシュが設定されたキャッシュ同期時間間隔の2倍を超えて更新されていない場合、キャッシュは直ちに同期されます。たとえば、デフォルトのエージェントキャッシュ同期間隔が30分であるとします。過去60分間にキャッシュが更新されていない場合、**Citrix WEM Agent Host Service**の起動直後に同期されます。
- インストール中に、WEMエージェントインストーラーはWindowsサービス「**System Event Notification Service**」を自動的に開始するように構成します。
- WEMエージェントのアップグレードが完了すると、WEMエージェントインストーラーはNet Logonサービスを自動的に開始します。

エージェントキャッシュユーティリティオプション

Citrix WEM Agent Host Service は、設定の更新とキャッシュの同期を自動的に処理します。設定を即座に更新し、キャッシュを同期する必要がある場合にのみ、エージェントキャッシュユーティリティを使用してください。

コマンドラインを使用して、エージェントインストールフォルダーで *AgentCacheUtility.exe* を実行します。実行可能ファイルは、次のコマンドライン引数を受け入れます。

- `-help`: 許可されている引数の一覧を表示します。
- `-RefreshCache` または `-r`: キャッシュの構築または更新をトリガーしますが、これは現在廃止されており、エージェントバージョン 2401.1.0.1 より前のバージョンでのみ利用可能です。
- `-RefreshSettings` または `-S`: エージェントバージョン 2401.1.0.1 以降のエージェントキャッシュを含むエージェントホスト設定を更新します。

- `-Reinitialize` または `-I`: エージェント上のエージェントキャッシュを再初期化します。これにより、エージェントは遅延なくWEMデータベースから直接最新の設定を取得するために、即座にエージェントキャッシュの同期を要求します。

コマンドラインの使用方法の詳細については、以下の例を参照してください。

- エージェントホスト設定を更新する:
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings`
- エージェントホスト設定とエージェントキャッシュを同時に更新する:
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings -RefreshCache`
- エージェントキャッシュを再初期化する:
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshCache -Reinitialize`

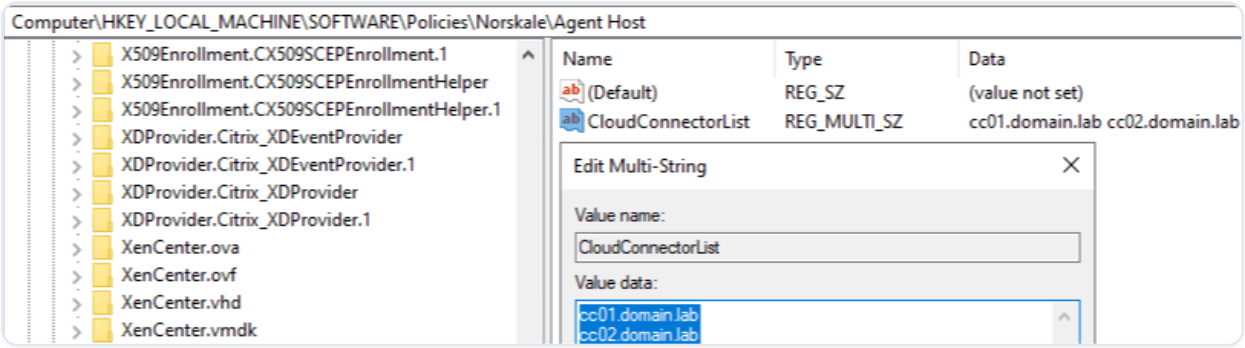
知っておくと良いこと

エージェント実行可能ファイルは、以下に説明するカスタム引数を受け入れます。

エージェント設定

WEMエージェント設定については、以下を参照してください。

- **AgentLocation**。エージェントのインストール場所を指定できます。有効なフォルダーパスを指定してください。
- **CloudConnectorList**。各Citrix Cloud ConnectorのFQDNまたはIPアドレスを指定できます。FQDNまたはIPアドレスはコンマ (,) で区切ってください。



- **VUEMAppCmdDelay**。エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) がCitrix Virtual Apps and Desktopsの公開リソースが起動するまで待機する時間を指定できます。デフォルト値は0 (ミリ秒) です。追加の同期遅延間隔に入力する値は、0以上の整数である必要があります。

- **AgentCacheLocation**。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。設定されている場合、エージェントのローカルキャッシュファイルは、エージェントのインストールフォルダではなく、指定された場所に保存されます。

次の点を考慮してください。

- 設定がコマンドラインを介して構成されている場合、WEMエージェントインストーラーは構成された設定を使用します。
- 設定がコマンドラインを介して構成されておらず、以前に構成された設定がある場合、インストーラーは以前に構成された設定を使用します。
- 設定がコマンドラインを介して構成されておらず、以前に構成された設定がない場合、インストーラーはデフォルト設定を使用します。

システム設定

エージェントホストマシンに関連付けられているシステム設定については、以下を参照してください。

- **GpNetworkStartTimeoutPolicyValue**。インストール中に作成されるGpNetworkStartTimeoutPolicyValueレジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、ログオン時のポリシー処理中にグループポリシーがネットワーク可用性通知を待機する時間を指定します。この引数は、1 (最小) から600 (最大) の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は120です。
- **SyncForegroundPolicy**。エージェントのインストール中にSyncForegroundPolicyレジストリ値を構成できます。このポリシー設定は、グループポリシー処理が同期であるかどうかを決定します。許容される値: 0、1。値が設定されていない場合、または値を0に設定した場合、Citrix WEM Agent User Logon Serviceはログオンを遅延させず、ユーザーグループポリシー設定はバックグラウンドで処理されます。値を1に設定した場合、Citrix WEM Agent User Logon Serviceは、ユーザーグループポリシー設定の処理が完了するまでログオンを遅延させます。デフォルトでは、インストール中に値は変更されません。

> **重要:**
>
> グループポリシー設定がバックグラウンドで処理される場合、すべてのポリシー設定が処理される前にWindows Shell (Windows Explorer) が起動する可能性があります。そのため、ユーザーが初めてログオンしたときに一部の設定が有効にならない場合があります。ユーザーが初めてログオンしたときにすべてのポリシー設定を処理したい場合は、値を1に設定します。

- **WaitForNetwork**。インストール中に作成される**WaitForNetwork**レジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、エージェントホストがネットワークが完全に初期化され、利用可能になるまで待機する時間を指定します。この引数は、0 (最小) から300 (最大) の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は30です。

上記の3つのキーはすべて、インストール中に**HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion\Winlogon**の下に作成されます。これらのキーは、ユーザー環境がログオン前にインフラストラクチャサーバーアドレスGPOを受信することを保証するために機能します。Active Directoryまたはドメインコントローラーサーバーの応答が遅いネットワーク環境では、ログオン画面が表示されるまでに余分な処理時間が発生する可能性があります。Citrixは、影響を与えるために**GpNetworkStartTimeoutPolicyValue**キーの値を最低30に設定することを推奨します。

- **ServicesPipeTimeout**。ServicesPipeTimeoutレジストリキーの値を構成できます。このキーは、インストール中に**HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control**の下に作成されます。このレジストリキーは、サービスコントロールマネージャーがWEMエージェントサービスの状態を報告できるようになる前に遅延を追加します。この遅延により、ネットワークが初期化される前にエージェントサービスが起動するのを防ぎ、エージェントの障害を防止します。この引数は、ミリ秒単位の任意の値を受け入れます。指定されていない場合、デフォルト値の60000 (60秒) が使用されます。

> **注:**
>
> 前述の設定がコマンドラインを使用して構成されていない場合、インストール中にWEMエージェントインストーラーによって処理されません。

例

次のコマンドライン形式を使用して設定を構成することもできます。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" <key=value>`

例:

- エージェントのインストール場所とシトリックス クラウド コネクタを指定します
  - `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" /quiet AgentLocation="L:\WEM Agent" Cloud=1 CloudConnectorList=cc1.qa.local,cc2.qa.local`

- **ユーザーログオンネットワーク待機時間**を60秒に設定します
  - `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" WaitForNetwork=60`

エージェントを登録する

はじめに

Citrix Cloud Connector を構成せずに、Workspace Environment Management™ (WEM) エージェントを登録できます。登録する前に、次の点を考慮してください。

- 登録は、ドメイン参加済みマシンとドメイン非参加マシンの両方に適用されます。
- Citrix DaaS で管理される VM の場合、VDA と同じ方法（Cloud Connector 経由またはドメイン非参加の方法）でエージェントを Citrix Cloud に接続することをお勧めします。「使用するセットアップ方法の決定」を参照してください。
- 永続 VM が適切に登録されるようにするには：
  - イメージを作成する前に、VM を一般化してマシン固有の情報を削除します。Sysprep を使用して VM を一般化する方法については、Microsoft 製品ドキュメントを参照してください: `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-hardware/manufacture/desktop/sysprep--generalize--a-windows-installation?view=windows-11>`。

この機能を使用するには、エージェントのインストール時に を選択し、 ポリシーを有効にしない必要があります。

エージェントを登録する

WEM エージェントの登録方法を柔軟に決定できます。次の2つの方法があります。

- 招待による登録。これには Web コンソールが必要です。ユーザーは登録プロセスに参加するよう招待できます。
- ベアラートークンまたは API セキュアクライアントによる登録。これにはコンソールは不要で、ユーザーが登録プロセスに参加する必要もありません。

招待による登録

ユーザーデバイスをリモートで安全に管理するには、WEM にユーザーデバイスを登録します。

招待による登録の一般的なワークフローは次のとおりです。

1. **> > >** で、 を有効にしてから、登録キーを生成します。

2. エージェントマシンで、登録ツールを使用して登録キーをインストールします。

   a. コマンドプロンプトを管理者として開きます。

   b. 次のコマンドを実行します。(`<enrollment key>` を実際のキーに置き換えてください。)

   - `Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe configenrollmentkey -k <enrollment key>`

> **ヒント:**
>
> - 登録ツール **Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe** は、エージェントのインストールフォルダーにあります。詳細については、「登録ツール」を参照してください。
> - マスターイメージを準備する際に、マスターイメージにエージェントをインストールできます。その後、マスターイメージをユーザー用のマシンを作成するためのテンプレートとして使用します。これにより、各エージェントに登録キーをインストールする必要がなくなります。

3. **Manage > Web Console > Enrollment > Invitation** で、ユーザーに登録招待を送信します。

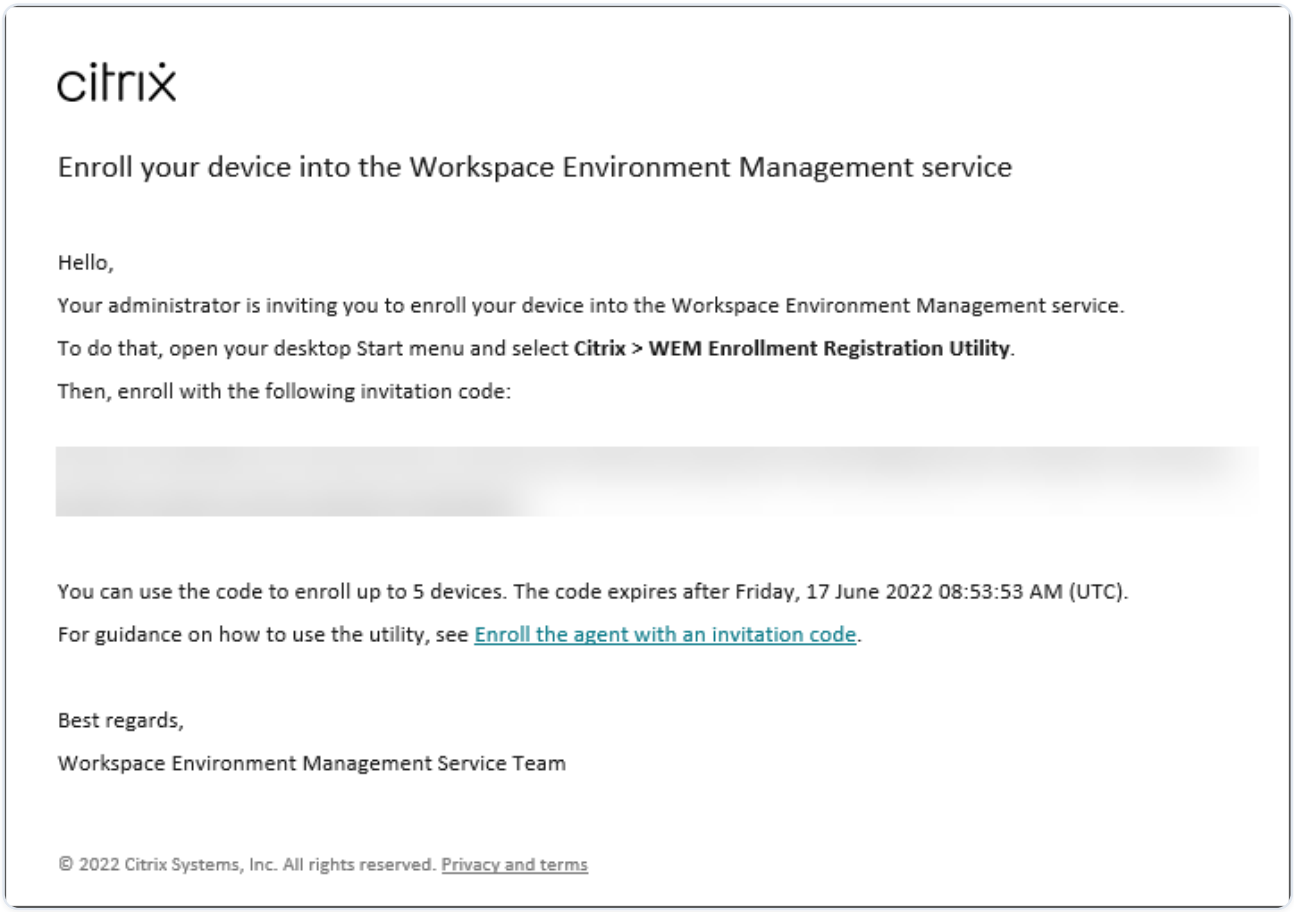
ユーザーは招待を受け取った後、招待コードを使用してデバイスを登録できます。「招待コードを使用してエージェントを登録する」を参照してください。

デバイスが登録されると、管理対象となり、**Manage > Web Console > Enrollment > Enrolled Agents** に表示されます。正確な管理のために、目的の構成セットに追加できます。「登録済みエージェントを管理する」を参照してください。

招待コードを使用してエージェントを登録する

> **重要:**
>
> エージェントの登録には、*ローカル管理者権限*が必要です。

> ユーザーとして、次の招待メールを受け取ります。



citrix

Enroll your device into the Workspace Environment Management service

Hello,

Your administrator is inviting you to enroll your device into the Workspace Environment Management service.

To do that, open your desktop Start menu and select **Citrix > WEM Enrollment Registration Utility**.

Then, enroll with the following invitation code:

You can use the code to enroll up to 5 devices. The code expires after Friday, 17 June 2022 08:53:53 AM (UTC).

For guidance on how to use the utility, see Enroll the agent with an invitation code.

Best regards,

Workspace Environment Management Service Team

© 2022 Citrix Systems, Inc. All rights reserved. Privacy and terms

招待コードを使用してデバイスを登録するには、次の手順を実行します。

1. デスクトップのスタートメニューを開き、**Citrix® > WEM Enrollment Registration Utility** を選択します。

   ヒント:

   ユーティリティがスタートメニューにない場合は、WEMエージェントのインストールフォルダーに移動し、**Citrix.Wem.Agent.Enrollment.RegUtility.exe** を開きます。

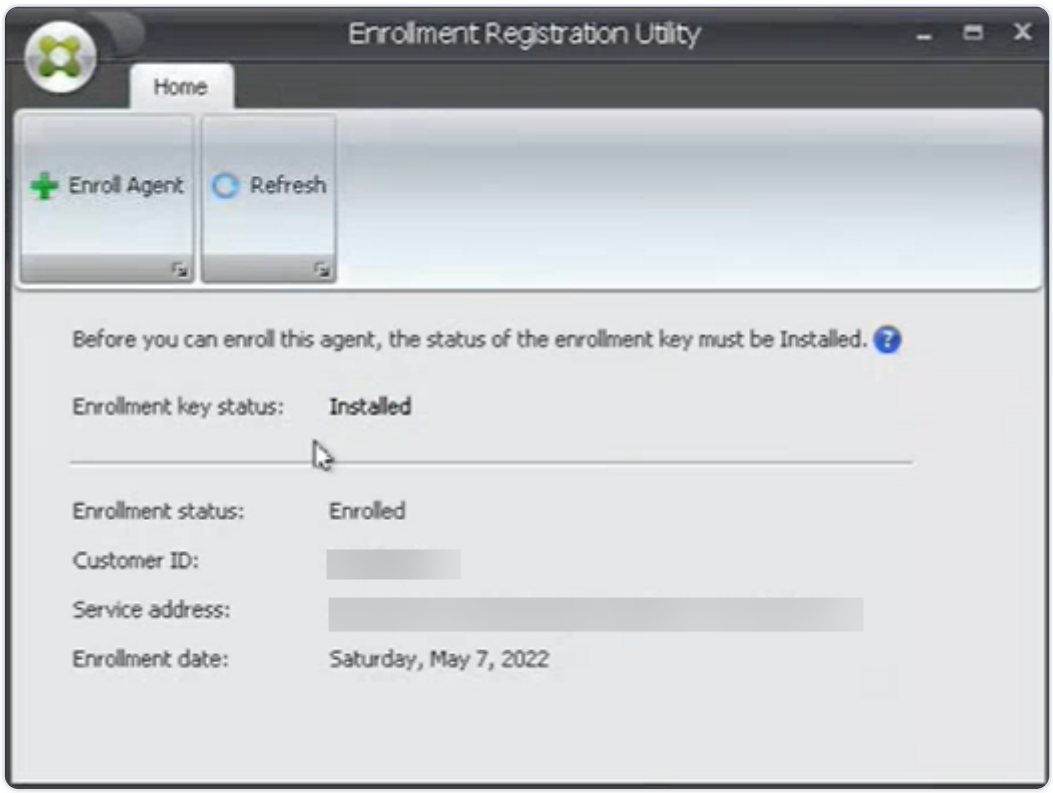
2. 「**Enrollment Registration Utility**」で、登録キーのステータスが「**Installed**」であることを確認し、「**Enroll Agent**」をクリックします。

   注:

   登録キーのステータスが「**Installed**」でない場合は、管理者に問い合わせてください。

3. 「**Enroll Agent**」ウィンドウで、招待コード（招待メールからコピーしたもの）を貼り付け、「**Start Enrolling**」をクリックします。

エージェントが正常に登録されると、次のメッセージが表示されます: 「**The agent was enrolled successfully**」。**Close** をクリックして「**Enrollment Registration Utility**」に戻ると、次の情報が表示されます。



注:

ベアラートークンまたはAPIセキュアクライアントで登録する場合、登録キーは不要です。ベアラートークンまたはAPIセキュアクライアントで登録されたエージェントマシンで、**Enrollment Registration Utility** を使用して登録ステータスを確認すると、**Enrollment key status** フィールドは「**Not installed**」と表示され、**Enrollment status** フィールドは「**Enrolled**」と表示されます。

ベアラートークンまたはAPIセキュアクライアントで登録する

エージェントマシンを登録するには、次の手順を実行します。

1. Citrix Cloud にサインインし、Citrix API サービスへの認証用のベアラートークンまたはAPIセキュアクライアントを取得します。APIセキュアクライアントとベアラートークンの生成方法については、「Citrix Cloud API の使用を開始する」を参照してください。

2. エージェントがインストールされているマシンにログオンします。
3. コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

- ベアラートークンでエージェントを登録するには、次のコマンドを入力します。
  - `Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe enroll --customer "customerid" --bearer "bearertoken" --url "api.wem.cloud.com"`

> **ヒント:**
>
> ベアラートークンを使用する場合、ベースURLはリージョンごとに一意であることに注意してください。詳細については、「ベースURL」を参照してください。指定しない場合、米国リージョン（api.wem.cloud.com）のURLが使用されます。

- APIセキュアクライアントでエージェントを登録するには、次のコマンドを入力します。
  - `Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe enroll --customer "customerid" --clientid "clientid" --clientsecret "clientsecret" --authurl "api-us.cloud.com" --url "api.wem.cloud.com"`

> **ヒント:**
>
> - セキュアクライアントを使用する場合、2つのURLがあることに注意してください。
> - 最初のURLは認証URLで、各リージョンで一意です。詳細については、Citrix Cloud APIの概要を参照してください。指定されていない場合、米国リージョン（api-us.cloud.com）のURLが使用されます。
> - 2番目のURLはベースURLで、これも各リージョンで一意です。詳細については、ベースURLを参照してください。指定されていない場合、米国リージョン（api.wem.cloud.com）のURLが使用されます。

または、ステップ3で、JSON形式の構成ファイルを作成し、次のコマンドでそのファイルを使用します。

- `Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe enroll --config "configfilepath"`

注:

構成ファイルには機密情報が含まれているため、登録後にファイルを削除することをお勧めします。

構成ファイルの形式は次のとおりです。

ヒント:

ベアラートークンまたはセキュアクライアントを使用する場合、対応するフィールドを空のままにすることができます。

```
    {


    "CustomerId": The Citrix Cloud customer ID,


    "ClientId": The secure client ID of the Citrix Cloud API client,


    "ClientSecret": The secure client secret of the Citrix Cloud API
client,


    "AuthUrl": The base URL of the Citrix Cloud API used to get the bearer

    token,

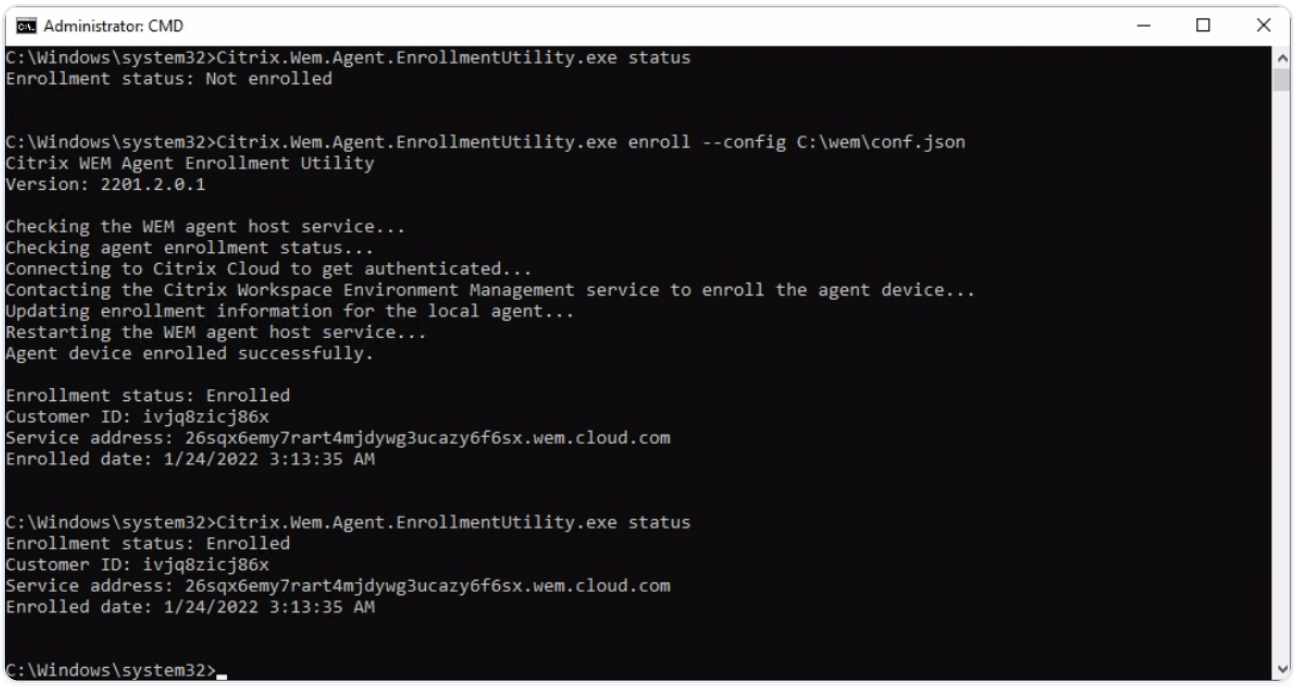

    "BearerToken": The Citrix Cloud bearer token,
```

```
    "BaseUrl": The base URL of the WEM RESTful APIs



    }
```

出力例：



登録済みエージェントの管理

エージェントを登録した後、管理コンソールを使用して、正確な管理のために目的の構成セットにバインドします。

- Webコンソールで、**Directory Objects** に移動し、エージェントマシンを構成セットに追加します。Directory Objectsを参照してください。
- レガシーコンソールで、**Active Directory Objects > Machines** に移動し、エージェントマシンを構成セットに追加します。Active Directory Objectsを参照してください。
- ドメインに参加していないマシンを追加する方法については、ドメインに参加していないマシンの管理を参照してください。

> **注:**

- 登録済みのドメインに参加していないマシンを追加すると、エージェントは最初に**Default Site**構成セットまたは**Unbound Agents**構成セット（有効な場合）に登録されます。エージェントが登録された後、そのマシンを他の構成セットに追加できます。

キーの作成とローテーション

エージェントがWEMに正常に登録されると、クラウドにサービスキーが作成されます。以下のルールを考慮してください。

- キーは90日で期限切れになります。期限切れになった後、エージェントはWEMサービスに接続してキーをローテーションする必要があります。デフォルトでは、エージェントは期限切れの14日前に自動的に接続してキーをローテーションします。
- 期限切れのキーは180日間保持されます。エージェントは180日以内にキーをローテーションする必要があります。その後、キーは削除されます。
- キーが削除されると、そのキーを使用しているエージェントはWEMサービスに接続できなくなります。エージェントは再登録する必要があります。

注:

IDの変更により、サービスキーとエージェントIDの間に不一致が生じる可能性があります。たとえば、エージェントマシンがドメインに参加またはドメインを離れると、IDの変更が発生する可能性があります。その場合、キーがまだ有効なときにエージェントをWEMサービスに接続させ、エージェントがキーをローテーションできるようにする必要があります。

登録ツール

エージェント登録ツール **Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe** は、WEMエージェントのインストールフォルダーにあります。デフォルトでは、エージェントは以下のデフォルトフォルダーにインストールされます。

- `C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent` (64ビットOSの場合)
- `C:\Program Files\Citrix\Workspace Environment Management Agent` (32ビットOSの場合)

登録ツールでのコマンドラインオプション

このツールには、次のオプションがあります。

パラメーター	説明
ステータス	エージェントマシンの現在の登録ステータスを表示します。
登録	エージェントマシンをCitrix Workspace™ Environment Managementサービスに登録します。
構成登録キー	登録キーを構成します。
ヘルプ	特定のコマンドに関する詳細情報を表示します。
バージョン	ツールのバージョン情報を表示します。

たとえば、エージェントの登録ステータスを表示するには、次のコマンドを入力します。

- `Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe status`

このツールは、登録のために次のオプションを提供します。

パラメーター	説明
--構成	JSON形式の構成ファイルから構成を読み取ります。
-c, --顧客	Citrix Cloudの顧客ID。
-b, --ベアラー	Citrix Cloudのベアラートークン。
--クライアントID	Citrix Cloud API クライアントのセキュアクライアントID。
--クライアントシークレット	Citrix Cloud API クライアントのセキュアクライアントシークレット。
--認証URL	ベアラートークンの取得に使用される Citrix Cloud API のベース URL。デフォルト: `api-us.cloud.com`。

パラメーター	説明
-u, --URL	WEM RESTful API のベース URL。デフォルト: `api.wem.cloud.com`。
-f, --強制	現在の登録ステータスに関係なく、エージェントマシンを登録します。デフォルト: false。
-k, --キー	登録キーを設定します。
-f, --ファイル	ファイルから登録キーを読み取り、登録キーを設定します。
-s, --ステータス	登録キーの現在のステータスを表示します。
--ヘルプ	cmdlet のヘルプを表示します。
--バージョン	ツールのバージョン情報を表示します。

戻りコード

このツールは、次のコードを返すことができます。

コード	説明
0	エラーなし
1	無効な引数
2	権限が不十分です
3	エージェントホストサービスが準備できていません
4	リモートAPIの呼び出し中にエラーが発生しました
100	未処理の例外
1000	エージェントが登録されていません
1001	エージェントは現在登録されています。エージェントを登録する際、`--force` オプションが指定されない限り、操作はスキップされます。

コード	説明
2000	登録キーがインストールされていません
2001	登録キーがインストールされました

エージェントの登録解除

エージェントの登録を解除するには、エージェントをアンインストールする際に、次のコマンドでエージェントインストーラーを使用します。

- `citrix_wem_agent_bundle.exe /uninstall Disenroll=1`

エージェントをアンインストールすると、次のレジストリキーが削除されます。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\WEM\Agent\Enrollment`

アップグレード

注:

WEMエージェント2211.1.0.1以降、エージェントは必要な場合にのみ構成データをダウンロードします。この機能強化により、帯域幅の消費を最大50%削減できます。詳細については、(/ja-jp/workspace-environment-management/service/whats-new.html#november-2022)を参照してください。この利点を享受できるよう、エージェントを2211.1.0.1以降にアップグレードすることをお勧めします。

Citrix® は、WEMサービスエージェントを除く展開内のすべてのWorkspace Environment Management™ (WEM) サービスコンポーネントを保守します。

WEMサービスエージェントは、既存の構成を失うことなく新しいバージョンにアップグレードできます。これはインプレースアップグレードと呼ばれます。

デフォルトでは、WEMサービスエージェントの新しいバージョンがリリースされると、メール通知が届きます。今後このようなメールを受け取りたくない場合は、購読解除を選択できます。これを行うには、WEMサービスの**Utilities**タブに移動し、**Notifications about new agent versions**セクションで**Unsubscribe**をクリックします。

重要:

- WEMサービスエージェントをアップグレードする前に、ユーザーがログオンしていないことを確認してください。これにより、アップグレードプロセス中にエージェントマシン上のファイルを変更できるようになります。
- 最新の機能を使用できるように、エージェントを最新バージョンにアップグレードすることをお勧めします。

エージェントのアップグレード

1. WEMサービスの**Utilities**タブから最新のWEMサービスエージェントパッケージをダウンロードします。
2. インストールと構成で説明されているように、新しいWEMサービスエージェントを各ターゲットマシンに展開します。

エージェントの自動アップグレード

> **注:**

> 自動エージェントアップグレード機能を使用して、非永続マシンにエージェントアップグレードを展開する場合、マシンの再起動後にアップグレードは元に戻されます。

> 自動エージェントアップグレード機能を使用して、WEMエージェントの自動アップグレードをスケジュールできます。この機能により、エージェントアップグレードを手動で展開することなく、定期的なエージェントアップグレードが容易になります。この機能は、WEMエージェントのアップグレードに柔軟性も提供します。

- 構成セット内のすべてのエージェントマシンにWEMが自動的にアップグレードを展開する期間を指定できます。
- または、ユーザーがエージェントを手動でアップグレードできるように選択することもできます。

詳細については、(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/app-package-delivery.html#create-a-wem-agent-upgrade-task)を参照してください。

オンデマンドでのエージェントのアップグレード

コンソールからオンデマンドでエージェントをアップグレードできます。このオプションは、レガシーコンソールとWebコンソールの両方で利用できます。この機能を使用するには、次の手順を実行します。

- レガシーコンソールで、**Administration > Agents** に移動し、エージェントを右クリックして、**Upgrade agent to latest version** を選択します。詳細については、「Administration」を参照してください。

- Webコンソールで、**Monitoring > Administration > Agents** に移動し、1つ以上のエージェントを選択し、**More** をクリックして、**Upgrade agent to latest version** を選択します。詳細については、「Administration」を参照してください。

移行

重要:

- 既存のオンプレミスWEMデータベースをWEMサービスに移行する予定がある場合は、最新バージョンの移行ツールを使用していることを確認してください。
- 移行ツールが期待どおりに動作するようにするには、.NET Frameworkをアップグレードする必要がある場合があります。WEM 1909以前を使用している場合は、ツールを実行するマシンで.NET Framework 4.7.1以降にアップグレードしてください。
- インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンで移行ツールを実行することをお勧めします。これにより、インフラストラクチャサービスがWEMデータベースに接続でき、インフラストラクチャサービスが実行されているマシンに必要なコンポーネントが揃っていることが保証されます。

We provide you with a toolkit to migrate your existing on-premises Workspace Environment Management™ (WEM) database into the WEM service. The toolkit includes a wizard to generate an SQL file containing the contents of your WEM database, and a simple way to upload the SQL file to the WEM service Azure database. This article describes how to complete your on-premises database migration. Review the entire sequence before starting the migration process so that you know what to expect.

WEMデータベースを移行する前に、次の点に留意してください。

- 移行が正常に完了すると、現在のWEMサービスデータベースに関連付けられているすべてのデータが失われます。
- WEMデータベースは、WEMサービスが正常にプロビジョニングされた後にのみ移行できます。
- 移行プロセスを開始する前に、Citrix®はオンプレミスWEMデータベースをバックアップすることをお勧めします。
- 移行プロセスを開始する前に、Citrixは**Database Maintenance**タブでデータベースメンテナンスを構成することをお勧めします。これにより、WEMデータベースのサイズが縮小され、より

良い移行エクスペリエンスが得られます。データベースメンテナンスの詳細については、「Configure the infrastructure service」を参照してください。

- WEMサービスがアップグレード中にWEMデータベースの移行を試みると、Citrix Cloud™ユーザーインターフェイスの右上隅にある通知領域に次のエラーメッセージが表示されます。「Workspace Environment Management データベースの移行は、Workspace Environment Management サービスがアップグレード中のため失敗しました。後でもう一度お試しください。」この場合、WEMサービスが正常にアップグレードされた後にSQLファイルをアップロードしてみてください。サービスのアップグレードもCitrix Cloudユーザーインターフェイスの右上隅に通知されます。

システム要件

このツールキットは、WEM 4.7以降からの移行をサポートしています。以前のバージョンから移行するには、WEM 4.xをWEM 4.7以降にアップグレードしてから、データベースをWEMサービスに移行してください。アップグレードの詳細については、「Upgrade a deployment」を参照してください。

はじめに

Citrix Cloudアカウントにログオンします。詳細については、「What is a Citrix Cloud account」を参照してください。

オンプレミスデータベースを移行する

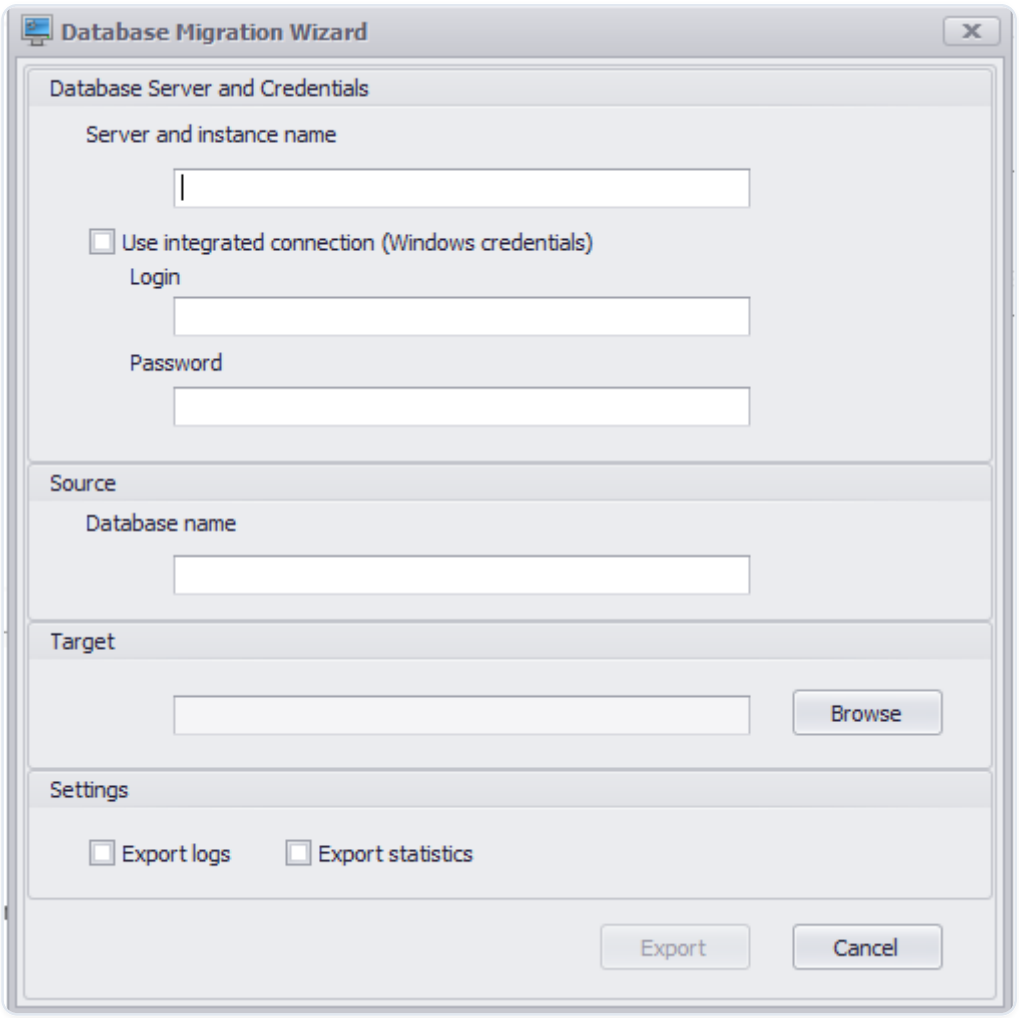
ステップ1：移行ツールをダウンロードする

WEMサービス**Utilities**タブから移行ツール (WEM-migration-tool.zip) をダウンロードします。zipファイルを任意のフォルダーに展開します。

> **注:**
>
> Citrixでは、インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンで移行ツールを実行することをお勧めします。これにより、インフラストラクチャサービスがWEMデータベースに接続でき、インフラストラクチャサービスが実行されているマシンに必要なコンポーネントが揃っていることが保証されます。

ステップ2：データベースデータをSQLファイルにエクスポートする

zipファイルに含まれている **Citrix WEM Migration Tool.exe** を実行します。



ウィザードに次のデータを入力します。

サーバーとインスタンス名。データベースをホストするSQL Serverインスタンスのアドレス。ここに正確に入力されたとおりに、インフラストラクチャサーバーから到達可能である必要があります。

統合接続（Windows資格情報）を使用する。選択すると、**データベース移行ウィザード**は、実行中のIDのWindowsアカウントを使用してSQL Serverに接続し、オンプレミスWEMデータベースのコンテンツを含むSQLファイルを生成できます。このWindowsアカウントに十分な権限がない場合は、十分な権限を持つWindowsアカウントを使用して **Citrix WEM Migration Tool.exe** を実行するか、このオプションをクリアして、代わりに十分な権限を持つSQLアカウントを指定してください。

データベース名。移行するデータベースの名前。

ターゲット。オンプレミスWEMデータベースのコンテンツを含むSQLファイルを保存するための目的のフォルダー。**参照**ボタンを使用して、SQLファイルを保存するフォルダーに移動します。

ログのエクスポート。ログをエクスポートするかどうかを制御します。ログには、WEMエージェントに加えられた変更が含まれます。有効にすると、エクスポートされるデータベースファイルにログが含まれます。移行を高速化するために、このオプションを有効にしないことをお勧めします。

統計のエクスポート。エージェントとユーザーの統計をエクスポートするかどうかを制御します。有効にすると、エクスポートされるデータベースファイルに統計が含まれます。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。移行を高速化するために、このオプションを有効にしないことをお勧めします。

> **注:**
>
> ファイルとして保存すると、WEMデータベースファイルは自動的に「データベース名_upload.7z」に名前が変更されます。

エクスポートをクリックしてデータベースのエクスポートプロセスを開始するか、**キャンセル**をクリックして**データベース移行ウィザード**を終了します。

エクスポートプロセス中に、**データベース移行ステータス**ウィンドウが表示されます。

エクスポートプロセスが完了したら、**完了**をクリックしてウィンドウを閉じ、**データベース移行ウィザード**に戻ります。

> **注:**
>
> - データベースのサイズによっては、エクスポートプロセスに数秒から数分、あるいは数時間かかる場合があります。
> - データベースのエクスポート中に**データベース移行ステータス**ウィンドウを閉じると、**データベース移行ウィザード**に戻りますが、データベースのエクスポートプロセスはバックグラウンドで続行されるため、**エクスポート**ボタンは無効になります。エクスポートプロセスを完全に停止するには、**キャンセル**をクリックします。

> エクスポート中にエラーが発生した場合は、**Citrix WEM Migration Tool.exe**を含む移行ツールフォルダーにある**Citrix WEM Migration Tool Debug Log**ファイルを確認してください。

ステップ3：SQLファイルをWEMサービスデータベースにアップロードする

> **重要:**
>
> アップロードが完了する前にWorkspace Environment Managementサービスページを閉じないでください。閉じると、SQLファイルを正常にアップロードできません。

1. WEMサービスの**ユーティリティ**タブで、**アップロード**をクリックしてアップロードプロセスを開始します。
2. SQLファイルのアップロードページで**ファイルの選択**をクリックし、アップロードするSQLファイルを選択します。
3. **OK**をクリックしてアップロードを開始し、WEMサービスの**ユーティリティ**タブに戻ります。

WEMサービスの**ユーティリティ**タブに戻ると、**アップロード**の下に進行状況メッセージが表示され、アップロードの進行に合わせて更新されます。SQLファイルが正常にアップロードされると、移行プロセスが自動的に開始されます。

> **注:**
>
> SQLファイルが正常にアップロードされた後、再度アップロードできるようになるまで10分間待つ必要があります。

移行後

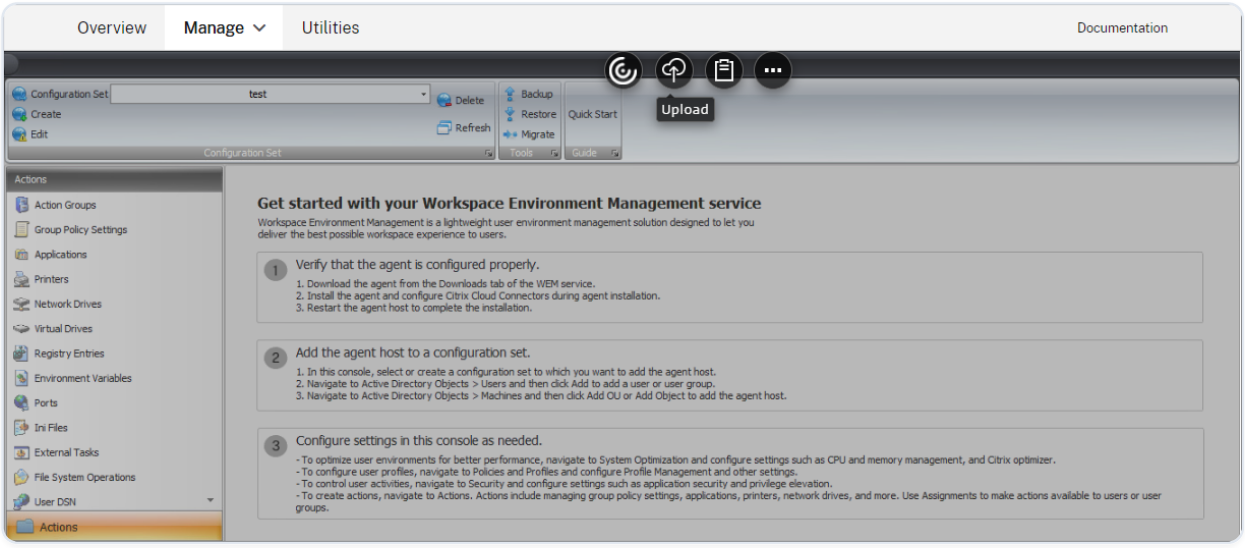
数時間後に、移行の結果を伝える通知メッセージが届きます。Citrix Cloudユーザーインターフェイスの右上隅にある通知を参照してください。移行が正常に完了したら、**管理**タブで次の手順を実行して、オンプレミスWEMデータベースから移行されたデータを表示します。

ステップ1：移行されたデータをWEMサービスコンソールにロードする

1. **管理 > レガシーコンソール**で、ハンバーガーメニューにカーソルを合わせます。

のハンバーガーメニュー(/en-us/workspace-environment-management/service/media/menu-on-wem-service-manage-tab.png)

2. Citrix Workspace™ アイコンをクリックします。



3. 省略記号アイコンをクリックして、追加オプションを展開します。
4. WEM サービスから切断するには、**ログオフ**をクリックします。
5. ブラウザウィンドウを更新して WEM サービスに再接続し、オンプレミスの WEM データベースから移行されたデータを表示します。

ステップ 2: サービスエージェントモードに切り替える

エージェント切り替え機能を使用して、オンプレミスからサービスエージェントモードに切り替えます。エージェント切り替えの詳細については、「エージェント切り替え」を参照してください。

> **重要:**
>
> エージェント切り替え機能は、Workspace Environment Management 1909 以降で利用できます。以前のバージョンでは、エージェント切り替えを使用する前に、エージェントを再インストールするか、バージョン 1909 以降にアップグレードする必要があります。

> または、サービスの**ユーティリティ**タブからエージェントをダウンロードし、手動でエージェントを再インストールすることもできます。

管理 (レガシーコンソール)

管理コンソールを起動する

1. ご自身の Citrix Cloud™ アカウントにログオンします。
2. Workspace Environment Management™ (WEM) サービスタイルで、**管理**をクリックします。
3. **概要**で、**サービスを管理**をクリックするか、**管理**タブをクリックします。

展開を構成する

管理タブを使用して WEM 設定を構成します。

- 左下のペインの項目をクリックして、そのサブセクションを表示します。
- サブセクションの項目をクリックして、メインウィンドウ領域に適切なコンテンツを表示します。
- 必要に応じて構成を変更します。使用できる設定については、ユーザーインターフェイスの説明 (レガシーコンソール)を参照してください。

WEM サービスを開始する

1. エージェントが正しく構成されていることを確認します。
    a. WEM サービスの**ユーティリティ**タブからエージェントをダウンロードします。
    b. エージェントをインストールし、エージェントのインストール中に Citrix Cloud Connector を構成します。
    c. エージェントホストを再起動して、インストールを完了します。
2. エージェントホストを構成セットに追加します。
    a. このコンソールで、エージェントホストを追加する構成セットを選択または作成します。
    b. **Active Directory Objects > Users** に移動し、**Add** をクリックしてユーザーまたはユーザーグループを追加します。
    c. **Active Directory Objects > Machines** に移動し、**Add OU** または **Add Object** をクリックしてエージェントホストを追加します。

3. 必要に応じて、このコンソールで設定を構成します。

    - パフォーマンスを向上させるためにユーザー環境を最適化するには、**System Optimization** に移動し、CPU およびメモリ管理、Citrix® オプティマイザーなどの設定を構成します。
    - ユーザープロファイルを構成するには、**Policies and Profiles** に移動し、Profile Management およびその他の設定を構成します。
    - ユーザーアクティビティを制御するには、**Security** に移動し、アプリケーションセキュリティや特権昇格などの設定を構成します。
    - アクションを作成するには、**Actions** に移動します。アクションには、グループポリシー設定、アプリケーション、プリンター、ネットワークドライブなどの管理が含まれます。**Assignments** を使用して、ユーザーまたはユーザーグループにアクションを利用可能にします。

推奨設定のインポート

> **注:**
>
> 複数の構成セットがある場合は、それぞれに推奨設定をインポートする必要があります。

> Citrix が推奨する設定を構成セットにインポートし、必要に応じて調整して適用できます。推奨設定は WEM エージェントパッケージに含まれています。パッケージをダウンロードするには、**Citrix Cloud > WEM service > Utilities** に移動します。

WEM エージェントパッケージ (/en-us/workspace-environment-management/service/media/wem-agent-package.png)

推奨設定をインポートするには、コンソールのリボンで使用できる Restore を使用します。開始する前に、まずデフォルトの推奨設定を WEM にアップロードします。Upload files を参照してください。

レガシーコンソールでの復元 (/en-us/workspace-environment-management/service/media/restore-in-legacy-console.png)

1. ターゲット構成セットで、**復元**をクリックします。復元ウィザードが表示されます。
2. **復元する項目の選択**ページで、**設定**を選択し、**次へ**をクリックします。
3. **設定の復元**ページで、**次へ**をクリックします。

4. **ソース**ページで、設定を復元する`DefaultUploadFolder`を選択します。

   デフォルトのアップロードフォルダー(/en-us/workspace-environment-management/service/media/default-upload-folder.png)

5. **ソース**ページで、**システム最適化設定**、**エージェント構成設定**、および**システム監視設定**を選択し、**次へ**をクリックします。

   > **注:**
   >
   > これら3つのオプションを使用すると、Citrixが推奨するすべての設定をインポートできます。たとえば、**システム最適化設定**オプションを使用すると、基本的なシステム最適化設定を構成セットに適用できます。基本設定には、CPUスパイク保護、CPUスパイクの自動防止、およびインテリジェントCPU最適化が含まれます。

   > WEM設定の復元(/en-us/workspace-environment-management/service/media/restore-wem-settings.png)

6. **設定の復元処理**ページで、インポートを開始するには、**設定の復元**をクリックします。
7. **はい**をクリックして、アクションを確認します。
8. 「**完了**」をクリックします。

推奨設定に加えて、WEMエージェントパッケージには、次の設定も含まれています。

- **環境ロックダウンサンプル > VUEMEnvironmentalSettings**。このファイルを使用して、環境設定をインポートします。これを行うには、上記の手順を繰り返し、以下に注意してください。
  - **ソース**ページで、**環境設定**を選択します。
- **サンプルアプリケーション > VUEMApplications**。このファイルを使用して、サンプルアプリケーションをインポートします。これを行うには、上記の手順を繰り返し、以下に注意してください。
  - **復元する項目の選択**ページで、**アクション**を選択し、**次へ**をクリックします。
  - 「**Source**」ページで、「**Applications**」を選択します。
  - 「**Actions Selection**」ページで、インポートするアクションを選択します。

    WEMアクションの選択(/en-us/workspace-environment-management/service/media/select-wem-actions.png)

- 「**Restore actions processing**」ページで、「**Restore Actions**」をクリックしてインポートを開始します。

> **注:**
>
> 以下は、WEMの構成テンプレートファイルです。
>
> - **VUEMAgentSettings.xml:** このファイルにはいくつかのエージェント設定が含まれており、ファイルをインポートした後、「**Advanced Settings - Configuration and UI Agent personalization**」パネルで表示できます。
> - **VUEMSystemMonitoringSettings.xml:** このファイルにはいくつかのシステム監視構成設定が含まれており、ファイルをインポートした後、「**Monitoring - Configuration**」パネルで表示できます。
> - **VUEMSystemUtilitiesSettings.xml:** このファイルにはいくつかのシステム最適化設定が含まれており、ファイルをインポートした後、「**System Optimization**」-「**CPU Management**」および「**Memory Management**」で表示できます。
> - **VUEMEnvironmentalSettings.xml:** このファイルにはいくつかの環境設定が含まれています。ファイルをインポートした後、「**Policies and Profiles**」-「**Environmental Settings**」で表示できます。
> - **Sample Applications:** このファイルには、2つのWEMアクション（メモ帳と電卓）が含まれています。ファイルをインポートした後、「**Actions**」パネル -「**Actions > Applications**」で表示できます。

リボン

リボンには次のコントロールが含まれています。

構成セット。あるWorkspace Environment Management™ (WEM)サイト（構成セット）から別のサイトに切り替えます。

作成。**構成セットの作成**ウィンドウを開きます。

名前。リボンのサイトリストに表示されるサイト名。

説明。サイト編集ウィンドウに表示されるサイトの説明。

サイトの状態。サイトが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、WEMエージェントはサイトに接続できません。

編集。**構成セットの作成**ウィンドウと同様のオプションを持つ**構成セットの編集**ウィンドウを開きます。

削除。サイトを削除します。WEMが機能するために「Default site」に依存しているため、これを削除することはできません。ただし、名前を変更することはできます。

更新。サイトリストを更新します。異なる管理コンソールからサイトが作成された場合、リストは自動的に更新されません。

バックアップ。現在の構成のバックアップコピーをWEM管理コンソールマシンに保存するための**バックアップ**ウィザードを開きます。アクション、設定、セキュリティ設定、およびActive Directory (AD)オブジェクトをバックアップできます。

- **アクション**。選択したWEM アクションをバックアップします。各タイプのアクションは個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。
- **設定**。選択したWEM設定をバックアップします。各タイプの設定は個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。
- **セキュリティ設定**。セキュリティタブに存在するすべての設定をバックアップします。各タイプのルールは個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。
  - **AppLockerルール設定**
  - **特権昇格設定**
  - **プロセス階層制御設定**
- **AD オブジェクト**。WEM が管理するユーザー、コンピューター、グループ、組織単位をバックアップします。**バックアップ**ウィザードでは、バックアップする AD オブジェクトの種類を指定できます。AD オブジェクトには次の 2 種類があります。
  - ユーザー。単一ユーザーおよびユーザーグループ
  - マシン。単一マシン、マシングループ、および OU

> **注:**

> バックアップコピーに名前を付けることはできますが、バックアップコピーの保存場所を指定することはできません。バックアップコピーは、Citrix Cloud のデフォルトフォルダに自動的に保存されます。

- **構成セット**。選択した WEM 構成セットをバックアップします。各種類の構成セットは、個別の XML ファイルとしてエクスポートされます。現在の構成セットのみをバックアップできます。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。
  - アクション
  - AppLocker
  - 割り当て（アクションおよびアクショングループに関連）
  - フィルター
  - スクリプトタスク設定
  - ユーザー
  - 設定（WEM 設定）

  次のものはバックアップできません。
  - マシンに関連する AD オブジェクト（単一マシン、マシングループ、および OU）
  - 監視データ（統計およびレポート）
  - 構成セットに登録されているエージェント

復元。**復元**ウィザードを開き、以前にバックアップしたWEMサービス構成のバージョンに戻します。プロンプトが表示されたら、ドロップダウンリストから該当するバックアップコピーを選択します。バックアップを含むCitrix Cloudフォルダーを選択します。(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/ribbon.html#restore-settings-from-a-backup-file)から設定を復元することもできます。

- **アクション**。選択したWEMアクションを復元します。
- **設定**。選択したWEM設定を復元します。
- **セキュリティ設定**。セキュリティタブに存在するすべての設定を復元します。バックアップファイルの設定は、現在の構成セットの既存の設定を置き換えます。**セキュリティ**タブに切り替えるか、タブを更新すると、無効なアプリケーションセキュリティルールが検出されます。これらのルールは自動的に削除されます。削除されたルールは、必要に応じてエクスポートできるレポートに一覧表示されます。**復元**ウィザードでは、復元するものを選択できます。
  - **AppLockerルール設定**

- **特権昇格設定**
  - **既存の設定を上書き**。競合がある場合に、既存の特権昇格設定を上書きするかどうかを制御します。
- **プロセス階層制御設定**
  - **既存の設定を上書き**。競合がある場合に、既存のプロセス階層制御設定を上書きするかどうかを制御します。

アプリケーションセキュリティルール割り当ての確認ダイアログで、**はい**または**いいえ**を選択して、**復元**ウィザードでアプリケーションセキュリティルールの割り当てをどのように処理するかを指定します。

- **はい**を選択すると、現在のサイトのユーザーおよびユーザーグループへのルール割り当ての復元が試行されます。再割り当ては、バックアップされたユーザーまたはグループが現在のサイトまたはADに存在する場合にのみ成功します。一致しないルールは復元されますが、割り当て解除されたままになり、CSV形式でエクスポートできるレポートダイアログに一覧表示されます。
- **いいえ**を選択すると、バックアップ内のすべてのルールが、サイトのユーザーおよびユーザーグループに割り当てられることなく復元されます。

- **ADオブジェクト**。バックアップされたADオブジェクトを既存のサイトに復元します。**復元**ウィザードでは、インポートするADオブジェクトをきめ細かく制御できます。**復元するADオブジェクトを選択**ページで、復元するADオブジェクトと、既存のWEM ADオブジェクトを上書き（置換）するかどうかを指定できます。
- **構成セット**。バックアップされた構成セットをWEMに復元します。一度に1つの構成セットのみを復元できます。復元した構成セットがWEM管理コンソールに反映されるまでに時間がかかる場合があります。復元された構成セットを表示するには、リボンの構成セットメニューから選択します。構成セットを復元するとき、同じ名前の構成セットが既に存在する場合、WEMは自動的に名前を`<configuration set name>_1`に変更します。

注:

- 復元されたアクションは、既存のサイトアクションに*追加されます*。
- 復元された設定は、既存のサイト設定を*置き換えます*。ただし、ユーザーストアの資格情報は、既存のユーザーストアの資格情報に*追加される*か、または*置き換えられます*。

- 復元されたADオブジェクトは、**復元**ウィザードのADオブジェクトページで**上書きモード**を選択したかどうかに応じて、既存のサイトADオブジェクトに*追加されるか*、または*置き換えられます*。
- **上書きモード**を選択すると、復元プロセスが開始される前に、既存のADオブジェクトがすべて削除されます。

移行。**移行**ウィザードを開き、グループポリシーオブジェクト（GPO）のzipバックアップをWEMに移行します。

重要:

- **移行**ウィザードは、WEMがサポートする設定（GPO）のみを移行します。
- Citrix®は、移行プロセスを開始する前に、既存の設定をバックアップすることをお勧めします。

Citrixは、GPOをバックアップするために次の手順を実行することをお勧めします。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. **グループポリシー管理**ウィンドウで、バックアップするGPOを右クリックし、**バックアップ**を選択します。
3. **グループポリシーオブジェクトのバックアップ**ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。必要に応じて、バックアップに説明を付けることができます。
4. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始し、**OK**をクリックします。
5. バックアップフォルダーに移動し、それをzipファイルに圧縮します。

注:

WEMは、複数のGPOバックアップフォルダーを含むzipファイルの移行もサポートしています。

GPOのバックアップが正常に完了したら、**アップロード**（WEMサービスの**管理**タブのメニューで利用可能）を使用して、GPOのzipファイルをCitrix Cloudのデフォルトフォルダーにアップロード

します。それが正常に完了したら、**移行**をクリックします。**移行するファイル**ページで、リストから該当するファイルを選択します。ファイル名を入力し、**検索**をクリックして見つけることもできます。

- **上書き**。競合がある場合、既存のWEM設定（GPO）を上書きします。
- **変換**。GPOをWEMへのインポートに適したXMLファイルに変換します。インポートする設定を詳細に制御したい場合は、このオプションを選択します。変換が正常に完了したら、**復元**ウィザードを使用してXMLファイルを手動でインポートします。

> **注:**
>
> 出力フォルダーに名前を付けることはできますが、保存するファイルの名前を指定することはできません。

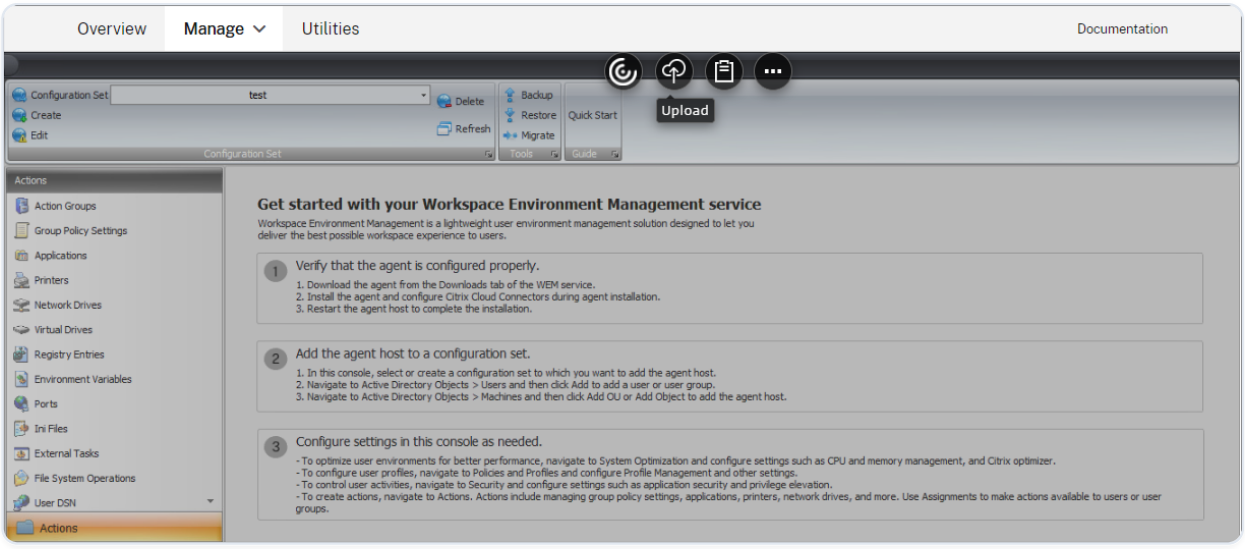
クイックスタート。WEMサービスを開始するために必要な情報を提供するクイックスタートページを開きます。画面の指示に従って、WEM展開の構成を開始します。

バックアップファイルから設定を復元する

> **警告:**
>
> 設定を復元すると、Workspace Environment Managementサービス内の現在の設定が上書きされます。

> オンプレミスのWorkspace Environment Managementバックアップウィザードは、現在の構成セットを特別なXML形式ファイルにバックアップします。以下の手順で、そのファイル内の設定をWorkspace Environment Managementサービス内の現在の構成セットに復元（適用）できます。

1. Workspace Environment Managementサービスの**管理**タブで、HTML5セッションツールバー用のCitrix Workspace™アプリを開きます。



2. **アップロード**を使用して、XMLバックアップファイルをCitrix Cloudフォルダーにアップロードします。デフォルトのフォルダーは*DefaultUploadFolder*です。
3. Workspace Environment Managementサービスの復元ウィザードを使用して、Citrix Cloudフォルダーから復元します。

アクション

Workspace Environment Management™ サービスは、使いやすいアクションを提供することで、ワークスペース構成プロセスを効率化します。アクションには、アプリケーション、プリンター、ネットワークドライブ、外部タスクなどの管理が含まれます。割り当てを使用して、アクションをユーザーが利用できるようにすることができます。Workspace Environment Management サービスは、割り当てをコンテキスト化するためのフィルターも提供します。

- アクションには、以下の管理が含まれます。
  - アクション グループ
  - グループ ポリシー設定
  - アプリケーション
  - プリンター
  - ネットワーク ドライブ
  - 仮想ドライブ
  - レジストリ エントリ
  - 環境変数

    - ポート
    - Ini ファイル
    - 外部タスク
    - ファイル システム操作
    - ユーザー DSN
    - ファイル関連付け
- フィルター
- 割り当て

アクション グループ

アクション グループ機能を使用すると、まずアクションのグループを定義し、そのアクション グループ内で定義されたすべてのアクションを、単一のステップでユーザーまたはユーザー グループに割り当てることができます。この機能により、**アクション**ペインに表示される各アクションを1つずつ割り当てる必要がなくなります。その結果、複数のアクションを1つのステップで割り当てることができます。

> **注:**
>
> - Webコンソールで利用できる新しい**割り当てグループ**機能を使用して、グループアクションを表示できるようになりました。ここでは、既存のアクション グループを見つけることができます。以前に作成および割り当てたアクション グループは引き続き機能しますが、レガシーコンソールでは編集または割り当てができなくなります。割り当ての競合を回避し、新しい機能強化を活用するために、レガシーコンソールでアクション グループの割り当てを解除し、Webコンソールで管理することをお勧めします。
> - 動的トークン を使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

アクション グループ リスト

アクション グループ

既存のアクション グループのリストが表示されます。**検索**を使用して、名前、表示名、または説明でリストをフィルター処理します。

アクション

重要:

- アクション グループには、各アクション カテゴリ（アプリケーション、プリンター、ネットワーク ドライブなど）にすでに存在するアクションのみが含まれます。たとえば、**アプリケーション リスト**タブでアプリケーションを追加していない限り、**アクション グループ リスト**タブのアクション グループには、**アプリケーション**の下に割り当て可能なアプリケーションは表示されません。
- 割り当てられたアクション グループ内のアクションのオプションを構成しても（**アクション グループ リスト > 名前 > 構成済み**）、構成されたオプションは、そのアクション グループが割り当てられているユーザーには影響しません。

アクションセクションには、利用可能なアクションが表示されます。次の操作を実行できます。

- **追加**。ユーザーまたはユーザー グループに割り当てるすべてのアクションを含むアクション グループを作成できます。
- **編集**。既存のアクション グループを編集できます。
- **コピー**。既存のアクション グループからアクション グループを複製できます。
- **削除**。既存のアクション グループを削除できます。

アクション グループを作成するには、以下の手順に従います。

1. **Administration Console > Actions > Action Groups > Action Group List**タブで、**Add**をクリックします。
2. **New Action Group**ウィンドウで、必要な情報を入力し、ドロップダウンから該当するオプションを選択して、**OK**をクリックします。

アクショングループを編集するには、リストから該当するグループを選択し、**Edit**をクリックします。

アクショングループを複製するには、複製したいグループを選択し、**Copy**をクリックします。**Copy**をクリックすると、複製が自動的に作成されます。複製は元の名前を継承し、「-Copy」というサフィックスが付きます。**Edit**をクリックして名前を変更できます。

> **注:**
>
> アクショングループを複製する場合、**Allow Drive Letter Reuse in assignment process**オプションが有効になっていない限り、NetworkおよびVirtual Drivesに関連付けられているアクション（存在する場合）は複製されません。このオプションを有効にするには、**Advanced Settings > Configuration > Console Settings**タブに移動します。

アクショングループを削除するには、リストから該当するグループを選択し、**Delete**をクリックします。

> **注:**
>
> すでに割り当てられているアクショングループを削除または編集した場合、その変更はグループが割り当てられているすべてのユーザーに影響します。

フィールドとコントロール

Name。アクショングループリストに表示されるアクショングループの表示名です。

Description。アクショングループに関する追加情報を指定できます。

Action Group State。アクショングループを有効または無効の状態に切り替えます。無効にすると、そのアクショングループをユーザーまたはユーザーグループに割り当てた場合でも、エージェントはアクショングループに含まれるアクションを処理しません。

構成

割り当てたい、または構成した特定のアクションを検索できます。Findを使用して、名前、表示名、または説明でオプションをフィルタリングします。

Available。作成したアクショングループに追加できるアクションです。

プラス記号をクリックして、特定のアクションカテゴリの下にあるアクションを展開します。アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、割り当てまたは割り当て解除を行います。

> **注:**

- すでにユーザーに割り当てられているアクショングループにアクションを追加すると、そのアクションは自動的にそれらのユーザーに割り当てられます。
- アクショングループからアクションを削除し、そのアクショングループがすでにユーザーに割り当てられている場合、そのアクションはそれらのユーザーから自動的に割り当て解除されます。

構成済み。これらは、作成したアクショングループにすでに割り当てられているアクションです。個々のアクションを展開して構成できます。また、各特定のアクションのオプション（例: アプリケーションショートカットの場所、デフォルトプリンター、ドライブ文字など）も構成できます。

割り当て

重要:

アクションの割り当てタブの割り当て済みペインで、割り当て済みアクショングループ内のアクションのオプションを構成すると、構成されたオプションは、そのアクショングループが割り当てられているユーザーに自動的に影響します。

アクション > アクショングループ > アクショングループリストタブでアクショングループのアクションの構成を完了したら、構成済みのアクションを該当するユーザーまたはユーザーグループに割り当てることができます。これを行うには、**割り当て > アクションの割り当て > アクションの割り当て**タブに移動します。そのタブで、ユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックすると、作成したアクショングループを含む**利用可能**ペインの「アクショングループ」ノードが表示されます。「アクショングループ」ノードの横にあるプラス記号をクリックすると、作成したアクショングループを表示できます。アクショングループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、割り当てるか割り当てを解除します。アクションを割り当てるときは、そのアクションをコンテキスト化するために使用するルールを選択するよう求められます。

割り当ての仕組みの詳細については、「割り当て」を参照してください。

アクショングループを割り当てる際には、いくつかの注意すべきシナリオがあります。

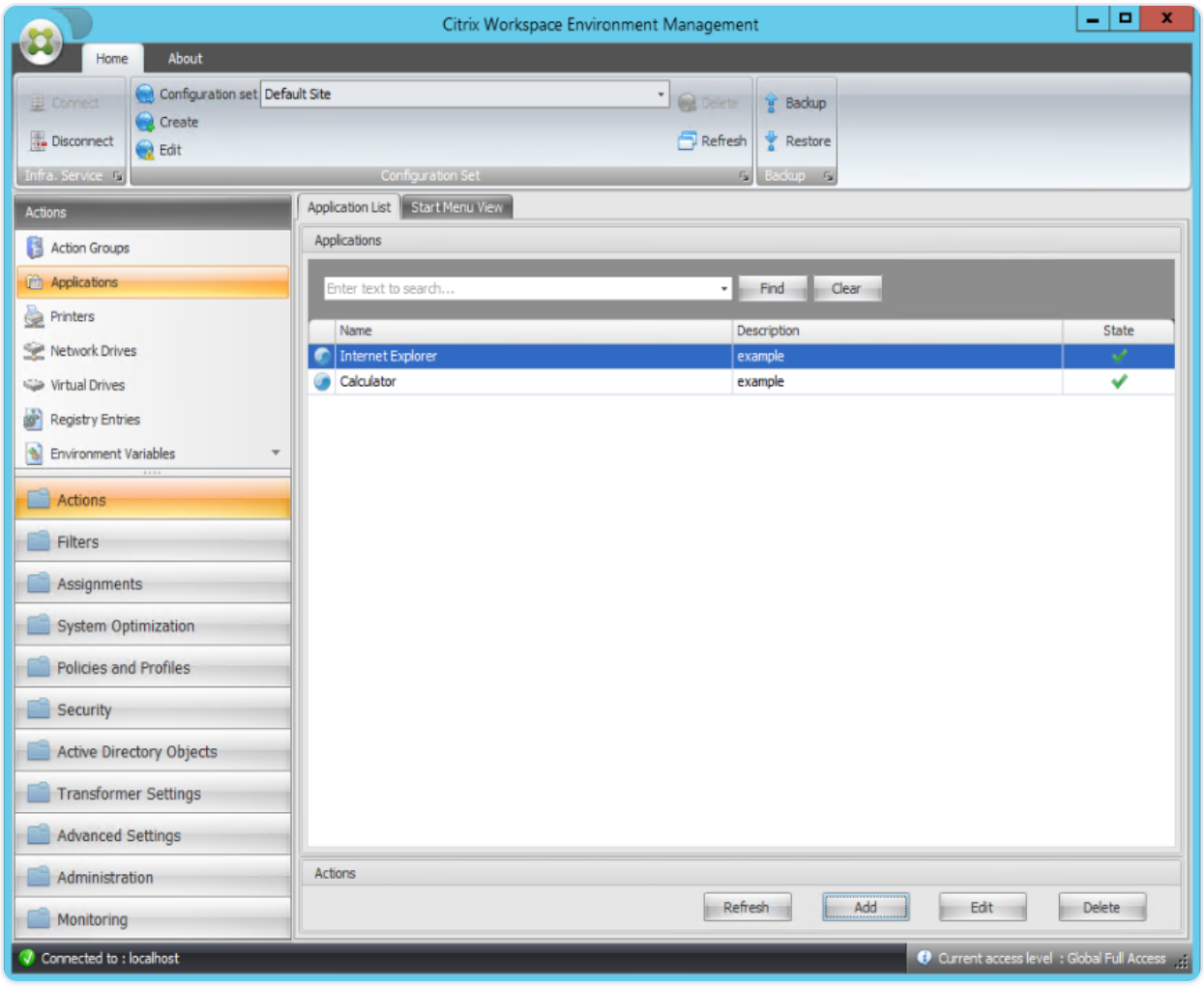
- アクショングループを割り当てると、それに含まれるすべてのアクションが割り当てられます。

- 1つ以上のアクションが異なるアクショングループで重複する場合があります。重複するアクショングループの場合、最後に処理されたグループが、以前に処理されたグループを上書きします。
- アクショングループ内のアクションが処理された後、別のアクショングループのアクションと重複するアクションを割り当てることを検討してください。この場合、割り当て解除されたアクションは以前に処理されたアクションを上書きし、その結果、後で処理されたアクションが割り当て解除されます。他のアクションは変更されません。

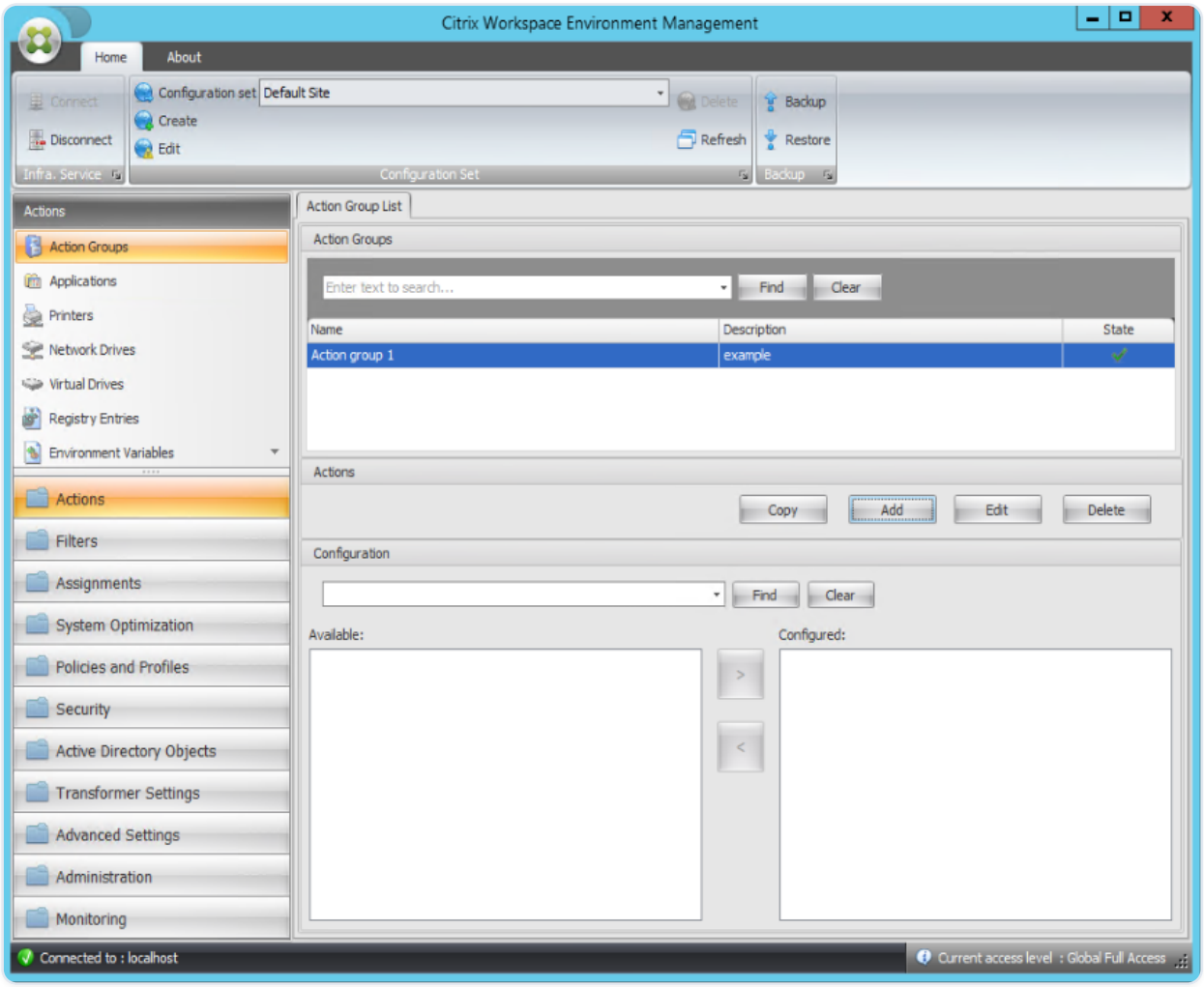
シナリオ例

たとえば、アクショングループ機能を使用して2つのアプリケーション（iexplore.exeとcalc.exe）を一度にユーザーに割り当てるには、以下の手順に従います。

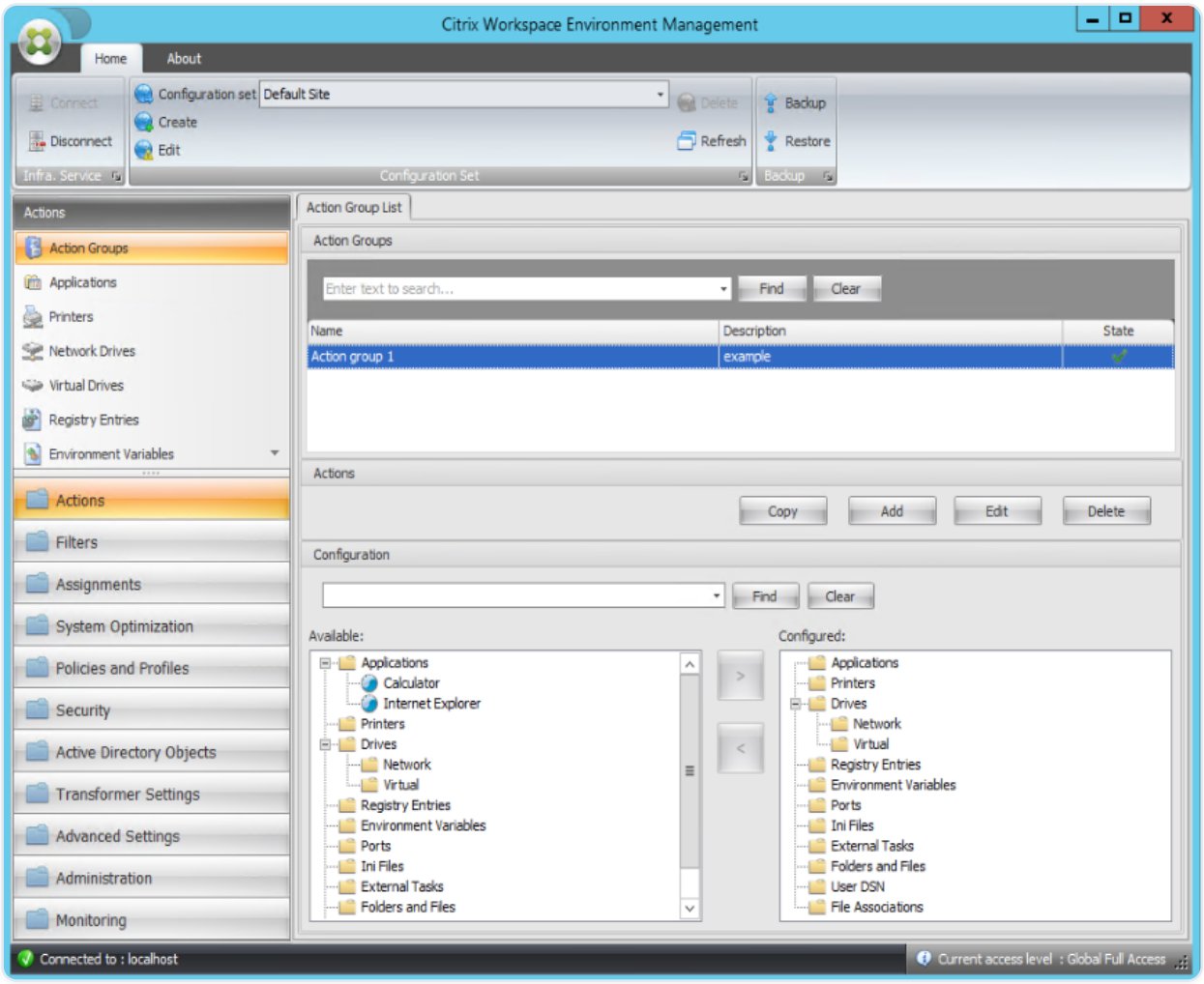
1. **管理コンソール > アクション > アプリケーション > アプリケーションリスト**タブに移動し、アプリケーション（iexplore.exeとcalc.exe）を追加します。



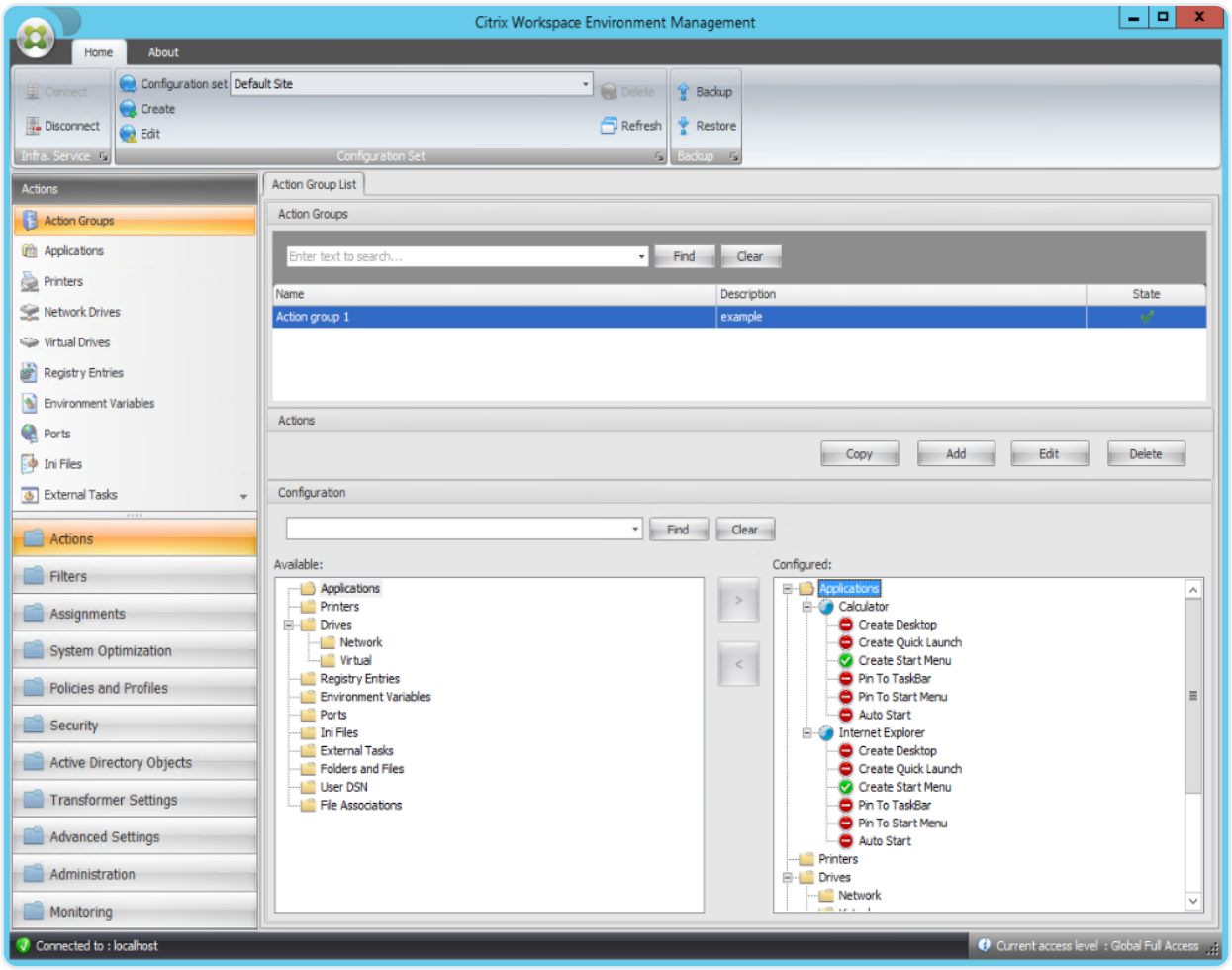
2. **管理コンソール > アクション > アクショングループ > アクショングループリスト**タブに移動し、**追加**をクリックしてアクショングループを作成します。



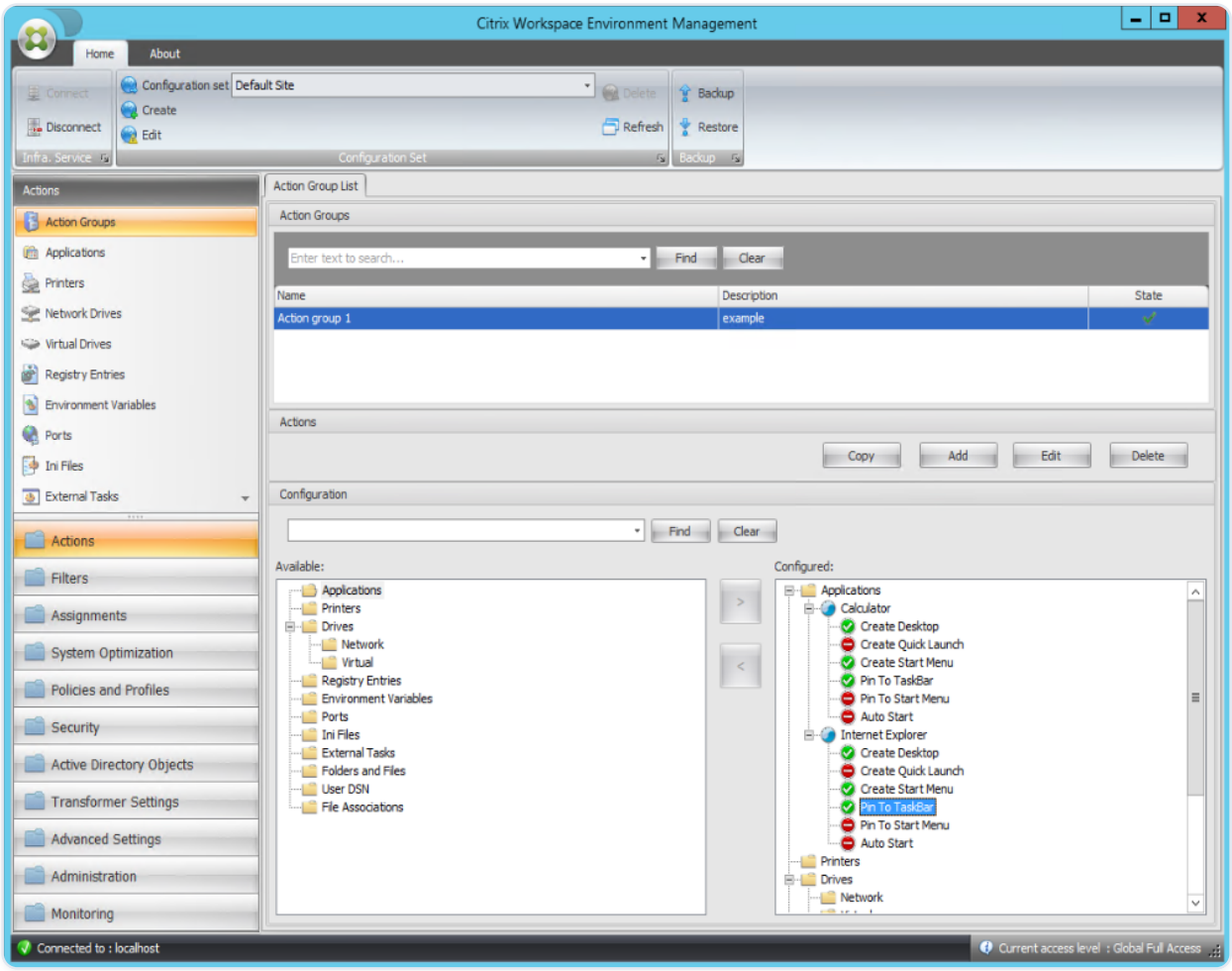
3. **アクション グループ リスト**タブで、作成したアクション グループをダブルクリックして、**利用可能**ペインと**構成済み**ペインにアクション リストを表示します。



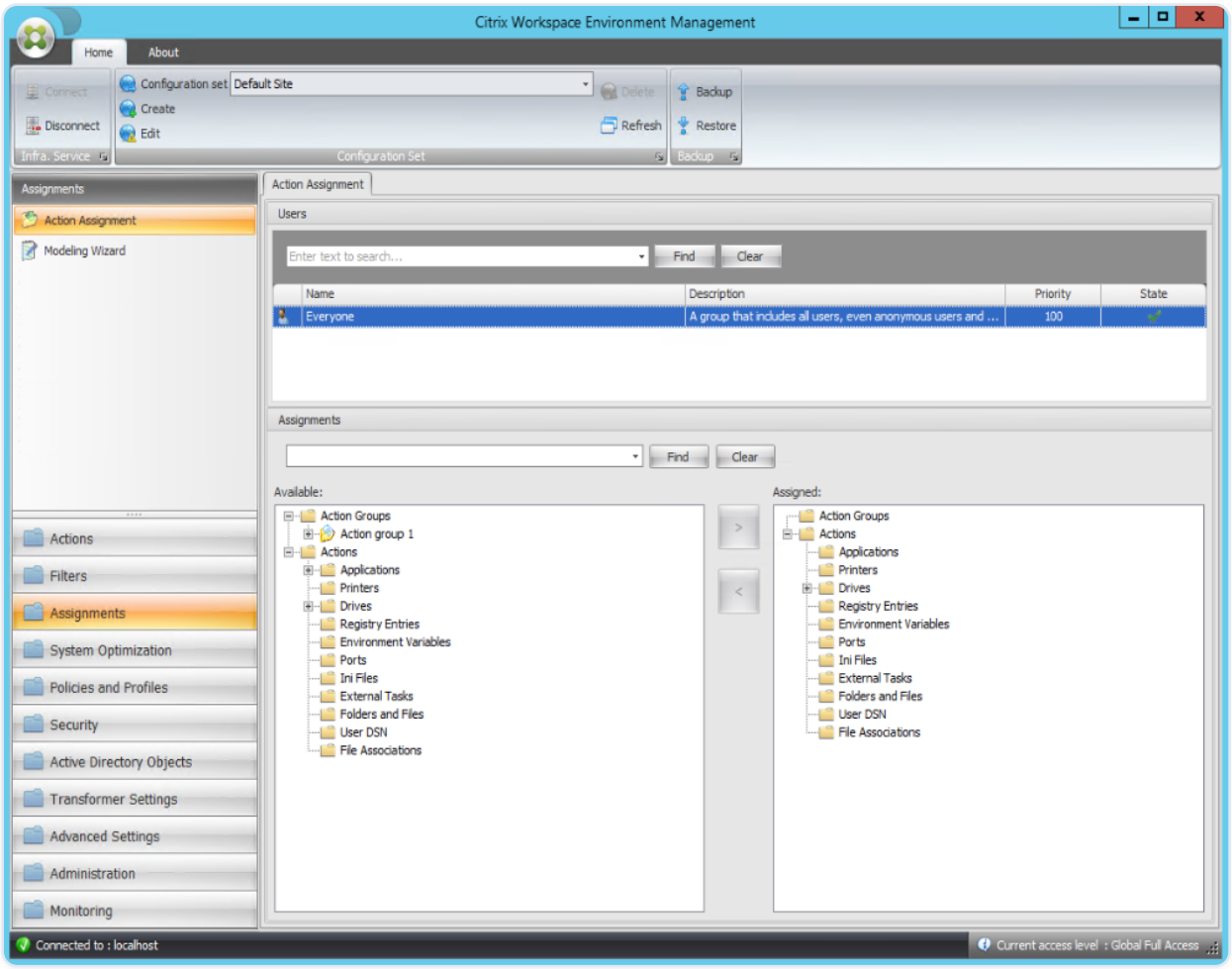
4. **利用可能**ペインで、各アプリケーションをダブルクリックして**構成済み**ペインに移動します。アプリケーションを選択してから右矢印をクリックすることでも移動できます。



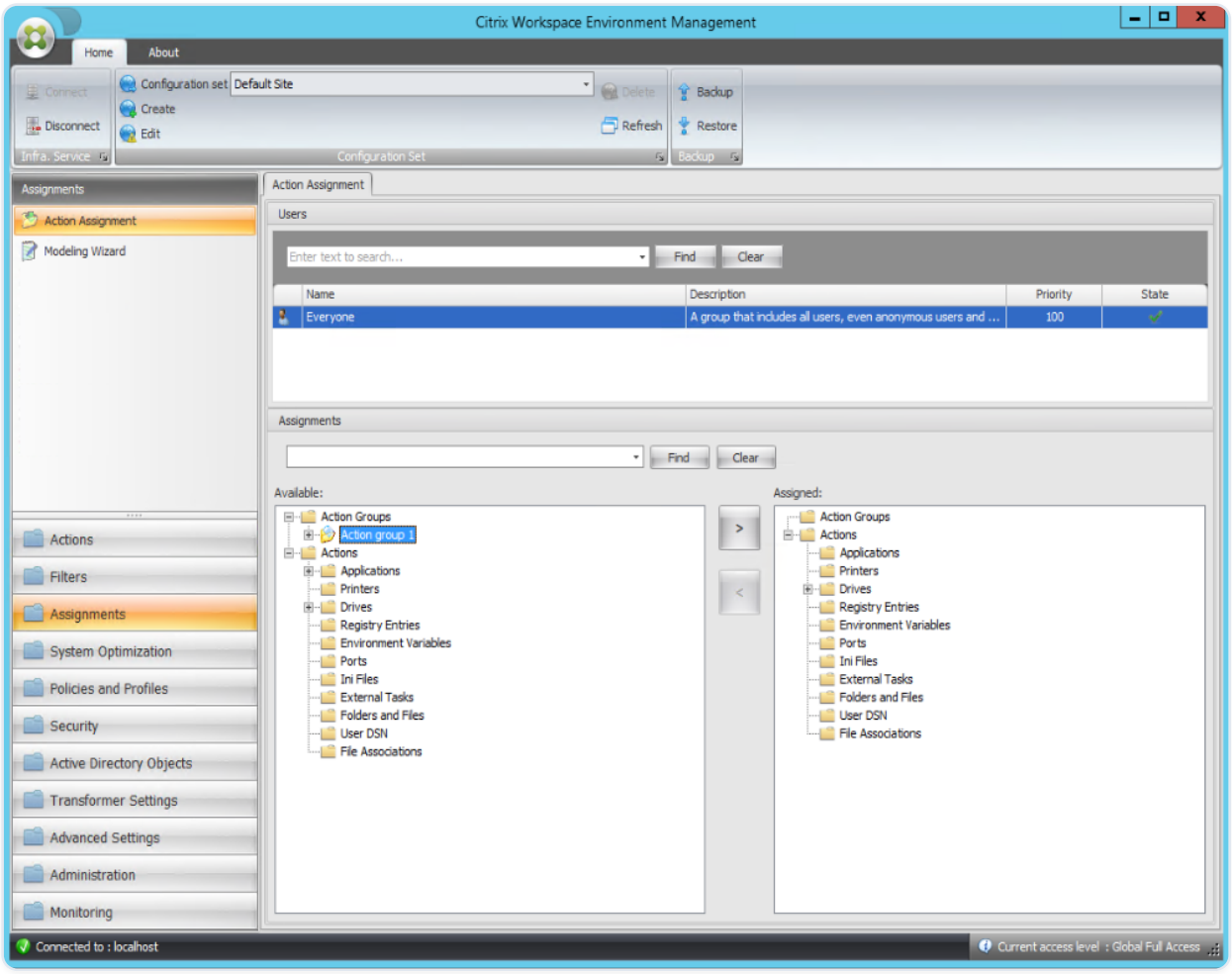
5. **構成済み**ペインで、各アプリケーションのオプションを構成します。この例では、**デスクトップの作成**と**タスクバーにピン留め**を有効にします。



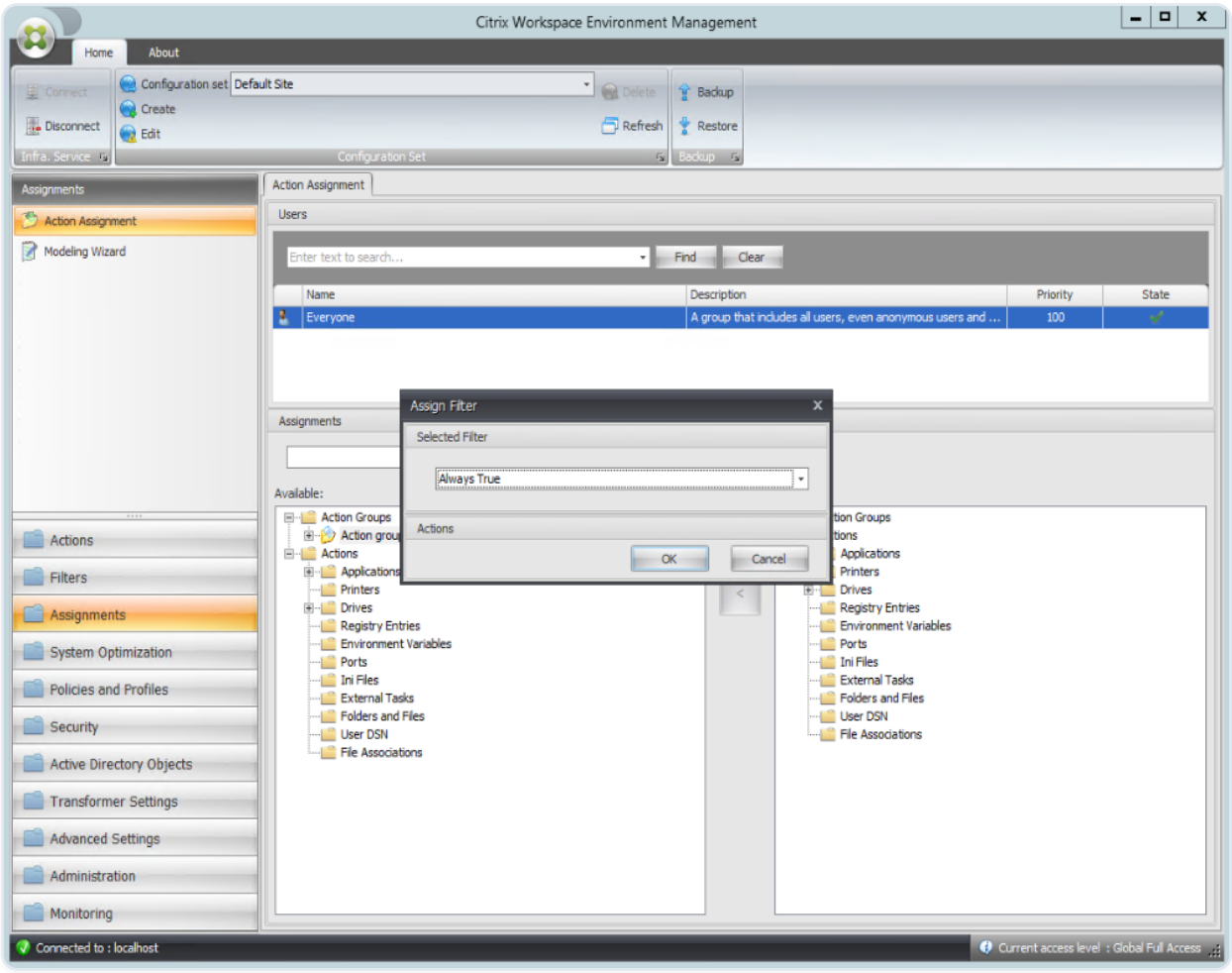
6. **管理コンソール \> 割り当て \> アクションの割り当て**タブに移動し、該当するユーザーをダブルクリックして、**利用可能**ペインと**割り当て済み**ペインにアクション グループを表示します。



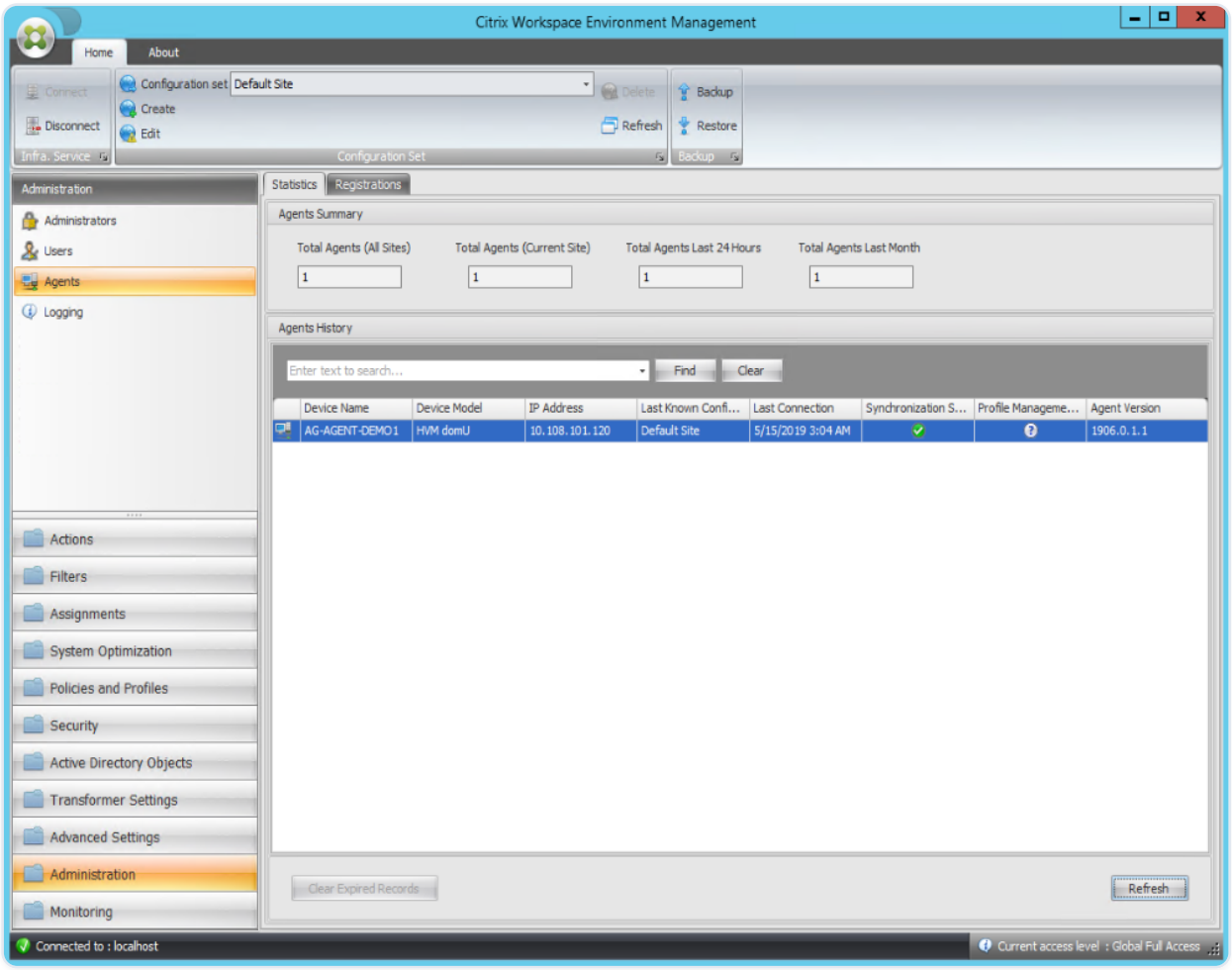
7. **利用可能**ペインで、作成したアクション グループ (この例では「Action group 1」) をダブルクリックして**割り当て済み**ペインに移動します。アクション グループを選択してから右矢印をクリックすることでも移動できます。



8. **フィルターの割り当て**ウィンドウで、**常に True**を選択し、**OK**をクリックします。



9. **管理コンソール > 管理 > エージェント > 統計**タブに移動し、**更新**をクリックします。



10. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで**Refresh Workspace Agent(s)**を選択します。
11. エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）で、構成されたアクションが有効になっていることを確認します。

この例では、2つのアプリケーションがエージェントホストに正常に割り当てられ、そのショートカットがデスクトップに追加され、タスクバーにピン留めされています。

グループポリシー設定

> **重要:**
>
> WEMサービスは現在、`HKEY_LOCAL_MACHINE`および`HKEY_CURRENT_USER`レジストリハイブに関連付けられたグループポリシー設定の追加と編集のみをサポートしています。

> 以前のリリースでは、グループポリシー基本設定 (GPP) のみをWorkspace Environment Management (WEM) に移行できました。詳細については、リボンの**移行**ウィザードの説明

> を参照してください。グループポリシー設定 (レジストリベースの設定) もWEMにインポートできるようになりました。

設定をインポートした後、どのGPOを割り当てるかを決定する前に、各GPOに関連付けられている設定を項目別に表示できます。他のアクションを割り当てるのと同じように、GPOを異なるADグループに割り当てることができます。GPOを個々のユーザーに直接割り当てた場合、設定は有効になりません。グループにはユーザーとマシンを含めることができます。マシンレベルの設定は、関連するマシンがグループに属している場合に有効になります。ユーザーレベルの設定は、現在のユーザーがグループに属している場合に有効になります。

> **ヒント:**
>
> マシンレベルの設定をすぐに有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動します。ユーザーレベルの設定をすぐに有効にするには、ユーザーはログオフしてから再度ログオンする必要があります。

グループポリシー設定

> **注:**
>
> WEMエージェントがグループポリシー設定を適切に処理するには、Citrix WEM User Logon Serviceが有効になっていることを確認してください。

> **グループポリシー設定の処理を有効にする**。WEMがグループポリシー設定を処理できるようにするかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。無効の場合：

- グループポリシー設定を構成できません。
- WEMは、グループポリシー設定がすでにユーザーまたはユーザーグループに割り当てられている場合でも、それらを処理しません。

グループポリシーオブジェクトリスト

既存のGPOのリストが表示されます。**検索**を使用して、名前または説明でリストをフィルタリングします。

- **更新**。GPOリストを更新します。

- **インポート**。**グループポリシー設定のインポート**ウィザードを開き、グループポリシー設定をWEMにインポートできます。
- **編集**。既存のGPOを編集できます。
- **削除**。選択したGPOを削除します。

グループポリシー設定のインポート

グループポリシー設定をインポートする前に、ドメインコントローラーでグループポリシー設定をバックアップしてください。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. **グループポリシーの管理**ウィンドウで、バックアップするGPOを右クリックし、**バックアップ**を選択します。
3. **グループポリシーオブジェクトのバックアップ**ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。必要に応じて、バックアップに説明を付けることができます。
4. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始し、**OK**をクリックします。
5. バックアップフォルダーに移動し、それをzipファイルに圧縮します。

> **注:**
>
> WEMは、複数のGPOバックアップフォルダーを含むzipファイルのインポートもサポートしています。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. WEMサービスの**管理**タブのメニューにある**アップロード**を使用して、GPOのzipファイルをCitrix Cloudのデフォルトフォルダーにアップロードします。
2. **管理コンソール > アクション > グループポリシー設定**タブに移動し、**グループポリシー設定の処理を有効にする**を選択して、**インポート**をクリックし、インポートウィザードを開きます。
3. インポートウィザードの**インポートするファイル**ページで、**参照**をクリックし、リストから該当するファイルを選択します。ファイル名を入力して**検索**をクリックし、ファイルを見つけることもできます。
   - **以前にインポートしたGPOを上書きする**。既存のGPOを上書きするかどうかを制御します。
4. **インポートの開始**をクリックして、インポートプロセスを開始します。

5. インポートが完了したら、**完了**をクリックします。インポートされたGPOは、**グループポリシー設定**タブに表示されます。

レジストリファイルからグループポリシー設定をインポートする

Windowsレジストリエディターを使用してエクスポートしたレジストリ値を、管理および割り当てのためにGPOに変換できます。レジストリエントリで利用できる**レジストリファイルのインポート**オプションに慣れている場合、この機能は次のとおりです。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE`と`HKEY_CURRENT_USER`の両方のレジストリ値をインポートできます。
- `REG_BINARY`および`REG_MULTI_SZ`タイプのレジストリ値をインポートできます。
- .regファイルで定義したレジストリキーと値に関連付けられた削除操作の変換をサポートします。.regファイルを使用してレジストリキーと値を削除する方法については、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/topic/how-to-add-modify-or-delete-registry-subkeys-and-values-by-using-a-reg-file-9c7f37cf-a5e9-e1cd-c4fa-2a26218a1a23>`を参照してください。

開始する前に、次の点に注意してください。

- zipファイルからインポートします。zipファイルには1つ以上のレジストリファイルを含めることができます。解凍されたファイルのサイズが30 MBを超えないようにしてください。
- 各.regファイルはGPOに変換されます。変換された各GPOは、レジストリ設定のセットとして扱うことができます。
- 変換された各GPOの名前は、対応する.regファイルの名前に基づいて生成されます。例：.regファイルの名前が`test1.reg`の場合、変換されたGPOの名前は`test1`です。
- 変換されたGPOの説明は空です。その状態はデフォルトで有効（チェックマークアイコン）になっています。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. アップロードを使用して、レジストリファイルのzipバックアップをCitrix Cloudのデフォルトフォルダーにアップロードします。
2. **レガシーコンソール > アクション > グループポリシー設定**に移動し、**グループポリシー設定処理を有効にする**を選択し、**インポート**の横にある下矢印をクリックして、**レジストリファイルのインポート**を選択します。
3. 表示されるウィザードで、リストからファイルを選択します。ファイル名を入力して**検索**をクリックし、ファイルを見つけることもできます。

- **既存のGPOを上書き**。競合が発生した場合に既存のGPOを上書きするかどうかを制御します。

4. **インポートの開始**をクリックすると、インポートプロセスが開始されます。
5. インポートが完了したら、**完了**をクリックします。レジストリファイルから変換されたGPOは、**グループポリシー設定**に表示されます。

グループポリシー設定の編集

リストからGPOをダブルクリックすると、その設定が項目別に表示され、必要に応じて設定を編集できます。

GPOを複製するには、GPOを右クリックし、メニューから**コピー**を選択します。**コピー**をクリックすると、複製が自動的に作成されます。複製は元の名前を継承し、「-Copy」というサフィックスが付きます。**編集**を使用して名前を変更できます。

編集をクリックすると、**グループポリシーオブジェクトの編集**ウィンドウが表示されます。

名前。GPOリストに表示されるGPOの名前です。

説明。GPOに関する追加情報を指定できます。この情報はGPOリストに表示されます。

レジストリ操作。GPOに含まれるレジストリ操作を表示します。

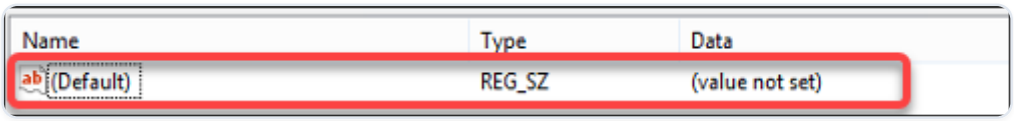
> **警告:**
>
> レジストリベースの設定を誤って編集、追加、削除すると、ユーザー環境で設定が有効にならない可能性があります。

- **追加**。レジストリキーを追加できます。
- **編集**。レジストリキーを編集できます。
- **削除**。レジストリキーを削除できます。

レジストリキーを追加するには、右側の**追加**をクリックします。次の設定が利用可能になります。

- **順序**。レジストリキーの展開順序を指定できます。
- **アクション**。レジストリキーのアクションの種類を指定できます。
  - **値の設定**。レジストリキーの値を設定できます。
  - **値の削除**。レジストリキーの値を削除できます。

    - **キーの作成**。ルートキーとサブパスの組み合わせで指定されたキーを作成できます。
    - **キーの削除**。レジストリキーの下のキーを削除できます。
    - **すべての値を削除**。レジストリキーの下のすべての値を削除できます。
- **ルートキー**。サポートされている値: `HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER`。
- **サブパス**。ルートキーを含まないレジストリキーのフルパス。たとえば、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows` がレジストリキーのフルパスである場合、`Software\Microsoft\Windows` がサブパスです。
- **値**。レジストリ値の名前を指定できます。次の図で強調表示されている項目全体がレジストリ値です。



- **タイプ**。値のデータ型を指定できます。
    - **REG_SZ**。このタイプは、人間が判読できるテキスト値を表すために使用される標準文字列です。
    - **REG_EXPAND_SZ**。このタイプは、アプリケーションによって呼び出されたときに置き換えられる変数を含む展開可能なデータ文字列です。たとえば、次の値の場合、文字列「%SystemRoot%」はオペレーティングシステム内のフォルダーの実際の場所に置き換えられます。
    - **REG_BINARY**。任意の形式のバイナリデータ。
    - **REG_DWORD**。32ビットの数値。このタイプは、ブール値によく使用されます。たとえば、「0」は無効、「1」は有効を意味します。
    - **REG_DWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の32ビット数値。
    - **REG_QWORD**。64ビットの数値。
    - **REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の64ビット数値。
    - **REG_MULTI_SZ**。このタイプは、リストまたは複数の値を含む値を表すために使用されるマルチストリングです。各エントリはNULL文字で区切られます。
- **データ**。レジストリ値に対応するデータを入力できます。データ型によっては、異なる形式で異なるデータを入力する必要がある場合があります。

変更が有効になるまでに時間がかかる場合があります。次の点に注意してください。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE` レジストリハイブに関連付けられた変更は、**Citrix WEM Agent Host Service**が開始されるか、指定された**SQL Settings Refresh Delay**がタイムアウトしたときに有効になります。
- `HKEY_CURRENT_USER` レジストリハイブに関連付けられた変更は、ユーザーがログオンしたときに有効になります。

グループポリシー設定のコンテキスト化

フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化することで、グループポリシー設定を条件付きにすることができます。フィルターは、ルールと複数の条件で構成されます。WEMエージェントは、実行時にユーザー環境でルールのすべての条件が満たされた場合にのみ、割り当てられたグループポリシー設定を適用します。それ以外の場合、エージェントはフィルターを適用する際にそれらの設定をスキップします。

グループポリシー設定を条件付きにする一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 管理コンソールで、 **>** に移動し、条件を定義します。「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/filters.html#conditions)を参照してください。

   > **重要:**
   >
   > 利用可能なフィルター条件の完全なリストについては、「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/reference/filter-conditions.html)を参照してください。グループポリシー設定は、ユーザー設定とマシン設定で構成されます。一部のフィルター条件はユーザー設定にのみ適用されます。これらのフィルター条件をマシン設定に適用すると、WEMエージェントはフィルター条件を無視し、マシン設定を適用します。マシン設定に適用されないフィルター条件の完全なリストについては、「」(#filter-conditions-not-applicable-to-machine-settings)を参照してください。

2. **>** に移動し、フィルタールールを定義します。手順1で定義した条件をそのルールに含めることができます。「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/filters.html#rules)を参照してください。
3. 「**アクション > グループポリシー設定**」に移動し、グループポリシー設定を構成します。
4. 「**管理コンソール > 割り当て > アクションの割り当て**」に移動し、以下を完了します。
   a. 設定を割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。
   b. アプリケーションを選択し、右矢印 (\>) をクリックして割り当てます。

c. 「**フィルターの割り当て**」ウィンドウで、手順2で定義したルールを選択し、「**OK**」をクリックします。設定は「**利用可能**」ペインから「**割り当て済み**」ペインに移動します。

d. 「**割り当て済み**」ペインで、設定の優先度を構成します。優先度を指定するには整数を入力します。値が大きいほど優先度が高くなります。優先度の高い設定は後で処理されるため、競合や依存関係がある場合に有効になります。

マシン設定に適用できないフィルター条件

フィルター名	マシン設定に適用可能
ClientNameの一致	いいえ
クライアントIPアドレスの一致	いいえ
レジストリ値の一致	HKCUで始まるレジストリ値を構成した場合、**レジストリ値の一致**フィルターはマシン設定に適用しても機能しません。
ユーザーの国の一致	いいえ
ユーザーUI言語の一致	いいえ
ユーザーSBCリソースの種類	いいえ
Active Directoryパスの一致	いいえ
Active Directory属性の一致	いいえ
クライアント名不一致	いいえ
クライアントIPアドレス不一致	いいえ
レジストリ値不一致	いいえ
ユーザーの国不一致	いいえ
ユーザーUI言語不一致	いいえ
Active Directoryパス不一致	いいえ
Active Directory属性不一致	いいえ
クライアントリモートOSの一致	いいえ

フィルター名	マシン設定に適用可能
クライアントリモートOS不一致	いいえ
Active Directoryグループの一致	いいえ
Active Directoryグループ不一致	いいえ
公開リソース名	いいえ

アプリケーション

アプリケーションショートカットの作成を制御します。

ヒント:

- Citrix DaaSの完全構成管理インターフェイスを使用して、アプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe**を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。**VUEMAppCmd.exe**は、Citrix DaaS（旧Citrix Virtual Apps and Desktopsサービス）およびCitrix Virtual Apps and Desktopsの公開アプリケーションが起動する前に、Workspace Environment Managementエージェントが環境の処理を完了するようにします。詳細については、「完全構成管理インターフェイスを使用したアプリケーション設定の編集」を参照してください。
- 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

アプリケーションリスト

既存のアプリケーションリソースのリストを表示します。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

アプリケーションを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. **管理コンソール > アクション > アプリケーション > アプリケーションリスト**タブに移動し、**追加**をクリックします。または、空白領域を右クリックし、コンテキストメニューで**追加**を選択します。**新規アプリケーション**ウィンドウが表示されます。
    a. **全般**タブで、必要な情報を入力し、必要に応じてアプリケーションの種類を選択します。

b. **オプション**タブで、アプリケーションのアイコンを追加し、必要に応じて設定を構成します。

c. **詳細設定**タブで、アプリケーションのその他のオプションを構成します。

d. **OK**をクリックして変更を保存し、**新規アプリケーション**ウィンドウを終了します。

2. **管理コンソール > 割り当て > アクション割り当て**タブに移動します。

a. アプリケーションを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。

b. アプリケーションを選択し、右矢印 (\>) をクリックして割り当てます。

c. **フィルターの割り当て**ウィンドウで、**常にTrue**を選択し、**OK**をクリックします。アプリケーションは**利用可能**ペインから**割り当て済み**ペインに移動します。

d. 「**Assigned**」ペインで、アプリケーションに対して次のオプションを1つ以上構成します: 「**Create Desktop**」、「**Create Quick Launch**」、「**Create Start Menu**」、「**Pin To TaskBar**」、「**Pin To Start Menu**」、「**Auto Start**」。

割り当てが有効になるまでには、**Advanced Settings > Configuration > Service Options**タブで**SQL Settings Refresh Delay**に指定した値に応じて時間がかかる場合があります。必要に応じて、割り当てをすぐに有効にするには、次の手順を実行します。

1. **Administration Console > Administration > Agents > Statistics**タブに移動し、**Refresh**をクリックします。
2. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで**Refresh Workspace Agent(s)**を選択します。

一般タブ

名前。アプリケーションリストに表示される、アプリケーションショートカットの表示名。

説明。アプリケーションに関する追加情報を指定できます。

アプリケーションの種類。ショートカットが開くアプリケーションの種類。選択内容によってユーザーインターフェイスが異なります。

- **インストール済みアプリケーション**。ユーザーのマシンにインストールされているアプリケーションを開くショートカットを作成できます。選択すると、以下を完了するように求められます。
  - **コマンドライン**。ユーザーのマシンにあるアプリケーションのフルパスを入力します。**参照**をクリックして、リストされているアプリケーションを表示し、ファイルパスの形式を理解します。

  - **作業ディレクトリ**。ユーザーのマシン上のフォルダーへのフルパスを、アプリケーションの作業フォルダーとして入力します。このフィールドは、**コマンドライン**フィールドにフルパスを入力すると自動的に入力されます。
  - **パラメーター**。必要に応じて、アプリケーションの起動パラメーターを入力します。

- **ファイル/フォルダー**。ユーザーがショートカットアイコンをクリックしたときに、ユーザーのマシン上のターゲットファイルまたはフォルダーを開くショートカットを作成できます。選択すると、以下を完了するように求められます。

  - **ターゲット**。ターゲットファイルまたはフォルダーへのフルパスを入力します。

> **注:**
>
> ドメインに参加していないエージェントを使用している場合、**ターゲット**がネットワーク共有であると、WEMの**アプリケーションの種類**（**ファイル/フォルダー**など）が機能しない可能性があります。

- **URL**。 アプリケーションのURLを追加できます。選択すると、以下を完了するように求められます。

  - **ショートカットURL**。アプリケーションのURLを入力します。

- **StoreFront™ストア**。StoreFrontストアに基づくアプリケーションを追加できます。選択すると、以下を完了するように求められます。

  - **ストアURL**。ショートカットから起動したいリソースを含むStoreFrontストアのURLを入力します。
  - **ストアリソース**。ショートカットから起動したいリソース（StoreFrontストアから利用可能）を追加します。**参照**をクリックして、リソースを参照し、選択します。

> **ヒント:**
>
> StoreFrontストアに基づくアプリケーションを追加するには、有効な資格情報を指定する必要があります。ストアリソースを表示するために初めて**参照**をクリックすると、ダイアログが表示されます。このダイアログでは、Citrix Workspace™ app for Windowsにログオンするために使用する資格情報を入力するよう求められます。その後、ストアリソースウィンドウが表示され、WEM管理コンソールマシンで実行されているCitrix

> Workspace app for Windowsによって取得された公開アプリケーションのリストが表示されます。

スタートメニュー統合。スタートメニューの左側にアプリケーションショートカットを作成する場所を指定できます。デフォルトでは、新しいショートカットは**プログラム**に作成されます。ショートカット用のカスタムフォルダを作成するには、次の手順を実行します。

1. **パスの選択**をクリックして、**スタートメニューパスの選択**ウィンドウを開きます。
2. そのウィンドウで、**プログラム**を右クリックし、コンテキストメニューから**追加**をクリックします。**新しいスタートメニューフォルダの作成**ウィンドウが表示されます。
3. そのウィンドウで、フォルダ名を指定し、**OK**をクリックします。
4. **選択**をクリックして、**スタートメニューパスの選択**ウィンドウを閉じます。

オプションタブ

アイコンファイル。 アプリケーションのアイコンを追加できます。**アイコンの選択**をクリックして、アップロードしたアイコンファイルのフルパスを入力し、リストからパスを選択して、**読み込み**をクリックします。詳細については、「アイコンの選択」を参照してください。アイコンはデータベースに文字列として保存されます。

- **高解像度アイコンのみ**。リストに高解像度アイコンのみを表示します。

アイコンインデックス。このフィールドは自動的に入力されます。

アプリケーションの状態。アプリケーションショートカットが有効になっているかどうかを制御します。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントはそれを処理しません。

- **メンテナンスモード**。有効にすると、ユーザーがアプリケーションショートカットを実行できなくなります。ショートカットアイコンには、ショートカットが利用できないことを示す警告サインが含まれます。ユーザーがショートカットをクリックすると、アプリケーションが利用できないことを通知するメッセージが表示されます。このオプションを使用すると、公開されたアプリケーションがメンテナンス中であるシナリオを、それらのアプリケーションショートカットを無効にしたり削除したりすることなく、プロアクティブに管理できます。

  メンテナンス警告サイン(/en-us/workspace-environment-management/service/media/maintenance-mode-warning-sign.png)

表示名。ユーザー環境に表示されるショートカットの名前です。

ホットキー。ユーザーがアプリケーションを起動するためのホットキーを指定できます。ホットキーは大文字と小文字を区別し、次の形式で入力します（例）：`Ctrl + Alt + S`。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを記述します。

詳細設定タブ

自動自己修復を有効にする。選択すると、ユーザーがアプリケーションショートカットを移動または削除した場合、エージェントは更新時に自動的にショートカットを再作成します。

アイコンの場所を強制する。ユーザーのデスクトップ上のアプリケーションショートカットの正確な場所を指定できます。値はピクセル単位です。

ウィンドウのスタイル。ユーザーのマシンでアプリケーションが最小化、通常、または最大化されたウィンドウで開くかどうかを制御します。

セルフサービスに表示しない。ユーザーのマシンからアクセスできるエージェントメニュー（セルフサービスインターフェイス）からアプリケーションを非表示にします。セッションエージェントがUIモードで実行されている場合、ユーザーはタスクバーのエージェントアイコンを右クリックしてエージェントメニューを開きます。選択すると、**マイアプリケーション**メニューと**アプリケーションの管理**ダイアログの両方からアプリケーションが非表示になります。

> **ヒント:**
>
> **アプリケーションショートカットを有効にする**オプションは、エージェントメニューで**マイアプリケーション**オプションが利用可能かどうかを制御します。このオプションは、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > UIエージェントオプション**タブから利用できます。詳細については、「UIエージェントのパーソナライズ」を参照してください。

ユーザーのお気に入りフォルダーにショートカットを作成。ユーザーの**お気に入り**フォルダーにアプリケーションショートカットを作成します。

スタートメニュービュー

スタートメニュー内のアプリケーションショートカットリソースの場所をツリービューで表示します。

更新。アプリケーションリストを更新します。

移動。アプリケーションショートカットの移動先を選択できるウィザードが開きます。

編集。アプリケーション編集ウィザードが開きます。

削除。選択したアプリケーションショートカットリソースを削除します。

アプリケーションランチャー

アプリケーションランチャーは、管理コンソールを通じてユーザーに割り当てたすべてのアプリケーションを集約します。このツールを使用すると、ユーザーは割り当てられたすべてのアプリケーションを1か所で起動できます。

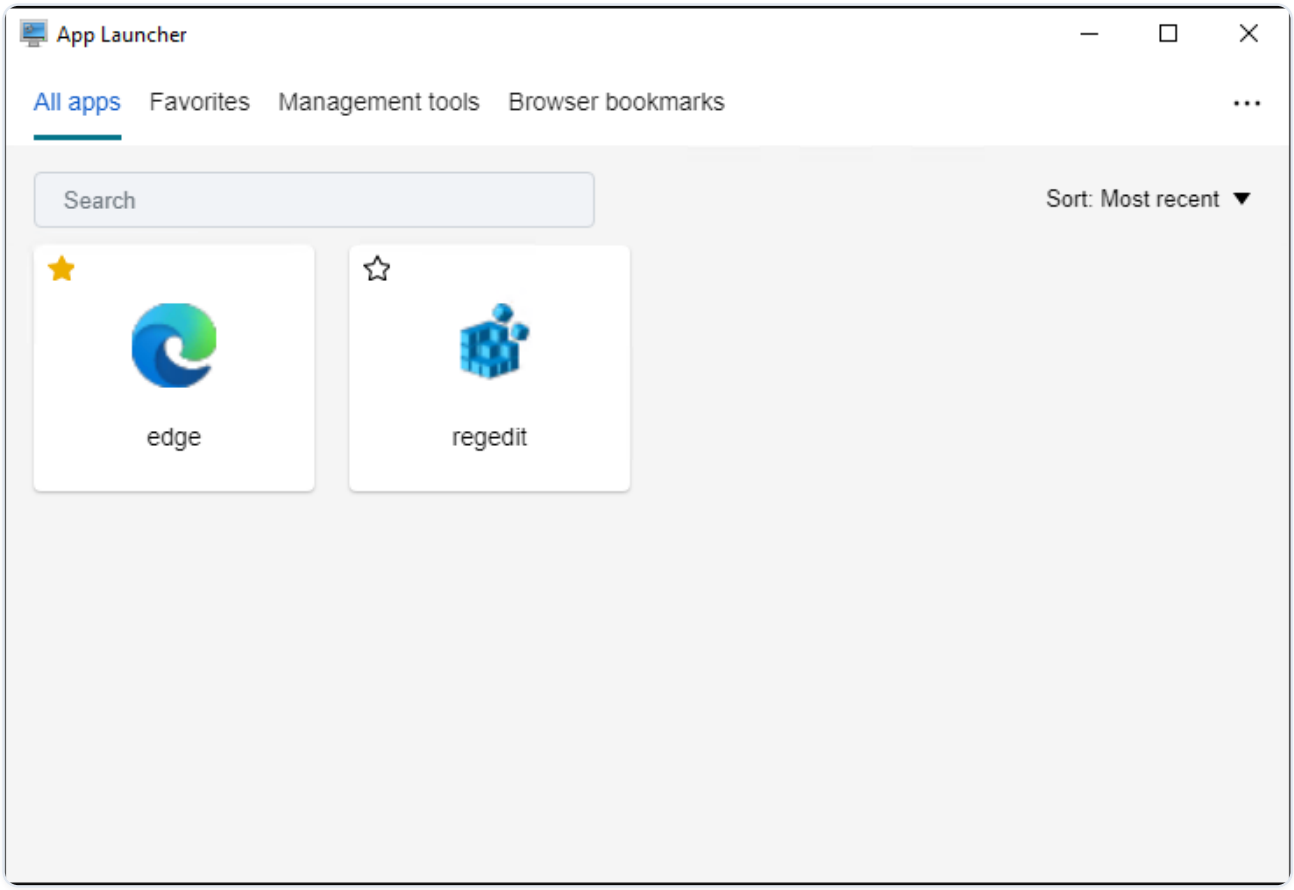
> **ヒント:**

> このツールをCitrix®仮想アプリとして公開することをお勧めします。

> この機能には、次の利点があります。

- 割り当てられたアプリケーションをより速く起動できます。
- ユーザーは、割り当てられたすべてのアプリケーションを1か所で起動できます。
- ユーザーはブックマークしたWebサイトにすばやくアクセスできます。Profile Management を使用すると、ブラウザのブックマークをローミングできます。

ユーザーは、自分の環境でアプリケーションランチャーツール (AppLauncherUtil.exe) を直接開くことができます。このツールは、エージェントのインストールフォルダーにあります: `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\AppLauncherUtil.exe`。ツールを開くと、ユーザーには割り当てられたアプリケーションを反映した次の画面が表示されます。



- **すべてのアプリ**。割り当てられているすべてのアプリケーションが表示されます。利用可能な並べ替えオプション: **最新**、**A-Z**、**Z-A**。
- **お気に入り**。お気に入りとしてマークされたアプリケーションが表示されます。
- 「**管理ツール**」。次の2つのツールが表示されます。
  - 「**Taskmgr**」。タスクマネージャーを開きます。
  - 「**VUEMUIAgent**」。WEM UIエージェントを起動します。
- 「**ブラウザのブックマーク**」。ブラウザのブックマークに保存されているWebサイトを表示します。ブックマークをクリックすると、ユーザーはブラウザを素早く開き、目的のWebサイトにアクセスできます。ブックマークはブラウザごとにグループ化できます。この機能はGoogle ChromeとMicrosoft Edgeのみをサポートしています。利用可能な並べ替えオプション: **最新**、**A-Z**、**Z-A**。
- 「**省略記号アイコン**」。ユーザーがセッションからサインアウトできる**サインアウト**オプションがあります。

割り当てられたアプリケーションがエージェントマシンに存在することを確認してください。割り当てられたアプリケーションがエージェントマシンにインストールされていない場合、そのアプリケーションは表示されますが、起動できません。

エージェントマシンに存在しない割り当て済みアプリ(/en-us/workspace-environment-management/service/media/assigned-app-not-present-on-agent.png)

この機能の使用例については、割り当てられたアプリケーションを1か所に集約するを参照してください。

アイコンを選択するには

アイコンを選択するには、次の手順を実行します。

1. WEMサービスの**管理**タブのメニューにマウスカーソルを合わせます。

   WEMサービスのメニュー(/en-us/workspace-environment-management/service/media/menu-on-wem-service-manage-tab.png)
2. Citrix Workspaceアイコンをクリックします。
3. アップロードアイコンをクリックして、該当するアイコンファイルをCitrix Cloud™フォルダーにアップロードします。

   > **注:**
   >
   > アイコンファイルは後で使用するために保持されません。ファイル数制限に達すると、ファイルが削除される場合があります。必要に応じて、ファイルのローカルコピーを保存してください。ファイル数制限の詳細については、ファイルのアップロードを参照してください。

4. 「**管理コンソール > アクション > アプリケーション > アプリケーションリスト**」タブで、「**追加**」をクリックします。
5. ウィンドウで、**オプション**タブに移動し、**アイコンの選択**をクリックします。
6. **アイコンセレクター**ウィンドウで、アップロードしたアイコンファイルの完全なファイルパスを入力し、ドロップダウンリストからパスを選択して、**読み込み**をクリックします。デフォルトのフォルダーパスは `C:\DefaultUploadFolder\` です。完全なファイルパスは次の形式で入力する必要があります: `C:\DefaultUploadFolder\iconname`。例:

   - `C:\DefaultUploadFolder\iconname.ico`
   - `C:\DefaultUploadFolder\iconname.exe`
7. **アイコンセレクター**ウィンドウで、該当するアイコンを選択し、**OK**をクリックします。

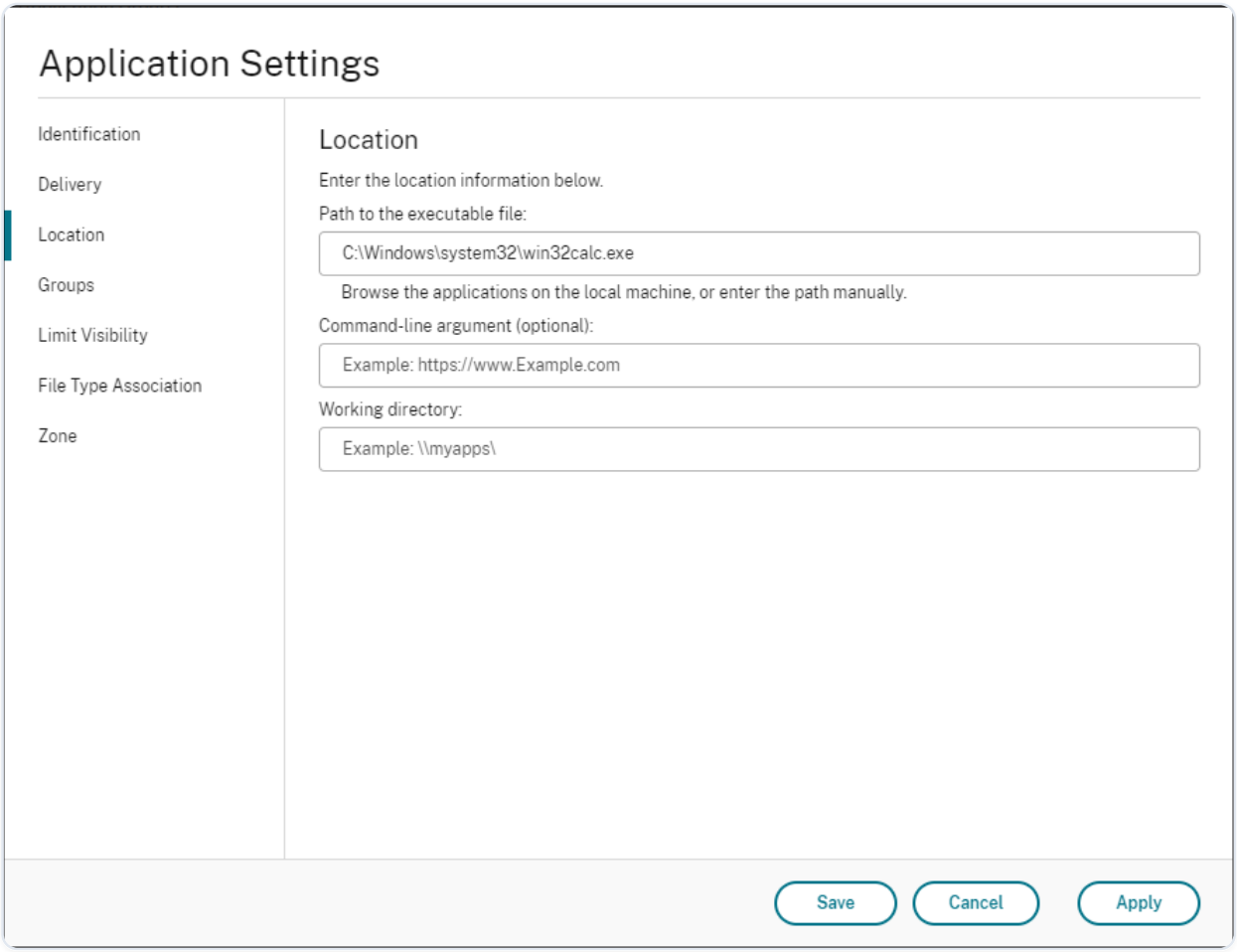
フル構成管理インターフェイスを使用したアプリケーション設定の編集

Workspace Environment Management (WEM) は、発生した問題のトラブルシューティングを行うためのクライアント側ツールを提供します。VUEMAppCMD ツール (**VUEMAppCmd.exe**) は、公開されたアプリケーションが起動する前に WEM エージェントが環境の処理を完了するようにします。これはエージェントのインストールフォルダー `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe` にあります。

> **注:**
>
> 64ビットOSの場合は、代わりに `%ProgramFiles(x86)%` を使用します。

フル構成管理インターフェイスを使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。これを行うには、次の手順を実行します。

1. **アプリケーション**ノードで、アプリケーションを選択し、アクションバーの**プロパティ**をクリックしてから、**場所**ページに移動します。



2. **実行可能ファイルへのパス**フィールドに、`VUEMAppCmd.exe` のパスを入力します。
    - 次のように入力します: `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe`。
3. コマンドライン引数フィールドに、起動するアプリケーションのパスを入力します。
    - **VUEMAppCmd.exe** を介して起動するアプリケーションへの完全なパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲んでください。
    - たとえば、**VUEMAppCmd.exe** を介して **iexplore.exe** を起動したいとします。これを行うには、次のように入力します: `"%ProgramFiles%\Internet Explorer\iexplore.exe"`。

プリンター

このタブでは、プリンターのマッピングを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ネットワークプリンターリスト

既存のプリンターリソースのリスト（一意のID付き）。**検索**を使用して、名前またはIDでプリンターリストをフィルタリングできます。

> **注:**
>
> - WEMサービスは現在、リボン上の ネットワーク印刷サーバーのインポート を使用したプリンターのインポートをサポートしていません。
> - Windows Update がエージェントマシンに KB5005033 をインストールした後、割り当てられたプリンターが動作しません。この問題は、更新プログラムが Windows Print Spooler サービスの自動起動を妨げるために発生します。回避策として、サービスを手動で開始してください。

プリンターを追加するには

1. **ネットワークプリンターリスト**タブで、**追加**をクリックするか、空白の領域を右クリックしてコンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. **新しいネットワークプリンター**ウィンドウで、必要な情報を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。プリンターリストに表示されるプリンターの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるプリンターへのパスです。

プリンターの状態。プリンターが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部資格情報。プリンターに接続するための特定の資格情報を指定できます。

自己修復。エージェントが更新されたときに、プリンターがユーザー向けに自動的に再作成されるかどうかを切り替えます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。「**デバイスマッピングプリンターファイルの使用**」の場合、ターゲットパスとして、XMLプリンターリストファイルへの絶対パスを指定します (「XMLプリンターリストの構成」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/reference/xml-printer-list-configuration.html)を参照)。エージェントが更新されると、アクションキューに追加するプリンターについて、このXMLファイルを解析します。

ネットワークドライブ

ネットワークドライブのマッピングを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ネットワークドライブリスト

既存のネットワークドライブのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ネットワークドライブを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいネットワークドライブ**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ネットワークドライブリストに表示されるドライブの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるネットワークドライブへのパスです。

ネットワークドライブの状態。ネットワークドライブを有効または無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部資格情報。ネットワークドライブに接続するための特定の資格情報を指定できます。

自動自己修復を有効にする。エージェントが更新されたときに、ネットワークドライブがユーザーのために自動的に再作成されるかどうかを切り替えます。

ホームドライブとして設定。

アクションタイプ。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。デフォルトは「ネットワークドライブの割り当て」です。

仮想ドライブ

仮想ドライブのマッピングを制御します。仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングするWindows仮想ドライブまたはMS-DOSデバイス名です。

> **ヒント:**
>
> (/ja-jp/workspace-environment-management/service/reference/dynamic-tokens.html)動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

仮想ドライブリスト

既存の仮想ドライブのリストが表示されます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

仮想ディスクを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. **管理コンソール > アクション > 仮想ドライブ > 仮想ドライブリスト**タブに移動し、**追加**をクリックします。または、空白の領域を右クリックし、コンテキストメニューで**追加**を選択します。**新しい仮想ドライブ**ウィンドウが表示されます。
    a. **全般**タブで、必要な情報を入力し、仮想ドライブをホームドライブとして設定するかどうかを選択します。
    b. **OK**をクリックして変更を保存し、**新しい仮想ドライブ**ウィンドウを終了します。
2. **管理コンソール > 割り当て > アクション割り当て**タブに移動します。
    a. 仮想ドライブを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。
    b. 仮想ドライブを選択し、右矢印（>）をクリックして割り当てます。
    c. **フィルターとドライブ文字の割り当て**ウィンドウで、**常にTrue**を選択し、ドライブ文字を選択して、**OK**をクリックします。（仮想ドライブに次に利用可能なドライブ文字を割り当てる場合は、特定の文字の代わりにアスタリスク（*）文字を選択します。）仮想ドライブは、**利用可能**ペインから**割り当て済み**ペインに移動します。

割り当てが有効になるまでには、**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブで**SQL設定の更新遅延**に指定した値に応じて時間がかかる場合があります。必要に応じて、割り当てをすぐに有効にするには、次の手順を実行します。

1. **管理コンソール > 管理 > エージェント > 統計**タブに移動し、**更新**をクリックします。
2. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで**ワークスペースエージェントの更新**を選択します。

フィールドとコントロール

全般タブ

名前。仮想ドライブリストに表示されるドライブの表示名です。

説明。仮想ドライブに関する追加情報を指定できます。この情報は、編集ウィザードまたは作成ウィザードにのみ表示されます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決される仮想ドライブへのパスを入力します。

> **注:**
>
> ドメインに参加していないエージェントを使用している場合、**ターゲットパス**がネットワーク共有であるとWEMが機能しないことがあります。

> **仮想ドライブの状態**。仮想ドライブを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントはそれを処理しません。

ホームドライブとして設定。ホームドライブとして設定するかどうかを選択できます。

オプションタブ

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを記述します。

レジストリエントリ

レジストリエントリの作成を制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

レジストリ値リスト

既存のレジストリエントリのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

レジストリエントリを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいレジストリ値**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。レジストリエントリリストに表示されるレジストリエントリの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

レジストリ値の状態。レジストリエントリを有効または無効に切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。レジストリエントリが作成されるレジストリの場所です。Workspace Environment Management は現在のユーザーのレジストリエントリのみを作成できるため、値の前に %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER を付ける必要はありません。これは自動的に行われます。

ターゲット名。レジストリに表示されるレジストリ値の名前です（例：NoNtSecurity）。

ターゲットの種類。作成されるレジストリエントリの種類です。

ターゲット値。作成されたレジストリエントリの値（例: 0 または C:\Program Files）

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにレジストリエントリを作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management はレジストリエントリを更新ごとにではなく、最初の更新時に一度だけ作成します。これにより、特に多くのレジストリエントリがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

レジストリファイルのインポート

レジストリファイルを割り当て用のレジストリエントリに変換できます。この機能には、次の制限があります。

- `HKEY_CURRENT_USER` の下のレジストリ値のみをサポートします。レジストリエントリ機能では、`HKEY_CURRENT_USER` の下のレジストリ設定のみを割り当てることができます。
- `REG_BINARY` および `REG_MULTI_SZ` 型のレジストリ値はサポートしていません。

これらの制限を回避するには、**グループポリシー設定**の**レジストリファイルのインポート**オプションを使用して、レジストリファイルをWEMにインポートすることをお勧めします。詳細については、「レジストリファイルからグループポリシー設定をインポートする」を参照してください。

レジストリファイルをインポートするには、次の手順を実行します。

1. アップロード を使用して、インポートするレジストリファイルをアップロードします。ファイルはCitrix Cloudのデフォルトフォルダに表示されます。
2. **レガシーコンソール > アクション > レジストリエントリ**に移動します。
3. リボンで、**レジストリファイルのインポート**をクリックします。

4. **レジストリファイルからインポート**ウィンドウで、リストから目的のレジストリファイルを選択します。ファイル名を入力し始めてから**検索**をクリックして、ファイルを見つけることもできます。
5. **スキャン**をクリックして、レジストリファイルのスキャンを開始します。スキャンが正常に完了すると、レジストリ設定のリストが表示されます。
6. インポートするレジストリ設定を選択し、**選択した項目をインポート**をクリックしてインポートプロセスを開始します。
7. 「**OK**」をクリックして終了します。

フィールドとコントロール

レジストリファイル名。**.reg**ファイルに移動して**開く**をクリックすると、自動的に入力されます。**.reg**ファイルには、WEMにインポートするレジストリ設定が含まれています。**.reg**ファイルは、インポートしたいレジストリ設定のみが適用されたクリーンな環境から生成されている必要があります。

スキャン。**.reg**ファイルをスキャンし、そのファイルに含まれるレジストリ設定のリストを表示します。

レジストリ値リスト。インポートしたい**.reg**ファイルに含まれるすべてのレジストリ値を一覧表示します。

インポートされたアイテムを有効にする。無効になっている場合、新しくインポートされたレジストリキーはデフォルトで無効になります。

インポートされたアイテム名にプレフィックスを付ける。選択すると、このウィザードを通じてインポートされたすべてのレジストリアイテムの名前にプレフィックスが追加されます（例：「XP ONLY」または「finance」）。これにより、レジストリエントリの識別と整理が容易になります。

> **注:**
>
> ウィザードは、同じ名前のレジストリエントリをインポートできません。**.reg**ファイルに同じ名前のレジストリエントリが複数含まれている場合（レジストリ値リストに表示されているとおり）、それらのエントリのいずれかを選択してインポートします。他のものをインポートしたい場合は、名前を変更してください。

環境変数

環境変数の作成を制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

環境変数リスト

既存の環境変数の一覧です。**検索**を使用して、テキスト文字列で名前またはIDによってリストをフィルタリングできます。

環境変数を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しい環境変数**ダイアログタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。環境変数リストに表示される変数の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

環境変数の状態。環境変数が有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

変数名。環境変数の機能名です。

変数値。環境変数の値です。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

実行順序。

ポート

ポート機能を使用すると、クライアントCOMポートとLPTポートのマッピングが可能になります。Citrix Studioポリシーを使用して、COMポートとLPTポートの自動接続を有効にすることもできます。詳細については、「ポートリダイレクトポリシー設定」を参照してください。

ポート機能を使用して各ポートのマッピングを手動で制御する場合は、Citrix StudioでクライアントcomポートリダイレクトまたはクライアントLPTポートリダイレクトポリシーを有効にするこ

とを忘れないでください。デフォルトでは、COMポートリダイレクトとLPTポートリダイレクトは禁止されています。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用すると、Workspace Environment Managementアクションを拡張して、より強力にすることができます。

ポートリスト

既存のポートのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ポートを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. **新しいポート**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ポートリストに表示されるポートの表示名です。

説明。編集/作成ウィザードにのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ポートの状態。ポートを有効または無効に切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ポート名。ポートの機能名です。

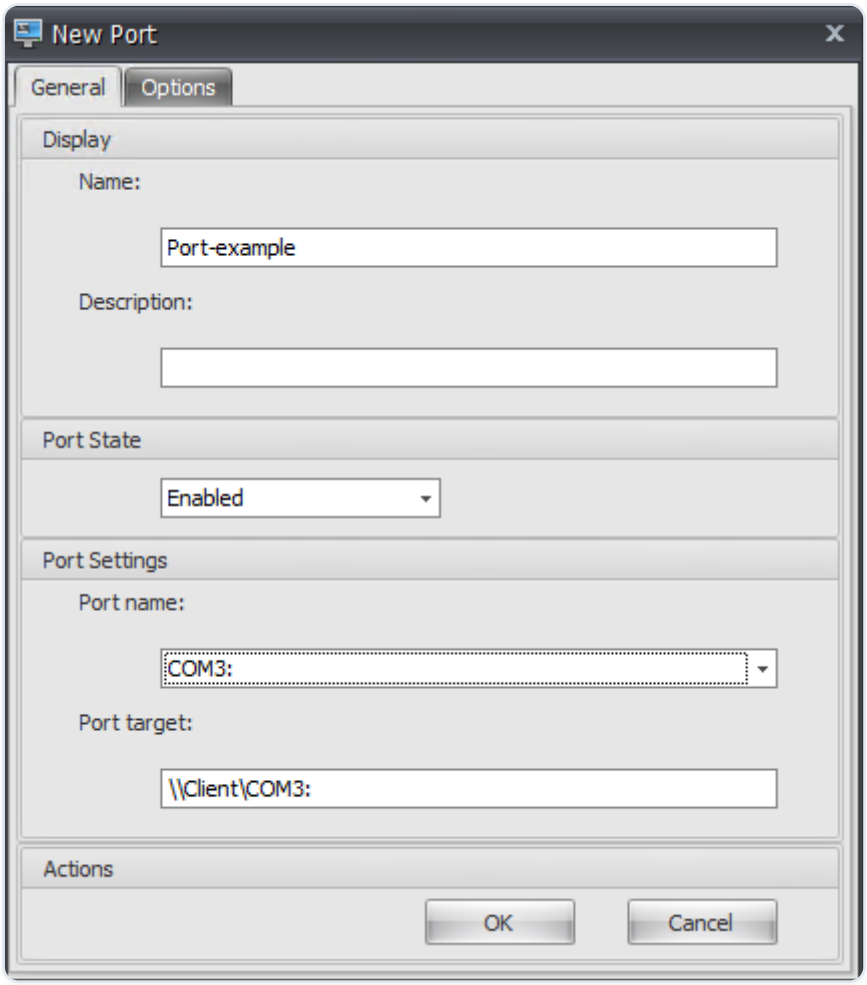
ポートターゲット。ターゲットポートです。

「オプション」タブ

アクションの種類。このリソースが実行するアクションの種類を記述します。

たとえば、ポート設定を次のように構成できます。

- **ポート名**: 「COM3:」を選択します
- **ポートターゲット**: `\\Client\COM3:` と入力します:



Ini ファイル

.ini ファイル操作の作成を制御し、**.ini** ファイルを変更できるようにします。

> **ヒント:**

> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

Ini ファイル操作リスト

既存の **.ini** ファイル操作のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

.ini ファイル操作を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しい Ini ファイル操作**ダイアログタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。.ini ファイル操作の表示名で、**Ini ファイル操作**リストに表示されます。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

.ini ファイル操作の状態。.ini ファイル操作が有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるときに変更される .ini ファイルの場所を指定します。

> **注:**
>
> ドメインに参加していないエージェントを使用している場合、**ターゲットパス**がネットワーク共有であるとWEMが機能しない可能性があります。

> **ターゲットセクション**。この操作のターゲットとなる .ini ファイルのセクションを指定します。存在しないセクションを指定した場合、そのセクションが作成されます。

ターゲット値名。追加される値の名前を指定します。

ターゲット値。値そのものを指定します。

1回実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびに .ini ファイル操作を実行します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management は更新ごとにではなく、操作を1回だけ実行するようになります。この操作により、特に多くの .ini ファイル操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

外部タスク

外部タスクの実行を制御します。外部タスクには、エージェントホストがそれらを実行するための対応するプログラムを持っている限り、スクリプトやアプリケーションの実行が含まれます。一般的に使用されるスクリプトには、**.vbs** および **.cmd** スクリプトがあります。

外部タスク機能を使用すると、外部タスクを実行するタイミングを指定できます。これにより、ユーザー環境をより効果的に管理できます。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

外部タスクリスト

既存の外部タスクのリストです。**検索** を使用してリストをフィルタリングできます。

外部タスクを追加するには

1. コンテキストメニューの **追加** コマンドを使用します。
2. **新しい外部タスク** ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK** をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。外部タスクの表示名を指定します。これは外部タスクリストに表示されます。

説明。外部タスクに関する追加情報を指定します。

パス。外部タスクへのパスを指定します。パスはユーザー環境で解決されます。以下を確認してください。

- ここで指定したパスがエージェントホストと一致していること。
- エージェントホストがタスクを実行するための対応するプログラムを持っていること。

引数。起動パラメーターまたは引数を指定できます。文字列を入力できます。この文字列には、ターゲットスクリプトまたはアプリケーションに渡す引数が含まれます。**パス**フィールドと**引数**フィールドの使用例については、「外部タスクの例」を参照してください。

> **注:**
>
> ドメインに参加していないエージェントを使用している場合、**パス**または**引数**でネットワーク共有が使用されていると、WEMが機能しない可能性があります。

> **外部タスクの状態**。外部タスクを有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、タスクがユーザーに割り当てられていても、エージェントはそのタスクを処理しません。

非表示で実行。選択すると、タスクはバックグラウンドで実行され、ユーザーには表示されません。

1回実行。選択すると、**トリガー**タブでどのオプションを選択したか、およびエージェントが再起動したかどうかにかかわらず、WEMはタスクを1回だけ実行します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

実行順序。各タスクの実行順序を指定できます。このオプションは、複数のタスクがユーザーに割り当てられており、それらのタスクの一部が他のタスクの正常な実行に依存している場合に役立ちます。デフォルトでは、値は0です。実行順序の値が0のタスクが最初に実行され、次に値が1のタスク、次に値が2のタスクというように実行されます。

タスク完了を待機。エージェントがタスクの完了を待機する時間を指定できます。デフォルトでは、**待機タイムアウト**の値は30秒です。

アクションの種類。外部タスクがどのような種類のアクションであるかを記述します。

ユーザーセッショントリガー。この機能を使用すると、以下のセッションアクティビティを外部タスクのトリガーとして構成できます。

- **更新**。ユーザーがエージェントを更新したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- **再接続**。ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。WEMエージェントが物理Windowsデバイスにインストールされている場合、このオプションは適用されません。
- **ログオン**。ユーザーがログオンしたときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- **ログオフ**。ユーザーがログオフしたときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。Citrix User Logon Serviceが実行されていない限り、このオプションは機能しません。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- **切断**。ユーザーがエージェントが実行されているマシンから切断したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- **ロック**。ユーザーがエージェントが実行されているマシンをロックしたときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- **ロック解除**。エージェントが実行されているマシンをユーザーがロック解除したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

切断、ロック、およびロック解除のオプションを使用する場合は、以下の制約事項を考慮してください。

- これらのオプションの実装は、Windowsイベントに基づいています。一部の環境では、これらのオプションが期待どおりに機能しない場合があります。たとえば、Windows 10またはWindows 11のシングルセッションVDAで実行されているデスクトップでは、切断オプションは機能しません。代わりに、ロックオプションを使用してください。(このシナリオでは、受信するアクションは「ロック」です。)
- これらのオプションはUIエージェントと併用することをお勧めします。理由は2つあります。
  - CMDエージェントでこれらのオプションを使用すると、対応するイベントが発生するたびに、エージェントがユーザー環境で起動し、外部タスクが実行されるかどうかを確認します。
  - CMDエージェントは、同時タスクのシナリオでは最適に機能しない可能性があります。

ユーザープロセスによるトリガー。この機能を使用すると、ユーザープロセスを外部タスクのトリガーとして構成できます。この機能を使用すると、特定のプロセスが実行されている場合にのみリソースを供給し、プロセスが終了したときにそれらのリソースを取り消すように外部タスクを定義できます。外部タスクのトリガーとしてプロセスを使用すると、ログオンまたはログオフ時に外部タスクを処理する場合と比較して、ユーザー環境をより正確に管理できます。

- この機能を使用する前に、以下の前提条件が満たされていることを確認してください。
  - WEMエージェントがUIモードで起動および実行されていること。
  - 指定されたプロセスが、ログオンしているユーザーと同じユーザーセッションで実行されていること。
  - 構成された外部タスクを最新の状態に保つには、 **> >** タブで を選択してください。
- **プロセス開始時に実行**。指定されたプロセスが開始したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。
- **プロセス終了時に実行**。指定されたプロセスが終了したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。

トラブルシューティング

この機能を有効にすると、ユーザーが最初にログオフしたときに、WEMエージェントは`Citrix WEM Agent Logoff.log`という名前のログファイルを作成します。ログファイルはユーザーのプロファイルルートフォルダーにあります。WEMエージェントは、ユーザーがログオフするたびにログファイルに情報を書き込みます。この情報は、外部タスクに関連する問題を監視およびトラブルシューティングするのに役立ちます。

外部タスクの例

スクリプトの場合（例：PowerShellスクリプト）：

- フォルダーパスもスクリプト名も空白を含まない場合：
  - **パス**フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
  - **引数**フィールドに、次のように入力します: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

  あるいは、**パス**フィールドにスクリプトファイルへのパスを直接入力することもできます。例: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。**引数**フィールドには、必要に応じて引数を指定します。ただし、スクリプトファイルが実行されるか、別のプログラムで開かれるかは、ユーザー環境で構成されているファイルの種類に関連付けによって異なります。ファイルの種類に関連付けの詳細については、「ファイル関連付け」を参照してください。
- フォルダーパスまたはスクリプト名に空白が含まれる場合：
  - **パス**フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
  - **引数**フィールドに、次のように入力します: `-file C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

アプリケーションの場合（例：iexplore.exe）：

- **パス**フィールドに、次のように入力します: `C:\Program Files\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。
- **引数**フィールドに、開くWebサイトのURLを入力します: `https://docs.citrix.com/`。

ファイルシステム操作

フォルダーとファイルのユーザー環境へのコピーを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイルシステム操作リスト

既存のファイルおよびフォルダー操作のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルターできます。

ファイルシステム操作を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいファイルシステム操作**ダイアログタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。リストに表示されるファイルまたはフォルダー操作の表示名です。

説明。リソースに関する追加情報を指定できます。このフィールドは、編集または作成ウィザードにのみ表示されます。

ファイルシステム操作の状態。ファイルシステム操作が有効か無効かを制御します。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ソースパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーへのパスです。

ターゲットパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーの宛先パスです。

> **注:**

> ドメインに参加していないエージェントを使用している場合、**ソースパス**または**ターゲットパス**でネットワーク共有が使用されていると、WEMが機能しない可能性があります。

> **既存の場合にターゲットを上書き**。ファイルまたはフォルダー操作が、ターゲットの場所に同じ名前の既存のファイルまたはフォルダーを上書きするかどうかを制御します。このオプションをオフにすると、ターゲットの場所に同じ名前のファイルまたはフォルダーが既に存在する場合、影響を受けるファイルはコピーされません。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにファイルシステム操作を実行します。このオプションを選択すると、Workspace Environment Management は更新ごとにではなく、一度だけ操作を実行します。これにより、特に多くのファイルシステム操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このファイルまたはフォルダーアクションがどのような種類のアクションであるかを記述します: **コピー**、**削除**、**移動**、**名前の変更**、または**シンボリックリンク**操作。シンボリックリンクを作成するには、Windows でシンボリックリンクの作成を許可するために、ユーザーに `SeCreateSymbolicLinkPrivilege` 権限を付与する必要があります。

実行順序。操作の実行順序を決定し、特定の操作を他の操作より先に実行させます。実行順序の値が0の操作が最初に実行され、次に値が1の操作、次に値が2の操作、というように続きます。

ユーザーDSN

ユーザーDSNの作成を制御します。

> **ヒント:**
>
> (/ja-jp/workspace-environment-management/service/reference/dynamic-tokens.html) を使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ユーザーDSNリスト

既存のユーザーDSNのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ユーザーDSNを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいユーザーDSN**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ユーザーDSNリストに表示されるユーザーDSNの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ユーザーDSNの状態。ユーザーDSNを有効または無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

DSN名。ユーザーDSNの機能名です。

ドライバー。DSNドライバー。現在、SQL Server DSNのみがサポートされています。

サーバー名。ユーザーDSNが接続するSQL Serverの名前です。

データベース名。ユーザーDSNが接続するSQLデータベースの名前。

特定の資格情報を使用して接続。サーバー/データベースに接続するための資格情報を指定できます。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにユーザーDSNを作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management は、更新のたびにではなく、ユーザーDSNを一度だけ作成します。これにより、特に多くのDSNがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

ファイル関連付け

> **重要:**

> 構成したファイルの種類関連付けは、自動的に既定の関連付けになります。ただし、該当するファイルを開くと、「このファイルを開く方法を選んでください」というウィンドウが表示され、ファイルを開くアプリケーションを選択するよう求められる場合があります。ウィンドウを閉じるには、**OK**をクリックします。同様のウィンドウを再度表示させたくない場合は、次の手順を実行します。グループポリシーエディターを開き、**「新しいアプリケーションがインストールされました」という通知を表示しない**ポリシー（**コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windows コンポーネント > エクスプローラー**）を有効にします。

> ユーザー環境におけるファイルの種類関連付けの作成を制御します。

> **ヒント:**

> 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイル関連付けリスト

既存のファイル関連付けのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルターできます。

ファイル関連付けを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいファイル関連付け**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

名前。ファイル関連付けリストに表示される、ファイル関連付けの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ファイル関連付けの状態。ファイル関連付けが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ファイル拡張子。このファイルの種類関連付けに使用される拡張子です。リストからファイル名拡張子を選択すると、**ProgID**フィールドが自動的に入力されます（管理コンソールが実行されているマシンにファイルの種類が存在する場合）。拡張子を直接入力することもできます。ただし、ブラウザー関連付けの場合は、拡張子を直接入力する*必要があります*。詳細については、ブラウザー関連付けを参照してください。

ProgID。アプリケーション（COM）に関連付けられたプログラム識別子です。リストからファイル拡張子を選択すると、この値が自動的に入力されます。ProgIDを直接入力することもできます。インストールされているアプリケーションのProgIDを検出するには、OLE/COM Object Viewer (oleview.exe) を使用し、Object Classes/Ole 1.0 Objects を参照してください。ProgIDの詳細については、プログラム識別子 (ProgID)を参照してください。

アクション。アクションの種類（開く、編集、印刷）を選択できます。

ターゲットアプリケーション。このファイル名拡張子で使用される実行可能ファイルを指定できます。実行可能ファイルのフルパスを入力します。たとえば、UltraEdit Text Editor の場合: `C:\Program Files\IDM Computer Solutions\UltraEdit\uedit64.exe`

コマンド。実行可能ファイルに関連付けるアクションの種類を指定できます。たとえば、次のとおりです。

- 開くアクションの場合、「`“%1”`」と入力します。
- 印刷アクションの場合、「`/p"%1"`」と入力します。

デフォルトアクションとして設定。そのファイル名拡張子のデフォルトとして関連付けを設定するかどうかを切り替えます。

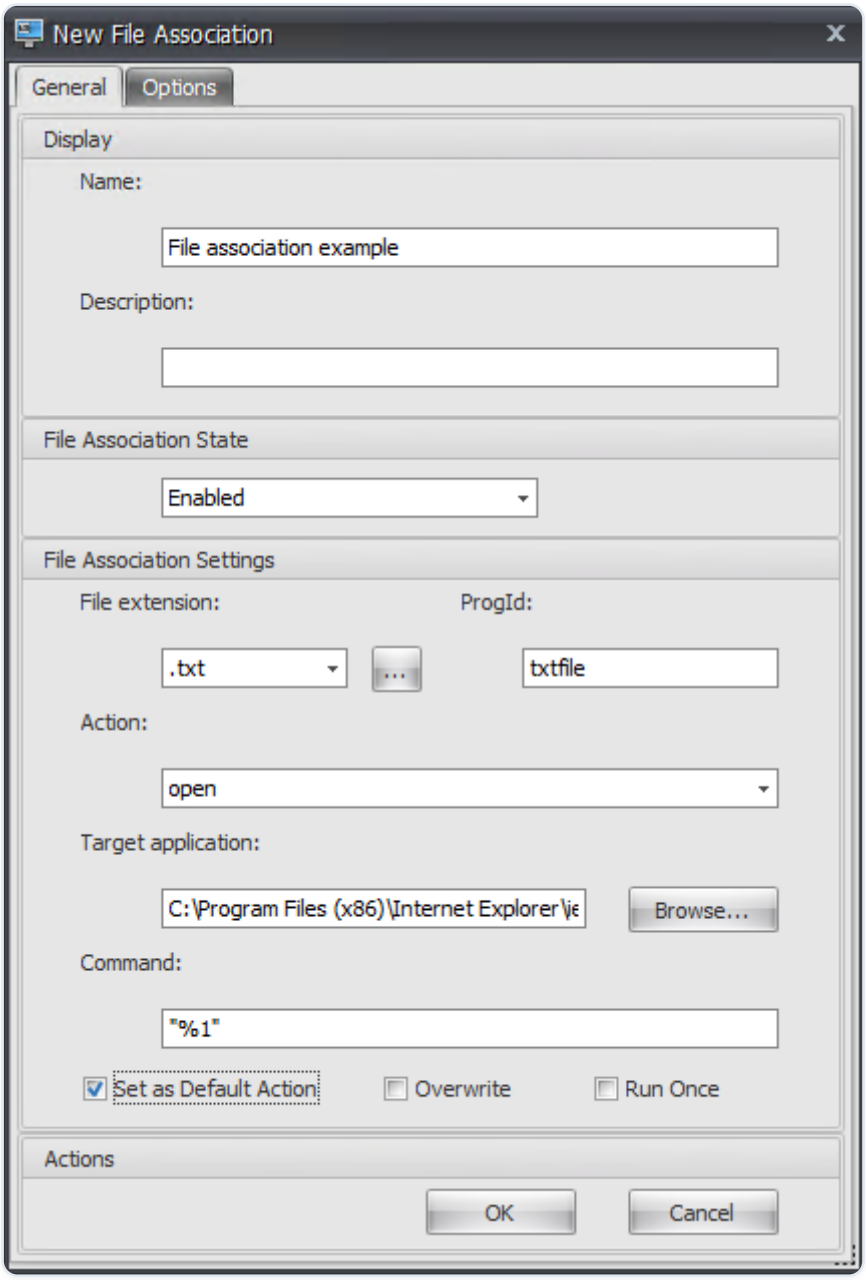
上書き。このファイル関連付けが、指定された拡張子の既存の関連付けを上書きするかどうかを切り替えます。

1回実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ (WEM) はエージェントが更新されるたびにファイル関連付けを作成します。このオプションを選択すると、更新ごとにではなく、ファイル関連付けを1回だけ作成します。これにより、特に多くのファイル関連付けがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

たとえば、ユーザーが選択したプログラム (ここでは iexplore.exe) でテキストファイル (.txt) を自動的に開くように、新しいファイルタイプ関連付けを追加するには、次の手順を実行します。

1. **管理コンソール \> アクション \> ファイル関連付け \> ファイル関連付けリスト**タブで、**追加**をクリックします。
2. **新しいファイル関連付け**ウィンドウで、情報を入力し、**OK**をクリックします。



- **ファイル関連付けの状態**。**有効**を選択します。
- **ファイル拡張子**。ファイル名拡張子を入力します。この例では、「.txt」と入力します。
- **アクション**。**開く**を選択します。
- **ターゲットアプリケーション**。**参照**をクリックして、該当する実行可能ファイル (.exe ファイル) に移動します。この例では、C:\Program Files (x86)\Internet Explorer フォルダーにある iexplore.exe を参照します。
- **コマンド**。「%1」と入力し、%1 を二重引用符で囲んでください。
- **既定のアクションとして設定**を選択します。

3. **管理コンソール \> 割り当て \> アクションの割り当て**タブに移動します。
4. アクションを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。

5. **管理コンソール \> 管理 \> エージェント \> 統計**タブに移動し、**更新**をクリックします。
6. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで**ワークスペースエージェントの更新**を選択します。
7. エージェントが実行されているマシン (ユーザー環境) に移動し、作成されたファイルタイプの関連付けが機能することを確認します。

この例では、エンドユーザー環境で .txt 拡張子のファイルをダブルクリックすると、そのファイルは自動的に Internet Explorer で開きます。

知っておくと良いこと

ブラウザの関連付け

WEM は、次のブラウザの関連付けの作成をサポートしています。

- グーグル クローム
- ファイアフォックス
- オペラ
- インターネット エクスプローラー (IE)
- マイクロソフト エッジ
- マイクロソフト エッジ クロミウム

ブラウザーの関連付けを作成する際は、次の点に注意してください。

- **ファイル拡張子**フィールドに、`http` または `https` と入力します。
- **ProgID**フィールドに、選択内容に基づいて次のように入力します（大文字と小文字を区別します）。
  - Google Chrome の場合は `ChromeHTML`
  - Firefox の場合は `firefox`
  - Opera の場合は `OperaStable`
  - Internet Explorer (IE) の場合は `IE`
  - Microsoft Edge の場合は `edge`
  - Microsoft Edge Chromium の場合は `edge` または `MSEdgeHTM`

> **注:**

- Google Chrome のブラウザー関連付けが機能することを確認するには、エージェントホスト上のブラウザーが管理者によってインストールされていることを確認します。そうでない場合は、管理者としてマシンにログオンし、ブラウザーを再インストールします。これは、ブラウザーがユーザー（管理者以外）によってインストールされている場合、ProgID が `ChromeHTML` ではなく `ChromeHTML.<X>` になるためです。「X」は、ユーザー固有のグローバル一意識別子 (GUID) を示します（例: `JLKDKPPE7UYB4JTWJS73YQWTD4`）。
- Microsoft Edge のブラウザー関連付けは、Windows 10 オペレーティングシステムの特定のバージョンに含まれる、組み込みのデフォルトの Microsoft Edge インスタンスでのみ機能します。ブラウザーを新しいバージョンにアップグレードすると、構成された関連付けは有効になりません。回避策については、Knowledge Center の記事 CTX269675 を参照してください。

プログラム識別子 (ProgID)

アクション、**ターゲットアプリケーション**、**コマンド**の各フィールドに入力する必要はなくなりました。正しい **ProgID** を指定できる限り、これらのフィールドは空のままにすることができます。一般的なアプリケーションの ProgID のリストを以下に示します。

- アクロバットリーダーDC: `AcroExch.Document.DC`
- Opera ブラウザー: `OperaStable`
- Google Chrome ブラウザ: `ChromeHTML`
- インターネットエクスプローラー: `htmlfile`
- ワードパッド: `textfile`
- メモ帳: `txtfile`
- マイクロソフト Word 2016： `Word.Document.12`
- マイクロソフト PowerPoint 2016： `PowerPoint.Show.12`
- マイクロソフト Excel 2016： `Excel.Sheet.12`
- マイクロソフト Visio 2016： `Visio.Drawing.15`
- マイクロソフト パブリッシャー 2016： `Publisher.Document.16`

ただし、次の場合はフィールド (**アクション**、**ターゲットアプリケーション**、**コマンド**) に入力する必要があります。

- 正しい **ProgID** を指定できない場合。

- ターゲットアプリケーション (例: UltraEdit テキストエディター) がインストール中に独自の ProgID をレジストリに登録しない場合。

詳細情報

ファイルの種類のアソシエーションを構成する方法の例については、ファイルの種類のアソシエーションを構成するを参照してください。

フィルター

フィルターには、アクションをユーザーが利用できるようにする（アクションを割り当てる）ためのルールと条件が含まれています。アクションをユーザーに割り当てる前に、ルールと条件を設定してください。

ルール

ルールは複数の条件で構成されます。ルールを使用して、アクションをユーザーに割り当てるタイミングを定義します。

フィルター規則リスト

既存のルールのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルターできます。

フィルター規則を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいフィルター規則**ダイアログに詳細を入力します。
3. このルールで構成したい条件を、**利用可能**リストから**構成済み**リストに移動します。
4. **OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ルールリストに表示されるルールの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、ルールに関する追加情報を指定できます。

フィルター規則の状態。ルールを有効または無効にするかを切り替えます。無効にすると、エージェントは割り当てられていても、このルールを使用するアクションを処理しません。

利用可能な条件。これらは、ルールに追加できるフィルター条件です。注：**DateTime**フィルターは、`YYYY/MM/DD HH:mm`の形式で結果を期待します。

複数の値はセミコロン (;) で区切り、範囲はハイフンで区切ることができます。同じ日付の2つの時刻間の範囲を指定する場合、日付は範囲の両端に含める必要があります。例: 1969/12/31 09:00-1969/12/31 17:00

構成済み条件。これらは、すでにルールに追加されている条件です。

> **注:**
>
> これらの条件は**AND**ステートメントであり、**OR**ステートメントではありません。複数の条件を追加する場合、フィルターがトリガーされたと見なされるには、それらすべてがトリガーされる必要があります。

条件

条件とは、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を構成できる特定のトリガーです。

フィルター条件リスト

既存の条件のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルターできます。

フィルター条件を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいフィルター条件**ダイアログタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。条件の表示名で、条件リストおよびルール作成/編集ウィザードに表示されます。

説明。このフィールドは編集/作成ウィザードでのみ表示され、条件に関する追加情報を指定できます。

フィルター条件の状態。フィルターを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ルール作成/編集ウィザードには表示されません。

フィルター条件タイプ。使用するフィルター条件のタイプです。「フィルター条件」を参照してください。注: 「常にTrue」条件を使用するルールは常にトリガーされます。

設定。これらは個々の条件の特定の設定です。「フィルター条件」を参照してください。

注:

- IPアドレスを入力する場合、個々のアドレスまたは範囲を指定できます。
- If you specify a range, both bounds must be specified in full. Use the dash character (**-**) to separate IP range bounds (e.g. **192.168.10.1-192.168.10.5**). Separate multiple ranges or addresses using the semicolon character (**;**) . For example, **192.168.10.1-192.168.10.5;192.168.10.8-192.168.10;192.168.10.17** is a valid value which includes the ranges **.1-.5** and **.8-.10**, plus the individual address **.17**.

割り当て

ヒント:

ユーザーにアクションを割り当てる前に、以下の手順を記載されている順序で実行してください。

- ユーザーを構成します。Active Directoryオブジェクトのユーザーを参照してください。
- 条件を定義します。フィルターを参照してください。
- フィルター規則を定義します。フィルターを参照してください。
- アクションを構成します。この記事を参照してください。

割り当てを使用して、ユーザーがアクションを利用できるようにします。これにより、ユーザーのログオンスクリプトの一部を置き換えることができます。

アクションの割り当て

ユーザー

これは、構成済みのユーザーとグループのリストです (Active Directoryオブジェクトのユーザーを参照)。ユーザーまたはグループをダブルクリックして、割り当てメニューを表示します。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルター処理します。

ヒント:

> Active Directory内のすべてのユーザーにアクションを割り当てるのを簡素化するには、「Everyone」デフォルトグループを使用してアクションを割り当てます。「Everyone」デフォルトグループに割り当てたアクションは、個々のユーザーの**アクションモデリングウィザード**の**結果アクション**タブには表示されません。たとえば、「Everyone」デフォルトグループにaction1を割り当てた後、action1が**結果アクション**タブに表示されない場合があります。

割り当て

選択したユーザーまたはグループにアクションを割り当てることができます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルター処理します。

利用可能。このユーザーまたはグループに割り当て可能なアクションを表示します。

アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、割り当てまたは割り当て解除を行います。アクションを割り当てると、そのアクションをコンテキスト化するためのルールを選択するよう求められます。

> **注:**

> WEMは、ネットワークドライブに次に利用可能なドライブ文字を自動的に割り当てることをサポートしています。ネットワークドライブを割り当てる際、**フィルターとドライブ文字の割り当て**ウィンドウでアスタリスク (*) 文字を選択すると、WEMがそのネットワークドライブに次に利用可能なドライブ文字 (利用可能な任意のドライブ文字) を自動的に割り当てます。

> **割り当て済み**。このユーザーまたはグループにすでに割り当てられているアクションを表示します。個々のアクションを展開して、それらを構成できます（アプリケーションショートカットの場所、デフォルトプリンター、ドライブ文字など）。

ユーザー/グループにアクションを割り当てるには

1. **ユーザー**リストで、ユーザーまたはグループをダブルクリックします。これにより、**割り当て**リストが入力されます。
2. **利用可能**リストで、アクションを選択し、右矢印（**>**）ボタンをクリックします。
3. **フィルターの割り当て**ダイアログで、**フィルター規則**を選択し、**OK**をクリックします。
4. **割り当て済み リスト**で、**有効化**および**無効化**のコンテキストアクションを使用して、割り当ての動作を微調整します。

> **注:**
>
> **スタートメニューにピン留め**オプションが機能するには、アプリケーションショートカットがスタートメニューフォルダーに存在することを確認してください。不明な場合は、**スタートメニューの作成**オプションも有効にしてください。

> たとえば、メモ帳を起動するアクションを割り当てるとします。割り当て済みリストでは、「自動起動」オプションが提供され、デフォルトで「無効」に設定されています。**有効化**オプションを使用して自動起動を有効にすると、ユーザーが公開デスクトップセッションを起動したときに、メモ帳（VDA上のローカルメモ帳）が自動的に起動します（デスクトップの読み込みが完了すると、ローカルメモ帳が自動的に起動します）。

モデリングウィザード

アクションモデリングウィザードは、特定のユーザーの結果アクションのみを表示します（グループには機能しません）。

フィールドとコントロール

アクションモデリングターゲットユーザー。モデル化するユーザーのアカウント名。

結果アクション。ユーザーまたはユーザーが属するグループに割り当てられたアクション。

ユーザーグループ。ユーザーが属するグループ。

システム最適化

Workspace Environment Management™ のシステム最適化は、次の要素で構成されています。

- CPU管理
- メモリ管理
- I/O管理
- 高速ログオフ
- シトリックス オプティマイザー
- マルチセッション最適化

これらの設定は、エージェントホストのリソース使用量を削減するように設計されています。これにより、解放されたリソースが他のアプリケーションで利用可能になることが保証されます。その結果、同じサーバーでより多くのユーザーをサポートすることで、ユーザー密度が向上します。

システム最適化設定はマシンベースであり、すべてのユーザーセッションに適用されますが、プロセス最適化はユーザー中心です。これは、あるプロセスがユーザーAのセッションでCPUスパイク保護をトリガーした場合、そのイベントはユーザーAに対してのみ記録されることを意味します。ユーザーBが同じプロセスを開始した場合、プロセス最適化の動作は、ユーザーBのセッションにおけるプロセストリガーによってのみ決定されます。

CPU管理

これらの設定により、CPU使用率を最適化できます。

CPU管理設定

プロセスはすべてのコアで実行でき、必要なだけCPUを使用できます。Workspace Environment Management™ (WEM)では、**CPU管理設定**により、個々のプロセスが使用できるCPU容量を制限できます。CPUスパイク保護は、CPU使用率全体を削減するようには設計されていません。これは、過剰な割合のCPU使用率を消費するプロセスによるユーザーエクスペリエンスへの影響を軽減するように設計されています。

CPUスパイク保護が有効になっている場合、プロセスが指定されたしきい値に達すると、WEMは一定期間、プロセスの優先度を自動的に下げます。その後、新しいアプリケーションが起動されると、優先度の低いプロセスよりも高い優先度を持ち、システムはスムーズに動作し続けます。

CPUスパイク保護は、各プロセスを迅速な「スナップショット」で検査します。プロセスの平均負荷が指定されたサンプル時間内に指定された使用制限を超えると、その優先度は直ちに低下します。指定された時間が経過すると、プロセスのCPU優先度は以前の値に戻ります。プロセスは「スロットリング」されません。**CPUクランプ**とは異なり、優先度のみが低下します。

個々のプロセスの少なくとも1つのインスタンスがしきい値を超えるまで、CPUスパイク保護はトリガーされません。つまり、CPU消費量全体が指定されたしきい値を超えても、少なくとも1つのプロセスインスタンスがしきい値を超えない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。しかし、そのプロセスインスタンスがCPUスパイク保護をトリガーすると、「インテリジェントCPU最適化を有効にする」オプションが有効になっている場合、同じプロセスの新しいインスタンスは（CPU）最適化されます。

特定のプロセスがCPUスパイク保護をトリガーするたびに、そのイベントはエージェントのローカルデータベースに記録されます。エージェントは、各ユーザーのトリガーイベントを個別に記録

します。これは、user1の特定のプロセスのCPU最適化が、user2の同じプロセスの動作に影響を与えないことを意味します。

たとえば、Internet ExplorerがCPUの50～60%を消費している場合、CPUスパイク保護を使用して、VDAパフォーマンスを脅かすiexplore.exeインスタンスのみをターゲットにすることができます。（対照的に、CPUクランプはすべてのプロセスに適用されます。）

同じVDAにログオンしている他のユーザーに影響を与えない、環境に最適な値を決定するために、サンプル時間を試すことをお勧めします。

CPUスパイク保護

注:

- 以下の設定における「CPU使用率」は、物理マシンまたは仮想マシン内の「論理プロセッサ」に基づいています。CPUの各コアは、Windowsと同様に論理プロセッサと見なされます。たとえば、1つの6コアCPUを搭載した物理マシンは、12個の論理プロセッサを持つと見なされます（ハイパースレッディングテクノロジーはコアが2倍になることを意味します）。8個のCPUを搭載し、それぞれ12コアを持つ物理マシンは96個の論理プロセッサを持ちます。2つの4コアCPUで構成されたVMは8個の論理プロセッサを持ちます。
- 仮想マシンにも同じことが当てはまります。たとえば、8個のCPUを搭載し、それぞれ12コア（96個の論理プロセッサ）を持つ物理マシンがあり、4つのマルチセッションOS VDA VMをサポートしているとします。各VMは2つの4コアCPU（8個の論理プロセッサ）で構成されています。VMでCPUスパイク保護をトリガーするプロセスがそのコアの半分を使用するように制限するには、**CPUコア使用率の制限**を4（VMの論理プロセッサの半分）に設定し、48（物理マシンの論理プロセッサの半分）には設定しないでください。

CPUスパイク保護を有効にする。プロセスが一定期間（**アイドル優先度時間**フィールドで指定）に指定されたCPU使用率の割合を超えた場合、そのプロセスのCPU優先度を一定期間（**制限サンプル時間**フィールドで指定）低下させます。

- **CPUスパイクの自動防止**。このオプションを使用して、CPUに過負荷をかけるプロセスのCPU優先度を自動的に下げます。このオプションは、論理プロセッサ（CPUコア）の数に基づいて、CPUスパイク保護をトリガーするしきい値を自動的に計算します。たとえば、4コアの場合を想定します。このオプションを有効にすると、CPU使用率全体が23%を超えた場合、

CPUリソース全体の15%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に低下します。同様に、8コアの場合、CPU使用率全体が11%を超えた場合、CPUリソースの8%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に低下します。

- **CPUスパイク保護をカスタマイズ**。CPUスパイク保護の設定をカスタマイズできます。
  - **CPU使用率制限**。CPUスパイク保護をトリガーするために、任意のプロセスインスタンスが到達する必要があるCPU使用率の割合。この制限は、サーバー内のすべての論理プロセッサでグローバルであり、インスタンスごと、プロセスごとに決定されます。同じプロセスの複数のインスタンスは、CPUスパイク保護のトリガーを決定する際にCPU使用率が加算されることはありません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPUスパイク保護はトリガーされません。たとえば、Server VDAで、複数の同時セッションにおいて、iexplore.exeインスタンスが多数あるとします。各インスタンスは一定期間、CPU使用率が約35%に達するため、累積的にiexplore.exeは常に高いCPU使用率を消費しています。ただし、CPU使用率制限を35%以下に設定しない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。
  - **制限サンプル時間**。プロセスのCPU優先度が下げられる前に、CPU使用率制限を超過し続ける必要がある時間。
  - **アイドル優先度時間**。プロセスのCPU優先度が下げられる時間。その時間が経過すると、優先度は次のいずれかに戻ります。
    - プロセス優先度が**CPU優先度**タブで指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されていない場合、デフォルトレベル（**通常**）。
    - **インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されているかどうかにかかわらず、プロセス優先度が**CPU優先度**タブで指定されている場合、指定されたレベル。
    - プロセスの動作に応じてランダムなレベル。このケースは、プロセス優先度が**CPU優先度**タブで指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されている場合に発生します。プロセスがCPUスパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、そのCPU優先度は低くなります。

CPUコア使用率制限を有効にする。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。1からXまでの整数を入力します。ここでXはコアの総数です。Xより大きい整数を入力した場合、WEMはデフォルトで分離されたプロセスの最大消費量をXに制限します。

- **CPUコア使用率を制限**。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスが制限される論理プロセッサの数を指定します。VMの場合、入力した値は、基盤となる物理ハードウェアではなく、VM内の論理プロセッサの数にプロセスを制限します。

インテリジェントCPU最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのCPU優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いCPU優先度が割り当てられます。WEMは、次のシステムプロセスに対してCPU最適化を実行しないことに注意してください。

- タスクマネージャー
- システムアイドルプロセス
- システム
- サービスホスト
- LSASS
- ウィンイニット
- サービス
- シーエスアールエスエス
- オーディオディーシー
- MsMpEng
- NisSrv
- エムエスコーアエスブイダブリュー
- ヴイエムウェアレゾリューションセット

インテリジェントI/O最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのプロセスI/O優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いI/O優先度が割り当てられます。

指定されたプロセスを除外する。デフォルトでは、WEM CPU管理は、最も一般的なCitrixおよびWindowsのコアサービスプロセスをすべて除外します。ただし、このオプションを使用して、実行可能ファイル名（例：notepad.exe）でCPUスパイク保護の除外リストからプロセスを**追加**または**削除**できます。通常、ウイルス対策プロセスは除外されます。

> **ヒント:**

- セッションでウイルス対策スキャンがディスクI/Oを占有するのを防ぐために、ウイルス対策プロセスに対して静的なI/O優先度を「低」に設定することもできます。詳細については、「I/O管理」を参照してください。
- プロセスがCPUスパイク保護をトリガーし、プロセスのCPU優先度が下げられるたびに、WEMはそのプロセスのCPU優先度を下げるたびに警告をログに記録します。イベントログの「アプリケーションとサービスログ」にある「WEM Agent Service」で、「**Initializing process limitation thread for process**」を探してください。

CPU優先度

これらの設定は、プロセスがリソースを競合している場合に有効になります。これにより、特定のプロセスのCPU優先度レベルを最適化し、CPUプロセッサ時間を競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにすることができます。プロセスが互いに競合する場合、優先度の低いプロセスは、優先度の高い他のプロセスの後に処理されます。そのため、全体のCPU消費量の大部分を占める可能性が低くなります。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセスのすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、または「現在の」優先度は、より高い場合があります（ただし、ベースよりも低くなることはありません）。多数のプロセスがコンピューター上で実行されている場合、プロセッサ時間はそれらのCPU優先度レベルに基づいて共有されます。プロセスのCPU優先度レベルが高いほど、より多くのプロセッサ時間がそのプロセスに割り当てられます。

注:

特定のプロセスに低いCPU優先度レベルを設定しても、全体のCPU消費量が必ずしも減少するわけではありません。他のプロセス（より高いCPU優先度を持つ）が、依然としてCPU使用率に影響を与えている可能性があります。

プロセス優先度を有効にする。選択すると、プロセスのCPU優先度を手動で設定できます。

プロセスを追加するには

1. **追加**をクリックし、「**プロセスCPU優先度の追加**」ダイアログボックスに詳細を入力します。
2. **OK**をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
3. **適用**をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセスCPU優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが再起動されたときに有効になります。

プロセス名。拡張子を含まないプロセスの実行可能ファイル名。たとえば、Windowsエクスプローラー (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。

CPU優先度。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスの優先度レベルが高いほど、プロセッサ時間が多く割り当てられます。リアルタイム、高、通常以上、通常、通常以下、低から選択します。

プロセスを編集するには

プロセスを選択し、**編集**をクリックします。

プロセスを削除するには

プロセスを選択し、**削除**をクリックします。

CPUアフィニティ

プロセスアフィニティを有効にする。有効にすると、プロセスが使用する「論理プロセッサ」の数を定義できます。たとえば、VDAで起動されたメモ帳のすべてのインスタンスを、定義されたコア数に制限できます。

CPUクランプ

CPUクランプは、プロセスがCPU処理能力の指定された割合を超えて使用するのを防ぎます。WEMは、設定した指定のCPU使用率に達すると、そのプロセスを「スロットル」（または「クランプ」）します。これにより、プロセスが大量のCPUを消費するのを防ぐことができます。

注:

- CPUクランプは、計算コストが高いブルートフォースアプローチです。問題のあるプロセスのCPU使用率を人為的に低く保つには、CPUスパイク保護を使用するとともに、そのようなプロセスに静的なCPU優先度とCPUアフィニティを割り当てる方が良いでしょう。CPUクランプは、リソース管理が著しく苦手でありながら、優先度を下げることができないプロセスを制御するために最も適しています。
- プロセスにCPU処理能力の割合を適用し、後で同じプロセスに異なる割合を設定した後、変更を有効にするには、**エージェントホスト設定の更新**を選択します。

設定するクランプの割合は、サーバー内の個々のCPUの総電力に適用され、そのCPUに含まれる個々のコアには適用されません。(つまり、クアッドコアCPUでの10%は、CPU全体の10%であり、1つのコアの10%ではありません)。

プロセスクランプを有効にする。プロセスクランプを有効にします。

追加。実行可能ファイル名でプロセスを追加します（例：notepad.exe）。

削除。強調表示されたプロセスをクランプリストから削除します。

編集。特定のプロセスに入力された値を編集します。

> **ヒント:**
>
> - WEMがプロセスをクランプしている場合、WEMクライアントが初期化するウォッチリストにそのプロセスを追加します。これを表示することで、プロセスがクランプされていることを確認できます。
> - プロセスモニターを確認し、CPU消費量がクランプの割合を超えないことを確認することで、CPUクランプが機能していることを検証することもできます。

メモリ管理

これらの設定により、Workspace Environment Management™ (WEM) を介してアプリケーションのメモリ使用量を最適化できます。

メモリ管理

これらの設定がオンになっている場合、WEM はプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。WEM はその差を余剰メモリと見なします。プロセスがアイドル状態になると、WEM はプロセスが消費する余剰メモリをページファイルに解放し、その後の起動のためにプロセスを最適化します。通常、アプリケーションはタスクバーに最小化されるとアイドル状態になります。

アプリケーションがタスクバーから復元されると、最初は最適化された状態で実行されますが、必要に応じて追加のメモリを消費し続けることができます。

同様に、WEM はユーザーがデスクトップセッション中に使用しているすべてのアプリケーションを最適化します。複数のユーザーセッションにわたって複数のプロセスがある場合、解放されたすべてのメモリは他のプロセスで利用可能になります。この動作により、同じサーバーでより多くのユーザーをサポートすることで、ユーザー密度が向上します。

アイドル状態のプロセスのメモリ使用量を最適化する。指定された時間アイドル状態のままになっているプロセスに、アイドル状態ではなくなるまで余剰メモリを解放させます。

アイドルサンプル時間 (分)。プロセスがアイドル状態と見なされ、その後余剰メモリの解放を強制されるまでの時間を指定できます。この間、WEM はプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。デフォルト値は 120 分です。

アイドル状態の制限 (パーセント)。プロセスがアイドル状態と見なされる CPU 使用率のしきい値を指定できます。デフォルトは 1% です。5% を超える値は使用しないことをお勧めします。そうしないと、アクティブに使用されているプロセスがアイドル状態と誤解され、メモリが解放される可能性があります。

利用可能な合計メモリが超過した場合に最適化しない (MB)。WEM がアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値を指定できます。

メモリ使用量最適化からプロセスを除外する。メモリ使用量最適化からプロセスを除外できます。プロセス名を指定します (例: notepad.exe)。

WEM は、以下のシステムプロセスのアプリケーションメモリ使用量を最適化しません。

- `rdpshell`
- `wfshell`
- `rdpclip`
- `wmiprvse`
- `dllhost`
- `audiodg`
- `msdtc`
- `mscorsvw`
- `spoolsv`
- `smss`
- `winlogon`
- `svchost`
- `taskmgr`
- `System Idle Process`
- `System`
- `LSASS`
- `wininit`

- `msiexec`
- `services`
- `csrss`
- `MsMpEng`
- `NisSrv`
- `Memory Compression`

メモリ使用量制限

特定のプロセスのメモリ使用量制限を有効にする。プロセスが消費できる RAM の上限を設定することで、プロセスの RAM 使用量を制限できます。

> **警告:**
>
> 特定のプロセスにメモリ使用量制限を適用すると、システムの応答速度の低下など、意図しない影響が生じる可能性があります。

- 「**追加**」。メモリ使用量制限を適用したいプロセスを追加できます。
- 「**削除**」。既存の項目を削除できます。
- 「**編集**」。既存の項目を編集できます。
- 「**動的制限**」。指定したプロセスに動的制限を適用できます。この設定は、指定したプロセスに割り当てられるRAMの量を動的に制限します。適用すると、利用可能なメモリに応じてメモリ使用量制限が適用されます。そのため、指定したプロセスが消費するRAMは、指定された量を超える可能性があります。
- 「**静的制限**」。指定したプロセスに静的制限を適用できます。この設定は、指定したプロセスに割り当てられるRAMの量を常に制限します。適用すると、利用可能なメモリ量に関係なく、プロセスが指定された量を超えるメモリを消費するのを制限します。その結果、指定したプロセスが消費するRAMは、指定された量に制限されます。

プロセスを追加するには：

1. 「**Administration Console > System Optimization > Memory Management > Memory Usage Limit**」タブで、「**追加**」をクリックします。
2. 「**Add Process**」ウィンドウで、追加するプロセスの名前（例：notepad.exe）を入力し、メモリ使用量制限を設定し、ドロップダウンメニューから制限モードを選択し、「**OK**」をクリックします。

項目を編集するには、項目を選択し、「**編集**」をクリックします。

項目を削除するには、項目を選択し、「**削除**」をクリックします。

項目に動的制限を適用するには、項目を選択し、「**動的制限**」をクリックします。

項目に静的制限を適用するには、項目を選択し、「**静的制限**」をクリックします。

I/O 管理

これらの設定を使用すると、特定のプロセスの I/O 優先度を最適化できます。これにより、ディスクおよびネットワーク I/O アクセスを競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こすのを防ぎます。たとえば、I/O 管理設定を使用して、ディスク帯域幅を大量に消費するアプリケーションを抑制できます。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセス内のすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、または「現在の」優先度は、ベースよりも高くなる場合があります（ただし、ベースよりも低くなることはありません）。一般に、Windows は優先度の低いスレッドよりも優先度の高いスレッドにアクセスを許可します。

I/O 優先度

プロセス I/O 優先度を有効にする。プロセス I/O 優先度の手動設定を有効にします。

I/O 優先度リストにプロセスを追加するには

1. **追加**をクリックし、**プロセス I/O 優先度の追加**ダイアログで詳細を入力します。
2. **OK**をクリックしてダイアログを閉じます。
3. **適用**をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセス I/O 優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが次に再起動されたときに有効になります。

プロセス名。拡張子を含まないプロセスの実行可能ファイル名。たとえば、Windows エクスプローラー (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。

I/O 優先度。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスの I/O 優先度が高いほど、そのスレッドはより早く I/O アクセスを取得します。高、標準、低、非常に低から選択します。

プロセス I/O 優先度項目を編集するには

プロセス名を選択し、**編集**をクリックします。

I/O 優先度リストからプロセスを削除するには

プロセス名を選択し、**削除**をクリックします。

高速ログオフ

高速ログオフは、リモートセッションへのHDX™接続を即座に終了させ、ユーザーにはセッションがすぐに閉じられたように見せます。しかし、セッション自体はVDA上でバックグラウンドでセッションログオフフェーズを続行します。

> **注:**
>
> 高速ログオフは、Citrix Virtual Apps™およびRDSリソースのみをサポートします。

設定

高速ログオフを有効にする。この構成セット内のすべてのユーザーに対して高速ログオフを有効にします。ユーザーはすぐにログオフされますが、セッションログオフタスクはバックグラウンドで続行されます。

特定のグループを除外する。高速ログオフから特定のユーザーグループを除外できます。

Citrix オプティマイザー

Citrix Optimizer は、パフォーマンス向上のためにユーザー環境を最適化します。ユーザー環境のクイックスキャンを実行し、テンプレートベースの最適化推奨事項を適用します。ユーザー環境を最適化するには、次の2つの方法があります。

- 組み込みテンプレートを使用して最適化を実行します。これを行うには、オペレーティングシステムに適用可能なテンプレートを選択します。
- または、必要な特定の最適化を含む独自のカスタマイズされたテンプレートを作成し、そのテンプレートをWorkspace Environment Management™ (WEM) に追加します。

カスタマイズ可能なテンプレートを取得するには、次のいずれかの方法を使用します。

- スタンドアロンのCitrix Optimizerが提供するテンプレートビルダー機能を使用します。スタンドアロンのCitrix Optimizerは`<https://support.citrix.com/article/CTX224676>`からダウンロードできます。テンプレートビルダー機能を使用すると、WEMにアップロードする独自のカスタムテンプレートを作成できます。
- エージェントホスト (WEMエージェントがインストールされているマシン) で、`<C:\Program Files (x86)>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Citrix Optimizer\Templates`フォルダーに移動し、デフォルトのテンプレートファイルを選択して、便利なフォルダーにコピーします。テンプレートファイルをカスタマイズして特定の要件を反映させ、カスタムテンプレートをWEMにアップロードします。

設定

Citrix Optimizerを有効にする。Citrix Optimizerを有効または無効にするかどうかを制御します。

毎週実行。選択した場合、WEMは毎週最適化を実行します。**毎週実行**が選択されていない場合、WEMは次のように動作します。

- テンプレートをWEMに初めて追加すると、WEMは対応する最適化を実行します。WEMは、後でそのテンプレートに変更を加えない限り、最適化を1回だけ実行します。変更には、OSに別のテンプレートを適用することや、**利用可能**ペインと**構成済み**ペインの間で最適化エントリを移動させることが含まれます。
- テンプレートに変更を加えるたびに、WEMは最適化を1回実行します。

> **注:**
>
> 非永続VDI環境の場合、WEMは同じ動作に従います。つまり、マシンが再起動すると、環境へのすべての変更は失われます。Citrix Optimizerの場合、WEMはマシンが再起動するたびに最適化を実行します。

> **使用するテンプレートを自動的に選択**。どのテンプレートを使用すべきかわからない場合は、このオプションを使用して、WEMに各OSに最適なテンプレートを選択させます。

- **プレフィックスで始まるテンプレートの自動選択を有効にする**。異なる名前形式のカスタムテンプレートが利用可能な場合は、このオプションを使用します。コンマ区切りのプレフィックスリストを入力します。カスタムテンプレートは次の名前形式に従います。
  - `prefix_<os version>_<os build>`
  - `prefix_Server_<os version>_<os build>`

Citrix Optimizerタブには、システム最適化を実行するために使用できるテンプレートのリストが表示されます。**アクション**セクションには、利用可能なアクションが表示されます。

- **追加**。カスタムテンプレートを追加できます。
- **削除**。既存のカスタムテンプレートを削除できます。組み込みテンプレートは削除できません。
- **編集**。既存のテンプレートを編集できます。
- **プレビュー**。選択したテンプレートに含まれる最適化エントリを項目別に表示できます。

カスタムテンプレートを追加するには：

1. **管理コンソール > システム最適化 > Citrix Optimizer > Citrix Optimizer**タブで、**追加**をクリックします。
2. **新しいカスタムテンプレート**ウィンドウで、次の手順を実行します。
   a. **テンプレート名**で、**XMLファイルの選択**をクリックし、リストから該当するファイルを選択します。

      > **注:**
      >
      > リストにはアップロードしたXMLファイルが表示されます。XMLファイルをアップロードするには、「カスタムテンプレートをアップロードするには」を参照してください。

   b. **適用可能なOS**で、リストから該当するOSを選択します。
   c. **グループ**で、テンプレートに含まれるグループを設定します。
   d. **OK**をクリックします。

> **重要:**
>
> Citrix Optimizerはカスタムテンプレートのエクスポートをサポートしていません。カスタムテンプレートを追加した後も、ローカルコピーを保持してください。

> テンプレートを編集するには、該当するテンプレートを選択し、**編集**をクリックします。

テンプレートを削除するには、該当するテンプレートを選択し、**削除**をクリックします。

テンプレートの詳細を表示するには、該当するテンプレートを選択し、**プレビュー**をクリックします。

フィールドとコントロール

テンプレート名。選択したテンプレートの表示名です。

適用可能なOS。オペレーティングシステムのリストです。テンプレートを適用するオペレーティングシステムを1つ以上選択します。リストにないWindows 10 OSに適用できるカスタムテンプレートを追加できます。それらのOSはビルド番号を入力して追加します。OSはセミコロン (;) で区切ってください。例: 2001;2004。

重要:

同じOSには1つのテンプレートのみを適用できます。

グループ。**利用可能**ペインには、グループ化された最適化エントリのリストが表示されます。エントリはカテゴリ別にグループ化されています。グループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックしてグループを移動します。

状態。テンプレートを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効になっている場合、エージェントはテンプレートを処理せず、WEMはテンプレートに関連付けられた最適化を実行しません。

Citrix Optimizerの設定への変更が有効になるまでには、**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブの**SQL設定の更新遅延**オプションで指定した値に応じて時間がかかります。

変更をすぐに有効にするには、**管理 > エージェント > 統計**タブのコンテキストメニューに移動し、**Citrix Optimizerの処理**を選択します。

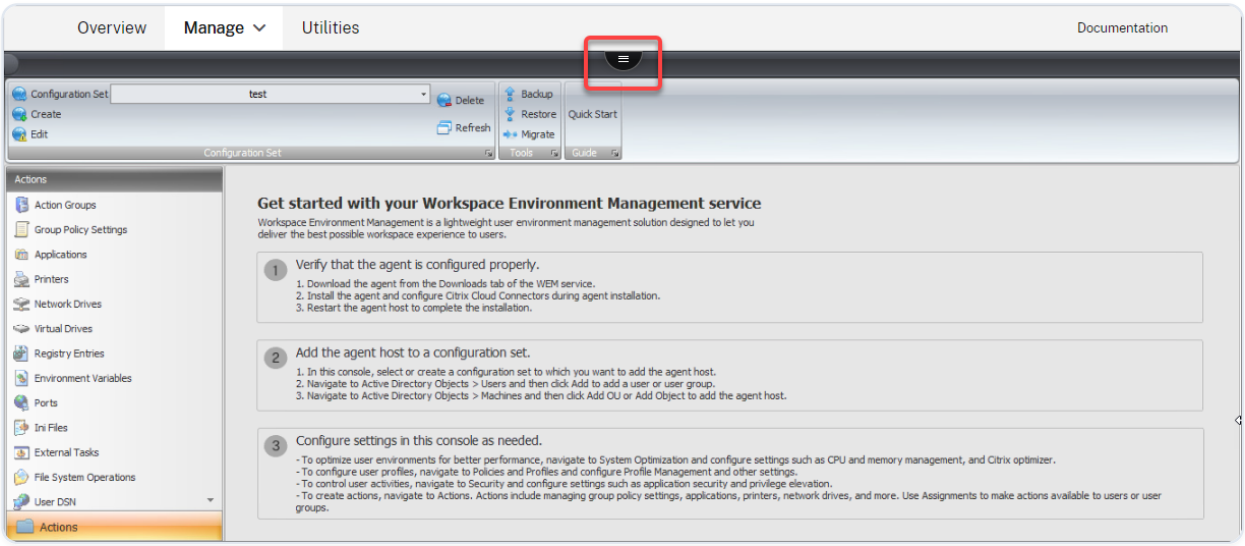
ヒント:

新しい変更がすぐに有効にならない場合があります。**Citrix Optimizerの処理**を選択する前に、**エージェントホスト設定の更新**を選択することをお勧めします。

カスタムテンプレートをアップロードするには

カスタムテンプレートをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. **管理**タブで、ハンバーガーメニューにマウスポインターを合わせます。



2. Citrix Workspace™アイコンをクリックします。
3. アップロードアイコンをクリックして、カスタムテンプレート（XMLファイル）をCitrix Cloudのデフォルトフォルダーにアップロードします。

マルチセッション最適化

マルチセッションOSマシンは、1台のマシンから複数のセッションを実行し、ユーザーにアプリケーションとデスクトップを提供します。切断されたセッションはアクティブなままになり、そのアプリケーションは実行され続けます。切断されたセッションは、同じマシンで実行されている接続されたデスクトップやアプリケーションに必要なリソースを消費する可能性があります。これらの設定により、切断されたセッションを持つマルチセッションOSマシンを最適化し、接続されたセッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

設定

マルチセッション最適化を有効にする。有効にすると、切断されたセッションが存在するマルチセッションOSマシンが最適化されます。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。このオプションは、切断されたセッションが消費できるリソースの数を制限することにより、接続されたセッションのユーザーエクスペリエンスを向上させます。セッションが1分間切断されたままになると、WEMエージェントは、そのセッションに関連付けられたプロセスまたはアプリケーションのCPUおよびI/O優先度を下げます。その後、エージェントはセッションが消費できるメモリリソースの量に制限を課します。ユーザーがセッションに再接続すると、WEMは優先度を復元し、制限を解除します。

指定されたグループを除外する。マルチセッション最適化から除外するグループを指定できます。少なくとも1つのグループを指定してください。

指定されたプロセスを除外する。マルチセッション最適化から除外するプロセスを指定できます。除外するプロセスの名前を入力します。少なくとも1つのプロセスを指定してください。

ポリシーとプロファイル

これらの設定により、ユーザーGPOを置き換え、ユーザープロファイルを構成できます。

- 環境設定
- マイクロソフト USV 設定
- シトリックス プロファイル管理 設定

環境設定

これらのオプションは、ユーザーの環境設定を変更します。オプションの一部はログオン時に処理され、その他の一部はエージェントの更新機能を使用してセッション中に更新できます。

スタートメニュー

これらのオプションは、ユーザーのスタートメニューを変更します。

環境設定を処理。このチェックボックスは、エージェントが環境設定を処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、環境設定は処理されません。

管理者を除外。有効にすると、エージェントが起動されていても、管理者に対して環境設定は処理されません。

ユーザーインターフェイス: スタートメニュー。これらの設定は、エージェントによってどのスタートメニュー機能が無効になるかを制御します。

> **重要:**

> Windows 7以外のオペレーティングシステムでは、**ユーザーインターフェイス: スタートメニュー**の下のオプションは、**システムクロックを非表示**と**コンピューターの電源を切るを非表示**を除いて、機能しない場合があります。

> **ユーザーインターフェイス: 外観**。これらの設定により、ユーザーのWindowsテーマとデスクトップをカスタマイズできます。リソースへのパスは、ユーザーの環境からアクセスされるとおりに入力する必要があります。

> **注:**

> ドメインに参加していないエージェントを使用している場合、ネットワーク共有を使用するとWEMが機能しない可能性があります。

デスクトップ

ユーザーインターフェイス: デスクトップ。これらの設定は、エージェントによってどのデスクトップ要素が無効になるかを制御します。

ユーザーインターフェイス: Edge UI。これらの設定により、Windows 8.x Edgeユーザーインターフェイスの側面を無効にできます。

Windowsエクスプローラー

これらの設定は、エージェントによってどのWindowsエクスプローラー機能が無効になるかを制御します。

ユーザーインターフェイス: エクスプローラー。これらのオプションにより、**regedit**または**cmd**へのアクセスを無効にし、Windowsエクスプローラーの特定の要素を非表示にできます。

エクスプローラーから指定されたドライブを非表示にする。有効にすると、リストされたドライブはユーザーのマイコンピューターメニューから非表示になります。直接参照すれば、引き続きアクセスできます。

エクスプローラーから指定されたドライブを制限する。有効にすると、リストされたドライブはブロックされます。ユーザーもそのアプリケーションも、それらにアクセスできません。

コントロールパネル

コントロールパネルを非表示にする。このオプションは、ユーザー環境を保護するためにデフォルトで有効になっています。無効にすると、ユーザーはWindowsコントロールパネルにアクセスできます。

指定されたコントロールパネルアプレットのみを表示する。有効にすると、ここにリストされているもの以外のすべてのコントロールパネルアプレットがユーザーから非表示になります。追加のアプレットは、正規名を使用して追加されます。

指定されたコントロールパネルアプレットを非表示にする。有効にすると、リストされているコントロールパネルアプレットのみが非表示になります。追加のアプレットは、正規名を使用して追加されます。

一般的なコントロールパネルアプレットとその正規名を参照してください。

既知のフォルダー管理

指定された既知のフォルダーを無効にする。プロファイル作成時に、指定されたユーザープロファイルの既知のフォルダーが作成されるのを防ぎます。

SBC/HVDチューニング

ユーザー環境: 詳細チューニング。これらのオプションを使用すると、SBC/HVD環境でのパフォーマンスを最適化できます。

Microsoft USV 設定

これらの設定により、Microsoft User State Virtualization (USV) を最適化できます。

ローミングプロファイルの構成

これらの設定により、Workspace Environment Management™ と Microsoft ローミングプロファイルの統合を構成できます。

ユーザー状態仮想化構成の処理。エージェントがUSV設定を処理するかどうかを制御します。無効にすると、USV設定は処理されません。

管理者を除外。有効にすると、構成したUSV設定は管理者に適用されません。このオプションを使用する際は、以下を考慮してください。

- **ローミングプロファイルの構成**タブと**ローミングプロファイルの高度な構成**タブの設定はマシンレベルであり、このオプションが有効になっているかどうかにかかわらず適用されます。
- **フォルダーリダイレクト**タブの設定はユーザーレベルです。このオプションは、設定が管理者に適用されるかどうかを制御します。

Windowsローミングプロファイルパスの設定。Windowsプロファイルへのパスを指定できます。

RDSローミングプロファイルパスの設定。RDSローミングプロファイルへのパスを指定できます。

RDSホームドライブパスの設定。RDSホームドライブへのパスと、ユーザー環境で表示されるドライブ文字を指定できます。

ローミングプロファイルの高度な構成

以下は、高度なローミングプロファイル最適化オプションです。

フォルダー除外の有効化。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザーのローミングプロファイルに含まれません。これにより、ユーザーがローミングプロファイルの一部として持つ必要のない大量のデータを含むことがわかっている特定のフォルダーを除外できます。このリスト

には、デフォルトのWindows 7除外が事前に入力されており、代わりにデフォルトのWindows XP除外を事前に入力することもできます。

ローミングプロファイルのキャッシュされたコピーの削除。有効にすると、エージェントはローミングプロファイルのキャッシュされたコピーを削除します。

管理者セキュリティグループを移動ユーザープロファイルに追加する。有効にすると、管理者グループが移動ユーザープロファイルの所有者として追加されます。

移動プロファイルフォルダーのユーザー所有権を確認しない。有効にすると、エージェントは処理を実行する前に、ユーザーが移動プロファイルフォルダーを所有しているかどうかを確認しません。

低速ネットワーク接続を検出しない。有効にすると、接続速度の検出はスキップされます。

リモートユーザープロファイルを待機する。有効にすると、エージェントはリモートユーザープロファイルが完全にダウンロードされるまで待機してから、その設定を処理します。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクト構成を処理する。このチェックボックスは、エージェントがフォルダーリダイレクトを処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、フォルダーリダイレクトは処理されません。ユーザーのフォルダーをリダイレクトするかどうか、およびどこにリダイレクトするかを制御するオプションを選択します。

ローカルのリダイレクトされたフォルダーを削除する。有効にすると、エージェントはリダイレクト用に選択されたフォルダーのローカルコピーを削除します。

シトリックス プロファイル管理 設定

> **注:**
>
> 一部のオプションは、特定のバージョンのProfile Managementでのみ機能します。詳細については、Profile Managementのドキュメントを参照してください。

> Workspace Environment Management™ (WEM) サービスは、現在のバージョンのCitrix Profile Managementの機能と操作をサポートしています。WEM管理コンソールの**Citrix Profile Management Settings** (ポリシーとプロファイル内) は、現在のバージョンのCitrix Profile Managementのすべての設定を構成することをサポートしています。

WEMを使用してCitrix Profile Management機能を構成するだけでなく、Active Directory GPO、Citrix Studioポリシー、またはVDA上の.iniファイルを使用することもできます。一貫して同じ方法を使用することをお勧めします。

主な Citrix Profile Management の設定

基本設定を適用してProfile Managementを開始します。基本設定には、処理されたグループ、除外されたグループ、ユーザー ストアなどが含まれます。

Profile Management構成を有効にする。有効にすると、設定を構成して適用できます。このオプションを有効にすると、ユーザー環境にProfile Management関連のレジストリが作成されます。このオプションは、WEMがコンソールで構成したProfile Management設定をエージェントに展開するかどうかを制御します。無効になっている場合、Profile Management設定はエージェントに展開されません。

Profile Managementを有効にする。エージェントマシンでProfile Managementサービスを有効にするかどうかを制御します。無効になっている場合、Profile Managementサービスは機能しません。

エージェントにすでに展開されている設定が処理されなくなるように、Profile Managementを完全に無効にしたい場合があります。その目的を達成するには、次の手順を実行します。

1. **Profile Managementを有効にする**チェックボックスをオフにし、変更が自動的に適用されるのを待つか、すぐに適用するために手動で変更を適用します。

   > **注:**
   >
   > 変更が有効になるまでには、Advanced Settingsで**SQL Settings Refresh Delay**に指定した値に応じて時間がかかります。変更をすぐに有効にするには、エージェントホストの設定を更新し、関連するすべてのエージェントのProfile Management設定をリセットします。Administrationを参照してください。

2. 変更が有効になったら、**Profile Management構成を有効にする**チェックボックスをオフにします。

処理されたグループを設定する。Profile Managementによって処理されるグループを指定できます。指定されたグループのみがProfile Management設定を処理されます。空のままにした場合、すべてのグループが処理されます。

除外されたグループを設定する。Profile Managementから除外されるグループを指定できます。

ローカル管理者のログオンを処理する。有効にすると、ローカル管理者のログオンは、Profile Managementにおいて非管理者のログオンと同じように扱われます。

ユーザー ストアへのパスを設定します。ユーザー ストア フォルダーへのパスを指定できます。

ユーザー ストアを移行します。ユーザー設定 (レジストリの変更と同期されたファイル) が保存されていたフォルダーへのパスを指定できます。以前使用していたユーザー ストア パスを入力します。このオプションは、**ユーザー ストアへのパスを設定します**オプションと組み合わせて使用します。

アクティブなライトバックを有効にします。有効にすると、ユーザーのセッション中にプロファイルがユーザー ストアに書き戻され、データ損失を防ぎます。

アクティブなライトバック レジストリを有効にします。有効にすると、ユーザーのセッション中にレジストリ エントリがユーザー ストアに書き戻され、データ損失を防ぎます。

セッションロックおよび切断時のアクティブなライトバックを有効にします。このオプションと**アクティブなライトバックを有効にします**オプションの両方が有効になっている場合、プロファイルファイルとフォルダーはセッションがロックまたは切断されたときにのみ書き戻されます。このオプションと**アクティブなライトバック レジストリを有効にします**オプションの両方が有効になっている場合、レジストリエントリはセッションがロックまたは切断されたときにのみ書き戻されます。

オフライン プロファイル サポートを有効にします。有効にすると、プロファイルは接続されていない間も使用できるようにローカルにキャッシュされます。

プロファイルコンテナ設定

これらのオプションは、Profile Management のプロファイルコンテナ設定を制御します。

プロファイルコンテナを有効にします。有効にすると、Profile Management はリストされたフォルダーをネットワークに保存されているプロファイルディスクにマッピングし、フォルダーのコピーをローカルプロファイルに保存する必要がなくなります。プロファイルコンテナに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定します。

プロファイルコンテナのフォルダー除外を有効にします。有効にすると、Profile Management はリストされたフォルダーをプロファイルコンテナから除外します。プロファイルコンテナから除外するフォルダーを少なくとも1つ指定します。

プロファイルコンテナのフォルダー包含を有効にします。有効にすると、Profile Management は、親フォルダーが除外されている場合でも、リストされたフォルダーをプロファイルコンテナ内に保持します。このリストのフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必

要があります。これは、このオプションを**プロファイルコンテナのフォルダー除外を有効にします**オプションと組み合わせて使用する必要があることを意味します。プロファイルコンテナに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定します。

プロファイルコンテナのファイル除外を有効にします。有効にすると、Profile Management はリストされたファイルをプロファイルコンテナから除外します。プロファイルコンテナから除外するファイルを少なくとも1つ指定します。

プロファイルコンテナのファイル包含を有効にします。有効にすると、Profile Management は、親フォルダーが除外されている場合でも、リストされたファイルをプロファイルコンテナ内に保持します。このリストのファイルは、除外されたフォルダー内に含まれている必要があります。これは、このオプションを**プロファイルコンテナのフォルダー除外を有効にします**オプションと組み合わせて使用する必要があることを意味します。プロファイルコンテナに含めるファイルを少なくとも1つ指定します。

プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にします。有効にすると、各ローカルプロファイルは、そのプロファイルコンテナのローカルキャッシュとして機能します。プロファイルストリーミングが使用されている場合、ローカルにキャッシュされたファイルはオンデマンドで作成されます。それ以外の場合は、ユーザーログオン時に作成されます。この設定を使用するには、ユーザープロファイル全体をそのプロファイルコンテナに配置します。この設定は、Citrix Profile Management プロファイルコンテナにのみ適用されます。

> **ヒント:**
>
> ファイルまたはフォルダーを追加する際に、ワイルドカードを使用できます。詳細については、ワイルドカードのサポートを参照してください。

> **VHDディスクの圧縮を有効にする**。有効にすると、特定の条件が満たされた場合に、ユーザーのログオフ時にVHDディスクが自動的に圧縮されます。このオプションを使用すると、プロファイルコンテナ、OneDriveコンテナ、およびミラーフォルダーコンテナによって消費されるストレージスペースを節約できます。

ニーズと利用可能なリソースに応じて、詳細設定の**VHDディスク圧縮をトリガーする空き領域の比率を設定**、**VHDディスク圧縮をトリガーするログオフ回数を設定**、および**VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする**オプションを使用して、デフォルトのVHD圧縮設定と動作を調整できます。

プロファイルの処理

これらの設定は、Profile Managementのプロファイル処理を制御します。

ログオフ時にローカルキャッシュプロファイルを削除。有効にすると、ユーザーがログオフしたときにローカルにキャッシュされたプロファイルが削除されます。

キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延を設定。ログオフ時にキャッシュされたプロファイルが削除されるまでの遅延（秒単位）を指定できます。

既存のプロファイルの移行を有効にする。有効にすると、既存のWindowsプロファイルがログオン時にProfile Managementに移行されます。

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行。有効にすると、既存のアプリケーションプロファイルが自動的に移行されます。Profile Managementは、ユーザーがログオンし、ユーザーストアにユーザープロファイルがない場合に移行を実行します。

ローカルプロファイルの競合処理を有効にする。Citrix Workspace™ Environment Managementが、Profile ManagementとWindowsプロファイルが競合する場合の処理方法を構成します。

テンプレートプロファイルを有効にする。有効にすると、指定された場所のテンプレートプロファイルを使用します。

テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする。有効にすると、テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きします。

テンプレートプロファイルが移動プロファイルを上書きする。有効にすると、テンプレートプロファイルが移動プロファイルを上書きします。

すべてのログオンでCitrix強制プロファイルとして使用されるテンプレートプロファイル。 有効にすると、テンプレートプロファイルが他のすべてのプロファイルを上書きします。

詳細設定

これらのオプションは、高度なProfile Management設定を制御します。

ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数を設定。エージェントがロックされたファイルへのアクセスを再試行する回数を構成します。

MFTキャッシュファイルのディレクトリを設定。MFTキャッシュファイルのディレクトリを指定できます。このオプションは*非推奨*となり、将来的に*削除*されます。

アプリケーションプロファイラーを有効にする。有効にすると、アプリケーションベースのプロファイル処理が定義されます。定義ファイルで定義された設定のみが同期されます。定義ファイルの作成について詳しくは、「定義ファイルの作成」を参照してください。

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する。有効にすると、ログオフ時に古いCookieが削除されます。

リダイレクトされたフォルダーを削除する。有効にすると、リダイレクトされたフォルダーのローカルコピーが削除されます。

自動構成を無効にする。有効にすると、動的構成が無効になります。

問題が発生した場合にユーザーをログオフする。有効にすると、問題が発生した場合に、ユーザーは一時プロファイルに切り替わるのではなく、ログオフされます。

カスタマーエクスペリエンス向上プログラム。有効にすると、Profile Managementはカスタマーエクスペリエンス向上プログラム（CEIP）を使用して、匿名統計と使用状況情報を収集することで、Citrix製品の品質とパフォーマンスの向上に役立てます。CEIPについて詳しくは、「Citrixカスタマーエクスペリエンス向上プログラム（CEIP）について」を参照してください。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする。有効にすると、Profile ManagementはFSLogix Profile ContainerとCitrix Profile Managementプロファイルコンテナの両方で、マルチセッションシナリオでの変更を保存します。同じユーザーが異なるマシンで複数のセッションを起動した場合、各セッションで行われた変更は同期され、ユーザーのプロファイルコンテナディスクに保存されます。

ログオン時のユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする。有効にすると、Profile Managementは、Windowsが次回のユーザーログオンの処理モード（同期または非同期処理モード）を決定するために使用するレジストリ値をユーザーとともにローミングします。レジストリ値が存在しない場合、同期モードが適用されます。このオプションを有効にすると、ユーザーがログオンするたびに実際の処理モードが適用されます。無効にすると、ユーザーが次の条件を満たす場合、非同期モードは期待どおりに適用されません。

- 異なるマシンにログオンする。
- **ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する**オプションが有効になっている同じマシンにログオンする。

VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする。VHDディスク圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスク圧縮のファイルデフラグを無効にするかどうかを指定できます。

VHDディスク圧縮が有効な場合、VHDディスクファイルはまずWindowsに組み込まれている `defrag` ツールを使用して自動的にデフラグされ、その後圧縮されます。VHDディスクのデフラグはより良い圧縮結果をもたらしますが、無効にするとシステムリソースを節約できます。

VHDディスク圧縮をトリガーする空き領域比率を設定。VHDディスク圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスク圧縮をトリガーする空き領域比率を指定できます。ユーザーログオフ時に空き領域比率が指定された値を超えると、ディスク圧縮がトリガーされます。

空き領域の比率 = (現在のVHDファイルサイズ – 必要な最小VHDファイルサイズ*) ÷ 現在のVHDファイルサイズ

* Microsoft Windowsオペレーティングシステムの `MSFT_Partition` クラスのGetSupportedSizeメソッドを使用して取得されます。

VHDディスク圧縮をトリガーするログオフ回数を設定。VHDディスク圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスク圧縮をトリガーするユーザーログオフ回数を指定できます。

最後の圧縮以降のログオフ回数が指定された値に達すると、ディスク圧縮が再度トリガーされます。

ユーザーストアをレプリケートする。有効にすると、Profile Managementは、**ユーザーストアへのパスを設定**オプションで指定されたパスに加えて、ログオンおよびログオフごとにユーザーストアを複数のパスにレプリケートします。セッション中に変更されたファイルとフォルダーをユーザーストアに同期するには、アクティブライトバックを有効にします。このオプションを有効にすると、システムI/Oが増加し、ログオフが長くなる可能性があります。

VHDXファイルの保存パスをカスタマイズする。VHDXファイルを保存するための別のパスを指定できます。デフォルトでは、VHDXファイルはユーザー ストアに保存されます。VHDXファイルを使用するポリシーには、プロファイル コンテナ、Outlookの検索インデックス ローミング、フォルダー ミラーリングの高速化などがあります。有効にすると、異なるポリシーのVHDXファイルは、保存パスの下の異なるフォルダーに保存されます。

Microsoft Outlookユーザーの検索インデックス ローミングを有効にする。有効にすると、ユーザー固有のMicrosoft Outlookオフライン フォルダー ファイル (*.ost) とMicrosoft検索データベースがユーザー プロファイルとともにローミングされます。これにより、Microsoft Outlookでメールを検索する際のユーザー エクスペリエンスが向上します。

- **Outlook検索インデックス データベース – バックアップと復元**。有効にすると、Profile Managementは検索インデックス データベースの最後に確認された正常なコピーのバックアップを自動的に保存します。破損が発生した場合、Profile Managementはそのコピーに戻しま

す。その結果、検索インデックス データベースが破損した場合でも、手動でデータベースを再インデックスする必要がなくなります。

- **Outlook検索データ ローミングの同時セッション サポートを有効にする**。同時セッションでネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを提供します。有効にすると、各同時セッションは個別のOutlook OSTファイルを使用します。

  - **Outlook OSTファイルを保存するためのVHDXディスクの最大数**。Outlook OSTファイルを保存するためのVHDXディスクの最大数を指定できます。指定しない場合、Outlook OSTファイルを保存するために使用できるVHDXディスクは2つのみです（ディスクごとに1ファイル）。さらにセッションが開始されると、それらのOutlook OSTファイルはローカルユーザー プロファイルに保存されます。サポートされる値: 1〜10。

OneDriveコンテナを有効にする。有効にすると、Profile ManagementはOneDriveフォルダーをVHDXディスクに保存することで、ユーザーとともにローミングします。ディスクはログオン時にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされます。

ログ設定

これらのオプションは、Profile Managementのログ記録を制御します。

ログ記録を有効にする。Profile Management操作のログ記録を有効/無効にします。

ログ設定を構成する。ログに含めるイベントの種類を指定できます。

ログファイルの最大サイズを設定する。ログファイルの最大サイズをバイト単位で指定できます。

ログファイルのパスを設定する。ログファイルが作成される場所を指定できます。

レジストリ

これらのオプションは、Profile Managementのレジストリ設定を制御します。

NTUSER.DATのバックアップ。選択すると、Profile ManagementはNTUSER.DATファイルの最後に確認された正常なバックアップを保持します。Profile Managementが破損を検出した場合、最後に確認された正常なバックアップ コピーを使用してプロファイルを回復します。

既定の除外リストを有効にする。ユーザープロファイルに同期されないHKCUハイブ内のレジストリキーの既定のリスト。選択した場合、このリストで選択されたレジストリ設定は、Profile Managementプロファイルから強制的に除外されます。

レジストリ除外を有効にする。このリストのレジストリ設定は、Profile Managementプロファイルから強制的に除外されます。

レジストリ包含を有効にする。このリストのレジストリ設定は、Profile Managementプロファイルに強制的に含まれます。

ファイルシステム

これらのオプションは、Profile Managementのファイルシステム除外を制御します。

ログオン除外チェックを有効にする。有効にすると、ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストア内のプロファイルに除外されたファイルまたはフォルダーが含まれている場合に、Profile Managementが実行する動作を構成します。（無効になっている場合、既定の動作は**除外されたファイルまたはフォルダーを同期する**です）。リストから次のいずれかの動作を選択できます。

除外されたファイルまたはフォルダーを同期する（既定）。ユーザーがログオンすると、Profile Managementはこれらの除外されたファイルまたはフォルダーをユーザーストアからローカルプロファイルに同期します。

除外されたファイルまたはフォルダーを無視する。ユーザーがログオンすると、Profile Managementはユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを無視します。

除外されたファイルまたはフォルダーを削除する。ユーザーがログオンすると、Profile Managementはユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを削除します。

既定の除外リストを有効にする - ディレクトリ。同期中に無視されるディレクトリの既定のリスト。選択した場合、このリストで選択されたフォルダーは、Profile Managementの同期から除外されます。

ファイル除外を有効にする。有効にすると、リストされたファイルはユーザープロファイルに含まれません。この設定により、ユーザーがプロファイルの一部として必要としない大量のデータを含む特定のファイルを除外できます。このリストには、既定のWindows 7除外が事前に入力されており、代わりに既定のWindows XP除外を事前に入力することもできます。

フォルダー除外を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザープロファイルに含まれません。この設定により、ユーザーがプロファイルの一部として必要としない大量のデータを含む特定のフォルダーを除外できます。このリストには、既定のWindows 7除外が事前に入力されており、代わりに既定のWindows XP除外を事前に入力することもできます。

> **ヒント:**
>
> ファイルまたはフォルダーを追加する際に、ワイルドカードを使用できます。詳細については、「ワイルドカードのサポート」を参照してください。

同期

これらのオプションは、Profile Managementの同期設定を制御します。

ディレクトリ同期を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーがユーザー ストアに同期されます。

ファイル同期を有効にする。有効にすると、リストされたファイルがユーザー ストアに同期され、ユーザーは常に最新バージョンのファイルを取得できます。複数のセッションでファイルが変更された場合、最新のファイルがユーザー ストアに保持されます。

> **ヒント:**
>
> ファイルまたはフォルダーを追加する際に、ワイルドカードを使用できます。詳しくは、「ワイルドカードのサポート」を参照してください。

> **フォルダーミラーリングを有効にする**。有効にすると、ログオフ時にリストされたフォルダーがユーザー ストアにミラーリングされ、ユーザー ストアに保存されているミラーリングされたフォルダー内のファイルとサブフォルダーがローカルバージョンと完全に同じになります。フォルダーミラーリングの仕組みについて詳しくは、以下を参照してください。

フォルダーミラーリングを高速化する。デフォルトでは、Profile Management は必要なトランザクションフォルダーをユーザー ストアとローカルプロファイルの間でコピーします。ミラーリングにより、これらのフォルダーの整合性が確保されます。このオプションは、コンテナベースのソリューションを使用することでコピーの必要性をなくし、フォルダーミラーリングを高速化します。Profile Management は、ログオン時に仮想ディスクをアタッチし、ログオフ時にデタッチすることで、ユーザー ストアとローカルプロファイルの間でフォルダーをコピーする必要をなくします。ミラーリングされたフォルダー内のファイルは、変更されているかどうかにかかわらず、セッションログオフ時にユーザー ストアに保存されているファイルを常に上書きします。ミラーリングされたフォルダーのローカルバージョンと比較して、ユーザー ストアに余分なファイルやサブフォルダーが存在する場合、それらの余分なファイルやサブフォルダーはセッションログオフ時にユーザー ストアから削除されます。

- **ミラーリングするフォルダーを追加する**。デフォルトでは、Profile Management は必要なトランザクションフォルダーをユーザー ストアとローカルプロファイルの間でコピーします。トランザクションフォルダーとは、相互依存するファイル（あるファイルが他のファイルを参照する）を含むフォルダーです。必要に応じて追加できます。

ラージファイル処理を有効にする。有効にすると、大きなファイルがユーザー ストアにリダイレクトされ、ネットワーク経由でそれらのファイルを同期する必要がなくなります。

> **注:**
>
> 一部のアプリケーションでは、ファイルの同時アクセスが許可されていません。Citrix は、ラージファイル処理ポリシーを定義する際に、アプリケーションの動作を考慮に入れることを推奨します。

ストリーム配信ユーザープロファイル

これらのオプションは、ストリーム配信ユーザープロファイルの設定を制御します。

プロファイルストリーミングを有効にする。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする。有効にすると、フォルダーはアクセスされたときにのみフェッチされます。この設定により、ユーザーログオン時にすべてのフォルダーを走査する必要がなくなり、帯域幅を節約し、ファイルの同期時間を短縮できます。

常にキャッシュする。有効にすると、指定されたサイズ（MB単位）以上のファイルは常にキャッシュされます。

保留領域ロックファイルのタイムアウトを設定する。サーバーが応答しなくなったときにユーザー ストアがロックされたままの場合、指定された時間後に保留領域からユーザー ストアにファイルが書き戻されるようにファイルを解放します。

ストリーム配信ユーザープロファイルグループを設定する。このリストは、ストリーム配信プロファイルが使用されるユーザーグループを決定します。

プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリを有効にする。選択すると、Profile Management はこのリスト内のフォルダーをストリーミングせず、ユーザーがログオンしたときにすべてのフォルダーがユーザー ストアからローカル コンピューターにすぐにフェッチされます。

保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする。有効にすると、保留領域内のファイルは要求されたときにのみローカルプロファイルにフェッチされます。これにより、同時セッションシナリオで最適なログオンエクスペリエンスが保証されます。保留領域は、プロファイルストリーミングが有効になっている間、プロファイルの整合性を確保するために使用されます。同時セッションで変更されたプロファイルファイルとフォルダーを一時的に保存します。デフォルトで

は、このオプションは無効になっています。保留領域内のすべてのファイルとフォルダーは、ログオン中にローカルプロファイルにフェッチされます。

クロスプラットフォーム設定

これらのオプションは、クロスプラットフォーム設定を制御します。

クロスプラットフォーム設定を有効にする。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

クロスプラットフォーム設定グループを設定する。クロスプラットフォームプロファイルが使用されるユーザーグループを指定できます。

クロスプラットフォーム定義へのパスを設定する。クロスプラットフォーム定義ファイルへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを設定する。クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定を作成するためのソースを有効にする。クロスプラットフォーム設定のソースプラットフォームを有効にします。

アプリのアクセス制御

このオプションは、ファイル、フォルダー、およびレジストリへのユーザーアクセスを制御します。一般的なユースケースは、マシンにインストールされているアプリへのユーザーアクセスを制御するルールを適用することです。つまり、関連するユーザーにアプリを表示するかどうかを制御します。

アプリのアクセス制御を有効にする。有効にすると、Profile Management は、指定したルールに基づいて、項目（ファイル、フォルダー、レジストリなど）へのユーザーアクセスを制御します。

アプリケーションルールを作成するには、次の2つの方法があります。

- GUIベースのツール - Citrix Environment Tool Hub > アプリケーションアクセス制御用ルールジェネレーター
- PowerShell ツール – Profile Management インストールパッケージで利用可能

ユーザー ストアの資格情報

これらのオプションは、ユーザー ストアの資格情報設定を制御します。

ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする。 無効にすると、Profile Management は現在のユーザーを偽装してユーザー ストアにアクセスします。したがって、現在のユーザーがユーザー ストアに直接アクセスする権限を持っていることを確認してください。この設定を無効にすると、このタブのすべての設定が処理されなくなります。有効にすると、Profile Management は指定されたユーザー ストアの資格情報を使用して、ユーザーに代わってユーザー ストアにアクセスします。この設定を有効にすると、現在のユーザーがアクセス権を持たないストレージ リポジトリ (Azure Files など) にユーザー ストアを配置できます。

> **重要:**
>
> この設定を無効にすると、WEM エージェントが以前に確立したすべてのユーザー ストア接続が削除されます。

- **追加**。資格情報を追加できます。
- **編集**。既存の資格情報を編集できます。
- **削除**。既存の資格情報を削除できます。

資格情報を追加または編集するときは、次のフィールドに入力します。

- **サーバー共有**。サーバー共有を指定する UNC パスを入力します。
- **ユーザー名**。domain\\username の形式で名前を入力します。
- **パスワード**。サーバー共有へのアクセスに使用するパスワードを入力します。
- **パスワードを表示**。パスワードを表示するか非表示にするかを制御します。

ファイルの重複排除

これらのオプションは、Profile Management のファイルの重複排除設定を制御します。

複数のユーザー プロファイル間に同一のファイルが存在する場合があります。これらのファイルをユーザー ストアから分離し、中央の場所に保存することで、重複を回避してストレージ スペースを節約できます。ユーザー ストアをホストするサーバー上の共有ストアに含めるファイルを指定できます。ファイル名は、ユーザー プロファイルからの相対パスで指定します。

ファイルインクルージョンを有効にする。有効にすると、Profile Management は共有ストアを自動的に生成します。その後、指定されたファイルをユーザー ストア内の各ユーザー プロファイルではなく、共有ストアに一元的に保存します。これにより、ファイルの重複を回避してユーザー ストアの負荷を軽減し、ストレージ コストを削減できます。

ファイル除外を有効にする。有効にすると、Profile Management は指定されたファイルを共有ストアから除外します。このオプションは、「**ファイルインクルージョンを有効にする**」オプションと組み合わせて使用する必要があります。共有ストアから除外するファイルを少なくとも1つ指定してください。

> **ヒント:**

> ファイルまたはフォルダーを追加する際に、ワイルドカードを使用できます。詳細については、「ワイルドカードのサポート」を参照してください。

ワイルドカードのサポート

ファイルまたはフォルダーを追加する際に、ワイルドカードを使用できます。ファイル名内のワイルドカードは再帰的に適用されますが、フォルダー名内のワイルドカードは適用されません。垂直バー (\|) を使用して、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限し、サブフォルダーには適用されないようにすることができます。

例:

- `AppData*.tmp` は、フォルダー `AppData` およびそのサブフォルダー内の拡張子 .tmp を持つすべてのファイルを除外します。
- `AppData*.tmp|` は、フォルダー `AppData` 内の拡張子 .tmp を持つすべてのファイルを除外します。
- `Downloads*\a.txt` は、`Downloads` フォルダーの直下のサブフォルダーにある `a.txt` を除外します。注意: フォルダー名内のワイルドカードは再帰的に適用されません。
- `Downloads*` は、`Downloads` フォルダーの直下のすべてのサブフォルダーを除外します。

セキュリティ

これらの設定により、Workspace Environment Management™ (WEM) 内でのユーザーアクティビティを制御できます。

アプリケーションセキュリティ

> **重要:**

> ユーザーが実行できるアプリケーションを制御するには、Windows AppLockerインターフェイスまたはWEMを使用してWindows AppLockerルールを管理します。これらのアプローチはいつでも切り替えることができます。両方のアプローチを同時に使用することはお勧めしません。

> これらの設定により、ルールを定義することで、ユーザーが実行を許可されているアプリケーションを制御できます。この機能はWindows AppLockerに似ています。WEMを使用してWindows AppLockerルールを管理すると、エージェントは**Application Security**タブのルールをエージェントホスト上のWindows AppLockerルールに変換します。エージェントがルール処理を停止しても、それらは構成セットに保持されます。AppLockerは、エージェントによって処理された最後の命令セットを使用して実行を継続します。

アプリケーションセキュリティ

このタブには、現在のWEM構成セット内のアプリケーションセキュリティルールが一覧表示されます。テキスト文字列に基づいてリストをフィルタリングするには、**Find**を使用します。

Securityタブでトップレベル項目「Application Security」を選択すると、次のオプションが利用可能になります。

- **Process Application Security Rules**。選択すると、**Application Security**タブのコントロールが有効になり、エージェントは現在の構成セットのルールを処理し、それらをエージェントホスト上のAppLockerルールに変換します。選択されていない場合、**Application Security**タブのコントロールは無効になり、エージェントはルールをAppLockerルールに変換しません。（この場合、AppLockerルールは更新されません。）

  > **注:**
  >
  > WEM管理コンソールがWindows 7 SP1またはWindows Server 2008 R2 SP1（またはそれ以前のバージョン）にインストールされている場合、このオプションは利用できません。

- **Process DLL Rules**。選択すると、エージェントは現在の構成セットのDLLルールをエージェントホスト上のAppLocker DLLルールに変換します。このオプションは、**Process Application Security Rules**を選択した場合にのみ利用可能です。

  > **重要:**

> DLLルールを使用する場合、許可されているすべてのアプリで使用される各DLLに対して、「Allow」権限を持つDLLルールを作成する必要があります。

> **注意:**

> DLLルールを使用すると、ユーザーはパフォーマンスの低下を経験する可能性があります。この問題は、AppLockerがアプリの実行が許可される前に、アプリがロードする各DLLをチェックするために発生します。

- **Overwrite**および**Merge**設定により、エージェントがアプリケーションセキュリティルールをどのように処理するかを決定できます。
  - **Overwrite**。既存のルールを上書きできます。選択すると、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。このモードは、シングルセッションマシンにのみ適用することをお勧めします。
  - **Merge**。ルールを既存のルールとマージできます。競合が発生した場合、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。マージ中にルール適用設定を変更する必要がある場合は、マージモードでは異なる場合に古い値が保持されるため、上書きモードを使用してください。

ルールコレクション

ルールはAppLockerルールコレクションに属します。各コレクション名には、含まれるルールの数（例: (12)）が示されます。コレクション名をクリックして、ルールリストを次のいずれかのコレクションにフィルタリングします。

- **実行可能ルール**。アプリケーションに関連付けられた.exeおよび.com拡張子を持つファイルを含むルール。
- **Windowsルール**。クライアントコンピューターおよびサーバーへのファイルのインストールを制御するインストーラーファイル形式（.msi、.msp、.mst）を含むルール。
- **スクリプトルール**。以下の形式のファイルを含むルール：.ps1、.bat、.cmd、.vbs、.js。
- **パッケージルール**。Universal Windowsアプリとも呼ばれるパッケージ化されたアプリを含むルール。パッケージ化されたアプリでは、アプリパッケージ内のすべてのファイルが同じIDを共有します。したがって、1つのルールでアプリ全体を制御できます。WEMは、パッケージ化されたアプリのパブリッシャールールのみをサポートします。
- **DLLルール**。以下の形式のファイルを含むルール：.dll、.ocx。

ルールリストをコレクションにフィルターすると、**ルール適用**オプションを使用して、AppLockerがエージェントホスト上のそのコレクション内のすべてのルールをどのように適用するかを制御できます。以下のルール適用値が可能です。

オフ（デフォルト）。ルールは作成され、「オフ」に設定されます。これは、ルールが適用されないことを意味します。

オン。ルールは作成され、「適用」に設定されます。これは、エージェントホストでアクティブであることを意味します。

監査。ルールは作成され、「監査」に設定されます。これは、エージェントホスト上で非アクティブな状態であることを意味します。ユーザーがAppLockerルールに違反するアプリを実行すると、そのアプリは実行が許可され、アプリに関する情報がAppLockerイベントログに追加されます。

AppLockerルールをインポートするには

AppLockerからエクスポートされたルールをWorkspace Environment Managementにインポートできます。インポートされたWindows AppLocker設定は、**セキュリティ**タブの既存のルールに追加されます。無効なアプリケーションセキュリティルールは自動的に削除され、レポートダイアログに一覧表示されます。

1. リボンで、**AppLockerルールをインポート**をクリックします。
2. AppLockerからエクスポートされた、AppLockerルールを含むXMLファイルを参照します。
3. **インポート** をクリックします。

ルールはアプリケーションセキュリティルールリストに追加されます。

ルールを追加するには

1. サイドバーでルールコレクション名を選択します。たとえば、実行可能ルールを追加するには、「実行可能ルール」コレクションを選択します。
2. **ルールの追加**をクリックします。
3. **表示**セクションで、次の詳細を入力します。
    - **名前**。ルールリストに表示されるルールの表示名です。
    - **説明**。リソースに関する追加情報（オプション）。
4. **種類**セクションで、オプションを選択します。
    - **パス**。ルールはファイルパスと一致します。
    - **発行元**。ルールは選択した発行元と一致します。

- **ハッシュ**。ルールは特定のハッシュコードと一致します。

5. **権限**セクションで、**許可**または**拒否**を選択します。この選択により、アプリケーションの実行を許可するか禁止するかが制御されます。
6. このルールをユーザーまたはユーザーグループに割り当てるには、**割り当て**ペインで、このルールを割り当てるユーザーまたはグループを選択します。「割り当て済み」列には、割り当てられたユーザーまたはグループの「チェック」アイコンが表示されます。

> **ヒント:**
>
> - 通常のWindows選択修飾キーを使用して複数の選択を行うことができます。または、**すべて選択**を使用してすべての行を選択できます。
> - ユーザーはすでにWEMユーザーリストに登録されている必要があります。
> - ルールは作成後に割り当てることができます。

7. **次へ**をクリックします。
8. 選択したルールタイプに応じて、ルールが一致する基準を指定します。

   - **パス**。ルールを適用するファイルまたはフォルダーへのパスを入力します。WEMエージェントは、実行可能ファイルのパスに従って、実行可能ファイルにルールを適用します。
   - **発行元**。次のフィールドに入力します: **発行元**、**製品名**、**ファイル名**、**ファイルバージョン**。いずれのフィールドも空にすることはできませんが、代わりにアスタリスク (*) を入力できます。WEMエージェントは、発行元情報に従ってルールを適用します。適用されると、ユーザーは同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。
   - **ハッシュ**。ハッシュを追加するには、**追加**をクリックします。**ハッシュの追加**ウィンドウで、ファイル名とハッシュ値を入力します。選択したファイルまたはフォルダーからハッシュを作成するには、**AppInfoViewer**ツールを使用できます。WEMエージェントは、指定されたとおりに同一の実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは指定されたものと同一の実行可能ファイルを実行できます。

9. **次へ**をクリックします。
10. 必要な例外を追加します（オプション）。**例外の追加**で、例外の種類を選択し、**追加**をクリックします。（必要に応じて、例外を編集または削除できます。）
11. ルールを保存するには、**作成**をクリックします。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストで1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**編集**をクリックします。エディターで、ルールを割り当てるユーザーおよびユーザーグループを含む行を選択し、**OK**をクリックします。また、**すべて選択**を使用してすべての選択を解除することで、選択したルールをすべてのユーザーから割り当て解除することもできます。

注: 複数のルールを選択して**編集**をクリックすると、それらのルールに対するルール割り当ての変更は、選択したすべてのユーザーおよびユーザーグループに適用されます。つまり、既存のルール割り当てはそれらのルール間でマージされます。

デフォルトルールを追加するには

デフォルトルールを追加をクリックします。AppLockerのデフォルトルールのセットがリストに追加されます。

ルールを編集するには

リストで1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**編集**をクリックします。エディターが表示され、行った選択に適用される設定を調整できます。

ルールを削除するには

リストで1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**削除**をクリックします。

アプリケーションセキュリティルールをバックアップするには

現在の構成セットにあるすべてのアプリケーションセキュリティルールをバックアップできます。ルールはすべて単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。**復元**を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。 リボンで、**バックアップ**をクリックし、**セキュリティ設定**を選択します。

アプリケーションセキュリティルールを復元するには

Workspace Environment Managementのバックアップコマンドによって作成されたXMLファイルから、アプリケーションセキュリティルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**セキュリティ**タブに切り替えるか更新すると、無効なアプリケーションセキュリティルールが検出されます。無効なルールは自動的に削除され、レポートダイアログに一覧表示されます。このダイアログはエクスポートできます。

復元プロセス中に、現在の構成セットのユーザーおよびユーザーグループへのルール割り当てを復元するかどうかを選択できます。再割り当ては、バックアップされたユーザー/グループが現在の構成セット/Active Directoryに存在する場合にのみ成功します。不一致のルールは復元されます

が、割り当て解除されたままになります。復元後、それらはレポートダイアログに一覧表示され、CSV形式でエクスポートできます。

1. リボンで、**復元**をクリックして復元ウィザードを開始します。
2. セキュリティ設定を選択し、**次へ**を2回クリックします。
3. **フォルダーから復元**で、バックアップファイルを含むフォルダーを参照します。
4. **AppLockerルール設定**を選択し、**次へ**をクリックします。
5. ルール割り当てを復元するかどうかを確認します。
    - **はい**。ルールを復元し、現在の構成セット内の同じユーザーおよびユーザーグループに再割り当てします。
    - **いいえ**。ルールを復元し、割り当て解除されたままにします。
6. 復元を開始するには、**設定の復元**をクリックします。

プロセス管理

これらの設定により、特定のプロセスをホワイトリストまたはブラックリストに登録できます。

プロセス管理

プロセス管理を有効にする。このオプションは、プロセスホワイトリストとブラックリストが有効かどうかを切り替えます。無効にすると、**プロセスブラックリスト**タブと**プロセスホワイトリスト**タブの設定はどれも適用されません。

> **注:**
>
> このオプションは、エージェントがユーザーセッションで実行されている場合にのみ機能します。エージェントをセッションで実行できるようにするには、**詳細設定 > 構成 > メイン構成**タブを使用して、**エージェントの起動**オプション（**ログオン時 / 再接続時 / 管理者向け**）を有効にし、**エージェントの種類**を**UI**に設定します。これらのオプションについては、「詳細設定」で説明しています。

プロセスブラックリスト

これらの設定により、特定のプロセスをブラックリストに登録できます。

プロセスブラックリストを有効にする。このオプションは、プロセスブラックリストを有効にします。実行可能ファイル名（例: cmd.exe）を使用してプロセスを追加します。

ローカル管理者を除外する。ローカル管理者アカウントをプロセスブラックリストから除外します。

指定されたグループを除外する。特定のユーザーグループをプロセスブラックリストから除外できます。

プロセスホワイトリスト

これらの設定により、特定のプロセスをホワイトリストに登録できます。プロセスブラックリストとプロセスホワイトリストは相互に排他的です。

プロセスホワイトリストを有効にする。このオプションは、プロセスホワイトリストを有効にします。実行可能ファイル名（例: cmd.exe）を使用してプロセスを追加します。

> **注:**

> **プロセスホワイトリストを有効にする**が有効になっている場合、ホワイトリストにないすべてのプロセスは自動的にブラックリストに登録されます。

> **ローカル管理者を除外する**。ローカル管理者アカウントをプロセスホワイトリストから除外します（すべてのプロセスを実行できます）。

指定されたグループを除外する。特定のユーザーグループをプロセスホワイトリストから除外できます（すべてのプロセスを実行できます）。

特権の昇格

> **注:**

> この機能はCitrix Virtual Appsには適用されません。

> 特権昇格機能を使用すると、一部の実行可能ファイルに必要な管理者レベルに非管理者ユーザーの特権を昇格させることができます。その結果、ユーザーは管理者グループのメンバーであるかのように、それらの実行可能ファイルを開始できます。

特権昇格

セキュリティで**特権昇格**ペインを選択すると、次のオプションが表示されます。

- **特権昇格設定の処理**。特権昇格機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、エージェントが特権昇格設定を処理できるようになり、**特権昇格**タブの他のオプションが利用可能になります。
- **Windows Server OSに適用しない**。特権昇格設定をWindows Serverオペレーティングシステムに適用するかどうかを制御します。選択した場合、ユーザーに割り当てられたルールはWindows Serverマシンでは機能しません。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- **RunAsInvokerを強制する**。すべての実行可能ファイルを現在のWindowsアカウントで実行するように強制するかどうかを制御します。選択した場合、ユーザーは実行可能ファイルを管理者として実行するように求められません。

このタブには、構成したルールの完全なリストも表示されます。**実行可能ファイルルール**または**Windowsインストーラールール**をクリックして、ルールリストを特定のルールタイプにフィルタリングします。**検索**を使用してリストをフィルタリングできます。**割り当て済み**列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

サポートされているルール

特権昇格は、実行可能ファイルルールとWindowsインストーラールールの2種類のルールを使用して構成できます。

- **実行可能ファイルルール**。アプリケーションに関連付けられた.exeおよび.com拡張子を持つファイルを含むルール。
- **Windowsインストーラールール**。アプリケーションに関連付けられた.msiおよび.msp拡張子を持つインストーラーファイルを含むルール。Windowsインストーラールールを追加する際は、次のシナリオを考慮してください。
  - 特権昇格はMicrosoftのmsiexec.exeにのみ適用されます。`.msi`および`.msp` Windowsインストーラーファイルを展開するために使用するツールがmsiexec.exeであることを確認してください。
  - あるプロセスが指定されたWindowsインストーラールールに一致し、その親プロセスが指定された実行可能ファイルルールに一致するとします。指定された実行可能ファイルルールで**子プロセスに適用**設定が有効になっていない限り、そのプロセスは昇格された特権を取得できません。

実行可能ファイルルールタブまたは**Windowsインストーラールール**タブをクリックすると、**アクション**セクションに次の利用可能なアクションが表示されます。

- **編集**。既存の実行可能ファイルルールを編集できます。

- 「**削除**」。既存の実行可能ルールを削除できます。
- 「**ルールの追加**」。実行可能ルールを追加できます。

ルールを追加するには

1. 「**実行可能ルール**」または「**Windowsインストーラールール**」に移動し、「**ルールの追加**」をクリックします。「**ルールの追加**」ウィンドウが表示されます。
2. 「**表示**」セクションで、次の情報を入力します。
   - 「**名前**」。ルールの表示名を入力します。この名前はルールリストに表示されます。
   - 「**説明**」。ルールに関する追加情報を入力します。
3. 「**種類**」セクションで、オプションを選択します。
   - 「**パス**」。ルールはファイルパスと一致します。
   - 「**発行元**」。ルールは選択した発行元と一致します。
   - 「**ハッシュ**」。ルールは特定のハッシュコードと一致します。
4. 「**設定**」セクションで、必要に応じて以下を構成します。
   - 「**子プロセスに適用**」。選択すると、実行可能ファイルが開始するすべての子プロセスにルールが適用されます。より詳細なレベルで特権昇格を管理するには、次のオプションを使用します。
     - 「**同じフォルダー内の実行可能ファイルにのみ適用**」。選択すると、同じフォルダーを共有する実行可能ファイルにのみルールが適用されます。
     - 「**署名された実行可能ファイルにのみ適用**」。選択すると、署名された実行可能ファイルにのみルールが適用されます。
     - **同じ発行元の実行可能ファイルにのみ適用**。選択した場合、同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルにのみルールが適用されます。この設定は、ユニバーサル Windows プラットフォーム (UWP) アプリでは機能しません。

> **注:**
>
> Windows インストールルールを追加すると、「**子プロセスに適用**」設定がデフォルトで有効になり、編集することはできません。

- **開始時刻**。エージェントがルールの適用を開始する時刻を指定できます。時刻形式は HH:MM です。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。
- **終了時刻**。エージェントがルールの適用を停止する時刻を指定できます。時刻形式は HH:MM です。指定された時刻以降、エージェントはルールを適用しなくなります。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。
- **パラメータの追加**。指定されたパラメータに一致する実行可能ファイルに特権昇格を制限できます。パラメータは一致基準として機能します。指定するパラメータが正しいことを確認してください。この機能の使用例については、「パラメータで実行される実行可能ファイル」を参照してください。このフィールドが空であるか、空白のみが含まれている場合、エージェントは、パラメータの有無にかかわらず、関連する実行可能ファイルに特権昇格を適用します。
- **正規表現を有効にする**。正規表現を使用して基準をさらに拡張するかどうかを制御できます。

5. 「**割り当て**」セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーとユーザーグループにルールを割り当てる場合は、「**すべて選択**」を選択します。

> **ヒント:**
>
> - 通常の Windows 選択修飾キーを使用して、複数の選択を行うことができます。
> - ユーザーまたはユーザーグループは、「**管理 > ユーザー**」タブに表示されるリストにすでに存在している必要があります。
> - ルールは後で（ルール作成後に）割り当てることもできます。

6. **次へ**をクリックします。
7. 以下のいずれかを実行します。前のページで選択したルールタイプに応じて、異なるアクションが必要です。

- **パス**。ルールを適用するファイルまたはフォルダーへのパスを入力します。WEM エージェントは、実行可能ファイルにルールを適用します。 実行可能ファイルのパスに従って。
- **発行元**。次のフィールドに入力します: 「**発行元**」、「**製品名**」、「**ファイル名**」、および「**ファイルバージョン**」。いずれのフィールドも空にすることはできませんが、代わりにアスタリスク (*) を入力できます。WEM エージェントは、発行元情報に従ってルールを適

用します。適用された場合、ユーザーは同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。

- **ハッシュ**。**追加**をクリックしてハッシュを追加します。「**ハッシュの追加**」ウィンドウで、ファイル名とハッシュ値を入力します。「**AppInfoViewer**」ツールを使用して、選択したファイルまたはフォルダからハッシュを作成できます。WEM エージェントは、指定されたとおりに同一の実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは指定されたものと同一の実行可能ファイルを実行できます。

8. **作成**をクリックしてルールを保存し、ウィンドウを終了します。

パラメータを指定して実行される実行可能ファイル

指定されたパラメータに一致する実行可能ファイルに特権昇格を制限できます。パラメータは一致基準として機能します。実行可能ファイルで利用可能なパラメータを確認するには、Process Explorer や Process Monitor などのツールを使用します。それらのツールに表示されるパラメータを適用します。

実行可能ファイルのパスに基づいて、実行可能ファイル (例: cmd.exe) にルールを適用したいとします。特権昇格を `test.bat` にのみ適用したい場合です。Process Explorer を使用してパラメータを取得できます。

パラメータを指定して実行されるCMD (/en-us/workspace-environment-management/service/media/cmd-running-with-parameters.png)

Add Parameter フィールドに、次のように入力できます。

- `/c ""C:\test.bat""`

次に、**Path** フィールドに次のように入力します。

- `C:\Windows\System32\cmd.exe`

この場合、指定されたユーザーの特権は、`test.bat` の場合にのみ管理者レベルに昇格されます。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストから1つ以上のルールを選択し、**Actions** セクションで **Edit** をクリックします。**Edit Rule** ウィンドウで、ルールを割り当てたいユーザーまたはユーザーグループを選択し、**OK** をクリックします。

ルールを削除するには

リストから1つ以上のルールを選択し、**Actions** セクションで **Delete** をクリックします。

特権昇格ルールをバックアップするには

現在の構成セットにあるすべての特権昇格ルールをバックアップできます。すべてのルールは単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。**Restore** を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。

バックアップを完了するには、リボンで使用できる **Backup** ウィザードを使用します。**Backup** ウィザードの使用方法の詳細については、リボン を参照してください。

特権昇格ルールを復元するには

Workspace Environment Management バックアップウィザードを介してエクスポートされたXMLファイルから、特権昇格ルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**セキュリティ > 特権昇格**ペインに切り替えるか、または更新すると、無効な特権昇格ルールが検出されます。無効なルールは自動的に削除され、エクスポート可能なレポートに一覧表示されます。**復元**ウィザードの使用について詳しくは、「リボン」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/ribbon.html)を参照してください。

自己昇格

自己昇格を使用すると、特定のユーザーに対して、事前に正確な実行可能ファイルを提供することなく、特権昇格を自動化できます。これらのユーザーは、ファイルを右クリックし、コンテキストメニューで**管理者権限で実行**を選択するだけで、該当する任意のファイルの自己昇格を要求できます。その後、昇格の理由を提供するよう求めるプロンプトが表示されます。WEMエージェントは理由を検証しません。昇格の理由は、監査目的でデータベースに保存されます。条件が満たされると、昇格が適用され、ファイルは管理者権限で正常に実行されます。

この機能により、ニーズに最適なソリューションを柔軟に選択できます。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格を防止したいファイルのブロックリストを作成したりできます。

自己昇格は、次の形式のファイルに適用されます: `.exe`、`.msi`、`.bat`、`.cmd`、`.ps1`、および`.vbs`。

> **注:**
>
> デフォルトでは、一部のファイルを実行するために特定のアプリケーションが使用されます。たとえば、.cmdファイルを実行するにはcmd.exeが使用され、.ps1ファイルを実行するにはpowershell.exeが使用されます。これらのシナリオでは、デフォルトの動作を変更することはできません。

セキュリティ > 自己昇格を選択すると、次のオプションが表示されます。

- **自己昇格を有効にする**。自己昇格機能を有効にするかどうかを制御します。このオプションを選択して、次の操作を行います。
  - エージェントが自己昇格設定を処理できるようにします。
  - **自己昇格**タブの他のオプションを利用可能にします。
  - ユーザーがファイルを右クリックしたときに、コンテキストメニューで**管理者権限で実行**オプションを利用可能にします。これにより、ユーザーは**自己昇格**タブで指定した条件に一致するファイルの自己昇格を要求できます。
- **権限**。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格を防止したいファイルのブロックリストを作成したりできます。
  - **許可**。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成します。
  - **拒否**。ユーザーが自己昇格を防止したいファイルのブロックリストを作成します。
- 次の操作を実行できます。
  - **編集**。既存の条件を編集できます。
  - **削除**。既存の条件を削除できます。
  - **追加**。条件を追加できます。パス、選択した発行元、または特定のハッシュコードに基づいて条件を作成できます。
- **設定**。エージェントが自己昇格を適用する方法を制御する追加設定を構成できます。
  - **子プロセスに適用**。選択すると、ファイルが開始するすべての子プロセスに自己昇格条件が適用されます。
  - **開始時刻**。エージェントが自己昇格の条件の適用を開始する時刻を指定できます。時刻形式はHH:MMです。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。
  - **終了時刻**。エージェントが自己昇格の条件の適用を停止する時刻を指定できます。時刻形式はHH:MMです。指定された時刻以降、エージェントは条件を適用しなくなります。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。
- **割り当て**。自己昇格条件を該当するユーザーまたはユーザーグループに割り当てることができます。すべてのユーザーおよびユーザーグループに条件を割り当てるには、**すべて選択**をクリックするか、**全員**を選択します。**すべて選択**チェックボックスは、選択をクリアしてユーザーおよびユーザーグループを再選択したいシナリオで役立ちます。

プロセス階層制御

プロセス階層制御機能は、親子関係のシナリオで、特定の子プロセスが親プロセスから開始できるかどうかを制御します。親プロセスを定義し、その子プロセスに対して許可リストまたはブロックリストを指定することで、ルールを作成します。この機能を使用する前に、このセクション全体を確認してください。

> **注:**
>
> - この機能はCitrix Virtual Appsにのみ適用されます。

> ルールの仕組みを理解するために、次の点に留意してください。

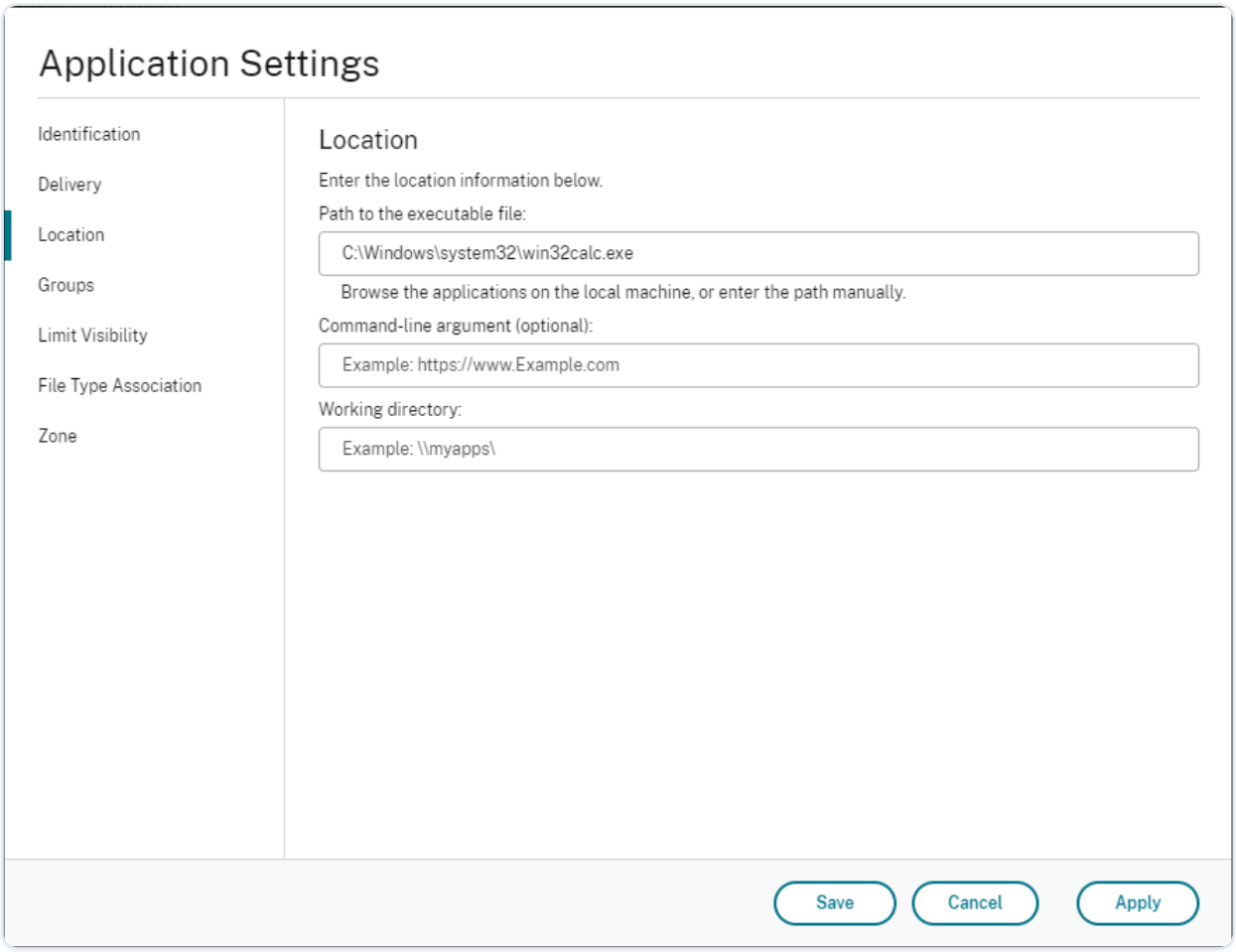
- プロセスは1つのルールのみに従います。同じプロセスに対して複数のルールを定義した場合、最も優先度の高いルールのみが適用されます。
- 定義したルールは、元の親子階層に限定されるだけでなく、その階層の各レベルにも適用されます。親プロセスに適用されるルールは、ルールの優先度に関係なく、その子プロセスに適用されるルールよりも優先されます。たとえば、次の2つのルールを定義します。
  - ルール1：WordはCMDを開くことができません。
  - ルール2：メモ帳はCMDを開くことができます。

  この2つのルールがある場合、ルールの優先順位に関係なく、まずWordを開いてからWordからメモ帳を開くことで、メモ帳からCMDを開くことはできません。

この機能は、特定のプロセスベースの親子関係に依存して動作します。シナリオにおける親子関係を視覚化するには、Process Explorerツールのプロセスツリー機能を使用します。Process Explorerの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/procmon>`を参照してください。

潜在的な問題を回避するために、Full Configuration管理インターフェイスで**VUEMAppCmd.exe**を指す実行可能ファイルのパスを追加することをお勧めします。**VUEMAppCmd.exe**は、公開されたアプリケーションが開始する前にWEMエージェントが設定の処理を完了するようにします。次の手順を完了してください。

1. 「**アプリケーション**」ノードで、アプリケーションを選択し、アクションバーの**プロパティ**をクリックしてから、「**場所**」ページに移動します。



2. エンドユーザーのオペレーティングシステム上のローカルアプリケーションのパスを入力します。

   - 「**実行可能ファイルへのパス**」フィールドに、次のように入力します。

     ```
     <%ProgramFiles%>\Citrix\Workspace Environment Management
     Agent\VUEMAppCmd.exe
     ```

3. 開くアプリケーションを指定するコマンドライン引数を入力します。

   - 「**コマンドライン引数**」フィールドに、**VUEMAppCmd.exe**を介して起動したいアプリケーションへのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲んでください。
   - たとえば、**VUEMAppCmd.exe**を介してiexplore.exeを起動したいとします。その場合は、次のように入力します。`%ProgramFiles(x86)%\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。

考慮事項

この機能が動作するためには、各エージェントマシンで**AppInfoViewer**ツールを使用して機能を有効にする必要があります。このツールを使用して機能を有効または無効にするたびに、マシンの再起動が必要です。この機能が有効になっている場合、以下の考慮事項に注意してください。

- エージェントをアップグレードまたはアンインストールした後、エージェントマシンを再起動する必要があります。

  > **注:**
  >
  > バージョン**2103.2.0.1**または**2104.1.0.1**からアップグレードまたはアンインストールする場合、再起動のプロンプトは表示されません。

- 自動エージェントアップグレード機能は、エージェントバージョン**2105.1.0.1**以降では動作しません。自動エージェントアップグレード機能を使用するには、まず**AppInfoViewer**ツールを使用してプロセス階層制御機能を無効にしてください。
- バージョン **2103.2.0.1** または **2104.1.0.1** からアップグレードする場合、エージェントの自動アップグレードが完了した後、エージェントマシンを再起動する必要があります。

プロセス階層制御機能が有効になっていることを確認するには、エージェントマシンで **レジストリエディター** を開きます。次のレジストリエントリが存在する場合、この機能は有効になっています。

- 32ビットOS
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`
- 64ビットOS
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`

> **重要:**
>
> エージェントのバージョン **2103.2.0.1** および **2104.1.0.1** では、プロセス階層制御機能が自動的に有効になる場合があります。プロセス階層制御機能が有効になっていることを確認するには、エージェントマシンでレジストリエディターを開きます。この機能が有効になって

> いる場合、エージェントのアップグレードまたはアンインストール後に、エージェントマシンを手動で再起動する必要があります。

前提条件

この機能を使用するには、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Citrix Virtual Appsの展開。
- エージェントがWindows 10またはWindows Serverで実行されていること。
- インプレースアップグレードまたは新規インストール後にエージェントホストが再起動されていること。

プロセス階層制御

セキュリティ で **プロセス階層制御** を選択すると、次のオプションが表示されます。

- **プロセス階層制御を有効にする**。プロセス階層制御機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、**プロセス階層制御** タブの他のオプションが利用可能になり、そこで構成された設定が有効になります。この機能は、Citrix Virtual Appsの展開で*のみ*使用できます。
- **コンテキストメニューからを非表示にする**。Windowsの右クリックコンテキストメニューから **プログラムから開く** オプションを表示するかどうかを制御します。有効にすると、メニューオプションはインターフェイスから非表示になります。無効にすると、オプションが表示され、ユーザーはそれを使用してプロセスを開始できます。プロセス階層制御機能は、**プログラムから開く** オプションを介して開始されたプロセスには適用されません。現在のアプリケーション階層とは無関係なシステムサービスを介してアプリケーションがプロセスを開始するのを防ぐために、この設定を有効にすることをお勧めします。

プロセス階層制御 タブには、構成したルールの完全なリストも表示されます。**検索** を使用してリストをフィルター処理できます。**割り当て済み** 列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

アクション セクションには、次のアクションが表示されます。

- **編集**。ルールを編集できます。
- **削除**。ルールを削除できます。
- **ルールの追加**。ルールを追加できます。

ルールを追加するには

1. **プロセス階層制御**に移動し、**ルールの追加**をクリックします。**ルールの追加**ウィンドウが表示されます。

2. **表示**セクションで、次のように入力します。
   - **名前**。ルールの表示名を入力します。この名前はルールリストに表示されます。
   - **説明**。ルールに関する追加情報を入力します。
3. **種類**セクションで、オプションを選択します。
   - **パス**。ルールはファイルパスと一致します。
   - **発行元**。ルールは選択した発行元と一致します。
   - **ハッシュ**。ルールは特定のハッシュコードと一致します。
4. **モード**セクションで、次のいずれかのオプションを選択します。
   - **子プロセスをブロックリストに追加**。選択すると、親プロセスに対してルールを構成した後、該当する子プロセスのブロックリストを定義できます。ブロックリストは、指定したプロセスのみの実行を禁止し、他のプロセスは実行を許可します。
   - **子プロセスを許可リストに追加**。選択すると、親プロセスに対してルールを構成した後、該当する子プロセスの許可リストを定義できます。許可リストは、指定したプロセスのみの実行を許可し、他のプロセスは実行を禁止します。

> **注:**
>
> プロセスは1つのルールのみに従います。同じプロセスに対して複数のルールを定義した場合、ルールは優先順位に従って適用されます。

5. **優先度**セクションで、ルールの優先度を設定します。優先度を設定する際は、次の点を考慮してください。優先度は、設定したルールが処理される順序を決定します。値が大きいほど優先度が高くなります。整数を入力します。競合が発生した場合、優先度の高いルールが優先されます。
6. **割り当て**セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーおよびユーザーグループにルールを割り当てる場合は、**すべて選択**を選択します。

> **注:**
>
> - 通常のWindowsの選択キーを使用して、複数選択を行うことができます。

- ユーザーまたはユーザーグループは、**管理 > ユーザー**タブに表示されるリストにすでに存在している必要があります。
- ルールは後で（ルール作成後に）割り当てることもできます。

7. **次へ**をクリックします。
8. 親プロセスにルールを設定するには、次のいずれかを実行します。前のページで選択したルールタイプによって、必要なアクションが異なります。

   - **パス**。親プロセスにルールを適用するファイルまたはフォルダーへのパスを入力します。WEMエージェントは、実行可能ファイルのパスに基づいて実行可能ファイルにルールを適用します。パスの一致を示すために、このフィールドにアスタリスク (*) のみを入力することはお勧めしません。そうすると、意図しないパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。
   - **発行元**。次のフィールドに入力します: **発行元**、**製品名**、**ファイル名**、**ファイルバージョン**。どのフィールドも空にすることはできませんが、代わりにアスタリスク (*) を入力できます。WEMエージェントは、発行元情報に基づいて親プロセスにルールを適用します。適用された場合、ユーザーは同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。
   - **ハッシュ**。**追加**をクリックしてハッシュを追加します。**ハッシュの追加**ウィンドウで、ファイル名とハッシュ値を入力します。**AppInfoViewer**ツールを使用して、選択したファイルまたはフォルダーからハッシュを作成できます。WEMエージェントは、指定された同一の実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは指定されたものと同一の実行可能ファイルを実行できます。

9. **次へ**をクリックして、子プロセスの設定を構成します。
10. 該当する子プロセスの許可リストまたはブロックリストを定義するには、次のいずれかを実行します。

    a. メニューからルールタイプを選択し、**追加**をクリックします。**子プロセス**ウィンドウが表示されます。

    b. **子プロセス**ウィンドウで、必要に応じて設定を構成します。**子プロセス**ウィンドウのユーザーインターフェイスは、選択したルールタイプによって異なります。子プロセスでは、次のルールタイプが利用可能です: **パス**、**発行元**、**ハッシュ**。

    c. **OK**をクリックして**ルールの追加**ウィンドウに戻ります。さらに子プロセスを追加するか、**作成**をクリックしてルールを保存し、ウィンドウを終了します。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストからルールを1つ選択し、**アクション**セクションで**編集**をクリックします。**ルールの編集**ウィンドウで、ルールを割り当てたいユーザーまたはユーザーグループを選択し、**OK**をクリックします。

ルールを削除するには

リストから1つ以上のルールを選択し、**アクション**セクションで**削除**をクリックします。

ルールをバックアップするには

現在の構成セットにあるすべてのプロセス階層制御ルールをバックアップできます。すべてのルールは単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。**復元**を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。

バックアップを完了するには、リボンで使用できる**バックアップ**ウィザードを使用します。**バックアップ**ウィザードの使用方法の詳細については、リボンを参照してください。

ルールを復元するには

Workspace Environment Managementバックアップウィザードを介してエクスポートされたXMLファイルから、プロセス階層制御ルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**セキュリティ > プロセス階層制御**ペインに切り替えるか更新すると、無効なルールは削除され、エクスポート可能なレポートに一覧表示されます。**復元**ウィザードの使用方法の詳細については、リボンを参照してください。

Active Directory オブジェクト

Workspace Environment Management™ (WEM) で管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位を指定するには、これらのページを使用します。

> **注:**
>
> エージェントが管理できるように、ユーザー、コンピューター、グループ、およびOUをWEMに追加します。

ユーザー

既存のユーザーとグループのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルターできます。

ユーザーまたはグループを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. **ユーザーまたはグループの選択**ウィンドウでユーザーまたはグループ名を入力し、**OK**をクリックします。

Citrix Cloud™アカウントをAzure Active Directory (AD) に接続した後、Azure ADユーザーとグループも追加できます。次の手順を完了します。

1. **追加**の横にある下矢印をクリックします。**Azure ADユーザーの追加**ウィンドウが表示されます。
2. **Azure ADユーザーの追加**ウィンドウで、検索バーに情報を入力し、**検索**をクリックして一致するユーザーまたはグループを表示します。
3. 該当するユーザーまたはグループを選択し、**OK**をクリックします。

Citrix CloudをAzure ADに接続する方法については、「Azure Active DirectoryをCitrix Cloudに接続する」を参照してください。

名前。ユーザーまたはグループの名前です。

説明。**項目の編集**ダイアログにのみ表示され、ユーザーまたはグループに関する追加情報を指定できます。

項目の優先度。異なるグループとユーザーアカウント間の優先度を構成できます。優先度は、割り当てたアクションが処理される順序を決定します。優先度を指定するには整数を入力します。値が大きいほど優先度が高くなります。競合が発生した場合（たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合など）、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

> **重要:**
>
> グループポリシー設定を割り当てる場合、ここで構成した優先度は機能しません。優先度を設定するには、**管理コンソール > 割り当て**を使用します。詳しくは、「グループポリシー設定のコンテキスト化」を参照してください。

> **アイテムの状態**。ユーザーまたはグループを有効にするか無効にするかを選択できます。無効にすると、アクションを割り当てることができません。

マシン

現在の構成セットに追加されたマシンのリストです。ここにリストされているマシンのみがWorkspace Environment Managementによって管理されます。**検索**を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルタリングできます。

これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサービスに登録されると、インフラストラクチャサービスは構成セットに関連する必要なマシン依存設定をエージェントに送信します。ユーザーエクスペリエンスを向上させるため、インフラストラクチャサービスはエージェントの構成セットに関連するデータをキャッシュします。データキャッシュにより、インフラストラクチャサービスはADからデータを取得する頻度を減らすことができます。キャッシュは1時間ごとに更新されます。エージェントを別の構成セットに変更すると、反映されるまでに時間がかかる場合があります。

> **ヒント:**
>
> これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサーバーに正しく登録されているかを確認するには、管理セクションの「エージェント」を参照してください。

コンピューターまたはコンピューターグループを現在の構成セットに追加するには

1. **オブジェクトの追加**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. ［コンピューターまたはグループの選択］ダイアログで、コンピューターまたはコンピューターグループを選択し、**［OK］**をクリックします。

組織単位のコンピューターを構成セットに追加するには

1. **OUの追加**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. ［組織単位］ダイアログで、組織単位を選択し、**［OK］**をクリックします。

コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの詳細を編集するには

1. リストから項目を選択します。
2. **編集**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
3. ［アイテムの編集］ダイアログで、以下の詳細（読み取り専用ではないもの）を編集し、**［OK］**をクリックします。

名前*。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの名前。

識別名*。選択したコンピューターまたはコンピューターグループの識別名 (DN)。このフィールドを使用すると、同じ名前を持つ異なるOUを区別できます。

説明。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUに関する追加情報。

種類*。選択した種類 (コンピューター、グループ、または組織単位)

アイテムの状態。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの状態 (有効または無効)。無効になっている場合、コンピューター、コンピューターグループ、またはOUにはアクションを割り当てることができません。

アイテムの優先度。これにより、異なるグループとユーザーアカウント間の優先度を構成できます。優先度によって、割り当てたアクションが処理される順序が決まります。値が大きいほど、優先度が高くなります。整数を入力します。競合が発生した場合 (たとえば、同じドライブ文字を持つ異なるネットワークドライブをマッピングする場合)、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

* Active Directoryから報告された読み取り専用の詳細。

詳細設定

バインドされていないエージェントのサイト設定

どの構成セットにもバインドされていないエージェントに設定を適用するかどうかを制御します。

以下の設定は、WEM展開全体に適用されます。これらはどの構成セットにも関連付けられていません。これらを有効にした後、「バインドされていないエージェント」構成セットに移動し、そこで設定を構成して、バインドされていないエージェントの動作を制御できます。

- **バインドされていないエージェントに設定を適用**。「バインドされていないエージェント」構成セットの設定を、**Active Directoryオブジェクト**にまだ追加していないエージェントに適用できます。
    - **バインドされていないドメイン非参加エージェントを含める**。バインドされていないドメイン非参加エージェントに設定を適用するかどうかを制御できます。

AD設定

以下のAD関連設定を制御します。

- **Active Directory検索タイムアウト**。Active Directory検索が終了するまでのタイムアウトをミリ秒単位で指定します。デフォルト値は1000です。検索が完了する前にタイムアウトが発生するのを避けるため、500以上の値を使用することをお勧めします。
- **Active Directory 接続セキュリティ**。デフォルトでは、WEM は Active Directory クエリに *LDAP* を使用します。*LDAPS* を使用して暗号化された接続を強制するには、**Active Directory 接続を暗号化するために LDAPS を有効にする** を選択します。

Transformerの設定

これらのオプションを使用すると、Transformer機能を構成できます。Transformerを使用すると、エージェントは、構成されたリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトするWebまたはアプリケーションランチャーとして接続できます。Transformerを使用して、任意のWindows PCを完全に元に戻せる「キオスク」モードで高性能シンクライアントに変換できます。

ブラウザのサポート: TransformerはMicrosoft Edgeの最新バージョンで使用してください。

一般

一般設定

これらの設定は、Transformerの外観と基本設定を制御します。

Transformerを有効にする。有効にすると、このサイトに接続されているエージェントホストは自動的に*キオスクモード*になります。キオスクモードでは、エージェントホストは、構成されたリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトするWebまたはアプリケーションランチャーになります。ユーザー環境はロックダウンされ、ユーザーはエージェントとのみ対話できます。このオプションを無効にすると、**一般**ページまたは**詳細設定**ページのどちらの設定も処理されません。

WebインターフェイスURL。このURLは、ユーザーの仮想デスクトップのWebフロントエンドとして使用されます。これは、Citrix DaaS（旧Citrix Virtual Apps and Desktops™サービス）およびCitrix Virtual Apps and Desktops環境のアクセスURLです。

カスタムタイトル。有効にすると、Workspace Environment Management™エージェントのキオスクウィンドウにカスタムタイトルバーが与えられます。

ウィンドウモードを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Managementエージェントのキオスクはウィンドウモードで起動します。ユーザーは引き続きWindows環境からロックアウトされます。

言語選択を許可する。有効にすると、ユーザーはTransformerインターフェイスの言語を選択できます。

ナビゲーションボタンを表示する。有効にすると、「進む」、「戻る」、「ホーム」のWebナビゲーションボタンがエージェントのキオスクウィンドウに表示されます。「ホーム」は、ユーザーを上記のWebインターフェイスURLに戻します。

時計を表示する。有効にすると、Transformer UIに時計が表示されます。

12時間表示の時計を表示する。有効にすると、12時間表示の時計（午前/午後）が表示されます。デフォルトでは、Transformerの時計は24時間表示です。

アプリケーションパネルを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Managementで割り当てられたユーザーのアプリケーションを含むパネルが表示されます。

アプリケーションパネルを自動的に非表示にする。有効にすると、アプリケーションパネルは使用されていないときに自動的に非表示になります。

ロック解除パスワードの変更。**Ctrl+Alt+U**を押してユーザー環境のロックを解除するために使用できるパスワードを指定できます。これは、管理者とサポートエージェントが制限なくユーザー環境のトラブルシューティングを行えるように設計されています。

サイト設定

サイトリストを有効にする。有効にすると、キオスクインターフェイスにURLのリストが追加されます。

ツール設定

ツールリストを有効にする。有効にすると、キオスクインターフェイスにツールリストが追加されます。

詳細設定

プロセスランチャー

これらのオプションを使用すると、Workspace Environment Management Agentのキオスクモードを、Webインターフェイスを表示する代わりにプロセスランチャーにすることができます。

プロセスランチャーを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Managementエージェントがプロセスランチャーモードになります。プロセスランチャーモードでは、Workspace Environment Managementエージェントは**プロセスコマンドライン**で指定されたプロセスを起動します。終了した場合、プロセスは再起動されます。

プロセスコマンドライン。特定のプロセスのコマンドラインを入力できます（例：RDP接続を起動するためのmstsc.exeへのパス）。

プロセス引数。上記のコマンドラインに引数を指定できます（例：mstsc.exeの場合、接続先のマシンのIPアドレス）。

VMware Viewの最終ユーザー名をクリア。有効にすると、VMwareデスクトップセッションを起動するときに、ログオン画面で前のユーザーのユーザー名がクリアされます。

VMware Viewモードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーはVMware Viewモードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できます。

Microsoft RDSモードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーはMicrosoft Remote Desktop Services (RDS) モードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できます。

Citrixモードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーはCitrixモードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できます。

詳細設定と管理設定

ブラウザレンダリングの修正。有効にすると、キオスクウィンドウが、エージェントホストマシンに現在インストールされているInternet Explorer (IE) のバージョンと互換性のあるブラウザモードで実行されるように強制します。デフォルトでは、キオスクウィンドウはIE7互換モードで実行されるように強制されます。

> **注:**
>
> トランスフォーマーの設定中は、詳細設定と管理設定を無視してください。

> **ログオフ画面のリダイレクト**。有効にすると、ユーザーがログオフページにアクセスするたびに、自動的にログオンページにリダイレクトされます。

スクリプトエラーの抑制。有効にすると、発生したスクリプトエラーを抑制します。

SSLサイトの修正。有効にすると、SSL警告を完全に非表示にします。

Citrixセッション中のキオスクの非表示。有効にすると、ユーザーがCitrixセッションに接続している間、Citrix Workspace™ Environment Management Agentキオスクを非表示にします。

常に管理者メニューを表示。有効にすると、キオスク管理者メニューが常に表示されます。これにより、すべてのユーザーがキオスク管理者メニューにアクセスできるようになります。

タスクバーとスタートボタンの非表示。有効にすると、ユーザーのタスクバーとスタートメニューが非表示になります。無効の場合、ユーザーは引き続きデスクトップにアクセスできます。

Alt-Tabのロック。有効にすると、Alt+Tabコマンドを無視し、ユーザーがエージェントから切り替えるのを防ぎます。

Zオーダーの修正。有効にすると、キオスクインターフェイスに「非表示」ボタンが追加され、ユーザーがキオスクをバックグラウンドに移動できるようになります。

Citrix Desktop Viewerのロック。有効にすると、デスクトップビューアがロックダウンモードに切り替わります。これは、Citrix Workspace app for Windows Desktop Lockがインストールされている場合に発生するロックダウンと同等です。これにより、ローカルアプリケーションとの統合が向上します。このオプションは、以下のすべての条件が満たされた場合にのみ機能します。

- エージェントホストにログオンするユーザーが、管理者グループのメンバーではないこと。
- **全般設定**タブの**Transformerを有効にする**オプションが有効になっていること。
- **ログオン/ログオフと電源設定**タブの**自動ログオンモードを有効にする**オプションが有効になっていること。

表示設定の非表示。有効にすると、Transformer UIの**設定**の下にある**表示**が非表示になります。

キーボード設定を非表示。有効にすると、Transformer UI の**設定**の下にある**キーボード**を非表示にします。

マウス設定を非表示。有効にすると、Transformer UI の**設定**の下にある**マウス**を非表示にします。

音量設定を非表示。有効にすると、Transformer UI の**設定**の下にある**音量**を非表示にします。

クライアントの詳細を非表示。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にある**クライアントの詳細**を非表示にします。**クライアントの詳細**から、バージョン番号などの情報を確認できます。

プログレスバーを無効にする。有効にすると、埋め込み Web ブラウザーのプログレスバーを非表示にします。

Windows バージョンを非表示。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にある**Windows バージョン**を非表示にします。

ホームボタンを非表示。有効にすると、Transformer UI のメニューにあるホームアイコンを非表示にします。

プリンター設定を非表示。有効にすると、Transformer UI のメニューにあるプリンターアイコンを非表示にします。ユーザーは Transformer UI でプリンターを管理できません。

Receiver をプレ起動。有効にすると、Citrix Workspace アプリを起動し、キオスクモードウィンドウを表示する前にロードが完了するのを待ちます。

ロック解除を無効にする。有効にすると、**Ctrl+Alt+U** のロック解除ショートカットを使用してエージェントのロックを解除できなくなります。

ログオフオプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**ログオフ**を非表示にします。

再起動オプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**再起動**を非表示にします。

シャットダウンオプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**シャットダウン**を非表示にします。

前回の言語を無視。Transformer UI は複数の言語をサポートしています。**全般ペイン**で**言語選択を許可**オプションが有効になっている場合、ユーザーは Transformer UI の言語を選択できます。このオプションが有効になるまで、エージェントは選択された言語を記憶します。

ログオン/ログオフと電源設定

自動ログオンモードを有効にする。有効にすると、ユーザーはエージェントによってデスクトップ環境に自動的にログオンし、Windowsログオン画面をバイパスします。

セッション起動時にWebポータルからログオフする。有効にすると、ユーザーのデスクトップセッションが起動したときに、ページで指定されたWebフロントエンドからログオフされます。

セッション終了オプション。ユーザーがセッションを終了したときに、エージェントが実行中の環境に対してどのようなアクションを実行するかを指定できます。

指定時刻にシャットダウン。有効にすると、エージェントは指定された現地時刻に、実行中の環境を自動的にシャットダウンします。

アイドル時にシャットダウン。有効にすると、エージェントは指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）が続いた後、実行中の環境を自動的にシャットダウンします。

バッテリーステータスを確認しない。Transformerのユースケースでは、エージェントはバッテリーステータスを確認し、バッテリー残量が少なくなるとユーザーに警告します。有効にすると、エージェントはこのチェックを実行しません。

詳細設定

これらの設定は、エージェントがアクションを処理する方法とタイミングを変更します。

構成

これらのオプションは、基本的なエージェントの動作を制御します。

メイン構成

エージェントアクション。これらの設定は、エージェントがアクションタブで構成されたアクションを処理するかどうかを決定します。これらの設定は、ログオン時、および更新時（自動または手動更新（ユーザーまたは管理者によってトリガーされる））に適用されます。

アプリケーションの処理。選択すると、エージェントはアプリケーションアクションを処理します。

プリンターの処理。選択すると、エージェントはプリンターアクションを処理します。

ネットワークドライブの処理。選択すると、エージェントはネットワークドライブアクションを処理します。

仮想ドライブの処理。選択すると、エージェントは仮想ドライブアクションを処理します。（仮想ドライブとは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングするWindows仮想ドライブまたはMS-DOSデバイス名です。）

レジストリ値の処理。選択すると、エージェントはレジストリエントリアクションを処理します。

環境変数の処理。選択すると、エージェントは環境変数アクションを処理します。

ポートの処理。選択すると、エージェントはポートアクションを処理します。

Iniファイル操作の処理。選択すると、エージェントは.iniファイルアクションを処理します。

外部タスクの処理。選択すると、エージェントは外部タスクアクションを処理します。

ファイルシステム操作の処理。選択すると、エージェントはファイルシステム操作アクションを処理します。

ファイル関連付けの処理。選択すると、エージェントはファイル関連付けアクションを処理します。

ユーザーDSNの処理。選択すると、エージェントはユーザーDSNアクションを処理します。

エージェントサービスアクション。これらの設定は、エージェントサービスがエンドポイントでどのように動作するかを制御します。

ログオン時にエージェントを起動。エージェントがログオン時に実行されるかどうかを制御します。

再接続時にエージェントを起動。ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続したときに、エージェントが実行されるかどうかを制御します。

管理者向けにエージェントを起動。ユーザーが管理者である場合に、エージェントが実行されるかどうかを制御します。

エージェントタイプ。ユーザーがエージェントと対話する際に、ユーザーインターフェイス (UI) またはコマンドラインプロンプト (CMD) のどちらが表示されるかを制御します。

（仮想）デスクトップ互換性を有効にする。エージェントが実行されているデスクトップとの互換性を確保します。この設定は、ユーザーがセッションにログオンしたときにエージェントが起動するために必要です。物理デスクトップまたはVDIデスクトップのユーザーがいる場合は、このオプションを選択します。

公開アプリケーションでCMDエージェントのみを実行。有効にすると、公開アプリケーションでは、エージェントはUIモードではなくCMDモードで起動します。CMDモードでは、エージェントのスプラッシュ画面の代わりにコマンドプロンプトが表示されます。

クリーンアップアクション

このタブに表示されるオプションは、エージェントが更新されたときに、エージェントがショートカットやその他の項目（ネットワークドライブやプリンター）を削除するかどうかを制御します。ユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てる場合、ショートカットや項目の作成も制御できることがわかります。これは、**割り当て > アクション割り当て > アクション割り当て**タブの**割り当て済み**ペインでアクションのオプションを構成することで実行できます。Workspace Environment Management™ は、これらのオプションを特定の優先順位に従って処理します。

1. **クリーンアップアクション**タブに表示されるオプション

2. **割り当て済み**ペインで割り当てられたアクションに対して構成されたオプション

たとえば、**割り当て済み**ペインで割り当てられたアプリケーションに対して**デスクトップの作成**オプションを有効にしており、アプリケーションのショートカットがすでにデスクトップに作成されているとします。**クリーンアップアクション**タブで**デスクトップショートカットの削除**オプションを有効にした場合でも、エージェントが更新されたときにショートカットはデスクトップに残ります。

起動時のショートカット削除。エージェントは、更新時に選択された種類のすべてのショートカットを削除します。

起動時にネットワークドライブを削除。有効にすると、エージェントは更新するたびにすべてのネットワークドライブを削除します。

起動時にネットワークプリンターを削除。有効にすると、エージェントは更新するたびにすべてのネットワークプリンターを削除します。

自動作成されたプリンターを保持。有効にすると、エージェントは自動作成されたプリンターを削除しません。

特定のプリンターを保持。有効にすると、エージェントはこのリスト内のプリンターを削除しません。

エージェントオプション

これらのオプションは、エージェントの設定を制御します。

エージェントログの有効化。エージェントログファイルを有効にします。

ログファイル。ログファイルの場所。デフォルトでは、これはログインユーザーのプロファイルルートです。

デバッグモード。これにより、エージェントの詳細ログが有効になります。

オフラインモードを有効にする。無効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスへの接続に失敗した場合でも、キャッシュにフォールバックしません。

オンライン時でもキャッシュを使用。有効にすると、エージェントは常にキャッシュから設定とアクションを読み取ります（キャッシュはエージェントサービスがサイクルするたびに構築されます）。

キャッシュを使用してアクション処理を高速化。有効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスからではなく、エージェントのローカルキャッシュから関連設定を取得してアクションを処理します。これにより、アクションの処理が高速化されます。デフォルトでは、このオ

プションは有効になっています。以前の動作に戻したい場合は、このオプションを無効にしてください。

> **重要:**
>
> - エージェントのローカルキャッシュは、定期的にインフラストラクチャサービスと同期されます。そのため、アクション設定の変更が反映されるまでには、**エージェントキャッシュ更新遅延**オプション（**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブ）で指定した値に応じて時間がかかります。
> - 遅延を減らすには、より低い値を指定します。変更をすぐに反映させるには、**管理 > エージェント > 統計**タブに移動し、該当するエージェントを右クリックして、コンテキストメニューから**キャッシュの更新**を選択します。
> - この設定を無効にしないことをお勧めします。無効にすると、ネットワーク接続が悪いシナリオでユーザーエクスペリエンスが低下する可能性があります。無効にした場合、WEMサービスへのトラフィック量が多いシナリオでは、管理コンソールを通じて構成したアクションがエージェントホストに適用されない可能性があります。

> **環境設定の更新**。有効にすると、エージェントの更新時にユーザー環境設定の更新がトリガーされます。環境設定の詳細については、「環境設定」を参照してください。

システム設定の更新。有効にすると、エージェントの更新時にWindowsシステム設定（Windowsエクスプローラーやコントロールパネルなど）の更新がトリガーされます。

環境設定の変更時に更新。有効にすると、環境設定が変更されたときに、エージェントはエンドポイントでWindowsの更新をトリガーします。

デスクトップの更新。有効にすると、エージェントの更新時にデスクトップ設定の更新がトリガーされます。デスクトップ設定の詳細については、「デスクトップ」を参照してください。

外観の更新。有効にすると、エージェントの更新時にWindowsテーマとデスクトップの壁紙の更新がトリガーされます。

非同期プリンター処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、プリンターを非同期で処理します。

非同期ネットワークドライブ処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、ネットワークドライブを非同期で処理します。

初期環境クリーンアップ。有効にすると、エージェントは初回ログオン時にユーザー環境をクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- ユーザーネットワークプリンター。
    - **［クリーンアップアクション］**タブで**［自動作成されたプリンターを保持］**が有効になっている場合、エージェントは自動作成されたプリンターを削除しません。
    - **［クリーンアップアクション］**タブで**［特定のプリンターを保持］**が有効になっている場合、エージェントはリストで指定されたプリンターを削除しません。
- ホームドライブであるネットワークドライブを除くすべてのネットワークドライブ。
- すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
- すべてのタスクバーとスタートメニューにピン留めされたショートカット。

初期デスクトップUIクリーンアップ。有効にすると、エージェントは初回ログオン時にセッションデスクトップをクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
- すべてのタスクバーとスタートメニューにピン留めされたショートカット。

アプリケーションの存在を確認。有効にすると、エージェントは、ユーザーがサインインするマシンにアプリケーションが存在することを確認しない限り、ショートカットを作成しません。

アプリ変数を展開。有効にすると、変数はデフォルトで展開されます（エージェントが変数を検出したときの通常の動作については、環境変数を参照してください）。

クロスドメインユーザーグループ検索を有効にする。有効にすると、エージェントはすべてのActive Directoryドメインでユーザーグループを照会します。**注**: これは時間のかかるプロセスです。必要な場合にのみこのオプションを選択してください。

ブローカーサービスのタイムアウト。インフラストラクチャサービスへの接続に失敗した場合に、エージェントが自身のキャッシュに切り替えるまでのタイムアウト値。デフォルト値は15000ミリ秒です。

ディレクトリサービスのタイムアウト。エージェントホストマシン上のディレクトリサービスのタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはユーザーグループ関連付けの独自の内部キャッシュを使用します。デフォルト値は15000ミリ秒です。

ネットワークリソースのタイムアウト。ネットワークリソース（ネットワークドライブまたはネットワーク上にあるファイル/フォルダーリソース）を解決するためのタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはアクションが失敗したと見なします。デフォルト値は500ミリ秒です。

エージェントの最大並列度。エージェントが使用できるスレッドの最大数。デフォルト値は0（プロセッサが物理的に許容する最大数のスレッド）、1はシングルスレッド、2はデュアルスレッドなどです。通常、この値を変更する必要はありません。

通知を有効にする。有効にすると、インフラストラクチャサービスへの接続が失われたり復元されたりしたときに、エージェントがエージェントホストに通知メッセージを表示します。Citrix®は、品質の低いネットワーク接続ではこのオプションを有効にしないことを推奨します。そうしないと、接続状態の変更通知がエンドポイント（エージェントホスト）に頻繁に表示される可能性があります。

詳細オプション

エージェントアクションの実行を強制する。これらの設定が有効になっている場合、変更がなくてもエージェントホストは常にそれらのアクションを更新します。

未割り当てのアクションを元に戻す。これらの設定が有効になっている場合、エージェントホストは次回更新時に未割り当てのアクションをすべて削除します。

自動更新。有効にすると、エージェントホストは自動的に更新されます。デフォルトでは、更新遅延は30分です。

再接続アクション

再接続時のアクション処理。これらの設定は、エージェントホストがユーザー環境に再接続したときに処理するアクションを制御します。

高度な処理

フィルター処理の強制。有効にすると、これらのオプションはエージェントホストに、更新ごとにフィルターを再処理させます。

サービスオプション

これらの設定は、エージェントホストサービスを構成します。

エージェントキャッシュの更新遅延。この設定は、Citrix WEMエージェントホストサービスがキャッシュを更新するまで待機する時間を制御します。更新により、キャッシュはWEMサービス

データベースと同期されます。デフォルトは30分です。このオプションを使用する際は、次の点に注意してください。

- キャッシュがWEMサービスデータベースと同期する最小間隔は15分です。15分以上の整数を入力してください。
- 実際の同期間隔は異なる場合があります。指定された値に基づいて、WEMエージェントは、エージェントキャッシュの更新遅延がタイムアウトするたびに、ランダムな値が実際の同期間隔として選択される間隔を計算します。たとえば、値を30分に設定した場合、エージェントはこの間隔からランダムな値を選択します: 。

SQL設定の更新遅延。この設定は、Citrix WEMエージェントホストサービスがSQL接続設定を更新するまで待機する時間を制御します。デフォルトは15分です。15分以上の整数を入力してください。

エージェントの追加起動遅延。この設定は、Citrix WEMエージェントホストサービスがエージェントホスト実行可能ファイルを起動するまで待機する時間を制御します。デフォルトは0です。

> **ヒント:**
>
> エージェントホストにまず必要な作業を完了させたいシナリオでは、エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が待機する時間を指定できます。VUEMAppCmd.exeは、Citrix DaaS (旧Citrix Virtual Apps and Desktopsサービス) およびCitrix Virtual Apps and Desktops公開アプリケーションが開始される前に、エージェントホストが環境の処理を完了することを保証します。待機時間を指定するには、エージェントホスト構成グループポリシーで利用可能なVUEMAppCmdの追加同期遅延設定を構成します。詳細については、「エージェントのインストールと構成」を参照してください。

> **デバッグモードを有効にする**。これにより、このサイトに接続するすべてのエージェントホストの詳細ログが有効になります。

ie4uinitチェックをバイパスする。デフォルトでは、Citrix WEMエージェントホストサービスは、エージェントホスト実行可能ファイルを起動する前にie4uinitが実行されるのを待機します。この設定により、エージェントホストサービスはie4uinitを待機しないように強制されます。

エージェント起動の除外。有効にすると、指定されたユーザーグループに属するユーザーに対しては、Citrix WEMエージェントホストは起動されません。

コンソール設定

禁止ドライブ。このリストに追加されたドライブ文字は、ドライブリソースを割り当てる際のドライブ文字選択から除外されます。

割り当てプロセスでのドライブ文字の再利用を許可する。有効にすると、割り当てで使用されたドライブ文字は、他の割り当てでも引き続き使用できます。

StoreFront™

このタブを使用して、StoreFrontストアをWorkspace Environment Managementサービスに追加します。その後、**アクション > アプリケーション > アプリケーションリスト**タブに移動して、それらのストアで利用可能なアプリケーションを追加できます。これにより、公開されたアプリケーションをアプリケーションショートカットとしてエンドポイントに割り当てることができます。詳細については、「アプリケーション」を参照してください。Transformer（キオスク）モードでは、割り当てられたStoreFrontアプリケーションアクションが**アプリケーション**タブに表示されます。StoreFrontストアの詳細については、「StoreFrontのドキュメント」を参照してください。

ストアを追加するには

1. 「**追加**」をクリックします。
2. **ストアの追加**ダイアログに詳細を入力し、**OK**をクリックします。ストアは構成セットに保存されます。

ストアURL。Workspace Environment Managementを使用してリソースにアクセスしたいストアのURL。URLをこの形式で指定します: `http[s]://hostname[:port]`。ホスト名はストアのFQDNであり、ポートはプロトコルのデフォルトポートが利用できない場合にストアとの通信に使用されるポートです。

> **重要:**
>
> - 使用するストアURLは、外部ネットワークから直接アクセス可能である必要があり、Citrix ADCなどのソリューションの背後にあるものであってはなりません。
> - この機能は、多要素認証を使用するStoreFrontでは動作しません。

説明。ストアを説明するオプションのテキスト。

ストアを編集するには

リストからストアを選択し、**編集**をクリックしてストアのURLまたは説明を変更します。

ストアを削除するには

リストからストアを選択し、**削除**をクリックして構成セットからストアを削除します。

変更を適用するには

適用をクリックして、ストア設定をエージェントにすぐに適用します。

Wake on LAN (ウェイク・オン・ラン)

このタブを使用して、エージェントホストをリモートでオンにします。WEM は、ターゲットエージェントと同じサブネットにあるエージェントを自動的に選択し、それらのエージェントを Wake on LAN メッセンジャーとして使用します。この機能には、Wake on LAN と互換性のあるハードウェアが必要です。この機能を使用するには、ターゲットマシンがハードウェア要件を満たし、関連する BIOS 設定が構成されていることを確認してください。

エージェントの Wake on LAN を有効にする。エージェントホストの Wake on LAN を有効にするために、Windows オペレーティングシステムの設定を構成するかどうかを制御します。選択した場合、エージェントは次のシステム設定を構成します。

- ネットワークアダプターの **Energy Efficient Ethernet** を無効にする
- ネットワークアダプターの **Wake on Magic Packet** を有効にする
- ネットワークアダプターの **このデバイスでコンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする** を有効にする
- ネットワークアダプターの **Magic Packet でのみコンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする** を有効にする
- **高速スタートアップを有効にする** を無効にする

このオプションを有効にした後、**管理 > エージェント > 統計** タブに移動し、リストから1つ以上のエージェントを選択して、**エージェントの起動** をクリックして選択したエージェントを起動します。

UI エージェントのパーソナライズ

これらのオプションを使用すると、UI モードでのエージェントのルックアンドフィールをパーソナライズできます。これらのオプションは、UI エージェントがユーザー環境でどのように表示されるかを決定します。

> **注:**

> これらのオプションは、UI モードのエージェントにのみ適用されます。CMD モードのエージェントには適用されません。

UI エージェントオプション

これらの設定により、ユーザー環境でのセッションエージェント（UI モードのみ）の外観をカスタマイズできます。

カスタム背景画像パス。指定した場合、エージェントの起動時または更新時に、Citrix Workspace Environment Management のロゴの代わりにカスタムスプラッシュスクリーンが表示されます。画像はユーザー環境からアクセスできる必要があります。400*200 px の .bmp ファイルを使用することをお勧めします。

読み込み円の色。読み込み円の色をカスタム背景に合わせて変更できます。

テキストラベルの色。カスタム背景に合わせて読み込みテキストの色を変更できます。

UIエージェントスキン。UIエージェントから開くダイアログに使用する、事前設定されたスキンを選択できます。たとえば、**アプリケーションの管理**ダイアログや**プリンターの管理**ダイアログなどです。**注**: この設定はスプラッシュ画面を変更しません。

エージェントスプラッシュ画面を非表示にする。有効にすると、エージェントの読み込み中または更新中にスプラッシュ画面が非表示になります。この設定は、エージェントが最初に更新されるときには適用されません。

公開アプリケーションでエージェントアイコンを非表示にする。有効にすると、公開アプリケーションにエージェントアイコンが表示されません。

公開アプリケーションでエージェントスプラッシュ画面を非表示にする。有効にすると、エージェントが実行されている公開アプリケーションのエージェントスプラッシュ画面が非表示になります。

管理者のみがエージェントを終了できる。有効にすると、管理者のみがエージェントを終了できます。その結果、非管理者向けのエンドポイントでは、エージェントメニューの**終了**オプションが無効になります。

ユーザーがプリンターを管理できるようにする。有効にすると、エージェントメニューの**プリンターの管理**オプションがエンドポイントのユーザーに利用可能になります。ユーザーはこのオプションをクリックして**プリンターの管理**ダイアログを開き、デフォルトのプリンターを設定したり、印刷設定を変更したりできます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

ユーザーがアプリケーションを管理できるようにする。有効にすると、エージェントメニューの**アプリケーションの管理**オプションがエンドポイントのユーザーに利用可能になります。ユーザーはこのオプションをクリックして**アプリケーションの管理**ダイアログを開き、以下のオプションを設定できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

- **デスクトップ**。アプリケーションのショートカットをデスクトップに追加します。
- **スタートメニュー**。スタートメニューフォルダーにアプリケーションのショートカットを作成します。
- **クイック起動**。アプリケーションをクイック起動ツールバーに追加します。
- **タスクバー (P)**。タスクバーにアプリケーションのショートカットを作成します。
- **スタートメニュー (P)**。アプリケーションをスタートメニューにピン留めします。

> **注:**
>
> 自己修復モードで作成されたショートカットは、このメニューを使用して削除することはできません。 クイック起動オプションは、Windows XPおよびWindows Vistaでのみ利用可能です。

管理者がエージェントを終了できないようにする。有効にすると、管理者はエージェントを終了できません。

アプリケーションショートカットを有効にする。有効にすると、エージェントメニューに**マイアプリケーション**オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーは**マイアプリケーション**メニューからアプリケーションを実行できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

管理リフレッシュフィードバックを無効にする。有効にすると、管理者が管理コンソールを通じてエージェントのリフレッシュを強制した場合に、ユーザー環境に通知が表示されなくなります。

ユーザーによるアクションのリセットを許可する。エージェントメニューに**アクションのリセット**オプションを表示するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。**アクションのリセット**オプションを使用すると、現在のユーザーは自分の環境でリセットするアクションを指定できます。ユーザーが**アクションのリセット**を選択すると、**アクションのリセット**ダイアログが表示されます。このダイアログで、ユーザーはリセットする内容を細かく制御できます。ユーザーは該当するアクションを選択し、**リセット**をクリックできます。これにより、対応するアクション関連のレジストリエントリがパージされます。

注:

- エージェントメニューには、常に次の2つのオプションがあります。**更新**と**バージョン情報**。**更新**オプションは、WEMエージェント設定の即時更新をトリガーします。その結果、管理コンソールで構成された設定がすぐに有効になります。**バージョン情報**オプションは、使用中のエージェントのバージョン詳細を表示するダイアログを開きます。

ヘルプデスクオプション

これらのオプションは、エンドポイントのユーザーが利用できるヘルプデスク機能を制御します。

ヘルプリンクアクション。エンドポイントのユーザーが**ヘルプ**オプションを利用できるかどうか、およびユーザーがそれをクリックしたときに何が起こるかを制御します。ユーザーがヘルプを求めることができるWebサイトリンクを入力します。

カスタムリンクアクション。エージェントメニューに**サポート**オプションを表示するかどうか、およびユーザーがそれをクリックしたときに何が起こるかを制御します。ユーザーがサポート関連情報にアクセスできるWebサイトリンクを入力します。

画面キャプチャを有効にする。エージェントメニューに**キャプチャ**オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーはこのオプションを使用して画面キャプチャツールを開くことができます。このツールには次のオプションがあります。

- **新規キャプチャ**。ユーザー環境のエラーのスクリーンショットを撮ります。
- **保存**。スクリーンショットを保存します。
- **サポートに送信**。スクリーンショットをサポートスタッフに送信します。

サポートに送信オプションを有効にする。画面キャプチャツールに**サポートに送信**オプションを表示するかどうかを制御します。有効にすると、ユーザーはこのオプションを使用して、スクリーンショットとログファイルを指定されたサポートメールアドレスに、指定された形式で直接送信できます。この設定には、動作する構成済みのメールクライアントが必要です。

カスタム件名。有効にすると、画面キャプチャツールがサポートメールの送信に使用するメール件名テンプレートを指定できます。

メールテンプレート。画面キャプチャツールがサポートメールの送信に使用するメールコンテンツテンプレートを指定できます。このフィールドは空にできません。

> **注:**
>
> メールテンプレートで使用できるハッシュタグのリストについては、動的トークンを参照してください。 ユーザーは、メールテンプレートに**##UserScreenCaptureComment##ハッシュタグ**が含まれている場合にのみ、コメントを入力するオプションが表示されます。

> **SMTPを使用してメールを送信する**。有効にすると、MAPIの代わりにSMTPを使用してサポートメールを送信します。

SMTPをテストする。上記で入力されたSMTP設定をテストし、それらが正しいことを確認します。

省電力

指定時刻にシャットダウン。有効にすると、エージェントは実行中のマシンを指定された時間に自動的にシャットダウンします。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づいています。

アイドル時にシャットダウン。有効にすると、マシンが指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）になった後、エージェントは実行中のマシンを自動的にシャットダウンします。

管理

「**管理**」ペインは以下で構成されます:

- **ユーザー**。ユーザー統計を表示できます。
- **エージェント**。エージェント統計を表示し、キャッシュの更新、設定のリセット、統計のアップロードなどの管理タスクを実行できます。
- **ログ**。Workspace Environment Management™ (WEM) での管理アクティビティを表示できます。ログを使用して、次のことができます:
  - 構成変更後、問題を診断およびトラブルシューティングします。
  - 変更管理を支援し、構成を追跡する。
  - 管理アクティビティを報告します。

ユーザー

このページには、WEM展開に関する統計が表示されます。

統計

このページには、エージェントホストがデータベースに接続したユーザーの概要が表示されます。

ユーザー概要。現在のサイト（構成セット）とすべてのサイト（構成セット）の両方で、WEMライセンスを予約した合計ユーザー数が表示されます。また、過去24時間および過去1か月の新規ユーザー数も表示されます。

ユーザー履歴。現在のサイト（構成セット）に関連付けられているすべてのユーザーの接続情報が表示されます。これには、最終接続時刻（協定世界時、UTC）、最後に接続したマシンの名前、セッションエージェントの種類（UIまたはCMD）、およびバージョンが含まれます。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

エージェント

このページには、WEM展開内のエージェントに関する統計が表示されます。

統計

このページには、WEMデータベースに記録されているWEMエージェントの概要が表示されます。

エージェントの概要。現在の構成セットとすべての構成セットの両方について、WEMライセンスを予約しているエージェントの総数が表示されます。また、過去24時間以内および過去1か月以内に追加されたエージェントも報告されます。

エージェントの履歴。構成セットに登録されているすべてのエージェントの接続情報（最終接続時刻、最後に接続したデバイスの名前、エージェントのバージョンなど）が表示されます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

同期状態列には、エージェントキャッシュとWEMサービスの最終同期の結果が次のアイコンで示されます。

- 成功（チェックマークアイコン）。最終同期が成功し、同期結果が管理コンソールに報告されたことを示します。
- 不明（疑問符アイコン）。同期が進行中であるか、まだ同期が開始されていないか、同期結果が管理コンソールに報告されていないことを示します。
- 失敗（Xアイコン）。最終同期が失敗したことを示します。

Profile Managementの正常性ステータス列には、展開環境におけるProfile Managementの正常性ステータスが表示されます。

Profile Managementの正常性ステータスは、Profile Managementが最適に構成されているかどうかを判断するために、エージェントホストで自動ステータスチェックを実行します。これらのチェックの結果を表示して、各エージェントホストの出力ファイルから特定の問題を特定できます (`%systemroot%\temp\UpmConfigCheckOutput.xml`)。この機能は、毎日、またはWEMエージェントホストサービスが起動するたびにステータスチェックを実行します。ステータスチェックを手動で実行するには、管理コンソールで選択したエージェントを右クリックし、コンテキストメニューから**Profile Management構成チェックの更新**を選択します。各ステータスチェックはステータスを返します。最新のステータスを表示するには、**更新**をクリックします。**Profile Managementの正常性ステータス**列のアイコンは、Profile Managementの正常性ステータスに関する一般的な情報を提供します。

- 良好（チェックマークアイコン）。Profile Managementが良好な状態であることを示します。
- 警告（三角形の感嘆符アイコン）。Profile Managementが最適ではない状態であることを通知します。最適ではない設定は、展開環境におけるProfile Managementのユーザーエクスペリエンスに影響を与える可能性があります。このステータスは、必ずしもユーザー側での対応を必要とするものではありません。
- エラー（Xアイコン）。Profile Managementが正しく構成されておらず、Profile Managementが正常に機能しない原因となっていることを示します。
- 利用不可（疑問符アイコン）。このアイコンは、Profile Managementが見つからないか、有効になっていない場合に表示されます。

ステータスチェックが実際の状況を反映していない場合や、発生している問題を検出しない場合は、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

最近接続列の次のアイコンは、エージェントが特定の期間内にWEMサービスに統計情報をアップロードしたことを示します。エージェントはオンラインです。列のフィールドが空白の場合は、エージェントがオフラインであることを示します。

- オンライン (チェックマークアイコン)

期限切れレコードのクリア。WEMサービスデータベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時刻が24時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。

エージェントの起動。選択したエージェントを起動できます。

エージェントを更新するには

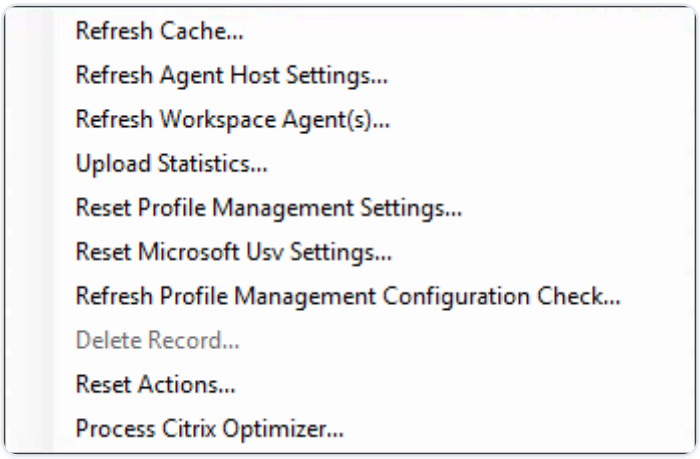
エージェントを更新すると、インフラストラクチャサーバーと通信します。インフラストラクチャサーバーは、WEMデータベースでエージェントホストのIDを検証します。

1. エージェントのリストを更新するには、**更新**をクリックします。
2. コンテキストメニューで、**ワークスペースエージェントの更新**を選択します。

コンテキストメニューのオプション

ドメインに参加していない登録済みエージェントにオプションを適用する場合は、次の点を考慮してください。

- エージェントはバージョン2207.1.0.1以降である必要があります。
- ターゲットエージェントは、これらのタスクの実行をすぐに通知されません。通知は、ターゲットエージェントまたは同じサブネット上の別のエージェントがCitrix Cloud™に接続して設定を更新するときに送信されます。そのため、エージェント側でタスクが実行されるまでに遅延が発生する可能性があります。同じサブネット上のエージェントが多いほど、遅延は短くなります。
- 最大遅延は、**SQL設定の更新**遅延値の1.5倍です。デフォルトでは、**SQL設定の更新**遅延値は15分です。「サービスオプション」を参照してください。したがって、この場合、最大遅延は22.5 (1.5 x 15) 分です。



現在、これらのオプションをドメインに参加していない登録済みエージェントに適用することはサポートされていません。

キャッシュの更新。エージェントのローカルキャッシュ (WEM構成データベースのエージェント側レプリカ) の更新をトリガーします。キャッシュを更新すると、エージェントのローカルキャッシュがインフラストラクチャサービスと同期されます。

エージェントホスト設定の更新。エージェントサービス設定を適用します。これらの設定には、詳細設定、最適化設定、トランスフォーマー設定、およびその他のユーザーに割り当てられていない設定が含まれます。

ワークスペースエージェントの更新。ユーザーが割り当てたアクションをWEMエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。

> **重要:**
>
> - 「**ワークスペースエージェントの更新**」オプションは、UIモードで自動的に起動されるエージェント（エンドユーザーまたはスクリプトによって起動されたものではない）でのみ機能します。このオプションは、CMDモードのエージェントでは機能しません。
> - すべての設定を更新できるわけではありません。一部の設定（環境設定やグループポリシー設定など）は、起動時またはログオン時にのみ適用されます。

統計のアップロード。統計をインフラストラクチャサービスにアップロードします。

プロファイル管理設定のリセット。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。プロファイル管理設定がエージェントに適用されていない場合は、「**プロファイル管理設定のリセット**」をクリックします。このオプションが利用可能になるには、「**更新**」をクリックする必要がある場合があります。

> **注:**
>
> WEM管理コンソールから「**プロファイル管理設定のリセット**」を構成した後も設定がエージェントに適用されない場合は、回避策についてCTX219086を参照してください。

Microsoft USV設定のリセット。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Microsoft USV設定がエージェントに適用されていない場合は、「**Microsoft USV設定のリセット**」をクリックし、次に「**更新**」をクリックします。

プロファイル管理構成チェックの更新。エージェントホストでステータスチェックを実行し、プロファイル管理が最適に構成されているかどうかを判断します。

レコードの削除。データベースからエージェントレコードを削除できるようにします。エージェントがまだアクティブな場合、このオプションはグレー表示されます。

アクションのリセット。該当するマシン上のすべてのアクション関連のレジストリエントリをパージすることで、割り当てたすべてのアクションをリセットできます。

Citrix Optimizerの処理。Citrix Optimizer設定の変更がすぐに有効になるように、設定をエージェントに適用します。

このセクションで前述した更新操作は、エージェント側でも実行できます。ただし、これらの操作は実際の条件によって動作が異なります。詳細については、「エージェント側の更新操作」を参照してください。

エージェントを最新バージョンにアップグレード。エージェントを最新バージョンにアップグレードできます。エージェントのアップグレードを実行するタイミングによって、エージェントの最新バージョンが決まります。最新のエージェントバージョンを確認するには、WEMサービスの「**ユーティリティ**」タブに移動します。

登録

このページには、データベースに記録されているWEMエージェントの登録ステータスが表示されます。

> **重要:**
>
> WEMエージェントは、設定を適用できるようにWEMサービスに登録する必要があります。エージェントは1つの構成セットにのみバインドできます。

> 次の情報が報告されます。

マシン名。エージェントが実行されているコンピューターの名前。

状態。エージェントホストコンピューター上のエージェントの登録ステータス。アイコンと、登録の成功または失敗に関する詳細情報を示す以下の説明で示されます。

エージェントがどのサイトにもバインドされていません。エージェントがどのサイト（構成セット）にもバインドされていないため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト（構成セット）を解決できません。

エージェントが1つのサイトにバインドされています。インフラストラクチャサーバーは、そのサイト（構成セット）に必要なマシン依存の設定をエージェントに送信しています。

エージェントが複数のサイトにバインドされています。エージェントが複数のサイト（構成セット）にバインドされているため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト（構成セット）を解決できません。

登録エラーを解決するには

次のいずれかを実行します。

- Active Directory階層（コンピューター、コンピューターグループ、OU間の関係）を編集する

または

- WEM階層（管理コンソールのActive Directoryオブジェクトセクション）を編集して、コンピューターが1つのサイト（構成セット）にのみバインドされるようにします。

これらの変更を行った後、インフラストラクチャサーバーでエージェントを更新します。

ログ

管理

このタブには、データベース内のWEM設定に加えられたすべての変更のリストが表示されます。既定では、ログは手動で更新されるまで空のままです。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト（構成セット）および日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログをXLS形式でエクスポートします。

ログの更新。ログを更新します。

ログのクリア。すべての構成セットのログをクリアします。***これは元に戻せません***。ログをクリアすると、新しいログにこの操作が実行されたことを示すイベントが1つ追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが利用できます。

エージェント

このタブには、WEMエージェントに加えられたすべての変更が一覧表示されます。**更新**をクリックするまで、ログは空のままです。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト（構成セット）および日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログをXLS形式でエクスポートします。

ログの更新。ログを更新します。

ログのクリア。すべての構成セットのログをクリアします。***これは元に戻せません***。ログをクリアすると、新しいログにこの操作が実行されたことを示すイベントが1つ追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが利用できます。

監視

これらのページには、ユーザーログインとマシンの起動に関する詳細なレポートが含まれています。

日次レポート

日次ログインレポート。このサイトに接続されているすべてのユーザーのログイン時間の毎日の概要です。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの各ユーザーの個別のログオン時間を示す詳細ビューが表示されます。

日次起動レポート。このサイトに接続されているすべてのデバイスの起動時間の毎日の概要です。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの個別の起動時間を示す詳細ビューが表示されます。

ユーザー傾向

ログイン傾向レポート。このレポートは、選択した期間の各日の全体的なログイン傾向を表示します。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

起動傾向レポート。このレポートは、選択した期間の各日の全体的な起動傾向を表示します。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

デバイスの種類。このレポートは、このサイトに接続しているリストされている各オペレーティングシステムのデバイス数の日次カウントを表示します。各デバイスの種類をダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

ユーザーおよびデバイスレポート

ユーザーレポート。このレポートでは、選択した期間の単一ユーザーのログイン傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

デバイスレポート。このレポートでは、選択した期間の単一デバイスの起動傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

プロファイルコンテナのインサイト

この機能は、Profile Management および FSLogix のプロファイルコンテナを監視します。プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用しているセッションのステータス、検出された問題などに関するインサイトを提供します。この機能を使用して、プロファイルコンテナのスペース使用状況を常に把握し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定します。

概要

2つのドーナツグラフが含まれます。

- **使用済み領域**。左側のグラフは、指定された期間におけるプロファイルコンテナの領域使用量を示します。
- **セッションステータス**。右側のグラフは、指定された期間に確立されたセッションのプロファイルコンテナのアタッチ結果を示します。

期間（例: 過去6日間）を指定した後、**更新**をクリックしてグラフの更新をトリガーします。

使用済み領域が次より多い場合に高 (GB)。プロファイルコンテナの領域使用量を高いと見なすしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。

使用済み領域が次より少ない場合に低 (GB)。プロファイルコンテナの領域使用量を低いと見なすしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。

> **注:**
>
> - 高いしきい値は、低いしきい値よりも大きくする必要があります。
> - 高いしきい値と低いしきい値を指定した後、**更新**をクリックして**使用済み領域**グラフの更新をトリガーします。
> - 高いしきい値と低いしきい値を指定した後、その間の領域使用量はデフォルトで**中**になります。

プロファイルコンテナのステータス

指定された期間におけるプロファイルコンテナのステータスレコードのリストを表示します。期間（例: 過去6日間）を指定した後、**更新**ボタンをクリックしてレコードをフィルタリングします。

選択したレコードが関連するコンテナのデータ収集をトリガーできます。これにより、ユーザーのコンテナステータスが最新の状態になります。これを行うには、ステータスレコードを右クリックし、**更新**を選択します。更新操作により一連のタスクが実行されます。まず、関連するエージェントホストにタスクがすぐに送信されます。エージェントはタスクを受信し、コンテナがエージェントホストで使用中の場合はステータス関連のデータを収集します。次に、収集されたデータで最新のアタッチレコードが更新されます。ステータスが更新されるまでに時間がかかる場合があります。最新のレコードを表示するには、**更新**ボタンをクリックしてください。

ステータス列には、ステータスとエラーコードに関する情報が表示されます。エラーコードの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/fslogix/fslogix-error-codes-reference>` のMicrosoftドキュメントを参照してください。

構成

レポートオプション

これらのオプションを使用すると、レポート期間と稼働日を制御できます。また、最小**起動時間**と**ログイン時間**（秒単位）を指定でき、これより小さい値はレポートされません。

管理 (Web コンソール)

管理コンソールの起動

1. Citrix Cloud™ アカウントにログオンします。
2. Workspace Environment Management™ (WEM) サービスタイルで、 をクリックします。
3. で、 をクリックするか、 タブをクリックします。

展開の構成

> を使用して WEM 設定を構成します。コンソールは次の 2 つのペインで構成されています。

- 左側のペイン (ナビゲーションペイン) には、クイックナビゲーションノードが表示されます。次のノードが使用可能です。
  - 。WEM 展開の概要と、WEM をすばやく理解して開始するために必要な情報を提供します。
  - 。構成セットのリストが表示されます。
  - 。WEM で管理するマシン、グループ、OU などを追加できます。
  - 。WEM 展開を監視およびトラブルシューティングするためのダッシュボードが表示され、管理タスクを実行できます。ノードをクリックすると、さらに多くの項目が表示されます。
  - 。クラウドストレージ上のすべてのファイルを一元的に管理できます。
  - 。独自の環境管理ニーズに合わせてカスタマイズしたスクリプトタスクを追加できます。その後、該当する構成セットで構成することで、WEM を使用してこれらのタスクを自動化できます。
- 右側のペインには、現在表示しているノードに関連する詳細が表示されます。

Webコンソールで使用できる設定については、ユーザーインターフェイスの説明 (Webコンソール) を参照してください。

ホーム

このページでは、Workspace Environment Management™ (WEM) の展開の概要と、WEM をすばやく理解して開始するために必要な情報を提供します。 インターフェイスは次の4つの部分で構成されています。

- **概要**
- **クイックアクセス**
- **ハイライト**
- **プレビュー機能**

概要

WEM 展開の概要を提供します。これには次の情報が含まれます。

- すべての構成セットの合計エージェント数
- ユーザーが最近ログオンしたエージェントマシンの数
- VDA のヘルスステータス

エージェントを詳細に表示するには、**エージェント統計の表示**をクリックして**監視 > 管理 > エージェント**に移動します。ここでは、エージェント情報を表示し、キャッシュの更新、設定のカスタマイズ、エージェント情報の取得などの管理タスクを実行できます。詳細については、「WEM エージェント」を参照してください。

VDA のヘルスステータスを詳細に表示するには、**通常**の下の**表示**をクリックして正常な状態の VDA に関するレポートを表示するか、**異常**の下の**表示**をクリックして異常な状態の VDA に関するレポートを表示します。詳細については、「レポート」を参照してください。

クイックアクセス

WEM が提供する主要機能の一部にすばやくアクセスできます。Web コンソールでは、次の機能が利用可能です。

- **リソース使用率の最適化**。ユーザーのログオン時間を短縮し、アプリケーションの応答性を向上させることができます。
- **インサイトの取得**。プロファイルコンテナとアプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。
- **スクリプトタスクを構成する**。独自の環境管理ニーズに合わせてスクリプトタスクをカスタマイズできます。

> **ヒント:**
>
> クイックアクセスリンクをクリックすると、該当する構成セットを選択するよう求めるウィンドウが表示されます。その後、構成セット内の機能ページに直接移動します。

レガシーコンソールで利用できる機能は次のとおりです。

- **プロファイル管理を最適化する**。すべてのユーザーデスクトップで統一されたエクスペリエンスを提供できます。
- **グループポリシーを割り当てる**。他のアクションを割り当てるのと同じように、グループポリシーオブジェクトをさまざまなActive Directoryグループに割り当てることができます。
- **エンタープライズセキュリティを適用する**。追加のAppLockerルールを適用することで、デスクトップを保護できます。

ハイライト

WEMが提供する主要な機能を示します。Webコンソールで利用できる機能は次のとおりです。

- CPU管理
- スクリプトタスク

レガシーコンソールで利用できる機能は次のとおりです。

- 特権昇格
- 外部タスク

プレビュー機能

現在プレビュー中の機能を表示します。プレビュー機能を表示するには、コンソールの右上隅にあるプレビュー機能アイコンをクリックします。新しいプレビュー機能が利用可能になるたびに赤い点が表示されます。表示するプレビュー機能がない場合は、次のツールヒントが表示されます: `No preview features to show at the moment`。

プレビュー機能は完全にローカライズされていない場合があり、非本番環境での使用が推奨されます。プレビュー機能で見つかった問題は、Citrixテクニカルサポートではサポートされません。

プレビュー機能を有効または無効にした後、変更を有効にするにはブラウザウィンドウを更新してください。

構成セット

このページでは、構成セットを管理できます。構成セットは、Workspace Environment Management™ (WEM) 構成のセットを整理するために使用される論理コンテナです。次の操作を実行できます。

- 構成セットを追加する
- 構成セットを編集または削除する
- 構成セットをお気に入りに追加する
- 推奨設定を適用する
- 構成セットの設定を構成する
- 現在の構成のバックアップコピーを保存する
- WEM サービス構成の以前にバックアップされたバージョンに戻す
- 検索ボックスを使用して構成セットを検索する
- 構成リストを更新する

注:

- フル管理者は、これらすべての操作を実行できます。
- 読み取り専用の制限付き管理者は、割り当てられたスコープ内の構成セットを *表示* および *更新* する ことのみができます。

2つの組み込み構成セットがあります。

- **Default Site**。組み込みの WEM 構成セット。
- **バインドされていないエージェント**。組み込みのWEM構成セット。どの構成セットにもバインドされていないエージェントでのみ使用できます。この構成セットの設定をそれらのエージェントに適用するには、「**ディレクトリオブジェクト > 詳細設定**」に移動します。

注:

- 「**デフォルトサイト**」は削除できません。必要に応じて、その名前と説明を変更できます。

- 「**バインドされていないエージェント**」は削除または編集できません。「**構成セットの編集**」オプションは利用できません。

構成セットを追加する

ディレクトリオブジェクト（ユーザー、マシン、グループ、OU）に設定を適用するために構成セットを作成します。これを行うには、次の手順を実行します。

1. 「**構成セット**」ノードで、「**構成セットの追加**」をクリックします。
2. 構成セットの名前を入力します。
3. 構成セットを識別しやすくするための説明を入力します。
4. （オプション）構成セットのスコープを選択します。このフィールドを空のままにすると、フル管理者のみがアクセスできます。
5. 「**保存**」をクリックします。

構成セットを編集または削除する

構成セットを編集または削除するには、次の手順を実行します。

1. 「**構成セット**」ノードで、構成セットを見つけます。
2. 構成セットをクリックします。構成セットの詳細ビューが表示されます。
3. 右上隅にある「**構成セットの編集**」をクリックします。
4. 名前、説明、またはスコープを編集します。または、「**構成セットの削除**」をクリックします。

構成セットをお気に入りに追加する

構成セットをお気に入りに追加するには、次の手順を実行します。

1. 「**構成セット**」ノードで、構成セットを見つけます。
2. 構成セットをクリックします。
3. 右上隅にある**お気に入りに追加**をクリックします。

注:

- 最大5つの構成セットをお気に入りに追加できます。

- お気に入りは管理者ごとに保存されます。

推奨設定を適用する

推奨設定は、サイトや環境全体で構成を標準化し、反復的な構成タスクを削減するのに役立つ、事前定義された構成テンプレートです。

構成セットに推奨設定を適用するには、次の手順を実行します。

1. 「**構成セット**」ノードで、構成セットを見つけてクリックします。
2. 右上隅にある**構成セットオプション**をクリックし、**推奨設定の適用**を選択します。
3. **保存**をクリックして、推奨設定を構成セットに適用します。

構成セットの設定を構成する

構成セットの設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. 「**構成セット**」ノードで、構成セットを見つけます。
2. 構成セットをクリックします。
3. 必要に応じて設定を構成します。

構成セットに対して、次の設定を構成できます。

- システム最適化
- 詳細設定
- スクリプトタスク設定

バックアップと復元

「**バックアップと復元**」ページには、既存のバックアップのリストが表示されます。バックアップには、自動バックアップと手動バックアップ（構成セットと設定）の2種類があります。「**コンテンツタイプ**」列で、自動バックアップと手動バックアップを区別できます。

各バックアップに対して、次の操作を実行できます。

- **復元**。バックアップから構成を復元できます。バックアップから構成を復元すると、選択した構成セットに関連するすべての設定がバックアップからの設定に置き換えられます。

> **注:**

- プロファイル管理設定を構成セットに復元するには、その構成セットの「**プロファイル > プロファイル管理設定**」ページにあるクイックセットアップ機能を使用することもできます。
- バックアップからプロファイル管理設定を復元すると、関連サービスが使用するために選択されたSMB共有も復元されます。

- **ダウンロード**。バックアップのコピーをローカルマシンに保存できます。バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。バックアップファイルはJSON形式です。
- **削除**。既存のバックアップを削除できます。

次の操作も実行できます。

- 「**アップロード**」ボタンの横にある更新アイコンをクリックして、現在のページを更新します
- 構成ファイルをアップロードする
- 自動バックアップを管理する
- 構成セットをバックアップする
- プロファイル管理設定をバックアップする

構成ファイルをアップロードする

以前のバックアップに戻すために使用するJSONファイルをアップロードできます。JSONファイルには、構成セットまたはプロファイル管理設定を含めることができます。

注:

フル管理者のみが構成ファイルをアップロードし、自動バックアップを管理できます。

ファイルをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. 「**アップロード**」をクリックします。「**バックアップファイルのアップロード**」ウィザードが表示されます。
2. 「**参照**」をクリックし、アップロードするファイルを参照して選択し、「**開く**」をクリックします。「**バックアップファイルのアップロード**」ウィザードに戻ります。
3. ファイルの名前を指定します。

4. 「**アップロード**」をクリックして、アップロードを開始します。

> **注:**
>
> - JSONファイルのみをアップロードできます。
> - サイズが5 MBより小さいファイルのみアップロードできます。

自動バックアップの管理

構成セットのバックアップを自動的に保存できます。この機能は、最も古い既存のファイルを上書きし始める前に、各構成セットに対して最大25個のバックアップファイルを保存することをサポートしています。構成セットに関連する以下の項目はバックアップできません。

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト（単一マシン、マシングループ、OU）
- 監視データ（統計とレポート）
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

自動バックアップを構成するには、次の手順を実行します。

1. **自動バックアップの管理**をクリックします。**自動バックアップの管理**ウィザードが表示されます。
2. 自動的にバックアップしたい構成セットを見つけます。
3. その構成セットに対して、次の3つのオプションのいずれかを選択します。
    - **未構成**。選択した場合、WEMは自動的にバックアップを行いません。
    - **毎日**。選択した場合、WEMは毎日バックアップを実行します。
    - **毎週**。選択した場合、WEMは毎週月曜日にバックアップを実行します。
4. 必要に応じて、他の構成セットに対して手順2と3を繰り返します。
5. 「**保存**」をクリックして変更を保存し、ウィザードを終了します。

構成セットをバックアップする

> **重要:**

> 手動バックアップの数はアカウントごとに25に制限されています。制限に達した場合は、既存のバックアップを削除してから再試行してください。

> 構成セットのバックアップコピーを保存し、そのバックアップを復元目的で使用できます。構成セットに関連する次の項目をバックアップできます。

- アクション
- アプリケーションセキュリティ、特権昇格、およびプロセス階層制御
- 割り当て（アクションおよびアクショングループに関連）
- フィルター
- スクリプト化されたタスク設定
- ユーザー
- WEM設定

構成セットに関連する次の項目はバックアップできません。

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト（単一マシン、マシングループ、OU）
- 監視データ（統計とレポート）
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

構成セットをバックアップするには、次の手順を実行します。

1. 「**バックアップ**」をクリックします。「**バックアップ**」ウィザードが表示されます。
2. ターゲットの構成セットを選択します。
3. バックアップする構成セットをリストから選択します。
4. バックアップの名前を指定します。
5. オプションで、バックアップをローカルに保存するには、「**バックアップのコピーをローカルマシンに保存**」を選択します。

   > **注:**
   >
   > バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

6. バックアップを開始するには、「**バックアップ**」をクリックします。

プロファイル管理設定のバックアップ

> **重要:**
>
> 手動バックアップの数は、アカウントごとに25に制限されています。制限に達した場合は、既存のバックアップを削除してから再試行してください。

プロファイル管理設定をバックアップするには、次の手順を実行します。

1. 「**バックアップ**」をクリックします。「**バックアップ**」ウィザードが表示されます。
2. ターゲットの構成セットを選択します。
3. 「**バックアップする内容**」リストから「**設定**」を選択します。
4. 「**プロファイル管理設定**」を選択します。
5. バックアップの名前を指定します。
6. 任意で、「**バックアップのコピーをローカルマシンに保存**」を選択して、バックアップをローカルに保存します。

   > **注:**
   >
   > バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

7. 「**バックアップ**」をクリックして、バックアップを開始します。

アクション

Workspace Environment Management™ (WEM) において、アクションはユーザー環境をカスタマイズするために不可欠です。アクションは、ユーザーまたはマシンに適用される構成とリソースを定義します。アクションを使用すると、ログオンパフォーマンスを向上させ、環境管理を簡素化できます。

アクションは、割り当てを通じてユーザーまたはマシンに適用し、特定のシナリオをターゲットとするフィルターで調整します。アクションは、構成セット（ユースケースに基づいて関連する設定をグループ化する論理コンテナ）に整理されます。

グループポリシー設定

グループポリシーは、Windows 上のユーザーおよびコンピューター設定の一元管理を提供します。WEM は、幅広いポリシー構成をサポートし、Microsoft Active Directory から既存のグループポリシー設定を移行できるようにすることで、この機能を拡張します。WEM を介してグループポリシーを処理すると、Citrix® 環境でのログオン時間を短縮できます。

グループポリシー設定は、次の2つの方法で処理できます。

- レジストリベースの設定処理

  レジストリの場所を指定することで、設定を直接構成できます。この方法は高速で柔軟性があります。

- テンプレートベースの設定処理

  管理用テンプレート（ADM または ADMX ファイル）を使用して設定を構成できます。この方法は、構造化された構成管理を提供します。

> **重要:**
>
> WEM は現在、`HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER` レジストリハイブに関連付けられたグループポリシー設定の管理をサポートしています。環境変数などのグループポリシー設定を構成するには、 セクションの対応するオブジェクトに移動します。

始める前に

構成セットのグループポリシー設定処理を有効にするには、 > に移動し、 をオンにします。

- が有効になっている場合、WEM エージェントはグループポリシー設定を処理できます。 オプションも利用可能になります。これを有効にすると、変更が検出されない場合でも、エージェントは更新サイクルごとにグループポリシー設定を再処理します。このオプションは、ポリシーを一貫して適用し続けるのに役立ちます。
- が無効になっている場合、WEM エージェントは、グループポリシー設定がユーザーまたはユーザーグループにすでに割り当てられている場合でも、それらを処理しません。

レジストリベースの設定を管理する

タブを使用して、レジストリ操作を構成することで Windows の設定を構成します。

構成セットの下にある**アクション > グループポリシー設定 > レジストリベース**で、次の操作を実行できます。

- **GPOの作成:** レジストリベースのグループポリシーオブジェクト (GPO) を作成します。
- **インポート:** レジストリベースのグループポリシー設定をWEMにインポートします。
- **更新:** GPOリストを更新します。
- **表示:** GPOの詳細を表示します。
- **編集:** 選択したGPOを変更します。
- **割り当ての管理:** GPOの割り当てを管理します。
- **クローン:** GPOをクローンします。
- **削除:** GPOを削除します。

> **警告:**
>
> レジストリベースの設定を誤って編集、追加、削除すると、ユーザー環境で設定が有効にならない可能性があります。

グループポリシー設定のインポート

インポート機能を使用して、既存のグループポリシーインフラストラクチャから構成を移行できます。GPOバックアップから、またはエクスポートされたレジストリファイルから直接設定をインポートできます。

レジストリファイルから設定をインポートする前に、次の点に注意してください。

- 設定をインポートする際、WEMコンソールには.zipファイルのみをアップロードできます。.zipファイルには、1つ以上のレジストリファイルを含めることができます。
- 各.regファイルはGPOに変換されます。変換された各GPOは、レジストリ設定のセットとして扱うことができます。
- 変換された各GPOの名前は、対応する.regファイルの名前に基づいて生成されます。例: .regファイルの名前が`test1.reg`の場合、変換されたGPOの名前は`test1`です。
- この機能は、.regファイルで定義するレジストリキーと値に関連付けられた削除操作の変換をサポートします。.regファイルを使用してレジストリキーと値を削除する方法については、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/topic/how-to-add-modify-or-delete-registry-subkeys-and-values-by-using-a-reg-file-9c7f37cf-a5e9-e1cd-c4fa-2a26218a1a23>`を参照してください。
- 変換されたGPOの説明は、デフォルトで空です。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**インポート**をクリックします。
2. ファイルの種類を選択します。
   - **GPOバックアップファイル**。GPOバックアップファイルから設定をインポートする場合は、このオプションを選択します。グループポリシー設定をバックアップする方法については、グループポリシー設定のバックアップを参照してください。
   - **エクスポートされたレジストリファイル**。Windowsレジストリエディターを使用してエクスポートしたレジストリファイルから設定をインポートする場合は、このオプションを選択します。
3. **参照**をクリックして、zipファイルに移動します。

> **注:**
>
> サイズが20 MBを超えないファイルのみをアップロードできます。

4. 同じ名前の既存のGPOを上書きするかどうかを選択します。
5. **インポート**をクリックして、インポートプロセスを開始します。

インポートが正常に完了すると、インポートされたGPOが**レジストリベース**タブに表示されます。

GPOを作成する

GPOを作成するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**GPOの作成**をクリックします。
2. GPOの名前を指定します。
3. 必要に応じて、GPOを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
4. **追加**をクリックしてレジストリ操作を追加します。以下の設定が利用可能になります。
   - **アクション**。レジストリキーのアクションの種類を指定できます。
     - **値の設定**。レジストリキーの値を設定できます。
     - **値の削除**。レジストリキーの値を削除できます。
     - **キーの作成**。ルートキーとサブパスの組み合わせで指定されたキーを作成できます。
     - **キーの削除**。レジストリキーの下のキーを削除できます。
     - **すべての値の削除**。レジストリキーの下のすべての値を削除できます。

- **ルートキー**。サポートされている値: `HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER`。
- **サブパス**。ルートキーを含まないレジストリキーの完全なパスです。たとえば、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows` がレジストリキーの完全なパスである場合、`Software\Microsoft\Windows` がサブパスです。
- **名前**。レジストリ値の名前を指定できます。以下の図で強調表示されている項目全体がレジストリ値です。**名前**フィールドを空白のままにすると、そのキーの既定値として設定されます。

  レジストリエディターのレジストリ値(/en-us/workspace-environment-management/service/media/registry-value-in-registry-editor.png)
- **タイプ**。値のデータ型を指定できます。
  - **REG_SZ**。このタイプは、人間が判読できるテキスト値を表すために使用される標準文字列です。
  - **REG_EXPAND_SZ**。このタイプは、アプリケーションによって呼び出されたときに置き換えられる変数を含む拡張可能なデータ文字列です。たとえば、次の値の場合、文字列「%SystemRoot%」はオペレーティングシステム内のフォルダーの実際の場所に置き換えられます。
  - **REG_BINARY**。任意の形式のバイナリデータ。"
  - **REG_DWORD**。32ビットの数値。このタイプは、ブール値によく使用されます。たとえば、「0」は無効、「1」は有効を意味します。
  - **REG_DWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の32ビット数値。
  - **REG_QWORD**。64ビットの数値。
  - **REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の64ビット数値。
  - **REG_MULTI_SZ**。このタイプは、リストまたは複数の値を含む値を表すために使用されるマルチ文字列です。各エントリはヌル文字で区切られます。
  - **REG_NONE**。事前定義されたデータ型カテゴリに当てはまらないレジストリ値を構成できます。
- **データ**。レジストリ値に対応するデータを入力できます。データ型が異なると、異なる形式で異なるデータを入力する必要がある場合があります。

5. 完了したら、次をクリックします。

- **完了**。このアクションにより、GPOの作成が完了します。

- **保存して割り当て**。このアクションにより、GPOの作成が完了し、**割り当て**ページが開きます。このページで、作成したGPOの割り当てを続行できます。

GPOの表示

GPOを編集せずに、WEMグループポリシー設定とGPOの概要を読み取り専用モードで表示できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤構成のリスクが排除されます。

GPOを表示するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで**View**をクリックします。
2. 名前、説明、レジストリ操作を表示します。
3. 完了したら、**Close**をクリックします。

GPOを編集する

GPOを編集するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで**Edit**をクリックします。
2. 名前と説明を編集します。レジストリキー値を作成または更新する際に、**Name**フィールドを空白のままにすると、そのキーのデフォルト値として設定されます。
3. 必要に応じて、次の操作を行います。
   - レジストリ操作を追加するには、**Add**をクリックします。
   - レジストリ操作を選択し、編集します。
   - レジストリ操作を削除します。
   - レジストリ操作を下に移動するか、上に移動します。または、レジストリ操作を選択し、6つの点のアイコンをクリックして、目的の位置にドラッグします。
4. 完了したら、**Done**をクリックします。

> **注:**
>
> GPOがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを編集すると、それらのユーザーに影響が及びます。

GPOの割り当てを管理する

GPOをユーザー、Active Directory (AD) グループ、または組織単位 (OU) に割り当てることができます。ADグループまたはOUには、ユーザーとマシンの両方を含めることができます。

- **マシンレベルの設定**は、コンピューターが割り当てられたグループまたはOUに属している場合に適用されます。
- **ユーザーレベルの設定**は、サインインしているユーザーが割り当てられたグループまたはOUに属している場合に適用されます。

> **ヒント:**
>
> マシンレベルの設定をすぐに有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動します。ユーザーレベルの設定をすぐに有効にするには、ユーザーはログオフしてから再度ログオンする必要があります。

GPOの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. GPOを作成したら、**保存して割り当て**ボタンをクリックして作成を完了し、次の手順に進みます。
2. GPOを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。
3. GPOを割り当てる割り当てターゲット（ユーザー、グループ、OU）を選択します。

   > **注:**
   >
   > GPOをマシンに割り当てる際は、マシンがOUまたは関連するセキュリティグループのいずれかに存在することを確認してください。

   - 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
4. フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化し、各ターゲットのGPOの優先度を設定します。

   > **ヒント:**
   >
   > フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。グループポリシー設定は、ユーザー設定とマシン設定で構成されます。一部のフィルター条件はユーザー設定にのみ適用されます。これらの条件をマシン設定に適用すると、WEMエージェントは設定を割り当てる前にフィルターを評価する際にそれらをスキップします。マシン設

> 定に適用されない条件の完全なリストについては、「マシン設定に適用されない条件」を参照してください。

5. 各タイルにある省略記号アイコンをクリックし、必要に応じて次の操作を行います。
   - **構成のコピー**。割り当ての構成をコピーできます。
   - **構成の貼り付け**。他の構成からコピーした構成を貼り付けることができます。
   - **この構成をすべてのターゲットに適用**。割り当ての構成をすべてのターゲットに適用できます。
6. 完了したら、**保存**をクリックします。

GPOのクローン作成

GPOをクローンするには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで**クローン**をクリックします。
2. 名前と説明を編集します。
3. GPOのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックして、クローンプロセスを開始します。

GPOの削除

GPOを削除するには、GPOを選択し、アクションバーで**削除**をクリックします。

> **注:**

> GPOがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

テンプレートベースの設定を管理する

テンプレートベースタブを使用して、グループポリシー管理用テンプレートを使用してWindowsの設定を構成します。GPOは、マシンレベルとユーザーレベルで構成できます。

構成セットの**アクション > グループポリシー設定 > テンプレートベース**で、次の操作を実行できます。

- **テンプレートを使用してGPOを作成:** テンプレートベースのグループポリシーオブジェクト (GPO) を作成します。

- **テンプレートを管理:** 管理用テンプレートを管理します。
- **テンプレートをインポート:** カスタム管理用テンプレートをWEMにインポートします。
- **更新:** GPOリストを更新します。
- **編集:** GPOを更新します。
- **表示:** GPOを更新します。
- **クローン:** GPOをクローンします。
- **削除:** GPOを削除します。

テンプレートを使用してGPOを作成する

テンプレートを使用してGPOを作成するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**GPOの作成**をクリックします。
2. **基本情報**で:
    - GPOの名前を指定します。
    - 必要に応じて、GPOを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
3. **コンピューターの構成**で、マシンに適用するポリシー (誰がログオンしているかに関係なく) を構成します。
4. 「**ユーザー構成**」で、ユーザーに適用したいポリシーを設定します (どのマシンにログオンしても)。
5. 「**概要**」で、加えた変更を確認します。
6. 完了したら、「**完了**」をクリックします。

「**コンピューター構成**」と「**ユーザー構成**」で、設定を構成するために選択します。ポリシーはツリービューとリストビューで表示できます。リストビューでは、ポリシーはアルファベット順に並べ替えられ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、まずそれを有効にします。設定には、構成できる複数の項目がある場合があります。必要な入力の種類に応じて、設定はチェックボックス、入力ボックス (テキストまたは数値として入力)、選択、リスト、またはそれらの組み合わせにすることができます。

設定に関する情報については、MicrosoftからGPOリファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートの管理

テンプレートを管理するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、「**テンプレートの管理**」をクリックします。
2. 「**テンプレートの管理**」ウィザードで:

- 「**コンピューター構成**」を選択して、マシンに適用したいポリシーを構成します (誰がログオンしても)。
- 「**ユーザー構成**」を選択して、ユーザーに適用したいポリシーを構成します (どのマシンにログオンしても)。

1. 完了したら、「**完了**」をクリックします。

「**コンピューター構成**」と「**ユーザー構成**」で、設定を構成するために選択します。ポリシーはツリービューとリストビューで表示できます。リストビューでは、ポリシーはアルファベット順に並べ替えられ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、まずそれを有効にします。設定には、構成できる複数の項目がある場合があります。必要な入力の種類に応じて、設定はチェックボックス、入力ボックス (テキストまたは数値として入力)、選択、リスト、またはそれらの組み合わせにすることができます。

設定に関する情報については、MicrosoftからGPOリファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートのインポート

> **重要:**

> ADMXファイルをテンプレートとして使用するためにWEMにインポートする際は、zipファイル内のすべての.admlファイルが同じ言語であることを確認してください。

> ADMXファイルをテンプレートとして使用するためにWEMにインポートできます。その後、それらのテンプレートを使用してGPOを作成します。テンプレートをインポートするには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、 をクリックします。
2. ウィザードで、 をクリックします。
3. ADMXファイルを含むzipファイルを参照し、既存のテンプレートと同じ名前のテンプレートがファイルに含まれている場合の対処方法を決定します。
    - 。インポートをキャンセルします。
    - 。

- 。上書きすると、既存のテンプレートから派生した関連設定が変更される可能性があります。テンプレートで作成された既存のGPOは影響を受けません。ただし、それらのGPOを編集すると、関連設定は失われます。

4. をクリックして、インポートプロセスを開始します。
5. 完了したら、 をクリックして**** ウィザードに戻ります。
6. そこでテンプレートを管理するか、 をクリックして終了します。

インポートしたテンプレートファイルの管理方法については、ファイルを参照してください。そこで管理する際は、次の点を考慮してください。

- GPO管理用テンプレートファイルを削除すると、現在のテンプレートから関連設定が削除されます。テンプレートで作成された既存のGPOは影響を受けません。ただし、それらのGPOを編集すると、関連設定は失われます。

GPOを表示する

GPOを編集せずに、WEMグループポリシー設定とGPOの概要を読み取り専用モードで表示できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤設定のリスクが排除されます。

GPOを表示するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーの**View**をクリックします。
2. 名前、説明、および構成を表示します。
3. 完了したら、**Close**をクリックします。

GPOを編集する

GPOを編集するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーの**Edit**をクリックします。
2. **Basic information**で、名前と説明を編集します。
3. **Computer configuration**で、マシンのポリシーを編集します。
4. **User configuration**で、ユーザーのポリシーを編集します。
5. **Summary**で、行った変更を確認します。
6. 完了したら、**Save**をクリックします。

> **注:**

> GPOがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを編集するとそれらのユーザーに影響します。

GPOの割り当てを管理する

テンプレートを使用して作成されたGPOの割り当ては、レジストリベースのGPOと同様に管理できます。詳細については、「GPOの割り当てを管理する」を参照してください。

GPOをクローンする

GPOをクローンするには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで をクリックします。
2. GPOをレジストリベースのGPOとしてクローンするか、テンプレートベースのGPOとしてクローンするかを決定します。

   > **注:**
   >
   > レジストリベースとしてクローンされると、GPOはレジストリ値に変換され、 タブに表示されます。変換された各GPOは、レジストリ設定のセットとして扱うことができます。

3. 名前と説明を編集します。
4. GPOのクローン先となる構成セットを選択します。
5. をクリックして、クローンプロセスを開始します。

GPOを削除する

GPOを削除するには、GPOを選択し、アクションバーで をクリックします。

> **注:**
>
> GPOがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

アプリケーション

この機能を使用すると、ユーザーに割り当てるアプリケーションを追加できます。割り当てられると、それらのアプリケーションのショートカットは、構成に応じて、デスクトップ、スタートメニュー、またはタスクバーに作成されます。

> **ヒント:**
>
> Citrix DaaSの完全構成管理コンソールを使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。**VUEMAppCmd.exe** は、Citrix DaaSおよびCitrix Virtual Apps and Desktopsで公開されたアプリケーションが起動する前に、Workspace Environment Managementエージェントが環境の処理を完了するようにします。詳細については、「完全構成管理インターフェイスを使用したアプリケーション設定の編集」を参照してください。

次の操作を実行できます。

- アプリケーションを追加します。
- アプリケーションリストを更新します。
- アプリケーションを編集して、そのプロパティを管理します。
- アプリケーションを表示します
- アプリケーションの割り当てを管理します。
- アプリケーションを複製します。
- アプリケーションを削除します。
- メニュービューに切り替えます。
- エージェントがアプリケーションを処理する方法を指定します。

アプリケーションを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動し、**Actions > Applications** に移動して、**Add application** をクリックします。「アプリケーションの追加」を参照してください。
2. 追加したアプリケーションを選択し、アクションバーで **Manage assignments** をクリックします。「アプリケーションの割り当ての管理」を参照してください。

割り当てが有効になるまでには、詳細設定 で指定したSQL設定の更新遅延の値に応じて時間がかかります。割り当てをすぐに有効にするには、次の手順を実行します。

1. **Web Console > Monitoring > Administration > Agents > Statistics** に移動し、エージェントを選択します。
2. アクションバーの**その他**をクリックし、**エージェント > エージェントホスト設定の更新**を選択します。

重要:

- エージェントがアクションを処理するには、次の設定が有効になっていることを確認してください。
  - ログオン時にエージェントを起動する（ログオン時のアクション処理用）
  - 再接続時にエージェントを起動する（再接続時のアクション処理用）
  - デスクトップ互換モードを有効にする
- これらの設定は、レガシーコンソール > 詳細設定 > 構成 > メイン構成 > エージェントサービスアクションで確認できます。

アプリケーションを追加する

アプリケーションを追加するには、次の手順を実行します。

1. **アプリケーション**で、**アプリケーションの追加**をクリックします。
2. **基本情報**ページで、次の設定を構成します。
   - **名前**。アプリケーションを識別するための名前を指定します。
   - **説明**。アプリケーションに関する追加情報を指定します。
   - **状態**。アプリケーションを有効または無効にするか、メンテナンスモードにします。メンテナンスモードの場合、アプリケーションは使用できません。そのショートカットアイコンには、使用できないことを示す警告サインが含まれています。
   - **アプリケーションの種類**。ショートカットが開くアプリケーションの種類を指定します。ユーザーインターフェイスは、選択内容によって異なります。
     - **インストール済みアプリケーション**。ユーザーのマシンにインストールされているアプリケーションを開くショートカットを作成します。選択した場合、次の項目を完了するように求められます。
       - **アプリケーションパス**。ユーザーのマシンに存在するアプリケーションのフルパスを入力します。

    - **作業フォルダー**。ユーザーのマシン上のフォルダーへのフルパスを、アプリケーションの作業フォルダーとして入力します。このフィールドは、**アプリケーションパス**フィールドにフルパスを入力すると自動的に入力されます。
    - **パラメーター**。必要に応じて、アプリケーションの起動パラメーターを入力します。

- **ファイルまたはフォルダー**。ユーザーがショートカットアイコンをクリックしたときに、ユーザーのマシン上のターゲットファイルまたはフォルダーを開くショートカットを作成できます。選択すると、以下を完了するように求められます。
    - **パス**。ターゲットファイルまたはフォルダーへのフルパスを入力します。
- **URL**。アプリケーションのURLを追加できます。選択すると、以下を完了するように求められます。
    - **アプリケーションURL**。アプリケーションのURLを入力します。
- **Citrix Workspace™リソース**。Citrix Workspaceからアプリケーションを追加できます。選択すると、以下を完了するように求められます。
    - **ストアURL**。アプリケーションショートカットから起動したいリソースを含むStoreFront™またはWorkspaceストアのURLを入力します。

> **注:**
>
> エージェントマシンでは、SaaSアプリまたは**Citrix Workspace (Storefront) resource**タイプの特定のアプリケーションを開くことはできません。

    - **リソース**。**Citrix Environment Tool Hub > Application Assistant**を使用して、ターゲットのWorkspaceリソースを参照します。リソース情報をコピーし、**Paste resource info**をクリックしてここに貼り付けます。**Open Application Assistant**をクリックしてCitrix Environment Tool Hubを開きます（インストールされている場合）。Citrix Environment Tool Hubをダウンロードするには、**Citrix Cloud > WEM service > Utilities**に移動します。詳細については、Citrix Environment Tool Hubを参照してください。

3. 「**オプション**」ページで、次の設定を構成します。

- **アプリケーションアイコン**。**変更**をクリックして、別のアイコンを選択するか、新しいアイコンを追加します。

  - 新しいアイコンを追加するには、.icoファイルを参照するか、**Citrix Environment Tool Hub > Application Assistant**からコピーしたアイコンデータを貼り付けます。WEMは最大100個のアイコンの保存をサポートしています。詳細については、Citrix Environment Tool Hubを参照してください。

- **ユーザーのデスクトップにアイコンの場所を設定**。ユーザーのデスクトップ上のアプリケーションショートカットのターゲット位置を指定します。値はピクセル単位です。移動した場合、ショートカットは次回のログオン時に指定された位置に戻ります。
- **表示名**。ショートカットの名前を指定します。その名前はユーザー環境に表示されます。
- **スタートメニュー統合**。**変更**をクリックして、スタートメニューの左側にアプリケーションショートカットを作成する場所を指定します。デフォルトでは、新しいショートカットは**プログラム**に作成されます。**スタートメニュー統合**ウィンドウで、次のことができます。
  - ショートカット用のカスタムフォルダーを作成します。
  - アプリケーションショートカットがスタートメニューフォルダー内のどこに配置されるかを指定します。
  - カスタムフォルダーの名前を変更します。

> **注:**
>
> カスタムフォルダーを削除するには、**アプリケーション**の**スタートメニュービュー**に移動します。「スタートメニュービューへの切り替え」を参照してください(#switch-to-the-start-menu-view)。

- **ウィンドウスタイル**。アプリケーションがユーザーのマシンで、最小化（タスクバーに最小化）、通常（通常の画面表示）、または最大化（全画面表示）のいずれかのウィンドウで開くかを指定します。
- **ホットキー**。ホットキーを設定するには、入力フィールドをクリックしてキーの組み合わせを押します。または、次の形式（例）で組み合わせを入力します：Ctrl + Alt + S
- **自動復元を有効にする**。有効にすると、エージェントは更新時にショートカット（移動または削除された場合）を自動的に再作成します。
- **エージェントメニューからアプリケーションを非表示にする**。ユーザーのマシンからアクセスできるエージェントメニューで、アプリケーションを表示するか非表示にするかを指定します。

- **ユーザーのお気に入りフォルダーにショートカットを作成する**。ユーザーのお気に入りフォルダーにアプリケーションショートカットを作成するかどうかを指定します。

4. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

アプリケーションを編集する

アプリケーションを編集するには、次の手順を実行します。

1. **アプリケーション**で、アプリケーションを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してアプリケーションをすばやく見つけます。
2. アクションバーで**編集**をクリックします。
3. **基本情報**ページと**オプション**ページで、必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、**保存**をクリックします。

アプリケーションの表示

WEMアプリケーションを読み取り専用モードで表示できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤設定のリスクが排除されます。

アプリケーションを表示するには、次の手順を実行します。

1. アプリケーションを選択し、アクションバーで**表示**をクリックします。
2. 名前、説明、および構成を表示できます。
3. 完了したら、**閉じる**をクリックします。

アプリケーションの割り当てを管理する

アプリケーションの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. アプリケーションを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. アプリケーションを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。

- 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
- 使用するフィルターとアプリケーションショートカットを作成する場所を指定するようにターゲットを構成します。
  - デスクトップショートカットを作成する
  - スタートメニューに追加する
  - スタートメニューにピン留めする
  - クイック起動に追加する

- Windowsのスタートアップに追加する
- タスクバーにピン留めする

1. フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化します。
   - フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
2. 完了したら、**完了**をクリックします。

アプリケーションをクローンする

> **注:**
>
> 割り当てはクローンされません。

アプリケーションをクローンするには、次の手順を実行します。

1. アプリケーションを選択し、アクションバーで**クローン**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. アプリケーションをクローンする構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックしてクローン処理を開始します。

アプリケーションを削除する

アプリケーションを削除するには、アプリケーションを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

> **注:**
>
> アプリケーションがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

スタートメニュービューに切り替える

スタートメニュービューに切り替えるには、**スタートメニュービュー**をクリックします。このビューには、各アプリケーションがスタートメニューフォルダー内のどこにあるかが表示されます。次のことができます。

- カスタムフォルダーを作成します。

- アプリケーションを目的のフォルダーに移動します。
- カスタムフォルダーの名前を変更します。
- カスタムフォルダーを削除します。カスタムフォルダーを削除すると、そのフォルダー内のアプリケーションも削除されます。

エージェントがアプリケーションを処理する方法を指定する

処理:

- ログオン時および更新時にアプリケーションを処理する
- 再接続時にアプリケーションを処理する
- 割り当て解除時にデスクトップからアプリケーションを削除する
- アプリケーションの処理を強制する
- アプリケーションのフィルター処理を強制する

StoreFront:

- StoreFront URLを追加し、必要に応じて説明を入力します。「Citrix Workspaceリソース」タイプのアプリケーションを追加する際に、このURLが必要です。アプリケーションの追加を参照してください。

外部タスク

> **ヒント:**

> 外部タスクはユーザーセッションレベルで動作します。マシンレベルでタスクを実行するには、代わりにスクリプトタスクを使用してください。

> この機能を使用すると、ユーザーに割り当てる外部タスクを作成できます。外部タスクはユーザーセッションレベルで動作し、スクリプトまたはアプリケーションにすることができます。ターゲットエージェントマシンに、それらを実行するために必要なプログラムがあることを確認してください。一般的に使用されるスクリプトには、**.vbs** および **.cmd** スクリプトがあります。

外部タスクを実行するタイミングを指定することで、ユーザー環境を正確かつ効果的に管理できます。

次の操作を実行できます。

- 外部タスクを作成する
- 外部タスクを編集、表示、複製、および削除する
- 外部タスクの割り当てを管理する
- 外部タスクリストを更新する
- スクリプトベースの外部タスクのレポートを有効にして表示する

> **ヒント:**
>
> **状態**列のトグルを使用して、外部タスクをすばやく有効または無効にできます。タスクを有効にするには、少なくとも1つのトリガーを設定してください。

外部タスクを作成する

タスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. で、 をクリックします。
2. タブで、次の設定を構成します。
    - **名前**。タスクを識別しやすいように名前を指定します。
    - **説明**。タスクに関する追加情報を指定します。
    - **このタスクを有効にする**。タスクを有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、タスクがユーザーに割り当てられていても、エージェントはタスクを処理しません。
    - **タスクの詳細**
        - **スクリプトの実行**。サポートされているスクリプトの種類（ファイルの種類）は、**.ps1**、**.vbs**、**.cmd**、**.bat**、**.py** です。 を選択してスクリプトを表示したり、 をクリックしてスクリプトを置き換えたりできます。ただし、スクリプトが1 MBより大きい場合や、無効またはサポートされていないファイル/スクリプト形式を選択した場合は、エラーが発生します。
            - **スクリプトの実行に使用するプログラム**。スクリプトの実行に使用するプログラムへのパスを入力します。このフィールドは、アップロードされたスクリプトが **.py** ファイル拡張子を持つPythonスクリプトである場合にのみ表示されます。
            - **引数**。引数を入力します。この入力はオプションです。
            - **作業フォルダー**。作業フォルダーを入力します。この入力もオプションです。
        - **コマンドの実行**。

    - **パス**。タスクへのパスを入力するか、タスクを参照します。パスはユーザー環境で解決されます。次のことを確認してください。
        - ここで指定したパスが、ターゲットエージェントマシンと一致していること。
        - ターゲットエージェントマシンには、タスクを実行するための対応するプログラムがあります。
    - **引数**。起動パラメーターまたは引数を指定します。文字列を入力できます。文字列には、ターゲットスクリプトまたはアプリケーションに渡す引数が含まれます。**パス**フィールドと**引数**フィールドの使用例については、「外部タスクの例」を参照してください。このエントリはオプションです。
    - **作業フォルダー**。作業フォルダーを入力します。このエントリもオプションです。

- **タスク設定**
    - **非表示で実行**。選択すると、タスクはバックグラウンドで実行され、ユーザーには表示されません。
    - **1回実行**。選択すると、**トリガー**でどのオプションを選択したか、およびエージェントが再起動したかどうかに関係なく、WEM はタスクを1回だけ実行します。
    - **実行順序**。ユーザーに複数のタスクが割り当てられており、一部のタスクが他のタスクの正常な実行に依存している場合に、このオプションを使用します。実行順序の値が0のタスクが最初に実行され、次に値が1のタスク、次に値が2のタスク、というように実行されます。
    - **タスクの完了を待機**。エージェントがタスクの完了を待機する時間を指定します。デフォルトでは、**待機タイムアウト**値は30秒です。タスクがスクリプトベースの場合、**タスク出力レポートの収集**を選択して、タスクから出力データを収集できます。

3. **トリガー**タブで、タスクに関連付けるトリガーを選択します。

> **注:**
>
> すべてのトリガーを外部タスクに関連付けることはできません。「考慮事項」を参照してください。

- **新しいトリガーの作成**。「トリガーの作成」を参照してください。
- **このタスクに適用されるトリガーのみを表示**。タスクに適用されないトリガーを除外します。

4. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

考慮事項

外部タスクはセッションレベルで機能します。外部タスクには、次のトリガーのみを関連付けることができます。詳細については、「サポートマトリックス トリガーの」を参照してください。

- 組み込みトリガー:
  - **エージェントの更新**
  - **再接続**
  - **ログオン**
  - **ログオフ**
  - **切断**
  - **ロック**
  - **ロック解除**
  - **マシンの起動**
  - **マシンのシャットダウン**
- Windowsトリガー:
  - **イベント**
- スケジュールされたトリガー
- ユーザープロセス トリガー:
  - **プロセス開始**
  - **プロセス終了**

「**再接続**」組み込みトリガーを使用する場合、次の点を考慮してください。

- WEMエージェントが物理Windowsデバイスにインストールされている場合、このオプションは適用されません。

切断、ロック、ロック解除トリガーを使用する場合、次の点を考慮してください。

- 切断、ロック、ロック解除の実装はWindowsイベントに基づいています。一部の環境では、これらのオプションが期待どおりに機能しない場合があります。たとえば、Windows 10またはWindows 11のシングルセッションVDAで実行されているデスクトップでは、切断オプションは機能しません。代わりに、ロックオプションを使用してください。(このシナリオでは、受信するアクションは「ロック」です。)

- これらのトリガーはUIエージェントと組み合わせて使用することをお勧めします。理由は2つあります。
    - CMDエージェントと組み合わせて使用すると、対応するイベントが発生するたびにエージェントがユーザー環境で起動し、外部タスクが実行されているかどうかを確認します。
    - CMDエージェントは、同時タスクのシナリオでは最適に機能しない可能性があります。

ユーザープロセス起動トリガーを使用すると、特定のプロセスが実行されている場合にのみリソースを供給し、プロセスが終了したときにそれらのリソースを取り消す外部タスクを定義できます。プロセスを外部タスクのトリガーとして使用すると、ログオンまたはログオフ時に外部タスクを処理する場合と比較して、ユーザー環境をより正確に管理できます。ユーザープロセス起動トリガーを使用する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- WEMエージェントがUIモードで起動および実行されます。
- 指定されたプロセスは、ログオンしているユーザーと同じユーザーセッションで実行されます。
- 構成された外部タスクを最新の状態に保つには、**詳細設定 > 構成 > 詳細オプション**タブで**自動更新を有効にする**を必ず選択してください。

Windowsイベントトリガーを使用する場合、次の点を考慮してください。

- ユーザー名が記録されているWindowsイベントのみが、外部タスクをトリガーするために使用できます。
- WEMエージェントがUIモードで開いて実行されます。

外部タスクを編集する

タスクを編集するには、次の手順を実行します。

1. で、タスクを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してタスクをすばやく見つけます。
2. アクションバーで をクリックします。
3. タブと タブで、必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、 をクリックします。

外部タスクの表示

WEM 外部タスクは読み取り専用モードで表示できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤設定のリスクが排除されます。

外部タスクを表示するには、次の手順を実行します。

1. 外部タスクを選択し、アクションバーで をクリックします。
2. 名前、説明、および構成を表示します。
3. 完了したら、 をクリックします。

外部タスクの割り当てを管理する

外部タスクの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. タスクを選択し、アクションバーで を選択します。
2. タスクを割り当てる割り当てターゲット (ユーザーとグループ) を選択します。
   - 新しいターゲットを追加するには、「**Add new target**」をクリックします。詳細については、「Add an assignment target」を参照してください。
3. フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化します。
   - フィルターの追加については、「Filters」を参照してください。
4. 完了したら、「**Done**」をクリックします。

外部タスクのクローン作成

> **注:**
>
> トリガーの関連付けと割り当てはクローンされません。

タスクをクローンするには、次の手順を実行します。

1. タスクを選択し、アクションバーで「**Clone**」を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. タスクをクローンする構成セットを選択します。
4. 「**Clone**」をクリックしてクローンプロセスを開始します。

外部タスクの削除

タスクを削除するには、タスクを選択し、アクションバーで「**Delete**」を選択します。

> **注:**

> 外部タスクがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響します。

スクリプトベースの外部タスクのレポートを有効にして表示する

> **注:**

> 外部タスクの場合、レポートはスクリプトベースのタスクでのみ利用できます。

> Workspace Environment Management を構成して、スクリプトベースの外部タスクのレポートを生成および表示できます。利用可能なレポートは、**アクション処理結果**と**アクション処理イベント**の2種類です。

外部タスクのレポートを有効にする

スクリプトベースの外部タスクのレポートを有効にするには、次の設定を完了します。

1. **詳細設定 > 監視設定 > アクション処理結果**に移動し、**外部タスク**を選択します。
2. この外部タスクを作成するときに、**タスクの完了を待機**と**タスク出力レポートを収集**の両方を有効にします。

外部タスクの処理結果を表示する

アクション処理結果レポートには、レポートが有効になっている各スクリプトベースの外部タスクの最終ステータスが表示され、正常に完了したか、エラーが発生したかが示されます。

レポートを表示するには：

1. **監視 > レポート**に移動します。
2. **イベントタイプはアクション処理結果**フィルターを適用します。
3. 表示される**アクション処理結果**ページで、**外部タスク**タブを選択します。

外部タスクのイベント詳細を表示する

アクション処理イベントレポートは、レポートが有効になっている各スクリプトベースの外部タスクの詳細情報を提供します。詳細には以下が含まれます。

- タスク結果
- タスクを実行したエージェント
- タスクをトリガーしたユーザー

- 構成セット名
- キャプチャされたコンソール出力

レポートを表示するには：

1. **監視 > レポート**に移動します。
2. **イベントタイプはアクション処理イベント**フィルターを適用します。

プリンター

この機能を使用すると、プリンターを割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、それらのプリンターはユーザーのデスクトップ内で使用できるようになります。

次の操作を実行できます。

- プリンターを追加します。
- 印刷サーバーからプリンターを追加します。
- プリンターリストを更新します。
- プリンターを編集します。
- プリンターを表示します。
- プリンターの割り当てを管理します。
- プリンターを複製します。
- プリンターを削除します。
- エージェントがプリンターを処理する方法を指定します。

プリンターを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動し、**アクション > プリンター**に移動して、**プリンターの追加**をクリックします。「プリンターの追加」を参照してください。
2. 追加したプリンターを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。「プリンターの割り当てを管理する」を参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、「割り当てをすぐに有効にする」を参照してください。

プリンターの追加

プリンターを追加するには、次の手順を完了します。

1. **プリンター**で、**プリンターの追加**をクリックします。

2. アクションの種類を指定します。選択したアクションの種類によってインターフェイスが異なります。

   - **ネットワークプリンターをマップする。**
     - **名前**。プリンターを識別しやすいように名前を指定します。
     - **説明（オプション）**。プリンターに関する追加情報を指定します。
     - **このプリンターを有効にする**。プリンターを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
     - **プリンターパス**。ユーザー環境で解決されるプリンターへのパスを指定します。
     - **特定の資格情報を使用して接続する**。既定では、エージェントは実行中の Windows アカウントを使用してプリンターに接続します。ユーザーが接続に異なる資格情報を指定する必要がある場合は、このオプションを選択します。
     - **表示名**。プリンターの名前を指定します。この名前はユーザー環境に表示されます。
     - **自動復元を有効にする**。有効にすると、エージェントは更新時にプリンターを自動的に再作成します (削除されている場合)。
   - **プリンターマッピングファイルを使用する。**
     - **名前**。プリンターを識別するための名前を指定します。
     - **説明 (オプション)**。プリンターに関する追加情報を指定します。
     - **このプリンターを有効にする**。プリンターを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
     - **ファイルパス**。XML プリンターリストファイルを使用して、ユーザーのプリンターを構成できます。このファイルをイメージとして使用するエージェントマシンに配置します。エージェントが更新されると、XML ファイルを解析して、アクションキューに追加するプリンターを検索します。「XML プリンターリストの構成」を参照してください。

3. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

印刷サーバーからプリンターを追加する

ネットワーク印刷サーバーからプリンターを追加するには、**Citrix Environment Tool Hub > Printer Assistant**で目的のプリンターを探し、その情報をコピーして貼り付けます。「Citrix Environment Tool Hub」を参照してください。

プリンターを編集する

プリンターを編集するには、次の手順を実行します。

1. **プリンター**で、プリンターを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してプリンターをすばやく見つけます。
2. アクションバーで**編集**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、**保存**をクリックします。

プリンターを表示する

WEMプリンターを読み取り専用モードで表示できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤設定のリスクがなくなります。

プリンターを表示するには、次の手順を実行します。

1. プリンターを選択し、アクションバーで**表示**をクリックします。
2. 名前、説明、および構成を表示します。
3. 完了したら、**閉じる**をクリックします。

プリンターの割り当てを管理する

プリンターの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. プリンターを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. プリンターを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
    - 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
    - 使用するフィルターと、それをデフォルトプリンターとして設定するかどうかを指定するようにターゲットを構成します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
3. 完了したら、**完了**をクリックします。

プリンターを複製する

> **注:**
>
> 割り当ては複製されません。

プリンターを複製するには、次の手順を実行します。

1. プリンターを選択し、アクションバーで**複製**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. プリンターの複製先の構成セットを選択します。
4. **複製**をクリックして、複製プロセスを開始します。

プリンターを削除する

プリンターを削除するには、プリンターを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

> **注:**
>
> プリンターがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

エージェントがプリンターを処理する方法を指定する

処理オプション:

- ログオン時および更新時にプリンターを処理する
- 再接続時にプリンターを処理する
- 割り当て解除されたときにデスクトップからプリンターを削除する
- プリンターの処理を強制する
- プリンターのフィルター処理を強制する
- プリンターを非同期で処理する（有効な場合、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、プリンターを非同期で処理します）

ネットワークドライブ

この機能を使用すると、ネットワークドライブを割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、それらのネットワークドライブはユーザーのデスクトップ内で使用できるようになります。

次の操作を実行できます。

- ネットワークドライブを追加する。
- ネットワークドライブリストを更新する。
- ネットワークドライブを編集する。
- ネットワークドライブを表示する。

- ネットワークドライブの割り当てを管理する。
- ネットワークドライブを複製する。
- ネットワークドライブを削除する。
- エージェントがネットワークドライブを処理する方法を指定する。

ネットワークドライブを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動し、**アクション > ネットワークドライブ**に移動して、**ネットワークドライブの追加**をクリックします。ネットワークドライブの追加を参照してください。
2. 追加したネットワークドライブを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。ネットワークドライブの割り当ての管理を参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、割り当てをすぐに有効にするを参照してください。

ネットワークドライブの追加

ネットワークドライブを追加するには、次の手順を実行します。

1. **ネットワークドライブ**で、**ネットワークドライブの追加**をクリックします。
2. 次の設定を構成します。
    - **名前**。ネットワークドライブを識別しやすいように名前を指定します。
    - **説明（オプション）**。ネットワークドライブに関する追加情報を指定します。
    - **このネットワークドライブを有効にする**。ネットワークドライブを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
    - **ターゲットパス**。ユーザー環境で解決されるネットワークドライブへのパスを指定します。
    - **特定の資格情報を使用して接続する**。デフォルトでは、エージェントは実行されているWindowsアカウントを使用してネットワークドライブに接続します。ユーザーが接続に異なる資格情報を指定する必要がある場合は、このオプションを選択します。
    - **表示名**。ネットワークドライブの名前を指定します。この名前はユーザー環境に表示されます。
    - **自動復元を有効にする**。有効にすると、エージェントは更新時にネットワークドライブ（削除されている場合）を自動的に再作成します。

- **ホームドライブとして設定する**。有効にすると、ネットワークドライブがホームドライブとして設定されます。

3. 完了したら、「**完了**」をクリックして保存し、終了します。

ネットワークドライブを編集する

ネットワークドライブを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「**ネットワークドライブ**」で、ネットワークドライブを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してネットワークドライブをすばやく見つけます。
2. アクションバーの「**編集**」をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、「**保存**」をクリックします。

ネットワークドライブを表示する

WEMネットワークドライブは読み取り専用モードで表示できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤設定のリスクがなくなります。

ネットワークドライブを表示するには、次の手順を実行します。

1. ネットワークドライブを選択し、アクションバーの「**表示**」をクリックします。
2. 名前、説明、および構成を表示します。
3. 完了したら、「**閉じる**」をクリックします。

ネットワークドライブの割り当てを管理する

ネットワークドライブの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. ネットワークドライブを選択し、アクションバーで を選択します。
2. ネットワークドライブを割り当てる割り当てターゲット (ユーザーとグループ) を選択します。
   - 新しいターゲットを追加するには、 をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
   - 使用するフィルターとドライブ文字を指定するようにターゲットを構成します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
3. 完了したら、 をクリックします。

ネットワークドライブのクローンを作成する

> **注:**
>
> 割り当てはクローンされません。

> ネットワークドライブのクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. ネットワークドライブを選択し、アクションバーで を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. ネットワークドライブのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. をクリックして、クローンプロセスを開始します。

ネットワークドライブを削除する

ネットワークドライブを削除するには、それを選択し、アクションバーで を選択します。

> **注:**
>
> ネットワークドライブがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

エージェントがネットワークドライブを処理する方法を指定します

処理オプション:

- ログオン時および更新時にネットワークドライブを処理する
- 再接続時にネットワークドライブを処理する
- 割り当て解除時にデスクトップからネットワークドライブを削除する
- ネットワークドライブの処理を強制する
- ネットワークドライブのフィルター処理を強制する
- **ネットワークドライブを非同期で処理する**。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、ネットワークドライブを非同期で処理します。

ドライブ文字:

- **割り当てに使用しないドライブ文字**。選択したドライブ文字は、ドライブリソースを割り当てる際のドライブ文字の選択から除外されます。

- **割り当てでのドライブ文字の再利用を許可する**。有効にすると、割り当てで使用されているドライブ文字は、同じターゲットに割り当てられている他のドライブでも引き続き使用できます。

仮想ドライブ

この機能を使用すると、仮想ドライブを割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、これらの仮想ドライブはユーザーのデスクトップ内で使用できるようになります。

次の操作を実行できます。

- 仮想ドライブを追加します。
- 仮想ドライブリストを更新します。
- 仮想ドライブを編集します。
- 仮想ドライブを表示します。
- 仮想ドライブの割り当てを管理します。
- 仮想ドライブを複製します。
- 仮想ドライブを削除します。
- エージェントが仮想ドライブを処理する方法を指定します。

仮想ドライブを追加および割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動し、**アクション > 仮想ドライブ**に移動して、**仮想ドライブの追加**をクリックします。仮想ドライブの追加を参照してください。
2. 追加した仮想ドライブを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。仮想ドライブの割り当てを管理するを参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、割り当てをすぐに有効にするを参照してください。

仮想ドライブの追加

仮想ドライブを追加するには、次の手順を実行します。

1. **仮想ドライブ**で、**仮想ドライブの追加**をクリックします。
2. 次の設定を構成します。
    - **名前**。仮想ドライブを識別しやすい名前を指定します。
    - **説明 (オプション)**。仮想ドライブに関する追加情報を指定します。

- **この仮想ドライブを有効にする**。仮想ドライブを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
- **ターゲットパス**。ユーザー環境で解決される仮想ドライブへのパスを指定します。
- **ホームドライブとして設定**。有効にすると、ネットワークドライブがホームドライブとして設定されます。

3. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

仮想ドライブを編集する

仮想ドライブを編集するには、次の手順を実行します。

1. **仮想ドライブ**で、仮想ドライブを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して仮想ドライブをすばやく見つけます。
2. アクションバーで**編集**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、**保存**をクリックします。

仮想ドライブを表示する

WEM仮想ドライブを読み取り専用モードで表示できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤設定のリスクが排除されます。

仮想ドライブを表示するには、次の手順を実行します。

1. 仮想ドライブを選択し、アクションバーで**表示**をクリックします。
2. 名前、説明、および構成を表示します。
3. 完了したら、**閉じる**をクリックします。

仮想ドライブの割り当てを管理する

仮想ドライブの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. 仮想ドライブを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. 仮想ドライブを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。

    - 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
    - 使用するフィルターとドライブ文字を指定するようにターゲットを構成します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。

> **重要:**
>
> **次に利用可能**および**文字が割り当てられていません**オプションは、ネットワークドライブにのみ適用されます。

3. 完了したら、**完了**をクリックします。

仮想ドライブを複製する

> **注:**
>
> 割り当ては複製されません。

仮想ドライブを複製するには、次の手順を実行します。

1. 仮想ドライブを選択し、アクションバーで**複製**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. 仮想ドライブのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. クローン作成プロセスを開始するには、**クローン**をクリックします。

仮想ドライブを削除する

仮想ドライブを削除するには、仮想ドライブを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

> **注:**
>
> 仮想ドライブがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

エージェントが仮想ドライブを処理する方法を指定する

処理オプション:

- ログオン時および更新時に仮想ドライブを処理する
- 再接続時に仮想ドライブを処理する
- 割り当て解除時にデスクトップから仮想ドライブを削除する

- 仮想ドライブのフィルター処理を強制する
- 仮想ドライブのフィルター処理を強制する

ドライブ文字:

- **割り当てに使用しないドライブ文字**。選択したドライブ文字は、ドライブリソースを割り当てる際のドライブ文字の選択から除外されます。
- **割り当てでのドライブ文字の再利用を許可する**。有効にすると、割り当てで使用されているドライブ文字が、同じターゲットに割り当てられている他のドライブでも引き続き使用できるようになります。

レジストリエントリ

この機能を使用すると、レジストリ値を作成、設定、削除し、それらを割り当ててレジストリを作成または変更できます。レジストリエントリにタグを追加し、複数のレジストリエントリを同時に割り当てることができます。

次の操作を実行できます。

- レジストリエントリを追加する
- レジストリエントリリストを更新する
- 1つまたは複数のレジストリエントリを編集する
- 1つまたは複数のレジストリエントリの割り当てを管理する
- レジストリエントリを複製する
- **reg** ファイルでレジストリエントリをインポートする
- レジストリエントリを削除する
- タグを削除する

レジストリエントリを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動します。**Actions** > **Registry entries** に移動し、**Add registry entry** をクリックします。詳細については、「レジストリエントリを追加する」を参照してください。
2. 追加したレジストリエントリを選択し、アクションバーで **Manage assignments** をクリックします。詳細については、「1つまたは複数のレジストリエントリの割り当てを管理する」を参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、「割り当てをすぐに有効にする」を参照してください。

レジストリエントリを追加する

レジストリエントリを追加するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリで、**レジストリエントリの追加**をクリックします。
2. 次の設定を構成します。
    - **アクションの種類**。リソースのアクションの種類を記述します。
    - **名前**。レジストリエントリを識別するのに役立つ名前を指定します。レジストリキー値を作成する際に、**名前**フィールドを空白のままにすると、そのキーのデフォルト値として設定されます。
    - **説明** (オプション)。レジストリエントリに関する追加情報を指定します。
    - **タグ**。レジストリエントリの新しいタグを作成したり、既存のタグを選択したりできます。その後、タグを使用してレジストリエントリを一括で管理できます。
    - **このアクションを有効にする**。レジストリエントリを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーまたはマシンに割り当てられていても、エージェントによって処理されません。
    - **レジストリパス**。レジストリエントリのレジストリパスを指定します。
    - **値の名前**。レジストリに表示されるレジストリ値の名前（例: **NoNtSecurity**）です。
    - **種類**。作成される可能性のあるレジストリエントリの種類です。
    - **データ**。作成されたレジストリエントリの値（例: `0` または `C:\Program Files`）です。
    - **一度実行**。選択すると、WEM はアクションを一度だけ実行します。
3. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

レジストリエントリを編集する

レジストリエントリを編集するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリで、1つまたは複数のレジストリエントリを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用するか、リストにタグを付けてレジストリエントリをすばやく見つけます。
2. アクションバーで**編集**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、**保存**をクリックします。

1つまたは複数のレジストリエントリの割り当てを管理する

1つまたは複数のレジストリエントリの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリを1つまたは複数選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用するか、タグリストを使用してレジストリエントリをすばやく見つけます。

> **注:**
>
> 複数のレジストリエントリの割り当てを管理するには、レジストリエントリのリストを確認し、**次へ**をクリックします。

1. レジストリエントリを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
   - 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
   - 使用するフィルターを指定するようにターゲットを構成します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
2. 完了したら、**完了**をクリックします。

レジストリエントリのクローンを作成する

> **注:**
>
> 割り当てはクローンされません。

> レジストリエントリのクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリを選択し、アクションバーで**クローン**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. レジストリエントリをクローンする構成セットを選択します。
4. クローンプロセスを開始するには、**クローン**をクリックします。

`reg`ファイルでレジストリエントリをインポートする

レジストリファイルを割り当て用のレジストリエントリに変換できます。この機能には、次の制限があります。

- `HKEY_CURRENT_USER`の下のレジストリ値のみをサポートします。レジストリエントリ機能を使用すると、`HKEY_CURRENT_USER`の下のレジストリ設定のみを割り当てることができます。
- `REG_BINARY`および`REG_MULTI_SZ types`のレジストリ値はサポートされていません。

制限を回避するには、**グループポリシー設定**の**グループポリシー設定のインポート**を使用して、レジストリファイルをWEMにインポートすることをお勧めします。詳細については、「グループポリシー設定のインポート」を参照してください。

レジストリエントリをインポートするには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで**インポート**を選択します。
2. ローカルの`reg`ファイルを参照します。
3. レジストリエントリをページに読み込むには、**インポート**をクリックします。
4. 読み込まれたレジストリエントリの**オプション**を選択します。
5. 読み込まれたレジストリエントリの**上書きルール**を選択します。
6. 「**インポート**」をクリックして、インポートプロセスを開始します。

レジストリエントリを削除する

レジストリエントリを削除するには、レジストリエントリを選択し、アクションバーで「**削除**」を選択します。

タグを削除する

レジストリエントリのタグを削除するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリを選択し、アクションバーで「**タグの削除**」を選択します。
2. 「**削除**」をクリックして、削除プロセスを開始します。

環境変数

この機能を使用すると、環境変数を割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、それらの環境変数はユーザー環境で作成または設定されます。

次の操作を実行できます。

- 環境変数を追加する。
- 環境変数リストを更新する。
- 環境変数を編集する。
- 環境変数を表示する。

- 環境変数の割り当てを管理する。
- 環境変数を複製する。
- 環境変数を削除します。
- エージェントが環境変数を処理する方法を指定します。

環境変数を追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動し、**アクション > 環境変数**に移動して、**環境変数の追加**をクリックします。「環境変数の追加」を参照してください。
2. 追加した環境変数を選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。「環境変数の割り当ての管理」を参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、「割り当てをすぐに有効にする」を参照してください。

環境変数の追加

環境変数を追加するには、次の手順を実行します。

1. **環境変数**で、**環境変数の追加**をクリックします。
2. 次の設定を構成します。
    - **名前**。環境変数を識別するための名前を指定します。
    - **説明（オプション）**。環境変数に関する追加情報を指定します。
    - **この環境変数を有効にする**。環境変数を有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
    - **変数名**。環境変数の機能名です。
    - **変数値**。環境変数の値です。
    - **実行順序**。このオプションを使用して、エージェントが変数を処理する順序を決定します。エージェントは、まず実行順序の値が0の変数、次に値が1の変数、次に値が2の変数というように処理します。競合が発生した場合、最後に処理された変数が以前に処理された変数を上書きします。
3. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

環境変数を編集する

環境変数を編集するには、次の手順を実行します。

1. **環境変数**で、環境変数を選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して環境変数をすばやく見つけます。
2. アクションバーで**編集**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、**保存**をクリックします。

環境変数を表示する

WEM環境変数を読み取り専用モードで表示できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤設定のリスクが排除されます。

環境変数を表示するには、次の手順を実行します。

1. 環境変数を選択し、アクションバーで**表示**をクリックします。
2. 名前、説明、および構成を表示します。
3. 完了したら、**閉じる**をクリックします。

環境変数の割り当てを管理する

環境変数の割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. 環境変数を選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. 環境変数を割り当てる割り当てターゲット（ユーザーおよびグループ）を選択します。
    - 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
    - 使用するフィルターを指定するようにターゲットを構成します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
3. 完了したら、**完了**をクリックします。

環境変数を複製する

> **注:**
>
> - 割り当ては複製されません。

環境変数を複製するには、次の手順を実行します。

1. 環境変数を選択し、アクションバーで**複製**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. 環境変数を複製する構成セットを選択します。
4. **複製**をクリックして、複製プロセスを開始します。

環境変数を削除する

環境変数を削除するには、環境変数を選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

> **注:**
>
> - 環境変数がすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

エージェントが環境変数を処理する方法を指定する

処理オプション:

- ログオン時および更新時に環境変数を処理する
- 再接続時に環境変数を処理する
- 割り当て解除時にデスクトップから環境変数を削除する
- 環境変数のフィルター処理を強制する
- 環境変数のフィルター処理を強制する

詳細情報

割り当てをすぐに有効にする

通常、割り当ては、詳細設定で**SQL設定の更新遅延**に指定した期間の後に有効になります。割り当てをすぐに有効にするには、次の手順を実行します。

1. **Webコンソール > 監視 > 管理 > エージェント > 統計**に移動し、エージェントを選択します。
2. アクションバーで**その他**をクリックし、**エージェント > エージェントホスト設定の更新**を選択します。

> **重要:**

- エージェントがアクションを処理するには、次の設定が有効になっていることを確認します。
  - ログオン時にエージェントを起動する（ログオン時のアクション処理用）
  - 再接続時にエージェントを起動する（再接続時のアクション処理用）
  - デスクトップ互換モードを有効にする
- これらの設定は、**レガシーコンソール > 詳細設定 > 構成 > メイン構成 > エージェントサービスアクション**で確認できます。

グループポリシー設定のバックアップ

グループポリシー設定をバックアップするには、ドメインコントローラーで次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. **グループポリシー管理**ウィンドウで、バックアップするGPOを右クリックし、**バックアップ**を選択します。
3. **グループポリシーオブジェクトのバックアップ**ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。必要に応じて、バックアップに説明を追加できます。
4. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始し、**OK**をクリックします。
5. バックアップフォルダーに移動し、それをzipファイルに圧縮します。

注:

WEMは、複数のGPOバックアップフォルダーを含むzipファイルのインポートをサポートしています。

WEM GPOを使用したFSLogixプロファイルコンテナの構成

グループポリシー管理用テンプレートを使用してWindowsの設定を構成する方法の例については、WEM GPOを使用したFSLogixプロファイルコンテナの構成を参照してください。

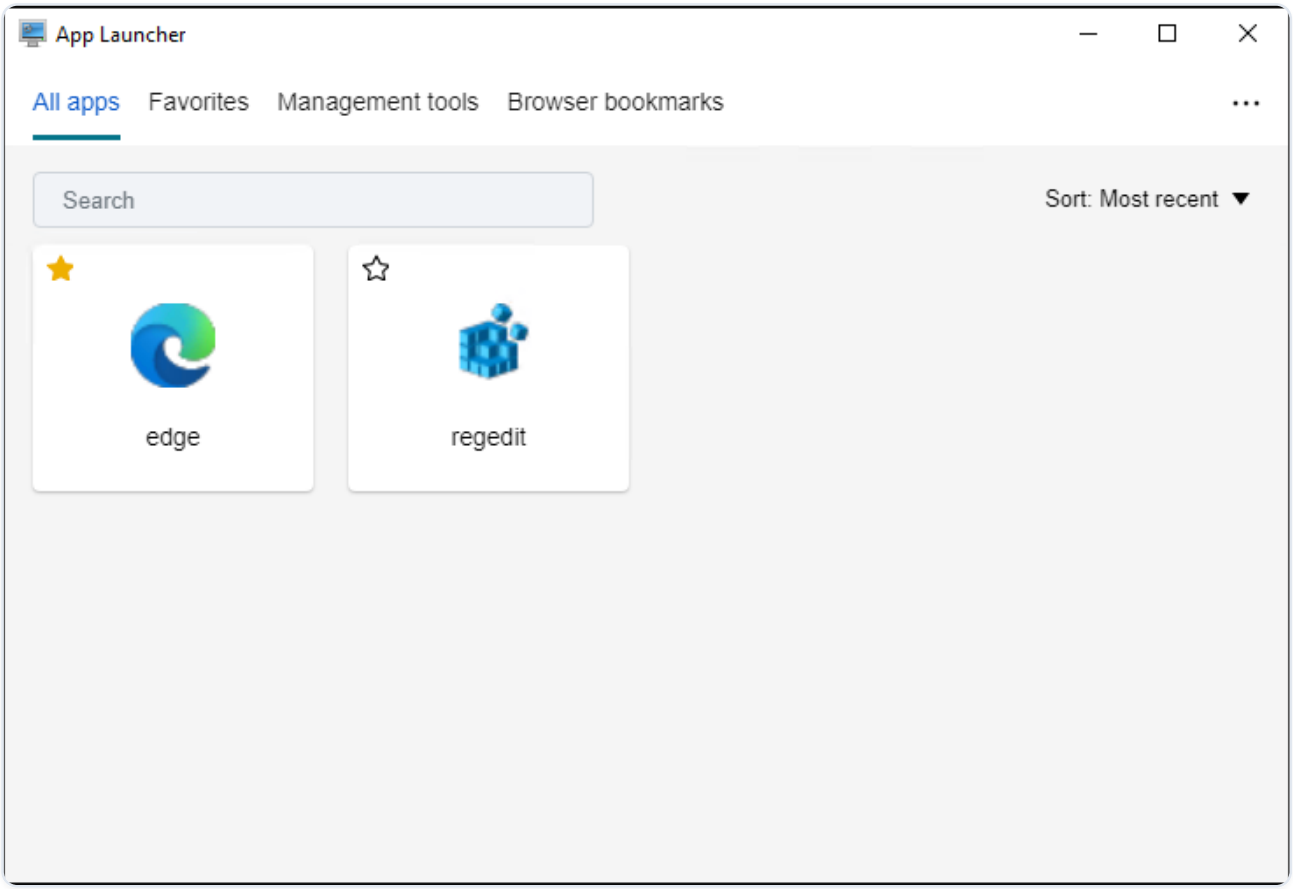
アプリケーションランチャー

アプリケーションランチャーは、管理コンソールを通じてユーザーに割り当てたすべてのアプリケーションを集約します。このツールを使用すると、ユーザーは割り当てられたすべてのアプリケーションを1か所から起動できます。

> **ヒント:**
>
> このツールをCitrix仮想アプリとして公開することをお勧めします。
>
> この機能には、次の利点があります。

- 割り当てられたアプリケーションはより速く起動できます。
- ユーザーは、自分に割り当てられたすべてのアプリケーションを1か所で起動できます。
- ユーザーはブックマークしたウェブサイトにすばやくアクセスできます。Profile Management を使用すると、ブラウザのブックマークをローミングできます。

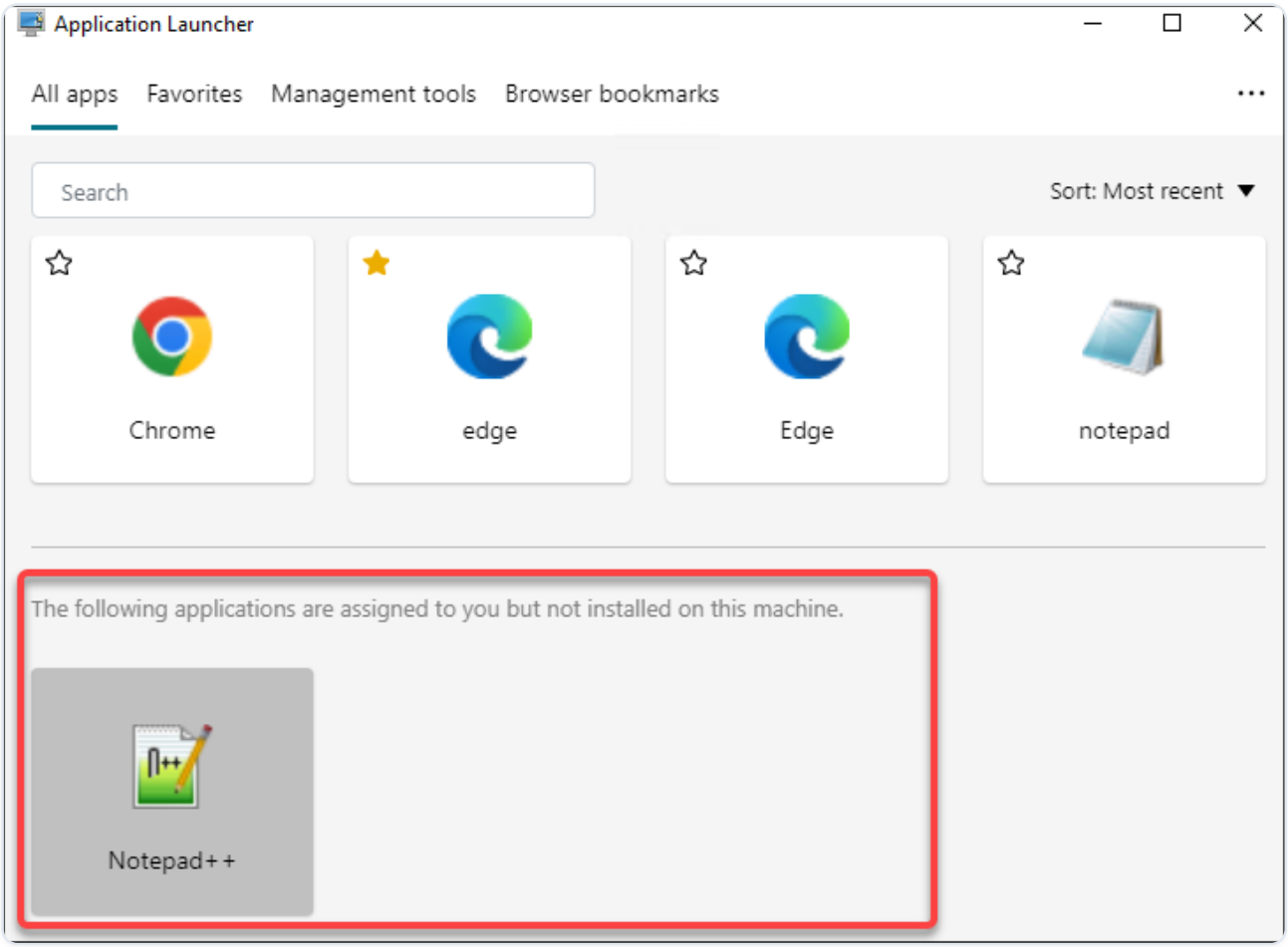
ユーザーは、アプリケーションランチャーツール (AppLauncherUtil.exe) を自分の環境で直接開くことができます。このツールはエージェントのインストールフォルダにあります: `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\AppLauncherUtil.exe`。ツールを開くと、ユーザーには割り当てられたアプリケーションが反映された次の画面が表示されます。



- **すべてのアプリ**。割り当てられているすべてのアプリケーションを表示します。利用可能な並べ替えオプション: **最新**、**A-Z**、**Z-A**。

- **お気に入り**。お気に入りとしてマークされたアプリケーションを表示します。
- **管理ツール**。次の2つのツールを表示します。
  - **Taskmgr**。タスクマネージャーを開きます。
  - **VUEMUIAgent**。WEM UI エージェントを起動します。
- **ブラウザのブックマーク**。ブラウザのブックマークに保存されているウェブサイトを表示します。ブックマークをクリックすると、ユーザーはブラウザをすばやく開いて目的のウェブサイトにアクセスできます。ブックマークはブラウザごとにグループ化できます。この機能はGoogle ChromeとMicrosoft Edgeのみをサポートしています。利用可能な並べ替えオプション: **最新**、**A-Z**、**Z-A**。
- **省略記号アイコン**。ユーザーがセッションからサインアウトできる**サインアウト**オプションがあります。

割り当てられたアプリケーションがエージェントマシンに存在することを確認してください。割り当てられたアプリケーションがエージェントマシンにインストールされていない場合、そのアプリケーションは表示されますが、起動できません。



この機能の使用例については、「割り当てられたアプリケーションを1か所に集約する」を参照してください。

外部タスクの例

スクリプトの場合（例：PowerShellスクリプト）：

- フォルダーパスもスクリプト名も空白を含まない場合：
  - **パス**フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
  - **引数**フィールドに、次のように入力します: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

  別の方法として、**パス**フィールドにスクリプトファイルへのパスを直接入力することもできます。例: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。**引数**フィールドには、必要に応じて引数を指定します。ただし、スクリプトファイルが実行されるか、別のプログラムで開かれるかは、ユーザー環境で構成されているファイルの種類に関連付けによって異なります。ファイルの種類に関連付けの詳細については、「ファイル関連付け」を参照してください。
- フォルダーパスまたはスクリプト名に空白が含まれる場合：
  - **パス**フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
  - **引数**フィールドに、次のように入力します: `-file C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

アプリケーションの場合（例：iexplore.exe）：

- **パス**フィールドに、次のように入力します: `C:\Program Files\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。
- **引数**フィールドに、開くWebサイトのURLを入力します: `https://docs.citrix.com/`。

ファイルシステム操作

フォルダーとファイルをユーザー環境にコピーすることを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用すると、Workspace Environment Managementアクションを拡張して、より強力にすることができます。

ファイルシステム操作リスト

既存のファイルおよびフォルダー操作のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ファイルシステム操作を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいファイルシステム操作**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。リストに表示されるファイルまたはフォルダー操作の表示名です。

説明。リソースに関する追加情報を指定できます。このフィールドは、編集または作成ウィザードにのみ表示されます。

ファイルシステム操作の状態。ファイルシステム操作が有効か無効かを制御します。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ソースパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーへのパスです。

ターゲットパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーの宛先パスです。

既存の場合にターゲットを上書き。ファイルまたはフォルダー操作が、ターゲットの場所に同じ名前の既存のファイルまたはフォルダーを上書きするかどうかを制御します。クリアされている場合、ターゲットの場所に同じ名前のファイルまたはフォルダーが既に存在すると、影響を受けるファイルはコピーされません。

1回実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management はエージェントが更新されるたびにファイルシステム操作を実行します。このオプションを選択すると、Workspace Environment Management は操作を更新ごとにではなく、1回だけ実行します。これにより、特に多くのファイルシステム操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このファイルまたはフォルダーアクションがどのような種類のアクションであるかを記述します: **コピー**、**削除**、**移動**、**名前の変更**、または**シンボリックリンク**操作。シンボリックリンクを作成するには、Windows でシンボリックリンクの作成を許可するために、ユーザーに`SeCreateSymbolicLinkPrivilege`権限を付与する必要があります。

実行順序。操作の実行順序を決定し、特定の操作を他の操作の前に実行できるようにします。実行順序の値が0の操作が最初に実行され、次に値が1の操作、次に値が2の操作、というように続きます。

ファイルの種類のアソシエーション

> **重要:**

> 構成したファイルの種類のアソシエーション (FTA) は、自動的に既定のアソシエーションになります。ただし、該当するファイルを開くと、「このファイルを開く方法を選んでください」というウィンドウが表示され、ファイルを開くアプリケーションを選択するよう求められる場合があります。ウィンドウを閉じるには、**OK** をクリックします。同様のウィンドウを再度表示しないようにするには、次の手順を実行します: グループポリシーエディターを開き、**「新しいアプリケーションがインストールされました」通知を表示しない**ポリシー (**コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windows コンポーネント > エクスプローラー**) を有効にします。

> ユーザー環境でのFTAの作成を制御します。

> **ヒント:**

> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

> この機能を使用すると、FTAを割り当て可能なアクションとして追加できます。

次の操作を実行できます。

- FTAを追加する
- FTAを更新する
- FTAを編集する
- FTAを表示する
- 割り当てを管理する
- FTAを複製する
- FTAを削除する

FTAを追加する

1. コンテキストメニューの**関連付けの追加**コマンドを使用します。
2. 「**ファイルの種類関連付けの追加**」ダイアログボックスに詳細を入力します。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

名前。ファイル関連付けリストに表示される、ファイル関連付けの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ファイル関連付けの状態。ファイル関連付けが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ファイル拡張子。このファイルの種類関連付けに使用される拡張子です。リストからファイル名拡張子を選択すると、**ProgID**フィールドが自動的に入力されます（管理コンソールが実行されているマシンにファイルの種類が存在する場合）。拡張子を直接入力することもできます。ただし、ブラウザ関連付けの場合は、拡張子を直接入力する*必要があります*。詳細については、「ブラウザ関連付け」を参照してください。

ProgID。アプリケーション（COM）に関連付けられたプログラム識別子です。リストからファイル拡張子を選択すると、この値が自動的に入力されます。ProgIDを直接入力することもできます。インストールされているアプリケーションのProgIDを検出するには、OLE/COM Object Viewer (oleview.exe) を使用し、「Object Classes/Ole 1.0 Objects」を確認します。ProgIDの詳細については、「プログラム識別子 (ProgID)」を参照してください。

アクション。アクションの種類（開く、編集、印刷）を選択できます。

ターゲットアプリケーション。このファイル名拡張子で使用される実行可能ファイルを指定できます。実行可能ファイルのフルパスを入力します。例：UltraEdit Text Editorの場合: `C:\Program Files\IDM Computer Solutions\UltraEdit\uedit64.exe`

コマンド。実行可能ファイルに関連付けたいアクションの種類を指定できます。例：

- 開くアクションの場合は、`“%1”`と入力します。
- 印刷アクションの場合は、`/p"%1"`と入力します。

デフォルトアクションとして設定。そのファイル名拡張子のデフォルトとして関連付けを設定するかどうかを切り替えます。

上書き。このファイル関連付けが、指定された拡張子の既存の関連付けを上書きするかどうかを切り替えます。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management (WEM) はエージェントが更新されるたびにファイル関連付けを作成します。このオプションを選択すると、更新ごとにではなく、一度だけファイル関連付けが作成されます。これにより、特に多くのファイル関連付けがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

> **ヒント:**

ファイルの種類関連付けアシスタントのデータを使用して、管理コンソールで割り当て可能なアクションとして追加できます。

詳細については、「知っておくと良いこと」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/actions/file-associations.html#good-to-know)を参照してください。

ファイルの種類関連付けを編集する

ファイルの種類関連付けを編集するには、次の手順を実行します。

1. **ファイルの種類関連付け**で、必要な関連付けを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して、必要なファイルの種類関連付けをすばやく見つけます。
2. アクションバーで をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、 をクリックします。

ファイルの種類関連付けを表示する

WEMファイルの種類関連付けを読み取り専用モードで表示できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤った構成のリスクが排除されます。

ファイルの種類関連付けを表示するには、次の手順を実行します。

1. ファイルの種類関連付けを選択し、アクションバーで をクリックします。
2. 名前、説明、および構成を表示します。
3. 完了したら、 をクリックします。

割り当てを管理する

ファイルタイプ関連付けの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. ファイルタイプ関連付けを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. 関連付けを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。

- 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、割り当てターゲットの追加を参照してください。
- フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化します。必要に応じて、各ターゲットに必要な関連付けの優先度を設定します。
- 割り当てに関連付けられている3つの省略記号をクリックして、構成をコピーします。

- 割り当てに関連付けられているそれぞれのオプションを選択することで、コピーした構成をすべてのターゲットに適用することもできます。

ファイルタイプ関連付けのクローン作成

ファイルタイプ関連付けをクローンするには、次の手順を実行します。

1. ファイルタイプ関連付けを選択し、アクションバーで**クローン**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. ファイルタイプ関連付けをクローンする構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックして、クローンプロセスを開始します。

ファイルタイプ関連付けの削除

ファイルタイプ関連付けを削除するには、それを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

エージェントがファイルの種類のアソシエーションを処理する方法を指定します

処理オプション:

- ログオン時および更新時にファイルの種類のアソシエーションを処理する
- 再接続時にFTAを処理する
- FTAのフィルター処理を強制する
- 割り当て解除時にデスクトップからFTAを削除する

JSONファイル

この機能を使用すると、JSONオブジェクトを追加し、それらを割り当ててJSONファイルを作成または変更できます。この機能を使用すると、JSON構成ファイルを持つアプリケーション（Microsoft Teamsなど）にパーソナライズされた設定を適用できます。

次の操作を実行できます。

- JSONオブジェクトを追加します。
- JSONオブジェクトリストを更新します。
- JSONオブジェクトを編集します。
- JSONオブジェクトを表示します。
- JSONオブジェクトの割り当てを管理します。
- JSONオブジェクトを複製します。
- JSONオブジェクトを削除します。

- JSONオブジェクトを処理するかどうかを制御します。

JSONオブジェクトを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動し、**アクション > JSONオブジェクト**に移動して、**JSONオブジェクトの追加**をクリックします。「JSONオブジェクトの追加」を参照してください。
2. 追加したJSONオブジェクトを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。「JSONオブジェクトの割り当てを管理する」を参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、「割り当てをすぐに有効にする」を参照してください。

JSONオブジェクトを追加する

JSONオブジェクトを追加するには、次の手順を実行します。

1. **JSONオブジェクト**で、**JSONオブジェクトの追加**をクリックし、**標準**を選択します。
2. 次の設定を構成します。

   - **名前**。JSONオブジェクトを識別するのに役立つ名前を指定します。
   - **説明（オプション）**。JSONオブジェクトに関する追加情報を指定します。
   - **このアクションを有効にする**。JSONオブジェクトを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーまたはマシンに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
   - **ファイルパスとコンテンツ**。オブジェクトが変更するJSONファイルへのパスを指定します。指定されたコンテンツは、ターゲットファイル内の既存のコンテンツとマージされます。コンテンツがどのようにマージされるかを理解するには、「JSONコンテンツマージの例」を参照してください。

   パスとコンテンツを手動で入力したくない場合は、**テンプレートで生成**をクリックします。**テンプレートで生成**機能を使用すると、特定のアプリケーションを構成するためのテンプレートを使用してJSONコンテンツを生成できます。現在、この機能はMicrosoft Teamsにのみ適用されます。

   - **ファイルが存在しない場合は作成する**。これは、オブジェクトが期待どおりに機能することを保証するフェイルセーフオプションです。たとえば、Microsoft Teams の場合、「desktop-config.json」ファイルは Microsoft Teams が初めて起動されるまで存在しません。

- **元のファイルをバックアップする**。選択すると、エージェントはターゲットファイルのバックアップを同じ場所に自動的に保存します。バックアップは元のファイルの名前を継承し、「-WEMCopy」というサフィックスが付きます。
- **処理モード**
  - **ユーザーレベルの処理**。ユーザーがログオンしたとき、またはエージェントが更新したときにアクションを処理します。
  - **マシンレベルの処理**。マシンが起動したとき、またはエージェントがその SQL 接続設定を更新したときにアクションを処理します。
- **1回実行**。選択すると、WEM はアクションを1回だけ実行します。

3. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

JSON コンテンツのマージ例

次の例は、指定されたコンテンツがターゲット JSON ファイル内の既存のコンテンツとどのようにマージされるかを示しています。

ターゲットファイル内のコンテンツの例:

```
{

    "value": "value1",

    "array": ["test1", "test2"],

    "object": {"key1": "value1", "key2":  "value2"}

}
```

指定されたコンテンツの例:

```
{

    "value": "value2",

    "array": ["test2", "test3"],

    "object": { "key1": "changed", "key3": "value3", "key4": "value4" },

    "new": 1
```

```
}
```

マージ結果の例:

```
{

    "value": "value2",

    "array": ["test1", "test2", "test3"],

    "object": {"key1": "changed", "key2": "value2", "key3": "value3",
"key4": "value4" },

     "new": 1

}
```

Windows 11 のスタートメニューレイアウトに JSON オブジェクトを追加する

Windows 11 のスタートメニューレイアウトに JSON オブジェクトを追加するには、次の手順を実行します。

1. **新しい JSON オブジェクトの追加**をクリックします。
2. 「**Windows 11 のスタートメニュー構成**」を選択します。
3. 「**JSON オブジェクトの追加**」ページに構成を貼り付けます。
4. 「**完了**」をクリックします。

詳細については、「Windows 11 のスタートメニューレイアウトをカスタマイズする」を参照してください。

JSON オブジェクトを編集する

JSON オブジェクトを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「**JSON オブジェクト**」で、JSON オブジェクトを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して JSON オブジェクトをすばやく見つけます。
2. アクションバーで「**編集**」をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、「**保存**」をクリックします。

JSON オブジェクトを表示する

WEM JSON オブジェクトを読み取り専用モードで表示できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤設定のリスクが排除されます。

JSON オブジェクトを表示するには、次の手順を実行します。

1. JSON オブジェクトを選択し、アクションバーで「**表示**」をクリックします。
2. 名前、説明、および構成を表示します。
3. 完了したら、「**閉じる**」をクリックします。

JSONオブジェクトの割り当てを管理する

JSONオブジェクトの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. JSONオブジェクトを選択し、アクションバーで を選択します。
2. JSONオブジェクトを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
   - 新しいターゲットを追加するには、 をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
   - 使用するフィルターを指定するようにターゲットを構成します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
3. 完了したら、 をクリックします。

JSONオブジェクトをクローンする

> **注:**
>
> - 割り当てはクローンされません。

JSONオブジェクトをクローンするには、次の手順を実行します。

1. JSONオブジェクトを選択し、アクションバーで を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. JSONオブジェクトのクローン先となる構成セットを選択します。
4. をクリックして、クローンプロセスを開始します。

JSONオブジェクトを削除する

JSONオブジェクトを削除するには、それを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

> **注:**
>
> - JSONオブジェクトがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

INIファイル

.iniファイル操作の作成を制御し、**.ini**ファイルを変更できるようにします。

Iniファイル操作リスト

既存の**.ini**ファイル操作のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

INIファイル操作の追加

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **INIファイル操作の追加**ページで詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。**Iniファイル操作**リストに表示される.iniファイル操作の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

.iniファイル操作の状態。.iniファイル操作が有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決される、変更される.iniファイルの場所を指定します。

> **注:**
>
> ドメインに参加していないエージェントを使用している場合、**ターゲットパス**がネットワーク共有であるとWEMが機能しない可能性があります。

> **ターゲットセクション**。この操作のターゲットとなる.iniファイルのセクションを指定します。存在しないセクションを指定した場合、そのセクションが作成されます。

ターゲット値名。追加される値の名前を指定します。

ターゲット値。値そのものを指定します。

1回実行。デフォルトでは、Workspace Environment Managementはエージェントが更新されるたびに.iniファイル操作を実行します。このチェックボックスを選択すると、Workspace Environment Managementは更新ごとにではなく、1回だけ操作を実行するようになります。この操作は、特に多くの.iniファイル操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスを高速化します。

アクションタイプ。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

INIファイル操作を編集する

編集するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで**編集**をクリックします。
2. 必要に応じて変更を加えます。
3. 完了したら、**保存**をクリックします。

INIファイルを表示する

WEM INIファイルを読み取り専用モードで表示できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤設定のリスクが排除されます。

INIファイルを表示するには、次の手順を実行します。

1. INIファイルを選択し、アクションバーで**表示**をクリックします。
2. 名前、説明、および構成を表示できます。
3. 完了したら、**閉じる**をクリックします。

割り当ての管理

割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. INIファイルを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. このINIファイルを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
3. フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化します。
4. 各ターゲットに対して、選択したINIファイルの優先度を設定します。
5. 完了したら、**保存**をクリックします。

INIファイル操作のクローン

クローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. INIファイルを選択し、アクションバーで**クローン**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. クローンを作成する必要がある構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックして、クローンプロセスを開始します。

INIファイルの削除

INIファイルを削除するには、ファイルを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

ポート

割り当て可能なアクションとしてポートマッピングを追加できます。ポート機能により、クライアントCOMポートマッピングが可能になります。Citrix Studioポリシーを使用して、COMポートの自動接続を有効にすることもできます。 ポート機能を使用して各ポートのマッピングを手動で制御する場合は、Citrix StudioでクライアントCOMポートリダイレクトポリシーを有効にすることを忘れないでください。デフォルトでは、COMポートリダイレクトは禁止されています。

ポートリスト

既存のポートのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ポートの追加

1. コンテキストメニューから**ポートマッピングの追加**を選択します。
2. **ポートマッピングの追加**ダイアログタブで詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ポートリストに表示されるポートの表示名です。

説明。編集/作成ウィザードにのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ポートの状態。ポートが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ポート名。ポートの機能名です。

ポートターゲット。ターゲットポートです。

オプションタブ

アクションの種類。このリソースが実行するアクションの種類を説明します。

たとえば、ポート設定は次のように構成できます。

- **ポート名**: 「COM3:」を選択します
- **ポートターゲット**: `\\Client\COM3:` と入力します:

ポートを表示する

WEMポートは読み取り専用モードで表示できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤設定のリスクが排除されます。

ポートを表示するには、次の手順を実行します。

1. ポートを選択し、アクションバーで をクリックします。
2. 名前、説明、および構成を表示します。
3. 完了したら、 をクリックします。

ポートマッピングを編集する

ポートマッピングを編集するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで をクリックします。
2. 必要に応じて変更を加えます。
3. 完了したら、 をクリックします。

割り当ての管理

割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. ポートマッピングを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. このポートを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
3. フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化します。
4. 各ターゲットに対して、選択したポートマッピングの優先度を設定します。
5. 完了したら、**保存**をクリックします。

ポートマッピングのクローン

クローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. ポートを選択し、アクションバーで**クローン**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. クローンを作成する必要がある構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックして、クローン作成プロセスを開始します。

ポートマッピングの削除

ポートマッピングを削除するには、それを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

ユーザーDSN

ユーザーDSNの作成を制御します。

ユーザーDSNリスト

既存のユーザーDSNのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ユーザーDSNの追加

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **ユーザーDSNの追加**ダイアログタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ユーザーDSNリストに表示される、ユーザーDSNの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ユーザーDSNの状態。ユーザーDSNが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

データソース名。ユーザーDSNの機能名です。

ドライバー。DSNドライバーです。現在、SQL Server DSNのみがサポートされています。

サーバー名。ユーザーDSNが接続するSQLサーバーの名前です。

データベース名。ユーザーDSNが接続するSQLデータベースの名前です。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management はエージェントが更新されるたびにユーザー DSN を作成します。このボックスをオンにすると、Workspace Environment Management はユーザー DSN を更新ごとにではなく、一度だけ作成するようになります。これにより、特に多くの DSN がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

ユーザー DSN の表示

WEM ユーザー DSN を読み取り専用モードで表示できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤設定のリスクが排除されます。

ユーザー DSN を表示するには、次の手順を実行します。

1. ユーザー DSN を選択し、アクションバーで をクリックします。
2. 名前、説明、および構成を表示できます。
3. 完了したら、 をクリックします。

ユーザー DSN の編集

ユーザー DSN を編集するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで をクリックします。
2. 必要に応じて変更を加えます。
3. 完了したら、 をクリックします。

ユーザー DSN の割り当ての管理

ユーザー DSN の割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. ユーザーDSNを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. ユーザーDSNを割り当てる割り当てターゲット（ユーザー、グループ、OU）を選択します。
3. フィルターを使用して割り当てを状況に応じて調整します。
4. 各ターゲットに対して、選択したユーザーDSNの優先度を設定します。
5. 完了したら、**保存**をクリックします。

ユーザーDSNをクローンする

ユーザーDSNをクローンするには、次の手順を実行します。

1. ユーザーDSNを選択し、アクションバーで**クローン**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. クローンする必要がある構成セットを選択します。
4. クローンプロセスを開始するには、**クローン**をクリックします。

ユーザーDSNを削除する

ユーザーDSNを削除するには、それを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

セキュリティ

アプリケーションセキュリティ

アプリケーションセキュリティ機能を使用すると、ユーザーが実行できるアプリケーションとファイルを制御するルールを定義できます。Webコンソールでアプリケーションセキュリティルールを設定し、ルール設定に必要な情報を取得するツールを提供できます。また、この機能を使用して、セキュリティルールを含む割り当てグループを作成することもできます。「**アプリケーションルールを処理**」と「**DLLルールを処理**」が有効になっている場合、「**上書き**」モードがデフォルトでオンになります。「**上書き**」モードでは、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。このモードは、シングルセッションマシンにのみ適用することをお勧めします。この機能では、次のルールも作成できます。

- 実行可能ルール
- Windowsインストーラールール
- スクリプトルール
- パッケージアプリルール
- DLLルール

> **注:**

> ルールを作成する前に、重要なシステムファイルが実行されるように、まずデフォルトルールを追加することをお勧めします。

Windowsインストーラールールの作成

これには、「**基本情報**」と「**例外**」の2つのメニュー項目が含まれます。Windowsインストーラールールを作成するには、「**基本情報**」と「**例外**」で次の手順を実行します。

- 「*ルールの作成*」を選択すると、「**Windowsインストーラールールの作成**」ページに移動します。
- 名前とオプションの説明を入力します。
- 目的の「**アクション**」を選択します。
- ドロップダウンリストから、「**パス**」、「**発行元**」、「**ファイルハッシュ**」などの「**基準タイプ**」を選択します。

- 「**ファイル情報ビューアーを開く**」を選択すると、Citrix Environment Tool Hubに移動します。Citrix Environment Tool Hub** を使用して、必要な情報をすばやく取得します。詳細については、「ファイル情報ビューアー」を参照してください。
- 必要に応じて、プライマリ基準に基づいて通常ルールに含まれるファイルを含める例外を追加できます。このタスクを実行するには、「**例外の追加**」を選択します。
- Citrix Environment Tool Hub に移動して、**ファイル情報ビューア**の下にある指定された条件のいずれかからデータをコピーし、**ファイル情報ビューアから貼り付け**をクリックします。
- 「**完了**」をクリックします。
- **割り当ての管理**ページで必要に応じて割り当てを更新するには、**割り当てに進む**を選択します。
- この項目を割り当てる**割り当てターゲット**（ユーザーとグループ）を選択します。フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化します。指定したフィルターは**上書き**モードでのみ有効であり、エージェントバージョン2406以降でのみサポートされます。
- 特定のルールをすべてのファイルに適用する必要がある場合は、アスタリスクを入力します。

WEM WebコンソールでAppLockerルールをインポートする

AppLocker XMLファイルからエクスポートされたアプリケーションセキュリティルールをWEM Webコンソールに直接インポートできます。これにより、既存のAppLocker構成から複数のルールを迅速に取り込み、セットアップを効率化し、環境全体の一貫性を向上させることができます。ルールをインポートすると、その割り当ても含まれます。

AppLockerルールをインポートするには、**管理コンソール > セキュリティ > アプリケーションセキュリティ**タブに移動し、**AppLockerルールのインポート**を選択します。

AppLockerルールのインポートページには、2つのインポートモードオプションがあります。

- **スキップ**: 環境に存在する同じGUIDを持つルールは作成または更新されません。XMLファイルのルールを使用する代わりに、既存のルールが保持されます。
- **上書き**: 一致するGUIDを持つ既存のルールは、XMLファイルのルールを使用して更新されます。

> **注:**
>
> - AppLockerルールXMLファイルのサイズは10 MBを超えてはなりません。
> - ファイルは有効なXML形式である必要があります。

- 割り当て先が見つからない場合、またはルールをインポートできない場合、ボードにエラーメッセージが表示されます。
- ルールが無効な場合、ルールの作成は失敗します。

特権の昇格

この機能は、特定のプログラムを管理者権限で実行するためのルールを定義します。管理者以外のユーザーの権限を、一部の実行可能ファイルに必要な管理者レベルに昇格させることができます。その結果、ユーザーは管理者グループのメンバーであるかのように、それらの実行可能ファイルを開始できます。

権限昇格オプション

- プロセス権限昇格ルール: 選択すると、エージェントが権限昇格設定を処理できるようになり、タブの他のオプションが利用可能になります。
- **Windows Serverオペレーティングシステムに適用**: 権限昇格設定をWindows Serverオペレーティングシステムに適用するかどうかを制御します。選択すると、ユーザーに割り当てられたルールはWindows Serverマシンで機能します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。
- **RunAsInvokerを強制**: すべての実行可能ファイルを現在のWindowsアカウントで実行するように強制するかどうかを制御します。選択すると、ユーザーは実行可能ファイルを管理者として実行するように求められません。
- **ネットワークロケーションのアプリに適用**: 権限昇格がネットワークロケーションから起動されたアプリケーションに適用されるかどうかを制御します。選択すると、権限昇格ルールは、ローカルドライブ上のアプリケーションに加えて、UNCパス（ネットワーク共有）またはマップされたドライブでホストされているアプリケーションも処理します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。

このペインには、構成したルールの完全なリストも表示されます。特定のルールタイプにルールリストをフィルタリングするには、**実行可能ルール**、**Windowsインストーラールール**、または**自己昇格**をクリックします。リストをフィルタリングするには、検索を使用できます。割り当て済み列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

サポートされているルール

権限昇格は、実行可能ルールとWindowsインストーラールールの2種類のルールを使用して構成できます。

- **実行可能ルール**: アプリケーションに関連付けられた.exeおよび.com拡張子を持つファイルを含むルール。
- **Windowsインストーラールール**: アプリケーションに関連付けられた`.msi`および`.msp`拡張子を持つインストーラーファイルを含むルール。Windowsインストーラールールを追加する際は、次のシナリオを考慮してください。
  - 権限昇格はMicrosoftのmsiexec.exeにのみ適用されます。`.msi`および`.msp`のWindowsインストーラーファイルを展開するために使用するツールがmsiexec.exeであることを確認してください。
  - あるプロセスが指定されたWindowsインストーラールールに一致し、その親プロセスが指定された実行可能ルールに一致するとします。指定された実行可能ルールで**子プロセスに適用**設定が有効になっていない限り、そのプロセスは昇格された権限を取得できません。
- **自己昇格**: 有効にすると、ファイルを右クリックしたときにコンテキストメニューに**管理者権限で実行**オプションが表示されます。このオプションを選択すると、昇格の理由を提供するように求められます。その後、指定した基準に基づいて昇格が許可されるか拒否されます。ルールを構成するには、**Citrix Environment Tool Hub** > **ファイル情報ビューア**を使用して、パス、発行元、ハッシュ値などの必要な情報をすばやく取得できます。期間、曜日、およびルールが有効なマシンを決定するための基準をオプションで設定することもできます。構成セットで**自己昇格**トグルが初めて有効にされると、自己昇格ルールが作成され、割り当てターゲットの割り当てを管理する際にルールリストで見つけることができます。ルールは作成後に削除されることはありません。

重要:

フォルダーベースのパス条件で権限昇格ルールを構成する場合、*管理者以外のユーザー*が指定されたパスへの**書き込み**アクセス権を持たないようにしてください。**書き込み**アクセスを許可すると、標準ユーザーがそれらの場所にファイルを配置し、昇格された権限を取得する可能性があります。

フォルダーベースのパス条件をすでに構成していて、標準ユーザーが**書き込み**アクセス権を持っている場合は、フォルダーのアクセス許可を更新して管理者のみに**書き込み**アクセスを制限するか、ルールの代わりに**ハッシュ**または**発行元**条件を使用するように変更します。

ルールの有効期間を指定できます。また、オプションで、ルールが適用されるマシンを決定するための基準を設定できます。次の基準のすべてまたは一部に一致するように選択できます。

- マシンカタログ名
- デリバリーグループ名
- デバイス名
- IPアドレス
- OSプラットフォームの種類
- OSバージョン
- 永続的なマシンステータス

実行可能ルール、**Windowsインストーラールール**、または**自己昇格**ルールを選択すると、**アクション**セクションに次の利用可能なアクションが表示されます。

- **編集**。既存の実行可能ルールを編集できます。
- **削除**。既存の実行可能ルールを削除できます。
- **ルールの作成**。実行可能ルールを作成できます。実行可能ルールを作成するには、ウィザードの指示に従ってください。

プロセス階層制御

プロセス階層制御機能は、親子シナリオで特定の子プロセスが親プロセスから開始できるかどうかを制御します。親プロセスを定義し、その子プロセスに対して許可リストまたはブロックリストを指定することでルールを作成します。この機能を使用する前に、このセクション全体を確認してください。

注:

- この機能はCitrix Virtual Appsにのみ適用されます。

ルールがどのように機能するかを理解するために、次の点に留意してください。

- プロセスは1つのルールのみに従います。同じプロセスに対して複数のルールを定義した場合、最も優先度の高いルールのみが適用されます。

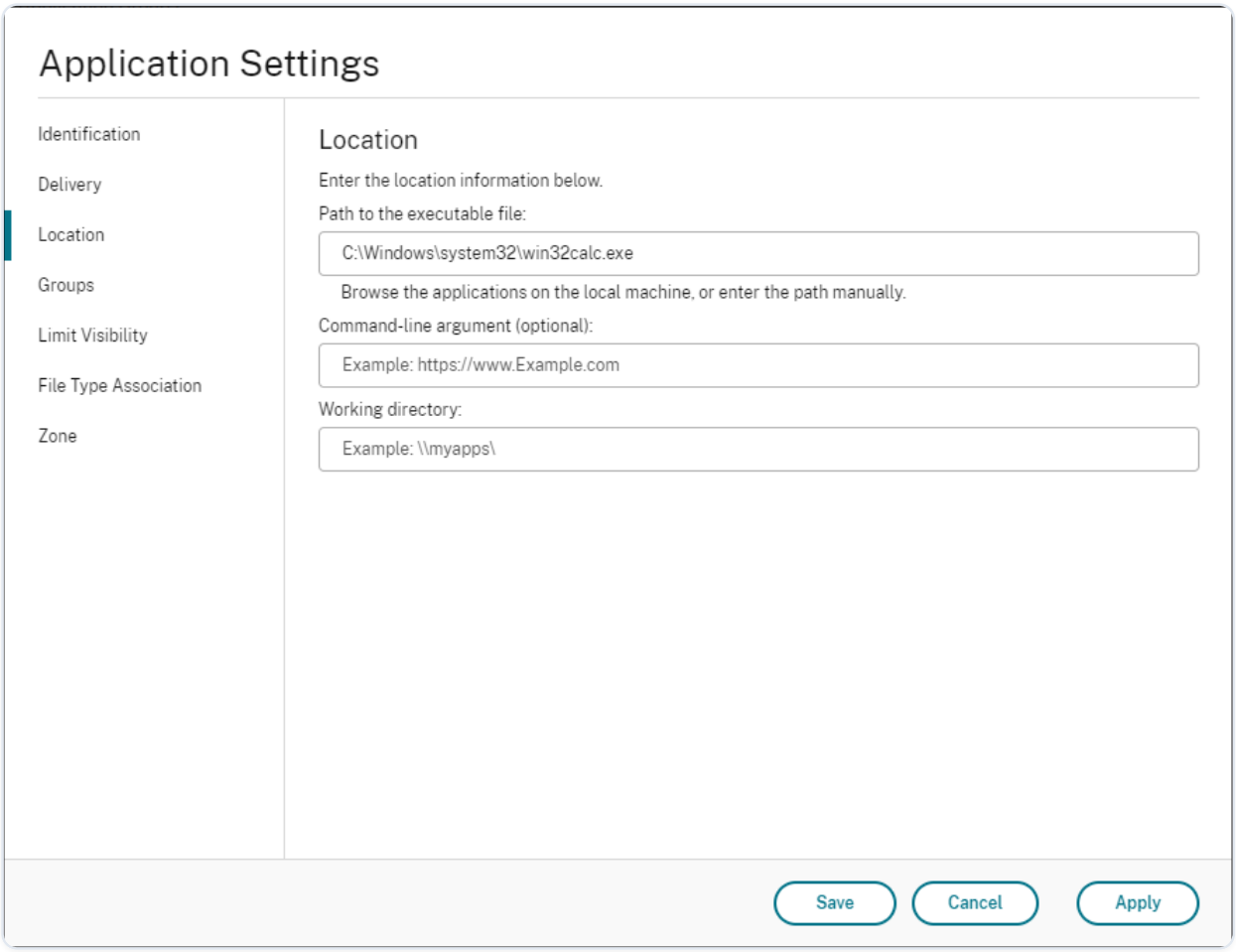
- 定義したルールは、元の親子階層に限定されるだけでなく、その階層の各レベルにも適用されます。親プロセスに適用されるルールは、ルールの優先度に関係なく、子プロセスに適用されるルールよりも優先されます。たとえば、次の2つのルールを定義します。
  - ルール1：WordはCMDを開くことができません。
  - ルール2：メモ帳はCMDを開くことができます。

  この2つのルールがある場合、ルールの優先度に関係なく、まずWordを開き、次にWordからメモ帳を開くことで、メモ帳からCMDを開くことはできません。

この機能は、特定のプロセスベースの親子関係に依存して動作します。シナリオにおける親子関係を視覚化するには、Process Explorerツールのプロセスツリー機能を使用します。Process Explorerの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/procmon>`を参照してください。

潜在的な問題を回避するために、Full Configuration管理インターフェイスで**VUEMAppCmd.exe**を指す実行可能ファイルのパスを追加することをお勧めします。**VUEMAppCmd.exe**は、公開アプリケーションが開始する前にWEMエージェントが設定の処理を完了することを保証します。次の手順を完了します。

1. **アプリケーション**ノードでアプリケーションを選択し、アクションバーの**プロパティ**をクリックしてから、**場所**ページに移動します。



2. エンドユーザーのオペレーティングシステム上のローカルアプリケーションのパスを入力します。

   - **実行可能ファイルへのパス**フィールドに、次のように入力します。

     ```
     <%ProgramFiles%>\Citrix\Workspace Environment Management
     Agent\VUEMAppCmd.exe
     ```

3. 開くアプリケーションを指定するコマンドライン引数を入力します。

   - **コマンドライン引数**フィールドに、**VUEMAppCmd.exe**を介して起動するアプリケーションへのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲んでください。
   - たとえば、**VUEMAppCmd.exe**を介してiexplore.exeを起動したいとします。その場合は、次のように入力します。`%ProgramFiles(x86)%\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。

考慮事項

この機能が動作するためには、各エージェントマシンで**AppInfoViewer**ツールを使用して機能を有効にする必要があります。このツールを使用して機能を有効または無効にするたびに、マシンの再起動が必要です。この機能が有効になっている場合、次の考慮事項に注意してください。

- エージェントのアップグレードまたはアンインストール後には、エージェントマシンを再起動する必要があります。
- この機能が有効になっている場合、エージェントの自動アップグレード機能は動作しません。エージェントの自動アップグレード機能を使用するには、まず**AppInfoViewer**ツールを使用してプロセス階層制御機能を無効にします。

プロセス階層制御機能が有効になっていることを確認するには、エージェントマシンで**レジストリエディター**を開きます。次のレジストリエントリが存在する場合、この機能は有効になっています。

- 32ビットOS
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`
- 64ビットOS
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`

前提条件

この機能を使用するには、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Citrix Virtual Appsの展開。
- エージェントがWindows 10またはWindows Serverで実行されていること。
- インプレースアップグレードまたは新規インストール後にエージェントホストが再起動されていること。

プロセス階層制御オプション

セキュリティで**プロセス階層制御**を選択すると、次のオプションが表示されます。

プロセス階層制御を有効にする: プロセス階層制御機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、**プロセス階層制御**タブの他のオプションが使用可能になり、構成された設定が有効になります。この機能は、Citrix Virtual Appsの展開でのみ使用できます。

コンテキストメニューからを非表示にする: Windowsの右クリックコンテキストメニューから**プログラムから開く**オプションを表示するかどうかを制御します。有効にすると、メニューオプションはインターフェイスから非表示になります。無効にすると、オプションが表示され、ユーザーはそれを使用してプロセスを開始できます。プロセス階層制御機能は、**プログラムから開く**オプションを介して開始されたプロセスには適用されません。現在のアプリケーション階層とは無関係なシステムサービスを介してアプリケーションがプロセスを開始するのを防ぐために、この設定を有効にすることをお勧めします。

プロセス階層制御タブには、構成したルールの完全なリストも表示されます。**検索**を使用してリストをフィルター処理できます。割り当て済み列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

アクションセクションには、次のアクションが表示されます。

- **編集**。ルールを編集できます。
- **削除**。ルールを削除できます。
- **ルールの作成**。ルールを追加できます。

ルールの作成

1. **プロセス階層制御**に移動し、**ルールの作成**をクリックします。**ルールの作成**ページが表示されます。
2. **表示**セクションで、以下を入力します。
    - **名前**。ルールの表示名を入力します。名前はルールリストに表示されます。
    - **説明**。ルールに関する追加情報を入力します。
3. **優先度**セクションで、ルールの優先度を設定します。優先度を設定する際は、以下を考慮してください。優先度は、設定したルールが処理される順序を決定します。値が大きいほど、優先度が高くなります。整数を入力します。競合がある場合、優先度の高いルールが優先されます。
4. **基準タイプ**セクションで、**親プロセス**を追加するオプションを選択します。
    - **パス**。ルールはファイルパスに一致します。
    - **発行元**。ルールは選択した発行元に一致します。
    - **ハッシュ**。ルールは特定のハッシュコードに一致します。
5. **モード**セクションで、以下のいずれかのオプションを選択します。

- **許可リスト**。親プロセスから開くことが許可されている子プロセスの基準を設定します。それ以外はすべて拒否されます。
- **拒否リスト**。親プロセスから開くことが許可されていない子プロセスの基準を設定します。それ以外はすべて許可されます。

6. 子プロセスの基準。
7. ルールが有効な期間を指定します。
8. マシン基準: ルールが有効になるマシンを決定するための基準を設定します。オプションで、ルールが適用されるマシンを決定するための基準を設定できます。次の基準のすべてまたは一部に一致するように選択できます。

    - マシンカタログ名
    - デリバリーグループ名
    - デバイス名
    - IPアドレス
    - OSプラットフォームの種類
    - OSバージョン
    - 永続的なマシンステータス

ユーザーにルールを割り当てるには

リストから1つのルールを選択し、**アクション**セクションで**割り当ての管理**をクリックします。

ルールを削除するには

リストから1つ以上のルールを選択し、**アクション**セクションで**削除**をクリックします。

割り当て

割り当てを使用して、アクションをユーザーが利用できるようにします。これにより、ユーザーのログオンスクリプトの一部を置き換えることができます。

割り当てターゲット

割り当てターゲットページでは、ユーザーとグループ（ターゲット）を追加して、アクションとセキュリティルールを割り当てることができます。ターゲットを選択して、その割り当てを管理します。

> **注:**

> SIDをターゲット名に変換するには時間がかかる場合があります。変換が正しくないか失敗した場合は、(/ja-jp/citrix-cloud/citrix-cloud-resource-locations/citrix-cloud-connector/technical-details.html#view-the-health-of-the-cloud-connector)でCloud Connectorの正常性ステータスを確認して、Cloud Connectorが正常に動作していることを確認してください。問題が解決しない場合は、(/ja-jp/citrix-cloud/overview/how-to-get-help-and-support.html#technical-support)に連絡してください。

> 組み込みターゲットは2つあります。

- **Everyone**。匿名ユーザーやゲストを含むすべてのユーザーが含まれる組み込みグループです。メンバーシップはオペレーティングシステムによって制御されます。
- **Administrators**。Administratorsグループのすべてのメンバーを含む組み込みグループです。オペレーティングシステムの初期インストール後、このグループの唯一のメンバーは管理者アカウントです。コンピューターがドメインに参加すると、Domain Adminsグループが Administratorsグループに追加されます。サーバーがドメインコントローラーになると、Enterprise AdminsグループがAdministratorsグループに追加されます。

利用可能なオプションは次のとおりです。

- **フィルター**。リストをフィルターできます。
- **割り当てターゲットの追加**。ターゲットを追加できます。
- **レコードの更新**。選択したレコードまたはレコードのリストを更新します。
- **ターゲット名の再クエリ**。ターゲット名を更新します。
- **表示**。組み込みターゲットの詳細を表示できます。
- **割り当ての管理**。**アクション**と**セキュリティルール**を管理できます。
- **編集**。ターゲットを編集できます。説明、優先度、有効化ステータスを変更できます。優先度を構成する際は、次の点を考慮してください。優先度によって、割り当てたアクションが処理される順序が決まります。値が大きいほど、優先度が高くなります。整数を入力します。競合が発生した場合、優先度の高いターゲットが優先されます。
- **有効化**。オブジェクト（ターゲット）を有効または無効にできます。
- **削除**。ターゲットを削除できます。注：組み込みターゲットは削除されません。

> **ヒント:**

> **状態**列のトグルを使用すると、ターゲットをすばやく有効または無効にできます。

割り当てターゲットを追加する

割り当てを追加するには、次の手順を実行します。

1. **割り当てターゲット**ページで、**割り当てターゲットの追加**をクリックします。
2. IDプロバイダーを選択します。
3. 追加するターゲットが存在するドメインを選択します。
4. ターゲットの種類を選択します。

> **注:**
>
> Active DirectoryおよびAzure Active Directoryの場合、検索をユーザーまたはセキュリティグループに絞り込むことができます。Active Directoryの場合、組織単位を選択することもできます。組織単位にはグループポリシー設定のみを割り当てることができることに注意してください。

5. 検索ボックスに、追加するターゲットの名前を入力します。名前を入力すると、一致する項目がメニューに表示されます。

> **注:**
>
> 検索では上位50件の結果のみが返されます。必要に応じて検索を絞り込んでください。場所の構成オプションは、目的のターゲットOUをすばやく見つけるために、OU検索スコープを特定の場所ノードに制限します。

6. プラスアイコンをクリックしてターゲットを追加します。（既に追加したターゲットには緑色のチェックマークアイコンが表示されます。）

> **ヒント:**
>
> 別のIDプロバイダーからターゲットを追加する場合は、別のIDタイプに切り替えて続行します。

7. 完了したら、**追加**をクリックしてターゲットを追加し、ウィザードを終了します。

ターゲットの割り当てを管理する

ターゲットの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. **割り当てターゲット**ページで、ターゲットを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してターゲットをすばやく見つけます。
2. アクションバーで、**割り当ての管理**を選択します。**割り当ての管理**ウィンドウが表示されます。
3. 必要に応じて、各アクションまたはセキュリティルールの割り当てを管理します。また、**セキュリティルール割り当ての管理**ページでターゲットを割り当てるために、**特権昇格**ルールを選択することもできます。
4. **変更の確認**をクリックして、意図したとおりに変更が行われたことを確認します。

割り当てターゲットをクローンする

割り当てターゲットをクローンするには、次の手順を実行します。

1. **割り当てターゲット**ページで、ターゲットを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してターゲットをすばやく見つけます。
2. アクションバーで、**クローン**を選択します。**割り当てターゲットのクローン**ウィンドウが表示されます。
3. ターゲットをクローンする構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックします。

> **注:**
>
> - 組み込みターゲットはクローンできません。
> - 一度に最大10個のターゲットをクローンできます。
> - 宛先にターゲットが既に存在する場合、それはスキップされます。
> - クローンされたターゲットの説明は空です。それらの割り当てはクローンされず、優先度はデフォルト値 (100) に設定され、状態はデフォルトで有効 (チェックマークアイコン) になります。

モデリングウィザード

モデリングウィザードを使用すると、ユーザーに割り当てられたアイテム、グループメンバーシップ、およびOUの配置を表示できます。

モデリングウィザードを使用するには、次の手順を実行します。

1. IDピッカーで、ADまたはAzure ADユーザーを検索して選択します。一度に選択できるユーザーは1人だけです。

   ユーザーを選択すると、ユーザーの表示名とディレクトリパス (フォレスト、ドメイン、名前) が概要カードに表示されます。

2. 結果を表示するには、**次へ**を選択します。

結果

結果は2つのタブに表示されます。

- 割り当てられたアイテム
- グループとOU

割り当てられたアイテム

左側のパネルにはすべてのアクションカテゴリが一覧表示されます。各カテゴリには、選択したユーザーに割り当てられているアイテムの数が表示されます。

セクション	カテゴリ
アクション	GPO、アプリケーション、プリンター、ネットワークドライブ、仮想ドライブ、レジストリエントリ、環境変数、外部タスク、ファイルシステム操作、ファイル関連付け、JSONファイル、INIファイル操作、ポート、ユーザーDSN
セキュリティ	アプリケーションセキュリティ、特権昇格、プロセス階層制御

カテゴリを選択すると、一致する割り当て済みアイテムが右側のパネルにアルファベット順にソートされて表示されます。検索ボックスを使用して名前でフィルタリングします。

「**割り当ての詳細を表示**」を有効にすると、各アイテムが展開され、詳細が表示されます。

- フィルタ: この割り当てに適用されているフィルタ条件（もしあれば）。
- 優先度: 割り当ての優先度。
- 割り当てターゲット: このアクションが割り当てられているターゲット。
- 割り当てグループ: それが属する割り当てグループ。

- (プリンタの場合) プリンタがデフォルトとして設定されているかどうか。
- (ネットワークドライブまたは仮想ドライブの場合) 割り当てられたドライブ文字、「**次に利用可能**」、または「**文字なし**」。
- (アプリケーションの場合) ショートカットフラグ: 「**デスクトップアイコンを作成**」、「**クイック起動**」、「**スタートメニューに追加**」、「**自動起動**」、「**スタートメニューにピン留め**」、「**タスクバーにピン留め**」。

グループとOU

2番目のタブには、モデリング中に解決されたユーザーのディレクトリコンテキストが表示されます。

- グループメンバーシップ。ユーザーが属するすべてのグループをリスト表示し、どの割り当てターゲットが適用されるかを決定します。
- OU配置。ADユーザーにのみ表示されます。ユーザーの最も内側のOUをその完全な識別名とともに表示します。

> **注:**
>
> - モデリングはクエリ時に実行されます。結果には、WEM割り当ての現在の状態、およびユーザーのグループメンバーシップとOU配置が反映されます。
> - ユーザーを解決できない場合、または割り当てを取得できない場合は、エラーメッセージが表示されます。戻ってユーザーを再選択し、再試行してください。

フィルター

> **注:**
>
> フィルターは、割り当ておよびスクリプトタスクで使用します。

> 「**フィルター**」ページでは、ユーザーにアクションを割り当てるタイミングを制御するためのフィルターを追加できます。フィルターは複数の条件で構成できます。

組み込みフィルターがあります。

- **常にtrue**。選択すると、関連するアクションは常にターゲットユーザーに割り当てられます。この組み込みフィルターは編集または削除できません。

利用可能なオプションは次のとおりです。

- **フィルターの作成**。アクションを割り当てるとき、またはスクリプトタスクを構成するときに使用できるようにフィルターを作成できます。
- **条件の管理**。条件の追加、削除、編集ができます。
- **更新**。フィルターのリストを更新します。このオプションを使用すると、**条件の管理**の条件リストも更新されます。
- **フィルターの表示**。フィルターを表示できます。
- **編集**。フィルターを編集できます。ユーザーに割り当てられたアクションにバインドされているフィルターを編集すると、その変更はすぐにそれらのユーザーに影響します。
- **削除**。フィルターを削除できます。
- **状態**。フィルターを有効または無効にできます。

フィルターの作成

フィルターは、次の2つの方法のいずれかを使用して作成できます。

- 手動で作成。条件を手動で構成して、フィルターを最初から作成します。
- テンプレートから作成。定義済みのテンプレートに基づいてフィルターを作成します。この方法では、条件が事前に入力されるため、設定が簡素化されます。

フィルターを手動で作成する

フィルターを最初から作成するには、次の手順に従います。

1. **フィルター**ページで、**フィルターの作成**をクリックし、**手動で作成**を選択します。
2. **基本情報**で、以下を構成してから**次へ**をクリックします。
    - **フィルター名**。フィルターの名前を入力します。
    - **説明**。他のフィルターと区別できるように、フィルターの説明を入力します。このフィールドはオプションです。
    - **このフィルターを有効にする**。フィルターを有効にするには**はい**を、無効にするには**いいえ**を選択します。
3. **条件**で、条件を追加してフィルターを作成します。演算子をクリックして、**すべて一致**（**AND**演算子）または**いずれか一致**（**OR**演算子）を切り替えます。両方の演算子を使用して、2つ以上の条件を複合条件に結合できます。

- **条件の追加**。リストから条件を選択するか、新しい条件を作成します。
- **条件グループの追加**。同じ論理演算子（**AND**または**OR**）を使用して一連の条件をグループ化するために、条件グループを追加します。条件グループ内に条件グループを追加できます。条件グループは最大3レベルまでネストできます。

> **注:**
>
> - ここで作成した条件は、他のフィルターでも使用できます。
> - 複合条件の基準をより深く理解するには、**概要**セクションを使用します。
> - 「**OR**」演算子を含むフィルターは、バージョンが2210.2.0.1以降のエージェントでのみ評価されます。
> - 特定の種類の条件は、ユーザー設定にのみ適用されます。それらをマシン設定（スクリプト化されたタスクやGPOなど）に適用すると、エージェントはフィルターを評価する際にそれらをスキップします。マシン設定に適用されないフィルター条件の完全なリストについては、「マシン設定に適用されない条件」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/assignment.html#conditions-not-applicable-to-machine-settings)を参照してください。

4. 完了したら、**完了**をクリックします。

テンプレートからフィルターを作成する

事前定義されたテンプレートに基づいてフィルターを作成すると、条件が事前に入力されるため、設定が簡素化されます。たとえば、**Citrix Virtual Desktops™ 用フィルター**テンプレートを使用すると、セッションがCitrix Virtual Desktops環境で実行されている場合にのみアクションを割り当てるフィルターをすばやく作成できます。

> **注:**
>
> - テンプレートベースのフィルターは現在、セッションレベルでのみ動作します。
> - 現在、Citrix Virtual Apps™ 環境、Citrix Virtual Desktops 環境、および時間範囲を識別するフィルターをすばやく作成するのに役立つ3つのテンプレートが利用可能です。

テンプレートからフィルターを作成するには、次の手順に従います。

1. **フィルター**ページで、**フィルターの作成**をクリックし、**テンプレートから作成**を選択します。**テンプレートからフィルターを作成**ページが表示されます。
2. フィルターの名前を入力します。
3. (オプション) フィルターを識別するのに役立つ説明を入力します。
4. フィルターのテンプレートを選択します。利用可能なテンプレートについては、次の表を参照してください。

名前	説明	スコープ
Citrix Virtual Apps 用フィルター	Citrix Virtual Apps 環境を識別するフィルターを作成するためのテンプレート。	セッションレベルのフィルタリング
Citrix仮想デスクトップのフィルター	Citrix Virtual Desktops環境を識別するフィルターを作成するためのテンプレート。	セッションレベルのフィルタリング
時間範囲のフィルター	特定の時間範囲を識別するフィルターを作成するためのテンプレート。	セッションレベルのフィルタリング
	注: 時間範囲フィルターは、デフォルトで30分ごとに発生する自動更新に依存して適用されます。そのため、フィルターは設定された時間に正確に適用されず、次の更新まで遅延する可能性があります。	

5. 「**完了**」をクリックします。

> **注:**
>
> - テンプレートから作成されたフィルターは自動的に有効になります。
> - これらのフィルターには、作成後に編集することで条件を追加できます。

条件を作成する

フィルターを追加するとき、または条件を管理するときに条件を作成できます。表示される**条件の作成**ウィザードで、次の手順を実行します。

1. 条件名を入力します。
2. 条件を有効にするには**はい**を、無効にするには**いいえ**を選択します。
3. リストから条件タイプを選択し、それに応じて設定を構成します。

条件タイプによって設定が異なる場合があります。以下の条件タイプが利用可能です。

条件の種類	説明
常に真	条件は常に真になります。
アクティブディレクトリ属性	属性名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽になります。属性値をセミコロン (;) で区切って入力します。注：属性値に関係なく条件を真にしたい場合は、疑問符 (?) を入力します。
Active Directory グループ	グループ名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽になります。グループ名をセミコロン (;) で区切って入力します。
アクティブディレクトリパス	パスが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽になります。パスをセミコロン (;) で区切って入力します。注：アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。
Active Directory サイト	サイト名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽になります。サイト名をセミコロン (;) で区切って入力します。

条件の種類	説明
Citrix Provisioning™ イメージモード	イメージモードが **Shared** または **Private** であるかどうかに応じて、真または偽になります。
Citrix Virtual Apps ファーム名	ファーム名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽になります。
Citrix Virtual Apps バージョン	バージョンが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
Citrix Virtual Apps ゾーン名	ゾーン名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
デリバリーグループ名	デリバリーグループ名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。 **注:** サブフォルダーに保存されているデリバリーグループは、名前にフルパスを指定することでフィルター条件として使用できます。例: `Subfolder name\Delivery group name`
マシンカタログ名	マシンカタログ名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。 **注:** サブフォルダーに保存されているマシンカタログは、名前にフルパスを指定することでフィルター条件として使用できます。例:

条件の種類	説明	
	`Subfolder name\Machine catalog name`	
Citrix Virtual Desktops ファーム名	ファーム名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。	
クライアントIPアドレス	IPアドレスが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。	
クライアント名	クライアント名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。クライアント名をセミコロン (;) で区切って入力します。アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。動的トークンも使用できます。	
クライアントOS	クライアントOSが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。	
クライアントリモートOS	クライアントリモートOSが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。	
コンピューター名	コンピューター名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。コンピューター名をセミコロン (;) で区切って入力します。アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。	
接続状態	接続状態が **オンライン** または **オフライン** であるかどうかに応じて、真または偽。	

条件の種類	説明
日付と時刻	日付と時刻が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。日付または日付範囲をセミコロン (;) で区切って入力します。日付は `mm/dd/yyyy` の形式で入力します。日付範囲は (時刻はオプション) `mm/dd/yyyy HH:mm - mm/dd/yyyy HH:mm` の形式で入力します。
曜日	曜日が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
動的値	動的値が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。動的式が解決する値をセミコロン (;) で区切って入力します。注：動的式の値に関係なく条件を真にしたい場合は、疑問符 (?) を入力します。
環境変数	環境変数が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。環境変数の値をセミコロン (;) で区切って入力します。注：環境変数の値に関係なく条件を真にしたい場合は、疑問符 (?) を入力します。
ファイルバージョン	ファイルバージョンが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。ファイルバージョンをセミコロン (;) で区切って入力します。
ファイル/フォルダーの有無	パスが指定された値と一致するかどうかに応じて、真また

条件の種類	説明
	は偽。ファイルまたはフォルダーの完全なパスを入力します。パスには引用符 (") を含めないでください。動的トークンを使用できます。
IPアドレス	IPアドレスが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。IPアドレスまたはIPアドレス範囲をセミコロン (;) で区切って入力します。注: アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。
名前がリストにあるかどうか	名前が指定されたリストに含まれているかどうかに応じて、真または偽。**名前**フィールドに、リスト内で検索する名前を入力します。**XMLリストのファイルパス**フィールドに、XMLリストの完全なファイルパスを入力します。
名前/値がリストにあるかどうか	名前または値が指定されたリストに含まれているかどうかに応じて、真または偽。**名前**フィールドに、リスト内で検索する名前または値を入力します。**XMLリストのファイルパス**フィールドに、XMLリストの完全なファイルパスを入力します。
ネットワーク接続状態	ネットワーク接続の状態が**利用可能**か**利用不可**かに応じて、真または偽。
OSプラットフォームの種類	OSプラットフォームの種類が**x86**か**x64**かに応じて、真または偽。

条件の種類	説明
公開リソース名	指定された値と名前が一致するかどうかに応じて、真または偽。公開リソース名をセミコロン (;) で区切って入力します。
レジストリ値	レジストリ値が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。**レジストリパスと名前**フィールドに、レジストリ値名を含む完全なパスを入力します。**レジストリ値**フィールドに、セミコロン (;) で区切ってレジストリ値を入力します。注: レジストリエントリの値に関係なく条件を真にしたい場合は、疑問符 (?) を入力します。
トランスフォーマーモードの状態	状態が**無効**か**有効**かに応じて、真または偽。
地域形式	形式が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。必要に応じて、**リストにない値を追加**オプションを使用して、ISO言語コードをセミコロン (;) で区切って入力します。
ユーザーSBCリソースタイプ	タイプが**デスクトップ**か**公開アプリケーション**かに応じて、真または偽。
ユーザーUI言語	言語が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
WMIクエリ	指定されたクエリに結果があるかどうかに応じて、真または偽。Windows Management

条件の種類	説明
	Instrumentation (WMI) クエリ操作は、エージェントマシンでクエリを実行できます。クエリから返された結果に基づいて、この条件を定義できます。詳細については、Microsoftドキュメントを参照してください: `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/wmisdk/querying-with-wql>`。

「クライアント」および「コンピューター」関連の条件を使用する場合、次の2つのシナリオに注意してください。

- エージェントがシングルセッションまたはマルチセッションOSにインストールされている場合:
  - 「クライアント」は、エージェントホストに接続するクライアントデバイスを指します。
  - 「コンピューター」と「クライアントリモート」は、エージェントホストを指します。
- エージェントが物理エンドポイントにインストールされている場合、条件名に「クライアント」を含む条件は適用されません。

詳細情報

マシン設定に適用されない条件

設定には次の2種類があります。

- **マシン設定**。これらの設定は、誰がログオンしているかに関わらず、マシンにのみ適用されます。例：グループポリシー設定とスクリプト化されたタスク。
- **ユーザー設定**。これらの設定は、どのマシンにログオンしているかに関わらず、ユーザーにのみ適用されます。例：ユーザーの言語設定。

次の条件はマシン設定には適用されません。フィルターにこれらのいずれかが含まれている場合、エージェントはフィルターを評価する際にそれらをスキップします。

フィルター名	マシン設定に適用可能
クライアント名の一致	いいえ
クライアントIPアドレスの一致	いいえ
レジストリ値の一致	HKCUで始まるレジストリ値を構成した場合、**レジストリ値の一致**フィルターは、マシン設定に適用しても機能しません。
ユーザーの国の一致	いいえ
ユーザーUI言語の一致	いいえ
ユーザーSBCリソースタイプ	いいえ
Active Directoryパスの一致	いいえ
Active Directory属性の一致	いいえ
クライアント名不一致	いいえ
クライアントIPアドレス不一致	いいえ
レジストリ値不一致	いいえ
ユーザーの国不一致	いいえ
ユーザーUI言語不一致	いいえ
Active Directoryパス不一致	いいえ
Active Directory属性不一致	いいえ
クライアントリモートOSの一致	いいえ
クライアントリモートOS不一致	いいえ
Active Directoryグループの一致	いいえ
Active Directoryグループ不一致	いいえ
公開リソース名	いいえ

割り当てグループ

この機能を使用すると、アクションとアプリケーションセキュリティ（GPOファイルやJSONファイルを含む）をグループに追加し、展開する割り当てターゲットを選択できます。フィルターやオプションなどの割り当ての詳細は、個々のアイテムレベルで管理されます。特定のターゲットに関連付けられているすべての割り当てに対して、単一のフィルターを設定できるようになりました。グループに新しいアイテムを追加すると、それらのアイテムの割り当てが自動的に生成され、割り当ての詳細を確認して必要な調整を行うことができます。

割り当てグループを作成する

割り当てグループを作成するには、次の手順を実行します。

1. 割り当てグループの名前と説明を入力します。
2. 「**追加**」をクリックし、「**グループコンテンツの構成**」ページでグループに含める必要なアクションを選択します。
3. ドロップダウンリストから割り当てターゲットを選択します。
4. 目的の構成をコピー、貼り付け、タブ上のすべての割り当てに適用できます。

> **注:**

- グループ内のアイテムがドロップダウンリストから指定されたターゲットにすでに割り当てられている場合、選択されたターゲットが割り当てを更新します。「**割り当ての詳細**」ページで、各割り当てターゲットの割り当ての詳細をさらに構成できます。
- グループが組織単位に割り当てられている場合、グループポリシー設定以外のアイテムを含めることはできません。
- 仮想ドライブを追加するには、ドライブ文字を手動で選択する必要があります。

セキュリティルールを使用して割り当てグループを作成する

セキュリティルールを使用して割り当てグループを作成できるようになりました。この機能については、「**割り当てグループの作成**」と同じ手順に従ってください。「**グループコンテンツの構成**」ページで「**特権昇格**」ルールを構成することもできます。

> **注:**

> デフォルトルールは割り当てグループに含めることはできず、「**グループコンテンツの構成**」ページには表示されません。

エクスポートされた設定を使用して割り当てグループを作成する

エクスポートされた設定を使用して割り当てグループを作成するには、エクスポートされた設定をWEMアクションにインポートし、次の手順を完了します。

1. まず、変換された設定を含むZIPファイルをアップロードします。
2. **インポート**をクリックして、選択した設定/項目を現在の構成セットに保存し、それらで割り当てグループを作成します。
3. 現在の割り当てグループを選択した割り当てターゲットに割り当てます。
4. エージェントホストの設定を更新して、変更をすぐに適用します。

割り当てグループを表示する

- 割り当てグループを表示するには、それを選択し、アクションバーの**表示**をクリックします。
- **コンテンツ**タブのテーブルで、項目のカテゴリと、選択したカテゴリにリストされている項目を表示できます。
- **割り当て**タブでは、グループが割り当てられている割り当てターゲットをリストできます。

割り当てグループを編集する

- 割り当てグループを編集するには、それを選択し、アクションバーの**編集**をクリックします。
- **コンテンツ**タブで、割り当てグループの名前、説明、およびコンテンツを編集します。
- **割り当て**タブでは、割り当てターゲットを追加または削除できます。また、各ターゲットの割り当ての詳細を編集することもできます。

割り当てグループを削除する

割り当てグループを削除するには、割り当てを選択し、アクションバーの**削除**をクリックします。

レガシーアクショングループを割り当てグループに移行する

> **注:**
>
> このタスクは、オンプレミスのWEM展開がWEMサービスに移行される場合にのみ適用されます。このタスクを実行するには、完全な**WEM管理者**の役割が必要です。

> 移行後、レガシーコンソールからの既存の**アクショングループ**は、Webコンソールの**割り当てグループ**に**レガシー**アイテムとして表示されます。Webコンソールでは、**割り当てグループ**はレガシーアクショングループと同等です。これらのレガシーアクショングループをWebコンソールで管理するには、割り当てグループに移行する必要があります。その後、移行された割り当てグループをWebコンソールで直接編集および管理できます。

レガシーアクショングループを移行するには、次の手順に従います。

1. 構成セットで、**割り当て > 割り当てグループ**に移動します。
2. レガシーアクショングループが存在する場合、ページタイトルの下に情報バナーが表示されます。
3. バナーの**レガシー割り当ての移行**をクリックします。**レガシー割り当ての移行**ページが表示されます。
4. レガシーアクショングループとその割り当てを確認し、**移行の開始**をクリックします。
5. 移行が完了するまで待ちます。

移行が完了すると、次のようになります。

- レガシーアクショングループは割り当てグループに移行されます。
- **割り当てステータス**が**レガシー**から**割り当て済み**に変わります。
- Webコンソールで移行された割り当てグループを編集できます。
- 一部のレガシーアクショングループの割り当てには、ドライブ文字のない仮想ドライブが含まれている場合があります。移行後、影響を受ける割り当てを編集して、各仮想ドライブにドライブ文字を割り当ててください。

トリガー

トリガーを作成し、タスクを関連付けます。アクティブ化されると、トリガーはユーザー環境で関連付けられたタスクを開始します。トリガーに関連付けられているタスクを表示するには、トリガーをクリックして行を展開します。

次の操作を実行できます。

- トリガーを作成する
- ビューを更新する
- トリガーを編集する
- トリガーを複製する
- 関連付けを管理する

- トリガーを削除する

> **ヒント:**

> **State** 列のトグルを使用して、トリガーをすばやく有効または無効にできます。

> 組み込みのトリガーは次のとおりです。

- セッショントリガー:
  - **エージェントの更新**。ユーザーがエージェントを更新したときにアクティブ化されます。
  - **再接続**。ユーザーがエージェントマシンに再接続したときにアクティブ化されます。
  - **ログオン**。ユーザーがマシンにログオンしたときにアクティブ化されます。
  - **ログオフ**。ユーザーがマシンからログオフしたときにアクティブになります。
  - **切断**。ユーザーがマシンから切断したときにアクティブになります。
  - **ロック**。ユーザーがマシンをロックしたときにアクティブになります。
  - **ロック解除**。ユーザーがマシンをロック解除したときにアクティブになります。

  > **注:**

  > セッショントリガーを使用すると、セッションアクティビティをトリガーとして構成できます。これらは現在、外部タスクでのみ利用可能です。

- マシントリガー:
  - **マシンのシャットダウン**。マシンがシャットダウンしたときにアクティブになります。
  - **マシンの起動**。マシンが起動したときにアクティブになります。

> **注:**

> - 組み込みトリガーを削除および編集することはできません。
> - 起動トリガーとシャットダウントリガーの使用例については、「スクリプトタスクの起動トリガーとシャットダウントリガーを構成する」(/ja-jp/workspace-environment-

> management/service/how-to/configure-startup-and-shutdown-triggers.html)を参照してください。

トリガーを作成する

トリガーを作成するには、次の手順を実行します。

1. **トリガー**で、**トリガーの作成**をクリックします。
2. トリガーの名前を指定します。
3. 必要に応じて、トリガーを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
4. トリガーを有効にするか（**はい**）、無効にするか（**いいえ**）を選択します。

> **注:**
>
> 無効になっている場合、エージェントはトリガーを評価および処理しません。

5. リストからトリガーの種類を選択し、必要な情報を入力します。

   - **スケジュール済み**
   - **プロセス開始**
   - **プロセス終了**
   - **Windowsイベント**
   - **クラウドヘルスチェックの結果**
   - **プロファイル管理ヘルスチェックの結果**
   - **スクリプト化されたタスクの結果**

> **ヒント:**
>
> - 選択したトリガーの種類によって情報が異なります。詳細については、「利用可能なトリガーの種類」を参照してください。
> - Windowsイベントをトリガーとして使用してVDA登録の問題を検出する方法の例については、「VDA登録の問題を検出するためのトリガーとしてWindowsイベントを使用する」を参照してください。

6. **概要**で、意図したとおりにトリガーが作成されていることを確認します。
7. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

利用可能なトリガーの種類

選択可能なトリガーの種類は次のとおりです。

- **スケジュール済み**。トリガーをアクティブにするタイミングをスケジュールします。次のオプションを使用できます。
  - **日付と時刻**。トリガーがアクティブになるタイミングを指定します。
  - **繰り返し**。トリガーがアクティブになる頻度を指定するには、**はい**を選択します。たとえば、1時間ごと、2時間ごと、毎日、2日ごとなどです。**週**または**月**を選択した場合、1つ以上の特定の日を指定できます。トリガーを1回だけアクティブにする場合は、**いいえ**を選択します。
- ユーザープロセス トリガー
  - **プロセス開始**。指定されたプロセスが開始したときにトリガーをアクティブにします。
  - **プロセス終了**。指定されたプロセスが終了したときにトリガーをアクティブにします。

> **注:**
>
> ユーザープロセス トリガーを使用すると、ユーザープロセスをトリガーとして構成でき、現在、外部タスクでのみ利用可能です。

- **Windowsイベント**。トリガーをアクティブにするためにWindowsイベントが満たす必要のある基準を定義できます。次のオプションを使用できます。
  - **基準の追加**。トリガーをアクティブにするためにWindowsイベントが満たす必要のある基準を定義します。
  - **間隔**。トリガーの間隔を分単位で指定します。アクティブ化された後、指定された間隔が経過するまでトリガーは再度アクティブ化されません。

> **注:**
>
> アプリケーション、システム、セキュリティなどのWindowsクラシックイベントログのみがサポートされています。

- **Cloud Health Checkの結果**。Cloud Health Checkが指定されたヘルスステータスを返したときにトリガーをアクティブにします。次のオプションを使用できます。
  - **VDAヘルスステータス**。VDAヘルスステータスを使用してトリガーをアクティブにします。VDAは、Home > Overviewに示されているように、通常または異常な状態になることがあります。
  - **タスクデータ**。関連するタスクに渡すデータを選択し、そのタスクでデータを受信するパラメーターを指定します。ここで指定するパラメーターが関連するタスク用に構成されているものと同じである場合、前者が優先されます。デフォルトのパラメーター名を使用することをお勧めします。必要に応じてスクリプトファイルを更新してください。次のデータを指定できます。
    - **VDAヘルスステータス (string)**。Cloud Health Checkが返すヘルスステータスです。関連するタスクでこのパラメータを使用してステータスを受け取ります。
    - **ヘルスレポート (string)**。Cloud Health Checkが生成するVDAヘルスチェックレポートです。関連するタスクでこのパラメータを使用してレポートの完全なパスを受け取ります。詳細については、ヘルスチェックの結果を参照してください。
- **Profile Managementヘルスチェック結果**。Profile Managementヘルスチェックが指定されたヘルスステータスを返したときにトリガーをアクティブにします。以下のオプションが利用可能です。
  - **Profile Managementヘルスステータス**。関連するタスクをトリガーするには、以下のProfile Managementヘルスステータスを使用します: 警告 (Profile Managementの最適ではない状態) およびエラー (Profile Managementが正しく構成されていない状態)。
  - **タスクデータ**。関連するタスクに渡すデータを選択し、それらのタスクでデータを受け取るためのパラメータを指定します。ここで指定するパラメータが関連するタスクに構成されているものと同じ場合、前者が優先されます。デフォルトのパラメータ名を使用することをお勧めします。必要に応じてスクリプトファイルを更新してください。以下のデータを指定できます。
    - **Profile Managementヘルスステータス (string)**。Profile Managementヘルスチェックが返すヘルスステータスです。関連するタスクでこのパラメータを使用してステータスを受け取ります。詳細については、管理を参照してください。
    - **ヘルスレポート (string)**。Profile Managementヘルスチェックが生成するヘルスチェックレポートです。関連するタスクでこのパラメータを使用してレポートの完全なパスを受け取ります。詳細については、レポートを参照してください。

- **スクリプトタスクの結果**。スクリプトタスクが指定された結果を返したときにトリガーをアクティブにします。まずカスタムスクリプトを指定し、次にスクリプトがトリガーをアクティブにするために満たすべき基準を定義します。以下のオプションが利用可能です。
    - **基準の追加**。1つ以上のスクリプトを選択し、それらのスクリプトがトリガーをアクティブにするために満たすべき基準を定義します。
    - **タスクデータ**。関連するタスクに渡すデータを選択し、それらのタスクでデータを受け取るためのパラメータを指定します。ここで指定するパラメータが関連するタスクに構成されているものと同じ場合、前者が優先されます。デフォルトのパラメータ名を使用することをお勧めします。必要に応じてスクリプトファイルを更新してください。以下のデータを指定できます。
        - **スクリプト名 (string)**。関連するタスクをトリガーするスクリプトの名前です。関連するタスクでこのパラメータを使用して名前を受け取ります。
        - **タスク名 (string)**。関連するタスクをトリガーするスクリプトタスクの名前です。関連するタスクでこのパラメータを使用して名前を受け取ります。
        - **終了コード (integer)**。スクリプトタスクが返す終了コード値です。関連するタスクでこのパラメータを使用して値を受け取ります。
        - **コンソール出力 (string)**。スクリプトタスクが書き込むコンソール出力です。関連するタスクでこのパラメータを使用して出力の完全なパスを受け取ります。
        - **ファイル出力 (string)**。スクリプトタスクが生成するファイル出力です。関連するタスクでこのパラメータを使用して出力の完全なパスを受け取ります。

トリガーを編集

トリガーを編集するには、次の手順を実行します。

1. **トリガー**で、トリガーを選択します。
2. アクションバーで**編集**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. **概要**で、意図したとおりに変更が加えられたことを確認します。
5. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

トリガーを複製

トリガーを複製するには、次の手順を実行します。

1. **トリガー**で、トリガーを選択します。

2. アクションバーで**複製**をクリックします。
3. 複製に名前を指定します。
4. 必要に応じて、トリガーを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
5. トリガーの複製先の構成セットを選択します。
6. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

関連付けを管理

トリガーの関連付けを管理するには、次の手順を実行します。

1. **トリガー**で、トリガーを選択します。
2. アクションバーで をクリックします。
3. スクリプトタスクを選択してトリガーに関連付けるか、スクリプトタスクの選択を解除して関連付けを解除します。必要に応じて、検索ボックスを使用してタスクをすばやく検索します。
4. 完了したら、 をクリックして保存し、終了します。

関連付けを管理する際は、次の点に注意してください。

- 無限ループを防ぐため、WEM は単一のループチェーンで最大 10 回のトリガーをサポートします。以下に例を示します。タスク A がタスク B をトリガーし、タスク B がタスク C をトリガーし、...、タスク K がタスク L をトリガーします。タスク K はタスク L をトリガーできません。この単一のループチェーンでのトリガー回数が 10 を超えたため、ループは終了します。



トリガーを削除する

トリガーを削除するには、次の手順を実行します。

1. **トリガー**で、トリガーを選択します。
2. アクションバーで をクリックします。

> **注:**

> スクリプトタスクが関連付けられているトリガーを削除すると、そのトリガーはそれらのタスクをトリガーしなくなります。

トリガーのサポートマトリックス

以下の表は、どのトリガーがどのタスクでサポートされているかを示しています。

	スクリプトタスク	外部タスク
エージェントの更新		X
再接続		X
ログオン		X
ログオフ		X
切断		X
ロック		X
ロック解除		X
マシンの起動	X	
マシンのシャットダウン	X	
スケジュール済み	X	X
プロセス開始		X
プロセス終了		X
Windowsイベント	X	X
クラウドヘルスチェックの結果	X	
プロファイル管理ヘルスチェックの結果	X	
スクリプトタスクの結果	X	

システムの最適化

Workspace Environment Management™ (WEM) のシステム最適化は、次の設定で構成されます。

- CPU管理
- メモリ管理
- I/O管理
- 高速ログオフ
- シトリックス オプティマイザー
- マルチセッションの最適化

これらの設定は、エージェントマシンのリソース使用量を削減するように設計されています。解放されたリソースが他のアプリケーションで利用可能であることを確認するのに役立ちます。これにより、サーバーあたりのユーザー数が増え、ユーザー密度が向上します。

システム最適化設定はマシンベースであり、すべてのユーザーセッションに適用されますが、プロセス最適化はユーザー中心です。これは、ユーザーAのセッションでプロセスがCPUスパイク保護をトリガーした場合、そのイベントはユーザーAのみに記録されることを意味します。ユーザーBが同じプロセスを開始した場合、プロセス最適化の動作はユーザーBのセッション内のプロセストリガーによってのみ決定されます。

CPU管理

これらの設定により、CPU使用率を最適化できます。

プロセスはすべてのコアで実行でき、必要なだけCPUを使用できます。WEMのCPU管理機能を使用すると、個々のプロセスが使用できるCPU容量を制限できます。CPUスパイク保護は、CPU使用率全体を削減するようには設計されていません。CPU使用率の過剰な割合を消費するプロセスによるユーザーエクスペリエンスへの影響を軽減するように設計されています。

CPUスパイク保護が有効になっている場合、プロセスが指定されたしきい値に達すると、WEMは一定期間、プロセスの優先度を自動的に下げます。その後、新しいアプリケーションが起動されると、優先度の低いプロセスよりも高い優先度を持ち、システムはスムーズに動作し続けます。

CPUスパイク保護は、各プロセスをクイック「スナップショット」で検査します。プロセスの平均負荷が指定されたサンプル時間の指定された使用制限を超えると、その優先度は直ちに低下します。指定された時間が経過すると、プロセスのCPU優先度は以前の値に戻ります。プロセスは「スロットリング」されません。**CPUクランプ**とは異なり、優先度のみが低下します。

CPUスパイク保護は、個々のプロセスの少なくとも1つのインスタンスがしきい値を超えない限りトリガーされません。言い換えれば、CPUの総消費量が指定されたしきい値を超えても、少なくとも1つのプロセスインスタンスがしきい値を超えない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。しかし、そのプロセスインスタンスがCPUスパイク保護をトリガーすると、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが有効になっている場合、同じプロセスの新しいインスタンスは（CPU）最適化されます。

特定のプロセスがCPUスパイク保護をトリガーするたびに、そのイベントはエージェントのローカルデータベースに記録されます。エージェントは、各ユーザーのトリガーイベントを個別に記録します。これは、user1の特定のプロセスに対するCPU最適化が、user2の同じプロセスの動作に影響を与えないことを意味します。

たとえば、Internet ExplorerがCPUの50～60%を消費することがある場合、CPUスパイク保護を使用して、VDAのパフォーマンスを脅かしているiexplore.exeインスタンスのみを対象にすることができます。（対照的に、CPUクランプはすべてのプロセスに適用されます。）

同じVDAにログオンしている他のユーザーに影響を与えない、環境に最適な値を決定するために、サンプル時間を試してみることをお勧めします。

CPUスパイク保護

注:

- 以下の設定における「CPU使用率」は、物理マシンまたは仮想マシン内の「論理プロセッサ」に基づいています。CPUの各コアは、Windowsと同様に論理プロセッサと見なされます。たとえば、1つの6コアCPUを搭載した物理マシンは、12個の論理プロセッサを持つと見なされます（ハイパースレッディングテクノロジーはコアが2倍になることを意味します）。12コアのCPUを8個搭載した物理マシンは96個の論理プロセッサを持ちます。2つの4コアCPUで構成されたVMは8個の論理プロセッサを持ちます。
- 仮想マシンにも同じことが当てはまります。たとえば、12コアのCPUを8個搭載した物理マシン（96個の論理プロセッサ）があり、4つのマルチセッションOS VDA VMをサポートしているとします。各VMは2つの4コアCPU（8個の論理プロセッサ）で構成されています。VMでCPUスパイク保護をトリガーするプロセスがそのコアの半分を使用するように制限するには、**CPUコア使用制限**を4（VMの論理プロセッサの半分）に設定し、48（物理マシンの論理プロセッサの半分）には設定しません。

> 有効にすると、プロセスが指定されたCPU使用率を一定期間（**サンプル時間制限**フィールドで指定）超えた場合、そのプロセスのCPU優先度を一定期間（**アイドル優先度時間**フィールドで指定）低下させます。**基本展開**タイプを選択すると、以下の最適化機能がデフォルトで有効になります。これらの設定は、事前定義されたエージェントキャッシュファイルに保存されます。

CPUスパイクを自動的に防止する。このオプションは、CPUに過負荷をかけるプロセスのCPU優先度を自動的に下げます。このオプションは、論理プロセッサ（CPUコア）の数に基づいて、CPUスパイク保護をトリガーするしきい値を自動的に計算します。たとえば、4コアの場合、このオプションを有効にすると、全体のCPU使用率が23%を超えた場合、全体のCPUリソースの15%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に低下します。同様に、8コアの場合、全体のCPU使用率が11%を超えた場合、CPUリソースの8%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に低下します。

CPUスパイク保護をカスタマイズする。CPUスパイク保護の設定をカスタマイズできます。

- **CPU使用率の制限**。CPUスパイク保護をトリガーするために、任意のプロセスインスタンスが到達しなければならないCPU使用率の割合。この制限はサーバー内のすべての論理プロセッサにわたってグローバルであり、インスタンスごとのプロセスに基づいて決定されます。同じプロセスの複数のインスタンスのCPU使用率は、CPUスパイク保護のトリガーを決定する際には加算されません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPUスパイク保護はトリガーされません。たとえば、Server VDAで、複数の同時セッションにおいて、多くのiexplore.exeインスタンスがあるとします。各インスタンスは一時的にCPU使用率が約35%に達するため、累積的にはiexplore.exeが常に高いCPU使用率を消費しています。しかし、CPU使用率の制限を35%以下に設定しない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。
- **サンプル時間制限**。プロセスのCPU優先度が低下する前に、CPU使用率の制限を超えなければならない時間。
- **アイドル優先度時間**。プロセスのCPU優先度が低下する時間。その時間が経過すると、優先度は次のいずれかに戻ります。
    - CPU優先度タイルでプロセス優先度が指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されていない場合、デフォルトレベル（**通常**）に戻ります。
    - CPU優先度タイルでプロセス優先度が指定されている場合、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されているかどうかにかかわらず、指定されたレベルに戻ります。
    - プロセスの動作に応じてランダムなレベル。このケースは、CPU優先度タイルでプロセス優先度が指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択

されている場合に発生します。プロセスがCPUスパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、そのCPU優先度は低くなります。

CPUコア使用制限を有効にする。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。1からXまでの整数を入力します。Xはコアの総数です。Xより大きい整数を入力した場合、WEMは分離されたプロセスの最大消費量をデフォルトでXに制限します。

- **CPUコア使用制限**。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスが制限される論理プロセッサの数を指定します。VMの場合、入力した値は、基盤となる物理ハードウェアではなく、VM内の論理プロセッサの数にプロセスを制限します。

インテリジェントCPU最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのCPU優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いCPU優先度が割り当てられます。WEMは、次のシステムプロセスに対してCPU最適化を実行しないことに注意してください。

- タスクマネージャー
- システムアイドルプロセス
- システム
- スブホスト
- LSASS
- ウィンイニット
- サービス
- シーエスアールエスエス
- オーディオディーシー
- MsMpEng
- NisSrv
- エムエスコースアールエスブイダブリュー
- ヴイエムウェアレゾリューションセット

インテリジェントなI/O最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのプロセスI/O優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いI/O優先度が割り当てられます。

プロセスを除外する。デフォルトでは、WEM CPU管理は、最も一般的なCitrixおよびWindowsのコアサービスプロセスをすべて除外します。ただし、このオプションを使用して、実行可能ファイル名（例：notepad.exe）でCPUスパイク保護の除外リストからプロセスを**追加**または**削除**できます。通常、ウイルス対策プロセスは除外されます。

ヒント:

- セッションでウイルス対策スキャンがディスクI/Oを占有するのを防ぐため、ウイルス対策プロセスに静的なI/O優先度を低に設定することもできます。(#io-management)のを参照してください。
- プロセスがCPUスパイク保護をトリガーし、プロセスのCPU優先度が低下すると、WEMはプロセスのCPU優先度を低下させるたびに警告をログに記録します。イベントログのアプリケーションとサービスログにあるWEMエージェントサービスで、**Initializing process limitation thread for process**を探してください。

子プロセスがCPU優先度を継承するのを防止する。子プロセスにCPU優先度を継承させたくないプロセスを指定します。

CPUスパイク保護オプション

CPUスパイク保護をどのように適用するかを選択します。

- **CPUスパイクを自動的に防止する**。このオプションを使用すると、システムCPU使用率（単一CPUコアに対する相対値）が90%を超え、プロセスCPU使用率（単一CPUコアに対する相対値）が80%を超えた場合に、エージェントがCPUスパイク保護を実行します。
- **CPUスパイク保護をカスタマイズする**。CPUスパイク保護の設定をカスタマイズできます。
  - **CPU使用率の制限**。CPUスパイク保護をトリガーするために、任意のプロセスインスタンスが到達する必要があるCPU使用率の割合。この制限は、サーバー上のすべての論理プロセッサでグローバルであり、インスタンスごと、プロセスごとに決定されます。単一のCPUコアを基準として制限を構成するには、**単一CPUコアに対する相対的な制限を設定**オプションを使用します。

注:

- 整数値と非整数値の両方がサポートされています。非整数値（例：37.5%）を入力することで、8コアプラットフォームで3コア以上を使用するプロセスを制限できます。
- **単一CPUコアに対する相対的な制限を設定**。単一のCPUコアを基準としてCPU使用率の制限を設定できます。値は100%を超えることもできます（例：200%または250%）。例：値が200%に設定されている場合、エージェントは2つ以上のCPUコアを使用するプロセスを最適化します。整数値と非整数値の両方がサポートされています。 **注：**
- **CPUスパイク保護をカスタマイズ**が構成されている場合、グローバルCPU使用率の制限または単一CPUコアに対するCPU使用率の制限のいずれかが最初に到達したときに、CPUスパイク保護がトリガーされます。

CPUスパイク保護をトリガーするプロセスに対して、エージェントは次のことができます。

- **CPUコア使用率制限を有効にする**オプションが選択されていない場合: エージェントはそれらのプロセスのCPU優先度を低下させます。
- **CPUコア使用率制限を有効にする**オプションが選択されている場合: エージェントはそれらのプロセスのCPU優先度を低下させ、マシン上の指定された論理プロセッサ数に制限します。

CPUスパイク保護を構成する際は、以下の点に留意してください。

- CPUスパイク保護のトリガーを決定する際、同じプロセスの複数のインスタンスのCPU使用率のパーセンテージは加算されません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPUスパイク保護はトリガーされません。例えば、複数の同時セッションを持つマルチセッションVDAの場合、複数のchrome.exeプロセスが存在します。CPU使用率を計算する際に、それらのCPU使用率は合計されません。

CPUスパイク保護のサンプリング時間

サンプル時間制限。 CPUスパイク保護が適用されるまでに、プロセスがCPU使用率の制限を超過し続ける必要がある時間。

CPUスパイク保護の優先度低下時間

アイドル優先度時間。 プロセスのCPU優先度が低下する時間。その時間経過後、優先度は以下のいずれかに戻ります。

CPU優先度タイルでプロセス優先度が指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されていない場合、デフォルトレベル（**通常**）。 CPU優先度タイルでプロセス優先度が指定されている場合、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されているかどうかにかかわらず、指定されたレベル。 プロセスの動作に応じて計算されたランダムなレベル。このケースは、CPU優先度タイルでプロセス優先度が指定されておらず、**インテ**

リジェントCPU最適化を有効にするオプションが選択されている場合に発生します。プロセスがCPUスパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、そのCPU優先度は低くなります。

その他のオプション

CPUコア使用率制限を有効にする。 このオプションを使用して、CPUスパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の特定の論理プロセッサ数に制限します。

CPU優先度

有効にすると、プロセスのCPU優先度を手動で設定できます。

これらの設定は、プロセスがリソースを競合している場合に有効になります。これにより、特定のプロセスのCPU優先度レベルを最適化でき、CPUプロセッサ時間を競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにするためです。プロセスが互いに競合する場合、優先度の低いプロセスは、優先度の高い他のプロセスの後に処理されます。そのため、全体のCPU消費量の大部分を占める可能性が低くなります。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセス内のすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、または「現在の」優先度は、より高くなる可能性があります（ただし、ベースよりも低くなることはありません）。複数のプロセスがコンピューター上で実行されている場合、プロセッサ時間は、それらのCPU優先度レベルに基づいて共有されます。プロセスのCPU優先度レベルが高いほど、より多くのプロセッサ時間が割り当てられます。

> **注:**

> 特定のプロセスでCPU優先度レベルを低く設定しても、CPU全体の消費量が必ずしも減少するわけではありません。他のプロセス（より高いCPU優先度を持つ）がCPU使用率に影響を与え続けている可能性があります。

> プロセスを追加するには、**Add process** をクリックします。以下の情報を指定し、**Save process** をクリックします。

- **プロセス名**。拡張子を含まないプロセスの実行可能ファイル名。たとえば、Windows Explorer (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。
- **優先度**。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスの優先度レベルが高いほど、より多くのプロセッサ時間を得られます。**Idel**、**Below normal**、**Normal**、**Above normal**、**High**、**Realtime** から選択します。

> **ヒント:**

ここで設定したプロセスのCPU優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが再起動されたときに有効になります。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**Delete** を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**Edit** を選択します。

CPUアフィニティ

有効にすると、プロセスが使用する「論理プロセッサ」の数を定義できます。たとえば、VDAで起動されたNotepadのすべてのインスタンスを、定義されたコア数に制限できます。

プロセスを追加するには、**Add process** をクリックします。以下の情報を指定し、**Save process** をクリックします。

- **プロセス名**。プロセスの実行可能ファイル名（例：notepad.exe）。
- **アフィニティ**。正の整数を入力します。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**Delete** を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**Edit** を選択します。

CPUクランプ

有効にすると、プロセスがCPU処理能力の指定された割合を超えて使用するのを防ぐことができます。CPUクランプは、プロセスがCPU処理能力の指定された割合を超えて使用するのを防ぎます。WEMは、設定した指定のCPU使用率に達すると、そのプロセスを「スロットル」（または「クランプ」）します。これにより、プロセスが大量のCPUを消費するのを防ぐことができます。

注:

- CPUクランプは、計算コストが高いブルートフォースアプローチです。問題のあるプロセスのCPU使用率を人為的に低く保つには、そのようなプロセスに静的なCPU優先度とCPUアフィニティを割り当てると同時に、CPUスパイク保護を使用する方が良いでしょう。CPUクランプは、リソース管理が非常に苦手でありながら、優先度を下げることができないプロセスを制御する場合に最適です。

- プロセスのCPU処理能力の割合を適用し、後で同じプロセスに異なる割合を設定した場合は、変更を有効にするために**エージェントホスト設定の更新**を選択します。

設定するクランプの割合は、サーバー内の個々のCPUの総電力に適用され、そのCPUに含まれる個々のコアには適用されません。（つまり、クアッドコアCPUでの10%は、CPU全体の10%であり、1つのコアの10%ではありません）。

プロセスを追加するには、**プロセスの追加**をクリックします。次の情報を指定し、**プロセスの保存**をクリックします。

- **プロセス名**。プロセスの実行可能ファイル名（例：notepad.exe）。
- **割合**。正の整数を入力します。

ヒント:

- WEMがプロセスをクランプしている場合、WEMクライアントが初期化するウォッチリストにそのプロセスを追加します。これを表示することで、プロセスがクランプされていることを確認できます。
- CPUクランプが機能しているかどうかは、プロセスモニターでCPU消費量がクランプの割合を超えないことを確認することでも検証できます。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**削除**を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**編集**を選択します。

メモリ管理

これらの設定により、WEMを介してアプリケーションのメモリ使用量を最適化できます。

これらの設定が有効になっている場合、WEMはプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。WEMは、その差を余剰メモリと見なします。プロセスがアイドル状態になると、WEMはそのプロセスが消費する余剰メモリをページファイルに解放し、その後の起動のためにプロセスを最適化します。通常、アプリケーションはタスクバーに最小化されるとアイドル状態になります。

アプリケーションがタスクバーから復元されると、最初は最適化された状態で実行されますが、必要に応じて追加のメモリを消費し続けることができます。

同様に、WEMはユーザーがデスクトップセッション中に使用しているすべてのアプリケーションを最適化します。複数のユーザーセッションで複数のプロセスがある場合、解放されたすべてのメモリは他のプロセスで利用可能になります。この動作により、同じサーバーでより多くのユーザーをサポートすることで、ユーザー密度が向上します。

アイドル状態のプロセス向けメモリ使用量を最適化

有効にすると、指定された時間アイドル状態のままのプロセスに、アイドル状態ではなくなるまで余分なメモリを解放させます。

アイドルサンプル時間。プロセスがアイドル状態と見なされ、その後余分なメモリを解放するように強制される時間の長さを指定できます。余分なメモリを解放する期間中、WEMはプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。デフォルト値は120分です。

アイドル状態の制限。プロセスがアイドル状態と見なされるCPU使用率の割合を指定できます。デフォルトは1%です。5%を超える値を使用しないことをお勧めします。そうしないと、アクティブに使用されているプロセスがアイドル状態と誤解され、メモリが解放される可能性があります。

最適化の制限。WEMがアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値制限を指定できます。

メモリ使用量最適化からプロセスを除外。メモリ使用量最適化からプロセスを除外できます。プロセス名を指定します（例: notepad.exe）。

WEMは、次のシステムプロセスについてはアプリケーションのメモリ使用量を最適化しません。

- `rdpshell`
- `wfshell`
- `rdpclip`
- `wmiprvse`
- `dllhost`
- `audiodg`
- `msdtc`
- `mscorsvw`
- `spoolsv`
- `smss`
- `winlogon`

- `svchost`
- `taskmgr`
- `System Idle Process`
- `System`
- `LSASS`
- `wininit`
- `msiexec`
- `services`
- `csrss`
- `MsMpEng`
- `NisSrv`
- `Memory Compression`

特定のプロセス向けメモリ使用量制限

有効にすると、プロセスが消費できるメモリの上限を設定することで、プロセスのメモリ使用量を制限できます。

> **警告:**

> 特定のプロセスにメモリ使用量制限を適用すると、システムの応答速度の低下など、意図しない影響が生じる可能性があります。

> プロセスを追加するには、**プロセスを追加**をクリックします。次の情報を指定し、**プロセスを保存**をクリックします。

- **プロセス名**。追加するプロセスの名前を入力します（例: notepad.exe）。
- **メモリ制限**。メモリ使用量制限を入力します。
- **制限の種類**。リストから制限モードを選択します。
    - **動的制限**。指定されたプロセスに動的制限を適用できます。この設定は、指定されたプロセスに割り当てられるメモリ量を動的に制限します。適用されると、利用可能なメモリに応じてメモリ使用量制限が適用されます。したがって、指定されたプロセスが消費するメモリは、指定された量を超える可能性があります。

- **静的制限**。指定されたプロセスに静的制限を適用できます。この設定は、指定されたプロセスに割り当てられるメモリ量を常に制限します。適用されると、利用可能なメモリ量に関係なく、プロセスが指定された量を超えるメモリを消費することを制限します。結果として、指定されたプロセスが消費するメモリは、指定された量で上限が設定されます。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**削除**を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**編集**を選択します。

I/O管理

これらの設定により、特定のプロセスのI/O優先度を最適化し、ディスクおよびネットワークI/Oアクセスを競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにすることができます。たとえば、I/O管理設定を使用して、ディスク帯域幅を大量に消費するアプリケーションを抑制できます。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセス内のすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、または「現在の」優先度は、より高い場合があります（ただし、ベースより低くなることはありません）。一般的に、Windowsは、優先度の低いスレッドよりも優先度の高いスレッドにアクセスを許可します。

プロセスI/O優先度

有効にすると、特定のプロセスのI/O優先度を最適化し、ディスクおよびネットワークI/Oアクセスを競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにすることができます。

プロセスを追加するには、**プロセスの追加**をクリックします。次の情報を指定し、**プロセスの保存**をクリックします。

- **プロセス名**。拡張子なしでプロセスの実行可能ファイル名を入力します。たとえば、Windows Explorer (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。
- **I/O優先度**。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度を入力します。プロセスのI/O優先度が高いほど、そのスレッドはより早くI/Oアクセスを取得します。**高**、**標準**、**低**、**非常に低い**から選択します。

> **ヒント:**
>
> ここで設定したプロセスI/O優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが次に再起動されたときに有効になります。

> プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**削除**を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**編集**を選択します。

高速ログオフ

これらの設定により、リモートセッションへのHDX™接続を即座に終了できます。これにより、ユーザーにはセッションがすぐに閉じられたような印象を与えます。ただし、セッション自体はVDAのバックグラウンドでセッションログオフフェーズを続行します。

> **注:**

> 高速ログオフは、Citrix Virtual Apps™およびRDSリソースのみをサポートします。

> 有効にすると、この構成セット内のすべてのユーザーに対して高速ログオフが有効になります。ユーザーはすぐにログアウトされますが、セッションログオフタスクはバックグラウンドで続行されます。

特定のグループを除外するには、次の手順を実行します。

1. **指定されたグループを除外**を選択し、次に**グループの追加**を選択します。**除外するグループの追加**ウィザードが表示されます。
2. 識別子の種類を選択します。
3. 追加するグループが存在するドメインを選択します。
4. 検索ボックスに、追加するグループの名前を入力します。(検索では大文字と小文字は区別されません。)
5. プラスアイコンをクリックしてグループを追加します。
6. 完了したら、**保存**をクリックしてグループを追加し、**除外するグループの追加**ウィザードを終了します。

Citrix オプティマイザー

これらの設定により、ユーザー環境を最適化してパフォーマンスを向上させることができます。Citrix Optimizerは、ユーザー環境のクイックスキャンを実行し、テンプレートベースの最適化推奨事項を適用します。

ユーザー環境を最適化するには、次の2つの方法があります。

- 組み込みテンプレートを使用して最適化を実行します。そのためには、オペレーティングシステムに適用可能なテンプレートを選択します。
- または、必要な特定の最適化を含む独自のカスタマイズされたテンプレートを作成し、そのテンプレートをWorkspace Environment Management (WEM)に追加します。

カスタマイズ可能なテンプレートを取得するには、次のいずれかの方法を使用します。

- スタンドアロンのCitrix Optimizerが提供するテンプレートビルダー機能を使用します。スタンドアロンのCitrix Optimizerは`<https://support.citrix.com/article/CTX224676>`からダウンロードできます。テンプレートビルダー機能を使用すると、WEMにアップロードする独自のカスタムテンプレートを作成できます。
- エージェントホスト（WEMエージェントがインストールされているマシン）で、`<C:\Program Files (x86)>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Citrix Optimizer\Templates`フォルダーに移動し、デフォルトのテンプレートファイルを選択して、便利なフォルダーにコピーします。テンプレートファイルをカスタマイズして固有の情報を反映させ、カスタムテンプレートをWEMにアップロードします。

有効にすると、次の設定を構成できます。

毎週実行。選択すると、WEMは毎週最適化を実行します。**毎週実行**が選択されていない場合、WEMは次のように動作します。

- テンプレートをWEMに初めて追加すると、WEMは対応する最適化を実行します。後でそのテンプレートに変更を加えない限り、WEMは最適化を1回だけ実行します。変更には、OSに別のテンプレートを適用することや、テンプレートを有効または無効にすることが含まれます。
- テンプレートに変更を加えるたびに、WEMは最適化を1回実行します。

カスタムテンプレートを追加するには：

1. **カスタムテンプレートの追加**をクリックします。
2. **カスタムテンプレートの追加**ウィザードで、次の手順を完了します。
    a. **テンプレート名**で、**参照**をクリックし、追加するテンプレートを選択します。
    b. **適用可能なオペレーティングシステム**で、テンプレートが適用されるオペレーティングシステムをリストから1つ以上選択します。

> **ヒント:**

> リストにはないがテンプレートが適用されるWindows 10オペレーティングシステムを追加できます。それらのOSはビルド番号を入力して追加します。OSはセミコロン (;) で区切ってください。例: 2001;2004。

c. 必要に応じてアクティブ化するグループを選択します。

d. 「**保存**」をクリックします。

> **重要:**

> Citrix Optimizerはカスタムテンプレートのエクスポートをサポートしていません。カスタムテンプレートを追加した後も、ローカルコピーを保持してください。

> 「**状態**」列のトグルを使用して、テンプレートを有効状態と無効状態の間で切り替えることができます。無効になっている場合、エージェントはテンプレートを処理せず、WEMはテンプレートに関連付けられた最適化を実行しません。

テンプレートを削除するには、該当するテンプレートの省略記号を選択し、**削除**を選択します。注: 組み込みテンプレートは削除できません。

テンプレートを編集するには、該当するテンプレートの省略記号を選択し、**編集**を選択します。

テンプレートの詳細を表示するには、該当するテンプレートの省略記号を選択し、**プレビュー**を選択します。

> **注:**

> 非永続VDI環境の場合、WEMも同じ動作をします。マシンが再起動すると、環境へのすべての変更が失われます。Citrix Optimizerの場合、WEMはマシンが再起動するたびに最適化を実行します。

> **使用するテンプレートを自動的に選択**。どのテンプレートを使用すればよいかわからない場合は、このオプションを使用して、WEMに各OSに最適なものを選択させます。カスタムテンプレートを優先テンプレートとして使用したい場合は、コンマ区切りのプレフィックスリストを入力します。カスタムテンプレートは次の名前形式に従います。

- `prefix_<os version>_<os build>`

- `prefix_Server_<os version>_<os build>`

Citrix Optimizer設定への変更が有効になるまでには、レガシーコンソールの**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブにある**SQL設定の更新遅延**オプションに指定した値によって、時間がかかります。

変更をすぐに有効にするには、**監視 > 管理 > エージェント**に移動し、エージェントを見つけて、**その他**メニューから**Citrix Optimizerを処理**を選択します。

> **ヒント:**
>
> 新しい変更がすぐに有効にならない場合があります。**Citrix Optimizerを処理**を選択する前に、**エージェントホスト設定を更新**を選択することをお勧めします。

マルチセッション最適化

これらの設定により、切断されたセッションを持つマルチセッションOSマシンを最適化し、接続されたセッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

マルチセッションOSマシンは、単一のマシンから複数のセッションを実行し、ユーザーにアプリケーションとデスクトップを提供します。切断されたセッションはアクティブなままで、そのアプリケーションは実行され続けます。切断されたセッションは、同じマシンで実行されている接続されたデスクトップやアプリケーションに必要なリソースを消費する可能性があります。これらの設定により、切断されたセッションを持つマルチセッションOSマシンを最適化し、接続されたセッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

有効にすると、切断されたセッションが存在するマルチセッションOSマシンを最適化します。デフォルトでは、マルチセッション最適化は無効になっています。この機能は、切断されたセッションが消費できるリソースの数を制限することで、接続されたセッションのユーザーエクスペリエンスを向上させます。セッションが1分間切断されたままになると、WEMエージェントは、そのセッションに関連付けられたプロセスまたはアプリケーションのCPUおよびI/O優先度を下げます。その後、エージェントはセッションが消費できるメモリリソースの量に制限を課します。ユーザーがセッションに再接続すると、WEMは優先度を復元し、制限を解除します。

グループの除外

マルチセッション最適化から特定のグループを除外するには、次の手順を実行します。

1. 「**指定されたグループを除外**」を選択し、「**グループの追加**」をクリックします。「**除外するグループの追加**」ウィザードが表示されます。

2. IDタイプを選択します。
3. 追加したいグループが存在するドメインを選択します。
4. 検索ボックスに、追加したいグループの名前を入力します。グループの完全な名前を入力してください。(検索では大文字と小文字は区別されません。)
5. プラスアイコンをクリックしてグループを追加します。
6. 完了したら、「**保存**」をクリックしてグループを追加し、「**除外するグループの追加**」ウィザードを終了します。

プロセスを除外する

マルチセッション最適化から特定のプロセスを除外するには、「**プロセスの追加**」をクリックし、追加したいプロセスを参照して、「**プロセスの保存**」をクリックします。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、「**削除**」を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、「**編集**」を選択します。

プロファイル

「**プロファイル**」メニューでは、Citrix Profile Management、Microsoft User State Virtualization (USV)、およびユーザー環境設定を構成できます。

シトリックス プロファイル マネジメント の設定

> **注:**

> 一部のオプションは、特定のバージョンの Profile Management でのみ機能します。詳細については、Profile Management ドキュメントを参照してください。

> Workspace Environment Management™ (WEM) は、現在のバージョンまでのすべてのバージョンの Citrix Profile Management をサポートしています。

コンソール (**構成セット > プロファイル > Profile Management の設定**) で、現在のバージョンの Citrix Profile Management のすべての設定を構成できます。

WEM を使用して Citrix Profile Management の機能を構成するだけでなく、Active Directory GPO、Citrix Studio ポリシー、または VDA 上の .ini ファイルを使用することもできます。一貫して同じ方法を使用することをお勧めします。

Profile Management の設定

有効にすると、設定を構成して適用できます。このオプションを有効にすると、ユーザー環境に Profile Management 関連のレジストリが作成されます。このオプションは、コンソールで構成した Profile Management の設定を WEM がエージェントに展開するかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management の設定はエージェントに展開されません。

デフォルトでは、ほとんどの Profile Management の設定はマシンレベルでのみ機能します。特定の Profile Management の設定をユーザーレベルで機能するように有効にすることで、特定のユーザーに合わせてプロファイルエクスペリエンスを調整できます。詳細については、「ユーザーレベルの Profile Management の設定」を参照してください。

必要に応じてタグを選択し、プロファイル管理設定をフィルタリングできます。選択したタグに関連付けられた設定が表示され、それ以外は非表示になります。

- ファイルベース。ファイルベースのソリューションをサポートする設定。
- コンテナベース。コンテナベースのソリューションをサポートする設定。
- アプリアクセス制御。アプリアクセス制御に関連する設定。

ビューを切り替えると、選択したタグのセットが管理者設定の一部として保存され、以降の使用に役立ちます。

クイックセットアップ

Profile Management を素早く設定するには、バックアップから設定を復元するか、テンプレートから開始できます。

バックアップから復元

Profile Management 設定を含むバックアップが表示されます。Profile Management 設定を含むバックアップをアップロードするには、「Profile Management 設定のバックアップ」を参照してください。

リストからバックアップを1つ選択します。**プレビュー**をクリックして設定を確認し、必要に応じて調整します。バックアップ内の他の種類の（もしあれば）設定は無視されます。

> **注:**
>
> - Profile Management 設定を復元するには、バックアップと復元機能を使用することもできます。

- バックアップから Profile Management 設定を復元すると、関連サービスで使用するために選択された SMB 共有も復元されます。

テンプレートから開始

重要:

Profile Management がすでに構成されている場合、テンプレートを使用すると既存のすべての設定が上書きされることに注意してください。

プロファイルの処理方法に基づいて、ユーザー ストアには次の2種類があります。

- **ファイルベース**。ユーザープロファイルは、ログオン時にリモートユーザー ストアからローカルコンピューターにフェッチされ、ログオフ時に書き戻されます。
- **コンテナベース**。ユーザープロファイルはプロファイルコンテナに保存されます。これらのコンテナは、ログオン時にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされます。

ユースケースに合わせて Profile Management を素早く設定するには、テンプレートを選択します。

ユーザーレベル設定

この機能を使用すると、カスタマイズと正確な制御のために、特定の Profile Management 設定をユーザーレベルで構成できます。この機能を使用して、特定の Profile Management 設定を個々のユーザーまたはユーザーグループに適用し、必要に応じてプロファイルエクスペリエンスを調整します。

ユーザーレベルで Profile Management 設定を構成する方法は2つあります。

- Workspace Environment Management Web コンソールを使用する
- Profile Management で利用可能な ユーザーレベルのポリシー設定 を使用する

Web コンソールは、Profile Management のユーザーレベル設定を構成するための、ユーザーフレンドリーな UI ベースのインターフェイスを提供します。

Web コンソールを使用してユーザーレベル設定を構成するには、次の手順を実行します。

- **Profile Management 設定**ページで、ユーザーレベル設定リンクをクリックします。
- ユーザーレベル設定ページでは、次のことができます。

- 構成を追加します。
- グループの優先順位を設定します。
- 2つのビューを切り替えます: **構成別に表示**と**ユーザー/グループ別に表示**。

構成を追加

構成を追加するには、次の手順を実行します。

1. 構成に名前を付けます。
2. この構成を適用する個々のユーザーまたはユーザーグループを追加します。

> **注:**
>
> Active Directory (AD) および Azure Active Directory (AAD) がサポートされています。

3. これらのユーザーに適用する設定を追加します。

> **注:**
>
> - UIには、ユーザーが利用できる設定のみが表示されます。
> - 必要に応じて、設定を編集または削除できます。

構成を追加するたびに、**アクション > グループポリシー設定 > その他**に表示されます。ユーザーレベルの設定を有効にするには、GPO処理を有効にする必要があります（グループポリシー設定で**GPOの処理**オプションを有効にします）。

グループの優先順位を設定する

セッションが開始されると、Profile Managementは、ユーザー設定をユーザーグループ設定よりも優先し、ユーザーグループ設定をマシン設定よりも優先することで、適用するポリシー設定を決定します。

以下の手順を実行することで、グループの優先順位を設定し、競合する設定を持つ複数のグループにユーザーが属している状況を処理できます。

1. **グループの優先順位を有効にする**オプションを選択します。
2. **追加**をクリックしてグループを追加します。
3. グループを優先度の降順に並べ替えます。

> **注:**
>
> 競合する設定を持つ複数のグループにユーザーが属している場合、リストの上位に表示されるグループが優先されます。

4. 完了したら、**保存**をクリックして終了します。

構成またはユーザー/グループで表示

2つのビューを切り替えて、ユーザーレベルの設定をユーザー/グループ別または構成別に表示できます。

フォルダーリダイレクト

この機能を使用すると、ルールセットを構成して、ローカルフォルダーのパスを新しい場所にリダイレクトできます。各ルールセットは、フォルダーにアクセスするユーザーに基づいて、フォルダーをリダイレクトする場所を指定します。ルールセットには主に以下が含まれます。

- **リダイレクトルール。** リダイレクトするローカルフォルダーと、リダイレクト先（ネットワークの場所など）を指定します。
- **割り当て。** リダイレクトルールを割り当てるユーザーを指定します。

構成セットにルールセットを追加するには、次の手順に従います。

1. ターゲット構成セットの ページに移動します。
2. 検索ボックスの上にある リンクをクリックします。
3. 表示された ページで、 をクリックします。
4. 表示された ページで、次の手順に従って設定を完了します。
    a. ページで、リダイレクトするフォルダーを選択し、リダイレクト先を指定してから、 をクリックします。
        - フォルダーは、ネットワークの場所、ユーザーのホームディレクトリ（特定のフォルダーのみ）、またはローカルユーザープロファイルの場所にリダイレクトできます。
        - デフォルトでは、 オプションが選択されており、リダイレクトターゲットパスを設定または変更すると、以前のパスのコンテンツが自動的に新しいパスに移動されることを示します。この動作を防ぐには、このオプションをオフにします。

b. ページで、リダイレクトルールを割り当てるユーザー、グループ、またはOUを選択し、 をクリックします。デフォルトのグループには、 と が含まれます。グループを追加するには、 をクリックします。

c. ページで、ルールセットの次の設定を指定し、 をクリックします。

- **管理者へのアクセス許可: ローカルのAdministrators** グループにリダイレクトターゲットパスへのアクセスを許可するかどうか。デフォルトでは、これらのパスはプロファイル所有者のみがアクセスできます。
- **特定のユーザーとグループへのアクセス許可:** 特定のユーザーとグループにリダイレクトターゲットパスへのアクセスを許可するかどうか。このオプションを選択した後、 をクリックして、必要に応じてユーザーとグループを指定します。
- **ドメイン名を含める:** %userdomain% 環境変数をUNCパスの一部として含めるかどうか。
- 数値を入力して、このルールセットの優先度を設定します。数値が大きいほど優先度が高くなります。複数のルールセットが同じターゲットに適用される場合、優先度の高い方が適用されます。

d. このルールセットのわかりやすい名前を入力し、設定を確認します。調整するには、左ペインで対応する手順をクリックします。

e. 「**完了**」をクリックします。

> **注:**
>
> 現在、新しく展開されたルールセットを有効にするには、エンドユーザーが2回ログオンする必要があります。

基本設定

基本設定を適用して、Profile Management の使用を開始します。基本設定には、処理されたグループ、除外されたグループ、ユーザー ストアなどが含まれます。

Profile Management を有効にする。エージェントマシンでProfile Managementサービスを有効にするかどうかを制御します。無効にすると、Profile Managementサービスは機能しません。

エージェントにすでに展開されている設定が処理されなくなるように、Profile Management を完全に無効にしたい場合があります。その目的を達成するには、次の手順を実行します。

1. **Profile Management を有効にする**チェックボックスをオフにし、変更が自動的に適用されるのを待つか、すぐに適用されるように手動で変更を適用します。

> **注:**
>
> 変更が有効になるまでには、詳細設定で**SQL設定の更新遅延**に指定した値に応じて時間がかかります。変更をすぐに有効にするには、エージェントホストの設定を更新し、関連するすべてのエージェントのProfile Management設定をリセットします。管理を参照してください。

2. 変更が有効になったら、**Profile Management設定**を無効にします。

処理されるグループを設定する。Profile Managementによって処理されるグループを指定できます。指定されたグループのみがProfile Management設定を処理されます。空のままにすると、すべてのグループが処理されます。

除外されるグループを設定する。Profile Managementから除外されるグループを指定できます。

ローカル管理者のログオンを処理する。有効にすると、Profile Managementではローカル管理者のログオンが非管理者のログオンと同じように扱われます。

ユーザー ストアへのパスを設定する。ユーザー ストア（Citrixユーザープロファイルの中央の場所）へのパスを指定できます。絶対UNCパスまたはホームディレクトリからの相対パスを入力します。パスの例：

- `\\<IP address or FQDN>\<user store directory>\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!`!

ユーザー ストアを移行する。ユーザー設定（レジストリの変更と同期ファイル）が保存されたフォルダーへのパスを指定できます。以前使用していたユーザー ストアのパスを入力します。このオプションは、**ユーザー ストアへのパスを設定する**オプションと組み合わせて使用します。

アクティブライトバックを有効にする。有効にすると、ユーザーセッション中にプロファイルがユーザー ストアに書き戻され、データ損失を防ぎます。

- **アクティブライトバックレジストリを有効にする**。有効にすると、ユーザーセッション中にレジストリエントリがユーザー ストアに書き戻され、データ損失を防ぎます。
- **セッションロックおよび切断時にアクティブライトバックを有効にする**。有効にすると、プロファイルファイルとフォルダーは、セッションがロックまたは切断された場合にのみ書き戻されます。このオプションと**アクティブライトバックレジストリを有効にする**オプションの両方

が有効になっている場合、レジストリエントリは、セッションがロックまたは切断された場合にのみ書き戻されます。

オフラインプロファイルサポートを有効にする。有効にすると、接続されていない間も使用できるように、プロファイルがローカルにキャッシュされます。

プロファイルコンテナ

プロファイルコンテナの設定を構成します。プロファイルコンテナは、ネットワークに保存され、ログオン時にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされるVHDXディスクです。

プロファイルコンテナを有効にする。プロファイルコンテナに含めるフォルダーを追加できます。ユーザープロファイル全体をプロファイルコンテナに入れるには、代わりにアスタリスク (*) を追加します。有効にすると、Profile Managementはリストされたフォルダーをネットワークに保存されているプロファイルディスクにマッピングし、フォルダーのコピーをローカルプロファイルに保存する必要がなくなります。プロファイルコンテナに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定します。

- **プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする**。有効にすると、各ローカルプロファイルは、そのプロファイルコンテナのローカルキャッシュとして機能します。このオプションでは、ユーザープロファイル全体をプロファイルコンテナに入れる必要があります。
- **ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーをログオフする。** ユーザーログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合に、ユーザーを強制的にログオフするかどうかを指定できます。このオプションを有効にすると、ユーザーに通知メッセージが表示され、 をクリックするとログオフされます。

フォルダーの除外を有効にする。有効にすると、Profile Managementはリストされたフォルダーをプロファイルコンテナから除外します。プロファイルコンテナから除外するフォルダーを少なくとも1つ指定します。

ファイルの除外を有効にする。有効にすると、Profile Managementはリストされたファイルをプロファイルコンテナから除外します。プロファイルコンテナから除外するファイルを少なくとも1つ指定します。

フォルダーの包含を有効にする。有効にすると、Profile Managementは、親フォルダーが除外されている場合でも、リストされたフォルダーをプロファイルコンテナに保持します。このリストのフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。これは、このオプションを**フォルダーの除外を有効にする**オプションと組み合わせて使用する必要があることを意味します。プロファイルコンテナに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定します。

ファイルの包含を有効にする。有効にすると、Profile Managementは、親フォルダーが除外されている場合でも、リストされたファイルをプロファイルコンテナに保持します。このリストのファイルは、除外されたフォルダーに含まれている必要があります。これは、このオプションを**フォルダーの除外を有効にする**オプションと組み合わせて使用する必要があることを意味します。プロファイルコンテナに含めるファイルを少なくとも1つ指定します。

> **ヒント:**

> ファイルまたはフォルダーを追加する際に、ワイルドカードを使用できます。詳細については、「ワイルドカードのサポート」を参照してください。

> プロファイルコンテナのコンテンツ、除外、および包含を追加する場合、個別に、または一括で追加できます。一括で追加する場合は、改行で区切られたパスを入力します。その後、**検証を実行**をクリックして、追加しようとしている項目を検証します。有効な項目のみが追加されます。無効な項目はスキップされます。

また、プロファイルコンテナのコンテンツ、除外、および包含を階層ビューで表示することもできます。これを行うには、**階層を表示**をクリックします。

プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にする。 有効にすると、プロファイルコンテナの使用率が90%に達したときに、自動的に10 GB拡張され、最大容量は80 GBになります。必要に応じて、以下のオプションを使用してデフォルトの自動拡張設定を調整できます。

- **自動拡張トリガーしきい値 (%)。** プロファイルコンテナが自動拡張をトリガーするストレージ容量の使用率を指定できます。
- **自動拡張増分 (GB)。** 自動拡張がトリガーされたときに、プロファイルコンテナが自動的に拡張するストレージ容量 (GB単位) を指定できます。
- **自動拡張制限 (GB)。** 自動拡張がトリガーされたときに、プロファイルコンテナが自動的に拡張できる最大ストレージ容量 (GB単位) を指定できます。

プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループを設定する。 プロファイルコンテナに対する読み取りと実行のアクセス許可を持つADドメインユーザーとグループを指定できます。デフォルトでは、プロファイルコンテナはその所有者のみがアクセスできます。

BindLinkリダイレクトを有効にする。 有効にすると、Profile ManagementはMicrosoft BindLink APIを使用して、プロファイルコンテナ内のファイルシステムリダイレクトを処理します。この機能は、Windows 11 24H2、Windows Server 2025、またはそれ以降でのみサポートされています。

プロファイルの処理

Profile Managementがユーザープロファイルを処理する方法を指定します。

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する。 有効にすると、ユーザーがログオフしたときにローカルにキャッシュされたプロファイルが削除されます。

- **キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延を設定する。** ログオフ時にキャッシュされたプロファイルが削除されるまでの遅延時間 (秒単位) を指定できます。サポートされる値：0〜600。

既存のプロファイルの移行を有効にする。 有効にすると、既存のWindowsプロファイルはログオン時にProfile Managementに移行されます。ユーザーストアが空の場合に移行するユーザープロファイルのタイプを指定します。タイプには以下が含まれます。

- ローカルおよびローミング
- ローカル
- ローミング

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行。 有効にすると、既存のアプリケーションプロファイルが自動的に移行されます。Profile Managementは、ユーザーがログオンしたとき、およびユーザーストアにユーザープロファイルがないときに移行を実行します。

ローカルプロファイルの競合処理を有効にする。Profile Management と Windows プロファイルが競合する場合の WEM の処理方法を設定します。ユーザー ストアにローカル Windows ユーザー プロファイルと Citrix ユーザー プロファイルの両方が存在する場合の処理を指定します。

- ローカルプロファイルを使用する
- ローカルプロファイルを削除する
- ローカルプロファイルの名前を変更する

テンプレートプロファイルを有効にする。テンプレートプロファイルのパスを入力できます。有効にすると、Profile Management は指定されたテンプレートプロファイルを使用します。追加設定は次のように構成できます。

- **テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする**。有効にすると、テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きします。
- **テンプレートプロファイルがローミングプロファイルを上書きする**。有効にすると、テンプレートプロファイルがローミングプロファイルを上書きします。
- **すべてのログオンでテンプレートプロファイルを Citrix 強制プロファイルとして使用する。**有効にすると、テンプレートプロファイルが他のすべてのプロファイルを上書きします。

詳細設定

Profile Management の詳細構成を制御します。

アプリケーション

Microsoft Outlook ユーザーの検索インデックスローミングを有効にする。有効にすると、ユーザー固有の Microsoft Outlook オフラインフォルダファイル (*.ost) と Microsoft 検索データベースがユーザープロファイルとともにローミングされます。この機能により、Microsoft Outlook でメールを検索する際のユーザーエクスペリエンスが向上します。

- **Outlook 検索インデックスデータベース – バックアップと復元。**有効にすると、Profile Management は検索インデックスデータベースの最後に正常だったコピーのバックアップを自動的に保存します。破損が発生した場合、Profile Management はそのコピーに戻します。その結果、検索インデックスデータベースが破損した場合に、手動でデータベースを再インデックスする必要がなくなります。
- **同時セッションのサポートを有効にする。**同時セッションでネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを提供します。有効にすると、各同時セッションは個別の Outlook OST ファイルを使用します。
    - **Outlook OST ファイルを保存するための VHDX ディスクの最大数。**Outlook OST ファイルを保存するための VHDX ディスクの最大数を指定できます。指定しない場合、Outlook OST ファイルの保存には VHDX ディスクを 2 つのみ使用できます (ディスクごとに 1 ファイル)。さらにセッションが開始されると、それらの Outlook OST ファイルはローカルユーザープロファイルに保存されます。サポートされる値: 1〜10。

OneDrive コンテナを有効にする。有効にすると、Profile Management は OneDrive フォルダを VHDX ディスクに保存することで、ユーザーとともにローミングします。ディスクはログオン時にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされます。

UWPアプリのローミングを有効にする。 有効にすると、UWP (ユニバーサル Windows プラットフォーム) アプリはユーザーとともにローミングします。その結果、ユーザーは異なるデバイスから同じUWPアプリにアクセスできます。

UWPアプリのロード高速化を有効にする。 UWPアプリのロードを高速化し、非永続環境での一貫性を向上させることができます。デフォルトでは、WindowsはUWPアプリの登録情報を各マシンにローカルに保存しますが、非永続環境では再起動時に失われる可能性があります。このポリシーを有効にすると、Profile Managementは各マシン用にVHDXコンテナを作成し、UWPアプリの登録データを保存することで、ユーザーログオンを高速化し、再起動時のデータ損失を防ぎます。

アプリケーション定義ファイルの使用を有効にする。 定義ファイルへのパスを入力できます。有効にすると、定義ファイルに含まれる設定のみが同期されます。Citrix仮想アプリ最適化定義ファイルが配置されているフォルダを指定します。定義ファイルの作成の詳細については、「定義ファイルの作成」を参照してください。

VHD設定

VHDコンテナのデフォルト容量 (GB)。 各VHDコンテナのデフォルトのストレージ容量 (GB単位) を指定できます。

VHDXファイルのストレージパスをカスタマイズする。 VHDXファイルを保存するための個別のパスを指定できます。デフォルトでは、VHDXファイルはユーザーストアに保存されます。VHDXファイルを使用するポリシーには、プロファイルコンテナ、Outlookの検索インデックスローミング、フォルダミラーリングの高速化などがあります。有効にすると、異なるポリシーのVHDXファイルは、ストレージパスの下の異なるフォルダに保存されます。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする。 FSLogixプロファイルコンテナとCitrix Profile Managementプロファイルコンテナの両方でマルチセッションライトバックを有効にできます。同じユーザーが異なるマシンで複数のセッションを起動した場合、Profile Managementは各セッションで行われた変更をユーザーのプロファイルコンテナに同期して保存します。

マシンの休止状態に対するマルチセッションサポートを有効にする。 有効にすると、休止状態のセッションで使用されているVHDXディスクは、他のセッションに再割り当てされません。これにより、マシンが休止状態から回復した後もユーザープロファイルを再開でき、セッションの継続性が確保されます。

VHDディスクの圧縮を有効にする。 有効にすると、特定の条件が満たされた場合に、ユーザーログオフ時にVHDディスクが自動的に圧縮されます。このポリシーにより、プロファイルコンテナ、OneDriveコンテナ、およびミラーフォルダコンテナによって消費されるストレージスペースを節約できます。必要に応じて、また利用可能なリソースに応じて、「詳細設定」にある**VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする**、**VHDディスク圧縮をトリガーする空き領域比率を設定する**、および**VHDディスク圧縮をトリガーするログオフ回数を設定する**オプションを使用して、デフォルトのVHD圧縮設定と動作を調整できます。

- **VHDディスク圧縮をトリガーする解放可能領域比率を設定する。** VHDディスク圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスク圧縮をトリガーする解放可能領域比率を指定できます。ユーザーログオフ時に解放可能領域比率が指定された値を超えると、ディスク圧縮がトリガーされます。

- 解放可能領域比率 = (現在のVHDファイルサイズ – 必要な最小VHDファイルサイズ*) ÷ 現在のVHDファイルサイズ

  Microsoft Windowsオペレーティングシステムの`MSFT_Partition`クラスの`GetSupportedSize`メソッドを使用して取得されます。

- **VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする。** VHDディスク圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスク圧縮のファイルデフラグを無効にするかどうかを指定できます。
- **VHDディスク圧縮をトリガーするログオフ回数を設定する。** VHDディスク圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスク圧縮をトリガーするユーザーログオフ回数を指定できます。前回の圧縮以降のログオフ回数が指定された値に達すると、ディスク圧縮が再度トリガーされます。

プロファイルコンテナへの排他的アクセスを有効にする。 有効にすると、プロファイルコンテナは一度に1つのアクセスのみを許可します。

OneDriveコンテナへの排他的アクセスを有効にする。有効にすると、OneDriveコンテナは一度に1つのアクセスを許可します。

ユーザー ストア

ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数を設定する。WEMエージェントがロックされたファイルへのアクセスを再試行する回数を構成します。サポートされる値：0～100。

ユーザーストアをレプリケートする。有効にすると、Profile Managementは、**ユーザーストアへのパスを設定**オプションで指定されたパスに加えて、ログオフごとにユーザーストアを複数のパスにレプリケートします。セッション中に変更されたファイルとフォルダーをユーザーストアに同期するには、アクティブなライトバックを有効にします。このオプションを有効にすると、システムI/Oが増加し、ログオフが長くなる可能性があります。

デフォルトでは、複数のユーザーストアが利用可能な場合、Profile Managementは最新のプロファイルデータを持つストアを選択します。複数のストアが最新のプロファイルを持っている場合、Profile Managementは最も早く構成されたストアを選択します。**ユーザーストア選択方法**オプションを使用すると、Profile Managementで最適なアクセスパフォーマンスを持つストアを選択できるようになります。

コンテナベースのプロファイルソリューションで**ユーザーストアをレプリケートする**ポリシーを有効にすると、セッション全体のプロファイル冗長性を確保するために、**ユーザーストア間のセッション内プロファイルコンテナフェールオーバーを有効にする**ポリシーが自動的に有効になります。このポリシーが有効になっている場合、セッション中にProfile Managementがアクティブなプロファイルコンテナへの接続を失うと、自動的に別の利用可能なコンテナに切り替わりま

す。このポリシーを無効にすると、プロファイルコンテナのフェールオーバーはユーザーログオン時にのみ発生します。

> **注:**
>
> このポリシーを有効にするには、展開でプロファイルコンテナのみが有効になっている必要があります。**OneDrive**、**UWP**、**Outlook**、**フォルダーミラーリング**、**保留領域のプロファイルストリーミング**などの他のコンテナが有効になっている場合、このポリシーは適用されません。

ログオフ時に同期されるユーザーストアの数を制限する。デフォルトでは、ユーザーログオフ時にプロファイルがすべてのユーザーストアに同期されるため、ログオフプロセスが延長され、その後のログオンが遅れる可能性があります。このオプションを有効にすると、ログオフ中に同期されるユーザーストアの数を指定できます。指定された数にはメインのユーザーストアが含まれ、残りのユーザーストア（存在する場合）はログオフ完了後に同期されます。サポートされる値：1〜8。

ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする。無効にすると、Profile Managementは現在のユーザーを偽装してユーザーストアにアクセスします。したがって、現在のユーザーがユーザーストアに直接アクセスできることを確認してください。有効にすると、Profile Managementは、詳細設定 > ファイル共有 > SMB共有で関連サービス用に構成された接続を介して、ユーザーに代わってユーザーストアにアクセスします。（必要に応じて、Profile Managementはユーザーストアをホストする選択されたSMB共有にアクセスします。）この設定を有効にすると、現在のユーザーがアクセス権を持たないファイル共有（Azure Filesなど）にユーザーストアを配置できます。このオプションを使用する場合は、以下を考慮してください。

- ユーザーストアをホストするSMB共有を追加するには、**詳細設定 > ファイル共有 > SMB共有**に移動します。
- 関連サービス用に**ファイル共有**で選択したSMB共有がここに表示されます。Profile Managementは、必要に応じて選択されたSMB共有にアクセスします。

> **重要:**
>
> この設定を無効にすると、WEMエージェントが以前に確立したすべてのユーザーストア接続が削除されます。

- 資格情報を追加または編集するときは、次のフィールドに入力します。
  - **サーバー共有**。サーバー共有を指定するUNCパスを入力します。
  - **ユーザー名**。`domain\username`の形式で名前を入力します。
  - **パスワード**。サーバー共有へのアクセスに使用するパスワードを入力します。
  - **パスワードを表示**。パスワードを表示するか非表示にするかを制御します。

その他のオプション

自動構成を無効にする。有効にすると、動的構成が無効になります。

ログオン時にユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする。有効にすると、Profile Managementは、次回のユーザーログオン時の処理モード（同期処理モードまたは非同期処理モード）を決定するためにWindowsが使用するレジストリ値をユーザーとともにローミングします。レジストリ値が存在しない場合は、同期モードが適用されます。このオプションを有効にすると、ユーザーがログオンするたびに実際の処理モードが適用されます。無効にすると、ユーザーが次の条件を満たす場合、非同期モードは期待どおりに適用されません。

- 異なるマシンにログオンする。
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するオプションが有効になっている同じマシンにログオンする。
- 異なるマシンにログオンする。
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するオプションが有効になっている同じマシンにログオンする。

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する。有効にすると、古いCookieはログオフ時に削除されます。

プロファイルサイズがクォータを超過した場合にユーザーに警告する。有効にすると、プロファイルサイズがクォータを超過したときに、ユーザーに通知メッセージが送信されます。この機能を使用すると、デフォルト設定に基づいてクォータ制限と通知内容をカスタマイズできます。サポートされるクォータ範囲は0〜100,000 MBです。

プロファイル読み込みタイムアウトを設定する。Citrix Profile Managementがユーザープロファイルの読み込みを待機する時間を構成し、一時プロファイルに切り替えるまでの時間を設定できます。これにより、ニーズに合わせてよりスムーズで効率的なログオンエクスペリエンスが保証されます。有効なタイムアウト範囲は0〜1,800です。

一般的な使用例：

- **Citrix Appsを実行している非永続的なマルチセッションVDA**。このような環境では、ユーザー固有のデータを読み込む必要がない場合があります。タイムアウトを0秒に設定して、プロファイルの読み込みをバイパスし、一時プロファイルを使用できます。
- **ネットワーク障害の処理**。このポリシーは、プロファイルの読み込みがタイムアウト設定を超過した場合に自動的に一時プロファイルに切り替えることで、ネットワーク障害を軽減します。

> **注:**
>
> - この設定は、*プロファイルの移行*および*プロファイルのリセット*プロセスには適用されません。
> - 特に必要がない限り、タイムアウトを10秒より長く設定することをお勧めします。短いタイムアウトは、通常の状態でもユーザーが予期せず一時プロファイルにログオンする原因となる可能性があります。

> **問題が発生した場合にユーザーをログオフする**。有効にすると、問題が発生した場合にユーザーは一時プロファイルに切り替わるのではなく、ログオフされます。

Citrixカスタマーエクスペリエンス向上プログラムに参加する。有効にすると、Profile Management はカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) を使用して、匿名の統計情報と使用状況情報を収集することで、Citrix 製品の品質とパフォーマンスの向上に役立てます。CEIP の詳細については、「Citrixカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) について」を参照してください。

ファイルの重複排除

重複排除のために共有ストアに含めるファイルを指定します。

さまざまなユーザープロファイル間に同一のファイルが存在する場合があります。これらのファイルをユーザーストアから分離し、一元的な場所に保存することで、重複を回避してストレージスペースを節約できます。

ユーザーストアをホストするサーバー上の共有ストアに含めるファイルを指定できます。ファイル名は、ユーザープロファイルに対する相対パスで指定します。

ファイルの重複排除を有効にする。有効にすると、Profile Management は共有ストアを自動的に生成します。その後、指定されたファイルを、ユーザーストア内の各ユーザープロファイルではな

く、共有ストアに一元的に保存します。これにより、ファイルの重複を回避してユーザーストアの負荷を軽減し、ストレージコストを削減できます。

ヒント:

ファイルまたはフォルダーを追加するときは、ワイルドカードを使用できます。詳しくは、「ワイルドカードのサポート」を参照してください。

包含と除外を追加する場合、個別に、または一括で追加できます。一括で追加する場合は、コンマまたは改行で区切ってパスを入力します。その後、**検証を実行**をクリックして、追加しようとしている項目を検証します。有効な項目のみが追加されます。無効な項目はスキップされます。

デフォルトでは、Profile Management は、プロファイルコンテナーからファイルが 256 MB より大きい場合にのみ重複排除を行います。必要に応じて、**このサイズ以上のファイルを重複排除する (MB)** に大きな値を指定することで、このしきい値サイズを増やすことができます。

ファイルの除外を有効にする。有効にすると、Profile Management は指定されたファイルを共有ストアから除外します。このオプションは、**ファイルの重複排除を有効にする**オプションを有効にした後にのみ使用できます。共有ストアから除外するファイルを少なくとも 1 つ指定します。

ストリーミングユーザープロファイル

Profile Management がストリーミングユーザープロファイルを処理する方法を指定します。

プロファイルストリーミングを有効にする。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

- **フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**。有効にすると、フォルダーはアクセスされたときにのみフェッチされるため、ログオン時にすべてのフォルダーを走査する必要がなくなります。これにより、帯域幅が節約され、ファイルの同期時間が短縮されます。

常にキャッシュする。有効にすると、指定されたサイズ (MB) 以上のファイルは常にキャッシュされます。サポートされる値：0〜20,000。

ユーザー ストアがロックされたままの場合に保留領域内のファイルのタイムアウトを設定する。ユーザー ストアがロックされたままの場合に、保留領域からユーザー ストアにユーザーのファイルが書き戻されるまでの日数を指定できます。サポートされる値: 1〜30。

ストリーム配信されたユーザー プロファイル グループを設定する。ストリーム配信されたプロファイルが使用されるユーザー グループを追加できます。

除外フォルダーを設定する。有効にすると、Profile Management はこのリスト内のフォルダーをストリーム配信せず、ユーザーがログオンしたときにすべてのフォルダーがユーザー ストアからローカル マシンにすぐにフェッチされます。

保留領域のプロファイル ストリーミングを有効にする。有効にすると、保留領域内のファイルは、要求されたときにのみローカル プロファイルにフェッチされます。これにより、同時セッションのシナリオで最適なログオン エクスペリエンスが保証されます。保留領域は、プロファイル ストリーミングが有効になっている間のプロファイルの一貫性を確保するために使用されます。同時セッションで変更されたプロファイル ファイルとフォルダーを一時的に保存します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。保留領域内のすべてのファイルとフォルダーは、ログオン時にローカル プロファイルにフェッチされます。

ログ設定

Profile Management のログを構成します。

ログを有効にする。Profile Management の操作のログを有効または無効にします。

ログにより多くの情報を含める。ログに含める追加情報（またはイベントの種類）を指定できます。以下が含まれます。

- 一般的な警告
- 一般情報
- ファイルシステム通知
- ファイルシステムのアクション
- レジストリアクション
- ログオフ時のレジストリの差異
- Active Directory のアクション
- ログオン時およびログオフ時のポリシー値
- ログオン
- ログオフ
- パーソナライズされたユーザー情報

ログファイルの最大サイズを設定する。Profile Management のログファイルの最大許容サイズを指定できます。ログファイルが最大サイズを超えると、そのバックアップ (.bak) が削除され、ログファイルの名前が .bak に変更され、新しいログファイルが作成されます。サポートされる値: 1～100。

ログファイルへのパスを設定する。ログファイルが作成される場所を指定できます。

レジストリ

Profile Management の処理に含める、または除外するレジストリ キーを指定します。

NTUSER.DAT のバックアップ。有効にすると、Profile Management は NTUSER.DAT ファイルの最後に正常だったバックアップを保持します。Profile Management が破損を検出した場合、最後に正常だったバックアップ コピーを使用してプロファイルを回復します。

デフォルトのレジストリ除外を有効にする。HKCUハイブ内のユーザープロファイルに同期されないレジストリキーのデフォルトリストを提供します。有効にすると、このリストで選択されたレジストリ設定は、Profile Managementプロファイルから強制的に除外されます。

レジストリ除外を有効にする。有効にすると、追加したレジストリ設定は、Profile Managementプロファイルから強制的に除外されます。

レジストリ包含を有効にする。有効にすると、追加したレジストリ設定は、Profile Managementプロファイルに強制的に含まれます。

アプリのアクセス制御

エンドユーザーのアプリケーションへのアクセスを制御したり、ファイル、フォルダー、レジストリ値、キーのリダイレクトを強制したりするためのルールを追加します。

1. 検索ボックスの横にある**アプリのアクセス制御**カテゴリを選択します。
2. **アプリのアクセス制御を有効にする**を選択します。
3. **ルールを追加**をクリックしてルールを追加します。
4. ルールを追加する際、Citrix Environment Tool Hub > Rule Generator for App Access Controlを使用して生成された`.rule`ファイルを参照するか、クリップボードからデータを貼り付けることができます。ルールを追加した後、**管理**をクリックしてルールを表示、編集、または更新します。ルールを表示する際、カテゴリビューと生データビューを切り替えることができます。

ルールを作成する方法は2つあります。

- GUIベースのツール - Citrix Environment Tool Hub > アプリケーションアクセス制御用ルールジェネレーター
- PowerShellツール – Profile Managementインストールパッケージで利用可能

例: HR、営業、R&Dの3つの部門のユーザーに割り当てられたデスクトップで、アプリケーション（App1、App2、App3、App4）を提供する必要があるとします。

- HR部門のユーザーのみがApp1にアクセスできます。

- 営業部門のユーザーのみがApp2にアクセスできます。
- R&D部門のユーザーのみがApp3にアクセスできます。
- すべてのユーザーがApp4にアクセスできます。

この目標を達成するには、1つのイメージのみを使用してルールを展開できます。このイメージには、アプリケーションApp1、App2、App3、App4が含まれています。次に、アプリケーションルールを次のように設定します。

- **App1のルールを作成します**。App1に関連付けられているオブジェクトと、営業部門およびR&D部門のユーザーを追加します。
- **App2のルールを作成します**。App2に関連付けられているオブジェクトと、人事部門およびR&D部門のユーザーを追加します。
- **App3のルールを作成します**。App3に関連付けられているオブジェクトと、人事部門および営業部門のユーザーを追加します。

ワイルドカードのサポート

ファイルまたはフォルダーを追加するときに、ワイルドカードを使用できます。ファイル名内のワイルドカードは再帰的に適用されますが、フォルダー名内のワイルドカードは適用されません。垂直バー (\|) を使用して、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限し、サブフォルダーには適用されないようにすることができます。

例:

- `AppData*.tmp` は、`AppData` フォルダーとそのサブフォルダー内の拡張子 .tmp を持つすべてのファイルを除外します。
- `AppData*.tmp|` は、`AppData` フォルダー内の拡張子 .tmp を持つすべてのファイルを除外します。
- `Downloads*\a.txt` は、`Downloads` フォルダーの直下のサブフォルダーにある `a.txt` を除外します。注意: フォルダー名内のワイルドカードは再帰的に適用されません。
- `Downloads*` は、`Downloads` フォルダーの直下のすべてのサブフォルダーを除外します。

Microsoft USV 設定

これらの設定により、Microsoft User State Virtualization (USV) を最適化できます。

ローミングプロファイルの構成

これらの設定により、Workspace Environment Management と Microsoft ローミングプロファイルの統合を構成できます。

ユーザー状態仮想化構成の処理。エージェントがUSV設定を処理するかどうかを制御します。無効にすると、USV設定は処理されません。

管理者を除外。有効にすると、構成したUSV設定は管理者に適用されません。このオプションを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- **ローミングプロファイル構成**タブと**ローミングプロファイル詳細構成**タブの設定はマシンレベルであり、このオプションが有効になっているかどうかにかかわらず適用されます。
- **フォルダーリダイレクト**タブの設定はユーザーレベルです。このオプションは、設定が管理者に適用されるかどうかを制御します。

Windowsローミングプロファイルパスの設定。Windowsプロファイルへのパスを指定できます。

RDSローミングプロファイルパスの設定。RDSローミングプロファイルへのパスを指定できます。

RDSホームドライブパスの設定。RDSホームドライブへのパスと、ユーザー環境で表示されるドライブ文字を指定できます。

ローミングプロファイルの詳細構成

以下は、ローミングプロファイルの高度な最適化オプションです。

フォルダー除外を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザーのローミングプロファイルに含まれません。これにより、ユーザーがローミングプロファイルの一部として持つ必要のない大量のデータを含むことがわかっている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、デフォルトのWindows 7除外が事前に入力されており、代わりにデフォルトのWindows XP除外を事前に入力することもできます。

ローミングプロファイルのキャッシュされたコピーを削除。有効にすると、エージェントはローミングプロファイルのキャッシュされたコピーを削除します。

管理者セキュリティグループをローミングユーザープロファイルに追加。有効にすると、Administratorsグループがローミングユーザープロファイルの所有者として追加されます。

ローミングプロファイルフォルダーのユーザー所有権を確認しない。有効にすると、エージェントは操作を実行する前に、ユーザーがローミングプロファイルフォルダーを所有しているかどうかを確認しません。

低速ネットワーク接続を検出しない。有効にすると、接続速度の検出がスキップされます。

リモートユーザープロファイルを待機。有効にすると、エージェントはリモートユーザープロファイルが完全にダウンロードされるまで待機してから、その設定を処理します。

プロファイルのクリーンアップ。プロファイルクリーナーウィザードを開きます。これにより、既存のプロファイルを削除できます。

既存のプロファイルを削除するには、**参照**をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダーに移動し、**プロファイルフォルダーのスキャン**をクリックして、Profiles Cleanser ウィンドウでクリーンアップしたいプロファイルフォルダーを選択します。その後、**プロファイルのクリーンアップ**をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルのクリーンアップ。このボタンは、フォルダー除外設定に従って選択されたプロファイルをクリーンアップします。

プロファイルフォルダーのスキャン。指定された再帰設定で指定されたフォルダーをスキャンしてユーザープロファイルを見つけ、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルルートフォルダー。ユーザープロファイルのルートフォルダーです。必要に応じて、このフォルダーを参照することもできます。

検索の再帰性。ユーザープロファイル検索が実行する再帰レベルの数を制御します。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクト構成の処理。このチェックボックスは、エージェントがフォルダーリダイレクトを処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、フォルダーリダイレクトは処理されません。ユーザーのフォルダーがリダイレクトされるかどうか、およびどこにリダイレクトされるかを制御するオプションを選択します。

ローカルリダイレクトフォルダーの削除。有効にすると、エージェントはリダイレクト用に選択されたフォルダーのローカルコピーを削除します。

環境設定

これらの設定により、ユーザー環境設定を構成できます。環境設定の作成、編集、表示、複製、削除、レガシー構成の移行、設定リストの更新が可能です。

> **注:**
>
> 既にユーザーに割り当てられている環境設定を削除すると、それらのユーザーに影響を与えます。

環境設定の作成

1. **環境設定**で、**追加**をクリックします。

2. 次の設定を構成します。

   - **名前**。設定を識別するための名前を指定します。
   - **フィルター**。設定が**全員**に割り当てられるタイミングを制御するフィルターを指定します。「フィルター」を参照してください。
   - **優先度**。**全員**に対する設定の優先度を設定します。
   - **この構成を適用**。上記のフィルターと優先度に基づいて、設定を**全員**に割り当てるかどうかを制御します。
   - **設定の詳細**。環境設定の詳細を構成します。

3. **完了**をクリックして保存し、終了します。
4. **GPO処理を有効にする**をクリックして、この構成セットのGPO処理を有効にします。環境設定は、GPO処理が有効になっている場合にのみ適用されます。

レガシー構成の移行

レガシーの管理コンソール - ポリシーとプロファイル - 環境設定で環境設定がすでに構成されている場合は、それらをWebコンソールに移行できます。

1. アクションバーで**レガシー構成の移行**をクリックします。
2. 移行する構成をプレビューします。
3. 「**保存**」をクリックします。

スクリプトタスク

> **ヒント:**

> スクリプトタスクはマシンレベルで動作します。ユーザーセッションレベルでタスクを実行するには、代わりに外部タスクを使用します。

> このページでは、環境管理のニーズに合わせてスクリプトタスクを構成および自動化できます。

スクリプトタスクを作成する

スクリプトは、**組み込みスクリプト**と**カスタムスクリプト**の2種類に分類されます。各タイプには、**スクリプトビュー**と**タスクビュー**の2つの表示モードがあります。すべてのスクリプトタスクは、構成セットレベルで実行されます。

スクリプトからタスクを作成するには、次の手順に従います。

1. **スクリプトタスク**ページで、**スクリプトビュー**を選択し、特定のスクリプトを見つけて、**タスクの作成**（+）アイコンをクリックします。
2. **タスクの作成**ウィザードで、次の設定を構成します。
    - 一般
    - トリガー
    - パラメーター
    - 出力
3. 「**完了**」をクリックします。

> **注:**
>
> スクリプトタスクを作成したら、スクリプトリストから直接管理できます。スクリプトを展開してタスクを表示し、タスク行にカーソルを合わせると、**表示**、**編集**、**削除**のアクションアイコンにアクセスできます。

一般

一般ページで、次の設定を構成します。

- **このタスクを有効にする**。現在の構成セットでタスクを有効にする（**はい**）か無効にする（**いいえ**）かを選択します。無効になっている場合、エージェントはタスクを処理しません。
- **署名の検証**。タスクを実行する前に署名を検証するかどうかを選択します。スクリプトタスクにフルアクセスが許可されている場合、署名検証は必須です。
- **タスクのタイムアウト**。タスクのタイムアウト（分単位）を設定するかどうかを選択します。タイムアウトが発生すると、タスクは強制的に終了されます。サポートされる値: 1〜60。タスクにタイムアウトを設定することをお勧めします。そうしないと、タスクが実行されたままになり、他のタスクの実行が妨げられる可能性があります。
- **フィルター**。フィルターを選択してタスクをコンテキスト化するかどうかを選択します。フィルターが選択されている場合、このタスクはフィルター内のすべての条件が満たされた場合にのみ実行されます。フィルターを選択する際は、次の点を考慮してください。
    - フィルターにスクリプトタスクに適用されない条件が含まれている場合、エージェントはタスクを実行する前にフィルターを評価する際にそれらの条件をスキップします。スクリ

プトタスクに適用されない条件の完全なリストについては、「マシン設定に適用されない条件」を参照してください。

トリガー

トリガーページで次の設定を構成します。

- タスクのトリガーを構成します。次のことができます。
  - タスクに関連付けるトリガーを選択します。アクティブ化されると、それらのトリガーはユーザー環境でタスクを開始します。
  - このタスクに適用されるトリガーのみを表示するかどうかを選択します。
  - 新しいトリガーを作成します。「トリガーの作成」を参照してください。

> **注:**
>
> 既存のトリガーを編集するには、「トリガー」に移動します。

パラメーター

パラメーターページで次の設定を構成します。

- **スクリプトタスクにパラメーターを渡す**。スクリプトタスクにパラメーターを渡すかどうかを選択します。有効にすると、実行時にスクリプトタスクにパラメーター変数として入力を提供できます。利点は、基になるコードを変更せずにスクリプトタスクの動作を制御できることです。次のパラメータータイプが利用可能です。
  - **整数**。例: `123`。
  - **文字列**。例: `hello world`。
  - **ブール値**。真または偽。
  - **文字**。例: `c`。
  - **スイッチ**。真または偽。
  - **倍精度浮動小数点数**。例: `1.023`。
  - **日付と時刻**。例: `YYYY-MM-DD HH:mm:ss`。
  - **ファイルパス**。`System.IO.FileInfo`クラスに渡すパスを入力します。環境変数がサポートされています。パスには次の文字を含めることはできません: `* ? < >`。

注:

- 最大20個のパラメーターを設定できます。
- 名前フィールドは、「スイッチ」タイプのパラメーターを除き、オプションです。
- PowerShellは部分的なパラメーター名をサポートしています。部分的なパラメーター名を使用する場合は、その名前が一意であることを確認し、既存のパラメーター名と区別してください。例: 次のパラメーター名はPowerShellでは同じです: `-t`、`-ti`、および`-title`。この場合、他のパラメーターと区別するために、パラメーター名の十分な文字数を指定してください。

出力

出力ページで次の設定を構成します。

- **出力ファイル**。タスクが出力するファイルを収集するかどうかを選択します。選択した場合、タスク用に生成されたレポートに出力ファイルの内容が含まれます。これにより、ユーザー環境内の出力ファイルにアクセスすることなく、レポートで出力ファイルの内容を表示できます。
- **出力の強調表示**。出力ファイルの内容とコンソール出力で特定のコンテンツを強調表示するかどうかを選択します。
  - **キーワードの強調表示**。レポートで強調表示するキーワードを指定します。複数のキーワードをコンマで区切って入力できます。キーワードを入力した後、**Enter**キーを押して続行します。指定した場合、キーワードに一致するレポートの内容は、生成されたレポートの**出力ファイルの内容**および**コンソール出力**セクションで強調表示されます。
  - **正規表現の一致を強調表示**。強調表示するコンテンツを記述する正規表現を入力します。正規表現は、PCRE互換である.NET正規表現ライブラリの構文に準拠している必要があります。詳細については、Microsoftドキュメントを参照してください: `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/dotnet/standard/base-types/regular-expression-language-quick-reference>`。
    - **正規表現**。強調表示するコンテンツを記述する正規表現を入力します。
    - **大文字と小文字を区別しない**。コンテンツが大文字と小文字を正確に一致させる必要があるかどうかを選択します。
    - **複数行マッチングを使用する**。出力コンテンツ全体の先頭と末尾ではなく、各行の先頭と末尾に \^ と $ が一致する複数行マッチングを使用するかどうかを選択します。

    - **名前付きグループのみをキャプチャする**。名前付きグループのみをキャプチャするかどうかを選択します。キャプチャされたグループは、正規表現パターンで括弧を使用して定義されます。名前付きグループは、`(?<name> subexpression)` 構文によって明示的に名前または番号が割り当てられます。
    - **コンテキストの手がかりとして含める行数**。ハイライトにコンテキストの手がかりとして含める、一致の前後の行数を指定します。サポートされる値：1〜10。
    - **レポートに正規表現の一致のみを含める**。レポートに出力コンテンツ全体を含めるか、正規表現に一致するコンテンツのみを含めるかを制御します。このオプションを有効にすると、Citrix Cloud に送信されるデータ量が削減されます。このオプションを有効にすると、指定されたキーワードに関係なく、キーワードのハイライト機能には表示するコンテンツがありません。

- **詳細オプション**。

    - **ランタイムエラーが発生した場合でも出力を収集する**。タスクの実行中にエラーが発生した場合でも、出力ファイルの内容とコンソール出力を収集するかどうかを制御します。

スクリプトタスクのレポートを表示する

1. **スクリプトタスク**ページで、スクリプト行のタスクドロップダウンメニューをクリックして、タスクリストを展開します。
2. タスクにカーソルを合わせると、アクションアイコンが表示されます。
3. **レポートの表示**アイコンをクリックします。

その結果、**監視 > レポート**ページに移動し、タスクに関連するレポート（存在する場合）が表示されます。詳細情報を表示するには、省略記号をクリックします。詳細については、「レポート」を参照してください。

> **注:**
>
> **ログオンユーザーとして実行**に設定されているスクリプトタスクを実行するには、**監視 > 管理 > エージェント**で最近接続されたエージェントを選択し、**その他 > スクリプトタスクの実行**を選択します。

アプリケーションパッケージの配信

この機能は、WEMエージェントインストーラーとカスタム`.exe`インストーラーをサポートするエージェントマシン向けに、アプリケーションのインストール/アンインストールタスクを構成できるようにすることで、アプリケーション配信機能を提供します。SMB共有に保存されているインストーラーを含むアプリケーションパッケージを追加し、コマンド、実行条件、およびパッケージの関連設定を指定できます。その後、配信タスクを構成して、スケジュールと実行を処理するルールを使用して、ユーザー環境にアプリケーションを展開できます。アプリケーションパッケージは、すべての構成セットで共有されます。各構成セットでアプリケーションパッケージを含む配信タスクを構成できます。マシン全体のインストーラーのみがサポートされています。

クラウド環境では、組み込みのWEMエージェントパッケージは1つしか利用できません。WEMエージェントパッケージに関連付けられている省略記号を使用して、配信タスクの作成、パッケージの編集、およびパッケージの削除を行うことができます。使用中のすべてのパッケージは削除できません。アプリケーションパッケージと配信タスクをアルファベット順または作成日順に並べ替えることもできます。

ストレージの場所を構成する

現在の構成セットのストレージの場所を構成するには、次の手順を実行します。

1. **ストレージの場所**セクションで、**編集**アイコンをクリックします。
2. 表示される**ストレージの場所**ページで、**新規追加**をクリックします。
3. 表示される**SMB共有の追加**ページで、SMB共有のUNCパスと、その共有へのアクセス権を持つ管理者の資格情報を入力し、**完了**をクリックします。

   > **注:**
   >
   > 管理者資格情報を使用しないでください。読み取り専用アクセス権を持つ専用のSMBユーザー名とパスワードを設定することをお勧めします。

4. 必要に応じて、手順3を繰り返してSMB共有を追加します。
5. **SMB共有**ドロップダウンリストで、インストーラーが保存されているものを選択します。
6. 「**保存**」をクリックします。

> **注:**

> 指定されたストレージの場所は、現在の構成セットにのみ適用されます。インストーラーをSMB共有の次のパス`(Storage location)\Citrix\WEM\AppPackages`に保存し、**保存**をクリックしてください。

アプリケーションパッケージを追加

アプリケーションパッケージを追加するには、次の手順を実行します。

1. **アプリケーションパッケージの追加**ページにアクセスするには、**アプリケーションパッケージの追加 > EXE**をクリックします。このページには、**基本情報**、**実行条件**、および**設定**がツリー構造で表示されます。

   - **実行基準**。アプリパッケージを実行するタイミングを決定する基準を指定する必要があります。実行基準は、**ファイルまたはフォルダーの存在**、**ファイルの作成日**、**ファイルの変更日**、**ファイルのバージョン**、**ファイルサイズ**、**レジストリキーの存在**、**レジストリ値の存在**、および**レジストリ値**に分類されます。パッケージの繰り返し実行によって発生するエラーを防ぐために、基準を構成してください。

     - Windowsの64ビットバージョンでは、`Program Files`ディレクトリ内にファイルまたはフォルダーパスが構成されている場合、**基準タイプ**として**ファイルまたはフォルダーの存在**を選択すると、WEMエージェントは32ビットの`Program Files (x86)`と64ビットの`Program Files`の両方のフォルダーを自動的にチェックします。たとえば、構成されたパスが`C:\Program Files\Test`の場合、WEMエージェントは次の2つのパスの存在を確認します: `C:\Program Files (x86)\Test`と`C:\Program Files\Test`。同様に、構成されたパスが`C:\Program Files (x86)\Test`の場合、WEMエージェントは`C:\Program Files (x86)\Test`と`C:\Program Files\Test`の両方をチェックします。これにより、32ビットおよび64ビットアプリケーションの両方で互換性とアクセス性が確保されます。
     - **基準タイプ**として**ファイルサイズ**を選択した場合、WEMエージェントは、ファイルサイズをキロバイト (KB) で計算する際に、整数部分のみを考慮し、小数点以下の値は無視します。たとえば、ファイルサイズが46,913,080バイトの場合、WEMエージェントはファイルサイズを45,813 KBと計算します (46,913,080を1024で割ると45,813.554になり、小数点以下の部分である**.554**は無視されます)。
     - **基準タイプ**として**レジストリキーの存在**を選択した場合: Windowsの64ビットバージョンでは、レジストリは32ビットキーと64ビットキーに分かれています。レジストリキーを64ビットバージョンとして構成すると、WEMエージェントは32ビットバージョンと64ビットバージョンの両方でレジストリキーの存在を確認しようとします。ただし、レジストリキーを32ビットバージョンとして構成した場合、WEMエージェントは

32ビットバージョンでのみその存在を確認します。たとえば、構成されたレジストリキーが `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\test` の場合、次のいずれかのレジストリキーが存在すれば基準が満たされます: `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\test` または `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\WOW6432Node\test`。構成されたレジストリキーが `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\WOW6432Node\test` の場合、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\WOW6432Node\test` が存在すれば基準が満たされます。

2. 各オプションの下にリストされているフィールドを更新します。
3. 一部のパッケージをインストールまたはアンインストールした後、必要に応じて、**設定**の下にある**実行後にマシンを再起動**チェックボックスを選択できます。

   - アプリケーションパッケージがインストール中にマシンの再起動をトリガーする場合、正確な結果を取得できないため、ステータスは**予期しない再起動**として記録されます。再起動を防ぐためにインストールコマンドにパラメーターを組み込み、この問題に対処するために**実行後にマシンを再起動**チェックボックスも選択してください。
   - アプリケーションパッケージが再起動後に継続的な操作を必要とする場合、パッケージの結果は完全に正確ではない可能性があります。これは、WEMによって開始されなかったパッケージの結果をWEMが取得できないためです。

4. 成功ステータスを示すリターンコードを指定してください。パッケージのリターンコードは**設定**で定義できます。

WEMエージェントアップグレードタスクを作成する

WEMエージェントアップグレードタスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. **配信タスクの作成 > WEMエージェントのアップグレード**タスクタイプを選択して、**配信タスクの作成**ページにアクセスします。このページには、ツリー構造で**基本情報**と**スケジュールとルール**がリストされています。
2. 各オプションの下にリストされているフィールドを更新します。
3. デフォルトでは、**アップグレード先**の下で**最新バージョン**が選択されています。
4. UIモードで実行されているエージェントの場合、**ユーザーによるエージェントの手動アップグレードを許可**を有効にすると、エージェントのユーザーインターフェイスで**アップグレード**オプションが利用可能になります。このオプションを使用して、ドロップダウンメニューで指定されたバージョン (最新の3バージョン) にエージェントをアップグレードできます。この設定は、WEMエージェントアップグレード配信タスクのサブセットです。これは、手動アップグレードタスクが、設定されたルールに従ってWEMエージェントアップグレード配信タスクによって指定されたバージョンにアップグレードされることを意味します。

5. 配信タスクはスケジュールが設定されていないと手動では実行されないため、時間枠と配信タスクを実行する必要がある日を指定して、「**Schedule**」を設定してください。開始時刻と終了時刻は、少なくとも2時間の間隔を空け、同じ日に設定する必要があります。
6. どのエージェントがタスクを実行する必要があるかを決定するために、「**Rules**」を設定することもできます。「**Machine catalog name**」、「**Delivery group name**」、「**Device name**」、「**IP address**」、「**OS platform type**」、「**OS version**」、および「**Persistent machine**」のルールから、「**Match all**」または「**Match any**」を選択できます。

> **注:**
>
> 以下のWEMエージェントアップグレード設定は、2310より前のバージョンでエージェントアップグレードを実行する際に、互換性の問題を引き起こす可能性があります。
>
> - 「**Day of week**」がスケジュール設定で構成されています。
> - ルールは、「**Persistent machine**」以外のルールで構成されています。
> - 「**Match any**」がルールで選択されています。
> - ルールはスケジュールなしで構成されています。

制限事項

- WEMエージェントをアップグレードする場合、2310より前のWEMエージェントバージョンは、現在利用可能なすべてのエージェントアップグレードタスクの中で、最初に作成されたタスクのみを使用できます。

カスタムタスクの作成

カスタムタスクを作成するには、次の手順を完了します。

1. 「**Create delivery task > Custom**」タスクタイプを選択して、「**Create delivery task**」ページにアクセスします。このページには、「**Basic information**」と「**Schedule and rules**」がツリー構造で表示されます。
2. 各オプションの下にリストされているフィールドを更新します。
3. 必要なアプリパッケージを選択し、実行したい順序に並べ替えることができます。
4. 他のスケジュールされたタスクをブロックしないように、「**Task content**」の下にある「**Continue if failed**」を選択して、選択したパッケージ機能（インストール/アンインストー

ル）のいずれかが失敗した場合でも、他のアプリパッケージのシームレスな処理を続行するようにしてください。

5. 「**Wait until the end to reboot**」チェックボックスを選択すると、個々のアプリパッケージの再起動設定は無視され、タスクのリスト全体が実行を終了したときにマシンが再起動します。
6. 「**一度実行**」チェックボックスを選択すると、スケジュールされたタスクを一度だけ実行できます。
7. 配信タスクはスケジュールが設定されていないと手動で実行されないため、配信タスクを実行する必要がある時間枠と曜日を指定して、必ずスケジュールを設定してください。
8. 各パッケージの最大実行時間は60分です。それ以外の場合、パッケージはタイムアウトし、終了します。

詳細については、レポート、エージェント、および詳細設定を参照してください。

詳細設定

これらの設定を使用して、Workspace Environment Management™ (WEM) エージェントがアクションを処理する方法とタイミングを制御します。

エージェント設定

このページでは、WEM エージェントの動作を設定できます。

エージェントオプション

エージェントの設定を構成します。

エージェントの起動動作:

- **ログオン時にエージェントを起動する**。エージェントがログオン時に実行されるかどうかを制御します。
- **再接続時にエージェントを起動する**。ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続したときに、エージェントが実行されるかどうかを制御します。
- **管理者向けにエージェントを起動する**。ユーザーが管理者の場合にエージェントが実行されるかどうかを制御します。
- **デスクトップ互換モードを有効にする**。エージェントが実行されているデスクトップとの互換性を確保します。この設定は、ユーザーがセッションにログオンしたときにエージェントを起動するために必要です。
- **公開アプリケーションでCMDエージェントのみを実行する**。有効にすると、公開アプリケーションでエージェントがUIモードではなくCMDモードで起動します。CMDモードでは、エー

ジェントのスプラッシュ画面の代わりにコマンドプロンプトが表示されます。CMDモードとUIモードの詳細については、「CMDモードとUIモードのエージェント」を参照してください。

エージェント起動の除外:

- **指定されたグループのエージェントを起動しない**。有効にすると、指定されたユーザーグループに属するユーザーに対してCitrix WEM Agent Hostは起動されません。
- **指定されたグループのエージェントのみを起動する**。有効にすると、指定されたユーザーグループに属するユーザーに対してのみCitrix WEM Agent Hostが起動されます。

エージェントログ:

- **エージェントログを有効にする**。有効にすると、エージェントはエージェントログファイルを出力します。
- **デバッグモード**。エージェントの詳細ログを有効にするかどうかを制御します。

更新:

- **環境設定を更新**。有効にすると、エージェントの更新時にユーザー環境設定の更新がトリガーされます。環境設定の詳細については、「環境設定」を参照してください。
- **システム設定を更新**。有効にすると、エージェントの更新時にWindowsシステム設定（Windowsエクスプローラーやコントロールパネルなど）の更新がトリガーされます。
- **環境設定の変更時に更新**。有効にすると、環境設定が変更されたときに、エージェントはエンドポイントでWindowsの更新をトリガーします。
- **デスクトップを更新**。有効にすると、エージェントの更新時にデスクトップ設定の更新がトリガーされます。デスクトップ設定の詳細については、「デスクトップ」を参照してください。
- **外観を更新**。有効にすると、エージェントの更新時にWindowsテーマとデスクトップの壁紙の更新がトリガーされます。

自動更新（UIエージェントのみ）:

- **自動更新を有効にする**。有効にすると、Citrix WEM Agent Hostは自動的に更新されます。デフォルトでは、更新遅延は30分です。

オフラインモード:

- **オフラインモードを有効にする**。無効にすると、エージェントはWEMサービスへの接続に失敗した場合でもキャッシュにフォールバックしません。

- **オンライン時でもキャッシュを使用**。有効にすると、エージェントは常にキャッシュから設定とアクションを読み取ります（キャッシュはエージェントサービスがサイクルするたびに構築されます）。
- **キャッシュを使用してアクション処理を高速化**。有効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスからではなく、エージェントのローカルキャッシュから関連設定を取得してアクションを処理します。これにより、アクションの処理が高速化されます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。以前の動作に戻したい場合は、このオプションを無効にしてください。

> **重要:**
>
> - エージェントのローカルキャッシュは、定期的にWEMサービスと同期されます。そのため、アクション設定の変更が有効になるまでには、**Agent cache refresh delay** オプション（**Advanced Settings > Agent Settings > Agent service options**タイル内）で指定した値に応じて時間がかかります。
> - 遅延を減らすには、より低い値を指定します。変更をすぐに有効にするには、**Monitoring > Administration > Agents > Statistics**に移動し、ターゲットエージェントを選択してから、**More**で**Agent > Refresh cache**を選択します。
> - この設定を無効にしないことをお勧めします。無効にすると、ネットワーク接続が不安定なシナリオでユーザーエクスペリエンスが低下する可能性があります。無効にした場合、WEMサービスへのトラフィック量が多いシナリオでは、管理コンソールを通じて構成したアクションがエージェントホストに適用されない可能性があります。

エージェントサービスオプション

エージェントホストサービスの設定を構成します。

Agent cache refresh delay (min)。この設定は、Citrix WEM Agent Host Serviceがキャッシュを更新するまで待機する時間を制御します。更新により、キャッシュはWEMサービスデータベースと同期されます。デフォルトは30分です。このオプションを使用する際は、次の点に注意してください。

- キャッシュがWEMサービスデータベースと同期する最小間隔は15分です。15分以上の整数を入力してください。
- 実際の同期間隔は異なる場合があります。指定された値に基づいて、WEMエージェントは、エージェントキャッシュ更新遅延がタイムアウトするたびに、ランダムな値が実際の同期間隔

として選択される間隔を計算します。たとえば、値を30分に設定した場合、エージェントはこの間隔からランダムな値を選択します: 。

SQL settings refresh delay (min)。この設定は、Citrix WEM Agent Host ServiceがSQL接続設定を更新するまで待機する時間を制御します。デフォルトは15分です。15分以上の整数を入力してください。

Agent extra launch delay (ms)。この設定は、Citrix WEM Agent Host Serviceがエージェントホスト実行可能ファイルを起動するまで待機する時間を制御します。デフォルトは0です。

ヒント:

エージェントホストにまず必要な作業を完了させたいシナリオでは、エージェントアプリケーションランチャー（VUEMAppCmd.exe）が待機する時間を指定できます。VUEMAppCmd.exeは、Citrix DaaS (formerly Citrix Virtual Apps and Desktops service)およびCitrix Virtual Apps and Desktopsで公開されたアプリケーションが開始される前に、エージェントホストが環境の処理を完了するようにします。待機時間を指定するには、Agent Host Configurationグループポリシーで利用可能なVUEMAppCmd extra sync delay設定を構成します。詳細については、「Install and configure the agent」を参照してください。

Enable debug mode。この設定は、構成セットに接続するすべてのエージェントに対して詳細ログを有効にするかどうかを制御します。

Bypass ie4uinit check。デフォルトでは、Citrix WEM Agent Host Serviceは、エージェントホスト実行可能ファイルを起動する前にie4uinitが実行されるのを待ちます。この設定により、Citrix WEM Agent Host Serviceはie4uinitを待機しないように強制されます。

エージェントのアップグレード

この構成セットにバインドされているすべてのエージェントの自動アップグレードをスケジュールします。

エージェントのアップグレードは、新しい**App Package Delivery**機能内で行われるようになりました。エージェントのアップグレードを構成およびスケジュールするには、**App Package Delivery > Delivery tasks**に移動し、**WEM agent upgrade**デリバリータスクを作成します。以前に構成された設定は、自動的にデリバリータスクに変換されます。

その他

通知、初期環境クリーンアップ、Wake on LANなどの設定を構成します。

通知:

- **接続状態変更の通知を有効にする**。有効にすると、インフラストラクチャサービスへの接続が失われたり復元されたりしたときに、エージェントはエージェントホストに通知メッセージを表示します。Citrixでは、品質の低いネットワーク接続ではこのオプションを有効にしないことをお勧めします。そうしないと、接続状態変更の通知がエンドポイント（エージェントホスト）に頻繁に表示される可能性があります。

追加機能:

- **初期環境クリーンアップ**。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にユーザー環境をクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。
  - ユーザーネットワークプリンター。
    - **Cleanup Actions**タブで**自動作成されたプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントは自動作成されたプリンターを削除しません。
    - **Cleanup Actions**タブで**特定のプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントはリストで指定されたプリンターを削除しません。
  - ホームドライブであるネットワークドライブを除くすべてのネットワークドライブ。
  - すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
  - すべてのタスクバーとスタートメニューにピン留めされたショートカット。
- **初期デスクトップUIクリーンアップ**。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にセッションデスクトップをクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。
  - すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
  - すべてのタスクバーとスタートメニューにピン留めされたショートカット。
- **ユーザーグループのクロスドメイン検索を有効にする**。有効にすると、エージェントはすべてのActive Directoryドメインでユーザーグループを照会します。クロスドメイン検索は時間がかかる場合があります。このオプションは、必要な場合にのみ選択してください。
- **エージェントがキャッシュされたドメイン検索結果を使用できるようにする**。有効にすると、エージェントはドメインクエリ結果のキャッシュを使用して、パフォーマンスと回復性を向上させます。ドメインクエリ結果は最大7日間キャッシュされます。

- **アプリケーションの存在を確認する**。有効にすると、エージェントは、ユーザーがサインインするマシンにアプリケーションが存在することを確認しない限り、ショートカットを作成しません。
- **アプリケーションの環境変数を展開する**。アプリケーションのターゲットパスと作業フォルダー内の環境変数を処理する前に展開するかどうかを制御します。
- **WEMサービスタイムアウト (ms)**。インフラストラクチャサービスへの接続に失敗した場合に、エージェントが独自のキャッシュに切り替えるまでのタイムアウト値。デフォルト値は15000ミリ秒です。
- **エージェントの最大並列度**。エージェントが使用できる最大スレッド数。デフォルト値は0（プロセッサによって物理的に許可される限り多くのスレッド）です。1はシングルスレッド、2はデュアルスレッドなどです。通常、この値を変更する必要はありません。
- **ディレクトリサービスタイムアウト (ms)**。エージェントホストマシン上のディレクトリサービスのタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはユーザーグループ関連付けの独自の内部キャッシュを使用します。デフォルト値は15000ミリ秒です。
- **ネットワークリソースタイムアウト (ms)**。ネットワークリソース（ネットワークドライブまたはネットワーク上にあるファイル/フォルダーリソース）を解決するためのタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはアクションが失敗したと見なします。デフォルト値は500ミリ秒です。

ウェイク・オン・LAN:

このタブを使用して、エージェントホストをリモートで起動します。WEMは、ターゲットエージェントと同じサブネットにあるエージェントを自動的に選択し、それらのエージェントをWake on LANメッセンジャーとして使用します。この機能には、Wake on LANに対応したハードウェアが必要です。この機能を使用するには、ターゲットマシンがハードウェア要件を満たし、関連するBIOS設定が構成されていることを確認してください。

エージェントのWake on LANを有効にする。エージェントホストのWake on LANを有効にするために、Windowsオペレーティングシステムの設定を構成するかどうかを制御します。選択すると、エージェントは次のシステム設定を構成します。

- ネットワークアダプターの**Energy Efficient Ethernet**を無効にする
- ネットワークアダプターの**Wake on Magic Packet**を有効にする
- ネットワークアダプターの**このデバイスでコンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする**を有効にする
- ネットワークアダプターの「**マジック パケットでのみコンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする**」を有効にします

- 「**高速スタートアップを有効にする**」を無効にします

このオプションを有効にした後、**監視 > 管理 > エージェント > 統計**に移動し、リストから1つ以上のエージェントを選択し、**その他**で**電源管理 > ウェイク**を選択して、選択したエージェントを起動します。

アクション設定

このページでは、アクションの処理とクリーンアップに関連する設定を構成できます。

アクション処理

エージェントがアクションを処理する方法とタイミング、および割り当てられていないアクションがデスクトップから削除されるかどうかを制御します。

ログオン時および更新時のアクション処理。以下の設定は、ユーザーがログオンしたとき、およびエージェントが更新されたときにエージェントが処理するアクションを制御します。

- **ログオン時および更新時のアプリケーションの処理**
- **ログオン時および更新時のプリンターの処理**
- **ログオン時および更新時の仮想ドライブの処理**
- **ログオン時および更新時のレジストリの処理**
- **ログオン時および更新時の環境変数の処理**
- **ログオン時および更新時のポートの処理**
- **ログオン時および更新時のINIファイルの処理**
- **ログオン時および更新時に外部タスクを処理する**
- **ログオン時および更新時にファイルシステム操作を処理する**
- **ログオン時および更新時にユーザーDSNを処理する**
- **ログオン時および更新時にFTAを処理する**

その他の設定:

- **ログオン時にポリシーとJSONファイルの処理を待機する**。すべての設定 (GPOとJSONオブジェクト) が処理されるまでユーザーがログオンを完了するようにしたい場合は、このオプションを使用します。

再接続時のアクション処理。以下の設定は、ユーザーがエージェントマシンに再接続したときにエージェントが処理するアクションを制御します。

- **再接続時にアプリケーションを処理する**

- 再接続時にプリンターを処理する
- 再接続時にネットワークドライブを処理する
- 再接続時に仮想ドライブを処理する
- 再接続時にレジストリを処理する
- 再接続時に環境変数を処理する
- 再接続時にポートを処理する
- 再接続時にINIファイルを処理する
- 再接続時に外部タスクを処理する
- 再接続時にファイルシステム操作を処理する
- 再接続時にユーザーDSNを処理する
- 再接続時にFTAを処理する

割り当て解除時にアクションを削除する。これらの設定が有効になっている場合、エージェントは次回更新時に割り当て解除されたアクションをすべて削除します。

- 割り当て解除時にデスクトップからアプリケーションを削除する
- 割り当て解除時にデスクトップからプリンターを削除する
- 割り当て解除時にデスクトップからネットワークドライブを削除する
- 割り当て解除時にデスクトップから仮想ドライブを削除する
- 割り当て解除時にデスクトップからレジストリを削除する
- 割り当て解除時にデスクトップから環境変数を削除する
- 割り当て解除時にデスクトップからポートを削除する
- 割り当て解除時にデスクトップからファイルシステム操作を削除する
- 割り当て解除時にデスクトップからユーザーDSNを削除する
- 割り当て解除時にデスクトップからFTAを削除する

アクション処理を強制する。これらの設定が有効になっている場合、変更が加えられていなくても、エージェントは常にそれらのアクションを更新します。

- アプリケーションの処理を強制する
- プリンターの処理を強制する
- ネットワークドライブの処理を強制する
- 仮想ドライブの処理を強制する

- **環境変数の処理を強制する**
- **ポートの処理を強制する**

フィルター処理を強制する。有効にすると、これらのオプションは、エージェントが更新ごとにフィルターを再処理するように強制します。

- **アプリケーションのフィルター処理を強制する**
- **プリンターのフィルター処理を強制する**
- **ネットワークドライブのフィルター処理を強制する**
- **仮想ドライブのフィルター処理を強制する**
- **レジストリのフィルター処理を強制する**
- **環境変数のフィルター処理を強制する**
- **ポートのフィルター処理を強制する**
- **ファイルシステム操作のフィルター処理を強制する**
- **ユーザーDSNのフィルター処理を強制する**
- **FTAのフィルター処理を強制する**

非同期処理:

- **プリンターを非同期で処理する**。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、プリンターを非同期で処理します。
- **ネットワークドライブを非同期で処理する**。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、ネットワークドライブを非同期で処理します。

アクションのクリーンアップ

このタイルに表示されるオプションは、エージェントが起動時にショートカットやその他の項目（ネットワークドライブやプリンター）を削除するかどうかを制御します。ユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てるときに、ショートカットまたは項目の作成も制御できる場合があります。たとえば、アプリケーションの割り当てを管理するときにアプリケーションショートカットを作成する場所を指定できます。Workspace Environment Managementは、これらのオプションを特定の優先順位に従って処理します。

1. **割り当ての管理**で割り当てられたアクションに対して構成されたオプション。
2. **アクションのクリーンアップ**タイルに表示されるオプション。

たとえば、**割り当ての管理**で割り当てられたアプリケーションに対して**デスクトップショートカットの作成**オプションを有効にしており、アプリケーションショートカットがすでにデスク

トップに作成されているとします。**アクションのクリーンアップ**タイルで**起動時にデスクトップショートカットを削除する**オプションを有効にした場合でも、エージェントの起動時にショートカットはデスクトップに残ります。

アプリケーションショートカット。以下の設定は、起動時に削除するショートカットを制御します。

- 起動時にデスクトップショートカットを削除する。
- 起動時にタスクバーにピン留めされたショートカットを削除する。
- 起動時にクイック起動ショートカットを削除する。
- 起動時にスタートメニューのショートカットを削除します。
- 起動時にスタートメニューにピン留めされたショートカットを削除します。

ネットワークプリンター:

- **起動時にネットワークプリンターを削除する**。有効にすると、エージェントは起動時にすべてのネットワークプリンターを削除します。

ネットワークドライブ:

- 起動時にネットワークドライブを削除する。有効にすると、エージェントは起動時にすべてのネットワークドライブを削除します。

UIエージェントのパーソナライズ

このページでは、ユーザー環境でのエージェント（UIモード）の外観をパーソナライズし、ユーザーがエージェントとどのように対話するかをカスタマイズできます。

外観と操作

UIエージェントの外観と操作をカスタマイズします。

スプラッシュ画面とテーマ:

- **カスタムロゴ**。デフォルトでは、エージェントの起動時または更新時に、ユーザーにはCitrix Workspace™ Environment Managementのロゴが表示されたスプラッシュ画面が表示されます。ロゴを置き換えるために、ユーザー環境からアクセス可能な画像を指定できます。
- **読み込み円の色**。カスタムロゴに合わせて読み込み円の色を変更します。
- **テキストラベルの色**。カスタムロゴに合わせて読み込みテキストの色を変更します。
- **UIエージェントのテーマ**。UIエージェントから開くダイアログの外観テーマを選択します。

- **エージェントのスプラッシュ画面を非表示にする**。有効にすると、エージェントの読み込み中または更新中にスプラッシュ画面が非表示になります。この設定は、エージェントが最初に更新されるときには適用されません。
- **再接続時にエージェントのスプラッシュ画面を非表示にする**。有効にすると、ユーザーがエージェントマシンに再接続したときにスプラッシュ画面が非表示になります。
- **公開アプリケーションのエージェントスプラッシュ画面を非表示にする**。有効にすると、エージェントが実行されている公開アプリケーションのスプラッシュ画面が非表示になります。
- **公開アプリケーションのエージェントアイコンを非表示にする**。有効にすると、公開アプリケーションにエージェントアイコンが表示されません。

ユーザーインタラクション:

- **管理者のみがエージェントを閉じることができる**。有効にすると、管理者のみがエージェントを終了できます。その結果、非管理者向けのエンドポイントでは、エージェントメニューの オプションが無効になります。
- **管理者がエージェントを閉じることを禁止する**。有効にすると、管理者はエージェントを終了できません。
- **管理者の更新フィードバックを無効にする**。選択すると、管理者が管理コンソールを使用してエージェントを更新しても、ユーザー環境に通知は表示されません。
- **ユーザーがアクションをリセットできるようにする**。エージェントメニューに オプションを表示するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。 オプションを使用すると、現在のユーザーは自分の環境でリセットするアクションを指定できます。ユーザーが を選択すると、 ダイアログが表示されます。このダイアログで、ユーザーはリセットする内容を細かく制御できます。ユーザーは該当するアクションを選択し、 をクリックできます。これにより、対応するアクション関連のレジストリエントリがパージされます。

  > **注:**
  >
  > エージェントメニューには、常に次の2つのオプションが表示されます: と 。 オプションは、WEMエージェント設定の即時更新をトリガーします。その結果、管理コンソールで構成された設定はすぐに有効になります。 オプションは、使用中のエージェントのバージョン詳細を表示するダイアログを開きます。

- **ユーザーがアプリケーションを管理できるようにする**。有効にすると、エージェントメニューの オプションがエンドポイントのユーザーに利用可能になります。ユーザーはこのオプション

をクリックして ダイアログを開き、次のオプションを構成できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

- **ユーザーがプリンターを管理できるようにする**。有効にすると、エージェントメニューの オプションがエンドポイントのユーザーに利用可能になります。ユーザーはこのオプションをクリックして ダイアログを開き、デフォルトのプリンターを構成したり、印刷設定を変更したりできます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。
- **エージェントメニューに を表示する**。有効にすると、エージェントメニューに オプションが表示されます。表示されている場合、ユーザーは自分に割り当てられているアプリケーションを表示できます。
- **エージェントメニューに を表示する**。エージェントメニューに オプションを表示します。表示されている場合、ユーザーはメニューから を有効または無効にできます。

ヘルプデスクオプション

ヘルプとサポートのリンクを指定し、画面キャプチャオプションを設定します。

ヘルプとサポート

- **ヘルプリンク**。ユーザーがヘルプを要求できるWebリンクを入力します。指定されている場合、ユーザーはエージェントメニューにヘルプオプションを表示します。クリックするとWebサイトが開きます。
- **サポートリンク**。ユーザーがサポート関連情報にアクセスできるWebリンクを入力します。指定されている場合、ユーザーはエージェントメニューにサポートオプションを表示します。クリックするとWebサイトが開きます。

画面キャプチャ

画面キャプチャを有効にする。エージェントメニューに**キャプチャ**オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーはこのオプションを使用して画面キャプチャツールを開くことができます。このツールには次のオプションがあります。

- **新規キャプチャ**。ユーザー環境のエラーのスクリーンショットを撮ります。
- **保存**。スクリーンショットを保存します。
- **サポートに送信**。スクリーンショットをサポートスタッフに送信します。

サポートに送信オプションを表示。画面キャプチャツールに**サポートに送信**オプションを表示するかどうかを制御します。有効にすると、ユーザーはこのオプションを使用して、スクリーンショットとログファイルを指定された形式で、指定されたサポートメールアドレスに直接送信できます。この設定には、動作する構成済みのメールクライアントが必要です。

サポートメールアドレス。メールアドレスを入力します。

メールテンプレート。画面キャプチャツールがサポートメールを送信するために使用するメールコンテンツテンプレートを指定します。このフィールドは空にできません。

> **注:**
>
> メールテンプレートで使用できるハッシュタグのリストについては、動的トークンを参照してください。ユーザーは、`##UserScreenCaptureComment## hash-tag`がメールテンプレートに含まれている場合にのみ、コメントを入力するオプションが表示されます。

> **カスタム件名**。画面キャプチャツールがサポートメールを送信するために使用するメール件名テンプレートを指定します。

SMTPを使用してメールを送信。有効にすると、MAPIの代わりにSMTPを使用してサポートメールを送信します。

省電力

エージェントマシンをシャットダウンまたはサスペンドするタイミングを指定します。

- **指定した時刻にシャットダウン**。有効にすると、エージェントは指定した時刻に実行中のマシンを自動的にシャットダウンします。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。
- **アイドル時にシャットダウン**。有効にすると、エージェントはマシンが指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）になった後、実行中のマシンを自動的にシャットダウンします。
- **シャットダウンではなくサスペンド**。有効にすると、エージェントは指定された時刻に、またはマシンが指定された時間アイドル状態になった後、実行中のマシンをサスペンドします。

監視設定

このページには、次の設定が含まれています。

- **アクション処理結果**。アクション処理の結果を収集し、レポートを表示できます。結果を収集するアクションを選択します。

  > **注:**
  >
  > 結果は4時間ごとにアップロードされます。エージェントから結果をすぐにアップロードするには、監視 > 管理 > エージェント の **エージェントから統計情報を取得** オプションを使用します。

    - **グループポリシー設定**
    - **外部タスク**
    - **JSONファイル**

- **追加設定。** エージェントレポートの処理方法を構成します。
    - **Agent Insights に表示するためにレポートをローカルに保存。**エージェントがレポートをローカルに保存し、**Agent Insights** に表示できるようにします。この設定が有効になっている場合、次の **保存するレポート** オプションが自動的に選択されます。
        - **保存するレポート。**ローカルに保存するレポートの種類を指定します。
            - **ログオン分析**: ログオン分析レポートを保存します。
            - **プロファイルインサイト**: プロファイルコンテナインサイトレポートを保存します。
    - **ローカルに保存されたエージェントレポートの代替場所を設定します。** レポートを保存するための代替場所を指定します。
- **最適化と使用状況のインサイト。**アプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。エージェントがインサイトのためにデータを収集およびアップロードするかどうかを制御するには、次のオプションを使用します。
    - **最適化と使用状況のインサイトのためのデータ収集とアップロードを有効にする**

  オプションを有効にすると、データ更新が完了するまでに数時間かかる場合があります。
- **プロファイルインサイト。**Profile ManagementおよびFSLogixのプロファイルコンテナに関するインサイトを得ることができます。エージェントがプロファイルコンテナ上の大きなファイルをスキャンするかどうかを制御するには、次のオプションを使用します。
    - **大きなファイルのスキャンを有効にする**

      有効にすると、コンテナの使用量が指定されたしきい値を超えたときに、プロファイルコンテナ上の大きなファイルをスキャンします。スキャンは24時間に1回に制限されます。ファイルのサイズに基づいて、どのファイルを大きなファイルとして扱うかを指定できます。
- **Profile Managementヘルスチェック。**Profile Managementヘルスチェックレポートに含める設定の範囲を指定できます。ヘルスチェックは24時間ごと、またはオンデマンドで実行されます。レポートに含めるProfile Management設定を選択します。

> **注:**
>
> - オンデマンドでヘルスチェックを実行するには、監視 > 管理 > エージェントの**Profile Managementヘルスチェックを実行**オプションを使用します。
> - 加えた変更は新しいレポートにのみ反映され、既存のレポートには影響しません。各エージェントについて、最新のレポートのみが保持されます。

- **セキュリティログ**。セキュリティルールの実行に関するログを収集し、レポートを生成できます。レポートに含めるセキュリティ側面を選択します。
  - **特権昇格**セキュリティ側面は、**EXE特権昇格**、**MSI特権昇格**、および**自己昇格**のイベントのログ収集を制御します。
  - **プロセス階層制御**セキュリティ側面を選択すると、**ブロックされたアクティビティ**オプションがデフォルトで選択されますが、**許可されたアクティビティ**オプションは編集できます。
  - 「**アプリケーションセキュリティログ**」セキュリティ側面を選択すると、「**ブロックされたアクティビティ**」オプションがデフォルトでチェックされ、「**監査されたアクティビティ**」および「**許可されたアクティビティ**」オプションは編集できます。

  詳細については、「レポート」を参照してください。
- **アプリケーション配信結果**。アプリケーション配信の結果を収集し、レポートを生成できます。「**アプリケーション配信タスクの結果**」チェックボックスをオンにすると、エージェントはレポートを収集し、WEMサーバーにアップロードします。詳細については、「レポート」を参照してください。

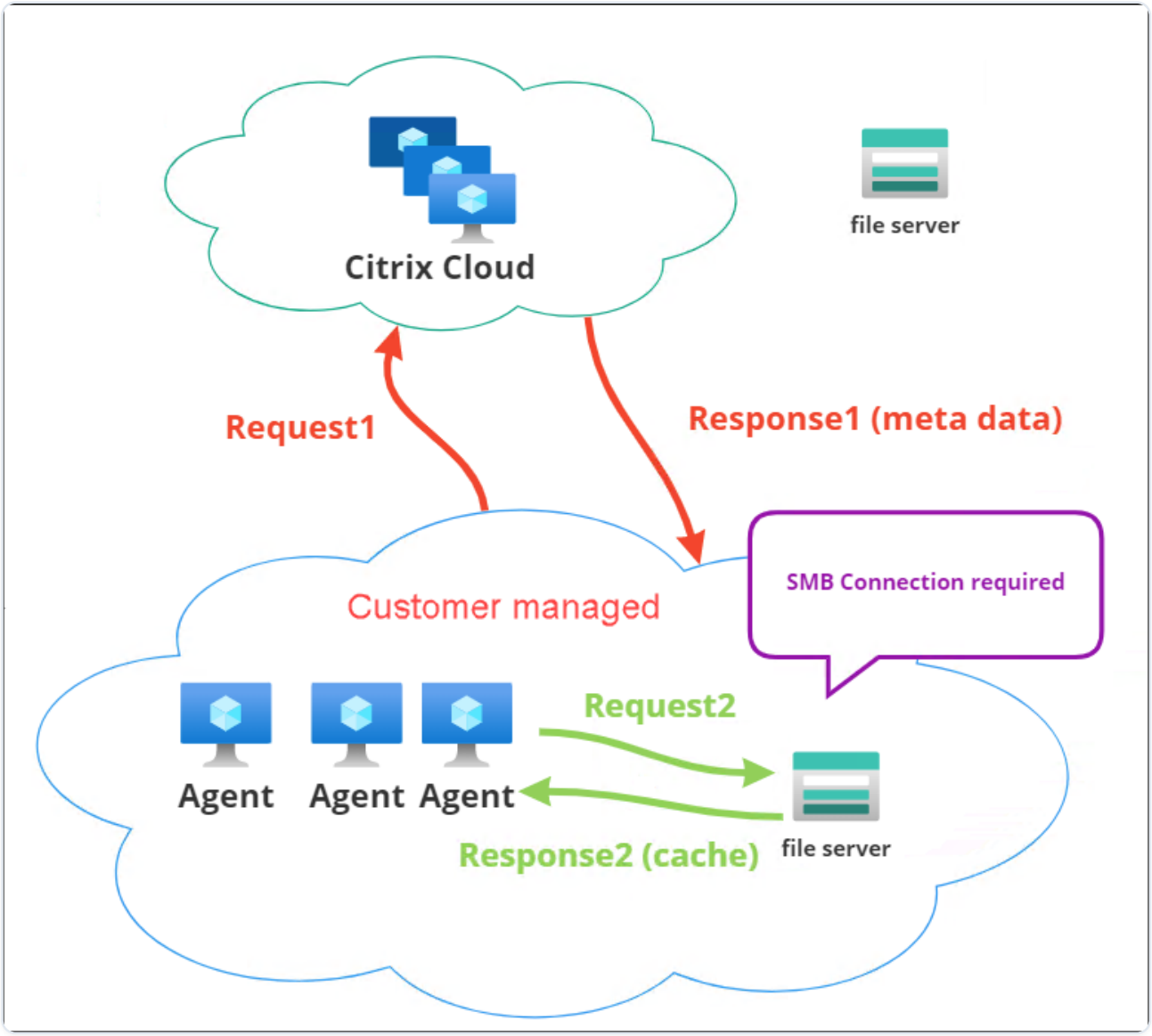
> **注:**
>
> - 結果は4時間ごとにアップロードされます。エージェントから結果をすぐにアップロードするには、監視 > 管理 > エージェント の「**エージェントから統計を取得**」オプションを使用します。

- **VHD管理**。VHD管理に関連する操作の結果を収集し、レポートを生成します。VHDディスクの圧縮を選択すると、エージェントは関連するレポートを収集し、WEMサービスにアップロードします。詳細については、「レポート」を参照してください。

ファイル共有

このページでは、WEMが接続できるSMB共有を追加できます。その後、必要な機能のために共有を構成し、それらの機能が必要に応じて共有を使用できるようにします。SMB共有を使用すると、ネットワーク上のトラフィックが減少し、エージェントマシンへのファイルのダウンロード時間が短縮されます。

次の図は、ファイル共有の仕組みの概要を示しています。



ファイルのダウンロードは、特定のエージェントマシンから開始されます。この最初のダウンロードはCitrix Cloudを介して行われます。ダウンロードが完了すると、エージェントはファイルをファイル共有にアップロードし、他のエージェントが使用できるようにします。そのため、その後のダウンロードはCitrix Cloudを介するのではなく、ファイル共有を介して直接行われます。

ファイル共有が構成されている場合、ファイルのダウンロードが必要になると、エージェントはまずファイルがファイル共有で利用可能かどうかを確認します。利用可能な場合は、ファイル共有を介してダウンロードが行われます。利用できない場合は、エージェントはCitrix Cloudに接続

して最初のダウンロードを行い、ダウンロードしたファイルをファイル共有にアップロードします。

SMB共有の追加

SMB共有と、その共有にアクセスする権限を持つ管理者の資格情報を入力します。次の手順を実行します。

1. **ファイル共有**ページで、**SMB共有の追加**をクリックします。
2. SMB共有の追加ウィザードで、次の情報を入力します。
   - **SMB共有**。`\\ServerName\ShareName`の形式でパスを入力します。ここで、`ServerName`はSMB共有をホストするサーバーのFQDNまたはIPアドレスであり、`ShareName`はSMB共有の名前です。
   - **ユーザー名**。`domain\username`の形式で名前を入力します。
   - **パスワード**。SMB共有へのアクセスに使用するパスワードを入力します。
3. **完了**をクリックして保存し、終了します。

機能が使用するSMB共有を選択する

リストからSMB共有を選択します。この設定はデフォルトで**なし**になっています。機能の共有を選択する際は、次の点を考慮してください。

- 資格情報には、共有に対する完全な読み取り/書き込み権限が必要です。
- 共有に接続するには、エージェントはローカルシステムアカウントで実行されている必要があります。
- 構成されている場合、機能は必要に応じて共有を使用します。共有への接続は非永続的であり、必要な場合にのみ確立されます。
- 共有にアクセスできない場合、エージェントはCitrix Cloudを介したファイルのダウンロードにフォールバックします。

App package delivery機能のSMB共有を変更または削除することもできます。

関連サービスが使用するSMB共有を選択する

リストから1つ以上のSMB共有を選択します。選択すると、展開環境でローカルシステムアカウントで実行されているサービス（Citrix Profile Managementサービスなど）は必要に応じて共有を使用できます。共有への接続は永続的です。この機能により、これらのサービスは接続を介して共有にアクセスできます。

SMB構成の例

SMB共有の構成方法の例については、以下を参照してください。

- Citrix Profile Management サービスが使用する SMB 共有を構成するを参照してください。

Transformerの設定

これらのオプションを使用すると、Transformer機能を構成できます。Transformerを使用すると、エージェントはWebまたはアプリケーションランチャーとして接続し、ユーザーを構成済みのリモートデスクトップインターフェイスにリダイレクトできます。Transformerを使用して、任意のWindows PCを、完全に元に戻せる「キオスク」モードで高性能シンクライアントに変換できます。

ブラウザのサポート: TransformerはMicrosoft Edgeの最新バージョンで使用してください。

一般

一般設定

これらの設定は、Transformerの外観と基本設定を制御します。

Transformerを有効にする。有効にすると、このサイトに接続されているエージェントホストは自動的に*キオスクモード*になります。キオスクモードでは、エージェントホストは、構成されたリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトするWebまたはアプリケーションランチャーになります。ユーザー環境はロックダウンされ、ユーザーはエージェントとのみ対話できます。このオプションを無効にすると、**一般**ページまたは**詳細設定**ページのどちらの設定も処理されません。

ホームページURL。このURLは、ユーザーの仮想デスクトップのWebフロントエンドとして使用されます。これは、Citrix DaaS™（旧Citrix Virtual Apps and Desktops™サービス）およびCitrix Virtual Apps and Desktops環境へのアクセスURLです。

カスタムタイトル。有効にすると、Workspace Environment Management™ エージェントのキオスクウィンドウにカスタムタイトルバーが設定されます。

ウィンドウモード。有効にすると、Workspace Environment Management エージェントのキオスクはウィンドウモードで起動します。ユーザーは引き続きWindows環境からロックアウトされます。

言語選択を許可する。有効にすると、ユーザーはTransformerインターフェイスの言語を選択できます。

ナビゲーションボタンを表示する。有効にすると、「進む」、「戻る」、「ホーム」のWebナビゲーションボタンがエージェントのキオスクウィンドウに表示されます。「ホーム」は、上記で定義されたWebインターフェイスURLにユーザーを戻します。

時計を表示する。有効にすると、Transformer UIに時計が表示されます。

12時間/24時間。有効にすると、12時間表示（午前/午後）の時計が表示されます。デフォルトでは、Transformerの時計は24時間表示です。

アプリケーションパネルを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Management で割り当てられたユーザーのアプリケーションを含むパネルが表示されます。

アプリケーションパネルを自動的に非表示にする。有効にすると、アプリケーションパネルは使用されていないときに自動的に非表示になります。

ロック解除パスワード。**Ctrl+Alt+U**を押してユーザー環境のロックを解除するために使用できるパスワードを指定できます。これは、管理者とサポートエージェントが制限なくユーザー環境をトラブルシューティングできるように設計されています。

サイト設定

サイトリストを有効にする。有効にすると、キオスクインターフェイスにURLのリストが追加されます。

ツール設定

ツールリストを有効にする。有効にすると、キオスクインターフェイスにツールのリストが追加されます。

詳細設定

プロセスランチャー

これらのオプションを使用すると、Workspace Environment Management Agentのキオスクモードを、Webインターフェイスを表示する代わりにプロセスランチャーにすることができます。

プロセスランチャーを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Managementエージェントがプロセスランチャーモードになります。プロセスランチャーモードでは、Workspace Environment Managementエージェントは**プロセスコマンドライン**で指定されたプロセスを起動します。終了した場合、プロセスは再起動されます。

プロセスコマンドライン。特定のプロセス（たとえば、RDP接続を起動するためのmstsc.exeへのパス）のコマンドラインを入力できます。

プロセス引数。上記のコマンドラインに対する引数（たとえば、mstsc.exeの場合、接続先のマシンのIPアドレス）を指定できます。

VMware Viewの最終ユーザー名をクリアする。有効にすると、VMwareデスクトップセッションを起動したときに、ログオン画面で前回のユーザー名がクリアされます。

セッション終了アクションのリモートセッションステータスを監視する。有効にすると、プロセスランチャーはユーザーのマシンで実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**リモートセッションが終了したときにアクションを実行**します。次のオプションから選択します。

- **VMware Viewセッション**。VMware Viewモードのセッションを監視します。
- **Microsoft RDSセッション**。Microsoft Remote Desktop Services (RDS) モードのセッションを監視します。
- **Citrixセッション**。Citrixモードのセッションを監視します。

詳細設定と管理設定

WebブラウザをInternet Explorer互換モードで実行する。有効にすると、キオスクウィンドウは、エージェントホストマシンに現在インストールされているInternet Explorer (IE) のバージョンと互換性のあるブラウザモードで実行されます。デフォルトでは、これによりキオスクウィンドウはIE7互換モードで実行されます。

> **注:**
>
> トランスフォーマーを構成する際は、詳細設定と管理設定を無視してください。

> **ログオフ画面をログオンにリダイレクトする**。有効にすると、ユーザーがログオフページにアクセスしたときに、自動的にログオンページにリダイレクトされます。

Webページスクリプトエラーを抑制する。有効にすると、発生したスクリプトエラーを抑制します。

SSL証明書エラーを抑制する。有効にすると、SSL警告を完全に非表示にします。

Citrixセッション中にトランスフォーマーUIを非表示にする。有効にすると、ユーザーがCitrixセッションに接続している間、Citrix Workspace™ Environment Management Agentキオスクを非表示にします。

常に管理者メニューを表示する。有効にすると、常にキオスク管理者メニューが表示され、すべてのユーザーがキオスク管理者メニューにアクセスできるようになります。

タスクバーとスタートボタンを非表示にする。有効にすると、ユーザーのタスクバーとスタートメニューが非表示になります。そうでない場合、ユーザーは引き続きデスクトップにアクセスできます。

タスク切り替えを防止する (Alt+Tab)。有効にすると、Alt+Tabコマンドを無視し、ユーザーがエージェントから切り替えるのを防ぎます。

キオスクUIをバックグラウンドに送信することを許可する。有効にすると、キオスクインターフェイスに「非表示」ボタンが追加され、ユーザーはキオスクをバックグラウンドに移動できるようになります。

Citrix Desktop Viewerを全画面表示でロックする。有効にすると、デスクトップビューアがロックダウンモードに切り替わります。これは、Citrix Workspace app for Windows Desktop Lockがインストールされている場合に発生するロックダウンと同等です。これにより、ローカルアプリケーションとの統合が向上します。このオプションは、以下のすべての条件が満たされている場合にのみ機能します。

- エージェントホストにログオンしているユーザーが管理者グループのメンバーではないこと。
- **一般設定**タブの**Transformerを有効にする**オプションが有効になっていること。
- **ログオン/ログオフと電源設定**タブの**自動ログオンを有効にする**オプションが有効になっていること。

「**表示設定を非表示にする**」。有効にすると、Transformer UI の「**設定**」の下にある「**表示**」が非表示になります。

「**キーボード設定を非表示にする**」。有効にすると、Transformer UI の「**設定**」の下にある「**キーボード**」が非表示になります。

「**マウス設定を非表示にする**」。有効にすると、Transformer UI の「**設定**」の下にある「**マウス**」が非表示になります。

「**音量設定を非表示にする**」。有効にすると、Transformer UI の「**設定**」の下にある「**音量**」が非表示になります。

「**クライアントの詳細を非表示にする**」。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にある「**クライアントの詳細**」が非表示になります。「**クライアントの詳細**」から、バージョン番号などの情報を確認できます。

「**ブラウザのプログレスバーを非表示にする**」。有効にすると、埋め込み Web ブラウザのプログレスバーが非表示になります。

「**Windows のバージョンを非表示にする**」。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にある「**Windows Version**」が非表示になります。

「**ホームボタンを非表示にする**」。有効にすると、Transformer UI のメニューにあるホームアイコンが非表示になります。

「**プリンター設定を非表示にする**」。有効にすると、Transformer UI のメニューにあるプリンターアイコンが非表示になります。ユーザーは Transformer UI でプリンターを管理できません。

「**Citrix Workspace アプリを事前起動する**」。有効にすると、Citrix Workspace アプリを起動し、キオスクモードウィンドウを表示する前にロードが完了するまで待機します。

「**キオスクモードのロック解除ホットキーを許可する (Ctrl+Alt+U)**」。有効にすると、ユーザーは **Ctrl+Alt+U** を押してキオスクモードのロックを解除できます。

「**ログオフオプションを非表示にする**」。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある「**ログオフ**」が非表示になります。

「**再起動オプションを非表示にする**」。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある「**再起動**」が非表示になります。

「**シャットダウンオプションを非表示にする**」。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある「**シャットダウン**」が非表示になります。

「**最後に使用した言語を無視する**」。Transformer UI は複数の言語をサポートしています。「**General pane**」で「**Allow language selection**」オプションが有効になっている場合、ユーザーは Transformer UI の言語を選択できます。このオプションが有効になるまで、エージェントは選択された言語を記憶します。

ログオン/ログオフと電源設定

自動ログオンを有効にする。有効にすると、ユーザーはエージェントによってデスクトップ環境に自動的にログオンし、Windowsログオン画面をバイパスします。

セッション起動時にCitrix Webポータルからログオフする。有効にすると、ユーザーのデスクトップセッションが起動したときに、ページで指定されたWebフロントエンドからログオフします。

リモートセッション終了時にアクションを実行する。ユーザーがセッションを終了したときに、エージェントが実行中の環境に対してどのようなアクションを実行するかを指定できます。

指定した時刻にシャットダウンする。有効にすると、エージェントは指定された現地時刻に、実行中の環境を自動的にシャットダウンします。

アイドル期間後にシャットダウンする。有効にすると、エージェントは指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）で実行された後、実行中の環境を自動的にシャットダウンします。

バッテリーの状態を確認しない。Transformerのユースケースでは、エージェントはバッテリーの状態を確認し、バッテリー残量が少なくなるとユーザーに警告します。有効にすると、エージェントはこのチェックを実行しません。

ディレクトリオブジェクト

このページでは、Workspace Environment Management™ (WEM) で管理したいマシン、グループ、組織単位 (OU) などを追加できます。エージェントがそれらを管理できるように、これらのオブジェクトをWEMに追加する必要があります。 オブジェクトを追加すると、追加されたマシンのリストが表示されます。ここにリストされているマシンのみがWEMによって管理されます。検索ボックスを使用して、目的のオブジェクトをすばやく検索できます。フィルターを使用して検索を絞り込むこともできます。

> **注:**
>
> 識別名をコンピューター名に変換するには、時間がかかる場合があります。変換が正しくないか失敗した場合は、Cloud Connectorの正常性ステータスを表示することで、Cloud Connectorが正常に動作していることを確認してください。問題が解決しない場合は、Citrix テクニカルサポートにお問い合わせください。

> これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサービスに登録されると、インフラストラクチャサービスは構成セットに関連する必要なマシン依存設定をエージェントに送信します。ユーザーエクスペリエンスを向上させるために、インフラストラクチャサービスはエージェントの構成セットに関連するデータをキャッシュします。データキャッシュにより、インフラストラクチャサービスはディレクトリからデータを取得する頻度を減らすことができます。キャッシュは1時間ごとに更新されます。エージェントを別の構成セットに変更すると、反映されるまでに時間がかかる場合があります。

> **ヒント:**

> これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサービスに正しく登録されているかを確認するには、**「監視」>「管理」>「エージェント」**に移動します。

> 次のオブジェクトを追加できます。

- マシンとグループ
- OU
- ドメインに参加していないマシン

「オブジェクトの追加」をクリックし、オブジェクトの種類を選択して、ディレクトリを移動して追加するオブジェクトを選択します。ある種類のオブジェクトを追加した後、別の種類に切り替えて続行できます。完了したら、「追加」**をクリックします。

マシンまたはマシングループを追加する

1. **「ディレクトリオブジェクト」ノードで、**「オブジェクトの追加」**をクリックします。
2. オブジェクトの種類リストから**「コンピューターとグループ」**を選択します。
3. リストからドメインを選択し、追加するマシンまたはマシングループを検索します。

> **注:**

> ドメインリストの有効期限が切れている場合は、更新オプションのいずれかを選択して、ドメインリストを強制的に更新できます。**「レコードの更新」は選択したレコードまたはレコードのリストを更新し、**「ターゲット名の再クエリ」**はターゲット名を更新します。

1. 追加するにはプラス記号をクリックします。追加したマシンは、検索ボックスの下のテーブルに表示されます。
2. 追加したい構成セットを選択します。
3. 完了したら、**追加**をクリックします。

OU内のマシンを追加する

1. **ディレクトリ オブジェクト**ノードで、**オブジェクトの追加**をクリックします。
2. オブジェクトの種類リストから**組織単位**を選択します。
3. リストからドメインを選択し、追加したいOUを検索します。

> **注:**
>
> ドメインリストの有効期限が切れている場合は、更新ボタンをクリックしてドメインリストを強制的に更新できます。場所の構成オプションは、目的のターゲットOUをすばやく見つけるために、OU検索スコープを特定の場所ノードに制限します。

1. 追加するにはプラス記号をクリックします。追加したオブジェクトは、検索ボックスの下のテーブルに表示されます。
2. 追加したい構成セットを選択します。
3. 完了したら、**追加**をクリックします。

ドメインに参加していないマシンを追加する

> **注:**
>
> **ディレクトリ オブジェクト**にリストされているドメインに参加していないマシンは、構成セットに追加できるマシンのリストには表示されません。

1. **ディレクトリ オブジェクト**ノードで、**オブジェクトの追加**をクリックします。
2. オブジェクトの種類リストから**ドメインに参加していないマシン**を選択します。
3. 追加するマシンを検索します。
4. プラス記号をクリックして追加します。追加したマシンは、検索ボックスの下のテーブルに表示されます。
5. それらを追加する構成セットを選択します。
6. 完了したら、**追加**をクリックします。

マシン、マシングループ、またはOUの詳細を編集する

1. **ディレクトリオブジェクト**ノードで、編集するオブジェクトを選択し、アクションバーから**編集**を選択します。
2. **オブジェクトの編集**ウィザードで、以下のいずれかの詳細を編集し、**保存**をクリックします。
   - **名前**。マシン、マシングループ、またはOUの名前。

- **識別名**。選択したマシンまたはマシングループの識別名（DN）。この名前を使用すると、同じ名前の異なるOUを区別できます。このセクションは、マシンカタログタイプのオブジェクトでは利用できません。
- **オブジェクトの種類**。オブジェクトの種類（マシン、グループ、OU、またはドメインに参加していないマシン）。
- **説明**。マシン、マシングループ、またはOUに関する追加情報。
- **構成セット**。オブジェクトを追加する構成セット。
- **優先度**。異なるマシンまたはグループ間の優先度を構成できます。優先度は、割り当てるアクションが処理される順序を決定します。値が大きいほど優先度が高くなります。整数を入力します。競合がある場合（たとえば、異なるネットワークドライブを同じドライブレターにマッピングする場合）、優先度の高いマシンまたはグループが優先されます。
- オブジェクトの状態。オブジェクトを有効にするか（**はい**）、無効にするか（**いいえ**）を制御します。無効にすると、マシン、マシングループ、またはOUにアクションを割り当てることができなくなり、割り当てられたアクションは効果がなくなります。または、**ディレクトリオブジェクト**ページの**状態**列にあるトグルを使用して、状態をオンまたはオフに切り替えることもできます。

* ディレクトリから報告された読み取り専用の詳細。

> **注:**
>
> マシンカタログタイプのオブジェクトの場合、構成セットのみを変更できます。名前と説明を変更するには、Citrix DaaS (旧称 Citrix Virtual Apps and Desktops™ サービス) の完全構成インターフェイスを使用します。

オブジェクトを削除する

削除するオブジェクトを選択し、アクションバーから を選択します。

詳細設定

バインドされていないエージェント

どの構成セットにもバインドされていないエージェントに設定を適用するかどうかを制御します。以下の設定を有効にした後、「バインドされていないエージェント」構成セットに移動し、そこで設定を構成して、バインドされていないエージェントの動作を制御できます。

- 。まだ に追加していないエージェントに、「バインドされていないエージェント」構成セットの設定を適用できます。
    - 。バインドされていないドメイン非参加エージェントに設定を適用するかどうかを制御できます。

> **注:**
>
> が有効になっている場合、それらのバインドされていないエージェントを別の構成セットに追加すると、新しい設定が適用されるまでに最大1時間かかることがあります。

LDAPSを強制してActive Directory接続を暗号化する

デフォルトでは、WEMはActive Directoryクエリに *LDAP* を使用します。*LDAPS* を使用して暗号化された接続を強制するには、 を選択します。

ドメイン非参加エージェント

バインドされていないドメイン非参加エージェントのバインディングルールを設定します。ルールは、一致するエージェントをどの構成セットにバインドするかを決定します。各エージェントは、一致が見つかるまで、リストされた順序でルールに対して評価されます。最大50個のルールを追加できます。

ルールを作成するには、次の手順を実行します。

1. をクリックします。
2. 必要に応じて設定を構成します:
    - **名前**。ルールに名前を付けます。
    - **条件**。1つ以上の条件を追加します。
        - **デバイス名**。一致させるデバイス名を記述する正規表現を入力します。たとえば、一致させたいマシンがPC-Sales-01、PC-Sales-02、PC-Sales-03などの名前である場合、次の式を入力します: `PC-Sales.*`。
        - **IPアドレス**。IPアドレスまたはIPアドレス範囲を入力します。一致させるIPアドレスを記述する正規表現を入力することもできます。たとえば、一致させたいアドレスが192.168.1.0から192.168.1.255である場合、次の式を入力します: `192\.168\.1\..*`。
        - **MACアドレス**。コンマ区切りのMACアドレスのリストを入力します。

3. 一致するマシンをバインドする構成セットを選択します。
4. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

監視

監視ノードは、Workspace Environment Management™ (WEM) の展開の監視とトラブルシューティングに使用できる情報を提供し、管理タスクを実行できます。

監視ノードは、次の項目で構成されています。

- 管理。ユーザーとエージェントの統計情報、および管理アクティビティを表示できます。
  - **ユーザー統計。**展開に関するユーザー統計を表示します。
  - **エージェント。**エージェント情報を表示し、キャッシュの更新、設定のリセット、エージェント情報の取得などの管理タスクを実行できます。
- インサイト。アプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。構成セットのインサイトを有効にするには、その**詳細設定 > インサイト**ページに移動し、**最適化と使用状況のインサイトのためにデータ収集とアップロードを有効にする**を選択します。インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、**適用**をクリックします。
  - **最適化インサイト。**指定された期間に、CPUスパイク保護とメモリ使用量最適化を最も頻繁にトリガーした上位10個のアプリケーションを表示します。
  - **使用状況インサイト。**指定された期間に、使用時間（時間）別の上位10個のアプリケーションと、ユーザー数別の上位10個のアプリケーション、および最も多くのCPUとメモリリソースを消費した上位10個のアプリケーションを表示します。
  - **プロファイルコンテナインサイト。**プロファイル管理およびFSLogixコンテナのインサイトを表示します。
- レポート。展開を分析できるレポートを提供します。各レポートはテーブルレコードとして表示されます。
- ログ。管理者がWEM設定に対して行ったすべての変更の記録を表示します。これには、変更を行ったユーザー、日時、変更内容が含まれます。

管理

ユーザーとエージェントの統計情報、および管理アクティビティを表示できます。

ユーザー統計

Workspace Environment Management™ (WEM)展開に関するユーザー統計を表示します。ユーザーがエージェントマシンにログオンするたびに、関連情報が収集され、ここにテーブルレコードとして表示されます。

注:

制限付き管理者は、割り当てられたスコープ内の構成セットに属するユーザーの統計のみを表示できます。

このページには、次の情報が含まれています。

- **ユーザー概要**。すべての構成セットについて、エージェントマシンにログオンしたすべてのユーザーの数を表示します。
- **ユーザー履歴**。すべての構成セットに関連付けられているすべてのユーザーの接続情報を表示します。これには、最終接続時刻（協定世界時、UTC）、最後に接続したマシンの名前、セッションエージェントの種類（UIまたはCMD）、およびバージョンが含まれます。

ヒント:

フィルター機能を使用してリストをフィルタリングできます。たとえば、特定の構成セットのすべてのユーザー数と、指定された日付範囲内のユーザー数を表示します。

次の操作を実行できます。

- **更新**。ユーザー統計のリストを更新します。
- **更新**アイコン。ユーザーの表示名を更新します。このアイコンは、各レコードまたは任意のユーザー表示名にマウスを重ねると表示されます。
- **期限切れのレコードをクリア**。WEMサービスデータベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時刻が24時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。期限切れのレコードがない場合は利用できません。注：このオプションは、**ユーザーID**が**ローカルシステム**であるレコードには利用できません。
- **レコードの削除**。WEMサービスデータベースからレコードを削除します。エージェントを1つだけ選択し、その対応するレコードが期限切れになっている場合に利用できます。注：このオ

プションは、ユーザーIDがローカルシステム、ネットワークサービス、またはNT Authority (ローカルサービス)であるレコードには利用できません。

- **エクスポート**。各レコードのデータをCSVまたはJSON形式でエクスポートできます。これらの形式は、Microsoft Excelなどのプログラムで開くことができます。

注:

- 制限付き管理者は、期限切れのレコードをクリアしたり、レコードを削除したりすることはできません。
- エクスポート時には、構成セット条件を含むフィルターを適用する必要があります。

データをエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. **Export** をクリックします。エクスポートウィザードが表示されます。
2. エクスポート形式を選択します。利用可能なオプション：CSV および JSON。
3. 必要に応じて、**Save a copy of the export to your local machine** を選択します。エクスポートはブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。
4. **Export** をクリックして、エクスポートプロセスを開始します。

重要:

- 最大50,000件のレコードをエクスポートできます。エクスポートするレコード数が制限を超えると、上位50,000件のみがエクスポートされます。レコード数を50,000件以下に減らすには、フィルターを使用することをお勧めします。
- エクスポートが進行中の間は、別のエクスポートを実行できません。
- エクスポートが30分以内に完了しない場合、それに関する通知は受信されなくなります。後でエクスポート結果を表示するには、**Files** に移動します。
- ユーザー統計をエクスポートすると、エクスポートはクラウドストレージに保存されます。クラウドストレージにはストレージ制限があります。制限に達すると、エクスポートを続行できません。その場合は、**Files** に移動して不要なファイルを削除し、空き容量を確保してください。Filesを参照してください。

エージェント

このページでは、エージェント情報の表示、およびキャッシュの更新、設定のリセット、エージェント情報の取得などの管理タスクを実行できます。エージェントキャッシュの同期は、WEMクラウドサービスによって一元的に管理されます。キャッシュ同期間隔はデフォルトで30分であり、構成できません。詳細設定で **Agent cache refresh delay** 設定を変更しても、効果はありません。

統計

リストビュー

エージェントはテーブル形式で一覧表示され、各行がエージェントの詳細情報に対応しています。

このタブには、WEM展開内のエージェントに関する統計が表示されます。WEM展開内のエージェントに関する以下の統計を表示できます。

- すべての構成セットについて、ユーザーがログオンしたエージェントの総数。

> **ヒント:**
>
> - フィルター条件で構成セットを指定すると、その構成セットに登録されているエージェントの総数と、過去24時間および過去30日間に登録されたエージェントの数が表示されます。
> - **CEM (Citrix Endpoint Management™)** マネージド構成セットを使用する場合、これらのエージェントは読み取り専用レコードであるため、コールバックタスクは許可されません。

- 構成セットに登録されているすべてのエージェントの接続情報。これには、最終接続時刻、最後に接続したマシンの名前、およびエージェントバージョンが含まれます。
- **同期状態**列には、エージェントキャッシュとWEMサービスとの最終同期の結果に関する情報が表示されます。
  - **成功** (チェックマークアイコン)。最終同期が成功し、同期結果が管理コンソールに報告されたことを示します。
  - **不明** (感嘆符アイコン)。同期が進行中であるか、まだ開始されていないか、または結果が管理コンソールに報告されていないことを示します。
  - **失敗** (エラーアイコン)。最終同期が失敗したことを示します。

- **最近接続**列には、次の情報が表示されます。
  - **オンライン** (チェックマークアイコン)。エージェントがオンラインであることを示します。エージェントは、一定の間隔でWEMサービスに統計情報をアップロードしています。
  - 列フィールドが空白の場合、エージェントがオフラインであることを示します。
- **プロファイル管理の正常性**列には、環境におけるプロファイル管理の正常性ステータスに関する情報が表示されます。

  プロファイル管理の正常性ステータスは、プロファイル管理が最適に構成されているかどうかを判断するために、エージェントホストで自動ステータスチェックを実行します。これらのチェックの結果を表示して、各エージェントマシン上の出力ファイルから特定の問題を特定できます (`%systemroot%\temp\UpmConfigCheckOutput.json`)。この機能は、毎日、またはWEMエージェントホストサービスが起動するたびにステータスチェックを実行します。ステータスチェックを手動で実行するには、エージェントを選択し、アクションバーから**プロファイル管理の正常性チェックを実行**を選択します。各ステータスチェックはステータスを返します。最新のステータスを表示するには、**更新**をクリックします。**プロファイル管理の正常性**列のアイコンは、プロファイル管理の正常性ステータスに関する一般的な情報を提供します。

  - **良好** (チェックマークアイコン)。Profile Management が良好な状態であることを示します。
  - **通知** (右上に青い点が付いたチェックマークアイコン)。Profile Management が許容できる状態であることを示します。
  - **警告** (右上にオレンジ色の点が付いたチェックマークアイコン)。Profile Management が最適ではない状態であることを通知します。最適ではない状態は、展開環境での Profile Management のユーザーエクスペリエンスに影響を与える可能性があります。このステータスは、必ずしもユーザー側での対応を必要とするものではありません。詳細レポートを表示するには、**その他** の **Profile Management ヘルスチェックレポートの表示** オプションを使用します。
  - **エラー** (エラーアイコン)。Profile Management が正しく構成されておらず、正常に機能しないことを示します。
  - **無効** (無効アイコン)。Profile Management が見つからないか、有効になっていない場合に表示されます。

  ステータスチェックが実際の状況を反映していない場合や、発生している問題を検出しない場合は、Citrix テクニカルサポート にお問い合わせください。

次の操作を実行できます。

- **タスク履歴**。過去 24 時間に開始されたエージェントタスクを一覧表示します。**エージェント** ページで **タスク履歴** をクリックすると、**タスク履歴** ページに移動し、開始されたタスクの進行状況と結果を確認できます。
- **表示する列**。表示する列を選択して、テーブルをカスタマイズできます。
- **更新**。エージェントのリストを更新します。
- **期限切れのレコードをクリア**。WEM サービスデータベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時刻が 24 時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。期限切れのレコードがない場合は使用できません。
- **詳細の表示**。エージェントに関する詳細情報を表示できます。
- **ハブエージェントとして設定**。選択したエージェントをハブエージェントとして設定できます。
- **ハブエージェントの構成**。エージェントをハブエージェントとして設定する構成セットを選択できます。
- **エクスポート**。各レコードのデータを CSV または JSON 形式でエクスポートできます。これらの形式は Microsoft Excel などのプログラムで開くことができます。

注:

- このページには、読み取り専用以上の権限を持つ構成セット内のエージェントのみが表示されます。
- 完全な管理者のみが、期限切れのレコードをクリアし、ハブエージェントとして設定し、ハブエージェントを構成できます。
- エクスポート時には、構成セット条件を含むフィルターを適用する必要があります。

データをエクスポートするには、次の手順を実行します。

```
1.  Click **Export**. The export wizard appears.

1.  Select the export format. Available options: CSV and JSON.

1.  Optionally, select **Save a copy of the export to your local
machine**. The export is saved to the default download location of your
browser.

1.  Click **Export** to start the export process.
```

```
> **Important:**

>
```

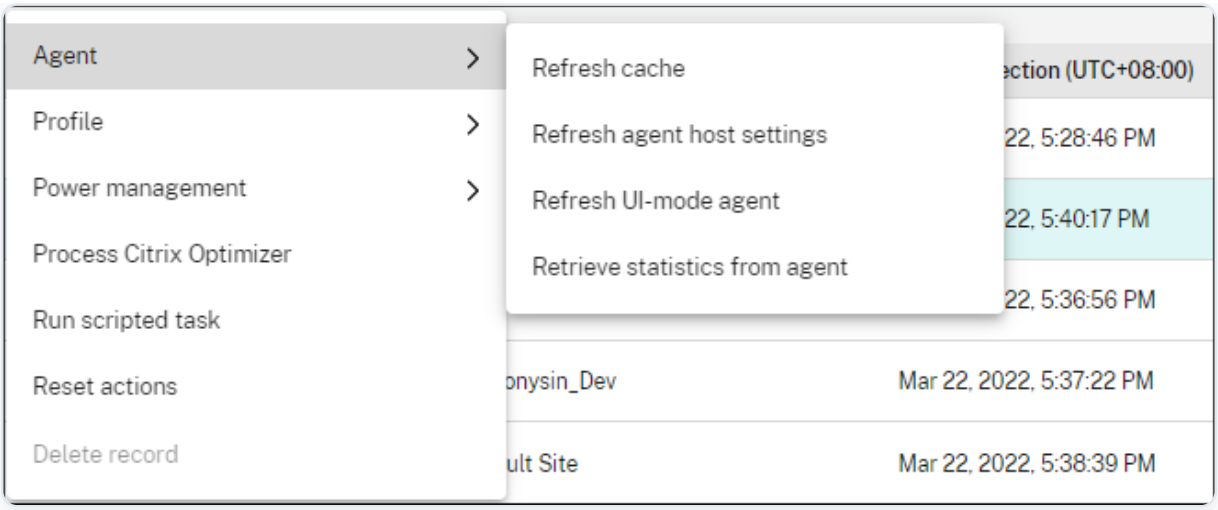
- 最大50,000件のレコードをエクスポートできます。エクスポートするレコード数が制限を超えると、上位50,000件のみがエクスポートされます。レコード数を50,000件以下に減らすために、フィルターを使用することをお勧めします。
- エクスポートが進行中の間は、別のエクスポートを実行できません。
- エクスポートが30分以内に完了しない場合、その通知は受信されなくなります。後でエクスポート結果を表示するには、**ファイル**に移動してください。
- エージェント統計をエクスポートすると、エクスポートはクラウドストレージに保存されます。クラウドストレージには保存制限があります。制限に達すると、エクスポートを続行できません。その場合は、**ファイル**に移動して不要なファイルを削除し、空き容量を確保してください。ファイルを参照してください。

その他メニューには、次のオプションがあります。これらのオプションをドメインに参加していない登録済みエージェントに適用する場合は、次の点を考慮してください。

- エージェントはバージョン2207.1.0.1以降である必要があります。
- ターゲットエージェントは、これらのタスクの実行をすぐに通知されません。通知は、ターゲットエージェントまたは同じサブネット上の別のエージェントがCitrix Cloud™に接続して設定を更新したときに送信されます。そのため、エージェント側でタスクが実行されるまでに遅延が発生する可能性があります。同じサブネット上のエージェントが多いほど、遅延は短くなります。
- 最大遅延は、**SQL設定更新遅延**値の1.5倍です。デフォルトでは、**SQL設定更新遅延**値は15分です。サービスオプションを参照してください。したがって、この場合、最大遅延は22.5（1.5 x 15）分です。

注:

その他メニューは、50台以下のエージェントを選択した場合にのみ利用できます。



エージェント:

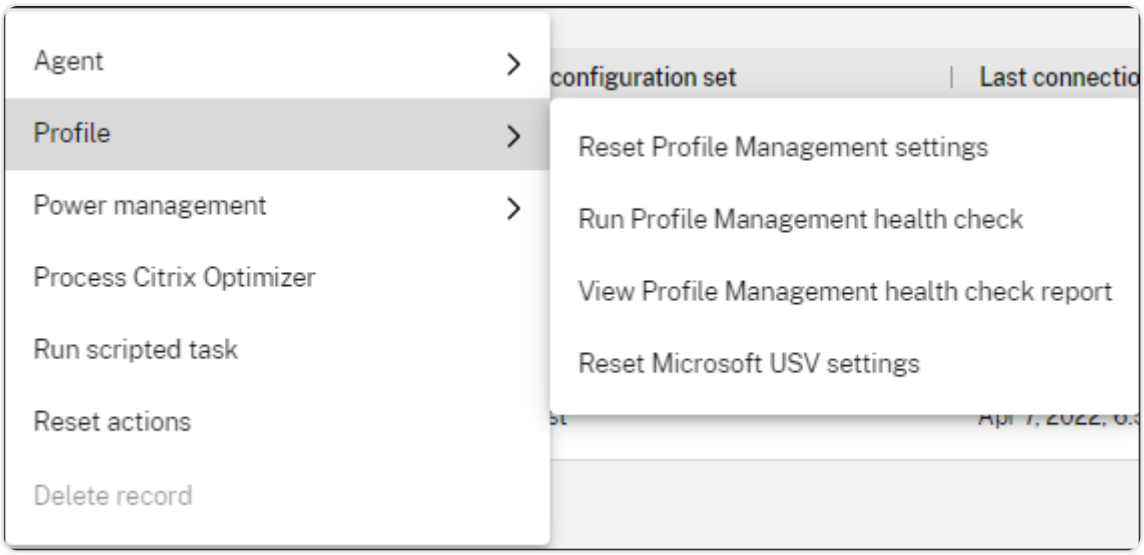
- **キャッシュを更新**。ローカルエージェントキャッシュ（WEM構成データベースのエージェント側レプリカ）の更新をトリガーします。キャッシュを更新すると、ローカルエージェントキャッシュがインフラストラクチャサービスと同期されます。このオプションは、バージョン2401.1.0.1より前のWEMエージェントでのみ使用できます。
- **エージェントホスト設定を更新**。ユーザー環境のエージェントサービス設定の更新をトリガーします。これらの設定には、詳細設定、最適化設定、トランスフォーマー設定、およびユーザーに割り当てられていない設定が含まれます。バージョン2401.1.0.1以降の最新のWEMエージェントは、エージェントホスト設定の更新プロセス中にエージェントキャッシュを自動的に同期します。WEMクラウドサービスの内部ワークフローにより、エージェントキャッシュの同期には最大で（エージェントホスト設定の更新遅延 x 1.5）+ 40分の遅延が発生する可能性があります。たとえば、デフォルトのエージェントホスト設定の更新遅延（SQL設定の更新遅延とも呼ばれます）が15分の場合、エージェントキャッシュの同期の最大遅延は15分 x (1.5 + 40分) = 62.5分です。
- **UIモードエージェントを更新**。ユーザーに割り当てられたアクションをWEMエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。エージェントを更新すると、エージェントはインフラストラクチャサービスと通信します。インフラストラクチャサービスは、WEMデータベースでエージェントホストのIDを検証します。

> **重要:**
>
> - **UIモードエージェントを更新**オプションは、自動的に起動される（エンドユーザーまたはスクリプトを使用して起動されない）UIモードのエージェントでのみ機能します。このオプションは、CMDモードのエージェントでは機能しません。

- すべての設定を更新できるわけではありません。一部の設定（環境設定やグループポリシー設定など）は、起動時またはログオン時にのみ適用されます。

- **エージェントから統計情報を取得**。エージェントが統計情報をインフラストラクチャサービスにアップロードできるようにします。

エージェント側で更新操作を実行することもできます。ただし、これらの操作は実際の条件によって動作が異なります。詳しくは、「エージェント側の更新操作」を参照してください。



プロファイル:

- **プロファイル管理設定をリセット**。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。プロファイル管理設定がエージェントに適用されていない場合は、**プロファイル管理設定をリセット**をクリックします。このオプションが利用可能になるには、**更新**をクリックする必要がある場合があります。

  注:

  WEM管理コンソールから**プロファイル管理設定をリセット**を構成しても設定がエージェントに適用されない場合は、回避策についてCTX219086を参照してください。

- **プロファイル管理ヘルスチェックを実行**。ターゲットエージェントマシンでステータスチェックを実行し、プロファイル管理が最適に構成されているかどうかを判断します。このオプションを選択すると、**プロファイル管理ヘルスチェックを実行**ウィザードが表示されます。ヘルスチェックレポートに含めるプロファイル管理設定を選択し、**実行**をクリックします。次の点に注意してください。

- デフォルトでは、ヘルスレポートはすべての設定を対象とします。2205.1.0.1より前のエージェントの場合、レポートに含める設定の範囲を変更しても、その変更は有効になりません。
- ヘルスレポートが表示されるまでに時間がかかる場合があります。レポートで、必要に応じてビューを更新してください。
- **レポートを表示**をクリックして、レポートに直接アクセスします。

エージェントに送信された通知(/en-us/workspace-environment-management/service/media/notifications-sent-to-agents.png)

- **Profile Managementヘルスチェックレポートの表示**。ターゲットエージェントマシンに関連するProfile Managementヘルスレポートにすばやくアクセスできます。Profile Managementヘルスレポートの詳細については、「レポート」を参照してください。
- **Microsoft USV設定のリセット**。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Microsoft USV設定がエージェントに適用されていない場合は、**Microsoft USV設定のリセット**をクリックします。このオプションが利用可能になるには、**更新**をクリックする必要がある場合があります。

電源管理:

- **シャットダウン**。選択したエージェントをシャットダウンできます。
- **再起動**。選択したエージェントを再起動できます。
- **スリープ**。選択したエージェントをスリープモードにできます。このオプションは、ターゲットマシンがスリープモードをサポートしている場合にのみ機能します。
- **休止状態**。選択したエージェントを休止状態にできます。このオプションは、ターゲットマシンが休止状態をサポートしている場合にのみ機能します。
- **ウェイクアップ**。選択したエージェントをウェイクアップできます。このオプションを機能させるには、**レガシーコンソール > 詳細設定 > 構成 > Wake on LAN**に移動し、**エージェントのWake on LANを有効にする**を選択します。また、ターゲットマシンがハードウェア要件を満たし、関連するBIOS設定が構成されていることを確認してください。詳細については、「Wake on LAN」を参照してください。

> **ヒント:**
>
> - エージェントをシャットダウンまたは再起動する際、シャットダウンまたは再起動が開始されるまでの遅延時間（秒単位）を指定できます。ユーザーには、指定した時間

内にマシンがシャットダウンまたは再起動するというプロンプトが表示されます。シャットダウンプロンプトの例: `Your administrator has initiated the shutdown of your machine from the Workspace Environment Management console. The machine shuts down in 60 seconds.`。再起動プロンプトの例: `Your administrator has initiated the restart of your machine from the Workspace Environment Management console. The machine restarts in 60 seconds.`。

- スリープと休止状態の違いを考慮してください。スリープモードでは、マシン上のすべてのアクションが停止され、開いているドキュメントやアプリケーションはメモリに保存されます。マシンは低電力状態になります。休止状態モードでは、開いているドキュメントと実行中のアプリケーションがハードディスクに保存されます。マシンは完全に電源がオフになり、電力を消費しません。
- ターゲットマシンがスリープモードと休止状態モードをサポートしていることを確認するには、マシンに移動して次のPowerShellコマンドを実行します: `powercfg /a`。

Citrix Optimizerの処理。Citrix Optimizer設定の変更がすぐに有効になるように、エージェントに設定を適用します。

スクリプトタスクの実行。ターゲットエージェントマシンでスクリプトタスクを実行できます。このオプションを選択すると、**スクリプトタスクの実行**ウィザードが表示されます。次の設定を構成し、**実行**をクリックします。各設定の詳細については、「スクリプトタスクの設定」を参照してください。

注:

このオプションは、ドメインに参加していないエージェントには適用されません。

- **タスク**。実行するスクリプトタスクを選択します。
- **スクリプトタスクにパラメータを渡す**。スクリプトタスクにパラメータを渡すかどうかを選択します。有効にすると、実行時にスクリプトタスクにパラメータ変数として入力を提供できます。
- **出力ファイル**。タスクが出力するファイルを収集するかどうかを選択します。選択した場合、タスク用に生成されたレポートに出力ファイルの内容が含まれます。これにより、ユーザー環境のファイルにアクセスすることなく、レポートで出力ファイルの内容を表示できます。

- **キーワードを強調表示**。レポートで強調表示するキーワードを指定します。複数のキーワードを入力できます。キーワードを入力した後、**Enter**キーを押して別のキーワードを追加します。指定した場合、キーワードに一致するレポートの内容は、生成されたレポートの**出力ファイルの内容**および**コンソール出力**セクションで強調表示されます。
- **正規表現の一致を強調表示**。強調表示する内容を記述する正規表現を入力します。正規表現は、PCRE互換の.NET正規表現ライブラリ構文に準拠している必要があります。詳細については、「スクリプトタスク設定」を参照してください。

デリバリタスクを実行。このオプションを有効にするには、同じ構成セットにバインドされているエージェントを選択します。デリバリタスクを迅速に実行するには、このページからデリバリタスクを実行することを選択できます。**デリバリタスクを実行**をクリックし、ドロップダウンリストからデリバリタスクを選択して、選択したデリバリタスクをエージェントで実行します。タスクで、どのエージェントがタスクを実行する必要があるかを決定するルールを構成した場合、オンデマンドタスクを実行する特定のエージェントを選択すると、それらのルールは無視されます。

アクションをリセット。適用可能なエージェントマシン上のすべてのアクション関連レジストリエントリをパージすることにより、割り当てたすべてのアクションをリセットできます。

レコードを削除。WEMサービスデータベースからレコードを削除します。エージェントがまだアクティブな場合、このオプションは使用できません。1つのエージェントのみを選択し、その対応するレコードの有効期限が切れている場合に利用できます。

概要ビュー

エージェント統計ページの概要ビューには、接続状態、プロファイル管理の正常性ステータス、エージェントバージョン、および最後の構成セットに基づいてエージェントの統計結果を提供する4つのグラフが表示されます。**概要**ビューには4つのグラフが表示されます。**更新**をクリックすると、4つのグラフすべてが最新の結果で再読み込みされます。

登録

このタブには、データベースに記録されているエージェントの登録ステータスが表示されます。

> **重要:**
>
> WEMエージェントは、設定を適用できるようにWEMサービスに登録する必要があります。エージェントは1つの構成セットにのみバインドできます。

> 次の情報を表示できます。

- **デバイス名**。エージェントが実行されているマシンの名前。
- **登録ステータス**。エージェントの登録ステータス: **登録済み**または**未登録**。
- **説明**。登録の成功または失敗に関する詳細情報を提供します。
    - **エージェント `<agent name>` が構成セット `<configuration set name>` にバインドされています**。WEMサービスが、その構成セットに必要なマシン依存の設定をエージェントに送信していることを示します。
    - **エージェント `<agent name>` がどの構成セットにもバインドされていません**。WEMサービスがエージェントの構成セットを解決できないことを示します。「**バインドされていないエージェントに設定を適用**」が有効になっている場合、「バインドされていないエージェント」構成セットの設定がエージェントに適用されます。バインドされていないエージェントへの設定の適用について詳しくは、「ディレクトリオブジェクト」を参照してください。
    - **エージェント `<agent name>` が構成セット `<configuration set name>` に複数回バインドされています**。WEMサービスがエージェントに設定を適用することを妨げません。
    - **エージェント `<agent name>` がCitrix Endpoint Managementによる管理のためにWEMサービスに登録されています**。Endpoint Managementで管理されているエージェントにのみ表示されます。
    - **エージェント `<agent name>` が複数の構成セットにバインドされています**。エージェントが複数の構成セットにバインドされているため、WEMサービスがエージェントの構成セットを解決できないことを示します。

必要に応じて、**検索**を使用して結果を絞り込みます。検索はデバイス名と説明に対してのみ実行されます。デフォルトでは、検索は未登録のエージェントのみに制限されます。この制限を解除するには、「**未登録のエージェントのみを表示**」を有効にします。

登録エラーを解決するには、次のいずれかを実行します。

- エージェントが同じ構成セットに複数回バインドされないように、Active Directory階層（コンピューター、コンピューターグループ、OU間の関係）を編集します。
- エージェントが1つの構成セットのみにバインドされるように、ディレクトリオブジェクトでWEM階層を編集します。
- バインドされていないエージェントに設定を適用します（まだ行っていない場合）。これにより、「バインドされていないエージェント」構成セットの設定が、バインドされていないエージェント（**ディレクトリオブジェクト**にまだ追加していないエージェント）に適用されます。

これらの変更を行った後、「**UIモードエージェントの更新**」オプションを使用してエージェントを更新します。

ハブエージェント

ハブエージェントは、WEMサービスとSMB共有などのオンプレミスリソース間のブリッジとして機能します。ハブエージェントを指定すると、WEMサービスはオンプレミスソースにアクセスできるようになります。

エージェントをハブエージェントとして指定する

WEM がオンプレミスリソースにアクセスできるようにするには、構成セットのハブエージェントを指定します。

複数の構成セットのハブエージェントとしてエージェントを割り当てるには、次の手順に従います。

1. **監視** > **管理** > **エージェント** に移動します。
2. **統計**タブで、必要に応じてエージェントを選択し、**ハブエージェントとして設定**をクリックします。
3. 表示される**ハブエージェントとして設定**ページで、このエージェントをハブエージェントとして設定する構成セットを選択します。
4. 「**完了**」をクリックします。

   エージェントは**ハブエージェント**タブに表示されます。

> **注:**
>
> 適切に機能させるには、ハブエージェントがオンプレミスリソースと選択した構成セット内のエージェントにアクセスできるネットワークに接続されている必要があります。

ハブエージェントの表示と管理

ハブエージェントタブには、展開内のすべてのハブエージェントとその詳細が表示されます。

- **ステータス:** オンライン、オフライン、エージェントが見つかりません、またはその他の接続更新。
- 関連付けられている構成セットのリスト。

必要に応じてハブエージェントを管理できます。

- ハブエージェントのステータスを更新するには、ステータスの横にある更新アイコンをクリックします。
- ハブに関連付けられている構成セットのリストを変更するには、エージェントレコードの末尾にある**構成**アイコンをクリックします。
- ハブエージェントを通常のエージェントに降格するには、エージェントレコードの末尾にある**削除**アイコンをクリックします。

設定

デフォルトでは、エージェントはMACアドレスで識別されます。エージェントマシンに一意のMACアドレスがない場合は、**代替エージェント識別子を使用**オプションを有効にして、一意性を確保する代替識別子を使用します。

> **注:**
>
> - トグルの状態変更: トグルの状態が変更された場合、WEMエージェントは新しいトグル状態に従って動作するためにサービス再起動が必要です。エージェントはサービス起動時にトグル状態を読み取ります。
> - レコードの重複: 一意のエージェントIDを使用するように切り替えた後、エージェント情報と統計レコードの重複が発生します。重複を解決するには、24時間後に**期限切れレコードをクリア**ボタンをクリックします。
> - レポートの集計: 一意のエージェントIDを使用するように移行した後、新しいエージェントIDのため、新しいレポートはトグルがアクティブ化される前に生成された以前のレポートと集計されません。 ハブエージェント: ハブエージェントは再構成する必要があります。

プロファイル管理のヘルスチェックを構成する

WEMは、Citrix Profile Managementがエージェントマシンで最適に構成されているかどうかを確認できます。詳細については、「プロファイル管理のヘルスチェックを構成する」を参照してください。

インサイト

プロファイルコンテナとアプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。

最適化のインサイト

このページには、2つの棒グラフが含まれています。

- **CPU最適化による上位20のアプリケーション**。指定された期間にCPUスパイク保護を最も頻繁にトリガーした上位10のアプリケーションを表示します。
- **メモリ最適化による上位20のアプリケーション**。指定された期間にメモリ使用量最適化を最も頻繁にトリガーした上位10のアプリケーションを表示します。

インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、**適用**をクリックします。すると、グラフが更新され、関連するインサイトが表示されます。

> **重要:**
>
> - グラフに構成セットのデータを表示するには、その構成セットのインサイトを有効にする必要があります。構成セットのインサイトを有効にするには、その**詳細設定 > インサイト**ページに移動します。グラフには、以前に収集されたデータに基づいたインサイトが表示されます。
> - CPUまたはメモリ管理を有効にするまで、最適化のインサイトデータは利用できません。

除外されたアプリケーション

最適化のインサイト（棒グラフ）からアプリケーションを除外できます。除外するアプリケーションを指定するには、次の手順を実行します。

- 「**追加**」をクリックします。
- 棒グラフに記載されているアプリケーション名を入力します。
- **Enter**キーを押して保存するか、**Shift + Enter**キーを押して保存し、別のエントリを開始します。
- ウィザードの指示に従って、追加したアプリケーションを編集および削除することもできます。

使用状況のインサイト

このページには、4つの棒グラフが含まれています。

- **使用時間 (時間) 別アプリケーション上位 20**
- **ユーザー数別アプリケーション上位 20**

- **CPU 使用率 (%) 別アプリケーション上位 20**。指定した期間に最も多くの CPU リソースを消費した上位 10 個のアプリケーションが表示されます。
- **メモリ使用量 (MB) 別アプリケーション上位 20**。指定した期間に最も多くのメモリリソースを消費した上位 10 個のアプリケーションが表示されます。

インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、**適用**をクリックします。すると、チャートが更新され、関連するインサイトが表示されます。

> **重要:**
>
> チャートに構成セットのデータを表示するには、その構成セットのインサイトを有効にする必要があります。構成セットのインサイトを有効にするには、その**詳細設定 > インサイト**ページに移動します。チャートには、以前に収集されたデータに基づいたインサイトが表示されます。

除外されたアプリケーション

使用状況インサイト（棒グラフ）からアプリケーションを除外できます。除外するアプリケーションを指定するには、次の手順を実行します。

- 「**追加**」をクリックします。
- 棒グラフに記載されているアプリケーション名を入力します。アプリケーション名を入力する際、拡張子は含めません。
- 保存するには **Enter** キーを押し、保存して別のエントリを開始するには **Shift + Enter** キーを押します。
- ウィザードの指示に従って、追加したアプリケーションを編集および削除することもできます。

プロファイルコンテナのインサイト

この機能は、Profile Management および FSLogix のプロファイルコンテナを監視します。プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用しているセッションのステータス、検出された問題などに関するインサイトを提供します。

この機能を使用して、プロファイルコンテナのスペース使用状況を常に把握し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定します。

概要

このページには、2 つのドーナツチャートが含まれています。チャートの各セグメントをクリックすると、詳細を確認できます。

- **スペース使用量**。左側のグラフは、指定された期間におけるプロファイルコンテナのスペース使用量を示します。数値は、そのカテゴリのプロファイルコンテナの数を表します。
- **セッションステータス**。右側のグラフは、指定された期間に確立されたセッションに対するプロファイルコンテナのアタッチ結果を示します。数値は、そのカテゴリのセッション数を表します。

インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、**適用**をクリックします。その後、グラフが更新され、関連するインサイトが表示されます。

次の設定を構成できます。

- **使用済みスペースが (GB) を超える場合、スペース使用量は高くなります**。プロファイルコンテナのスペース使用量を高いと見なすしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。
- **使用済みスペースが (GB) 未満の場合、スペース使用量は低くなります**。プロファイルコンテナのスペース使用量を低いと見なすしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。

> **注:**
>
> - 高いしきい値は、低いしきい値よりも大きくする必要があります。
> - 高いしきい値と低いしきい値を指定した後、**更新**をクリックして、**使用済みスペース**グラフの更新をトリガーします。
> - 高いしきい値と低いしきい値を指定した後、その間のスペース使用量はデフォルトで**中**になります。

プロファイルコンテナのステータス

このページには、指定された期間におけるプロファイルコンテナのステータスレコードのリストが表示されます。レコードをフィルタリングするには、構成セットと日付範囲を選択し、**適用**をクリックします。必要に応じて、フィルタを使用して結果をさらに絞り込むことができます。

次のアクションを実行できます。

- **表示する列**。テーブルの表示をカスタマイズできます。列をカスタマイズする際は、少なくとも2つの列を選択する必要があります。カスタマイズが完了すると、テーブルが更新され、選択した列が表示されます。
- **更新**。ステータスレコードのリストを更新します。
- **最新のステータスを取得**。選択したレコードが関連するコンテナのデータ収集をトリガーします。このオプションにより、ユーザーのコンテナステータスが最新の状態になります。

> **注:**
>
> コンテナが使用中の場合、エージェントは関連データの収集を試みます。成功すると、最新のステータスがコンテナの最新レコードに更新されます。更新が完了するまでに時間がかかる場合があります。最新のレコードを表示するには、**更新**をクリックします。

「**アタッチステータス**」列には、ステータスとエラーコードに関する情報が表示されます。エラーコードの詳細については、Microsoft の ドキュメント `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/fslogix/fslogix-error-codes-reference>` を参照してください。

ラージファイルスキャン列には、ラージファイルスキャンの結果に関する情報が表示されます。構成セットのラージファイルスキャンを有効にするには、その**詳細設定 > インサイト**ページに移動します。レコードのラージファイルスキャン結果の詳細を表示するには、該当する列フィールドの**結果**をクリックします。プロファイルコンテナで実行されたラージファイルスキャンの結果を示すラージファイルスキャンウィザードが表示されます。100 MB 未満のファイルとフォルダは個別にリストされません。

レポート

デプロイメントを分析できるレポートを提供します。

はじめに

「**レポート**」ページには、リストビューと概要ビューの2つのビューがあります。

リストビュー

「**レポート**」ページの**リスト**ビューには、レポートが表形式で表示されます。レポートはイベントごとに生成されます。ただし、すべてのイベントが対応するレポートを生成するわけではありません。現在、次の種類のイベントがレポートを生成します。

- **アプリケーションセキュリティログ**

- **アプリケーションセキュリティログ**を有効にするたびに、対応するレコードが生成されます。これらのレコードは4時間ごとに1つのレポートに統合されます。各レポートの詳細内で、管理者はサブタイプ別にログを表示できます。このテーブルには、使用されたフィルター、**イベント時刻**、**イベントタイプ**、**結果コード**、**結果の概要**、**重大度**、エージェントとユーザーのリスト、および**構成セット**などの情報が含まれます。このテーブルには、次のサブタイプも含まれます。
- **EXE と DLL**
- **MSIとスクリプト**
- **パッケージアプリの展開**
- **パッケージアプリの実行**

  アプリケーションセキュリティログを有効にすると、**EXEとDLL**、**MSIとスクリプト**、**パッケージアプリの展開**、**パッケージアプリの実行**の4つのサブタイプすべてのレポートをWebコンソールで表示できますが、各サブタイプに対応するレポートを個別に表示することはできません。このテーブルには、**時刻**、**ルール名**、**イベントID**、**ターゲット**、**結果**の各フィールドのログが表示されます。この選択の結果は、**許可**、**監査**、または**ブロック**のいずれかになります。

- **特権昇格とプロセス階層制御ログ**
  - **特権昇格**および**プロセス階層制御**ログを有効にするたびに、対応するレコードが生成されます。これらのレコードは4時間ごとに1つのレポートに統合されます。各レポートの詳細内で、管理者はサブタイプ別にログを表示できます。このテーブルには、使用されたフィルター、**イベント時刻**、**イベントタイプ**、**結果コード**、**結果の概要**、**重大度**、エージェントとユーザーのリスト、および**構成セット**などの情報が含まれます。4つのセキュリティ側面から選択して、詳細を表示できます。
  - **EXE特権昇格**。**EXE特権昇格**サブタイプが選択されている場合、テーブルには**時刻**、**プロセス**、**コマンドライン**、**ルール名**、**結果**の各フィールドのログが表示されます。昇格の結果は、成功または失敗のいずれかになります。
  - **MSI特権昇格**。**MSI特権昇格**サブタイプが選択されている場合、テーブルには**時刻**、**パッケージ**、**コマンドライン**、**ルール名**、**結果**の各フィールドのログが表示されます。昇格の結果は、成功または失敗のいずれかになります。
  - **自己昇格**。「**自己昇格**」サブタイプが選択されている場合、テーブルには「**時間**」、「**プロセス**」、「**ルール名**」、「**理由**」、「**結果**」の各フィールドのログが表示されます。昇格の結果は、成功または失敗のいずれかになります。

> **注:**

失敗のみ表示」トグルを有効にすると、結果が「**失敗**」のレコードのみが表示され、それ以外は非表示になります。

- **プロセス階層制御**。「**プロセス階層制御**」サブタイプを選択すると、テーブルには「**時間**」、「**子プロセス**」、「**親プロセスID**」、「**ルール名**」、「**結果**」の各フィールドのログが表示されます。この選択の結果、ブロックされたアクティビティまたは許可されたアクティビティのいずれかが表示されます。

注:

- 各サブタイプで少なくとも1つの失敗が発生した場合、セキュリティ側面タブにエラーアイコンが表示されます。
- **ブロック済みのみ表示**」トグルを有効にすると、結果が「**ブロック済み**」のレコードのみが表示され、それ以外は非表示になります。

- **アクション処理結果**
  - アクションが割り当てられるたびに、対応するレコードが生成されます。これらのレコードは4時間ごとに1つのレポートに統合されます。レポートには、エージェントマシンにログオンしているユーザーのすべてのアクション処理結果が含まれます。アクションタイプを選択すると、表形式で詳細を表示できます。このテーブルには、アクションの名前、アクションが割り当てられているユーザー、使用されたフィルター、処理結果（ステータス）などの情報が含まれます。ステータスは次の3つです。
    - **適用済み（処理済み）**。アクションがターゲットユーザーに正常に適用された（または正常に処理された）ことを意味します。
    - **期限切れ**。処理されたアクションが最新ではないことを意味します。これは、アクションが更新されたものの、まだ適用されていない場合に発生します。
    - **エラー**。アクションの適用中にエラーが発生しました。トラブルシューティングを行うには、デバッグモードを有効にしてエージェントのログを表示します。「ログファイルの表示」を参照してください。
  - 現在、この種類のレポートは、グループポリシー設定、外部タスク、およびJSONファイルでのみ利用可能です。結果の収集を有効にするには、「監視設定」を参照してください。
- **アクション処理イベント**

この種類のレポートは、エージェント処理中に各アクションに対してオンデマンドで生成されます。たとえば、コンソール出力ログを生成するスクリプトベースの外部タスクから出力データを収集するようにエージェントを構成できます。これらのレポートは詳細な処理結果を提供し、WEM Webコンソールでアクションの結果を直接表示できます。

現在、この種類のレポートはスクリプトベースの外部タスクでのみ利用可能です。

- **スクリプトタスク**
  - タスクが実行されるたびに、対応するレポートが生成されます。レポートには、タスクの実行日時、タスクの実行結果などの情報が含まれます。
  - 組み込みタスクとカスタムタスクの両方でレポートが生成されます。これらのレポートには、事前定義されたレポートデータが提供されます。カスタムタスクを追加する際、報告されるデータをカスタマイズできます。事前定義されたレポートデータがニーズに合わない場合は、拡張データを使用してさらに分析することを検討してください。
- **プロファイルコンテナのステータス**
  - プロファイルコンテナがアタッチされるたびに、対応するアタッチレコードが生成されます。これらのレコードは毎日1つのレポートに統合されます。レポートには、プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用するセッションのステータス、検出された問題などの情報が含まれます。この情報を使用して、プロファイルコンテナのストレージ使用量を追跡し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定できます。
- **最適化と使用状況**
  - 構成セットの**Advanced Settings > Insights**ページで**最適化と使用状況のインサイトのためのデータ収集とアップロードを有効にする**が有効になっている場合、エージェントは最適化と使用状況のデータを毎日収集してアップロードします。収集されたデータに基づいてレポートが生成されます。
- **最適化と使用状況のインサイト**
  - 構成セットにインサイトを適用するたびに、最適化と使用状況に関する対応するレポートが生成されます。このレポートにより、アプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。使用状況と最適化のインサイトは1つのレポートに集約されます。

> **注:**

> **Monitoring > Insights**ページの**Optimization Insights**または**Usage Insights**ページで、構成セットと日付範囲を選択してインサイトを適用します。同じ構成セットと日付範囲を使用して適用されたインサイトについては、1つのレポートのみを保持します。同じ構成セットと日付範囲を使用してインサイトを適用すると、後でレポートが更新されます。

- **Profile Management ヘルスチェック**
  - エージェントは24時間ごと、またはオンデマンドでProfile Managementヘルスチェックを実行します。その後、対応するレポートが生成されます。レポートには次の要素が含まれます。
    - レポートが生成された日時
    - 関連するエージェントや構成セットなどの詳細情報
    - 検出された問題（エラーや警告など）と修正の推奨事項
  - エラー/警告を修正し、必要なプロファイル管理設定に到達するには、**Agents**ページの**Statistics**タブで**More** > **Profile** > **View Profile Management health check report**をクリックします。これにより、**Reports**ページに移動します。次に、**Results**の下にある**Profile Management Settings**を選択して、**Profile Management health check**ページの**Details**タブでプロファイル管理設定を変更/更新できます。これにより、Profile Management構成ページに移動します。フッターにある、対応する設定が強調表示されているすべてのエラー/警告を順に確認し、構成に必要な変更を加えることができます。
  - Profile Managementの設定を変更するには、(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/citrix-profile-management.html)に移動します。レポートに含める設定の範囲をカスタマイズするには、その構成セットの下にある(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/advanced-settings.html#monitoring-preferences)に移動します。
  - **Application delivery task results**イベントタイプを選択してフィルターを設定すると、エージェントは対応するレポートのみを表示します。ただし、**Application delivery task results**ページには**Raw data**のみが表示されます。

各レポートはテーブルレコードとして表示されます。これらのレポートは、アクションを決定するのに役立つ診断情報を提供します。たとえば、イベントの重大度に基づいてレポートを確認できます。重大度レベルに基づいて、どのようなアクションを実行するかを決定できます。

> **ヒント:**

> 特定のレポート（組み込みのスクリプトタスクレポートなど）には、事前に定義された重大度レベルがあります。

> スクリプトタスクの場合、**Result code**列には次の情報が表示されます。

- **0**: タスクが正常に実行されたことを示します。
- **-4**: 提供した実行可能ファイルのチェックサムの検証に失敗した場合に表示されます。
- **-5**: 実行可能ファイルの署名検証に失敗した場合に表示されます。考えられる原因：実行可能ファイルの末尾に有効な署名がない、または証明書がないために署名検証が失敗した。
- **-8**: タイムアウトによりタスクがキャンセルされた場合に表示されます。

プロファイルコンテナのステータスの結果コード（ステータスコード）については、Microsoftのドキュメント`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/fslogix/fslogix-error-codes-reference>`を参照してください。注意：「-1」は、WEMがステータスコードを取得できない可能性があることを意味します。

- **VHDディスク圧縮**: Citrix Profile Management VHDディスク圧縮が完了するたびに、対応するレポートが生成されます。レポートには、コンテナ、トリガー条件、圧縮前のサイズ、圧縮後のサイズなどの情報が含まれます。取得した情報により、コンテナストレージ使用量の変化を効果的に追跡できます。VHDディスク圧縮のレポート収集を有効にするには、(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/advanced-settings.html#monitoring-preferences)を参照してください。

概要ビュー

Reportsページの**Summary**ビューには、**Event type**、**Action processing results**、**Configuration set**、および**Script execution results**に基づいてレポートの統計結果を提供する4つのグラフが表示されます。**Refresh**をクリックすると、4つのグラフすべてが最新の結果で再読み込みされます。

表示する列とフィルター

テーブルの表示をカスタマイズできます。**Columns to display**をクリックして、表示する列を選択します。列をカスタマイズする際は、少なくとも2つの列を選択する必要があります。カスタマイズが完了すると、テーブルは選択した列を表示するように更新されます。

列ヘッダーをクリックして並べ替えることができます。フィルターを適用してレポートをフィルター処理できます。使用したフィルターをフィルターセットとして保存し、これらのフィルターセットを直接管理することもできます。

フィルターセットの管理ページで、**フィルターセットの適用**を選択してフィルターセットを適用し、**削除**を選択してフィルターセットを削除できます。

レポートの詳細を表示

詳細情報を表示するには、レポートを選択します。そのためには、レポートを見つけて右側の省略記号をクリックします。レポートウィザードが表示されます。これには2つのタブが含まれています。

- **詳細**。詳細な結果の概要を提供します。
- **生データ**。レポートに関連する生データを提供します。拡張データはJSON形式です。必要に応じて、拡張データを詳細な分析に使用します。

正規表現の一致を強調表示が有効になっているスクリプトタスクの場合、そのレポートの**詳細**タブに次のオプションが表示されます。

- **正規表現の一致を表示**。正規表現の一致を詳細に表示できます。

レポートのエクスポート

各レポートのデータは、次の方法でエクスポートできます。

- レポートのエクスポート
- サードパーティプラットフォームへのエクスポート

> **注:**
>
> - 制限付き管理者は、**CSVにエクスポート**または**JSONにエクスポート**機能のみを使用できます。
> - エクスポート時には、構成セット条件を含むフィルターを適用する必要があります。

レポートのエクスポート

各レポートのデータをCSVまたはJSON形式でエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. **エクスポート > CSVまたはJSONにエクスポート**をクリックします。エクスポートウィザードが表示されます。
2. 次のオプションからエクスポート形式を選択します。
   - **CSV**。このオプションは、生データをCSV形式でエクスポートします。

- **CSV (書式設定済み)**。この選択肢は、CSV形式の拡張データの可読性を向上させます。
- **JSON**。このオプションは、生データをJSON形式でエクスポートします。
- **JSON (書式設定済み)**。この選択肢は、JSON形式の拡張データの可読性を向上させます。

さらに、レポートの内容が`variable = value`または`variable: value`の形式に従っている場合、書式設定されたオプションはスクリプトタスクレポートを変数に解析できます。ただし、**CSV (書式設定済み)** オプションを選択した場合、エクスポートされたデータでは過剰な数の列の一部が省略される可能性があります。

1. オプションで、**エクスポートのコピーをローカルマシンに保存** を選択します。エクスポートはブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。
2. **エクスポート** をクリックします。

> **重要:**
>
> - 最大50,000件のレコード（レポート）をエクスポートできます。エクスポートするレコード数が制限を超えると、上位50,000件のみがエクスポートされます。Citrix®は、フィルターを使用してレコード数を50,000件以下に減らすことを推奨します。
> - エクスポートの実行中は、別のエクスポートを実行できません。
> - エクスポートが30分以内に完了しない場合、それに関する通知は届かなくなります。後でエクスポート結果を表示するには、**ファイル** に移動します。
> - レポートをエクスポートすると、エクスポートはクラウドストレージに保存されます。クラウドストレージにはストレージ制限があります。制限に達すると、エクスポートを続行できません。その場合は、**ファイル** に移動して不要なファイルを削除し、スペースを解放してください。(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/files.html)を参照してください。

サードパーティプラットフォームへのエクスポート

レポートデータをサードパーティプラットフォームにエクスポートすることで、タスクの実行をシームレスに分析および監視できます。また、VDAホスト情報、CPU使用率、メモリ使用率など、サードパーティプラットフォームでカスタマイズされた特別な要件を完了することもできます。

レポートは、手動または自動でサードパーティプラットフォームにエクスポートできます。

サードパーティプラットフォームへの手動エクスポート

各レポートのデータをサードパーティプラットフォームに手動でエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. **Export > Export to third-party platform** をクリックします。
2. **Export to third-party platform** ペインで、**Destination** ドロップダウンからサードパーティプラットフォーム名のいずれかを選択するか、**Add new** を選択します。

   > **注:**
   >
   > 現在、GrafanaとSplunkがサポートされているサードパーティプラットフォームです。
   >
   > **Add destination** ペインで **Add new** を選択した場合は、必要なサードパーティプラットフォームの詳細を入力します。

3. **Export** をクリックします。 エクスポートプロセスが完了すると、宛先（この場合はGrafana）に移動して、エクスポートされたレポートデータを確認できます。

自動的に - 自動レポートを構成する

各レポートのデータをサードパーティプラットフォームに自動的にエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. **Export > Configure automatic report** をクリックします。
2. **Configure automatic export** ペインで、**Add rule** をクリックします。
3. **Add rule** ペインで、必要なサードパーティプラットフォームの詳細を入力します。
4. 新しく追加されたルールの構成変更を保存するには、**Done** をクリックします。

ログ

「**ログ**」ページには、Workspace Environment Management™ (WEM) Webコンソールにおけるすべての構成変更と管理アクティビティの記録が表示されます。これを使用して、誰が、何を、いつ、どの構成セットで変更したかを監査できます。管理ログは180日間保持され、最大100,000件のレコードが保存されます。

必要な権限

管理ログへのアクセスは、役割によって制御されます。

- 「**WEM完全管理者**」は、すべての構成セットのすべての管理ログを表示できます。

- 「**WEM制限付き管理者**」は、読み取りアクセス権を持つ構成セットのログを表示できます。構成セットに関連付けられていない操作の場合、「**WEM制限付き管理者**」は、自身の活動ログのみを表示できます。

「ログ」ページへのアクセス

「**ログ**」ページにアクセスするには：

1. WEM Webコンソールにサインインします。
2. 左側のナビゲーションで、**監視** > **ログ** に移動します。

ログの詳細を表示

各ログレコードには、次の情報が含まれています。

フィールド	説明
時間	操作が実行された日時。
管理者	操作を実行した管理者の表示名とユーザープリンシパル。
イベントタイプ	イベントのカテゴリ。
操作	実行された操作の種類（例：作成または更新）。
ターゲット	変更されたオブジェクトの名前と種類。
構成セット	該当する場合、操作に関連付けられている構成セット。
ステータス	操作が成功したか失敗したか。
詳細	変更の説明。該当する場合は変更前と変更後の値を含む。

ログのフィルター

ログリストは、次の条件でフィルターできます。

フィルター	説明
時間範囲	開始時刻と終了時刻でログをフィルターします。
管理者	操作を実行した管理者でログをフィルターします。
イベントタイプ	イベントカテゴリでフィルター: **構成の変更**、**割り当てられたエージェントタスク**、**監視操作**、**RBAC構成**、または**登録イベント**。
操作の種類	操作でフィルタリング: **作成**、**更新**、**削除**、**割り当て**、または**割り当て解除**。
構成セット	関連付けられている構成セットでログをフィルタリングします。

ログのエクスポート

ログをCSVまたはJSONファイルにエクスポートできます。

ログをエクスポートするには:

1. 必要に応じて、必要なフィルターを適用します。
2. **エクスポート**をクリックし、**CSV**または**JSON**を選択します。

スクリプト化されたタスクのスクリプト

はじめに

このページでは、WEMエージェントで自動化または実行できるスクリプトを管理できます。スクリプトは次のカテゴリに分類されます。

- 組み込みスクリプト

  一般的なVDA管理およびトラブルシューティングのニーズに対応する、すぐに使用できるスクリプト。

- カスタムスクリプト

  環境固有の自動化および運用要件に対応する、管理者が作成したスクリプト。

> **注:**
>
> スクリプトから自動タスクを構成するには、構成セットのスクリプト化されたタスクに移動します。

カスタムスクリプトの追加

スクリプト化されたタスクページには、すべての組み込みスクリプトと、ユーザーまたは他の管理者が作成したカスタムスクリプトが一覧表示されます。要件に合わせて、必要に応じて追加のカスタムスクリプトを追加できます。

始める前に

WEM Webコンソールでカスタムスクリプトを作成する前に:

1. スクリプトコンテンツの作成

   要件に基づいてPowerShellスクリプトを作成します。

2. スクリプトコンテンツの検証

   Citrix Environment Tool Hub > Scripted Task Validatorツールを使用してスクリプトを実行し、実行結果を確認します。必要に応じて、後でWEM Webコンソールにインポートするためにスクリプトをエクスポートできます。

   詳しくは、「スクリプト化されたタスクの検証とエクスポート」を参照してください。

ワークフロー

カスタムスクリプトを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「**スクリプトタスク**」ページで、「**カスタム**」タブをクリックし、「**カスタムスクリプトの追加**」をクリックします。
2. 「**カスタムスクリプトの追加**」ウィザードで、次の設定を構成し、「**保存**」をクリックします。

   - **スクリプト名**。スクリプトの名前を指定します。
   - **説明**。必要に応じて、スクリプトを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
   - **スコープ（オプション）**。このスクリプトが属するスコープを指定します。そのスコープの権限を持つ管理者のみがこのスクリプトにアクセスできます。スコープを指定しない場合、完全なWEM管理者のみがこのスクリプトにアクセスできます。

- **タグ**。既存のタグから選択するか、コンマで区切ってタグを入力します。タグは20文字以内である必要があります。タグはキーワードやラベルのようなものです。タグを使用すると、新しい方法でスクリプトを識別できます。また、フィルターとして機能し、重要な基準に応じてスクリプトの表示を再配置できます。タグはいくつでも使用できます。
- **ファイルの種類**。スクリプトのファイルの種類を選択します。次の2種類のファイルがサポートされています。
  - **PowerShell**。個別のPowerShellスクリプトファイル。
  - **ZIP**。複数のファイルを1つのzipファイルにバンドルしたもの。10 MBを超えるzipファイルはサポートされていません。zipファイルをアップロードした後、スクリプトの開始時に実行するファイルを示すエントリポイントを指定します。エントリポイントファイルは、フォルダー構造内で3レベルより深くならないようにしてください。
- **ファイルのアップロード**。「**参照**」をクリックし、ファイルに移動して選択し、「**開く**」をクリックします。「**カスタムスクリプトの追加**」ウィザードに戻ります。

> **ヒント:**
>
> スクリプトは次の2つの方法でアップロードできます。
>
> - Webコンソールマシンにすでに配置されている.zipファイルを選択します。
> - Scripted Task Validatorツールでスクリプトをエクスポートすると、コンテンツが自動的にクリップボードにコピーされます。「**カスタムスクリプトの追加**」ページで、クリップボードから直接コンテンツを貼り付けます（<Ctrl+V>）。この方法では、Webコンソールマシンに.zipファイルを保存する必要がありません。

- **権限の付与**。スクリプトに付与するアクセスレベルを指定します。各オプションに関連付けられている権限を理解していることを確認してください。
  - **フルアクセス**。フルアクセスが割り当てられたスクリプトは、広範なローカルアクセス権を持ちます。選択した場合、スクリプトはローカルシステムアカウントで実行されているかのように権限が付与されます。
  - **制限付きアクセス (ネットワークアクセスあり)**。制限付きアクセス (ネットワークアクセスあり) が割り当てられたスクリプトは、広範なローカルアクセス権を持ちませんが、ネットワークリソースにアクセスできます。選択した場合、スクリプトはネットワークサービスアカウントで実行されているかのように権限が付与されます。

    - **制限付きアクセス (ネットワークアクセスなし)**。制限付きアクセス (ネットワークアクセスなし) が割り当てられたスクリプトは、広範なローカルアクセス権を持たず、ネットワークリソースにアクセスできません。選択した場合、スクリプトはローカルサービスアカウントで実行されているかのように権限が付与されます。
    - **ログオンユーザーとして実行**。選択した場合、スクリプトはログオンユーザーのセッションのコンテキストで実行され、ユーザーセッションがアクティブであるか切断されているかに関わらず、同じ権限が付与されます。

  詳細については、Microsoftのドキュメント `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/security/identity-protection/access-control/security-identifiers#well-known-sids>` を参照してください。

- **作業フォルダー**。オプションで、エンドユーザーのオペレーティングシステム上のローカルフォルダーの絶対パスを入力します。作業フォルダーは、ファイルが開始されるときの現在のフォルダーです。環境変数（例: %ProgramFiles%）を使用してパスを構築できます。指定しない場合、`PSScriptRoot` がデフォルトの作業フォルダーとして使用されます。`PSScriptRoot` の詳細については、Microsoftのドキュメント `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/powershell/module/microsoft.powershell.core/about/about_automatic_variables?view=powershell-7.1>` を参照してください。
- **このタスクは出力ファイルを生成しますか**。追加するスクリプトが出力ファイルを生成するかどうかを選択します。
- **出力パス**。ファイルが存在するフォルダーに対する相対パスを入力します。パスにはファイル名とファイル名拡張子を含める必要があります。例: `output\report.txt`。

スクリプトの管理

必要に応じてスクリプトを管理できます。利用可能なアクションは次のとおりです。

- スクリプトの編集
- スクリプトの削除
- スクリプトのクローン作成
- スクリプト化されたタスクの構成
- スクリプトから外部タスクを作成

スクリプトを編集する

スクリプトを編集するには、次の手順を実行します。

1. **Scripted Tasks** ページで、スクリプトを見つけます。必要に応じて、検索ボックスまたはタグを使用してすばやく見つけます。
2. スクリプトの省略記号をクリックし、**Edit script** を選択します。**Edit script** ウィザードが表示されます。
3. **Task info** タブで、必要に応じて設定を構成します。
4. **Script file** タブで、スクリプトの内容を表示します。
5. 「**保存**」をクリックします。

> **注:**
>
> 組み込みスクリプトは編集できません。

スクリプトを削除する

スクリプトを削除するには、次の手順を実行します。

1. **Scripted Tasks** ページで、スクリプトを見つけます。必要に応じて、検索ボックスまたはタグを使用してすばやく見つけます。
2. スクリプトの省略記号をクリックし、**Delete script** を選択します。

> **重要:**
>
> 組み込みスクリプトは削除できません。

スクリプトを複製する

スクリプトを複製するには、次の手順を実行します。

1. **Scripted Tasks** ページで、スクリプトを見つけます。必要に応じて、検索ボックスまたはタグを使用してすばやく見つけます。
2. スクリプトの省略記号をクリックし、「**スクリプトの複製**」を選択します。

> **注:**
>
> スクリプトを複製する際、重複する名前を避けるために名前の変更を求められます。

スクリプト化されたタスクの構成

スクリプト化されたタスクを構成および自動化するには、次の手順を実行します。

1. 「**スクリプト化されたタスク**」ページでスクリプトを見つけます。必要に応じて、検索ボックスまたはタグを使用してすばやく見つけます。
2. スクリプトの省略記号をクリックし、「**タスクの構成**」を選択します。
3. 「**構成セットの選択**」ウィザードで、タスクを作成する構成セットを選択します。
4. 構成を完了するには、スクリプト化されたタスクの作成の手順に従います。

スクリプトから外部タスクを作成する

このアクションを使用して、既存のスクリプトから直接外部タスクを作成します。

> **ヒント:**
>
> スクリプト化されたタスクはマシンレベルで動作します。ユーザーセッションレベルでタスクを実行するには、代わりに外部タスクを作成します。

> スクリプトから外部タスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「**スクリプト化されたタスク**」ページでスクリプトを見つけます。必要に応じて、検索ボックスまたはタグを使用してすばやく見つけます。
2. スクリプトの省略記号をクリックし、「**外部タスクの作成**」を選択します。
3. 「**構成セットの選択**」ウィザードで、タスクを作成する構成セットを選択します。
4. 「外部タスクの作成」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/actions.html#create-an-external-task)の手順に従って、構成を完了します。

組み込みスクリプト

現在、以下の組み込みスクリプトをご利用いただけます。

- クラウドヘルスチェック
- Windowsサービス管理
- サーバー再起動
- CDFトレース管理
- DNS設定の確認

- RDSライセンスの確認
- VDA登録解除の診断
- プロファイル管理ヘルスチェックの実行
- プロファイルリセットトリガーの設定
- Citrix AOTの問題の診断
- Citrix AOT障害ログの収集
- Citrix診断ログの収集
- Windowsイベントログを収集する
- Citrix Scout診断を収集する

クラウドヘルスチェック

仮想デリバリーエージェント (VDA) の健全性を測定するチェックを実行できます。VDAヘルスチェックは、一般的なVDA登録およびセッション起動の問題の考えられる原因を特定します。クラウドヘルスチェックは、エージェントホスト上のローカルシステムアカウントで実行されます。

Windowsサービス管理

Windowsサービス管理は、1つまたは複数のWindowsサービスの開始、停止、再起動、構成など、Windowsサービスに関する頻繁に使用される機能を提供します。

Windowsサービスの再起動

このスクリプトは、Windowsサービスのステータスを確認します。サービスが現在実行されておらず、`ForceStart` パラメーターが指定されている場合、スクリプトはサービスを開始します。現在のステータスに関係なく、サービスが実行中で強制的な開始を必要としない場合、最新の構成で動作していることを確認するため、または停止状態から回復するために再起動されます。

パラメーター

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`ServiceNames`	文字列	BrokerAgent	いいえ	管理するサービスの名前を指定します。指定しない場合、`BrokerAgent` がデフォルトになります。複数

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
				のサービスを入力する必要がある場合は、サービス名をコンマで区切ります。すべてのスペースはトリミングされます。例: ServiceA, ServiceB。
`ForceStart`	ブール値	真	いいえ	サービスが実行されていない場合に開始するかどうかを示します。実行中のサービスには影響しません。実行中のサービスは、メンテナンスまたは回復の目的で常に再起動されます。

Windowsサービスを停止する

このスクリプトは、指定されたWindowsサービスのリストを停止します。スクリプトは、各サービスがインストールされているかどうかを確認し、サービスを強制停止しようとします。その後、スクリプトはサービスが正常に停止したかどうかを検証し、ステータスを報告します。

パラメーター

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`ServiceNames`	文字列	BrokerAgent	いいえ	管理するサービスの名前を指定します。指定しない場合、デフォルトは `BrokerAgent` です。複数の

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
				サービスを入力する必要がある場合は、サービス名をコンマで区切ります。すべてのスペースはトリミングされます。例: ServiceA, ServiceB。

Windowsサービスを構成する

このスクリプトは、スタートアップの種類や回復アクションなど、Windowsサービスの設定を調整します。

パラメーター

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`ServiceNames`	文字列	BrokerAgent	偽	管理するサービスの名前を指定します。指定しない場合、`BrokerAgent` がデフォルトになります。複数のサービスを入力する必要がある場合は、サービス名をコンマで区切ります。すべてのスペースはトリミングされます。例: ServiceA, ServiceB。
`StartupType`	文字列	ヌル	偽	サービスの起動タイプを設定します。有効なオ

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
				プションは、Automatic、Manual、またはDisabledです。
`FirstFailureAction`	文字列	ヌル	偽	最初の障害に対するアクションを定義します。例: restart/none。
`SecondFailureAction`	文字列	ヌル	偽	2回連続の障害に対するアクションを定義します。
`SubsequentFailureAction`	文字列	ヌル	いいえ	2回目以降のすべての失敗に対するアクションを定義します。

サーバーの再起動

マシンの再起動

このスクリプトは、オプションの遅延と強制オプションを使用してローカルマシンを再起動します。

パラメーター

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`Force`	ブール値	真	いいえ	指定した場合、未保存のデータやアクティブなユーザーセッションを無視して、即座に再起動を強制します。

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`Delay`	整数	10	いいえ	コンピューターが再起動されるまでの遅延時間（秒単位）を指定します。3秒から30秒の間である必要があります。デフォルトは10秒です。

CDF トレース管理

CDF トレースの開始

このスクリプトは、単一のCTLファイルまたは事前定義されたCTLファイルカテゴリを入力として使用して、CDFトレースプロセスを開始します。選択したCTLファイルで定義されたモジュールをトレースし、`RunMinutes` パラメーターで指定された期間が経過すると、`cdfcontrol.exe` 自動的に停止します。

パラメーター

名前	種類	デフォルト	必須	注
`traceOutputPath`	文字列	`C:\ProgramData\Citrix\WEM\CDFLogs`	偽	CDFレポートの出力パスを指定します。
`category`	文字列	`all`	偽	トレースを開始するための事前定義されたカテゴリを指定します。サポートされている値

名前	種類	デフォルト	必須	注
				は次のとおりです: • `all` • `always on tracing` • `desktop Server os vda` • `delivery controller` • `federated authentication service` • `provisioning service` • `universal print server`

名前	種類	デフォルト	必須	注
				• `citrix director` • `citrix studio` • `session recording administration` • `session recording player` • `citrix workspace app for windows`
`ctlFilePath`	文字列	ヌル	偽	トレースを開始する `ctl` ファイルを指定します。
`RunMinutes`	整数	30	偽	`cdfcontrol.exe` が自動的に停止して終了す

名前	種類	デフォルト	必須	注
				るまでに実行される期間を指定します。

CDFトレースの停止

このスクリプトは、CDFツールのトレースを停止します。

CDFログのクリーンアップ

CDFトレースログをクリーンアップしてストレージ消費を節約することは有用です。指定されたディレクトリ下のCDFファイルを削除する機能を提供する必要があります。

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`FileAgeDays`	整数	3	偽	日数での経過時間しきい値を指定します。この値よりも古いファイルとフォルダーは削除されます。デフォルト値は3日であり、このパラメーターはオプションです。`FileAgeDays`が1日未満の場合、すべてのファイルまたはディレクトリが削除されます。

Citrix AOT障害ログの収集

このスクリプトは、Citrix AOTログの収集と処理のために設計された包括的な自動化ツールです。**Citrix CDFControl**と統合して、トレース収集の構成、フィルタリングの適用（デフォルト: `Level=1, Class=Failure`）、およびETL（イベントトレースログ）ファイルを分析用の読み取り可能なCSV形式への変換を行います。

名前	種類	デフォルト	必須	注
`StartTime`	`[DateTime]`	`EndTime - 30 minutes`	偽	ログフィルタリングの開始時刻を指定します。
`EndTime`	`[DateTime]`	現在の日時	偽	ログフィルタリングの終了時刻を指定します

DNS設定の確認

このスクリプトは、Citrix VDA環境向けに設計された包括的なDNSヘルスチェックツールです。DNS構成を検証し、Citrixサービスに影響を与える可能性のあるDNS関連の問題を特定するためのトラブルシューティングを実行します。

名前	種類	デフォルト	必須	注
`DomainName`	`[string]`	該当なし	偽	DNS解決をテストするドメイン名を指定します（DNS名前解決テストを有効にします）
`FlushDNS`	`[switch]`	偽	偽	DNSキャッシュを単独のアクションとしてフラッシュするかどうかを指定します

RDSライセンスの確認

このスクリプトは、ローカルコンピューター上のRemote Desktop Services (RDS) ライセンス構成とステータスをチェックするために設計された、包括的なRDSライセンス検証ツールです。これは、適切な操作のためにRDSライセンスコンプライアンスが不可欠なCitrix VDA環境で特に役立ちます。このスクリプトを使用して、ライセンスコンプライアンスを確保し、中断のないマルチセッションユーザーアクセスを維持します。

名前	種類	デフォルト	必須	注
`DomainName`	`[string]`	該当なし	いいえ	DNS解決をテストするドメイン名を指定します（DNS名前解決テストを有効にします）
`FlushDNS`	`[switch]`	いいえ	いいえ	DNSキャッシュをスタンドアロンアクションとしてフラッシュするかどうかを指定します

VDA登録解除の診断

このスクリプトは、Citrix Virtual Delivery Agent (VDA) の登録解除の問題をトラブルシューティングするために設計された、包括的な診断ツールです。Citrix環境におけるVDA登録解除問題の潜在的な原因を特定するために、複数のヘルスチェックと診断手順を実行します。

名前	種類	デフォルト	必須	注
`StartTime`	`[DateTime]`	`EndTime - 30 minutes`	いいえ	ログフィルタリングの開始時刻を指定します
`EndTime`	`[DateTime]`	現在の日時	いいえ	ログフィルタリングの終了時刻を指定します

プロファイル管理のヘルスチェックを実行

このスクリプトは、Citrix Profile Managementの展開の包括的なヘルスチェックを実行します。構成をスキャンして潜在的な問題を特定し、ログを分析して一時プロファイルエラーやログオン時の大幅な時間差などの重大な問題を検出します。

名前	種類	デフォルト	必須	注
`CtxSessionKey`	[string]	なし	いいえ	特定のセッションログを検索す

名前	種類	デフォルト	必須	注
				るために使用されるCitrixセッションキーを指定します。指定しない場合、スクリプトは過去24時間のセッションを分析します。
`LogonTime`	[string]	なし	いいえ	イベントログ検索をフィルタリングするログオン時間を指定します。さまざまな日付と時刻の形式を受け入れます。指定しない場合、スクリプトは過去24時間分のイベントログをフィルタリングします。
`StructuredOutputOnly`	[switch]	はい	偽	コンソールログなしで構造化されたJSONデータを出力するかどうかを指定します。
`Parallel`	[switch]	はい	偽	パフォーマンスを向上させるために、ログ分析操作に並列処理を使用するかどうかを指定します。

プロファイルリセットトリガーの設定

このスクリプトは、ユーザーのプロファイルをリセットするトリガーを設定します。ユーザーが次回ログオンするときに、既存のプロファイルがバックアップされ、新しいクリーンなプロファイルフォルダーが作成されます。

名前	種類	既定値	必須	注
`CtxSessionKey`	[string]	なし	はい	ユーザーの次回のログオン時にプロファイルリセットをトリガーするために使用されるCitrixセッションキーを指定します。
`FoldersToRestore`	[string]	なし	偽	プロファイルリセット後に復元するフォルダーを指定します。指定しない場合、**ダウンロード**、**デスクトップ**、**ピクチャ**などの既知のフォルダーが既定で復元されます。
`BackupNameSuffix`	[string]	ヌル	フォールス	プロファイルのリセット中にバックアップフォルダー名に使用するサフィックスを指定します。指定しない場合、サフィックスは `upm_%CurrentTimeStamp%` にデフォルト設定されます。

Citrix AOTの問題を診断する

このスクリプトは、Citrix Always On Tracing (AOT) の構成を検証し、一般的な問題を診断し、トラブルシューティングをサポートするためのAOT診断レポートを生成します。
`StructuredOutputOnly` パラメーターを `true` に設定すると、結果が構造化されたUIビューで表示され、レビューが容易になります。

名前	種類	デフォルト	必須	注
`StructuredOutputOnly`	[boolean]	無効	フォールス	指定した場合、スクリプトは人間が読める形式のテキストではなく、生のJSON診断レポートのみを出力します。

Citrix診断ログを収集する

このスクリプトは、VDAからCitrix Always On Tracing (AOT) ログとWindowsイベントログを収集し、タイムスタンプ付きのZIPファイルとして保存します。

名前	種類	デフォルト	必須	注
`LogType`	[string]	該当なし	偽	収集するログを制御します。 `AOTLog` は AOT ETL ファイルのみを収集し、 `EventLog` は Windows イベントログのみを収集します。両方を収集するには空のままにします。
`RestartTelemetryService`	[boolean]	真	偽	AOT ログを収集する前に CitrixTelemetry Service を停止

名前	種類	デフォルト	必須	注
				して再起動するかどうか。これにより、ETL ファイルのファイルロックが解除されます。`true` または `false` を受け入れます。デフォルトは `true` です。
`StartTime`	[DateTime]	24時間前	偽	ログ収集の開始時刻を指定します。デフォルトは24時間前です。例: 2025-08-01 10:57:15
`EndTime`	[DateTime]	現在時刻	偽	ログ収集の終了時刻を指定します。デフォルトは現在時刻です。StartTime より後である必要があります。例: 2025-08-14 11:57:15
`OutputPath`	[string]	`C:\ProgramData\Citrix\WEM\CitrixLogs`	偽	出力 zip ファイルを書き込むディレクトリ。デフォルトは `C:\ProgramData\Citrix\WEM\CitrixLogs` です。

Windows イベントログを収集する

このスクリプトは、Virtual Delivery Agent (VDA) から Windows イベントログを収集し、タイムスタンプ付きの ZIP ファイルとして保存します。

名前	種類	既定	必須	注
`LogChannelPrefixes`	[string]	該当なし	偽	ETWチャネル名と照合するコンマ区切りのプレフィックス。指定すると、既定の4ログ収集を上書きします。例: `Citrix-HostCore,Microsoft-Windows-AppLocker`。
`ProviderPrefixes`	[string]	該当なし	偽	イベントプロバイダー/ソース名と照合するコンマ区切りのプレフィックス。スクリプトは、各プロバイダーがLogLinksを介してどのログチャネルに書き込むかを自動的に検出するため、従来のログ (アプリケーション、システム) とカスタムETWチャネルの両方で機能します。指定すると、既定の4ログ収集を上書きします。例:

名前	種類	既定	必須	注
				`WEM Agent Service,Norskale Agent Service`。
`StartTime`	[DateTime]	24時間前	偽	イベントログ収集の開始時刻を指定します。既定値は24時間前です。例: 2025-08-01 10:57:15
`EndTime`	[DateTime]	現在時刻	偽	イベントログ収集の終了時刻を指定します。既定値は現在時刻です。StartTimeより後の時刻である必要があります。例: 2025-08-14 11:57:15
`OutputPath`	[string]	`C:\ProgramData\Citrix\WEM\CitrixEventLogs`	偽	出力zipファイルを書き込むディレクトリ。デフォルトは `C:\ProgramData\Citrix\WEM\CitrixEventLogs` です。

Citrix Scout診断を収集

このスクリプトはScoutCLI.exeを実行して、VDAからCitrix診断データを収集し、出力をタイムスタンプ付きのZIPファイルとして保存します。オプションで、MSIやlocaldataなどの特定のコレクターを除外できます。

名前	種類	デフォルト	必須	注
`OutputPath`	[string]	`C:\ProgramData\Citrix\WEM\CitrixScoutCliLogs`	偽	Scout出力zipファイルを書き込むディレクトリ。デフォルトは `C:\ProgramData\Citrix\WEM\CitrixScoutCliLogs` です。
`Exclude`	[string]	該当なし	偽	Scoutコレクションから除外するコレクターのコンマ区切りリスト。サポートされている値: `msi`、`localdata`。すべてのコレクターを含めるには、空のままにします。

詳細情報

スクリプト化されたタスクの使用例については、以下を参照してください。

- スクリプト化されたタスクを使用してログオン期間を分析する
- スクリプト化されたタスクを使用してWindowsアップデートを自動的に適用する

ファイル

このページでは、クラウドストレージ上のすべてのファイルを一元的に管理できます。ストレージスペースの合計サイズは100 MBです。必要に応じて、ファイルを削除してスペースを解放してください。

以下の種類のファイルがストレージスペースを占有します。

- 構成セットのバックアップ

- レポート
- スクリプト化されたタスク

現在、ストレージで利用可能なファイルをダウンロードおよび削除できます。

> **注:**
>
> - バックアップおよび復元ファイルはここには表示されませんが、ストレージスペースを占有します。
> - スクリプト化されたタスクに関連付けられているファイルを削除することはできません。それらを削除するには、タスクを削除してください。
> - 割り当てられたスコープ内のファイルのみにアクセスできます。

登録

「**登録**」ノードには、管理対象の登録済みエージェントが一覧表示され、登録方法を使用してエージェントを登録できます。

> **注:**
>
> 登録は、フル管理者のみが利用できます。

> 登録方法は、Workspace Environment Management (WEM) エージェントをWEMサービスに接続するために使用できる(/ja-jp/workspace-environment-management/service/get-started.html#determine-which-setup-method-to-use)の1つです。詳細については、(/ja-jp/workspace-environment-management/service/get-started/enroll-agent.html)を参照してください。

「**登録**」ノードは、次の項目で構成されています。

- (/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/enrollment/enrolled-agents.html)。登録されているすべてのエージェントを一覧表示します。必要に応じて管理できます。

- (/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/enrollment/invitation.html)。ユーザーに登録招待を送信できます。各招待には、招待コードと登録を完了するために必要な手順が含まれています。

登録済みエージェント

登録済みのすべてのWorkspace Environment Management™ (WEM) エージェントを一覧表示します。必要に応じて管理できます。

はじめに

エージェントが登録されると、管理対象になります。ディレクトリオブジェクトで、必要に応じて構成セットにバインドできます。登録の詳細については、「エージェントの登録」を参照してください。

エージェントを登録する方法は2つあります。

- 招待による登録。これにはWebコンソールが必要です。ユーザーは登録プロセスに参加するよう招待できます。
- ベアラートークンまたはAPIセキュアクライアントによる登録。これにはWebコンソールは不要で、ユーザーが登録プロセスに参加する必要もありません。詳細については、「ベアラートークンまたはAPIセキュアクライアントによる登録」を参照してください。

このページでは、次の操作を実行できます。

- **更新**。登録済みエージェントのリストを更新します。
- **登録解除**。エージェントの登録を解除します。
- **関連ユーザーの編集**。関連付けを変更するか、関連ユーザーを削除します。
- **無効なエージェントの削除**。無効な登録のエージェントを削除します。

エージェントの登録解除

複数のエージェントを一度に登録解除できます。エージェントの登録を解除すると、その登録は無効になり、WEMから削除されます。

エージェントの登録を解除するには、次の手順を実行します。

1. **登録 > 登録済みエージェント**で、エージェントを選択します。
2. アクションバーで、**登録解除**を選択します。

関連付けられたユーザーを編集する

登録されると、ドメインに参加していないデバイスは招待されたユーザーに自動的に関連付けられます。ユーザーをドメインに参加していないマシンに関連付けることで、WEMはログオン時にユーザーに設定を適用できます。

デバイスの関連付けを変更するには、次の手順を実行します。

1. **登録 > 登録済みエージェント**で、エージェントを選択します。
2. アクションバーで、**関連付けられたユーザーの編集**を選択します。**関連付けられたユーザーの編集**ウィザードが表示されます。
3. IDプロバイダーを選択します。
4. 追加するユーザーのドメインを選択します。
5. **ユーザーの選択**ボックスに、追加するユーザーの名前を入力します。
6. 完了したら、**保存**をクリックします。

デバイスの関連付けられたユーザーを削除するには、次の手順を実行します。

1. **登録 > 登録済みエージェント**で、エージェントを選択します。
2. アクションバーで、**関連付けられたユーザーの編集**を選択します。**関連付けられたユーザーの編集**ウィザードが表示されます。
3. **関連付けられたユーザーの削除**を選択します。

無効なエージェントを削除する

登録済みエージェントが270日間非アクティブだった場合、その登録は無効になります。WEMによる管理対象ではなくなります。**無効なエージェントを削除**ボタンは、無効なエージェントが存在する場合にのみ表示されます。

招待

ユーザーに登録招待を送信できます。各招待には、招待コードと登録を完了するために必要な手順が含まれています。

はじめに

Workspace Environment Management™ (WEM) エージェントを登録する方法は、柔軟に決定できます。方法は2つあります。

- 招待による登録。これにはWebコンソールが必要です。ユーザーは登録プロセスに参加するよう招待できます。

- ベアラートークンまたはAPIセキュアクライアントによる登録。これにはWebコンソールは不要で、ユーザーが登録プロセスに参加する必要もありません。詳細については、「ベアラートークンまたはAPIセキュアクライアントによる登録」を参照してください。

招待による登録の一般的なワークフローは次のとおりです。

1. **管理 > Webコンソール > 登録 > 招待**で、**招待による登録**を有効にし、**生成**をクリックして登録キーを生成します。
2. エージェントマシンで、登録ツールを使用して登録キーをインストールします。

   a. コマンドプロンプトを管理者として開きます。

   b. 次のコマンドを実行します。（`<enrollment key>`を実際のキーに置き換えてください。）

   - `Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe configenrollmentkey -k <enrollment key>`

   > **ヒント:**
   >
   > 登録ツール **Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe** は、エージェントのインストールフォルダーにあります。詳細については、「登録ツール」を参照してください。

3. **管理 > Webコンソール > 登録 > 招待**で、招待を作成するか、ユーザーに登録招待を送信します。
4. 必要に応じて、次の手順を実行します。

   - WEMを介して登録招待を送信したくない場合は、招待を作成し、次のいずれかを実行します。
     - エージェントに移動し、招待コードで登録します。
     - 招待コードをユーザーと共有します。その後、ユーザーはエージェントにログオンし、招待コードで登録します。
   - WEM を介して登録招待を送信したい場合、それ以上の操作は不要です。ユーザーが招待メールを受信した後、招待コードを使用してエージェントを登録できます。

   招待コードを使用してエージェントを登録する方法については、「招待コードを使用してエージェントを登録する」を参照してください。

エージェントが登録されると、管理対象となり、**登録 > 登録済みエージェント**に表示されます。正確な管理のために、目的の構成セットに追加できます。詳細については、「登録済みエージェントを管理する」を参照してください。

招待による登録

招待ベースの登録を開くかどうかを制御します。

有効にすると、登録キーを生成して招待を送信できます。無効にすると、招待を使用してエージェントを登録できません。

登録キー

登録キーを生成できます。その後、エージェントインストールフォルダーにある登録ツール **Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe** を使用して、エージェントにキーをインストールします。キーがないと、エージェントは招待を使用して登録できません。

生成されたキーは180日で期限切れになります。キーを生成した後、次の操作を実行できます。

- **コピー**。キーをクリップボードにコピーします。
- **ダウンロード**。キーを含む .txt ファイルをダウンロードします。
- **再生成**。キーを再生成します。

> **重要:**
>
> キーを再生成すると、現在のキーは自動的に無効になります。未登録のエージェントについては、招待を送信する前に有効なキーがインストールされていることを確認してください。

登録招待

すべての招待を一覧表示します。次の操作を実行できます。

- 招待を作成する
- ユーザーを招待する
- リストを更新する
- 招待の詳細を表示する
- 招待を再送する
- 招待を削除する
- 期限切れの招待をクリアする

招待を作成する

招待コードを生成することで招待を作成します。このコードは最大5台のデバイスの登録をサポートし、48時間後に期限切れになります。

必要に応じて、このコードで次のことができます。

- コードを自分で使用します。エージェントに移動し、そのコードで登録します。
- コードをユーザーと共有します。その後、ユーザーはエージェントにログオンし、そのコードで登録します。

> **重要:**
>
> WEMは、招待コードに関連するアクティビティをコードごとに監査します。たとえば、誰が登録を行うか、いつ登録が行われるか、どのデバイスが登録されるかなどです。そのため、同じコードを複数のユーザーと共有しないことをお勧めします。

招待を作成するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**招待を作成**を選択します。**招待を作成**ウィザードが表示されます。
2. **コードを生成**を選択します。
3. コードが生成されたら、**クリップボードにコピー**を選択します。

ユーザーを招待する

ユーザーに登録招待を送信できます。各招待には、招待コードと登録を完了するために必要な手順が含まれています。

ユーザーを招待する際は、次の点を考慮してください。

- 最大100人のユーザーを招待できます。
- 各ユーザーに対して招待コードが作成されます。このコードは最大5台のデバイスの登録をサポートし、48時間後に期限切れになります。
- 登録済みのメールアドレスを持つユーザーは、メールで招待コードを受け取ります。登録済みのメールアドレスを持たないユーザーには、他の方法で招待コードを共有できます。
- エージェントの登録には、*ローカル管理者権限*が必要です。登録されると、ドメインに参加していないデバイスは招待されたユーザーに自動的に関連付けられます。

ユーザーを招待するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**ユーザーを招待**を選択します。**ユーザーを招待**ウィザードが表示されます。
2. IDプロバイダーを選択します。
3. 追加するユーザーのドメインを選択します。必要に応じて、**ユーザー**と**セキュリティグループ**を選択します。
4. **選択**ボックスに、招待するユーザーまたはグループの名前を入力します。

> **注:**
>
> 検索では上位50件の結果のみが返されます。必要に応じて検索を絞り込んでください。

5. リストから目的のユーザーまたはユーザーグループを選択します。選択したユーザーとユーザーグループは、**検索**の下に表示されます。
6. 完了したら、**招待**をクリックして招待を送信します。

ユーザーには次の招待メールが届きます。

招待メール(/en-us/workspace-environment-management/service/media/invitation-email.png)

登録ツールを使用してユーザーのエージェントに登録キーをインストールしている場合、お客様側でこれ以上の操作は必要ありません。ユーザーは招待コードを使用して登録を完了する必要があります。

招待の詳細を表示する

招待の詳細を表示するには、招待を選択し、アクションバーで**詳細の表示**を選択します。**詳細の表示**ウィンドウが表示され、次の情報が表示されます。

- 招待コード
- 招待が作成された時刻
- 有効期限
- 受信者 — 招待メールを受け取った人
- 受信者の表示名
- 受信者のメールアドレス
- 配信ステータス

  可能な値:

- **配信済み**。招待メールがユーザーに正常に配信されたことを示します。
- **失敗**。招待メールの送信試行が失敗したことを示します。
- **保留中**。招待メールがまだ配信されていないことを示します。

招待を再送信する

招待を再送信するには、招待を選択し、アクションバーで を選択します。

この操作では、招待コードの有効期限は延長されません。

招待を削除する

招待を削除するには、招待を選択し、アクションバーで を選択します。一度に複数の招待を削除できます。

招待を削除すると、ユーザーに送信または共有された招待コードが無効になります。その結果、それらのユーザーはそのコードでエージェントを登録できなくなります。

期限切れの招待をクリアする

期限切れの招待をすべて削除するには、アクションバーで を選択します。 ボタンは、期限切れの招待がある場合にのみ表示されます。

アクセス制御

Workspace Environment Management™ (WEM) のロールベースアクセス制御 (RBAC) は、管理を委任するための構造化された方法を提供します。

RBAC の設定には、次の 3 つのステップがあります。

1. **ロールの指定:** Citrix Cloud で、各管理者にロールを割り当てます。ロールは、WEM > フル管理者 (無制限アクセス) または WEM > 制限付き管理者 (スコープに基づく制限付きアクセス) のいずれかです。詳細については、「管理者のアクセス許可を管理する」を参照してください。
2. **スコープの定義:** WEM Web コンソールの **アクセス制御** ノードで、制限付き管理者のスコープを定義します。詳細については、「スコープを作成する」を参照してください。
3. **スコープの割り当て:** WEM Web コンソールの **アクセス制御** ノードで、関連するアクセスポリシーとアクセス許可を適用するために、制限付き管理者にスコープを割り当てます。詳細については、「制限付き管理者にスコープを割り当てる」を参照してください。

アクセス制御ノードについて

アクセス制御 ノードは、制限付き管理者がアクセスできるものと、WEM リソースとどのように対話できるかを定義することで、RBAC を実装する場所です。

このノードを使用すると、次のことができます。

- 制限付き管理者が管理できるリソース (構成セット、スクリプト化されたタスク、アプリパッケージなど) を制限するために、**スコープ** を定義して割り当てます。
- 重要なリソースを保護し、運用リスクを軽減しながら、スコープとロールタイプ (**読み取り専用管理者** または **読み取り/書き込み管理者**) を制限付き管理者に委任します。

> **注:**
>
> WEM の **フル管理者** ロールを持つ管理者のみがこのノードにアクセスできます。

WEM 管理者の表示

すべての WEM 管理者 (フルまたは制限付き) を表示するには、次の手順に従います。

1. **アクセス制御 > 管理者** に移動します。すべての WEM 管理者 (フルまたは制限付き) の管理者リストが表示されます。
2. 管理者の役割タイプを確認するには、**検索ボックス**を使用して名前またはメールで検索します。
3. リストを**Citrix Cloud™ > Identity and Access Management > Administrators**と同期するには、**更新**をクリックします。

> **注:**
>
> WEM管理者の追加または削除、あるいはWEM管理者の役割タイプ（フルまたは制限付き）を変更するには、**フルアクセス**権限を持つユーザーアカウントを使用して**Citrix Cloud > Identity and Access Management > Administrators**に移動します。

- ユーザーにWEMの**フル管理者**ロールを割り当てるには、**カスタムアクセス > Workspace Environment Management > フル管理者**を選択します。
- ユーザーにWEMの**制限付き管理者**ロールを割り当てるには、**カスタムアクセス > Workspace Environment Management > 制限付き管理者**を選択します。

詳細については、「管理者の権限を管理する」を参照してください。

スコープの作成と管理

スコープは、構成セット、スクリプト化されたタスク、アプリパッケージを含むWEMリソースのコレクションです。スコープは、リソースを整理し、どの管理者がそれらにアクセスして管理できるかを制御するのに役立ちます。

スコープページでは、環境内のすべてのスコープを一元的に表示できます。スコープの作成、編集、表示、削除が可能です。

- **検索**: 名前または説明でスコープをフィルタリングします。
- **スコープの作成**: リソースコレクションを追加します。
- **更新**: スコープのリストを更新します。
- **管理者**アイコン: どの管理者が割り当てられているかを表示します。
- **メニュー (...)** アイコン: スコープの表示、編集、または削除を行います。（**共有スコープ**は編集または削除できません。）

WEMには、WEMクラウドエージェントパッケージや組み込みスクリプトなどの共有リソースを含む組み込みの**共有スコープ**が用意されています。このスコープは、すべての制限付き管理者が*読み取り専用*モードで常に利用でき、編集または削除することはできません。

スコープを作成する

1. 「**アクセス制御 > スコープ**」に移動します。
2. 「**スコープを作成**」をクリックします。
3. 「**基本情報**」ページで、名前と（オプションで）説明を入力し、「**次へ**」をクリックします。
4. 「**リソース**」ページで、「**構成セット**」、「**スクリプト化されたタスク**」、「**アプリパッケージ**」のリストから含めるWEMリソースを選択します。リストを絞り込むには、次のフィルターを使用します。
    - 「**すべて表示**」: すべてのリソースを表示します。
    - 「**利用可能なもののみ表示**」: まだスコープに割り当てられていないリソースを表示します。
    - 「**選択済みのみ表示**」: 選択したリソースを表示します。
5. 「**完了**」をクリックします。

スコープの表示または編集

1. 「**スコープ**」で、名前または説明でスコープを検索します。

2. 行の最後にある「**メニュー (...)**」アイコンをクリックし、「**表示**」または「**編集**」を選択します。
3. 「**基本情報**」ページと「**リソース**」ページで情報を確認または更新します。
4. 「**保存**」をクリックします。

スコープを削除する

1. 「**スコープ**」で、スコープを選択します。
2. 行の最後にある「**メニュー (...)**」アイコンをクリックし、「**削除**」をクリックします。

> **注:**
>
> スコープが制限付き管理者にすでに割り当てられている場合、それを削除すると、その管理者へのアクセスに即座に影響します。

制限付き管理者にスコープを割り当てる

制限付き管理者が管理できるWEMリソースのコレクションを制御するには、次の手順に従います。

1. **「アクセス制御」>「管理者」**に移動します。
2. 名前またはメールアドレスで制限付き管理者を見つけます。
3. 行の最後にある**「アクセスを管理」**アイコンをクリックします。
4. 表示される**「管理者のアクセスを管理」**ページで、次の操作を実行します。
   - 既存のスコープを1つ以上選択します。
   - **「スコープの作成」**をクリックして、新しいリソースコレクションを定義します。詳しくは、「スコープの作成」を参照してください。
5. 役割の種類を選択します。
   - **読み取り専用管理者**: 管理者はスコープ内のリソースのみを表示できます。
   - **読み取り/書き込み管理者**: 管理者はスコープ内のリソースを表示および管理できます。
6. 「**完了**」をクリックします。

> **注:**

> 制限付き管理者は、組み込みの**共有スコープ**に対して常に読み取り専用アクセス権を持ちます。

ドメインに参加していないマシンを管理する

Workspace Environment Management (WEM) を使用して、(/ja-jp/citrix-daas-azure) (旧称 Citrix Virtual Apps and Desktops Standard for Azure) の展開でドメインに参加していないマシンを管理できます。

この機能を使用すると、ドメインに参加しているマシンと同様に、ドメインに参加していないマシンにポリシーと設定を割り当てることができます。

ドメインに参加していないマシンの管理を開始するための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Azure で、Citrix VDA と WEM エージェントが搭載されたマスターイメージを準備します。
2. そのイメージを Azure からインポートして、カタログ作成に使用します。詳しくは、(/ja-jp/citrix-daas-azure/master-images.html) を参照してください。

   重要:

   - この機能を使用するには、WEM エージェントバージョン 2103.2.0.1 以降を使用する必要があります。WEM エージェントは、WEM サービスの タブからダウンロードしてください。
   - この機能を使用するには、エージェントのインストール時に を選択する必要があります。
   - 設計上、イメージの作成に使用される仮想マシンで実行されているエージェントは、WEM サービスに接続できません。

3. Citrix DaaS Standard for Azure で、ドメインに参加していないカタログを作成します。詳しくは、(/ja-jp/citrix-daas-azure/catalogs-create.html) を参照してください。
4. レガシーコンソールで、ドメインに参加していないマシンを WEM 構成セットに追加します。

   a. **> >** タブに移動し、 の横にある下矢印をクリックして、 を選択します。

b. ウィンドウで、構成セットに追加する1つ以上のドメインに参加していないマシンを選択します。リストには、まだどの構成セットにも追加されていないドメインに参加していないマシンのみが表示されます。

c. をクリックして選択したマシンを追加し、 ウィンドウを終了します。

5. 必要に応じて、それらのマシンが WEM サービスに登録されていることを確認します。そのためには、 **> > >** タブに移動し、追加したマシンをダブルクリックして、 ウィンドウで登録情報を確認します。

> **重要:**
>
> ドメインに参加していないエージェントマシンは、WEMサービスに自動的に登録され、デフォルトの構成セットに追加されます。

ドメインに参加していないマシンをWEMサービスに追加した後、ドメインに参加しているマシンと同様に、それらのマシンにポリシーと設定を割り当てることができます。ただし、ドメインに参加していないマシンにポリシーと設定を割り当てる場合、**Everyone** の割り当てオプションしかありません。

基本的な展開エージェントを管理する

Workspace Environment Management™ (WEM) を使用して、基本的な展開エージェントを管理できます。この機能は、WEM を展開するための軽量な方法を提供します。この展開方法を使用すると、ブローカー、データベース、コンソールなどのバックエンドコンポーネントを展開することなく、WEM の基本的な機能を簡単に利用できます。

基本的な展開エージェント設定の構成

WEM エージェントが基本モードの場合、一部の最適化機能はデフォルトで有効になっています。これらの設定は、事前定義されたエージェントキャッシュファイルに保存されます。

- VDA マシンでの CPU スパイク保護は自動的にオンになります。この設定は、高 CPU プロセスの優先度を下げ、ユーザーエクスペリエンスへの影響を最小限に抑えます。
  - CPU スパイク保護
  - CPU スパイクを自動的に防止する
  - インテリジェントな CPU 最適化を有効にする
- 基本的な展開エージェントの設定をカスタマイズします。詳細については、グループポリシーの構成を参照してください。基本モードで利用可能な設定は次のとおりです。

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
enableCpuSpikeProtection	ブール値	CPU スパイク保護を有効にする	真	真	CPU スパイク保護設定
enableCpuAutoProtection	ブール値	CPUスパイクを自動的に防止する	真	真	
cpuUsageLimitOfSpikeProtection	フロート	CPU使用率の制限 (%)	70.0	70.0	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
enablePerCoreCpuUsageLimit	ブール値	単一CPUコアに対する制限を設定する	無効	無効	
perCoreCpuUsageLimitOfSpikeProtection	フロート	単一CPUコアに対するCPU使用率の制限 (%)	80.0	80.0	
cpuUsageLimitSampleTimeOfSpikeProtection	整数	サンプル時間制限 (秒)	30	30	
idlePriorityTimeOfSpikeProtection	整数	アイドル優先度時間 (秒)	180	180	
enableLimitCpuCoreUsage	ブール値	CPUコア使用制限を有効にする	無効	無効	
cpuCoreLimitOfSpikeProtection	整数	CPUコア使用制限	1	1	
enableIntelligentCpuOptimization	ブール値	インテリジェントCPU最適化を有効にする	真	真	
enableIntelligentIoOptimization	ブール値	インテリジェントI/O最適化を有効にする	無効	無効	
excludeProcessesFrom	ブール値	CPUスパイク保護から	無効	無効	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
CpuSpikeProtection		プロセスを除外する			
processesExcludedFromCpuSpikeProtection	文字列の配列	プロセス名	[]	["devenv", "msbuild"]	
disableProcessPriorityInheritance	ブール値	子プロセスがCPU優先度を継承するのを防ぐ	無効	無効	
parentProcessesToDisablePriorityInheritance	文字列の配列	プロセス名	[]	["devenv", "msbuild"]	
enableMemoryWorkingSetOptimization	ブール値	アイドル状態のプロセスのメモリ使用量を最適化する	無効	真	メモリ最適化設定
idleSampleTimeOfMemoryWorkingSetOptimization	整数	アイドルサンプル時間(分)	30	30	
idleStateLimitOfMemoryWorkingSetOptimization	整数	アイドル状態の制限(%)	1	1	
enableMemoryOptimizationThreshold	ブール値	最適化を制限する	真	真	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
memoryOptimizationThreshold	整数	合計利用可能メモリが次未満の場合にのみ最適化する (MB)	200	200	
excludeProcessesFromMemoryWorkingSetOptimization	ブール値	メモリ使用量の最適化からプロセスを除外する	無効	無効	
processesExcludedFromMemoryWorkingSetOptimization	文字列の配列	プロセス名	[]	["devenv", "msbuild"]	
enableFastLogoff	ブール値	高速ログオフを有効にする	無効	真	高速ログオフ設定
enableMultiSessionOptimization	ブール値	マルチセッション最適化を有効にする	無効	真	マルチセッション最適化
excludeProcessesFromMultiSessionOptimization	ブール値	マルチセッション最適化からプロセスを除外する	無効	無効	
processesExcludedFromMultiSessionOptimization	文字列の配列	プロセス名	[]	["devenv", "msbuild"]	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
agentServiceDebugModeEnabled	ブール値	エージェントサービスデバッグモードを有効にする	無効	無効	**詳細設定 > エージェント設定 > エージェントサービスオプション**
enableLogonDurationAnalysis	ブール値	ログオン期間分析を有効にする	真	真	ログオン期間分析
useAlternativeLocalReportLocation	ブール値	ローカルエージェントレポートを保存する代替の場所を使用する	無効	無効	
alternativeLocalReportLocation	文字列	ローカルエージェントレポートを保存する代替の場所	`%PROGRAMDATA%\Citrix\WEM\Local Agent Reports`	`D:\WEM Local Agent Reports`	
localReportMaxDays	整数	ローカルエージェントレポートを保持する最大日数	7	7	
localReportMaxFilesPerEvent	整数	保持するローカルエージェントレポートの最大数	30	30	
saveLogonDurationAnalysisToLocal	ブール値	ログオン期間分析レポートを	真	真	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
		ローカルエージェントレポートとして保存する			
saveUpmHealthCheckToLocal	ブール値	UPMヘルスチェックレポートをローカルエージェントレポートとして保存する	真	真	
saveProfileContainerInsightsToLocal	ブール値	プロファイルコンテナインサイトレポートをローカルエージェントレポートとして保存する	真	真	
launchAgentOnLogon	ブール値	ユーザーがログオンしたときにエージェントを自動的に起動する	無効	真	
enableAgentInsightsManagement	ブール値	エージェントインサイト管理を有効にする	無効	真	エージェントインサイト設定
enableLargeFileScan	ブール値	プロファイルコンテナで大容量ファイルス	無効	真	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
		キャンを有効にする			

注:

カスタム設定が構成されていないか無効な場合、WEMエージェントはデフォルト設定を使用します。

基本展開エージェントの設定をカスタマイズするために、JSON形式の文字列を指定できます。例:

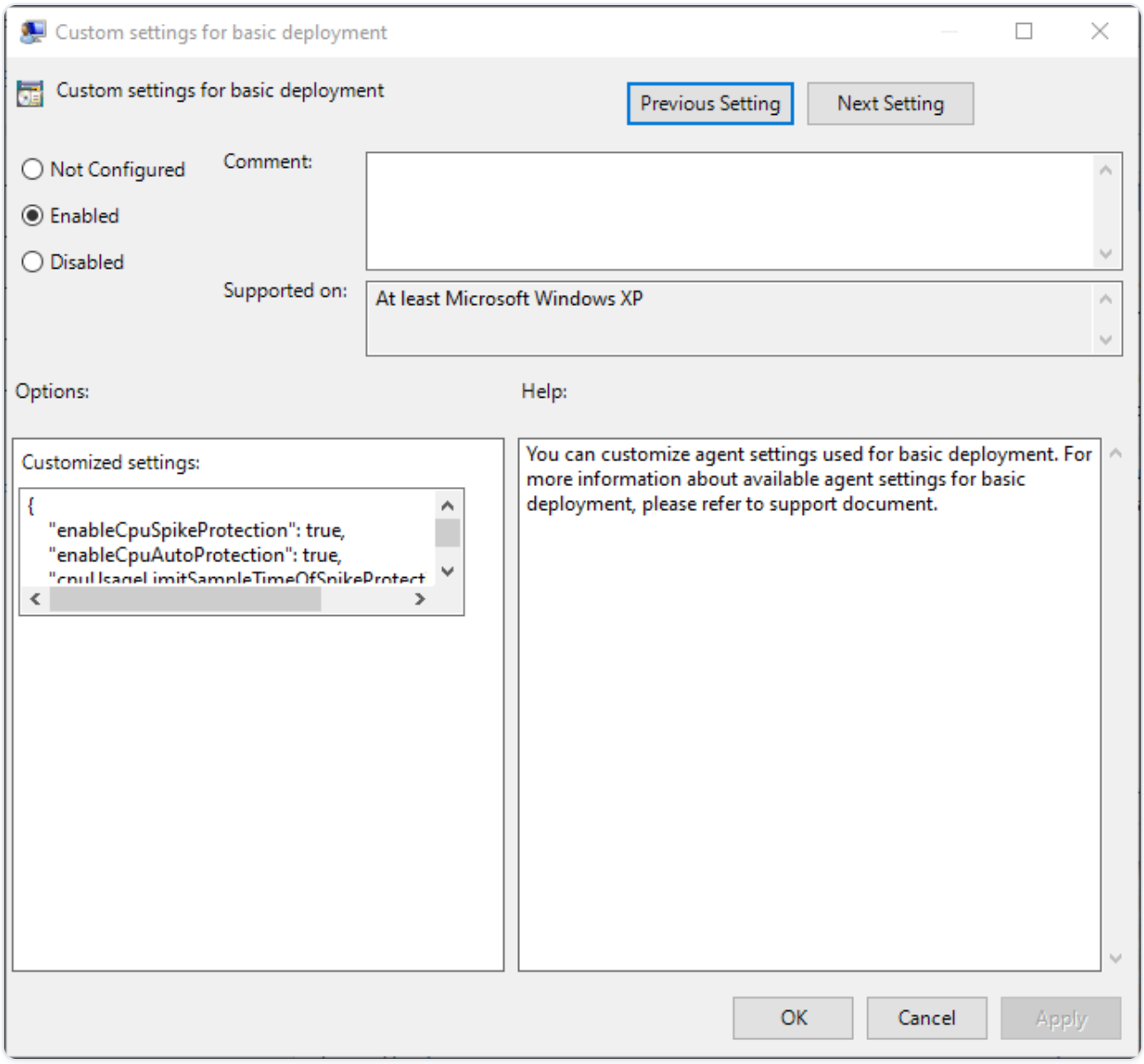
```
{

    "enableCpuSpikeProtection": true,

    "enableCpuAutoProtection": true,

    "enableIntelligentCpuOptimization": true,

}
```



エージェント展開タイプの切り替え

デプロイの種類を切り替えるには、次のいずれかの方法を選択します。

- エージェントグループポリシーを利用して、エージェントを別のデプロイの種類に切り替えます。詳細については、「グループポリシーの構成」を参照してください。
- WEMヘルスチェックツールを使用して、別のデプロイの種類に切り替えます。

WEMログオン期間機能の使用

WEMログオン期間機能を使用する利点は次のとおりです。

- WEMエージェントは、エージェントマシンにログオンすると、ログオン期間を分析し、レポートを自動的に生成します。

- Citrix Environment Tool Hubを使用して、エージェントが生成したレポートを確認できます。

ファイルをアップロード

> **注:**
>
> この記事は、レガシーコンソールを使用している場合のファイルのアップロードに適用されます。

> **アップロード**を使用して、Workspace Environment Management™管理コンソールにインポートまたは追加するファイルをアップロードできます。**アップロード**オプションは、WEMサービスの**管理**タブのメニューで利用できます。

この機能は、次のようなシナリオで役立ちます。

- **復元**ウィザードを使用して、WEM設定をWEMサービスに復元します。これらの設定には以下が含まれます。
  - セキュリティ設定
  - ADオブジェクト
  - 構成セット

  詳細については、「リボン」を参照してください。
- **移行**ウィザードを使用して、グループポリシーオブジェクト (GPO) のzipバックアップをWEMサービスに移行します。詳細については、「リボン」を参照してください。
- レジストリファイルをインポートします。詳細については、「レジストリエントリ」を参照してください。
- アプリケーションのカスタムアイコンを追加します。詳細については、「アプリケーション」を参照してください。

アップロードしたファイルは、Citrix Cloudのデフォルトフォルダ (*DefaultUploadFolder*) に保存されます。

ファイルをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. **管理 > レガシーコンソール**で、ハンバーガーメニューにカーソルを合わせ、Citrix Workspace™アプリのアイコンをクリックします。

   「管理」>「レガシーコンソール」のハンバーガーメニュー(/en-us/workspace-environment-management/service/media/menu-on-wem-service-manage-tab.png)

2. **アップロード**をクリックして、ファイルをCitrix Cloudのデフォルトフォルダーにアップロードします。

   Citrix Workspaceアプリ for HTML5ツールバー(/en-us/workspace-environment-management/service/media/citrix-workspace-app-upload-toolbar.png)

   この機能を使用してファイルをアップロードする際は、以下の制限事項に注意してください。

   - **ファイル数制限**。この機能は、一度に複数のファイルをアップロードすることをサポートしています。デフォルトでは、*アカウントごとに*最大10個のファイルを保存できます。アップロードされたファイルは、先着順で削除されます。
   - **ファイルサイズ制限**。デフォルトでは、サイズが5 MB未満のファイルのみをアップロードできます。
   - **ファイル同期間隔**。デフォルトでは、この機能はアップロードされたファイルを30分ごとにAzureストレージに同期します。

   デフォルト設定を変更する場合は、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

アップグレード後に初めてアップロードされたファイルを管理コンソールに追加または復元しようとすると、それらが使用できない場合があります。この問題は、コンソールを初めて使用するときにも発生する可能性があります。考えられる原因：

- それらのファイルはまだAzureストレージからダウンロードされていません。管理コンソールへのダウンロードには時間がかかる場合があります。管理コンソールを終了し、後でもう一度お試しください。
- それらのファイルのダウンロード中にエラーが発生する可能性があります。問題が解決しない場合は、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

REST API

Workspace Environment Management™ (WEM) サービス REST API を使用すると、WEM 展開内のリソースの管理を自動化できます。

API サービスは、サービスを呼び出すために WEM 管理コンソールにサインインする必要はありません。

現在、以下の API カテゴリがサポートされています。

- **マシン AD オブジェクト API**: WEM 展開内のマシンレベルの AD オブジェクトを管理するための API セット。
- **サイト API**: WEM 展開内の構成セットを管理するための API セット。
- **システム最適化 API:** WEM 展開内の Windows デバイスのリソース (CPU、メモリ、I/O など) を管理および最適化するための API セット。
- **ユーザー AD オブジェクト API:** WEM 展開内のユーザーレベルの AD オブジェクトを管理するための API セット。

WEM サービス API は `<https://developer-docs.citrix.com/ja-jp/workspace-environment-management/workspace-environment-management-rest-apis/overview>` で利用できます。これには、API サービスへのアクセスを設定し、これらの API を使用してリソースを管理および最適化するために必要なすべてが含まれています。

ハウツー

特定のタスクを実行するには、以下の記事を使用してください。

- ログオンパフォーマンスを高速化する
- 割り当てられたアプリケーションを1か所に集約する
- スクリプトタスクを使用してログオン時間を分析する
- Citrix Environment Tool Hubを使用してログオンパフォーマンスを分析する
- スクリプトタスクを使用してWindowsアップデートを自動的に適用する
- WEM APIとWindows PowerShellを使用して構成セットを自動的にバックアップする
- ファイルの種類関連付けを構成する
- WEM GPOを使用してFSLogixプロファイルコンテナを構成する
- スクリプトタスクと外部タスクを使用してMSIXアプリのアタッチを構成する
- プロファイル管理のヘルスチェックを構成する
- プロファイル管理が使用するSMB共有を構成する
- スクリプトタスクの起動およびシャットダウントリガーを構成する
- WEMを使用してDaaSプロビジョニングされたドメイン非参加マシンを管理する
- FSLogixプロファイルをCitrix Profile Managementに移行する
- プロセス階層制御を使用してCitrix Workspace™環境を保護する
- ログイン時間の問題をトラブルシューティングする
- Monitorでのスクリプト化されたタスクの実行に関する問題をトラブルシューティングする
- Monitorでスクリプト化されたタスクを使用して未登録のVDAをトラブルシューティングする
- スクリプト化されたタスクを使用してVDA登録とセッション起動の問題をトラブルシューティングする
- Windowsイベントをトリガーとして使用してVDA登録の問題を検出する

Citrix Environment Tool Hub と WEM を使用してログオンパフォーマンスを高速化する

Windows のログオン時間の遅さを高速化するには、時間のかかるグループポリシー設定 (GPP) を Citrix Workspace Environment Management (WEM) に移行できます。この記事では、Citrix Environment Tool Hub を使用してこれらの構成をエクスポートし、WEM にインポートしてパフォーマンスを最適化する方法について説明します。

ログオンが遅くなる特定のグループポリシー設定を特定する方法の詳細については、「Citrix Environment Tool Hub と WEM を使用したログオン時間の問題のトラブルシューティング」を参照してください。

前提条件

開始する前に、以下を確認してください。

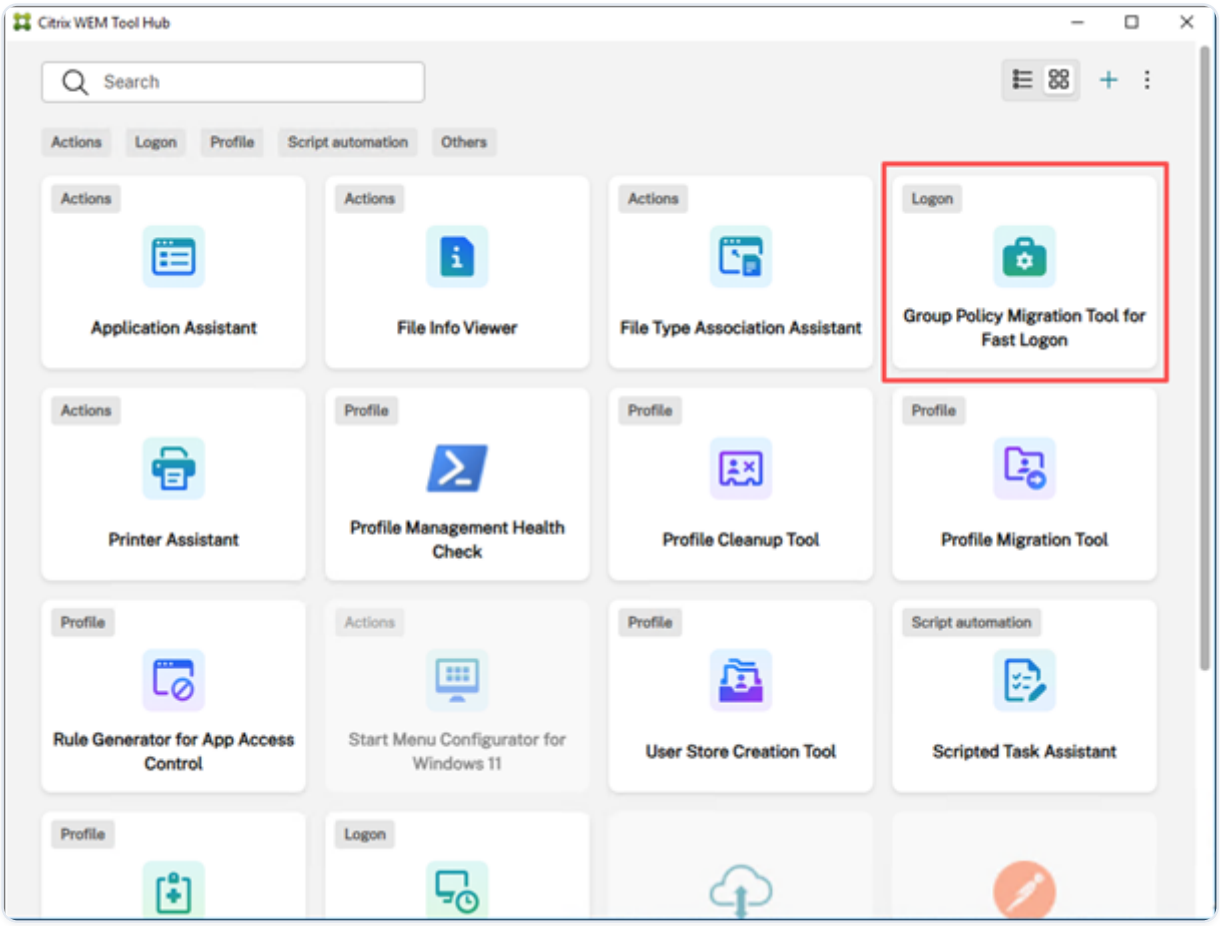
- ターゲットの Windows マシンに対する管理者権限
- ドメインコントローラー (DC) に対するドメイン管理者権限
- WEM Web コンソールに対する管理者権限

時間のかかるグループポリシー設定を移行する

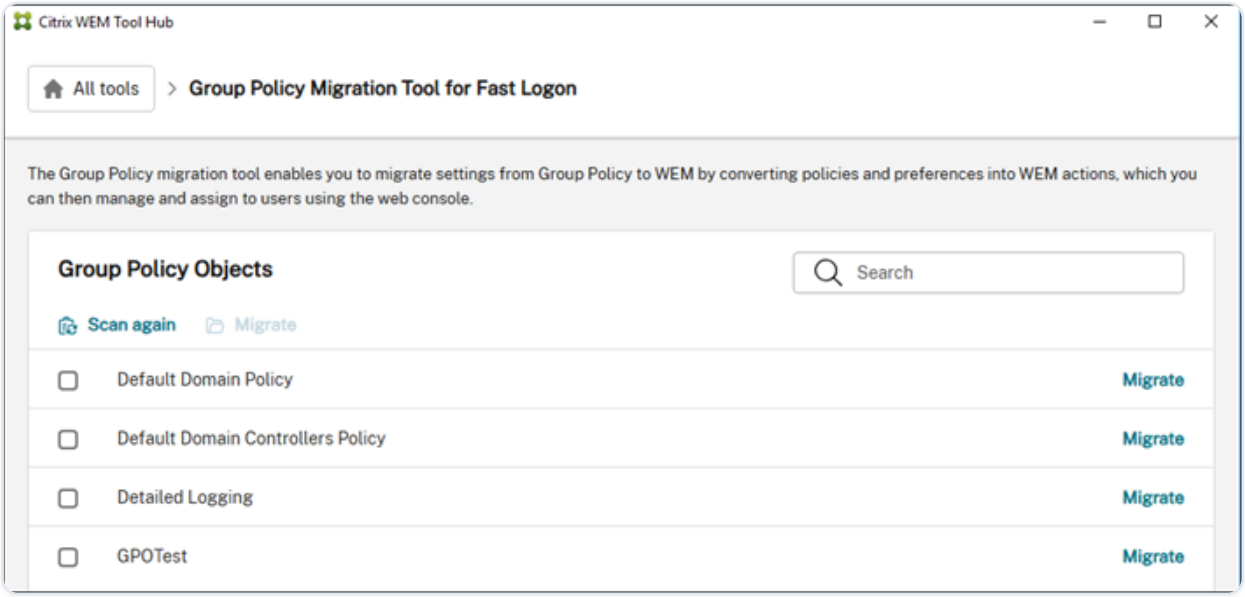
ログオンパフォーマンスを向上させるには、時間のかかる GPP 設定をグループポリシーから WEM に移行します。以下の手順を順番に実行します。

ステップ 1: ターゲットの Windows マシンから GPP 設定をエクスポートする

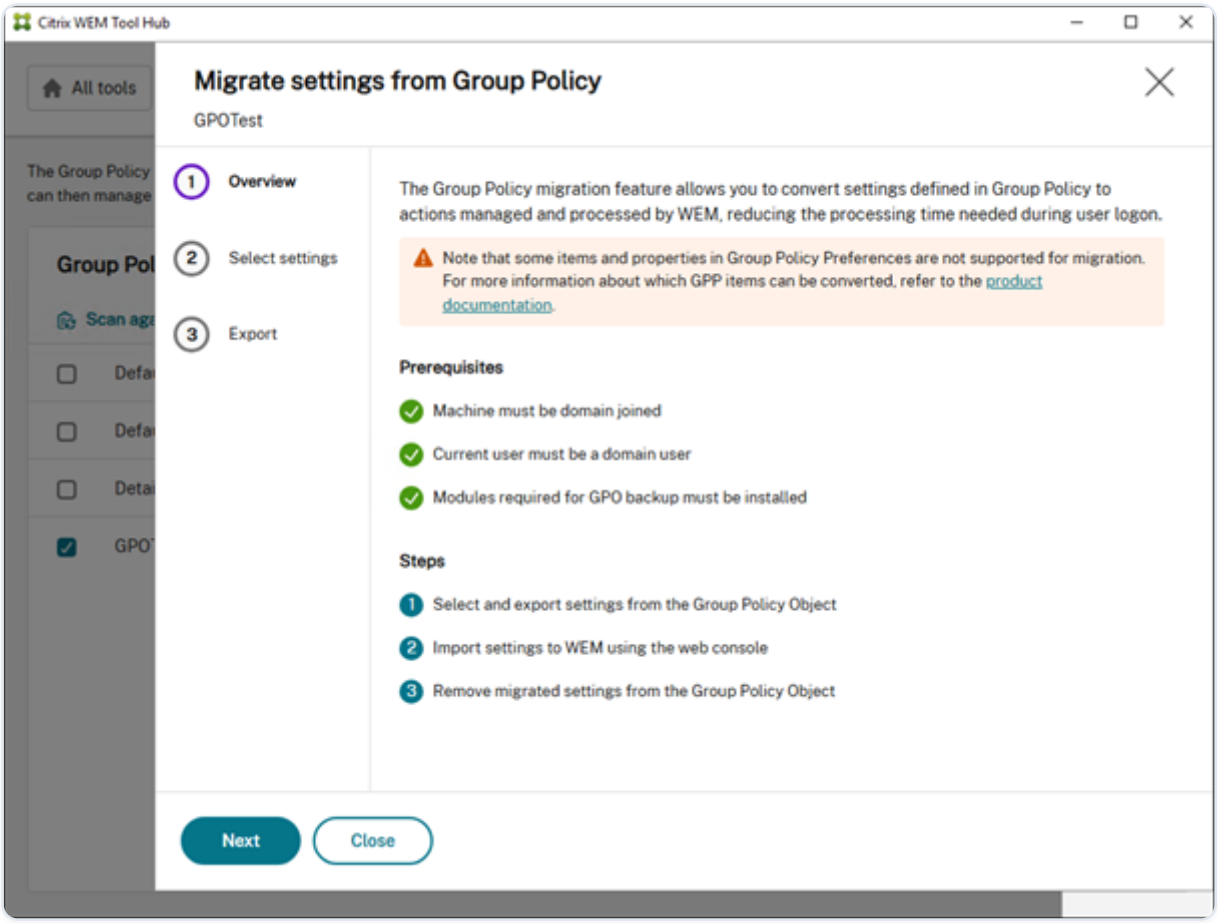
1. 管理者権限でターゲットの Windows マシンにログオンします。
2. **Citrix Environment Tool Hub > 高速ログオン用グループポリシー移行ツール** を開きます。



3. **Scan for Group Policy Objects** をクリックします。
4. 移行するグループポリシーオブジェクトを選択し、**Migrate** をクリックします。



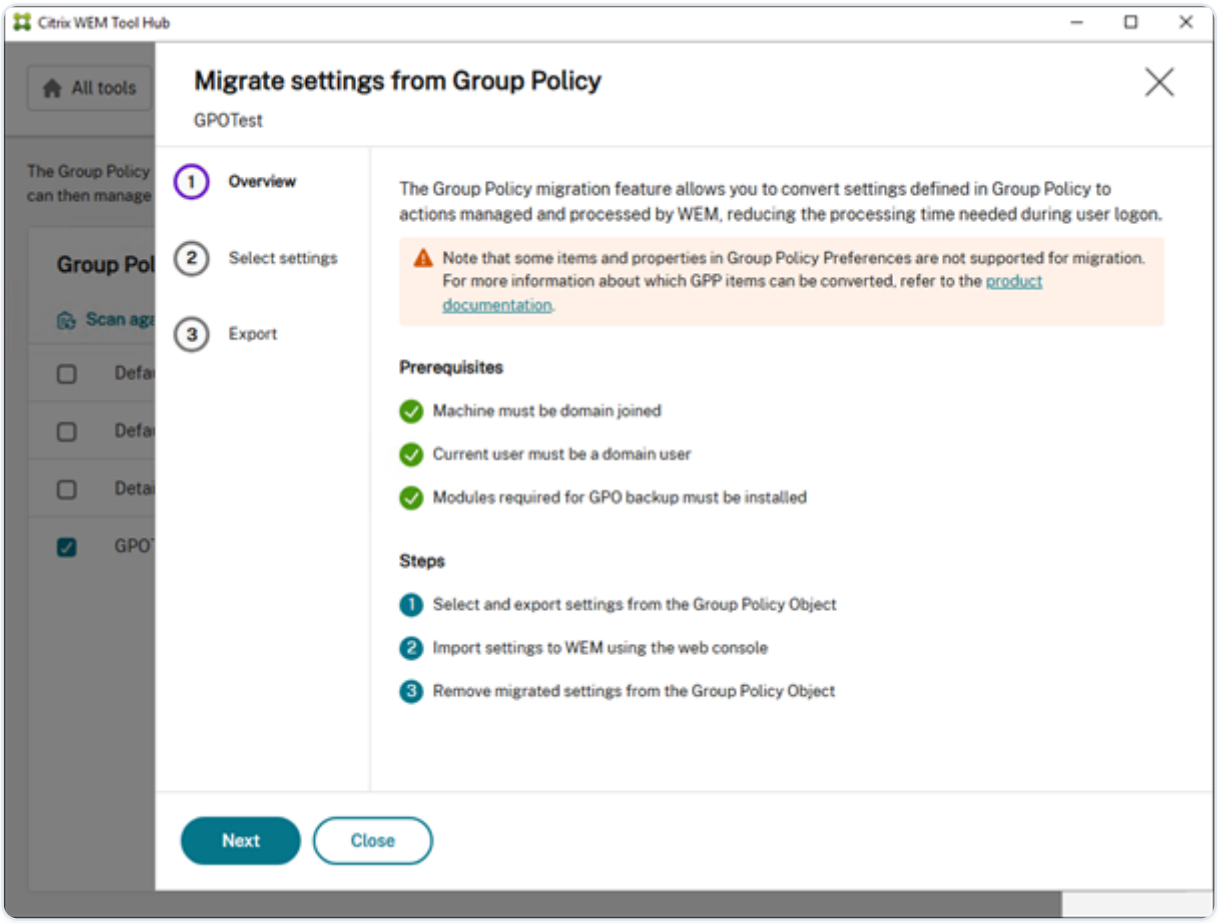
移行設定ウィザードが表示されます。



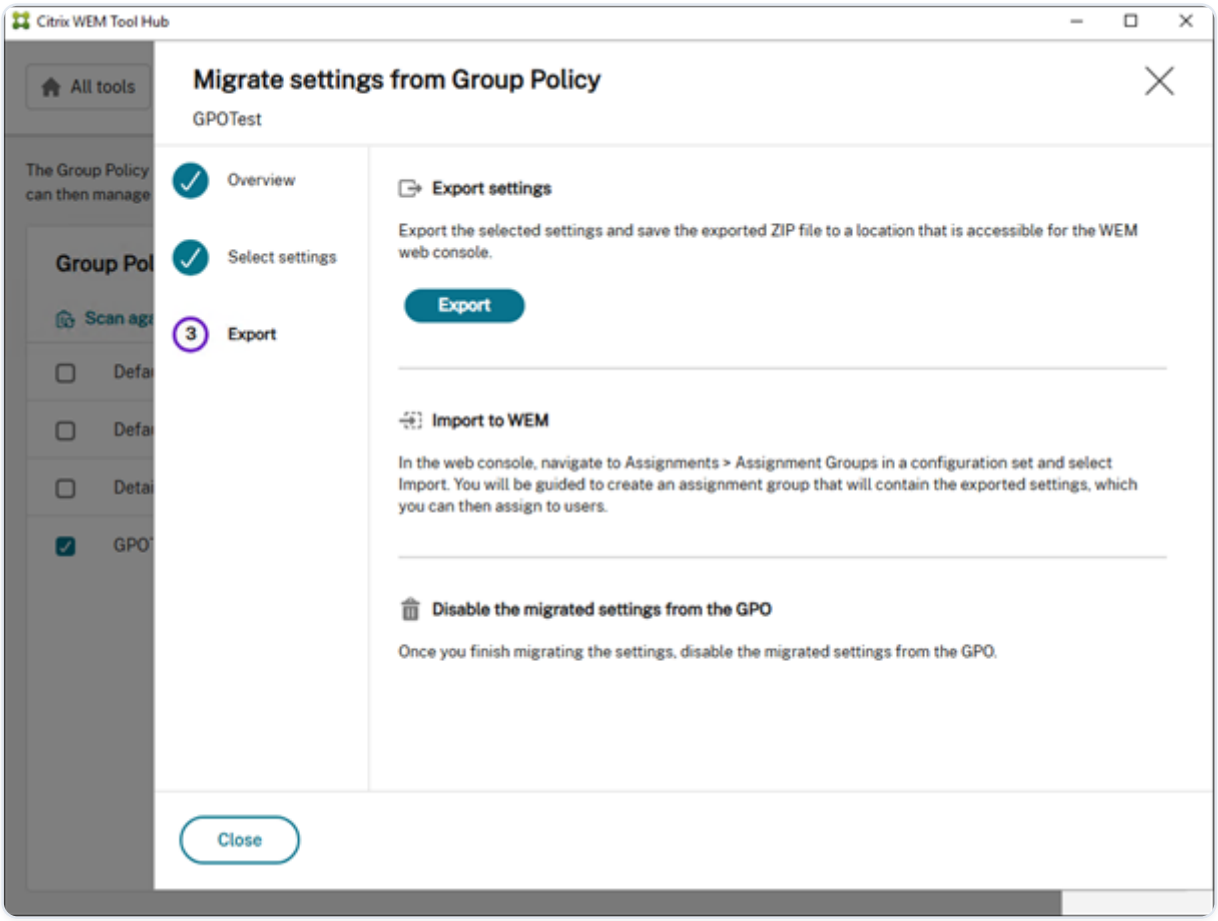
注:

プロンプトが表示されたら、GPOバックアップに必要なモジュールをインストールします。

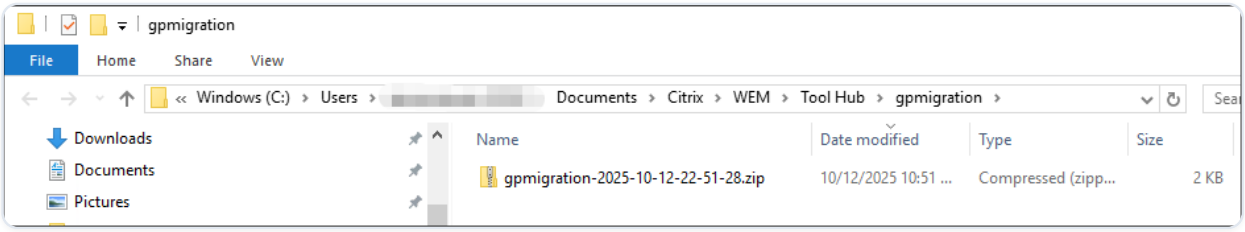
5. 移行する設定を選択し、**次へ**をクリックします。



6. 選択した設定をローカルの`.zip`ファイルにバックアップするには、**エクスポート**をクリックします。

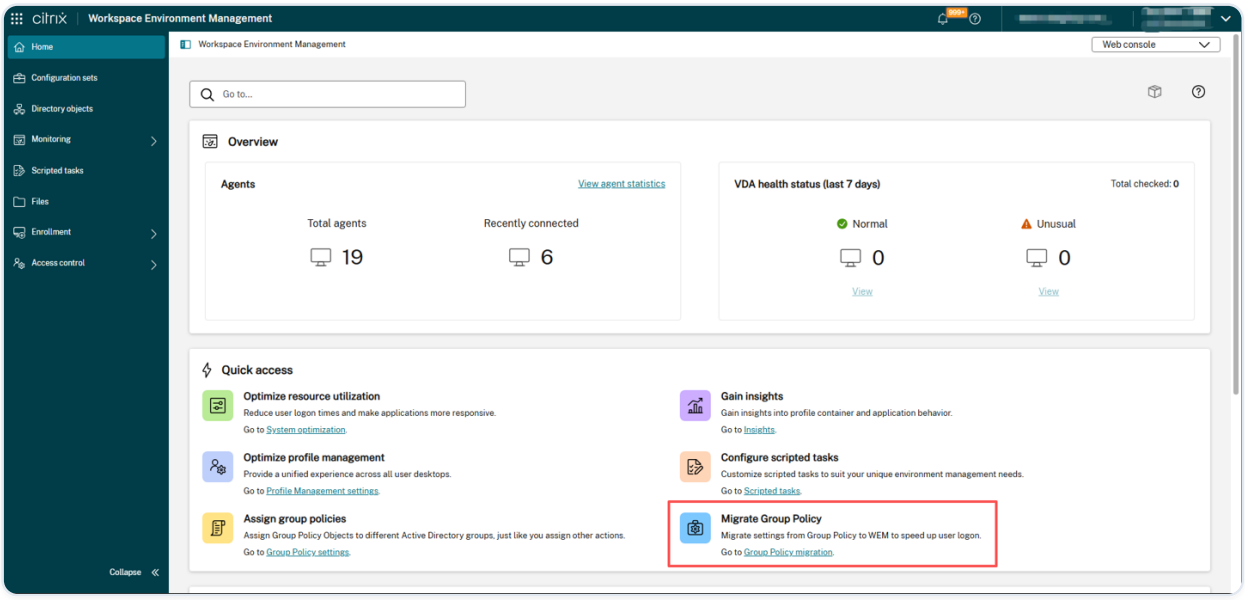


エクスポート結果:

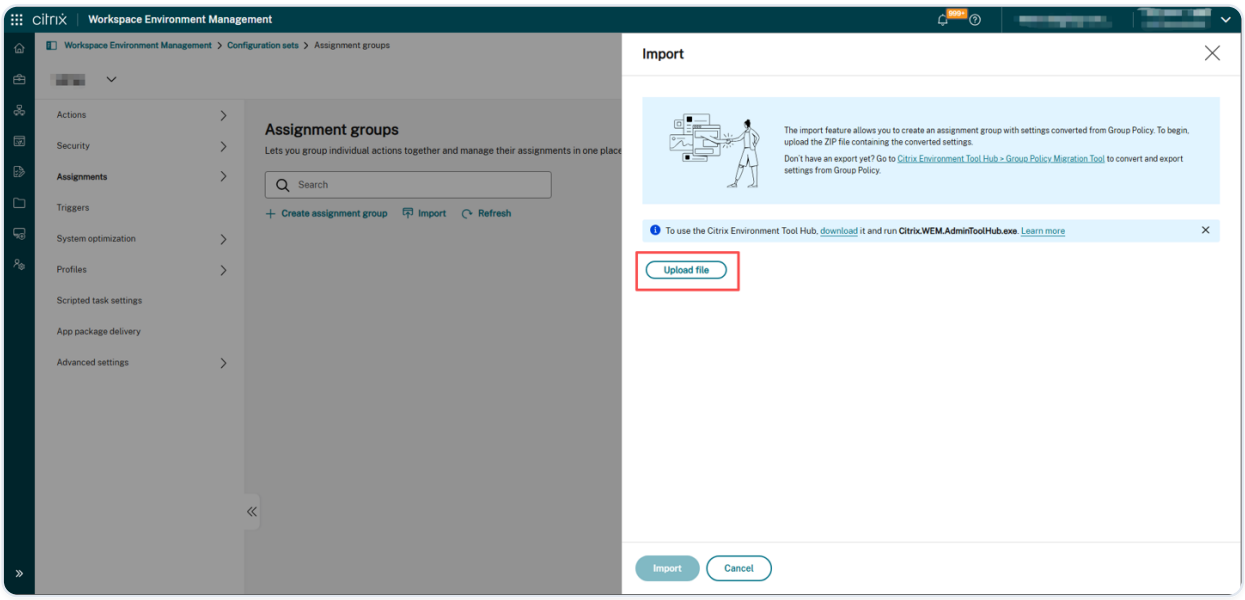


ステップ2: GPP設定をWEM Web Consoleにインポートする

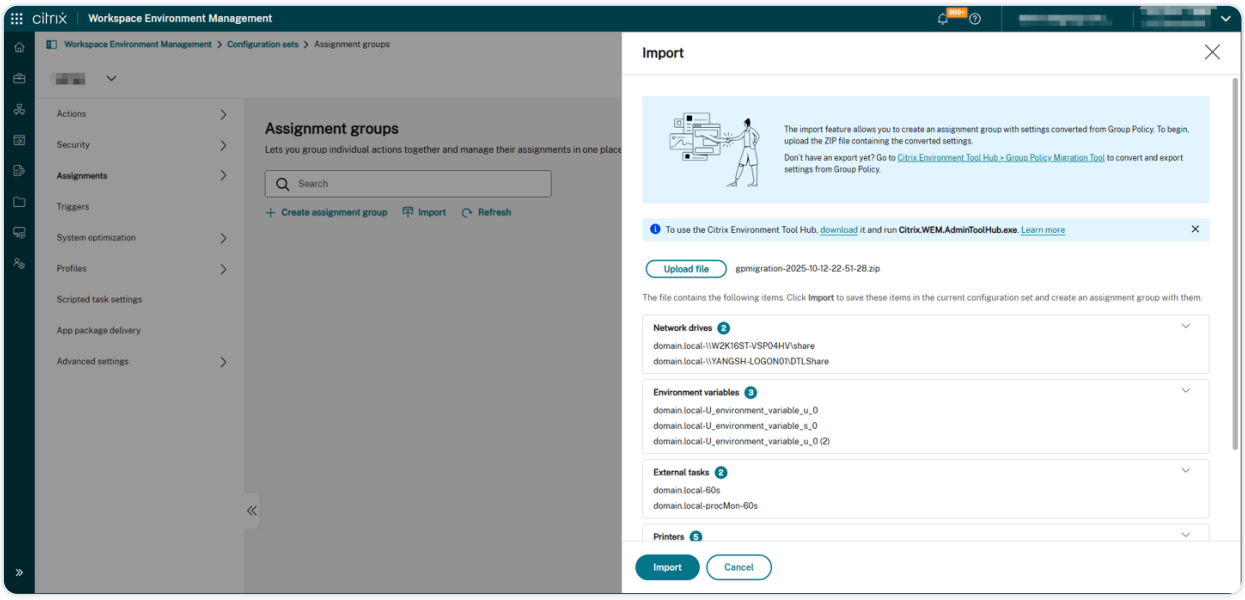
1. WEM **フル管理者**ロールで**WEM Web Console**を起動します。**クイックアクセス**領域で、**グループポリシーの移行**をクリックし、適切な構成セットを選択します。



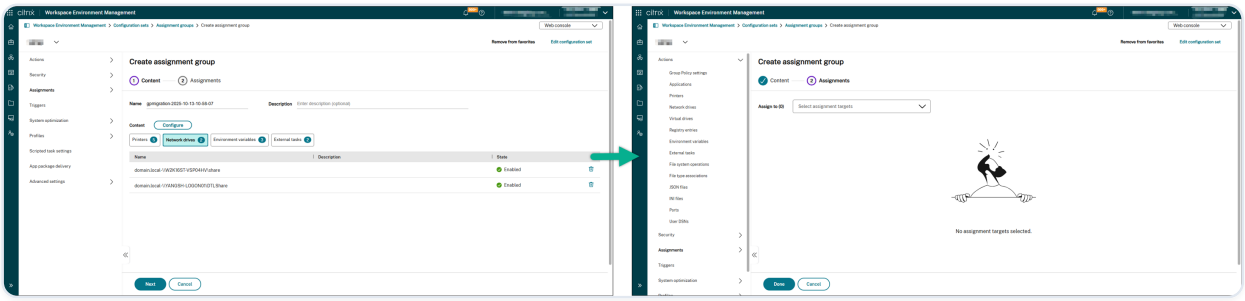
2. エクスポートした`.zip`ファイルをアップロードするには、**ファイルをアップロード**をクリックします。



3. 設定を確認し、**インポート**をクリックします。



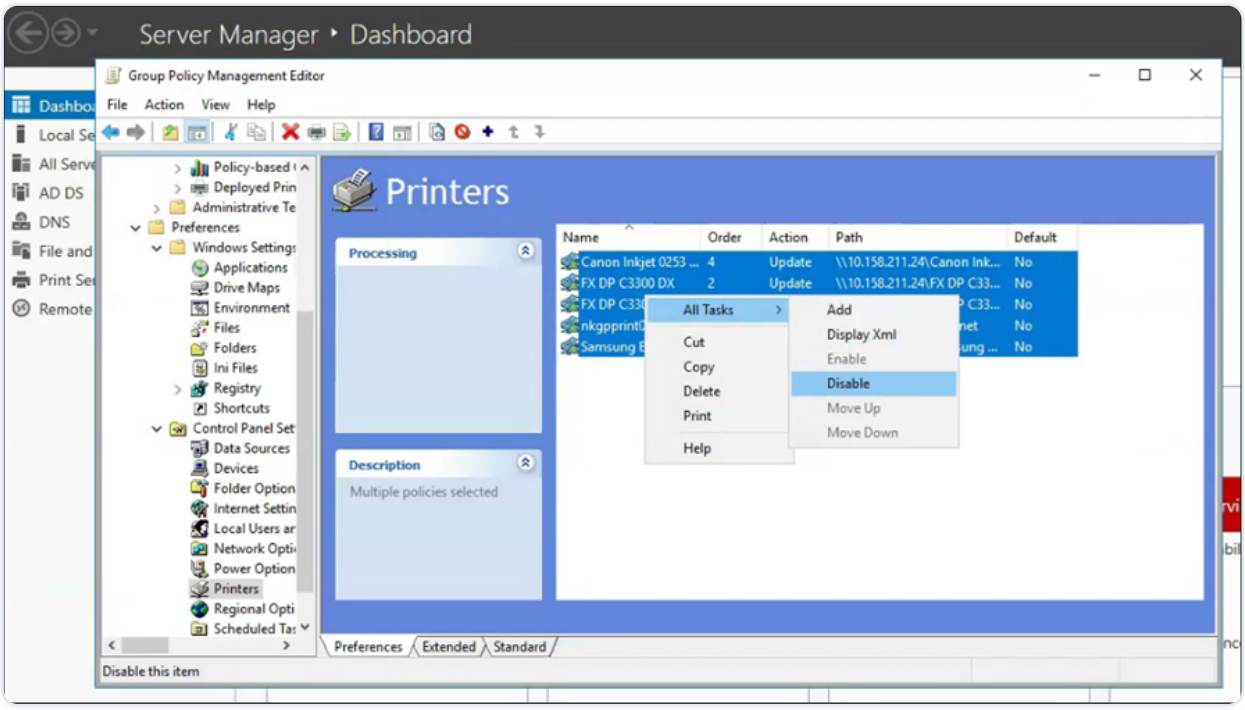
4. **次へ**をクリックして、割り当てターゲットを構成します。



5. **完了**をクリックして、インポートプロセスを完了します。

ステップ3：ドメインコントローラーで移行されたGPP設定を無効にする

1. 管理者権限でドメインコントローラーにログオンします。
2. 移行された設定に対応するすべての構成を無効にします。

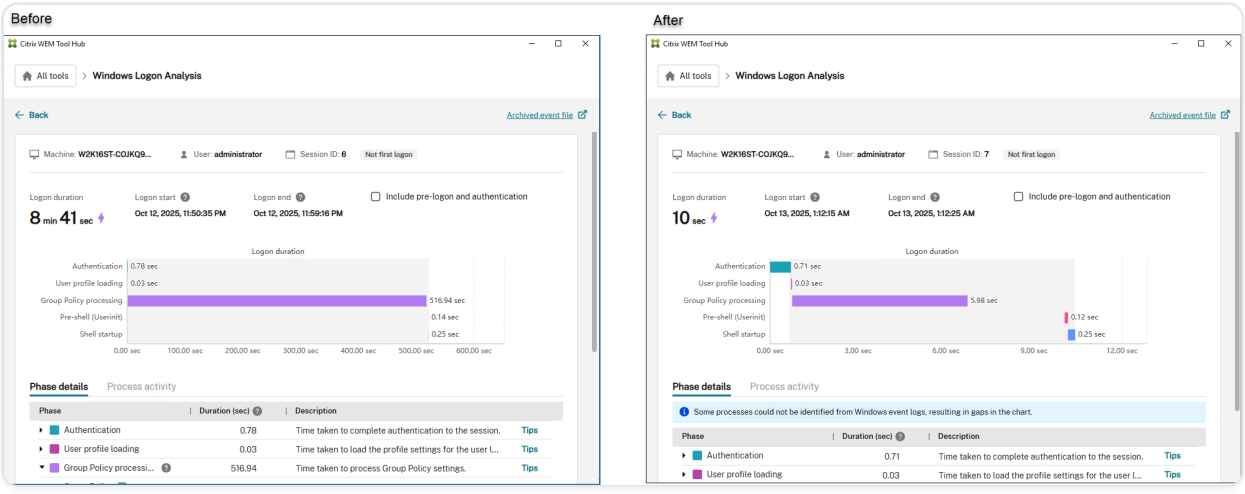


重要:

ユーザー機能の中断を防ぐため、WEMに正常に移行された設定のみを無効にしてください。

ステップ4：再ログオンして結果を確認する

1. ログオフしてから、再度ログオンします。
2. **Windowsログオン分析**ツールを使用して、各セッションのログオン時間を収集します。
3. 移行前と移行後のログオン時間を比較して、パフォーマンスの向上を確認します。



> **注:**
>
> 上記の比較結果は環境固有のものであり、参考としてのみ提供されています。

ログオンの遅延を引き起こす特定のグループポリシー設定の特定に関する詳細については、「Citrix Environment Tool Hub と WEM を使用したログオン時間の問題のトラブルシューティング」を参照してください。

割り当てられたアプリケーションを1か所に集約する

管理者として、ユーザーに割り当てたすべてのアプリケーションを1か所に集約して、すばやく便利に起動したい場合があります。また、ユーザーは、最初にブラウザを開いてからウェブサイトにアクセスするという追加の手順を踏むよりも、ブックマークしたウェブサイトを直接開くことを好む場合があります。

Workspace Environment Management (WEM) は、ユーザーが割り当てられたアプリケーションを1か所で起動し、ブラウザを使用してブックマークされたウェブサイトを直接開くことができるアプリケーションランチャーツールを提供します (割り当てられている場合)。このツールの詳細については、「アプリケーションランチャー」を参照してください。

このツールを使用するための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 管理者として、管理コンソールを通じてターゲットユーザーまたはユーザーグループにアプリケーションを割り当てます。
2. ユーザーはエージェントマシンにログオンし、ツールを使用してアプリケーションを起動します。

前提条件

このツールを使用する前に、次の点に注意してください。

- 割り当てられたアプリケーションがエージェントマシンに存在することを確認してください。エージェントマシンに存在するアプリケーションのみがアプリケーションランチャーウィンドウに表示されます。
- この機能はGoogle ChromeとMicrosoft Edgeのみをサポートしています。ブラウザのブックマーク機能が動作するためには、Google ChromeまたはMicrosoft Edgeがエージェントマシンに存在することを確認してください。

推奨事項

このツールはWEMの一部として独立して実行できます。最高のユーザーエクスペリエンスのために、次のことをお勧めします。

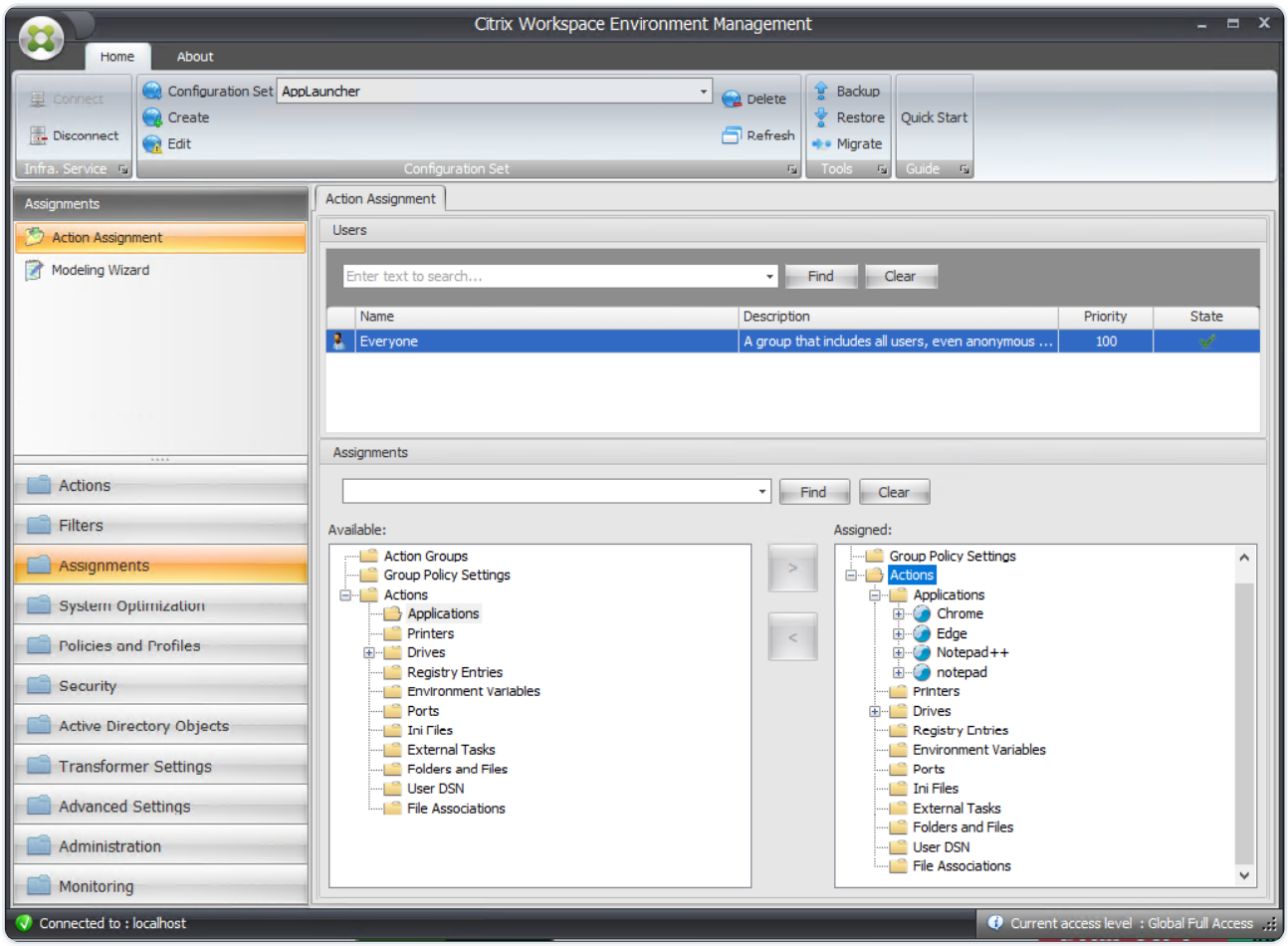
- **ツールをCitrix仮想アプリとして公開する。**Citrix Workspace™で公開されたアプリとして使用すると、このツールは割り当てられたアプリケーションをより速く起動し、ユーザーがブックマークされたウェブサイトを開くのに便利になります。それ以外の場合、ブラウザのブックマーク機能は動作しません。
- **Citrix Profile Managementとツールを使用する。**アプリケーションランチャーを使用すると、ユーザーは割り当てられたアプリケーションをお気に入りとしてマークできます。Profile Management と一緒に使用すると、ユーザーのお気に入りやブラウザのブックマークは、どのマシンにログオンしてもローミングできます。

アプリケーションを割り当てる（管理者として）

次の情報は、アクションの割り当て のガイダンスを補足するものです。アプリケーションを割り当てるには、その記事の一般的なガイダンスに従ってください。

この例では、次のアプリケーションが割り当てられています。

- クローム
- エッジ
- ノートパッド++
- メモ帳



ツールを使用してアプリケーションを起動する (ユーザーとして)

ユーザーがエージェントマシンにログオンした後、アプリケーションランチャーツールを起動し、次の操作を実行できます。

- 割り当てられたアプリケーションを開く
- アプリケーションをお気に入りに追加する
- 管理ツールを起動する
- ブックマークされたWebサイトにアクセスする
- 現在のセッションからサインアウトする

詳細については、アプリケーションランチャーを参照してください。

以下の情報は、アプリケーションランチャーの記事を補足するものです。その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細に注意してください。

ユーザーはブックマークされたWebサイトを直接開くことができます。ブラウザのブックマーク機能は、ブックマークされたWebサイトを開くためのより速く、より便利な方法を提供します。

アプリケーションランチャー - ブラウザのブックマーク(/en-us/workspace-environment-management/service/media/app-launcher-browser-bookmarks.png)

ブックマークを追加するには、ユーザーはアプリケーションランチャーを使用して割り当てられたブラウザを開き、Webサイトにアクセスして、それらをブックマークします。ブックマークされたWebサイトは、**ブラウザのブックマーク**に表示されます。

ブックマークを削除または変更するには、ユーザーは次の手順を実行します。

1. ブラウザを開くか、ブックマークされたWebサイトをクリックしてブラウザを開きます。
2. 必要に応じてブックマークを削除または変更します。

現在のセッションからサインアウトするには、ユーザーは右上隅の省略記号アイコンをクリックし、**サインアウト**を選択します。

アプリケーションランチャー - サインアウト(/en-us/workspace-environment-management/service/media/app-launcher-signout.png)

ウィンドウを閉じるのとは異なり、サインアウトするとアプリケーションセッションが確実に終了します。

スクリプトタスクを使用してログオン時間を分析する

ログオン時間が長いと、ユーザーの生産性が低下し、ユーザーエクスペリエンスが損なわれます。管理者として、ログオン時間の詳細な概要を把握し、ログオンを遅くしているプロセスを特定して、それに応じて是正措置を講じたいと考えるかもしれません。

この目標を達成するには、スクリプト `analyzeLogonDuration.ps1` を使用できます。これは、ログオンプロセスに関連するすべての主要なイベントについてイベントログを照会するPowerShellスクリプトです。このスクリプトには、次のような利点があります。

- ユーザーの最新のログオンのログオン時間の内訳を提供します。
- ログオンプロセスのすべての主要な連続フェーズを表示し、どのフェーズがログオンを遅くしているかを簡単に確認できるようにします。
- あるフェーズの終了と次のフェーズの開始の間に遅延があるかどうかを確認できます。

その他の利点については、`<https://www.controlup.com/script-library-posts/analyze-logon-duration/>` を参照してください。

Workspace Environment Management™ (WEM) には、スクリプトの実行を自動化するスクリプトタスク機能が用意されています。スクリプトタスクを構成するだけで済みます。一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 関連するスクリプトを準備します。
2. スクリプトタスクにフルアクセスが許可されている場合、スクリプトの署名は必須です。
3. スクリプトタスクを追加します。
4. スクリプトタスクを構成します。
5. タスク実行レポートを表示します。

関連するスクリプトを準備する

次の2つのスクリプトを含むzipファイルを準備します。

スクリプトを含むZipファイル(/en-us/workspace-environment-management/service/media/1-relevant-scripts.png)

- `analyzeLogonDuration.ps1`。このスクリプトは`<https://www.controlup.com/script-library-posts/analyze-logon-duration/>`から入手できます。
- `runLogonDuration.ps1`。ログオン期間スクリプトはドメイン名とユーザー名を必要とするため、ドメイン名とユーザー名を渡すためのラッパースクリプトを提供しています。例えば、サービスアカウントでドメイン名とユーザー名を取得する方法を提供しています。ただし、このラッパースクリプトには1つのユーザーセッションが必要です。

この例では、スクリプト`runLogonDuration.ps1`には以下の内容が含まれています。

```
$User = tasklist /v /FI "IMAGENAME eq explorer.exe" /FO list | find "User Name:"

$User = $User.Substring(14)

$UserName = $User.Split("\")[1]

$DomainUser = "$env:userdomain\$UserName"

&.\analyzeLogonDuration.ps1  -DomainUser $DomainUser
```

スクリプトに署名する

スクリプト化されたタスクはフルアクセスで実行する必要があります。エントリポイントスクリプトに署名を追加する必要があります: `runLogonDuration.ps1`。公式の証明書を使用することをお勧めします。公式の証明書をお持ちの場合は、ステップ1からステップ3までをスキップできます。証明書をお持ちでない場合は、テスト用に自己署名SSL証明書のみを使用できます。自己署名SSL証明書は、通常は信頼できるSSL証明書会社であるサードパーティ機関からの検証がないため、危険です。

ステップ1: 自己署名証明書を作成する

1. PowerShellを管理者として開きます。**スタート**ボタンを右クリックし、`Windows PowerShell (Admin)`または`Windows Terminal (Admin)`を選択します。
2. `New-SelfSignedCertificate`コマンドレットを使用して自己署名証明書を作成します。証明書の名前（フレンドリ名）、有効期間、および使用法（KeyUsage）などのパラメーターを指定します。

```
$cert = New-SelfSignedCertificate -Type CodeSigningCert -DnsName
"MyTestCertificate.com" -CertStoreLocation "cert:\LocalMachine\My"
-NotAfter (Get-Date).AddYears(10) -KeyUsage DigitalSignature -FriendlyName
"MyTestCertificate"
```

このコマンドは、1年間の有効期間を持つ新しい証明書を作成し、**MyTestCertificate**としてラベル付けします。この証明書は、ローカルマシンの個人ストアに保存されます。

証明書が正常に作成されると、以下の詳細が表示されます。

証明書を作成(/en-us/workspace-environment-management/service/media/2-echo-cert.png)

ステップ2: 自己署名証明書をエクスポートする

必要に応じて、秘密鍵とともに証明書をエクスポートします。署名に証明書を使用するには、秘密鍵とともにエクスポートする必要があります。これは、別のマシンで証明書を使用したり、鍵を保護したりするために不可欠です。次のコマンドを実行します。

```
$pwd = ConvertTo-SecureString -String "YourStrongPassword" -Force
-AsPlainText

Export-PfxCertificate -cert $cert -FilePath "C:\MyTestCertificate.pfx"
-Password $pwd
```

YourStrongPasswordを任意の強力なパスワードに置き換えます。このコマンドは、秘密鍵を含む証明書を`.pfx`ファイルにエクスポートします。

ステップ 3: 証明書をインストールする

証明書をすでにエクスポートしており、同じマシンまたは別のマシンにインストールする必要がある場合は、証明書ストアにインポートし直すことができます。`*.pfx` ファイルをターゲットマシンにコピーし、`Import-PfxCertificate` コマンドレットを使用します。

```
$pwd = ConvertTo-SecureString -String "YourStrongPassword" -Force
-AsPlainText



Import-PfxCertificate -FilePath "C:\MyTestCertificate.pfx"
-CertStoreLocation "Cert:\LocalMachine\Root" -Password $pwd
```

ステップ 4: 証明書を使用してファイルに署名する

公式の証明書を使用する場合は、適切な CN 値を入力する必要があります。この例では、`MyTestCertificate.com` を使用します。証明書を見つけるには、次のコマンドレットを使用します。

```
$cert = ls Cert:\LocalMachine\Root| where {$_.subject -eq
CN=MyTestCertificate.com"}
```

`Set-AuthenticodeSignature` コマンドレットを使用して、PowerShell スクリプトまたはデジタル署名をサポートするその他のファイルに署名します。

```
Set-AuthenticodeSignature -FilePath "C:
\logonDuration\runLogonDuration.ps1" $cert -IncludeChain all
-HashAlgorithm SHA1 -TimestampServer http://timestamp.digicert.com
```

このコマンドは、以前に作成した証明書を使用して `runLogonDuration.ps1` にデジタル署名を適用します。

ステップ 5: 署名を検証する

ファイルが正しく署名されていることを確認するには、次のコマンドを使用できます。

```
Get-AuthenticodeSignature -FilePath "C:
\logonDuration\runLogonDuration.ps1"
```

スクリプトの署名が有効な場合、次の詳細が表示されます。

```
PS C:\logonDuration> Get-AuthenticodeSignature -FilePath "C:\logonDuration\runLogonDuration.ps1"

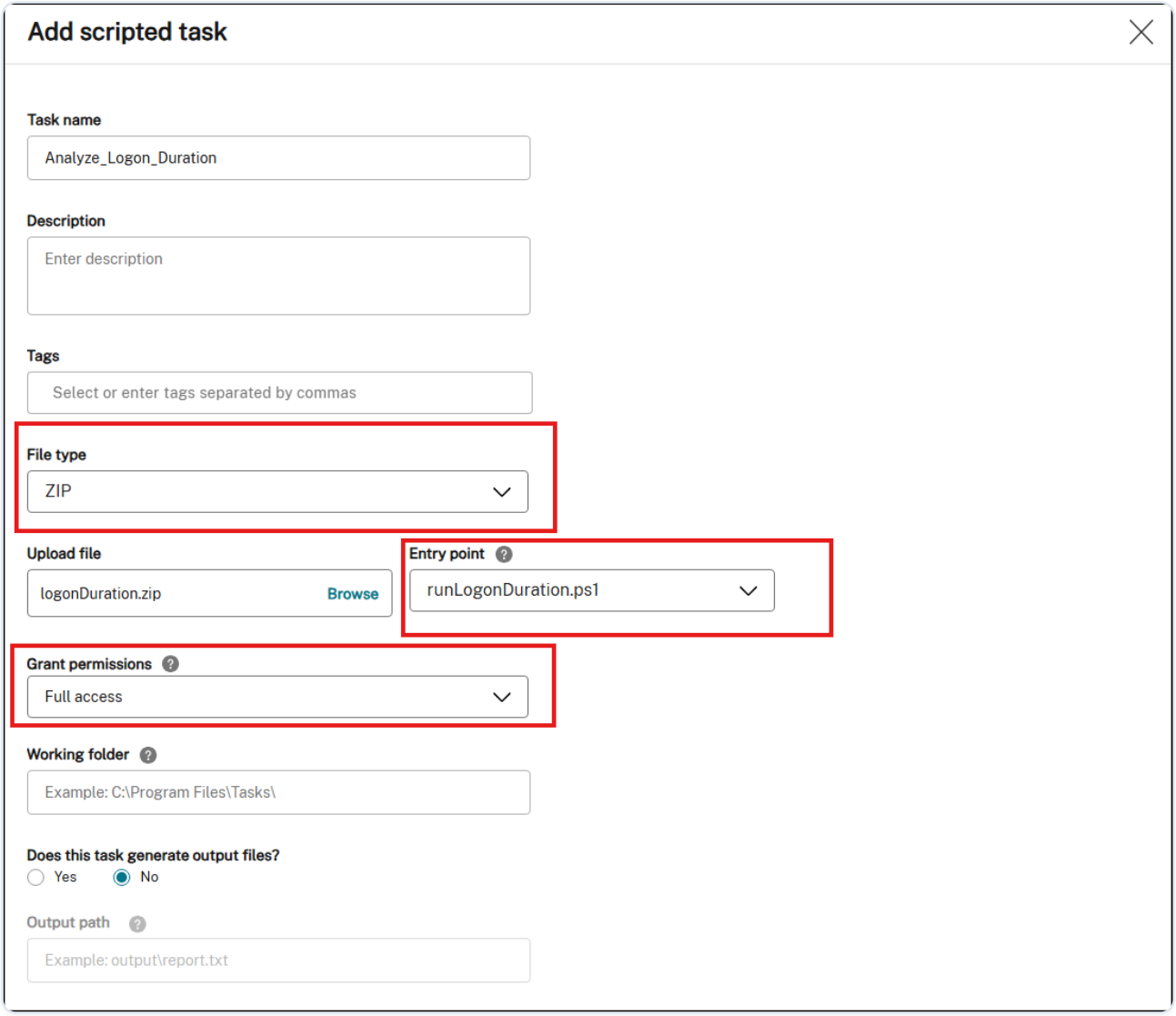

    Directory: C:\logonDuration


SignerCertificate                         Status                                                Path
-----------------                         ------                                                ----
980CEB1DFC4FC9D29FDD755B918506BE721CE593  Valid                                                 runLogonDuration.ps1
```

スクリプトタスクを追加する

以下の情報は、スクリプトタスクを追加する のガイダンスを補足するものです。ログオン期間を分析するタスクを作成するには、その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細に注意してください。

Web コンソール > スクリプトタスクで、次のようにタスクを追加します。



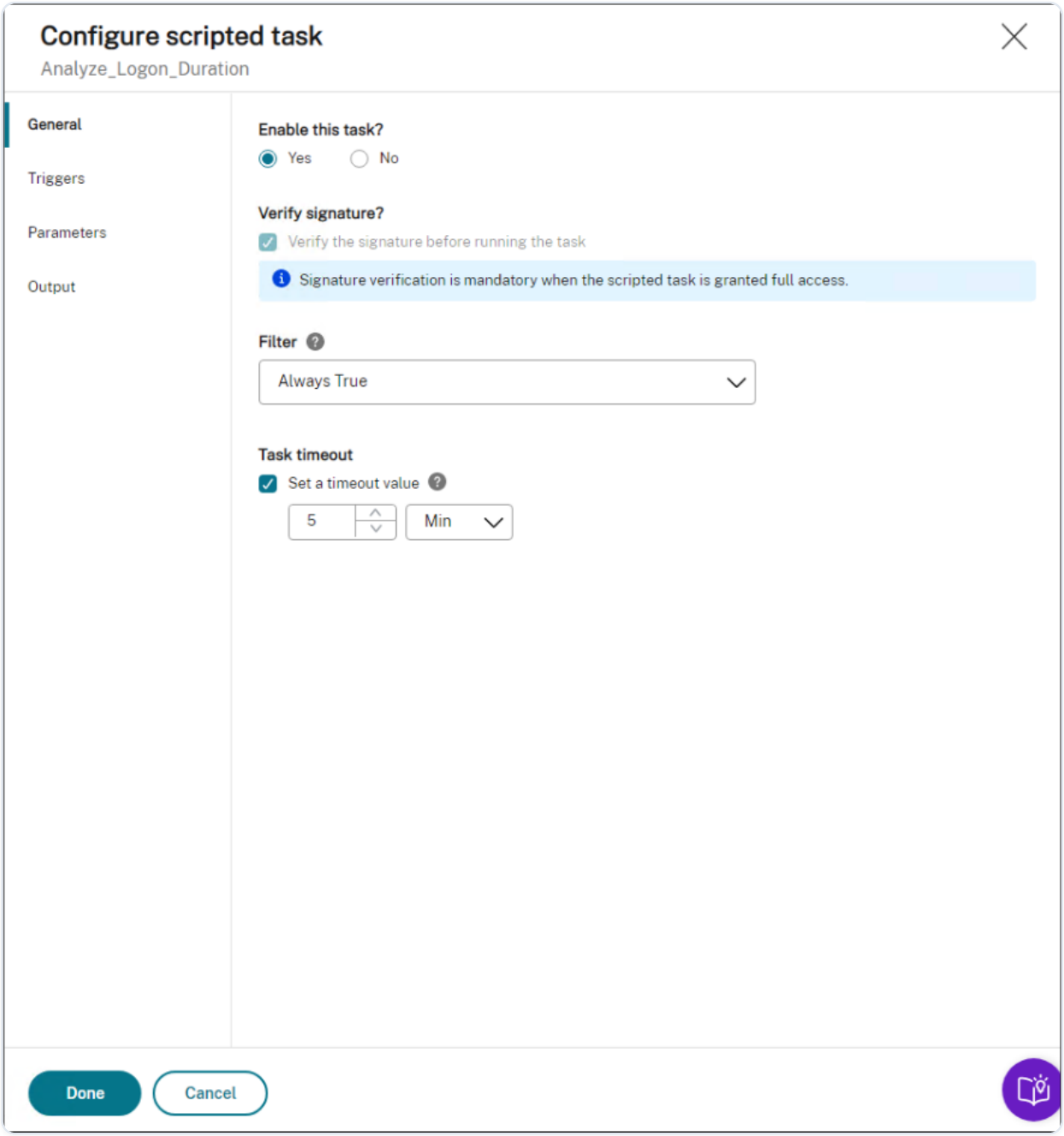
- **ファイルの種類**には、**ZIP** を選択します。
- 以下の2つのスクリプトを含むzipファイルを作成します。
  - `analyzeLogonDuration.ps1`
  - `runLogonDuration.ps1`
- zipファイルを参照してアップロードし、スクリプト `runLogonDuration.ps1` をエントリポイントとして設定します。
- 「**アクセス許可の付与**」オプションは、セキュリティリスクをもたらす可能性のある信頼できないスクリプトからの攻撃から保護するために、追加のセキュリティ層を追加するように設計されています。Analyze_Logon_Durationタスクは、フルアクセスで実行する必要があります。

スクリプトタスクを構成する

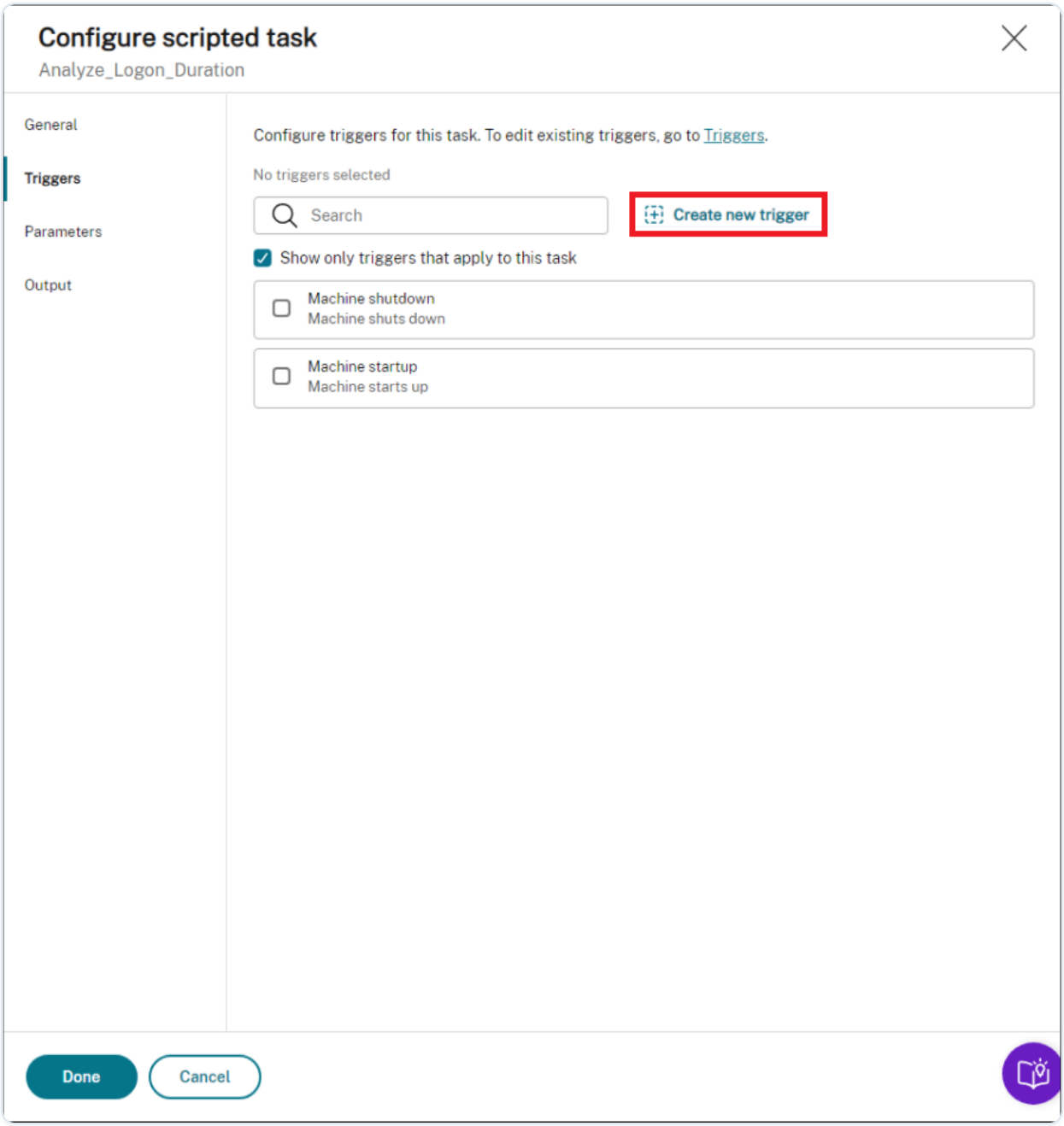
以下の情報は、スクリプトタスクの構成 のガイダンスを補足するものです。Analyze_Logon_Durationタスクを構成するには、その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細に注意してください。

1. 関連する構成セットに移動し、**Scripted Task Settings** に移動して、**General** で Analyze_Logon_Durationタスクを次のように構成します。

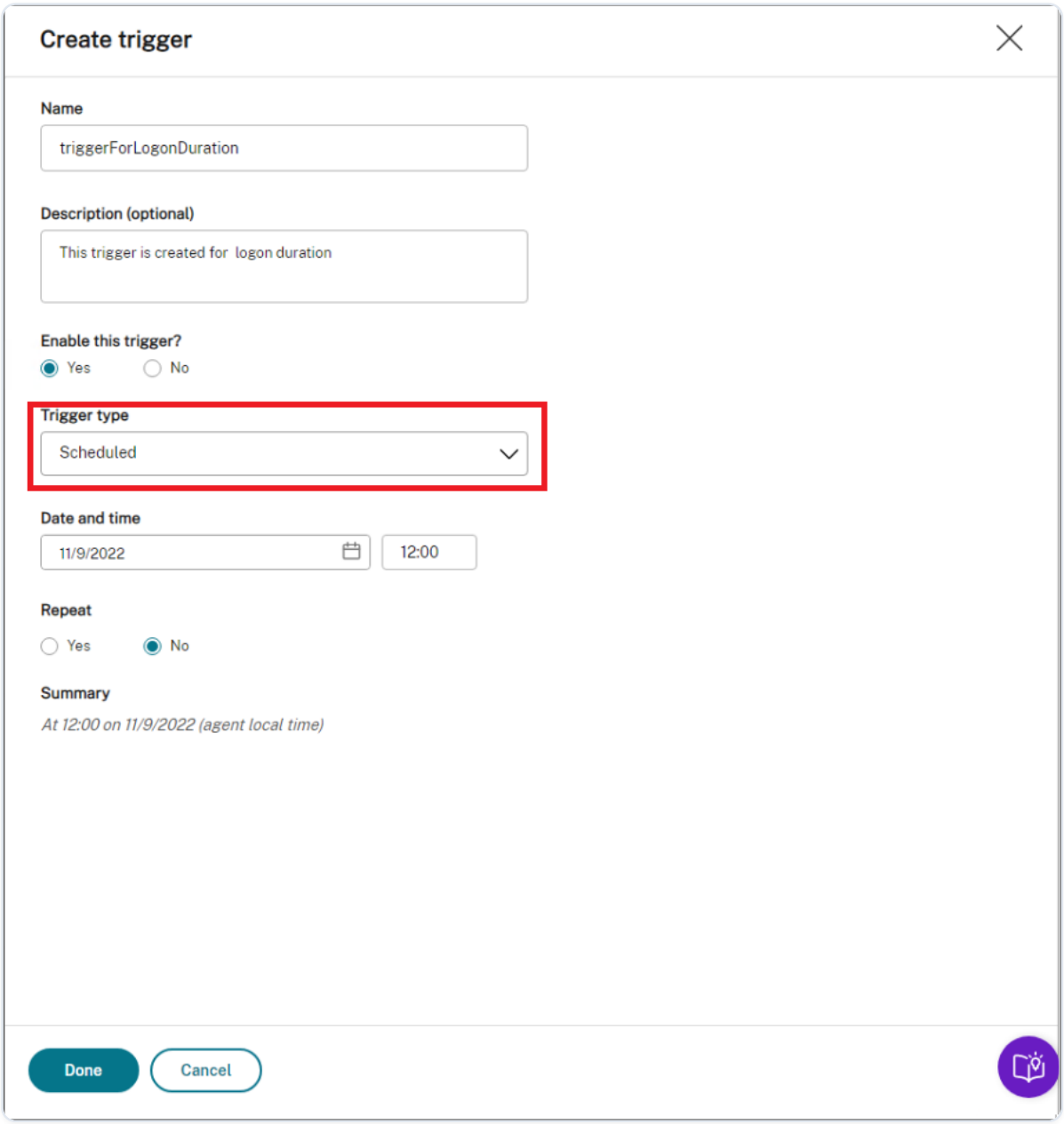
   - WEMでは、タスクを実行する前に署名を検証するかどうかを決定できます。スクリプトタスクにフルアクセスが許可されている場合、署名検証は必須です。これにより、スクリプトが侵害されるのを防ぎ、セキュリティが確保されます。**Filter** と **Task timeout** の設定はオプションです。

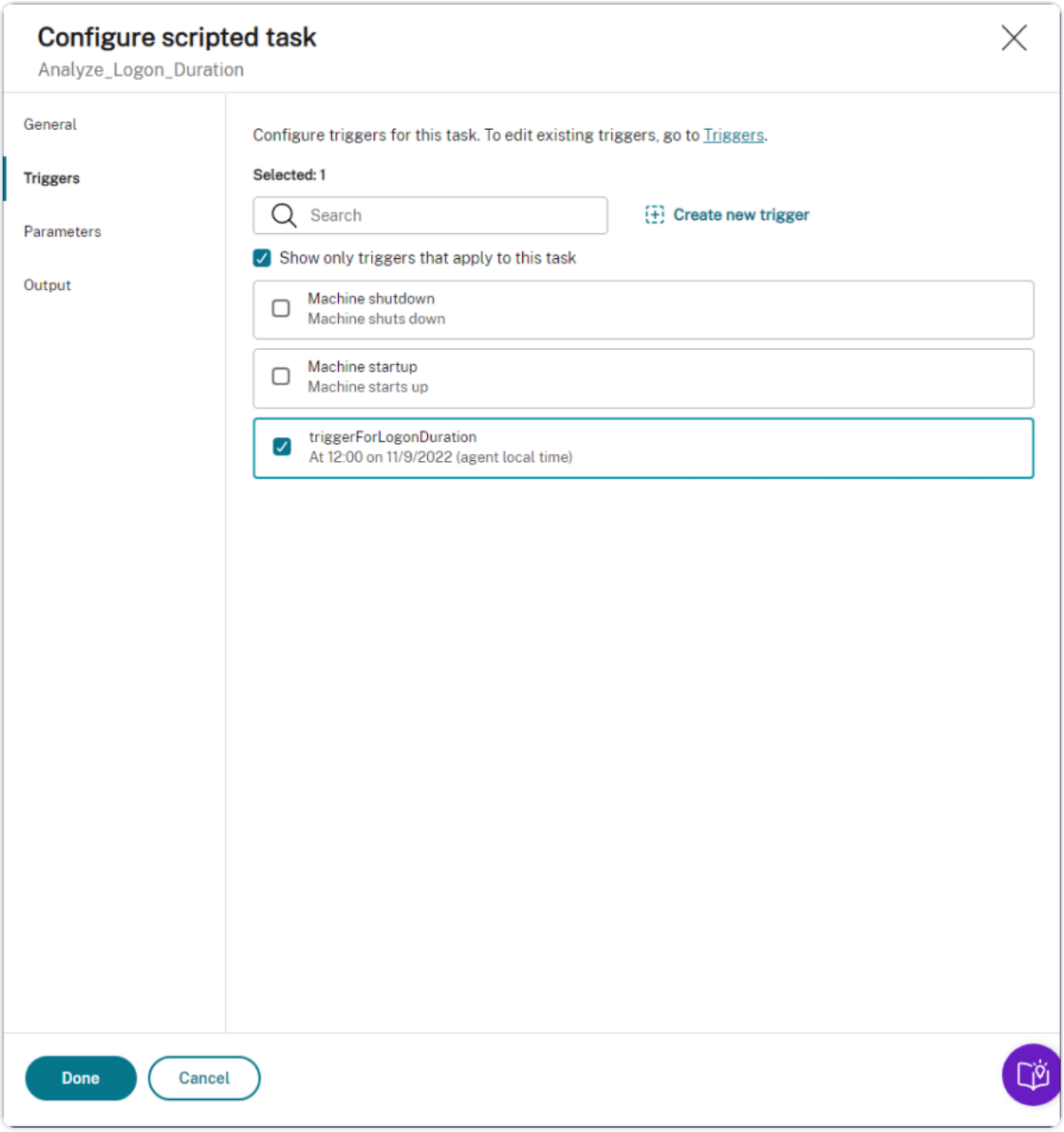


2. **Triggers** で、タスクのトリガーを構成します。



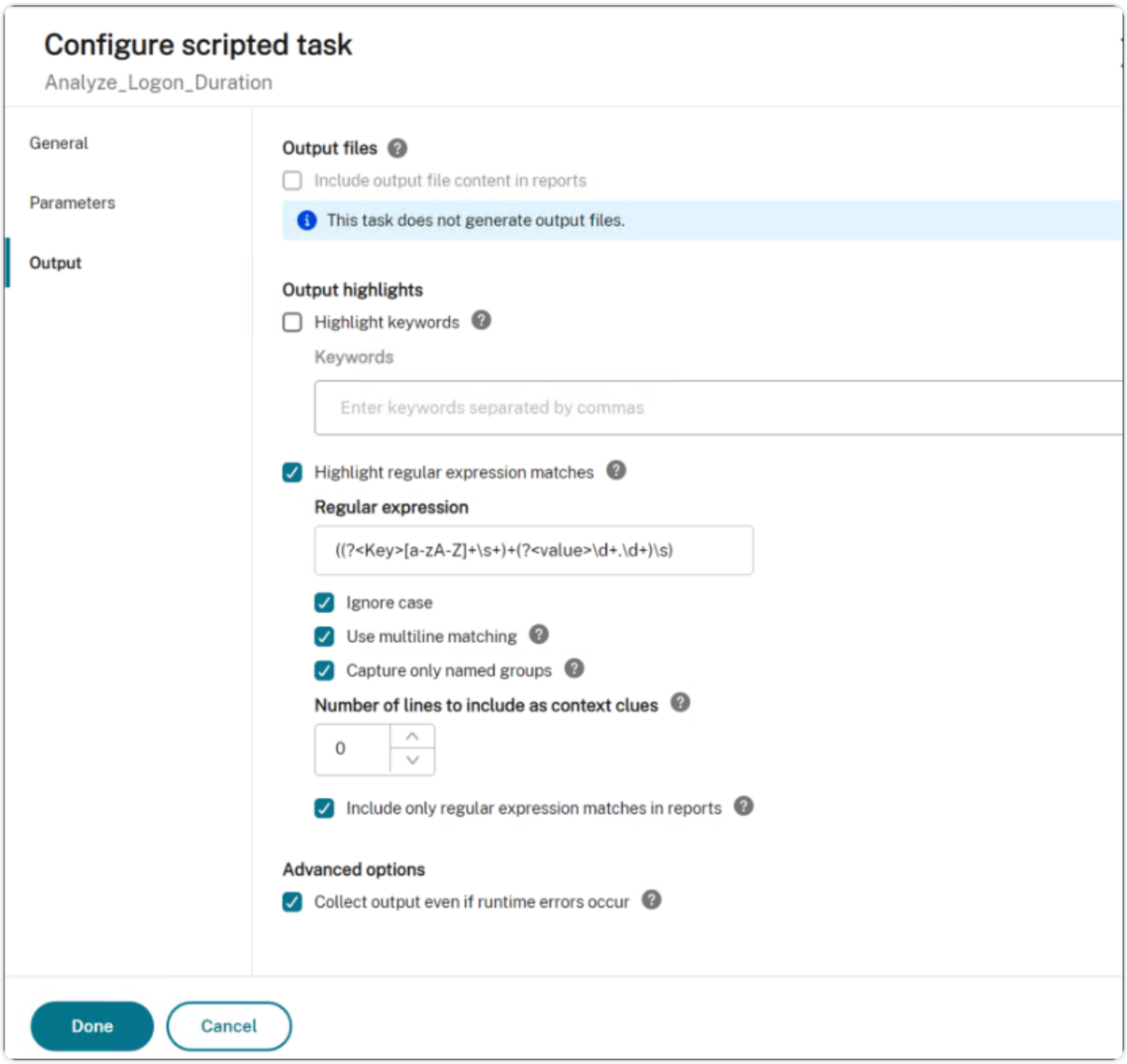
- トリガーを使用して、タスクを実行するタイミングを制御します。たとえば、「スケジュール済み」トリガーを作成してタスクの実行をスケジュールし、そのトリガーをタスクに関連付けることができます。


Create trigger
Name
triggerForLogonDuration
Description (optional)
This trigger is created for logon duration
Enable this trigger?
Yes
No
Trigger type
Scheduled
Date and time
11/9/2022
12:00
Repeat
Yes
No
Summary
At 12:00 on 11/9/2022 (agent local time)
Done
Cancel



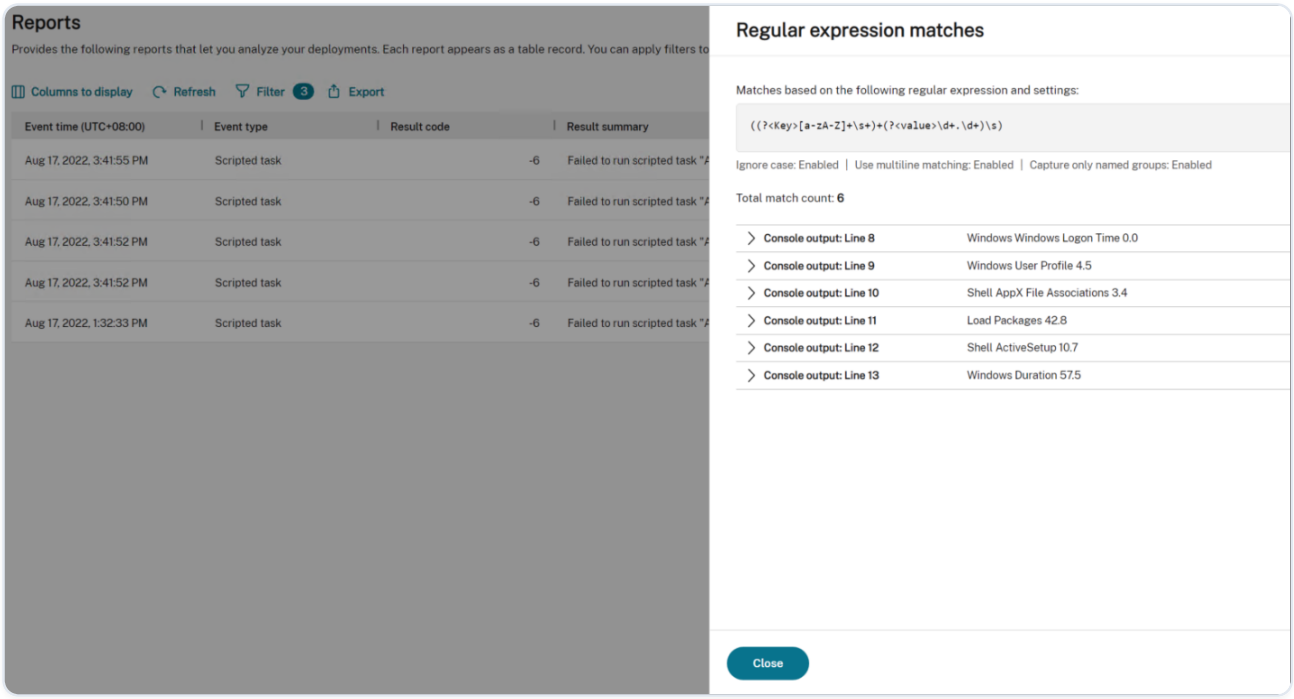
3. **Parameters** で、タスクにパラメータを渡すかどうかを選択します。この例では、この手順をスキップできます。
4. **Output** で、次のように設定を構成します。正規表現の値を設定します。

```
((?<Key>[a-zA-Z]+\s+)+(?<value>\d+.\d+)\s)
```



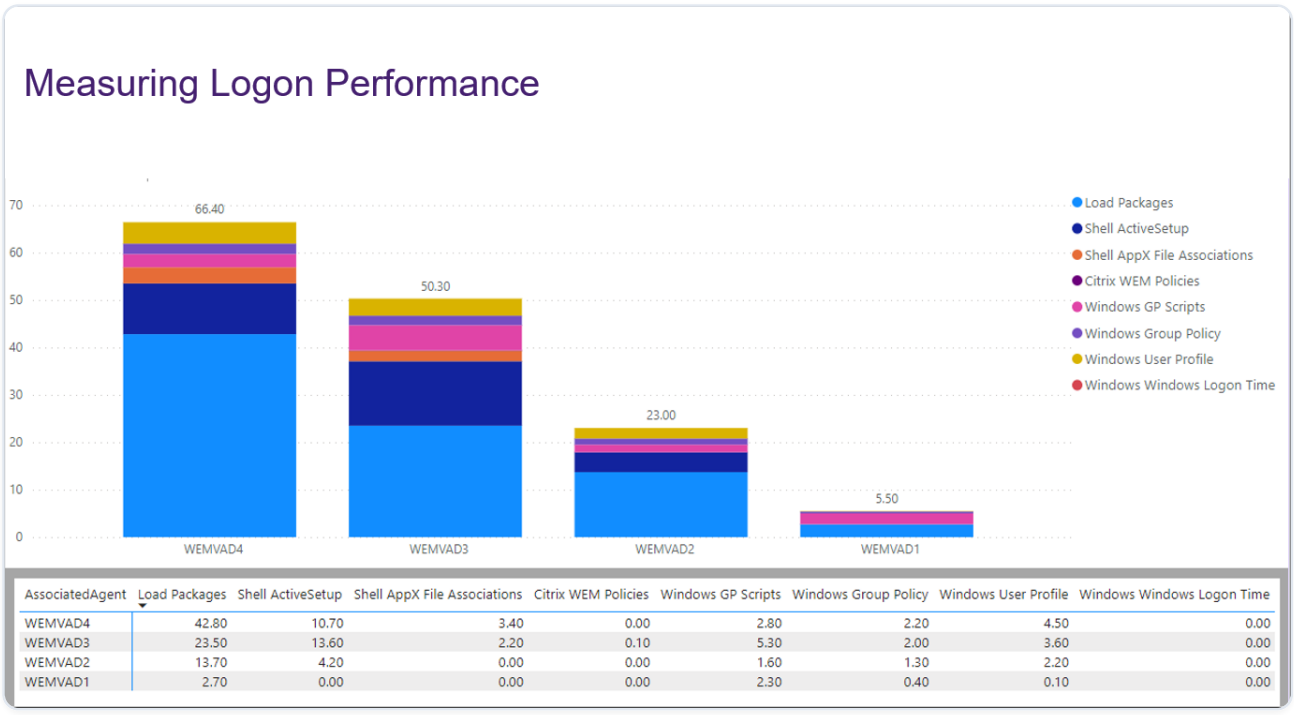
タスク実行レポートを表示する

タスクが正常に実行された後、レポートを確認して結果を表示できます。詳細については、「レポート」を参照してください。この例では、次のレポートが表示されます。



フィルターを使用して、関連するレポートに表示を絞り込み、エクスポートできます。レポートのエクスポートについては、「レポートのエクスポート」を参照してください。エクスポートされたデータに基づいて、さらに分析を実行できます。

以下は、Power BI で関心のあるデータを視覚化した例です。ユーザーのログオン時間の内訳を示しています。



> **ヒント:**

> ログオンパフォーマンスの最適化は、Workspace Environment Management サービスのハイライトの1つです。この機能は、ログオンプロセス全体を変更して、ログオン時間を大幅に短縮できます。「ログオンの最適化」を参照してください。

Citrix Environment Tool Hub を使用してログオンパフォーマンスを分析する

Citrix Environment Tool Hub は、詳細なログオンフェーズ分析、プロセス監視、および詳細なパフォーマンスメトリックを提供し、ログオンの遅延を効率的に特定して解決するのに役立ちます。

この記事は、Citrix Environment Tool Hub と WEM を使用したログイン時間の問題のトラブルシューティング で説明されている概念に基づいており、完全なステップバイステップの診断ワークフローを通じて Tool Hub の強化された診断機能を紹介します。

強化された診断機能について

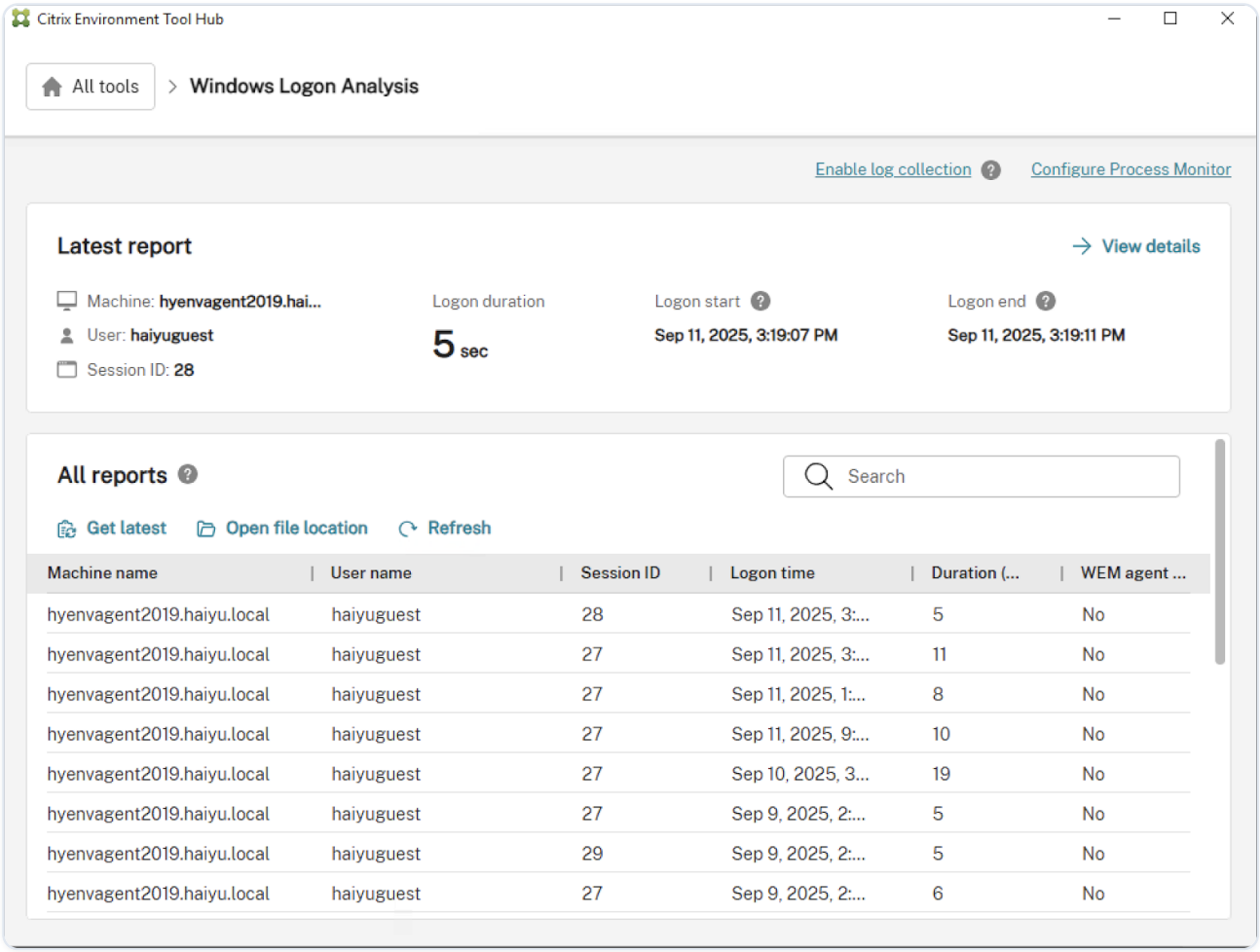
Citrix Environment Tool Hub は、ログオンパフォーマンス分析をより包括的で実用的なものにするいくつかの機能強化を導入しています。

- 最適化されたレポート表示
- 強化されたプロセスモニター統合
- プロセスモニターログ統合からの詳細なメトリック

最適化されたレポート表示

Windows ログオン分析ツールは、ログオン分析結果を明確で構造化された形式で表示する、改善された表形式のレポートビューを提供するようになりました。

- ログオン分析結果が表に表示されます。
- 各レコードには、**ログオン時間**、**期間**、**ユーザー名**、**セッション ID**、**マシン名**などのフィールドが含まれます。
- レコードをクリックすると、各ログオンフェーズ（例：*グループポリシー*、*シェル*、*プロファイル*）を詳細に表示するビューが開きます。



このレイアウトは、最も遅いログオンフェーズをすばやく特定し、潜在的なボトルネックに調査を集中するのに役立ちます。

強化されたProcess Monitorの統合

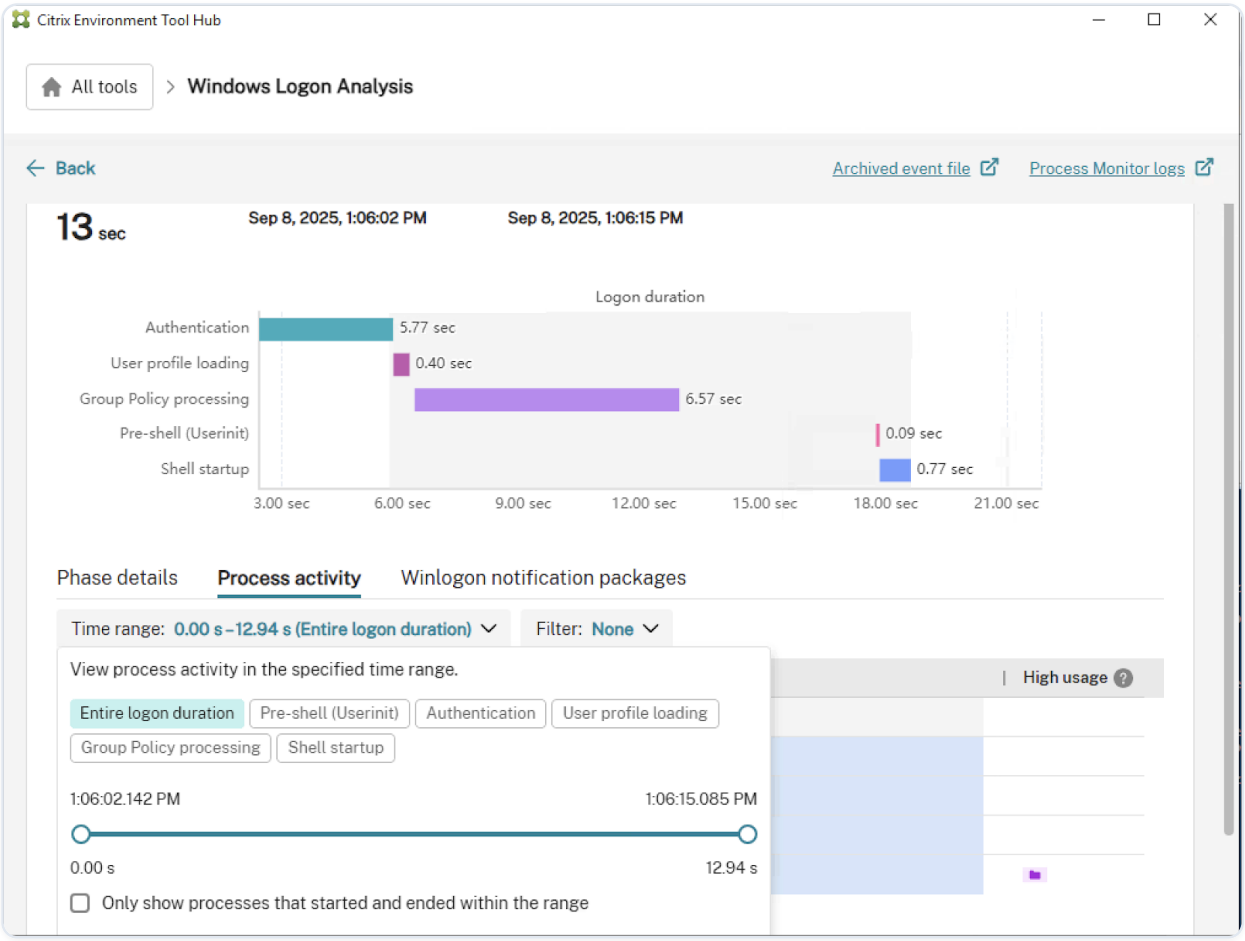
Process Monitorモジュールは、ログオン中のプロセス動作に関する詳細なインサイトを提供するようになりました。これには以下が含まれます。

- 時間ベースのフィルタリング
- ライフサイクル視覚化と使用状況マーカー
- リンクされた詳細ビュー

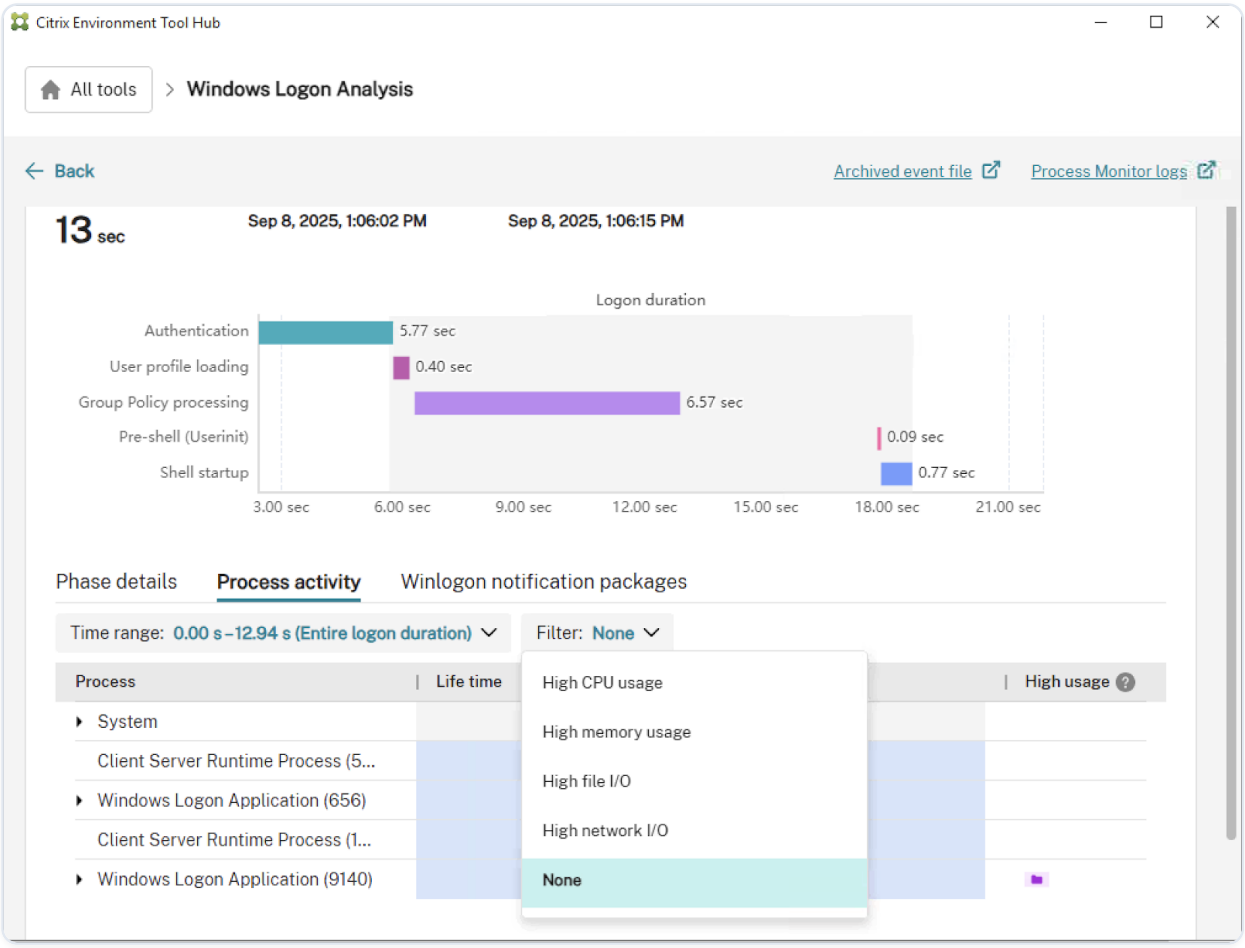
時間範囲とリソースのフィルタリング

この機能を使用すると、次のことができます。

- ログオンタイムライン上でドラッグして時間範囲を選択します。
- *認証*や*シェル起動*などの事前定義されたフェーズフィルターを使用します。
- オプションで、**選択した時間範囲内で開始および終了するプロセスのみを表示**を有効にします。



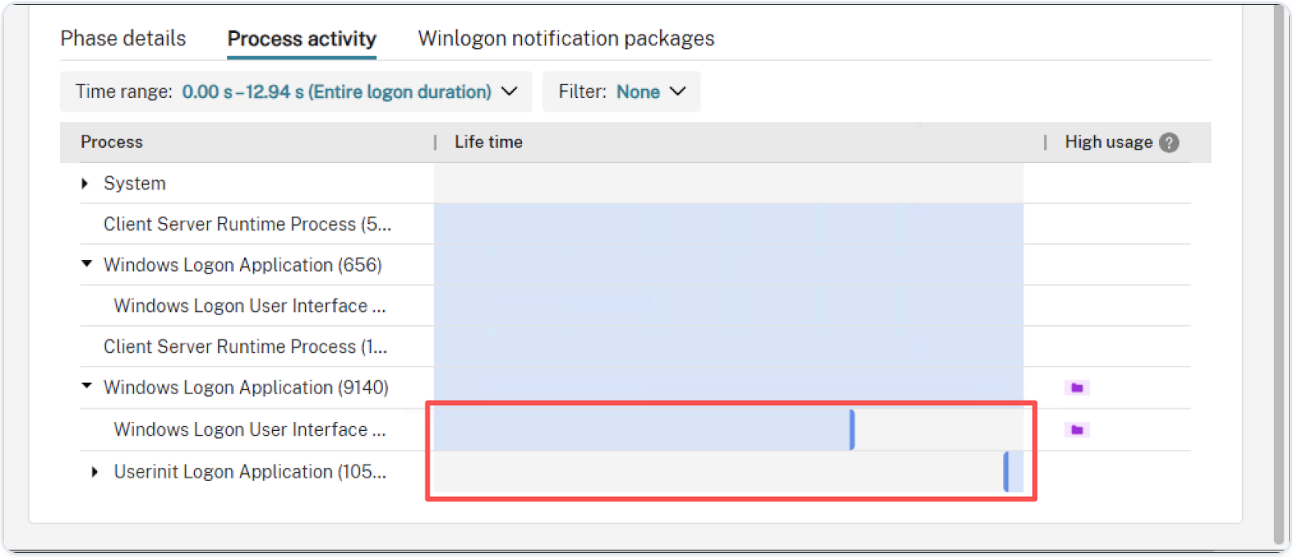
- リソースフィルターを適用して、以下を特定します。
  - 高いCPU使用率
  - 高いメモリ使用量
  - 高いファイルI/O
  - 高いネットワークI/O



ライフサイクルの視覚化と使用状況マーカー

詳細機能は次のとおりです。

- 各プロセスは水平なライフサイクルバーとして表示されます。
- 高いリソース使用量は視覚的なインジケーターでマークされます。
- 開始点と終了点は、簡単に識別できるように強調表示されます。



リンクされた詳細ビュー

詳細機能は次のとおりです。

- ライフサイクルバーを選択すると、詳細なプロセスビューが開きます。
- 詳細ビューには、**名前**、**PID**、**開始時刻**、**ユーザー**、**コマンドライン**などのプロセスメタデータが含まれます。
- 4つのリソース使用状況グラフが利用可能です。
    - CPU使用率 (%)
    - メモリ使用量 (MB)
    - ファイルI/Oアクティビティ (MB)
    - ネットワーク使用量 (MB)
- **生データのエクスポート**オプションを使用すると、スレッドアクティビティ、モジュールロード、システムコールなどのイベントレベルの詳細を、高度な分析やアーカイブのためにダウンロードできます。

リンクされた詳細ビュー(/en-us/workspace-environment-management/service/media/tool-hub-linked-detail-view.png)

Process Monitorログ統合からの詳細なメトリック

ログオン分析中に**Process Monitorロギング**を有効にすると、Windowsログオン分析ツールはログを自動的に解析し、詳細なパフォーマンスメトリックをレポートに追加します。

例としては、次のものがあります。

- **一時フォルダーの走査時間**: ユーザーの`%TEMP%`ディレクトリに多数のファイルやネストされたフォルダーが含まれている場合、フォルダーアクセス中にログオン遅延が発生する可能性があります。
- **デフォルトプロファイルのコピー時間**: 初回ログオン時に、システムは`C:\Users\Default`からユーザーディレクトリにデフォルトプロファイルをコピーします。これにより、ログオン時間が大幅に延長される可能性があります。

その他のメトリックは、環境とキャプチャされたアクティビティに応じて表示される場合があります。

ケーススタディ: 遅いログオンの診断

ユーザーからログオンパフォーマンスが遅いという報告がありました。次の例は、管理者がCitrix Environment Tool Hubを使用して問題を診断し解決した方法を示しています。

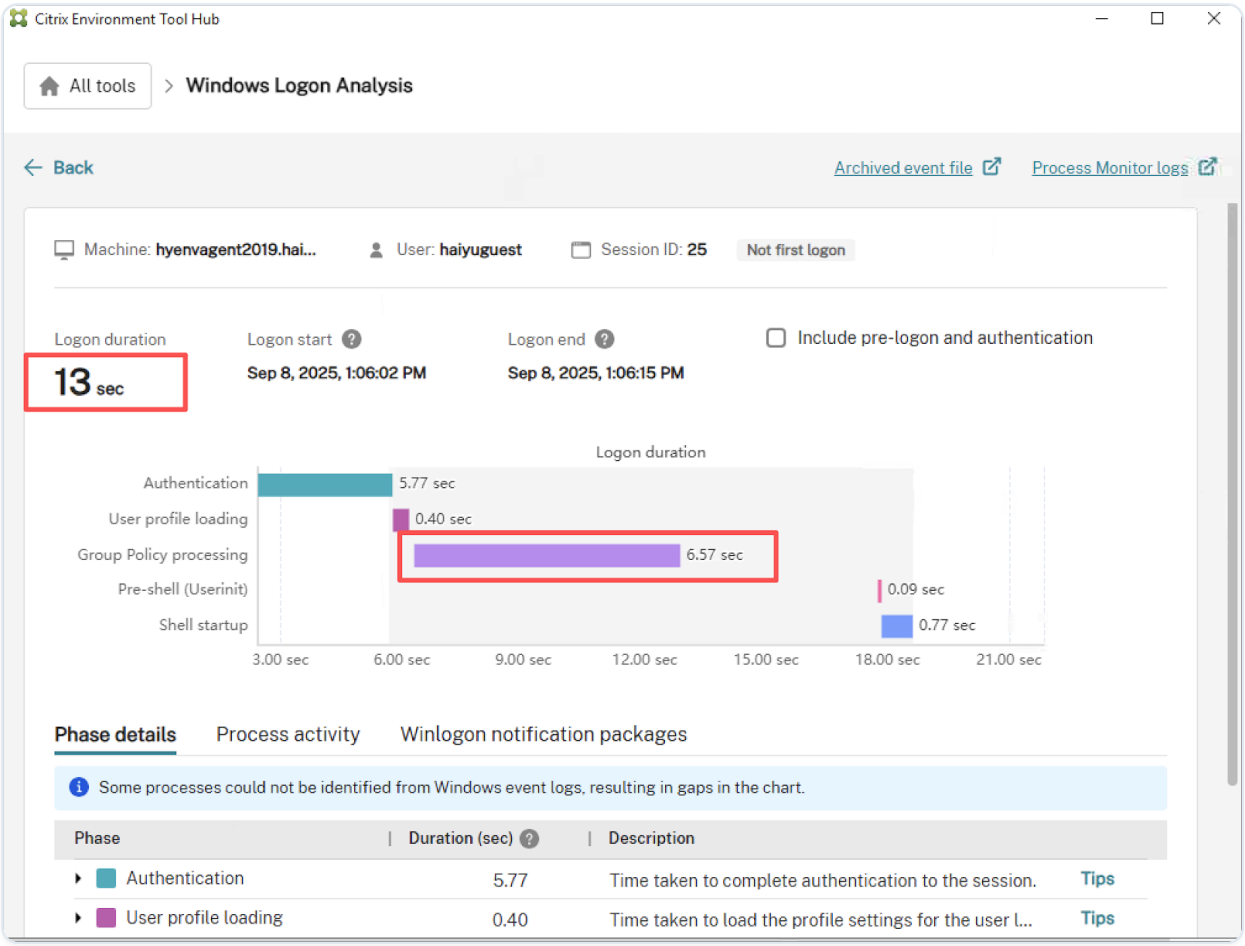
ステップ1: 初期ログオンの分析

1. Citrix Environment Tool Hubを開きます。
2. ログオン分析を実行し、結果を確認します。

   初期の調査結果:

   - 合計ログオン時間: 13秒
   - グループポリシー処理: 6.57秒 (合計時間の約半分)

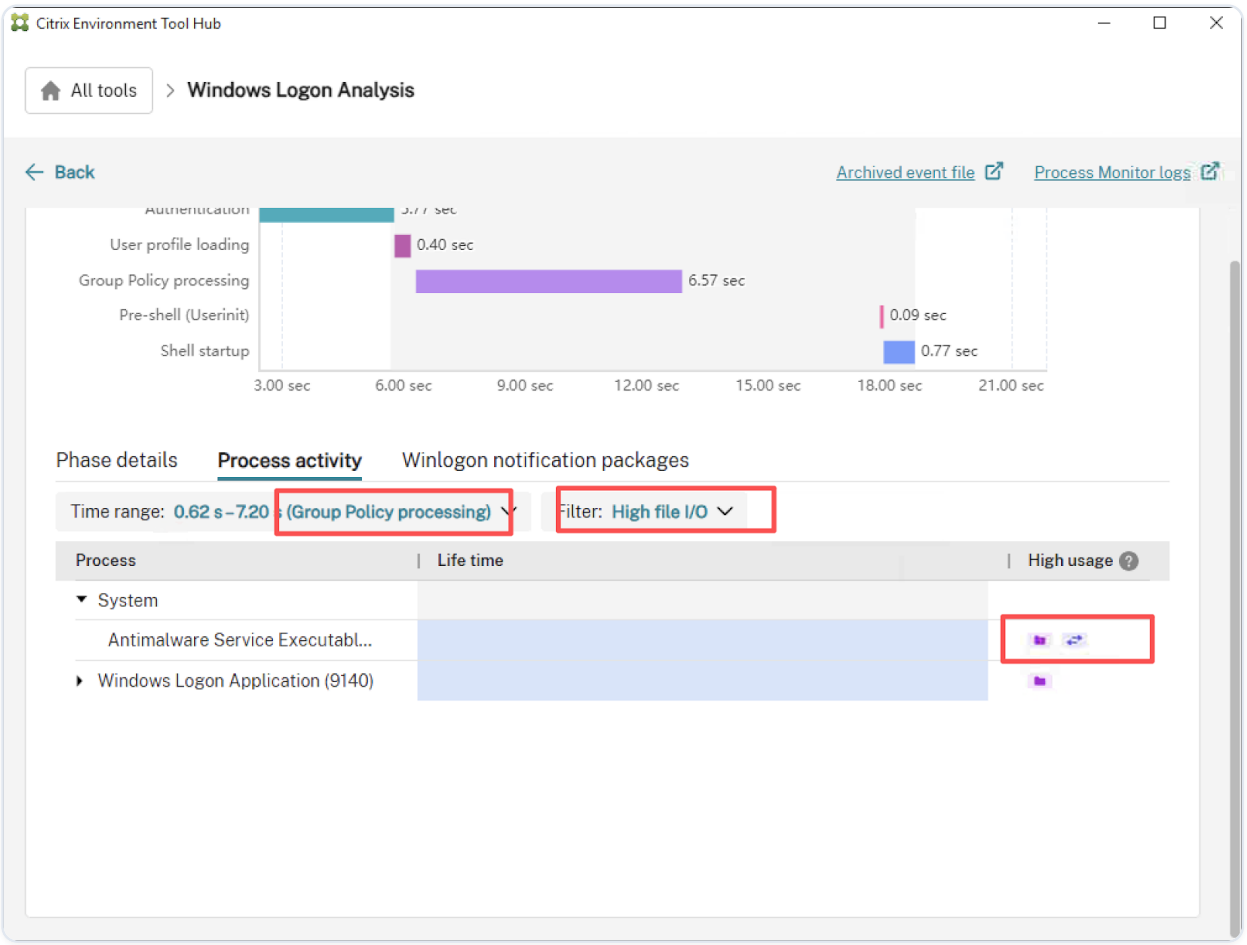
   この初期分析では、グループポリシーが主要なボトルネックであることが示唆されています。Process Monitor を使用して調査を続行します。



ステップ 2: Process Monitor を有効にして問題を再現する

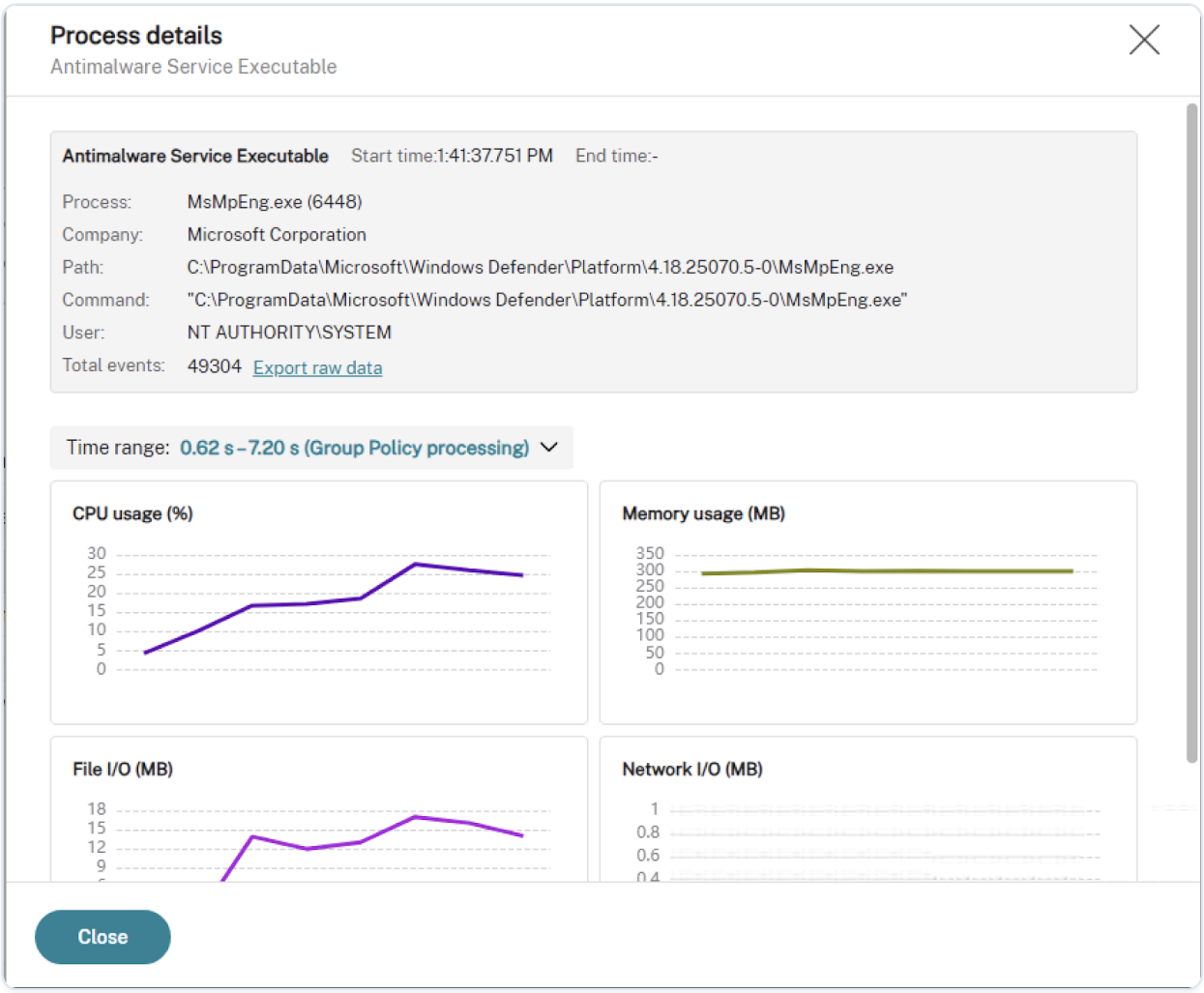
1. Windows Logon Analysis ツールで **Process Monitor** を有効にします。詳細については、「プロセスアクティビティと詳細」を参照してください。

2. 完全なトレースをキャプチャするために、ユーザーに再度ログオンするよう依頼します。
3. ログオンが完了したら、別のログオン分析を実行します。
4. ログオン中のプロセス動作を表示するには、**プロセスアクティビティ**タブを開きます。
5. グループポリシーフェーズの時間範囲を選択し、高使用率フィルターを適用して、リソースを大量に消費するプロセスを特定します。



ステップ 3: 高使用率プロセスを特定する

1. 強調表示されたプロセスの中で、**MsMpEng.exe** (Microsoft Defender のマルウェア対策サービス実行可能ファイル) は、グループポリシーフェーズ中に持続的なファイル I/O アクティビティを示しました。
2. ポリシー実行中の Defender のリアルタイムファイルスキャンを確認するには、**プロセス詳細**ビューを開きます。

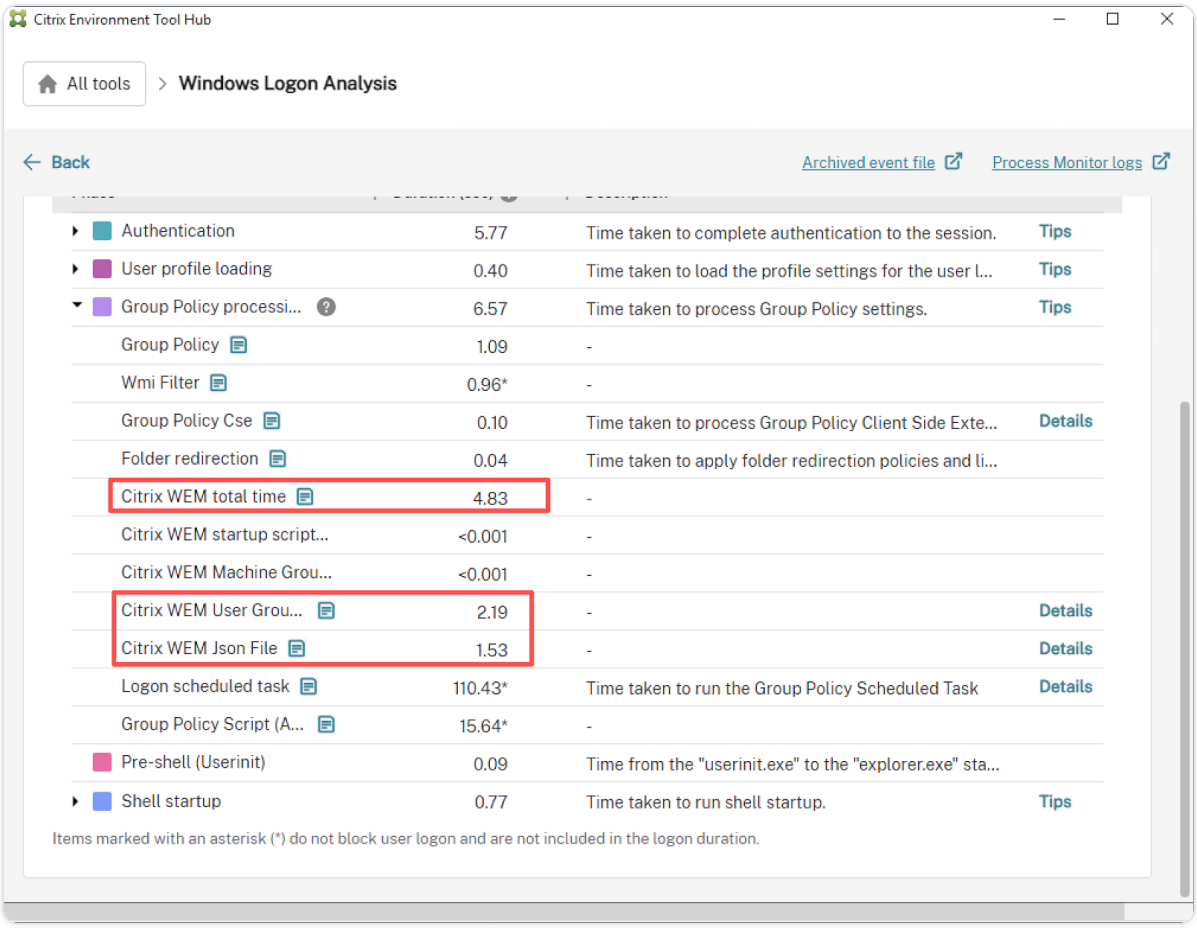


ステップ 4: 根本原因を確認し、修正を適用する

1. 詳細ログを確認して、どの WEM エージェントタスクが Defender スキャンをトリガーしたかを特定します。例を次に示します。

   - **Citrix WEM ユーザーグループポリシー** (2.19 秒)

- **Citrix WEM JsonFile 処理** (1.53 秒)



2. Defender スキャンの影響を確認するためにパフォーマンス監視を開始します。

   a. 監視を開始するには、`New-MpPerformanceRecording` を実行します。

   b. ユーザーに再度ログオンするよう依頼します。

   c. Defender のスキャン影響を要約するには、`Get-MpPerformanceReport` を実行します。

```
TopFiles
========

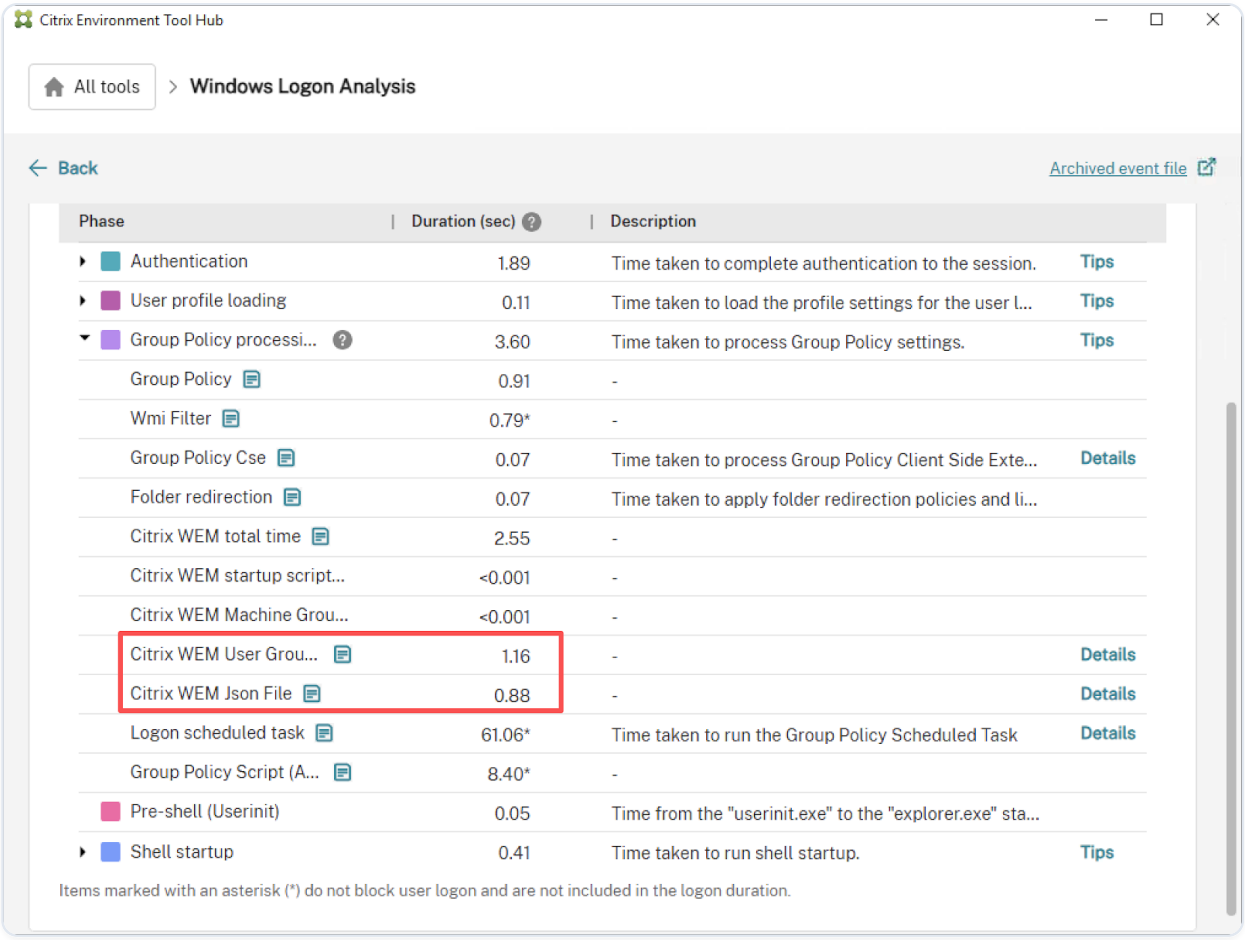
Count  TotalDuration  MinDuration AverageDuration  MaxDuration MedianDuration Path
-----  -------------  ----------- ---------------  ----------- -------------- ----
   82 1637338.7362ms    13.7993ms    19967.5455ms 57569.3476ms      22.8173ms C:\Users\haiyuguest\Citrix WEM Agent.log
   27  344586.4455ms    13.3417ms    12762.4609ms 43600.3609ms      19.6939ms C:\Users\haiyuguest\Citrix WEM Agent Init.log
    4  139208.6950ms    51.0779ms    34802.1737ms 48720.4008ms   45218.6081ms C:\Users\haiyuguest\AppData\Local\Google\DriveFS\Logs\structured_log_global
    3   99060.3755ms   160.6317ms    33020.1251ms 53473.2532ms   45426.4906ms C:\Users\haiyuguest\AppData\Local\Google\DriveFS\Logs\structured_log_1146473984797
                                                                              75674663
    2   98178.2592ms 45083.5392ms    49089.1296ms 53094.7200ms   49089.1296ms C:\Users\haiyuguest\AppData\Local\Google\DriveFS\1146473984797675674663\content_cac
                                                                              he\chunks.db-wal
    3   94429.7026ms     1.6199ms    31476.5675ms 53164.3954ms   41263.6873ms C:\Users\haiyuguest\AppData\Local\Google\DriveFS\1146473984797675674663\cello_metri
                                                                              cs_store_sqlite.db
    3   94398.8569ms     1.5105ms    31466.2856ms 53119.7230ms   41277.6234ms C:\Users\haiyuguest\AppData\Local\Google\DriveFS\1146473984797675674663\content_cac
                                                                              he\chunks.db
    2   93090.3705ms 42766.4924ms    46545.1852ms 50323.8781ms   46545.1852ms C:\Users\haiyuguest\AppData\Local\Google\DriveFS\1146473984797675674663\mirror_meta
                                                                              data_sqlite.db-shm
    3   92911.6756ms    25.2155ms    30970.5585ms 50310.7180ms   42575.7421ms C:\Users\haiyuguest\AppData\Local\Google\DriveFS\1146473984797675674663\metadata_sq
                                                                              lite_db-wal
    2   92262.1621ms 45812.5834ms    46131.0810ms 46449.5787ms   46131.0810ms C:\Users\haiyuguest\AppData\Local\Google\DriveFS\cef_cache\Session
                                                                              Storage\000003.log
```

   詳細については、New-MpPerformanceRecording および Get-MpPerformanceReport に関する次の Microsoft の記事を参照してください。

3. WEM エージェントが信頼できる Citrix コンポーネントであることを確認します。

4. WEM エージェントのプロセスとファイルパスに対して、Microsoft Defender に除外を追加します。

5. 除外を適用した後、ユーザーに再度ログオンするよう依頼します。
6. グループポリシーの期間が短縮され、全体的なログオンパフォーマンスが向上することを確認します。



概要

この例は、ユーザーレポートから分析、トレースキャプチャ、根本原因の特定、解決に至るまでの完全な診断ワークフローを示しています。

Process MonitorとCitrix Environment Tool Hubの統合により、隠れたボトルネックを特定し、ターゲットを絞った最適化を適用して、Citrix環境全体のユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

スクリプト化されたタスクを使用してWindowsアップデートを自動的に適用する

管理者として、管理するデバイスが多数あるかもしれません。それらのデバイスは、異なるドメインに存在し、異なるセキュリティレベルやWindows OSバージョンを持っている可能性がありま

す。潜在的なリスクを防ぐために、それらのデバイスをタイムリーに更新することは、面倒な作業になることがあります。この目標を達成するために、次のことを行うかもしれません。

- 更新に関連する情報を収集します。
- 収集した情報を比較し、更新が不足しているデバイスを特定します。
- 関連するデバイスに1つ以上の更新を1つずつ適用します。

Workspace Environment Management™ (WEM) は、デバイスへの更新適用タスクを簡素化するスクリプト化されたタスク機能を提供します。

2つのスクリプト化されたタスクを設定するだけです。一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 2つのスクリプトを準備し、ファイルを作成する
2. 2つのスクリプト化されたタスクを追加する
3. 2つのスクリプト化されたタスクを設定する
4. タスク実行レポートを表示する

2つのスクリプトを準備し、ファイルを作成する

1. 利用可能な更新を監視するスクリプトを準備します。

```
$List = Get-Content `\\hyenvwemserver\share\hotfix.list`

$Applied = Get-HotFix | Select-Object -ExpandProperty HotFixID

$ExitCode = 0

$List | ForEach-Object {

    if(-not ($Applied.Contains($_)))

    {

        Write-Host $_

        $ExitCode = 1

    }

}
```

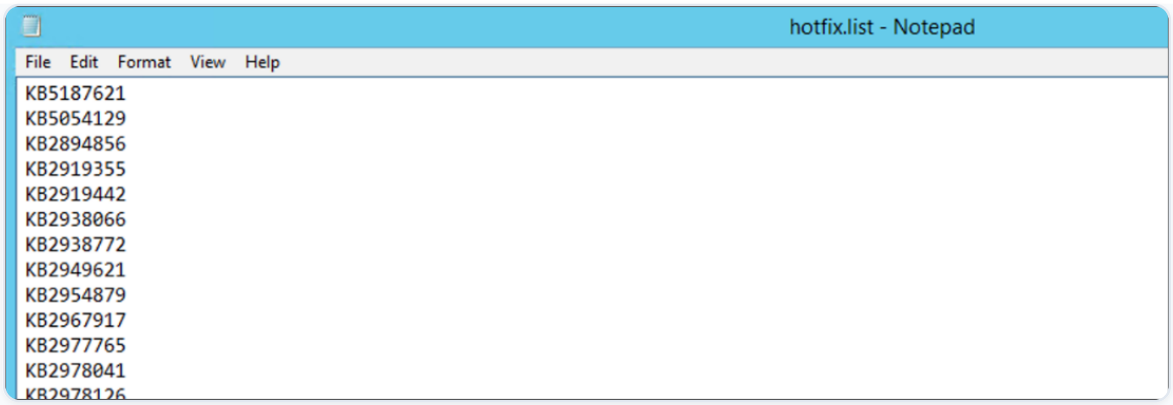
```
Exit $ExitCode
```

2. 更新を適用する別のスクリプトを準備します。

```
Param(
  [string]$consoleOutputPath
  )
$List = Get-Content $consoleOutputPath
$List | ForEach-Object {
  Write-host "Installing hotfix: $_"
  Get-WindowsUpdate -Install -KBArticleID $_
}
```

3. 更新のリストを含むファイルを作成します。

> **注:**
>
> このファイルをWEMエージェントがアクセスできる場所、たとえば共有パスに配置します: `\\hyenvwenserver\share\hotfix.list`。



2つのスクリプトタスクを追加する

以下の情報は、スクリプトタスクの追加のガイダンスを補足するものです。2つのスクリプトタスクを作成するには、その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細に注意してください。

Webコンソール > スクリプトタスクで、2つのスクリプトタスクを追加します。



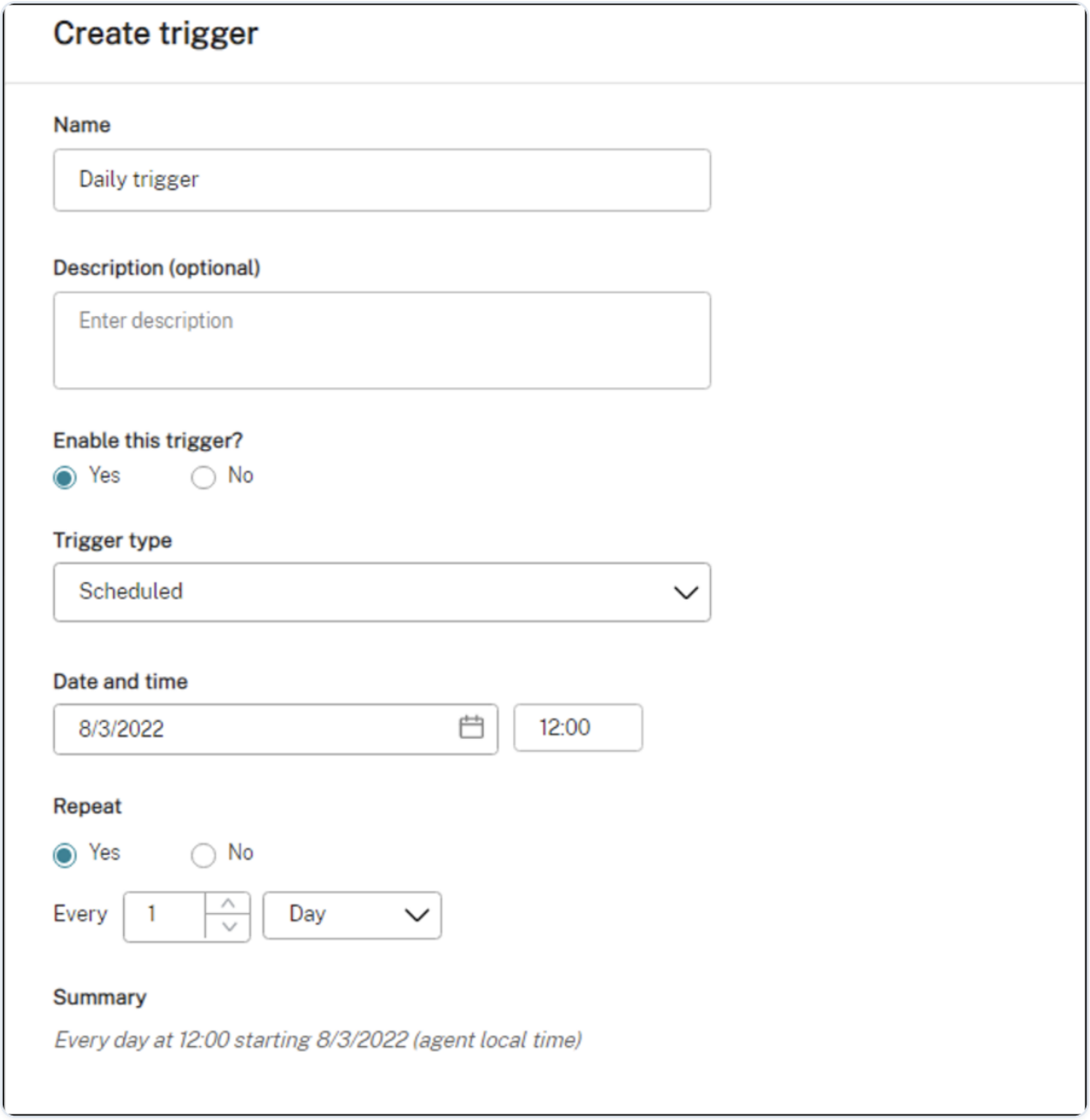
2つのスクリプトタスクを構成する

以下の情報は、スクリプトタスクの構成のガイダンスを補足するものです。2つのスクリプトタスクを構成するには、その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細に注意してください。

1. 関連する構成セットに移動し、**スクリプトタスク設定**に移動して、「更新の適用」タスクを構成します。

   この例では、タスクは次のように具体的に構成されています。

   a. タスクを有効にするには、**はい**を選択します。
   b. **タスクを実行する前に署名を検証する**のチェックを外します。
   c. **トリガー**で、次のように「スケジュール済み」トリガーを作成します。



2. 同じ構成セットで、「更新の監視」タスクを構成します。

   この例では、タスクは次のように具体的に構成されています。

   a. タスクを有効にするには、**はい**を選択します。
   b. **タスクを実行する前に署名を検証する**のチェックを外します。
   c. **トリガー**で、「カスタムスクリプトタスクの結果」トリガーを次のように作成します。

      トリガー2を作成(/en-us/workspace-environment-management/service/media/create-trigger-2.png)

タスク実行レポートを表示する

タスクが正常に実行された後、レポートを確認することで結果を表示できます。詳細については、レポートを参照してください。この例では、次のレポートが表示されます。

レポートの概要：

レポートの概要(/en-us/workspace-environment-management/service/media/report-summary.png)

「更新の適用」タスクのレポート詳細：

レポート詳細1(/en-us/workspace-environment-management/service/media/report-detail-1.png)

「更新の監視」タスクのレポート詳細：

レポート詳細2(/en-us/workspace-environment-management/service/media/report-detail-2.png)

WEM API と Windows PowerShell を使用して構成セットを自動的にバックアップする

Workspace Environment Management™ (WEM) 管理者として、設定が失われるのを防ぐために、構成セットを定期的にバックアップする必要がある場合があります。たとえば、12 時間ごとにバックアップをトリガーし、バックアップファイルをローカルで自動的に管理したい場合があります。WEM パブリック API と Windows PowerShell を使用すると、その目標を達成できます。

一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Citrix Cloud™ API クライアントを申請する
2. 構成セットをバックアップするための PowerShell スクリプトを作成する
3. スクリプトを実行するようにスケジュールされたタスクを構成する

前提条件

開始する前に、Citrix® お客様 ID と関連する API ベース URL を把握していることを確認してください。

Citrix Cloud にサインインし、 > に移動して、Citrix お客様 ID を見つけます。

Citrix お客様 ID(/en-us/workspace-environment-management/service/media/customerid.jpg)

Citrix Auth API ベース URL と WEM API ベース URL を含む API ベース URL は、接続している Citrix Cloud のリージョンに関連しています。リージョンは、Citrix Cloud にオンボーディングするときに決定されます。 でリージョンを照会することもできます。

リージョン(/en-us/workspace-environment-management/service/media/region.jpg)

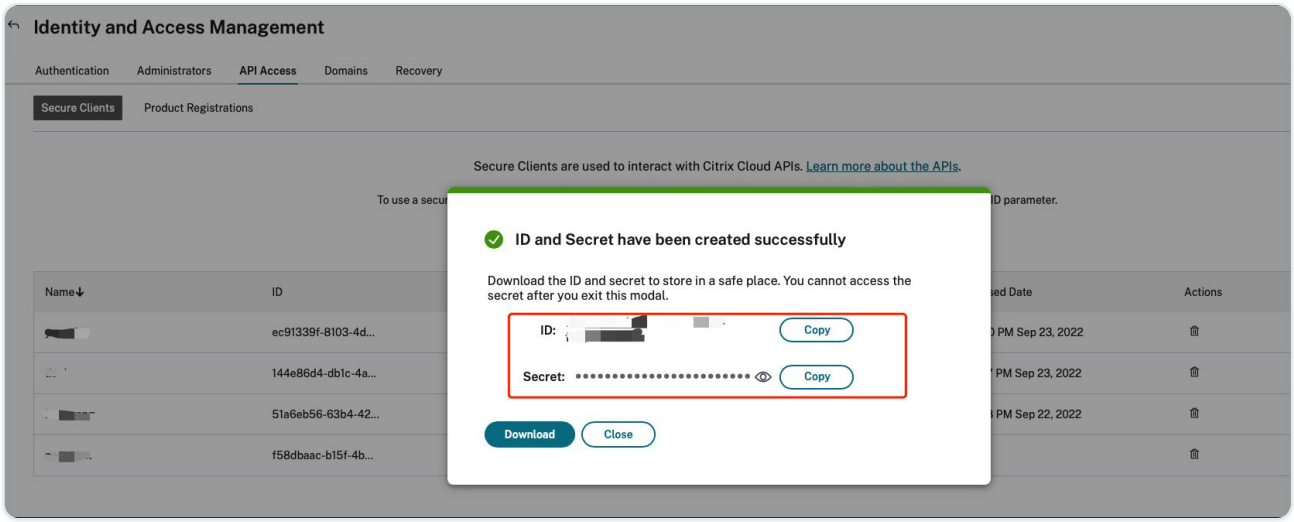
API ベース URL は、次の表を確認することで見つけることができます。

リージョン	CITRIX AUTH API ベース URL	WEM API ベース URL
米国 (US)	api-us.cloud.com	api.wem.cloud.com
欧州連合 (EU)	api-eu.cloud.com	eu-api.wem.cloud.com
アジア太平洋南部 (AP-S)	api-ap-s.cloud.com	aps-api.wem.cloud.com
日本 (JP)	api.citrixcloud.jp	jp-api.wem.citrixcloud.jp

APIベースURLの詳細については、「Citrix Cloud APIの使用を開始する」および「WEM APIの概要」を参照してください。

Citrix Cloud APIクライアントを申請する

IDおよびアクセス管理 > APIアクセスに移動します。セキュアクライアントの名前を入力し、**クライアントの作成**をクリックして、セキュアクライアントIDとクライアントシークレットをローカルに保存します。



構成セットをバックアップするためのPowerShellスクリプトを作成する

以下のPowerShellスクリプトを使用し、`Invoke-WEMConfigSetBackupAPI.ps1`として保存します。スクリプトの冒頭にある変数を必ず置き換えてください。

```
# replace the variables before running the script


$CitrixCustomerId = 'your-citrix-customer-id'

$CitrixAuthAPIBaseURL = 'api-us.cloud.com'

$CitrixWEMAPIBaseURL = 'api.wem.cloud.com'

$ClientId = 'your-api-client-id'

$ClientSecret = 'your-api-client-secret'


$ConfigSetsToBackUp = @('Default Site', 'MyConfigSet') # leave it empty if
you want to back up all configuration sets

$FolderToSaveBackup = 'C:\ProgramData'


# get bearer token


$ErrorActionPreference = 'Stop'


$URL = "https://${CitrixAuthAPIBaseURL}/cctrustoauth2/${CitrixCustomerId}/
tokens/clients"

$Body = "grant_type=client_credentials&client_id=${ClientId}
&client_secret=${ClientSecret}"

$Response = Invoke-RestMethod -Method 'Post' -Uri $URL -Body $Body
-ContentType 'application/x-www-form-urlencoded'
```

```
$BearerToken = $Response.access_token



if ([string]::IsNullOrEmpty($BearerToken))

{

    throw 'Cannot retrieve bearer token.'

}



Write-Host "Retrieved bearer token successfully."



# back up WEM configuration sets



if (-not (Test-Path -Path $FolderToSaveBackup -PathType 'Container'))

{

    throw 'The folder to save backup not exists.'

}



$Headers = @{

    'Citrix-CustomerId' = $CitrixCustomerId

    'Accept' = 'application/json'

    'Authorization' = "CWSAUTH bearer=${BearerToken}"

}
```

```
if ($ConfigSetsToBackUp.Count -eq 0 -or $ConfigSetsToBackUp -eq $null)

{

    $URL = "https://${CitrixWEMAPIBaseURL}/services/wem/sites"

    $Response = Invoke-RestMethod -Method 'Get' -Uri $URL -Headers
$Headers

    $ConfigSetsToBackUp = $Response.items |% { $_.name }

}



$ConfigSetsToBackUp | ForEach-Object {

    Write-Host "Backing up configuration set ""$_"""

    $URL = "https://${CitrixWEMAPIBaseURL}/services/wem/sites/%24export?
name=$_"

    Write-Host "GET $URL"

    $Response = Invoke-RestMethod -Method 'Get' -Uri $URL -Headers
$Headers

    $Timestamp = Get-Date -Format "yyyyMMddHHmmss"

    $Response | ConvertTo-Json -Depth 10 | Out-File (Join-Path
$FolderToSaveBackup "${_}-${Timestamp}.json")

}
```

ベアラートークンの詳細については、Citrix Cloud API の概要を参照してください。

WEM API を使用した構成セットのバックアップの詳細については、WEM 構成セット API のエクスポートを参照してください。

注:

各ベアラートークンは1時間後に期限切れになります。Citrix Cloud 認証 API および WEM API の頻繁な呼び出しを避けるため、ベアラートークンをキャッシュし、バックアップ期間が1時間未満の場合は再利用してください。

エラー **504 Gateway Time-out** が発生した場合、構成セットが大きすぎて、バックアップ時間が1分間の API タイムアウトを超えている可能性があります。このような場合は、代わりに以下の PowerShell スクリプトを使用してみてください。このスクリプトは現在公開されていない API を使用しており、これらの API は将来変更される可能性があることに注意してください。

```
# replace the variables before running the script

$CitrixCustomerId = 'your-citrix-customer-id'
$CitrixAuthAPIBaseURL = 'api-us.cloud.com'
$CitrixWEMAPIBaseURL = 'api.wem.cloud.com'
$ClientId = 'your-api-client-id'
$ClientSecret = 'your-api-client-secret'

$ConfigSetsToBackUp = @('Default Site', 'MyConfigSet') # leave it empty if you want to back up all configuration sets
$FolderToSaveBackup = 'C:\ProgramData'

# get bearer token

$ErrorActionPreference = 'Stop'
```

```
$URL = "https://${CitrixAuthAPIBaseURL}/cctrustoauth2/${CitrixCustomerId}/
tokens/clients"

$Body = "grant_type=client_credentials&client_id=${ClientId}
&client_secret=${ClientSecret}"

$Response = Invoke-RestMethod -Method 'Post' -Uri $URL -Body $Body
-ContentType 'application/x-www-form-urlencoded'



$BearerToken = $Response.access_token



if ([string]::IsNullOrEmpty($BearerToken))

{

    throw 'Cannot retrieve bearer token.'

}



Write-Host "Retrieved bearer token successfully."



# back up WEM configuration sets



if (-not (Test-Path -Path $FolderToSaveBackup -PathType 'Container'))

{

    throw 'The folder to save backup not exists.'

}
```

```
$Headers = @{

    'Citrix-CustomerId' = $CitrixCustomerId

    'Accept' = 'application/json'

    'Authorization' = "CWSAUTH bearer=${BearerToken}"

}



$URL = "https://${CitrixWEMAPIBaseURL}/services/wem/sites"

$Response = Invoke-RestMethod -Method 'Get' -Uri $URL -Headers $Headers

$Sites = $Response.items



if ($ConfigSetsToBackUp -ne $null -and $ConfigSetsToBackUp.Count -gt 0)

{

    $Sites = $Sites | Where-Object { $_.name -in $ConfigSetsToBackUp }

}



$Sites | ForEach-Object {

    $Name = $_.name

    Write-Host "Backing up configuration set `"$Name`""

    $URL = "https://${CitrixWEMAPIBaseURL}/services/wem/export/site?
async=true"

    $FolderName = "BACKUPFOLDER-" + [Guid]::NewGuid().ToString()

    $Body = @{
```

```
        folderName = $FolderName

        id = $_.id

        name = $_.name

        type = 'Configuration set'

    } | ConvertTo-Json

    $Response = Invoke-RestMethod -Method 'Post' -Uri $URL -Headers
$Headers -Body $Body -ContentType 'application/json; charset=utf-8'



    Write-Host "Waiting for the backup job to complete..."

    $URL = "https://${CitrixWEMAPIBaseURL}/services/wem/export/site/
recentJobs"

    do

    {

        Start-Sleep -Seconds 5

        $Response = Invoke-RestMethod -Method 'Get' -Uri $URL -Headers
$Headers

        $BackupJob = $Response.backup[0]

        $IsOnGoing = $BackupJob.id -eq $_.id -and $BackupJob.status -eq
'Running'

    } while ($IsOnGoing)



    $URL = "https://${CitrixWEMAPIBaseURL}/services/wem/export/site/
contentView?name=${FolderName}"

    $Response = Invoke-RestMethod -Method 'Get' -Uri $URL -Headers
$Headers
```

```
    $Timestamp = Get-Date -Format "yyyyMMddHHmmss"

    $Response | ConvertTo-Json -Depth 10 | Out-File (Join-Path
$FolderToSaveBackup "${Name}-${Timestamp}.json") -Encoding utf8



    $URL = "https://${CitrixWEMAPIBaseURL}/services/wem/export?
prefix=site%2F${FolderName}%2F"

    $Response = Invoke-RestMethod -Method 'Delete' -Uri $URL -Headers
$Headers

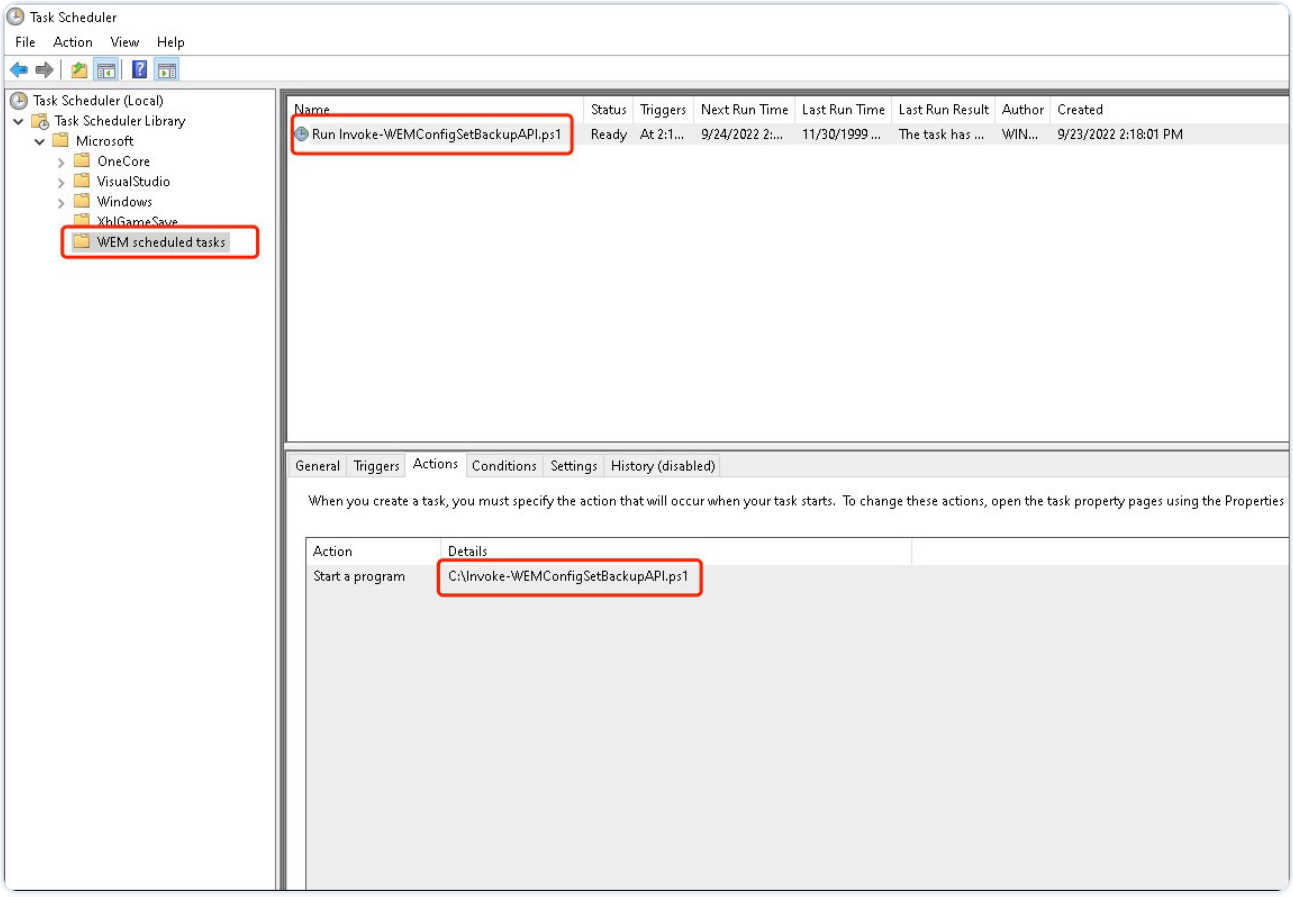
}
```

スクリプトを実行するようにスケジュールされたタスクを構成する

Citrix Cloud にアクセスできるマシンで、**Windows のスタート**メニューから `Task Scheduler` を起動するか、**Windows** コマンドプロンプトから `taskschd.msc` を起動します。

`WEM scheduled task` という名前のフォルダを作成できます。

そのフォルダ内に、`launch Invoke-WEMConfigSetBackupAPI.ps1` という名前のタスクを作成します。新しいトリガー *12時間ごとに1日間繰り返す* を追加し、スクリプト `Invoke-WEMConfigSetBackupAPI.ps1` を開始する新しいアクションを追加します。



ファイルの種類のアソシエーションを構成する

ファイルの種類のアソシエーション (FTA) の構成は、かつては簡単な作業でした。管理者であれば、スクリプトを使用してそれを実現できました。しかし、Windows 8 以降、FTA の検証にハッシュが導入されたため、FTA の構成は管理者にとって厄介なものになりました。

Workspace Environment Management (WEM) を使用して、特定のユーザーまたはユーザーグループの FTA をカスタマイズできます。たとえば、URL タイプ (HTTP および HTTPS) とファイルタイプ (*.htm および *.html) を Google Chrome に関連付けて、デフォルトのブラウザにすることができます。

構成プロセスには、次の手順が含まれます。

1. FTA アクションを作成する
2. FTA アクションをターゲットユーザーまたはユーザーグループに割り当てる

前提条件

開始する前に、次の操作を行います。

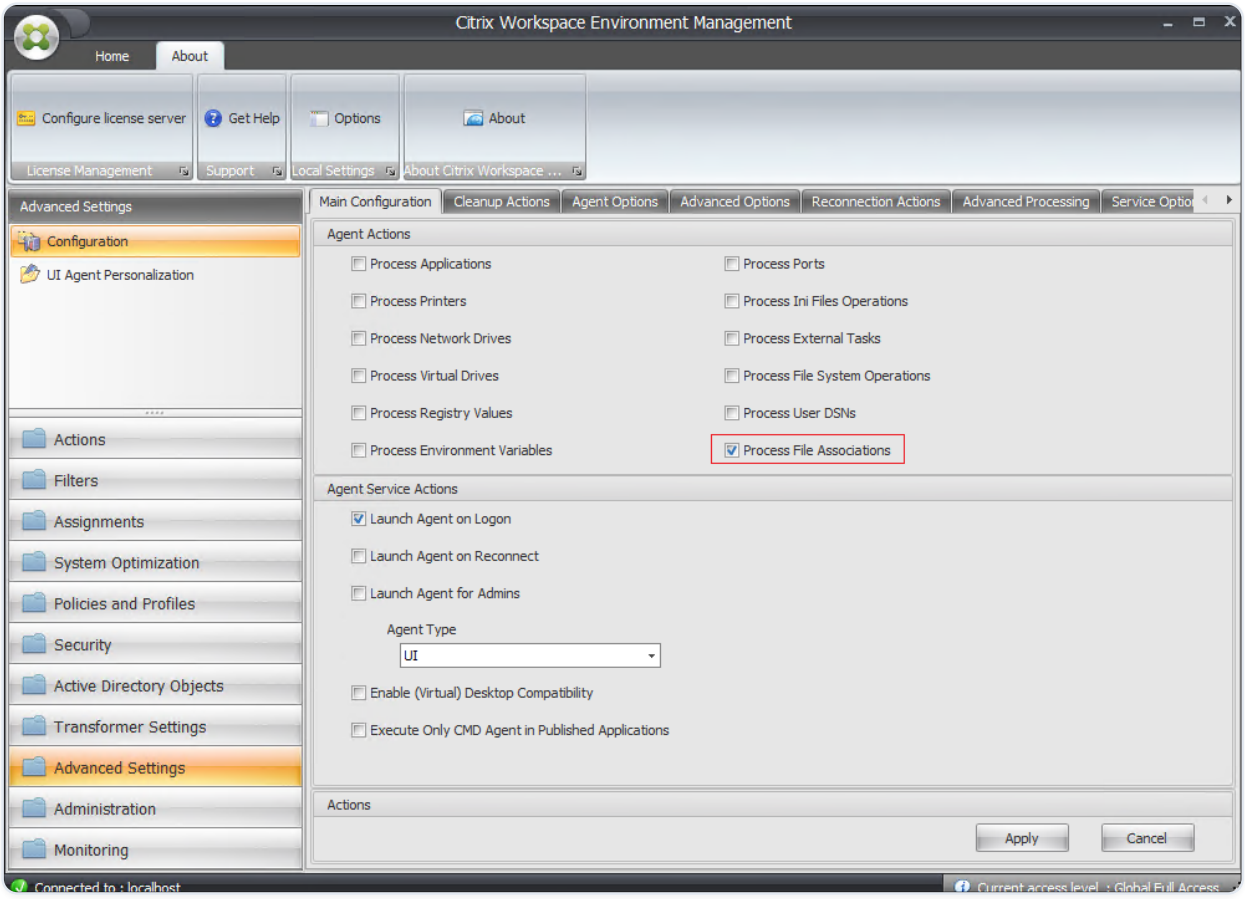
- エージェントマシンに Google Chrome がインストールされていることを確認します。

- Google Chrome の ProgID を取得します。

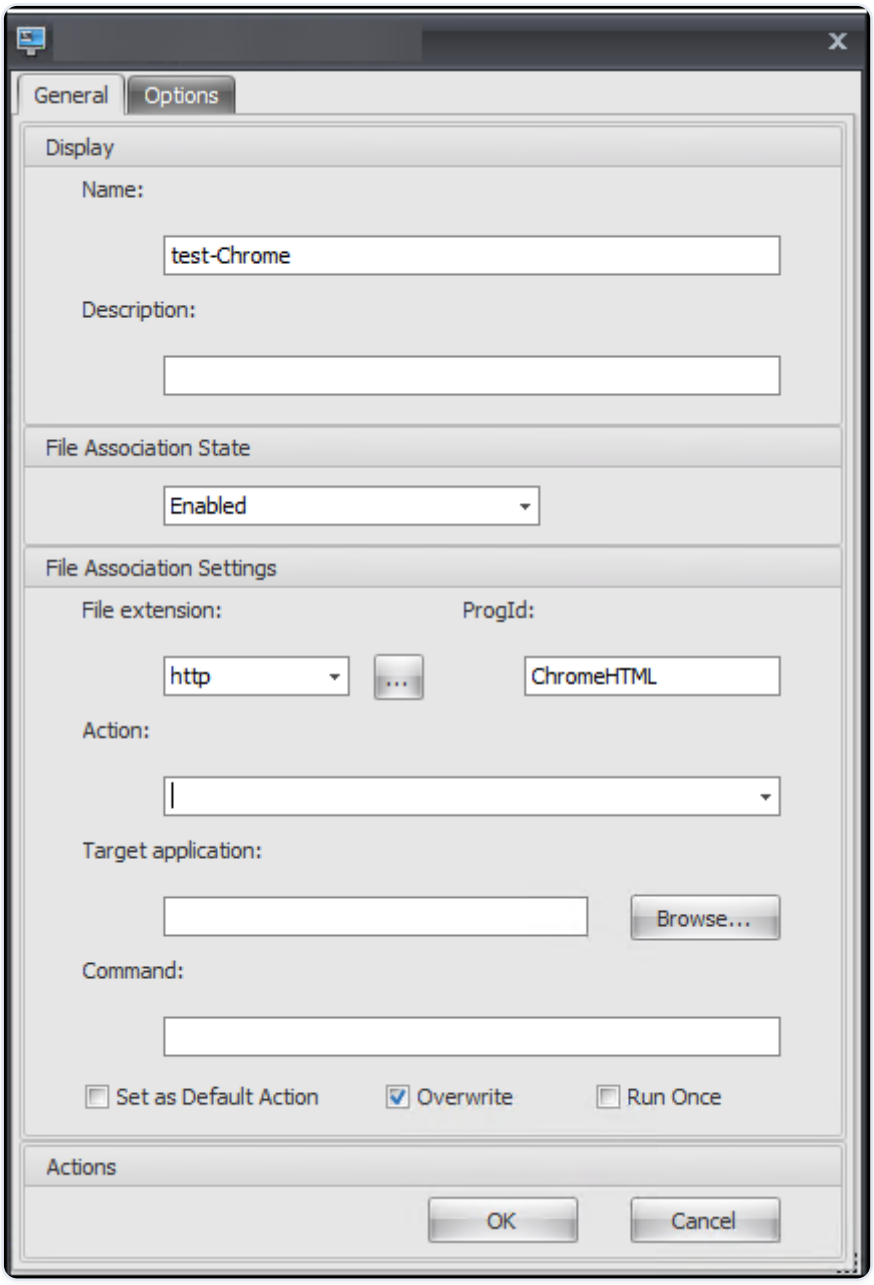
  Google Chrome の ProgID は `ChromeHTML` です。インストールされているアプリケーションの ProgID を検出するには、OLE/COM オブジェクトビューア (oleview.exe) を使用し、 で探します。ProgID の詳細については、「プログラム識別子 (ProgID)」を参照してください。

FTA アクションを作成する

1. **レガシーコンソール** > **詳細設定 > 構成 > メイン構成** に移動し、**ファイル関連付けの処理** を有効にします。



2. **Legacy Console > Actions > File Associations > File Association List** に移動し、**Add** をクリックします。
3. **New File Association** ウィンドウで、次のように情報を入力し、**OK** をクリックします。



注:

この例では、正しいProgID `ChromeHTML` が提供されているため、以下の3つのフィールド（**アクション**、**ターゲットアプリケーション**、**コマンド**）に入力する必要はありません。ただし、インストールされているアプリケーションのProgIDを提供できない場合、またはインストール時にアプリケーションがProgIDを登録しない場合は、これら3つのフィールドに入力する必要があります。詳細については、「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/actions/file-associations.html)を参照してください。

ターゲットグループにFTAアクションを割り当てる

1. **レガシーコンソール > 割り当て > アクションの割り当て**に移動し、アクションを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。
2. **レガシーコンソール > 管理 > エージェント > 統計**に移動し、**更新**をクリックします。
3. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューから**Workspace Agent(s)の更新**を選択します。

WEMでのFTA構成の詳細については、「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/actions/file-associations.html)を参照してください。

WEM GPO を使用して FSLogix プロファイルコンテナを構成する

Workspace Environment Management™ (WEM) を使用すると、ドメインコントローラーにログオンすることなく FSLogix プロファイルコンテナ設定を構成できます。管理用テンプレート (.admx) を WEM にアップロードした後、通常ドメインコントローラーで行うのと同じように WEM でポリシーを構成できます。その後、ポリシーを目的の割り当てターゲットに割り当てます。正確な制御のために、事前定義されたフィルターを使用して割り当てをコンテキスト化することもできます。

WEM GPO を使用して FSLogix 設定を構成する一般的なワークフローは次のとおりです。

1. FSLogix 関連の管理用テンプレート (.admx) を WEM にアップロードします。
2. FSLogix を構成する GPO を作成し、GPO で対応する設定を有効にします。
3. GPO を目的の割り当てターゲットに割り当てます。

前提条件

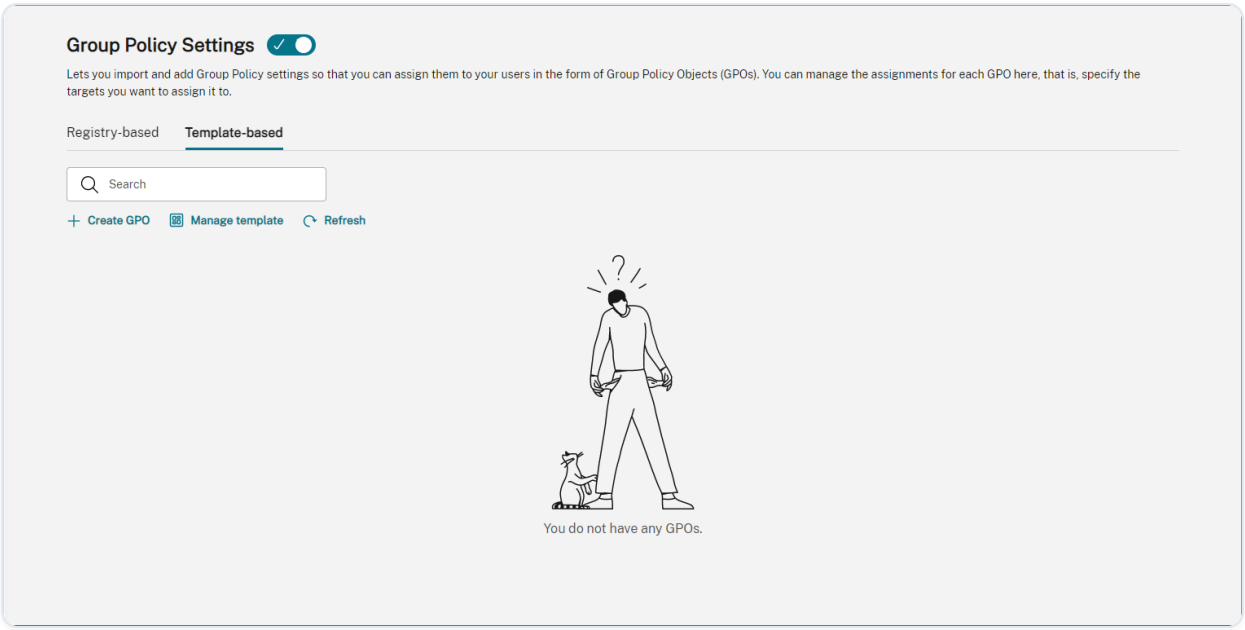
開始する前に、次の操作を行います。

- エージェントマシンに FSLogix をインストールします。
- 「fslogix.admx」ファイルと「fslogix.adml」ファイル（FSLogix のインストールパッケージで利用可能）を、たとえば `fslogix.zip` のように、zip ファイルにバンドルします。

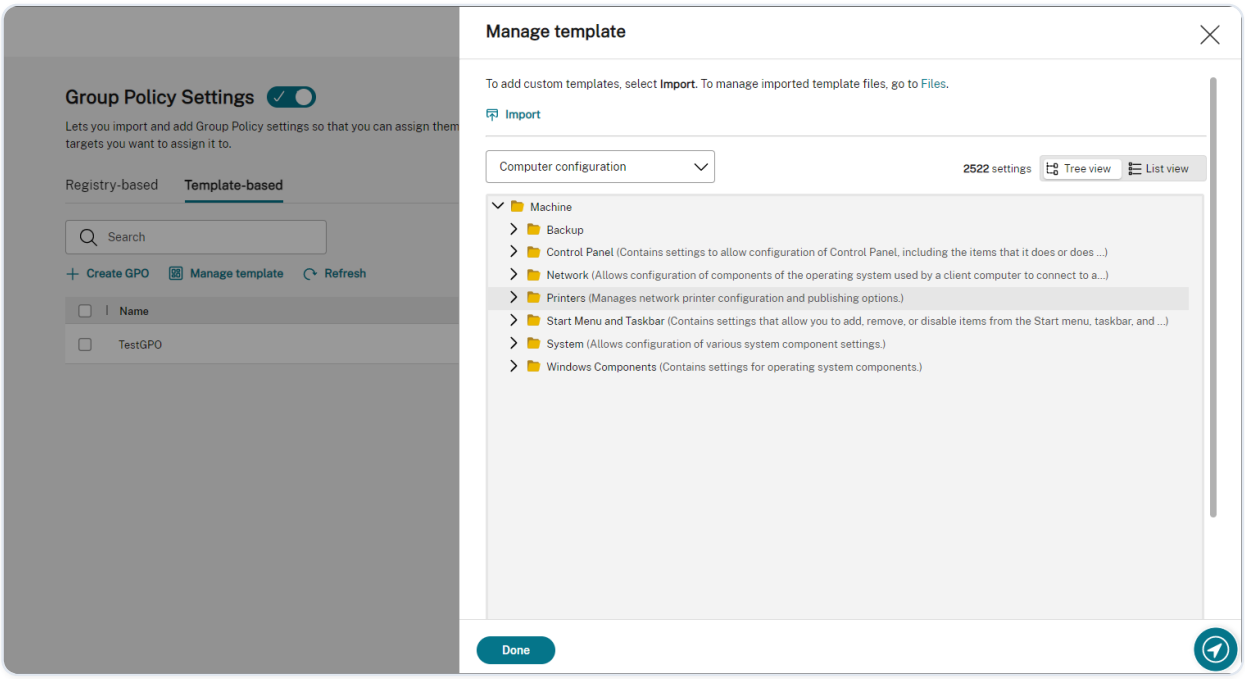
zip ファイルをインポートする

WEM は、テンプレートベースおよびレジストリベースの GPO の作成をサポートしています。FSLogix 用のテンプレートベースの GPO を作成するには、次のように zip ファイルをアップロードします。

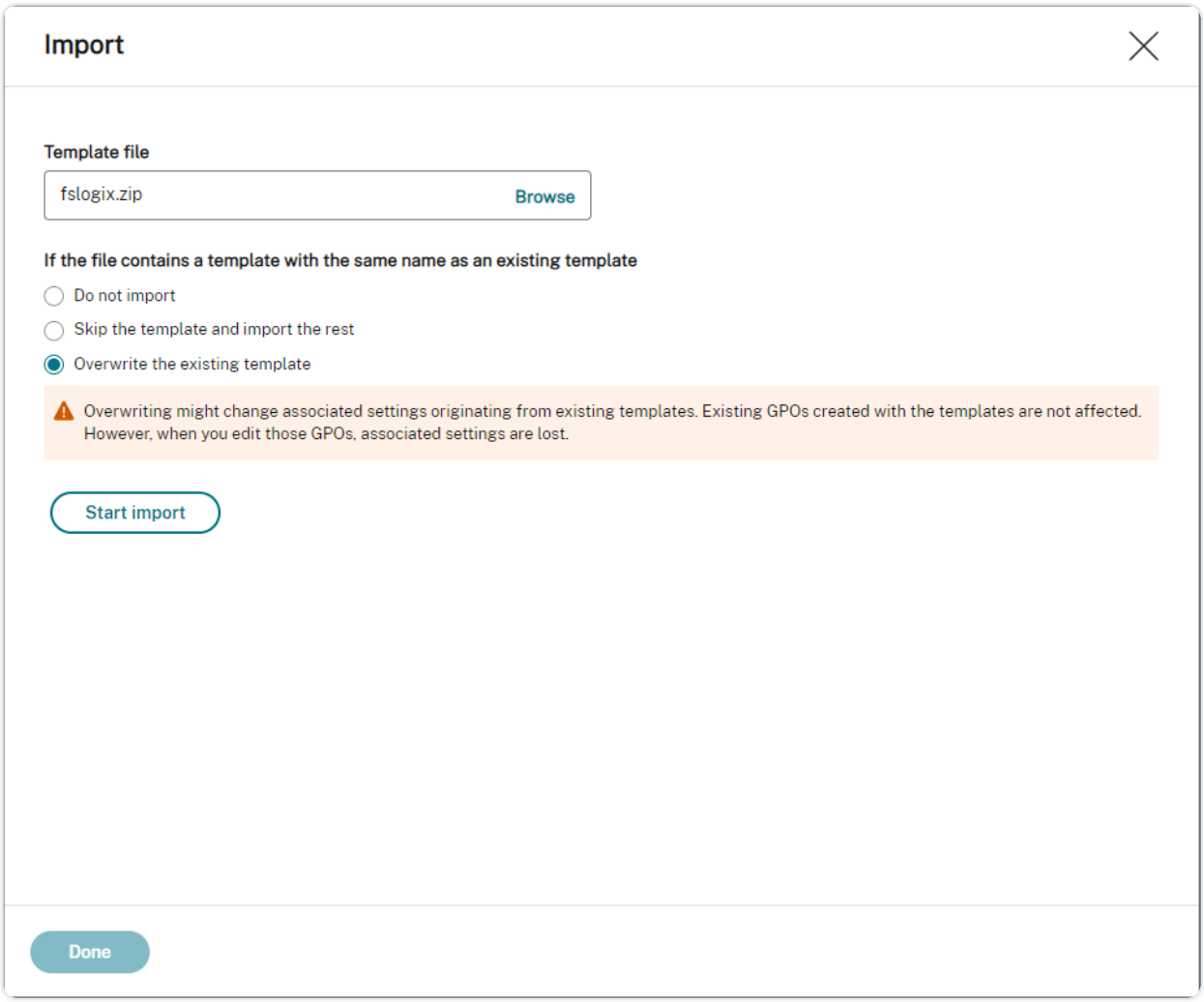
1. **グループポリシー設定**を有効にします。



2. **テンプレートベース**タブで、**テンプレートの管理**をクリックします。**テンプレートの管理**ウィザードが表示されます。



3. zipファイルを参照し、**インポートの開始**をクリックします。

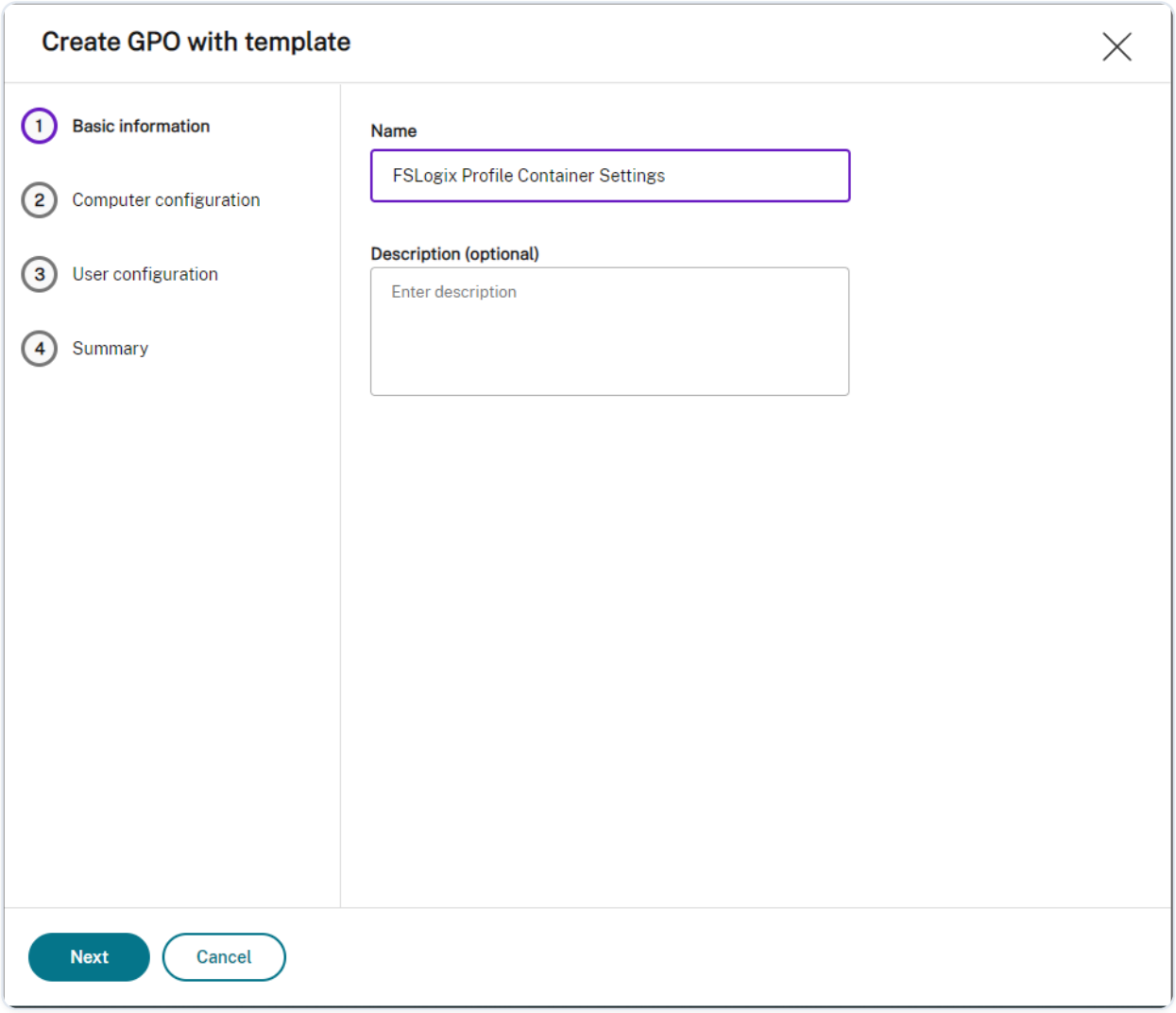


GPOの作成と編集

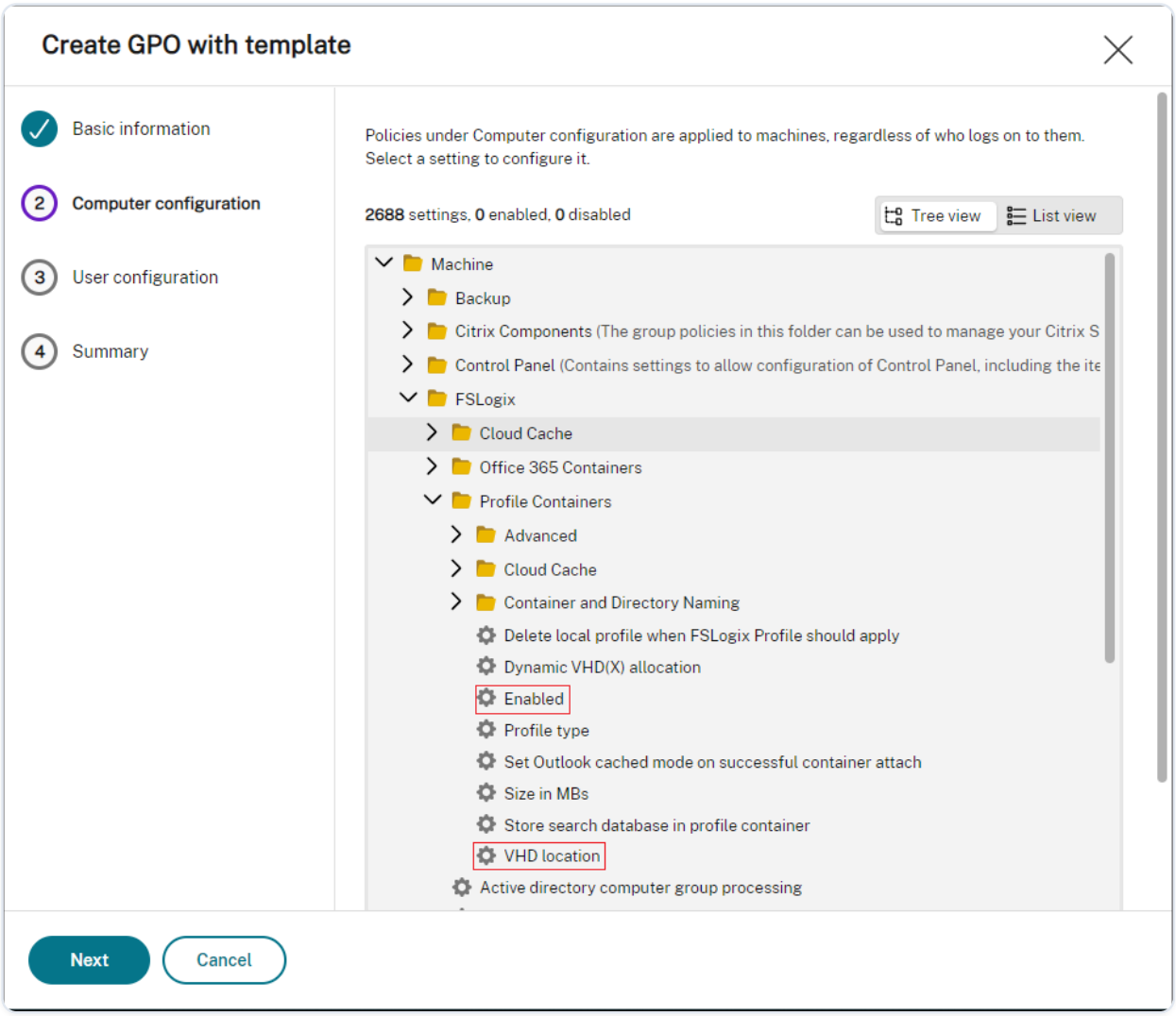
テンプレートベースのGPOの場合、マシンレベルとユーザーレベルの両方の設定を構成できます。この例では、ユーザーレベルの設定を構成する必要はありません。

次の手順を実行します。

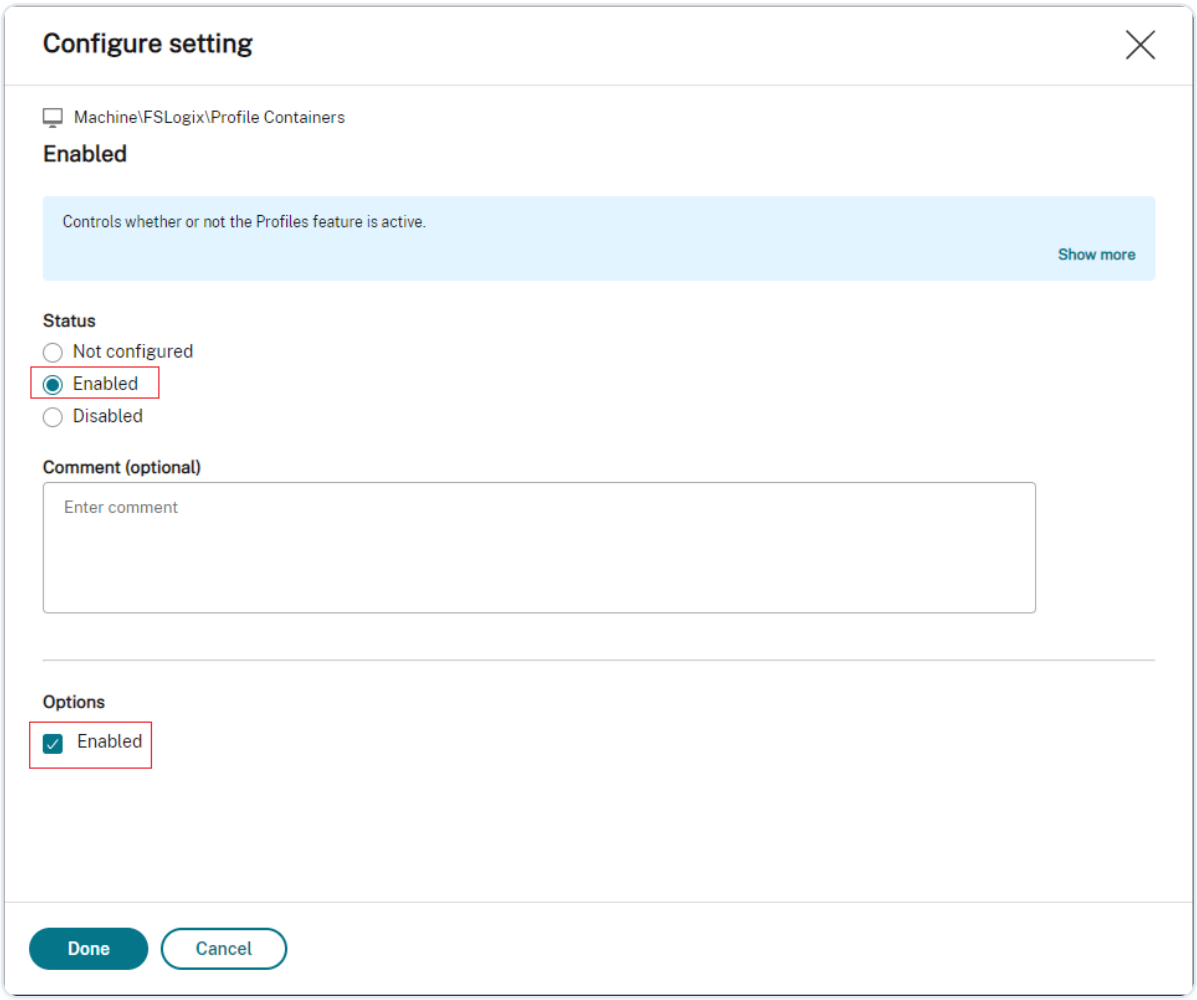
1. **テンプレートベース**タブで、**GPOの作成**をクリックします。**テンプレートを使用してGPOを作成**ウィザードが表示されます。
2. **基本情報**で、必要な情報を入力します。



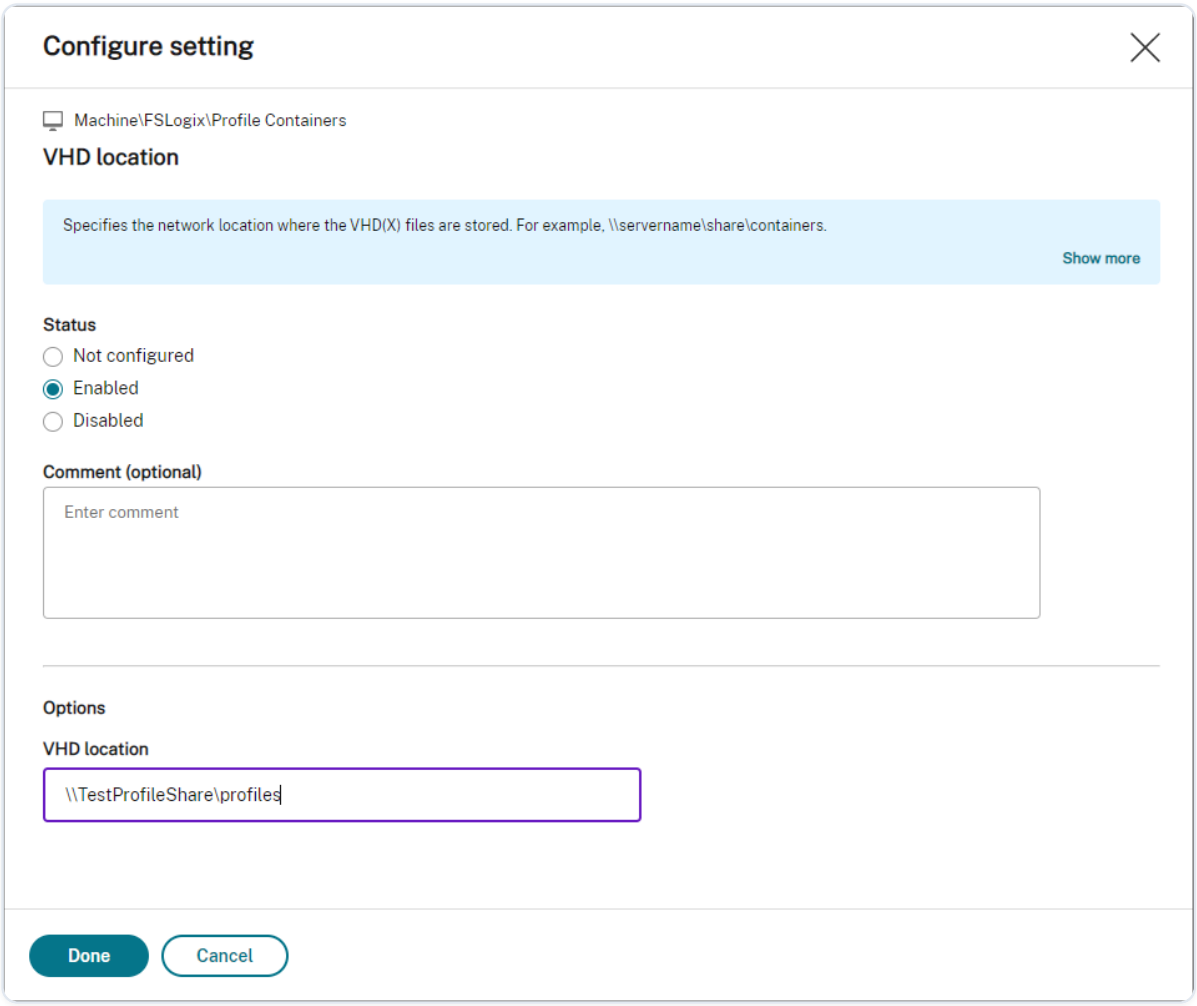
3. **コンピューターの構成**で、**マシン > FSLogix > プロファイルコンテナー > コンテナーとディレクトリの命名**に移動し、次の2つの設定を構成します。



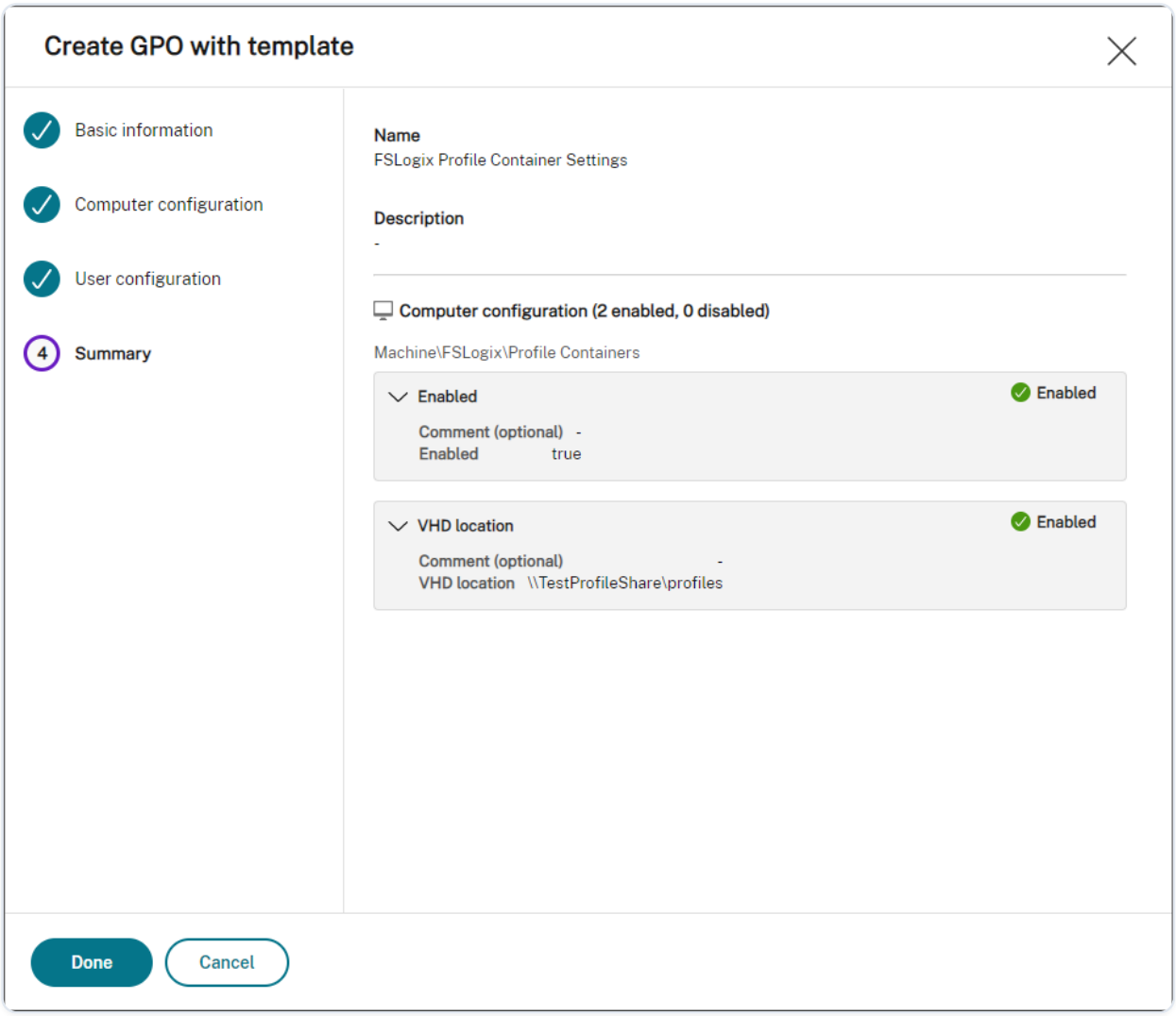
- **有効**。設定を選択し、**ステータス**を**有効**に設定し、**オプション**を**有効**に設定します。



- **VHDの場所**。設定を選択し、**ステータス**を**有効**に設定し、VHDへのパスを入力します。



4. **概要**で、設定が意図したとおりに構成されていることを確認し、**完了**をクリックします。



GPOを割り当てる

GPOを作成した後、目的の割り当てターゲットに割り当てることができます。他のアクションを割り当てるのと同様に、GPOを異なるADグループに割り当てることができます。グループにはユーザーとマシンを含めることができます。関連するマシンがグループに属している場合、マシンレベルの設定が有効になります。現在のユーザーがグループに属している場合、ユーザーレベルの設定が有効になります。

この例では、GPOは「Everyone」グループに割り当てられ、デフォルトの「Always True」フィルターが適用されています。

割り当ての管理(/en-us/workspace-environment-management/service/media/manage-assignments.png)

GPOを割り当てた後、ターゲットエージェントマシンに移動して、ポリシーが有効になっていることを確認します。

スクリプト化されたタスクと外部タスクを使用してMSIXアプリのアタッチを構成する

Workspace Environment Management (WEM) を使用すると、Citrix DaaS (旧称 Citrix Virtual Apps and Desktops™ サービス) および Citrix Virtual Apps and Desktops 環境、ならびに物理ワークステーションで利用するために MSIX アプリのアタッチを設定できます。ユーザーにシームレスな MSIX アプリのアタッチベースのアプリケーションエクスペリエンスを提供するために、Profile Management を使用して MSIX アプリのアタッチデータをローミングできます。

セットアッププロセスには、次の手順が含まれます。

- スクリプト化されたタスクを作成する
- 外部タスクを作成する
- Profile Management を構成する

前提条件

開始する前に、次のことを行う必要があります。

- Citrix DaaS または Citrix Virtual Apps and Desktops がアクセスできるファイル共有に、MSIX アプリのアタッチコンテナ (VHDX ファイル) を配置します。MSIX アプリケーションを含む VHDX ファイルを準備するには、MSIX packaging tool と MSIXMGR tool を使用します。
- MSIX アプリのアタッチ用の PowerShell スクリプトを準備する。これらのスクリプトは、MSIX アプリのアタッチの起動時、シャットダウン時、サインイン時、サインアウト時に実行される次の4つの異なるフェーズ (ステージ、デステージ、登録、登録解除) をカバーします。

スクリプト化されたタスクを作成する

スクリプト化されたタスクを使用して、MSIX アプリケーションのマウント、ステージング、デステージング、アンマウントなどの機能を実装します。また、マシンの起動時とシャットダウン時に、起動トリガーとシャットダウントリガーとともにスクリプト化されたタスク機能を使用して、同じ一連の機能を実行することもできます。

次の情報は、スクリプト化されたタスクの起動トリガーとシャットダウントリガーを構成する のガイダンスを補足するものです。

スクリプト化されたタスクを作成するには、その記事の一般的なガイダンスに従い、MSIX アプリのアタッチシナリオに固有の詳細に注意してください。

Web コンソールの **Web Console > Scripted Tasks** で、次の2つのタスクを追加します。

- マシン起動時に MSIX VHD ファイルをマウントし、MSIX アプリパッケージをステージングするタスク。

Add scripted task

Task name

mount and stage

Description

Enter description

Tags

Select or enter tags separated by commas

File type

PowerShell

Upload file

mount_stage.ps1 Browse

Grant permissions

Full access

Working folder

Example: C:\Program Files\Tasks\

Does this task generate output files?

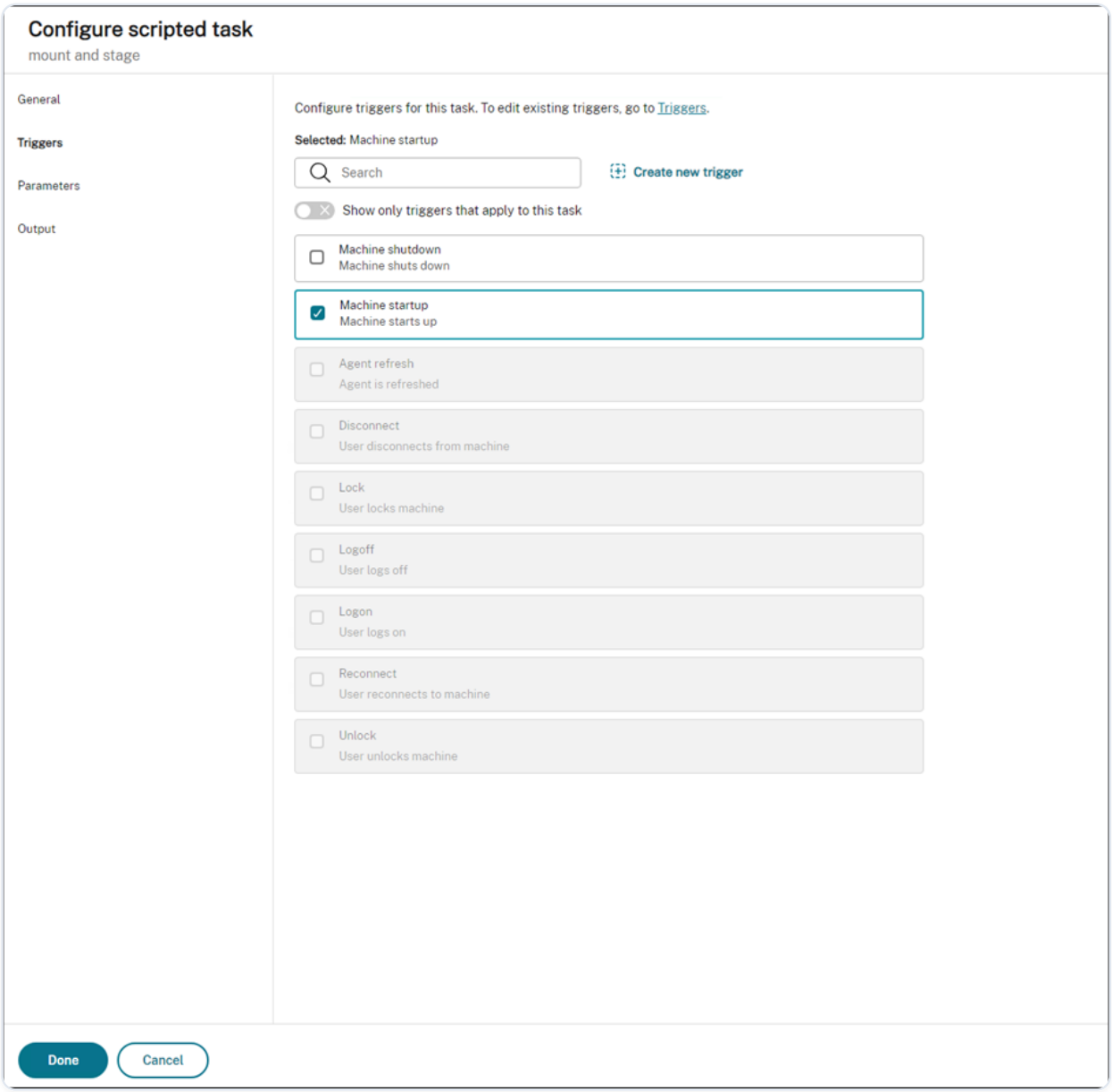
○ Yes ◉ No

Output path

Example: output\report.txt

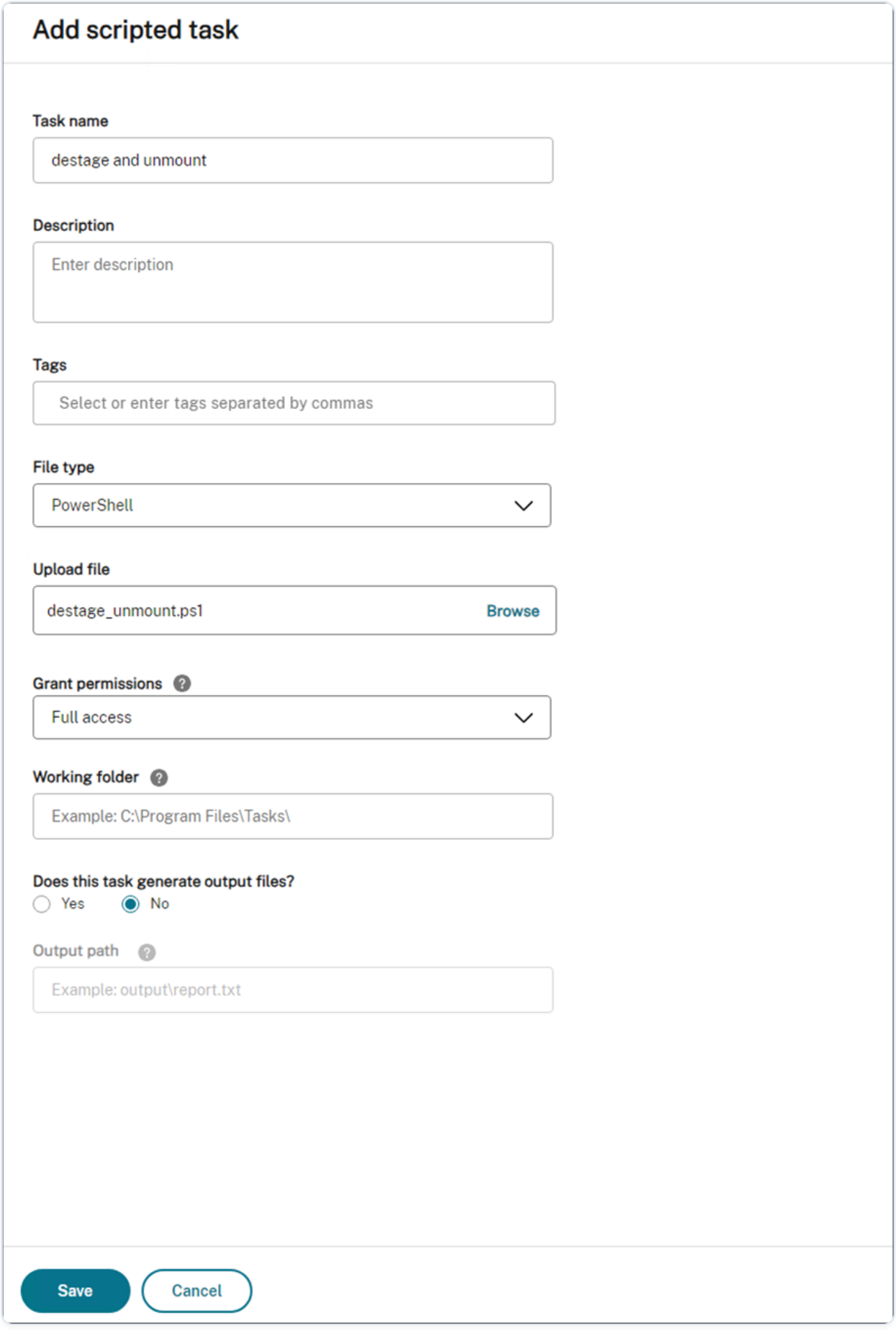
詳細については、スクリプトタスクの追加を参照してください。

- マシンの起動中に、このスクリプトタスクのトリガーを構成します。



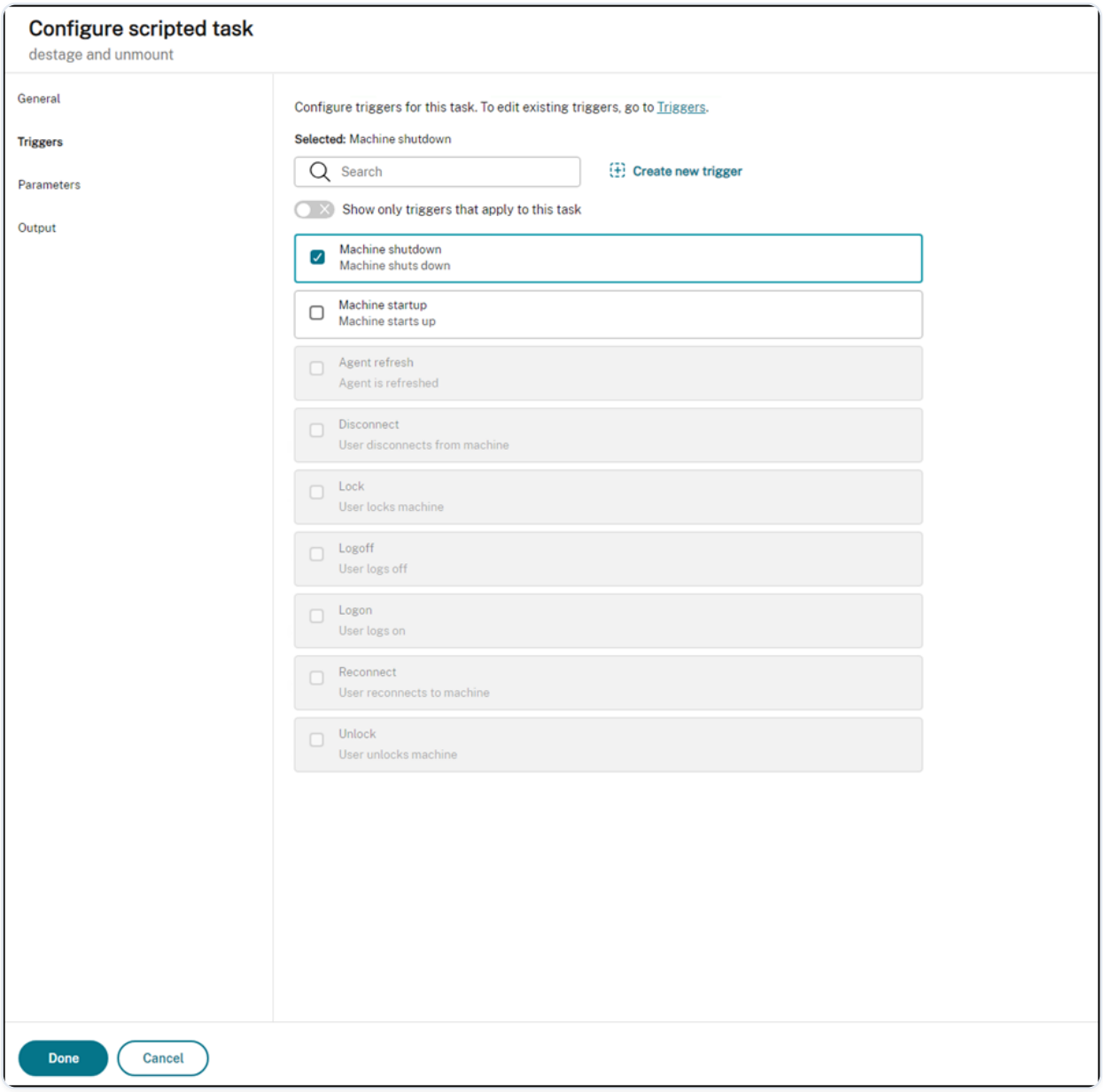
詳細については、スクリプトタスクへの起動およびシャットダウントリガーの関連付けを参照してください。

- マシンのシャットダウン中にMSIX VHDファイルを削除し、MSIXアプリパッケージをデステージするタスク。



詳細については、スクリプトタスクの追加を参照してください。

- マシンのシャットダウン中に、このスクリプトタスクのトリガーを構成します。



詳細については、スクリプトタスクへの起動およびシャットダウントリガーの関連付けを参照してください。

外部タスクの作成

外部タスクを使用して、MSIXアプリケーションの登録や登録解除などの機能を実装します。

以下の情報は、外部タスクのガイダンスを補足するものです。

外部タスクを作成するには、その記事の一般的なガイダンスに従い、MSIXアプリのアタッチシナリオに固有の詳細に注意してください。

レガシーコンソールの**アクション > 外部タスク**で、次の2つのタスクを追加します。

- エンドユーザーがログオンしたときに、MSIXアプリケーションをデスクトップセッションに登録するタスク。

  MSIXを登録するタスク(/en-us/workspace-environment-management/service/media/register-msix.png)
- エンドユーザーがログオフしたときに、MSIXアプリケーションをデスクトップセッションから登録解除するタスク。

  MSIXの登録を解除するタスク(/en-us/workspace-environment-management/service/media/deregister-msix.png)

その後、MSIXアプリのアタッチを有効にするターゲットユーザーに2つのタスクを割り当てます。外部タスクの割り当てについては、「割り当て」を参照してください。デスクトップマシンで実行されているWEMエージェントがタスクを実行し、MSIXアプリをデスクトップセッションでアクセス可能にします。

外部タスクの割り当て(/en-us/workspace-environment-management/service/media/assign-external-tasks.png)

プロファイル管理の構成

MSIXアプリのデータは、ユーザーセッションのユーザープロファイルに保存されます。非永続デスクトップでMSIXアプリデータを保持したり、デスクトップ間でデータをローミングしたりするには、プロファイル管理を使用できます。プロファイル管理を使用してプロファイルローミングを構成する方法については、「Citrix Profile Managementの設定」を参照してください。

プロファイル管理のヘルスチェックを構成する

Workspace Environment Management™ (WEM) は、Citrix Profile Management がエージェントマシンで最適に構成されているかどうかを確認できます。

Profile Management が正常に動作している場合でも、ヘルスチェックが (/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/monitoring/administration.html#agents) で警告ステータスを返すことがあります。このステータスは、すべての Profile Management 設定が推奨どおりに設定されていないことを示しています。ユーザーエクスペリエンスが低下する可能性があります。

この問題に対処するには、次のいずれかの方法を使用します。

- 関連する構成セットの **>** で設定を変更します。
- Profile Management ヘルスチェックレポートに含める設定の範囲を構成します。

前提条件

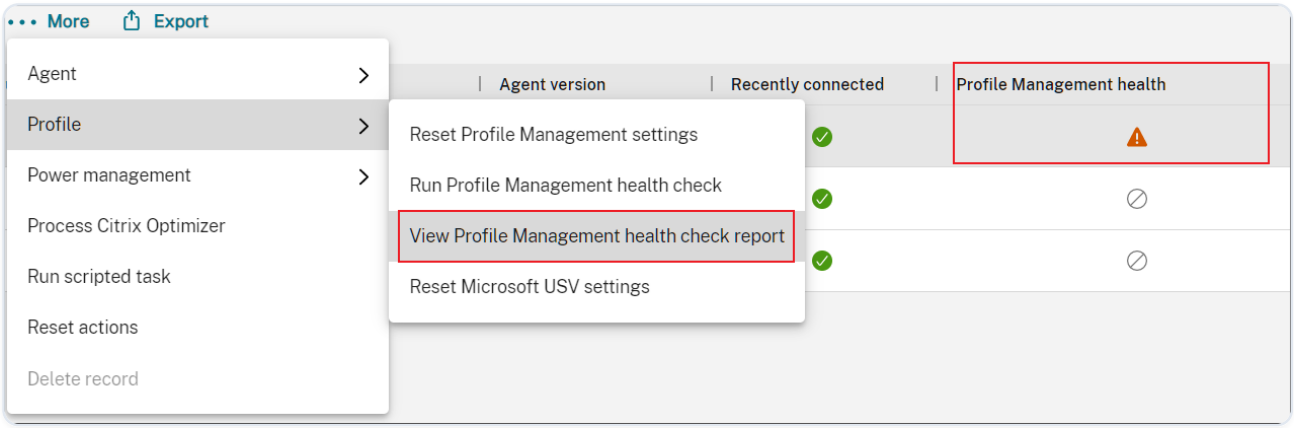
開始する前に、次のことを確認してください。

- Profile Management がエージェントマシンにインストールされ、有効になっていること。
- ユーザーストアへのパスが有効であること。
- WEM エージェントのバージョンが 2205.1.0.1 以降であること。

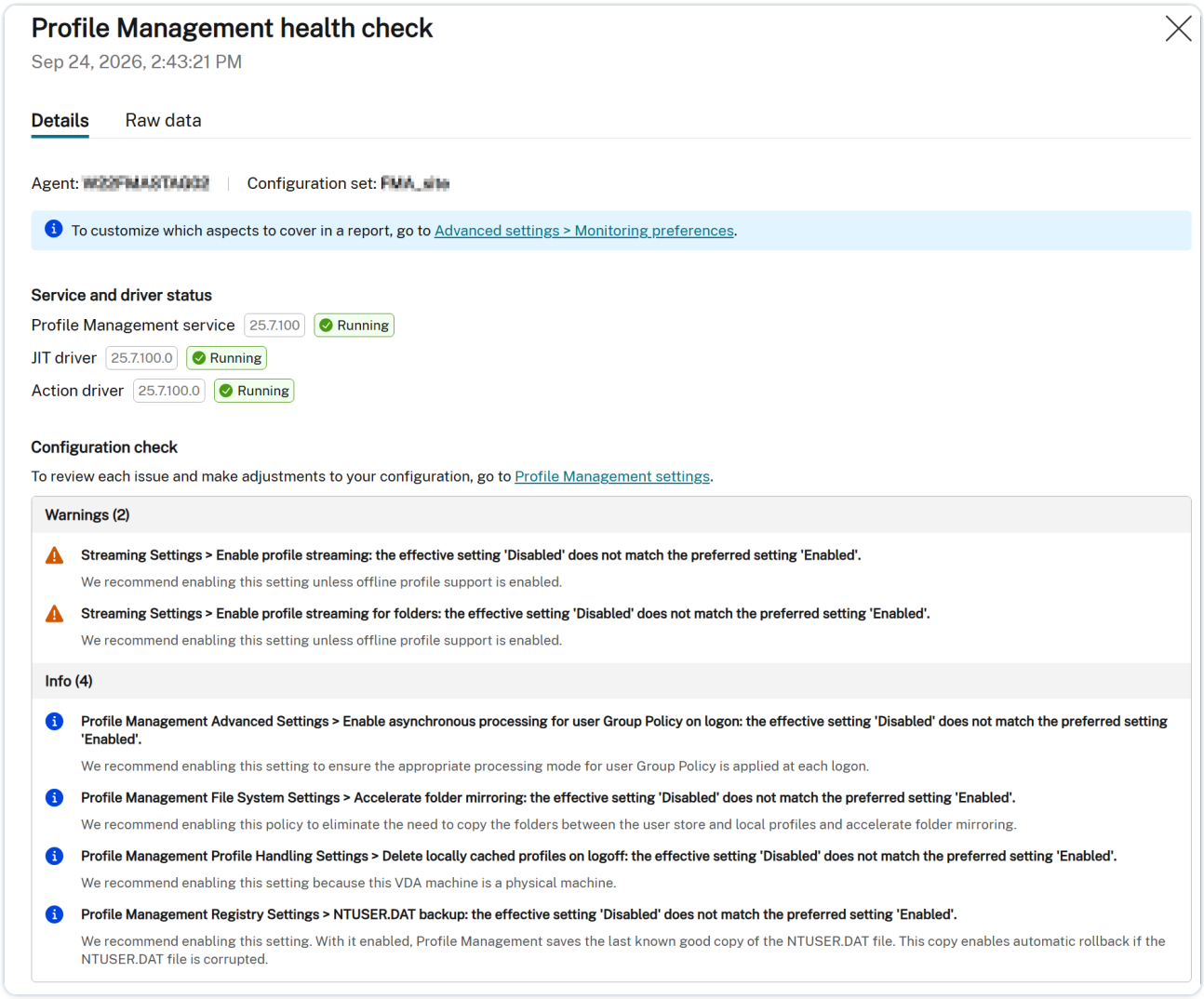
Profile Management の正常性を確認する

Web コンソールで、 **>** **>** に移動し、 列を確認します。正常性ステータスの詳細については、「(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/monitoring/administration.html#agents)」を参照してください。

エージェントの詳細なヘルスチェックレポートを表示するには、エージェントを選択し、 **>** **>** を選択します。



レポートには、検出された問題と修正の推奨事項が含まれています。各問題については、関連する構成セットの **>** に移動し、それに応じて設定を変更します。問題を無視するには、 **>** に移動し、レポートに含める設定の範囲を指定します。



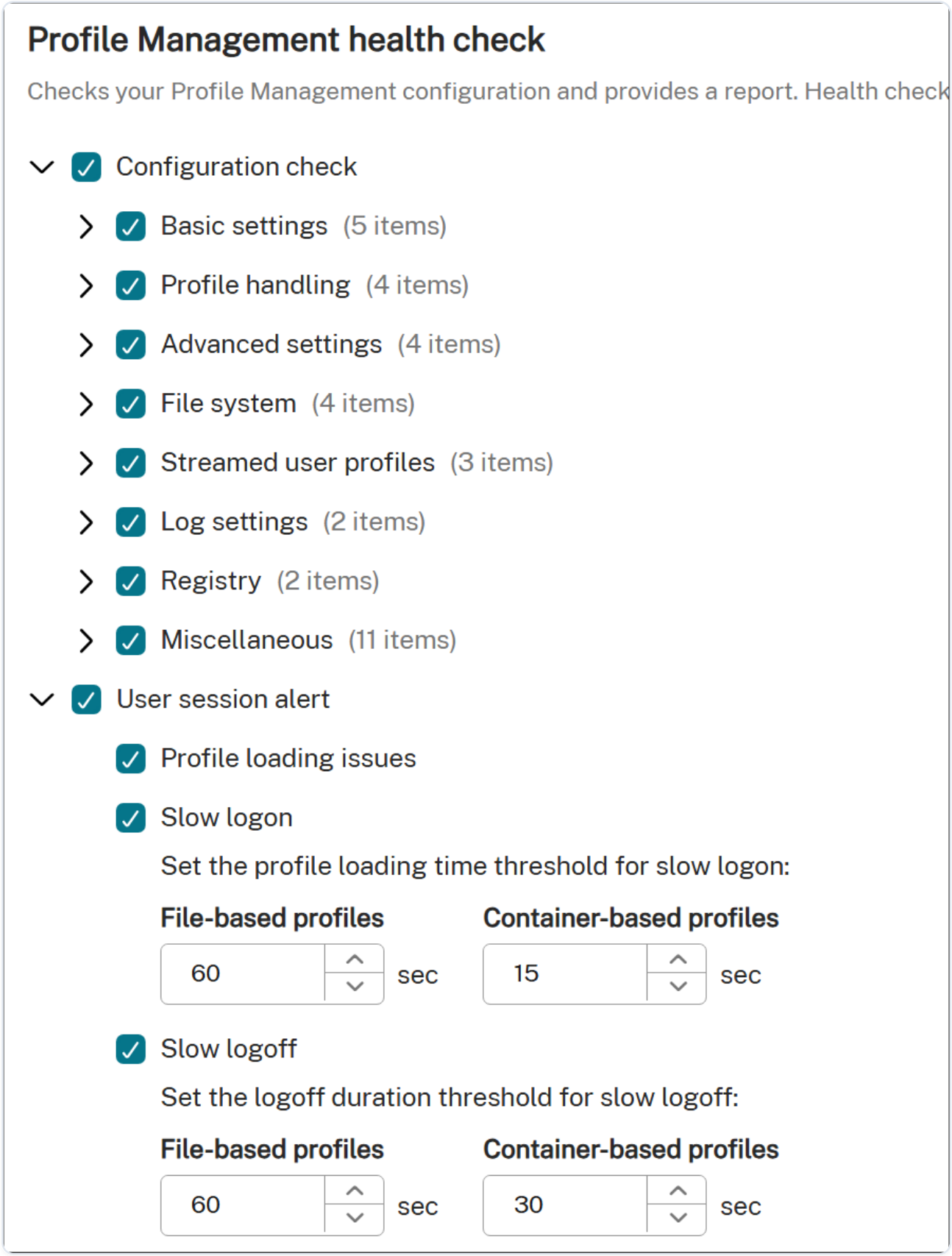
問題が見つからない場合、ヘルスチェックは良好なステータスを返し、プロファイル管理が正常であることを示します。

> **注:**
>
> 問題がエラーである場合は、関連する構成セットの **［プロファイル］> ［プロファイル管理設定］** で修正する必要があります。そうしないと、プロファイル管理が正常に機能しません。

レポートに含める設定の範囲をカスタマイズする

ヘルスチェックレポートに含める設定の範囲をカスタマイズするには、関連する構成セットの **［詳細設定］> ［監視設定］** に移動します。

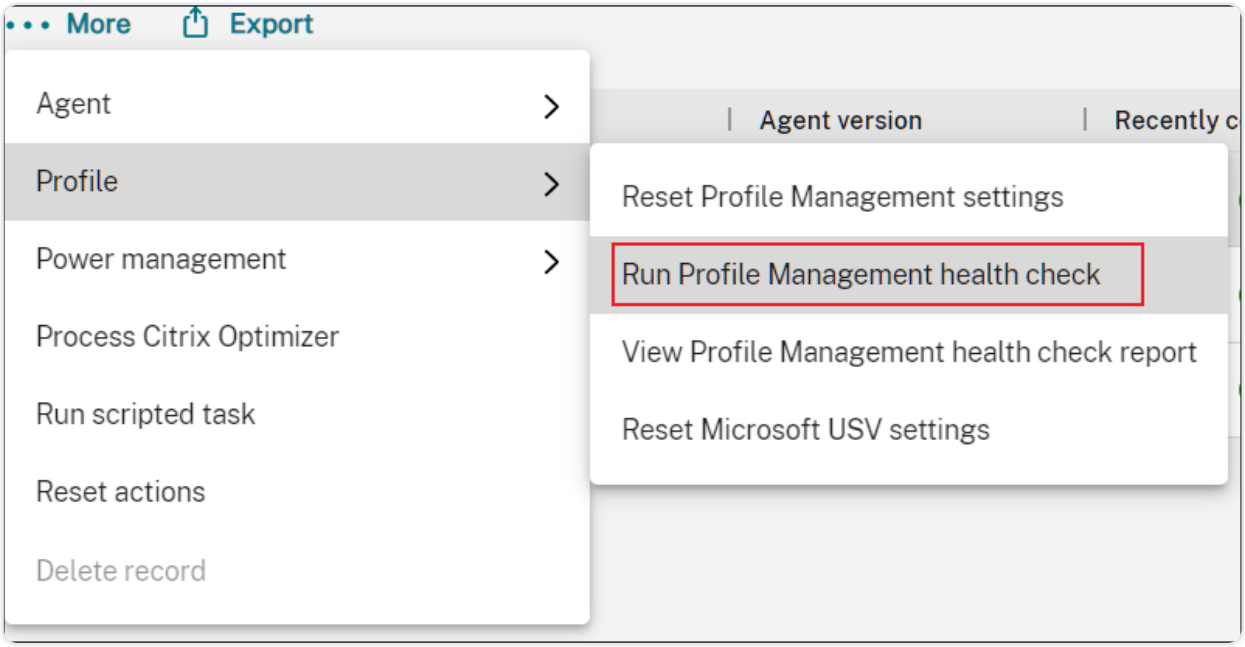
デフォルトでは、すべての設定が含まれます。詳しくは、「詳細設定」を参照してください。



オンデマンドでプロファイル管理のヘルスチェックを実行する

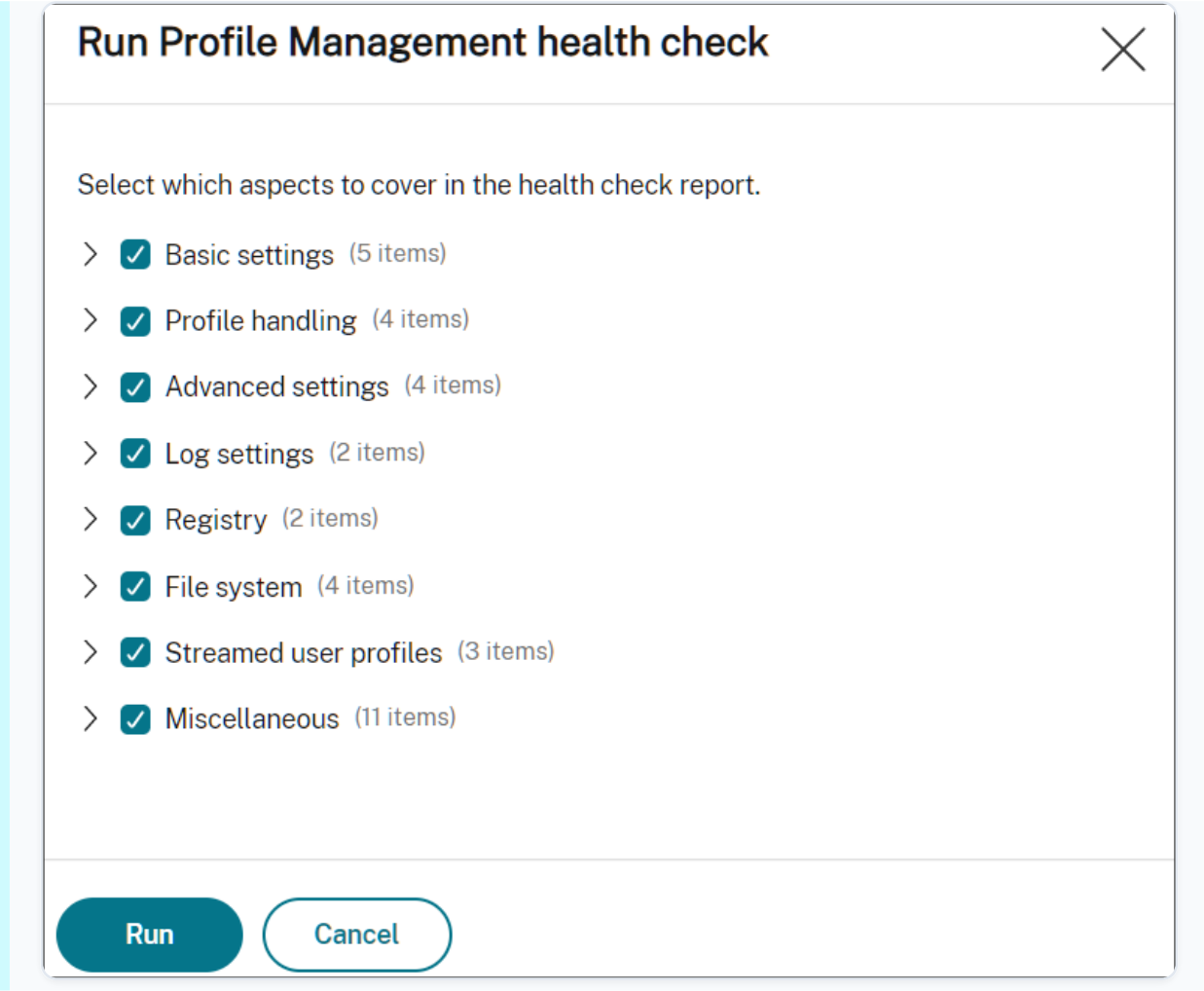
エージェントマシンでプロファイル管理のヘルスチェックをオンデマンドで実行するには、次の手順を実行します。

1. Webコンソールで、 **［監視］> ［管理］> ［エージェント］** に移動し、エージェントを選択して、 **［その他］> ［プロファイル］> ［プロファイル管理のヘルスチェックを実行］** を選択します。



2. 表示されるウィザードで、ヘルスチェックレポートの対象となる設定の範囲を変更するかどうかを選択し、 **［実行］** をクリックします。

> **注:**
>
> ここで行った変更は、生成されるヘルスチェックレポートにのみ影響します。



Profile Managementが使用するSMB共有を構成する

Citrix Profile Managementでユーザープロファイルを管理する管理者として、ファイル共有をユーザー ストアとして指定する必要があります。

現在のユーザーがアクセス権を持たないストレージリポジトリ（例：Azure Files）にユーザー ストアを配置したい場合があります。Workspace Environment Management™ (WEM) を使用してストレージリポジトリへのSMB接続を確立することで、その目標を達成できます。これにより、Profile Managementはユーザー ストアにアクセスできるようになります。

セットアッププロセスには、次の手順が含まれます。

- SMB共有を構成する
- Profile Managementを構成する

前提条件

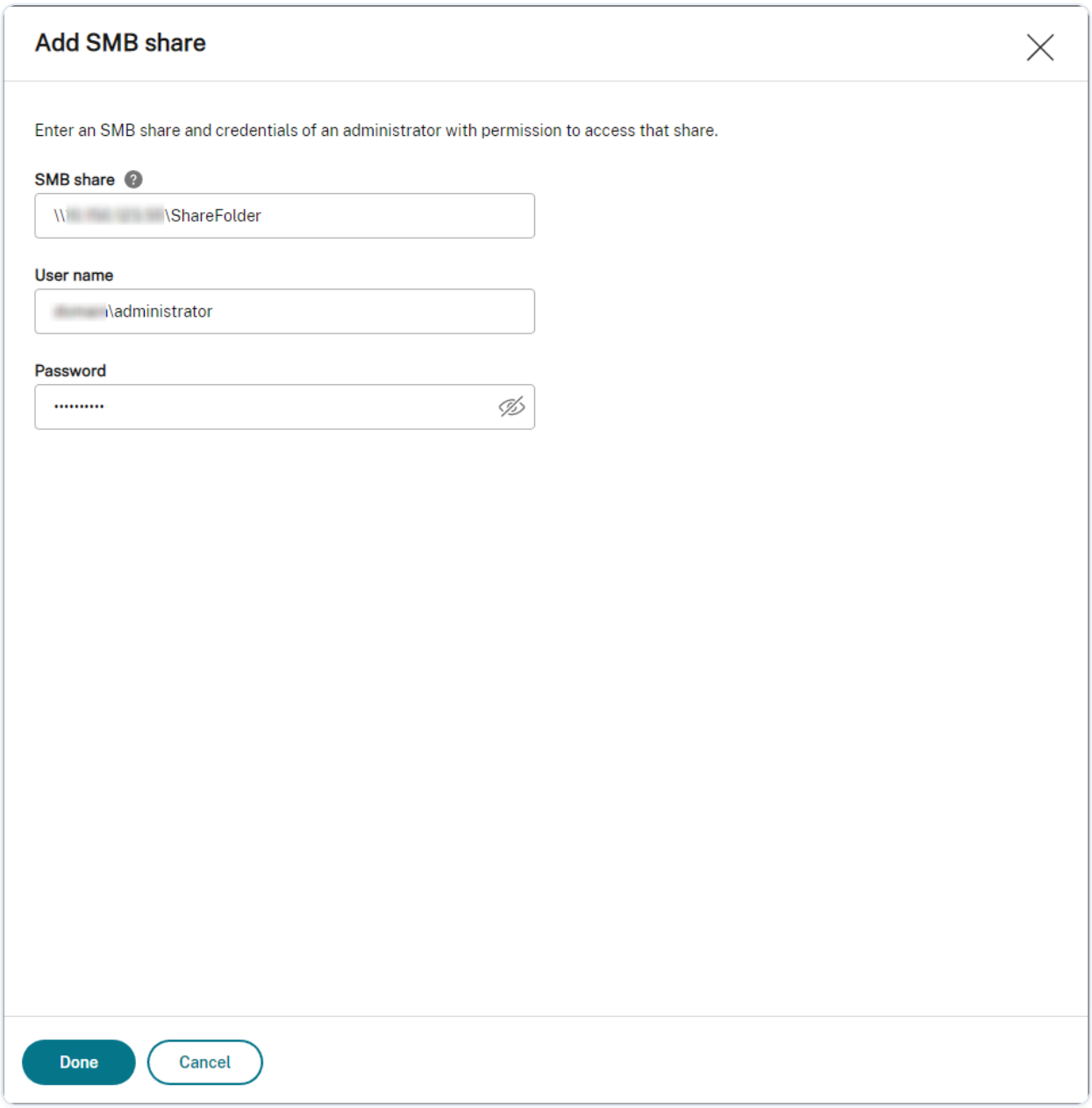
開始する前に、次の操作を行います。

- WEMエージェントがアクセスできるファイル共有を準備します。

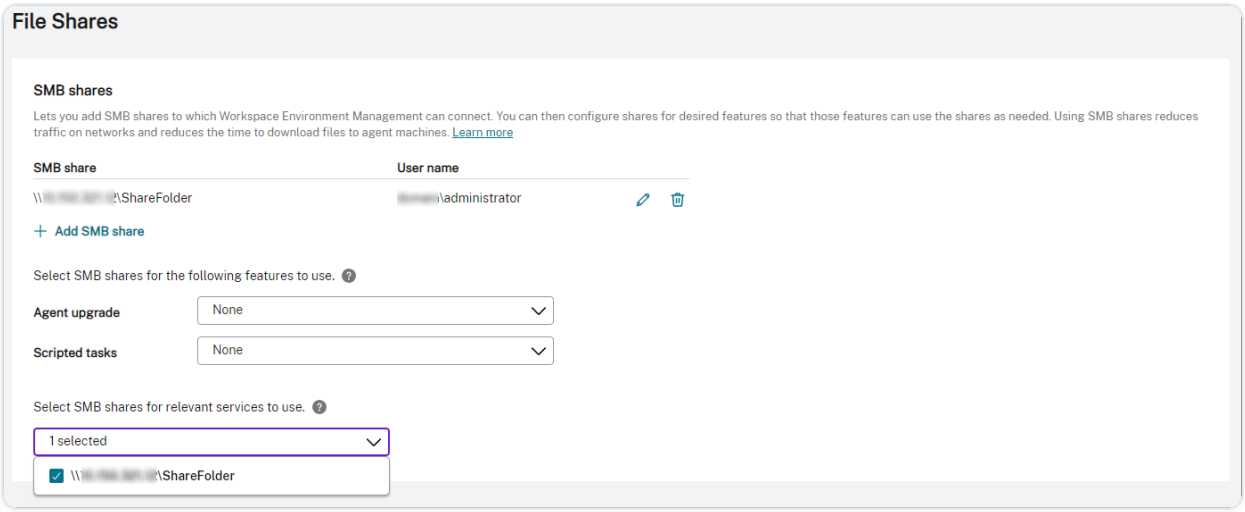
SMB共有を構成する

次の情報は、SMB shares のガイダンスを補足するものです。その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細に注意してください。

1. Webコンソールで、関連する構成セットの下にある > に移動し、準備したSMB共有を追加します。



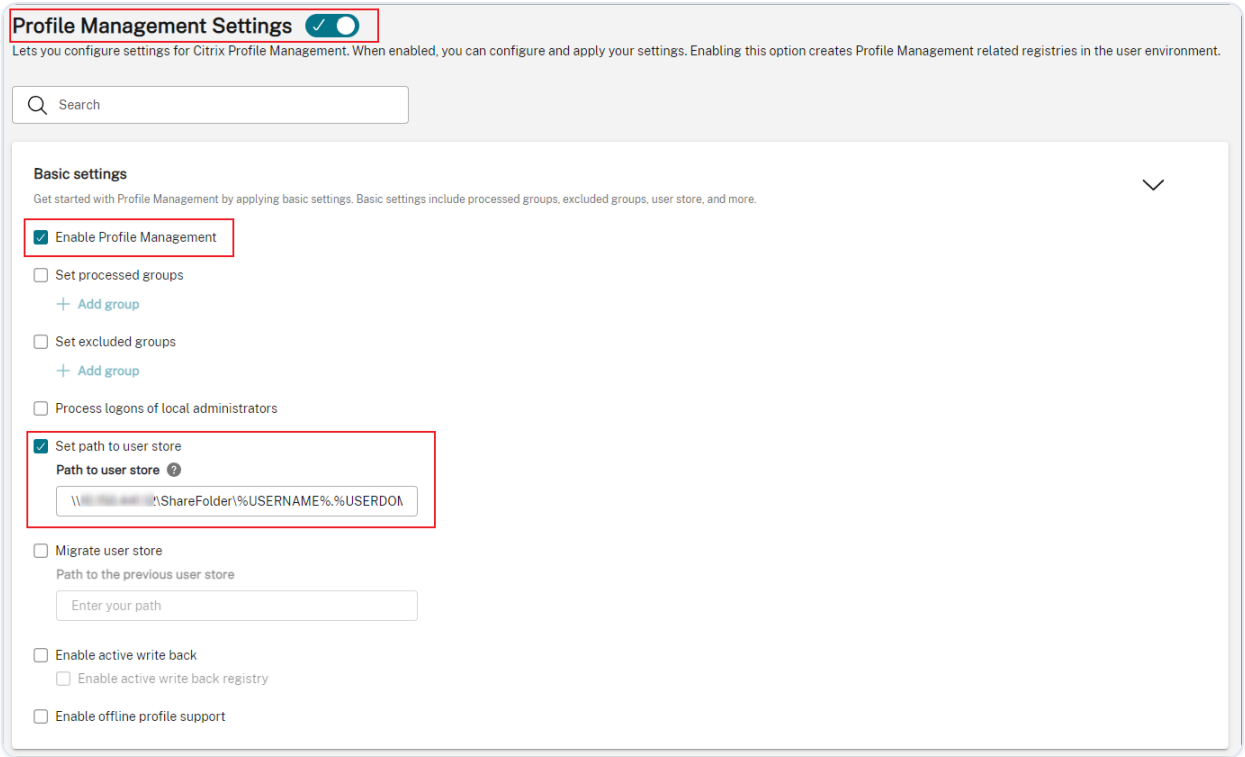
2. Profile Managementサービスで使用するSMB共有を選択します。



Profile Managementを構成する

以下の情報は、Citrix Profile Management Settings のガイダンスを補足するものです。その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細に注意してください。

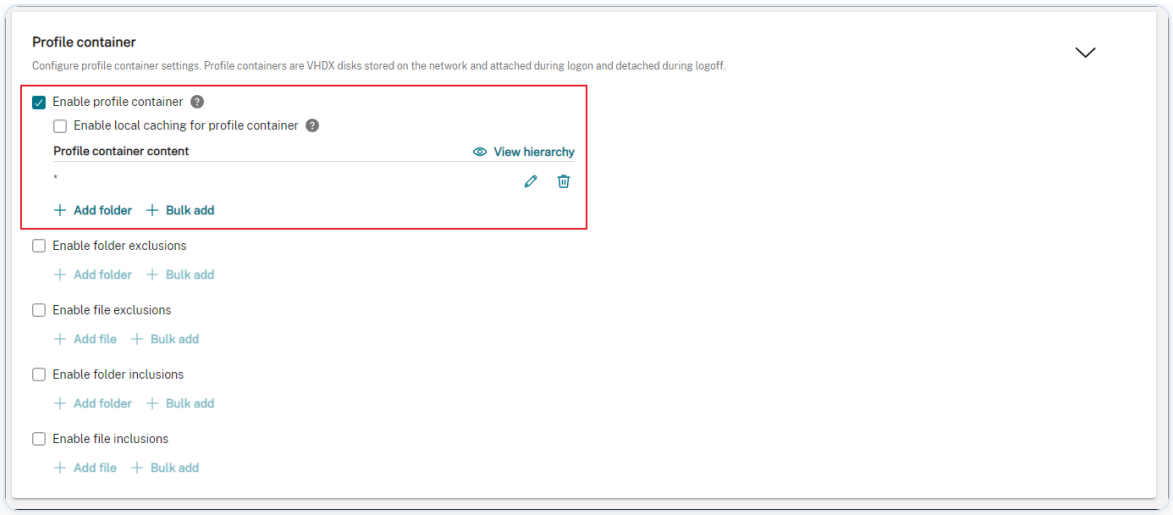
1. Webコンソールで、関連する構成セットの下にある**プロファイル > プロファイル管理設定**に移動し、**プロファイル管理設定**を有効にします。
2. **基本設定**に移動し、プロファイル管理を有効にしてから、ユーザー ストアへのパスを設定します。



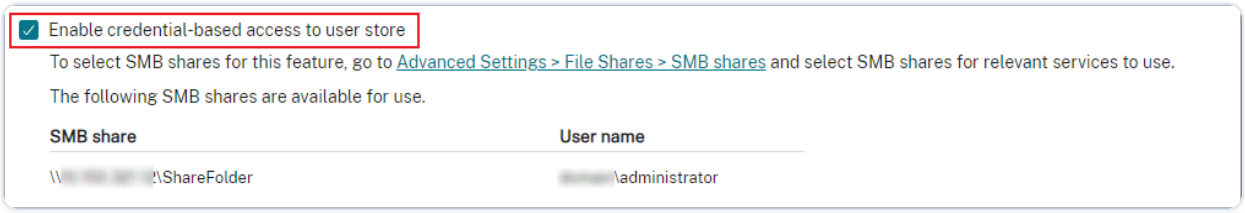
3. **プロファイルコンテナ**に移動し、プロファイルコンテナを有効にしてから、アスタリスク (*) を追加します。

注:

アスタリスク (*) を追加すると、ユーザープロファイル全体がプロファイルコンテナに配置されます。これにより、NTFS権限が保持されます。



4. **詳細設定**に移動し、ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にします。



詳細については、ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする を参照してください。

スクリプトタスクの起動トリガーとシャットダウントリガーを構成する

管理者として、オペレーティングシステムの起動時またはシャットダウン時に、構成やクリーンアップタスクなどのシステムレベルのタスクを実行したい場合があります。

Workspace Environment Management™ (WEM) は、スクリプトタスクに関連付けることができるマシンの起動トリガーとシャットダウントリガーを提供します。これらのタスクは、オペレーティングシステムの起動時またはシャットダウン時に実行されるようにトリガーされます。

目標を達成するための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. スクリプトタスクを追加する
2. 起動トリガーとシャットダウントリガーをスクリプトタスクに関連付ける

3. タスク実行レポートを表示する

前提条件

開始する前に、以下を確認してください。

- ターゲットマシンで高速スタートアップが無効になっていること。例: Windows 10 マシンの場合、**コントロールパネル > すべてのコントロールパネル項目 > 電源オプション > システム設定** に移動し、**高速スタートアップを有効にする** オプションを無効にします。このオプションは、起動処理のみに影響します。

  Windows の高速スタートアップを無効にする(/en-us/workspace-environment-management/service/media/turn-off-windows-fast-startup.png)
- スクリプトタスクが信頼された証明書で署名されており、その証明書がターゲットマシンにインストールされていること。

推奨事項

スクリプトタスクを信頼された証明書で署名することをお勧めします。

スクリプトタスクを追加する

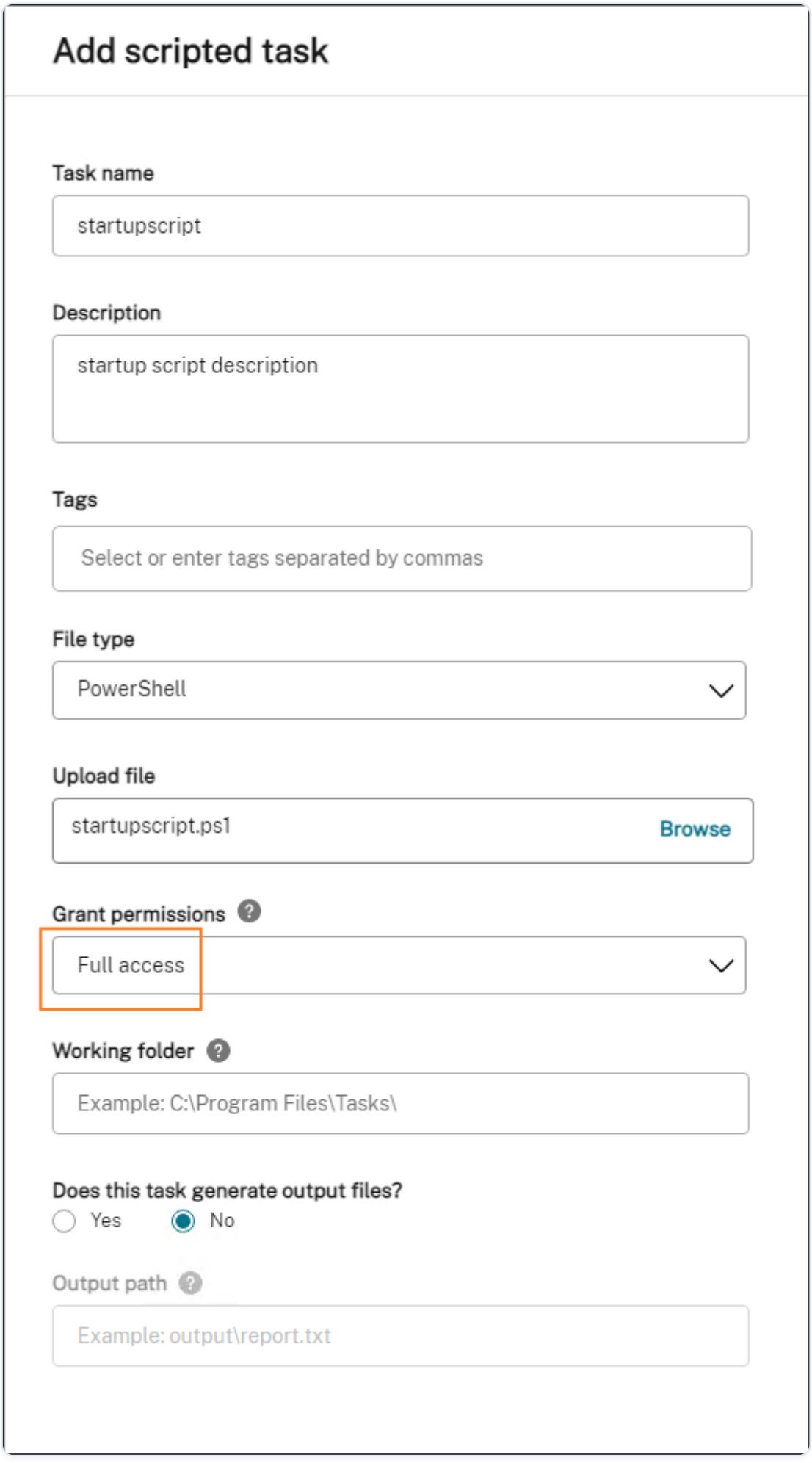
次の情報は、スクリプトタスク のガイダンスを補足するものです。その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細に注意してください。

この例では、2つのスクリプトタスクを追加します。

- タスク 1: `startupscript` - 起動時に実行するスクリプトが含まれます。
- タスク 2: `shutdownscript` - シャットダウン時に実行するスクリプトが含まれます。

> **ヒント:**
>
> 2つのスクリプトを1つにまとめることで、単一のタスクを追加するだけで済みます。

1. **Web Console > Scripted Tasks**で、まず`startupscript`タスクを次のように追加します。


Add scripted task
Task name
startupscript
Description
startup script description
Tags
Select or enter tags separated by commas
File type
PowerShell
Upload file
startupscript.ps1
Browse
Grant permissions
Full access
Working folder
Example: C:\Program Files\Tasks\
Does this task generate output files?
Yes
No
Output path
Example: output\report.txt

この例では、:

- **ファイルの種類**には、**PowerShell**を選択します。
- PowerShellファイルを参照してアップロードします。
- **アクセス許可の付与**には、**フルアクセス**を選択します。

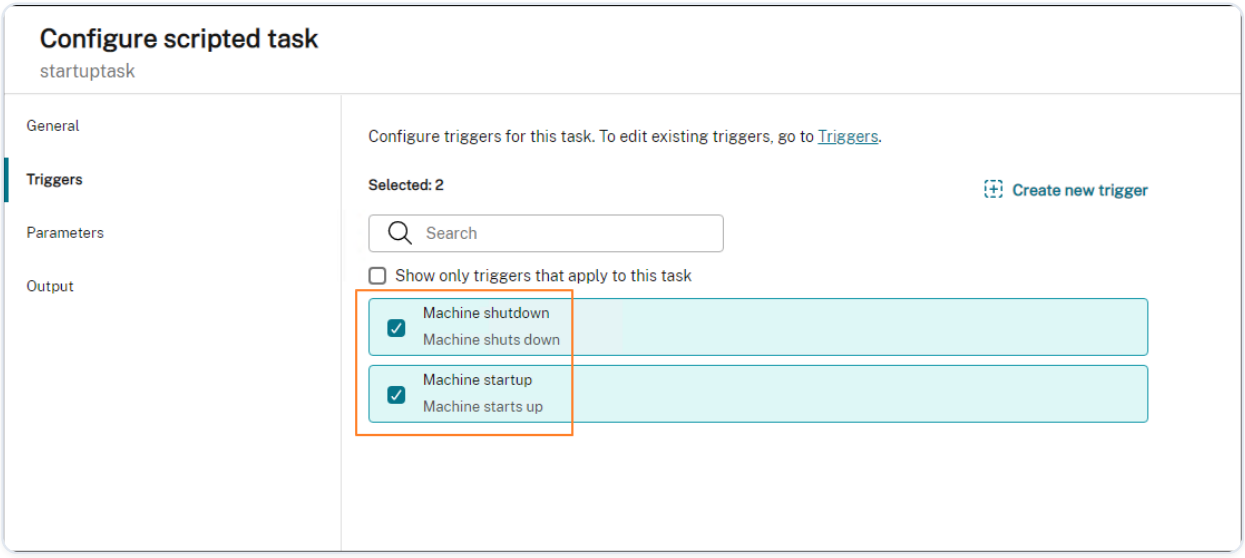
2. 手順1を繰り返して`shutdownscript`タスクを追加します。

起動およびシャットダウンのトリガーをスクリプトタスクに関連付ける

以下の情報は、スクリプトタスク設定のガイダンスを補足するものです。その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細に注意してください。

関連する構成セットに移動し、**スクリプトタスク設定**に移動して、2つのタスクを次のように構成します。

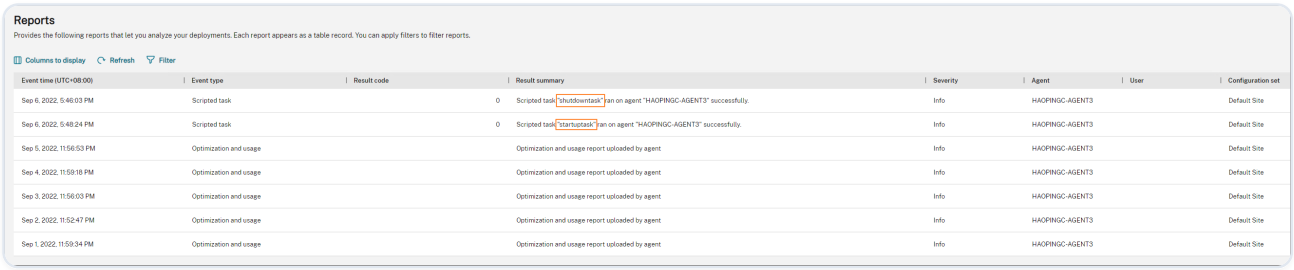
- **トリガー**で、`startupscript`タスクには**マシンの起動**を、`shutdownscript`タスクには**マシンのシャットダウン**を選択します。



変更をすぐに有効にするには、**監視 > 管理 > エージェント** に移動し、**エージェントホスト設定の更新** を選択します。

タスク実行レポートの表示

タスクが正常に実行された後、レポートを確認することで結果を表示できます。詳細については、レポート を参照してください。この例では、シャットダウン用と起動用の2つのレポートが表示されます。



WEMを使用してDaaSでプロビジョニングされたドメインに参加していないマシンを管理する

Citrix DaaSでプロビジョニングされたドメインに参加していないマシンを、Workspace Environment Management™ (WEM) を使用して管理できます。

目標を達成するには、次の手順を実行します。

1. **DaaS > 管理 > 完全な構成 > マシンカタログ**に移動し、WEMを使用して管理するカタログを見つけます。
2. カタログを選択し、アクションバーで**構成セットの管理**を選択します。
3. カタログをバインドする構成セットを選択します。
4. WEMで、構成セットを構成してマシンに設定を適用します。

前提条件

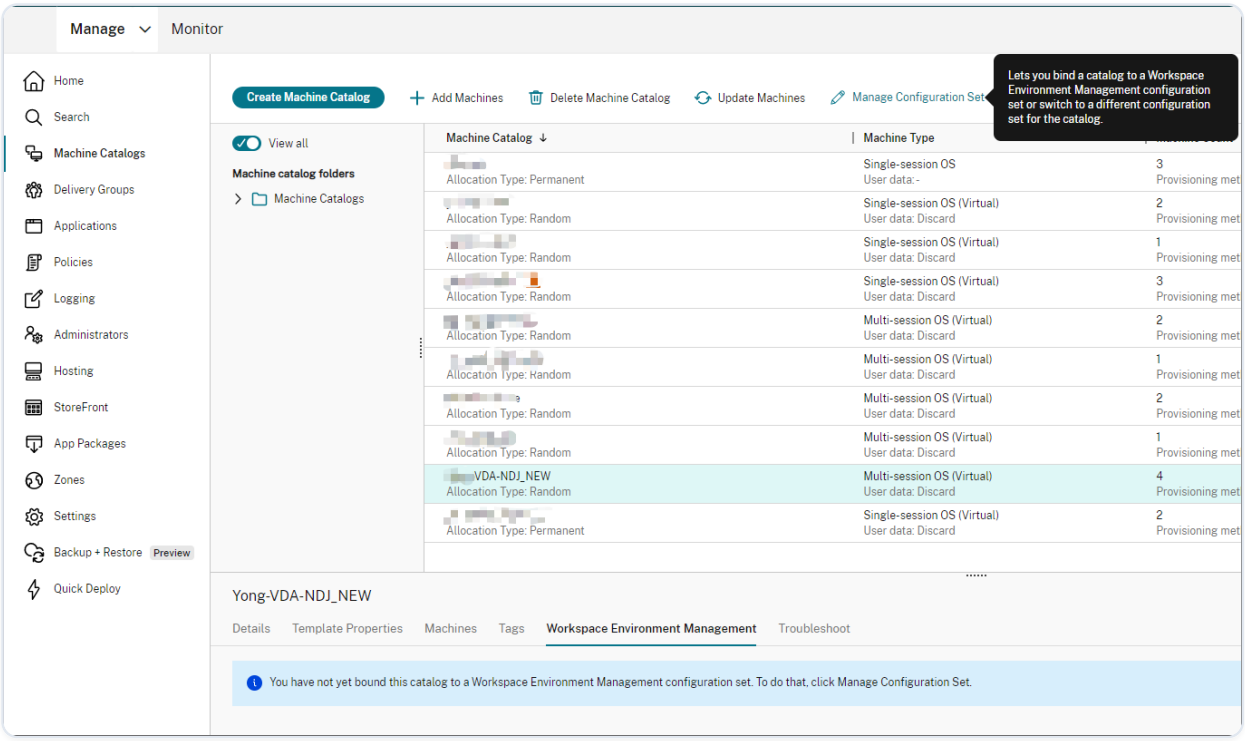
開始する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- WEMエージェントのバージョン2103.2.0.1以降。
- **構成をスキップ**が選択された状態でエージェントがインストールされていること。 エージェントのインストールを参照してください。

カタログの構成セットを管理する

カタログの構成セットを管理するには、次の手順を実行します。

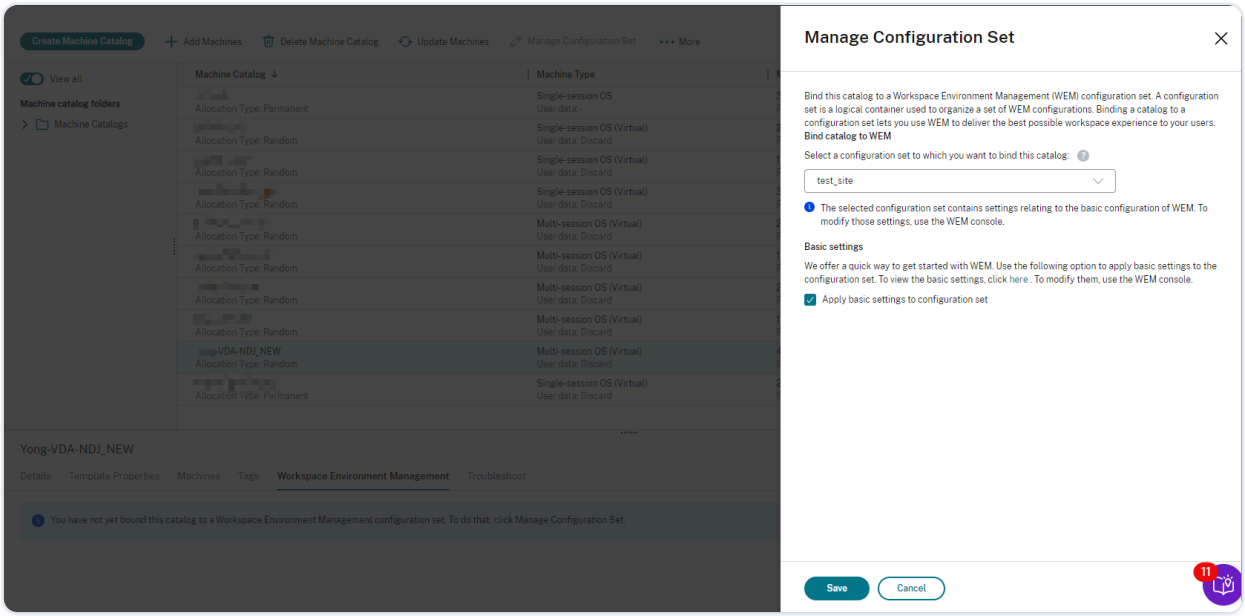
1. Citrix Cloudにサインインします。
2. **マイサービス** > **DaaS > 管理 > 完全な構成 > マシンカタログ**に移動します。
3. カタログを選択し、アクションバーで**構成セットの管理**を選択します。**構成セットの管理**ブレードが表示されます。



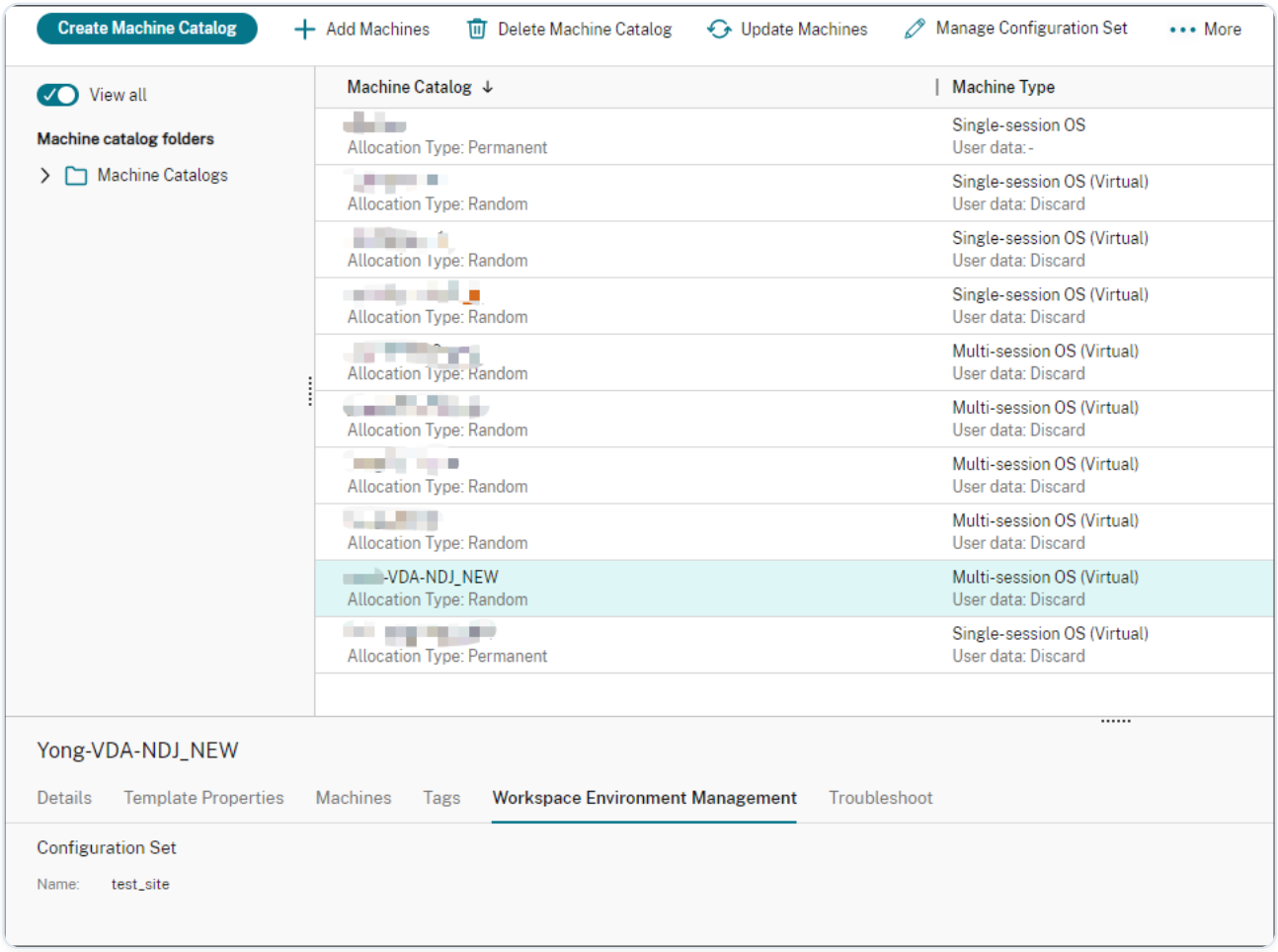
4. カタログをバインドする構成セットを選択します。

> **注:**
>
> 選択した構成セットがWEMの基本構成に関連する設定を含むように構成されていない場合、「**構成セットに基本設定を適用**」オプションが表示されます。構成セットに基本設定を適用するオプションを選択することをお勧めします。

5. 完了したら、「**保存**」をクリックして変更を保存し、ブレードを終了します。



カタログがどの構成セットにバインドされているかを確認するには、カタログを選択し、下部ペインの「**Workspace Environment Management**」タブを確認します。このタブには、カタログがバインドされている構成セットが表示されます。

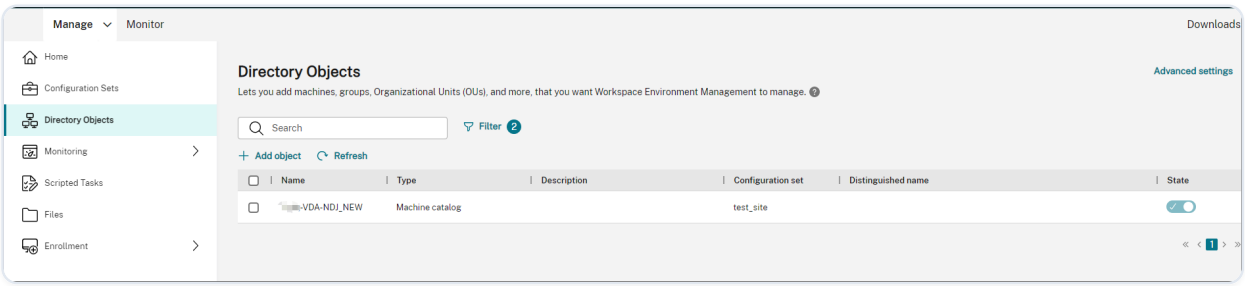


詳細については、DaaSドキュメントの「カタログの構成セットを管理する」を参照してください。

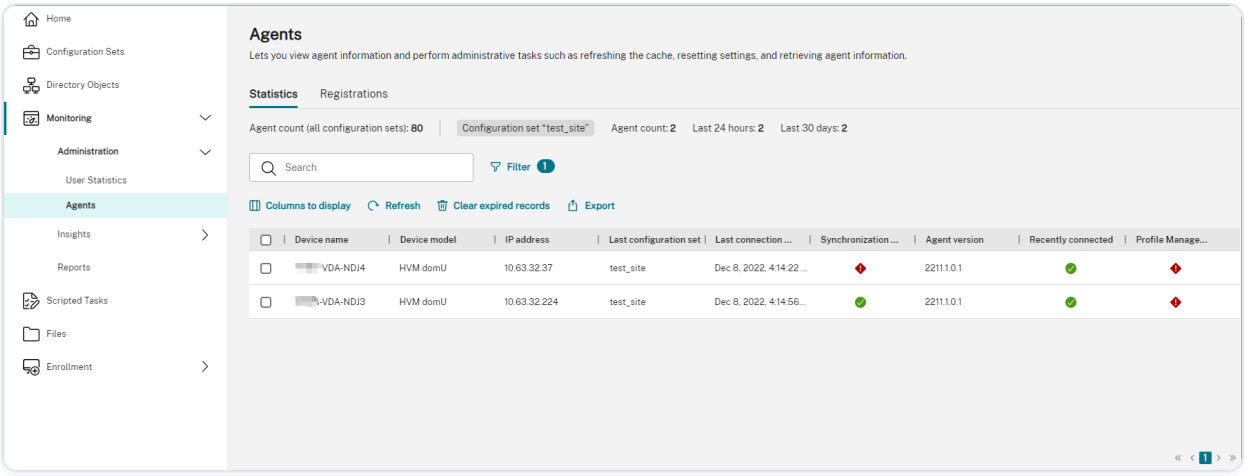
ドメインに参加していないマシンに設定を適用する

設定を構成する前に、まずWEMで関連情報を表示できます。

- DaaSで、「**管理 > 環境管理 (Web)**」に移動します。
- 「**ディレクトリオブジェクト**」で、ドメインに参加していないマシンと、それらのマシンがバインドされている構成セットを確認します。



- 「**監視 > エージェント**」で、ドメインに参加していないマシンを表示します。



- 「**構成セット**」で、ターゲットの構成セットをクリックします。

  構成セット(/en-us/workspace-environment-management/service/media/configuration-sets.png)

- **システム最適化**で、必要に応じて設定を調整し、適用します。

  この例では、一部の設定が有効になっています。これらの設定は、DaaSで**構成セットに基本設定を適用するオプション**が選択されていたため、自動的に構成されます。

  システム最適化 > CPU管理(/en-us/workspace-environment-management/service/media/system-optimization-cpu-management.png)

その後、構成セットを構成することで、ドメインに参加していないマシンに設定を適用できます。たとえば、ポリシーを適用できます。

- **アクション > グループポリシー設定**で、GPOを選択し、**割り当ての管理**をクリックし、次に**全員**を選択します。

  割り当ての管理(/en-us/workspace-environment-management/service/media/how-to-manage-assignments.png)

ドメインに参加していないマシンに移動して、ポリシーが有効になっていることを確認できます。必要に応じて、他のアクションを割り当てることもできます。ドメインに参加していないマシンに設定を適用するには、必ず**全員**を選択してください。

詳細情報

- ドメインに参加していないカタログを作成する(/ja-jp/citrix-daas/install-configure/machine-catalogs-create.html#machine-identities)
- カタログの構成セットを管理する(/ja-jp/citrix-daas/install-configure/machine-catalogs-manage.html#manage-configuration-set-for-a-catalog)

FSLogix プロファイルを Citrix Profile Management に移行する

この記事では、Citrix Environment Tool Hub のプロファイル移行ツールを使用して、FSLogix プロファイルコンテナから Citrix Profile Management にユーザープロファイルを移行する方法について説明します。

プロファイル移行ツールについて

プロファイル移行ツールは、さまざまなソースからCitrix Profile Management形式へのユーザープロファイルの移動を簡素化します。プロファイルの変換とコピーを自動化し、ユーザー設定を保持します。

このツールは、Citrix環境の構成と管理に役立つユーティリティのセットである**Citrix Environment Tool Hub**に含まれています。詳細については、「プロファイル移行ツール」を参照してください。

移行の準備

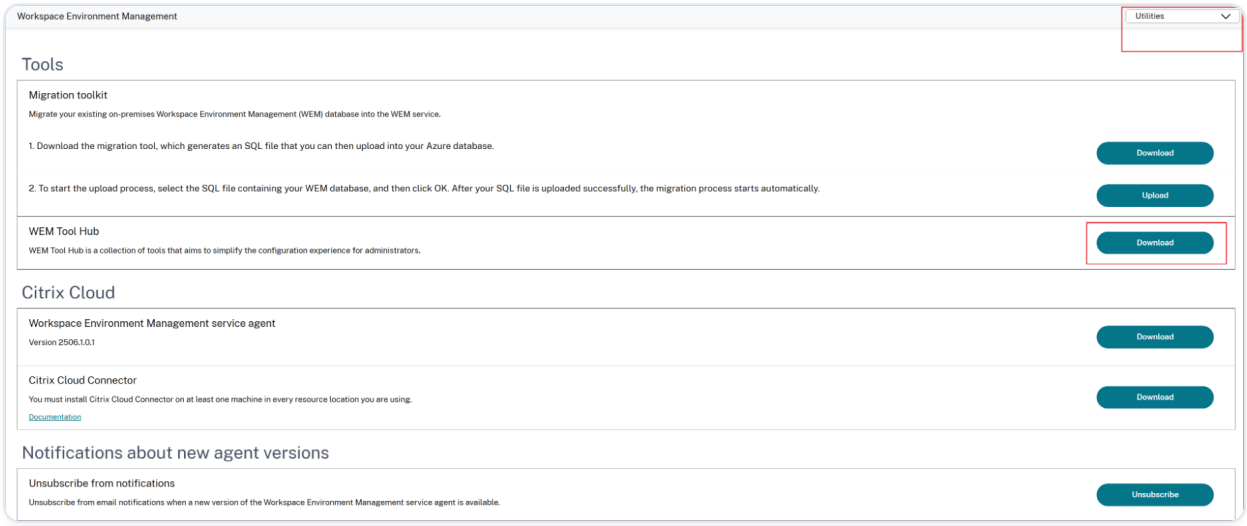
開始する前に：

1. Citrix Environment Tool Hub をマシンにダウンロードする
2. Citrix Profile Management ユーザー ストアを準備する

Citrix Environment Tool Hub をダウンロードする

Citrix Cloud™ WEM サービスコンソールから Citrix Environment Tool Hub をダウンロードします。

1. **Citrix Cloud** にサインインします。
2. **Workspace Environment Management™** サービスを開きます。
3. 右上隅のドロップダウンリストから、 を選択します。
4. で、 を選択します。



Citrix Profile Managementユーザー ストアを準備する

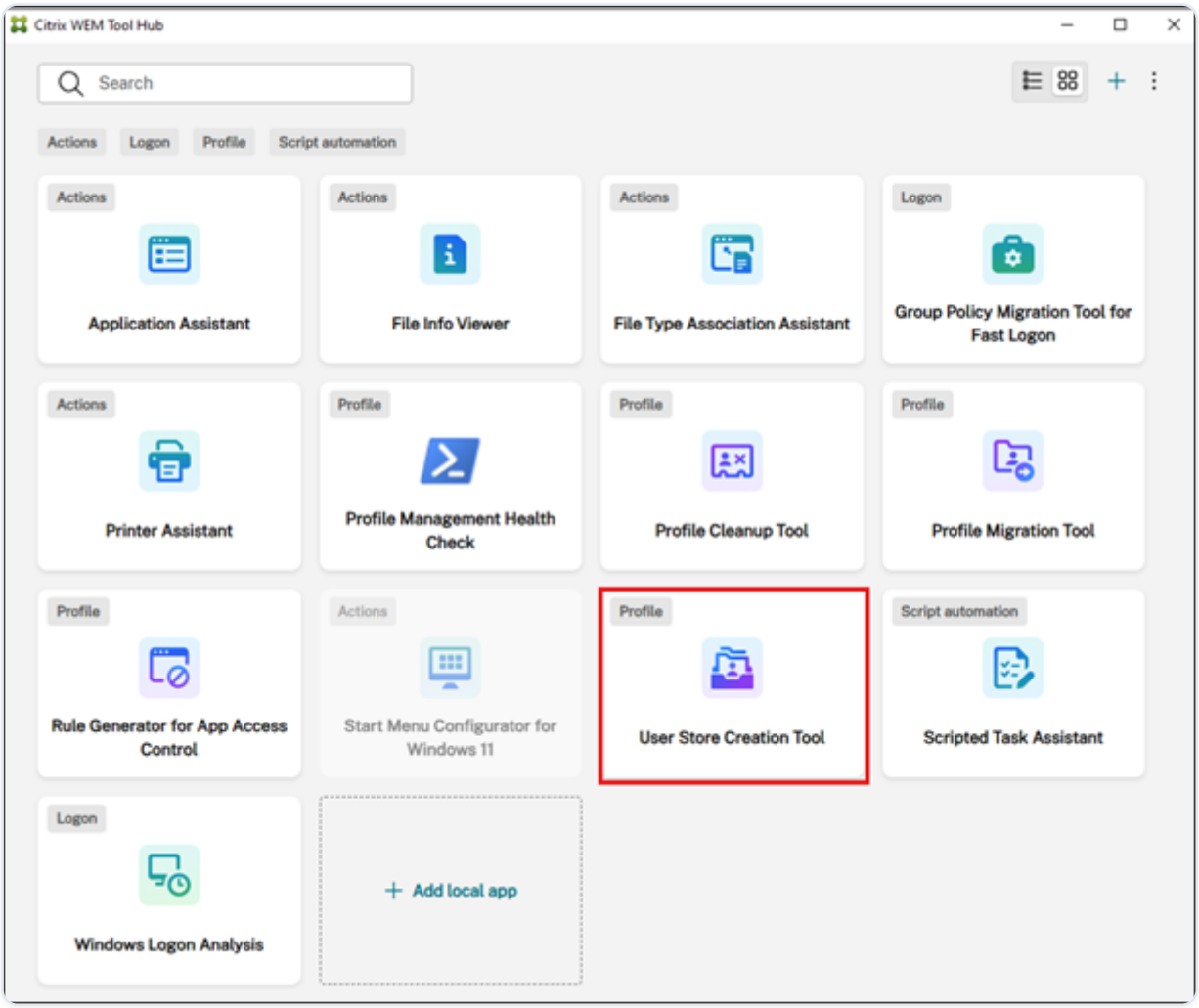
移行先プロファイルストア (Citrix Profile Managementユーザー ストア) をセットアップし、アクセス可能であることを確認します。このタスクは、次の2つの方法のいずれかで実行できます。

- **ユーザー ストアを手動で作成する。**

  手順については、「ユーザー ストアを作成する」を参照してください。

- **ユーザー ストア作成ツールを使用する。**

  Citrix Environment Tool Hubでも利用できるこのツールは、フォルダー構造を自動的に作成し、アクセス許可を設定します。



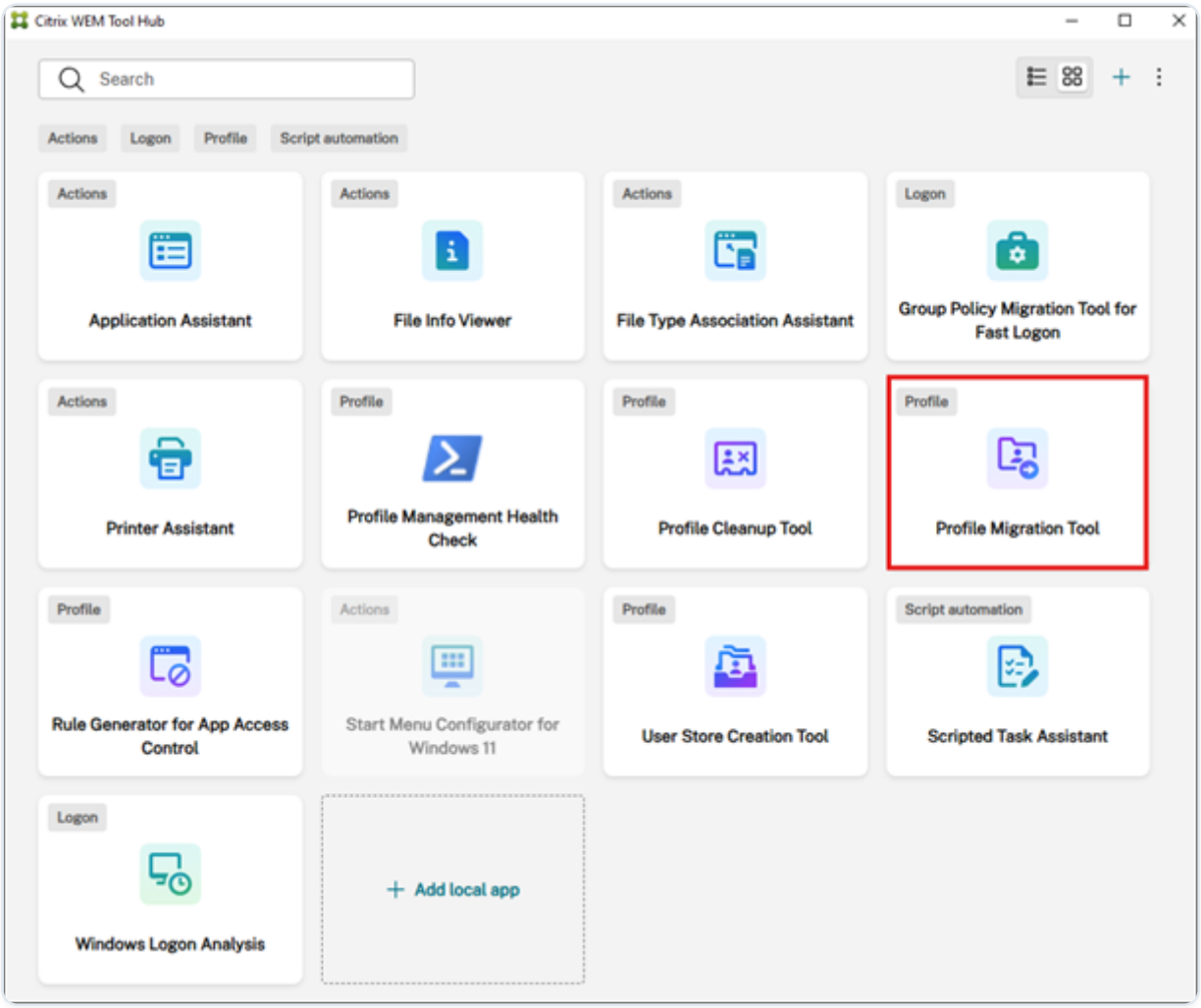
詳細については、「ユーザー ストア作成ツール」を参照してください。

プロファイルを移行する

プロファイルを移行するには、次の手順に従います。

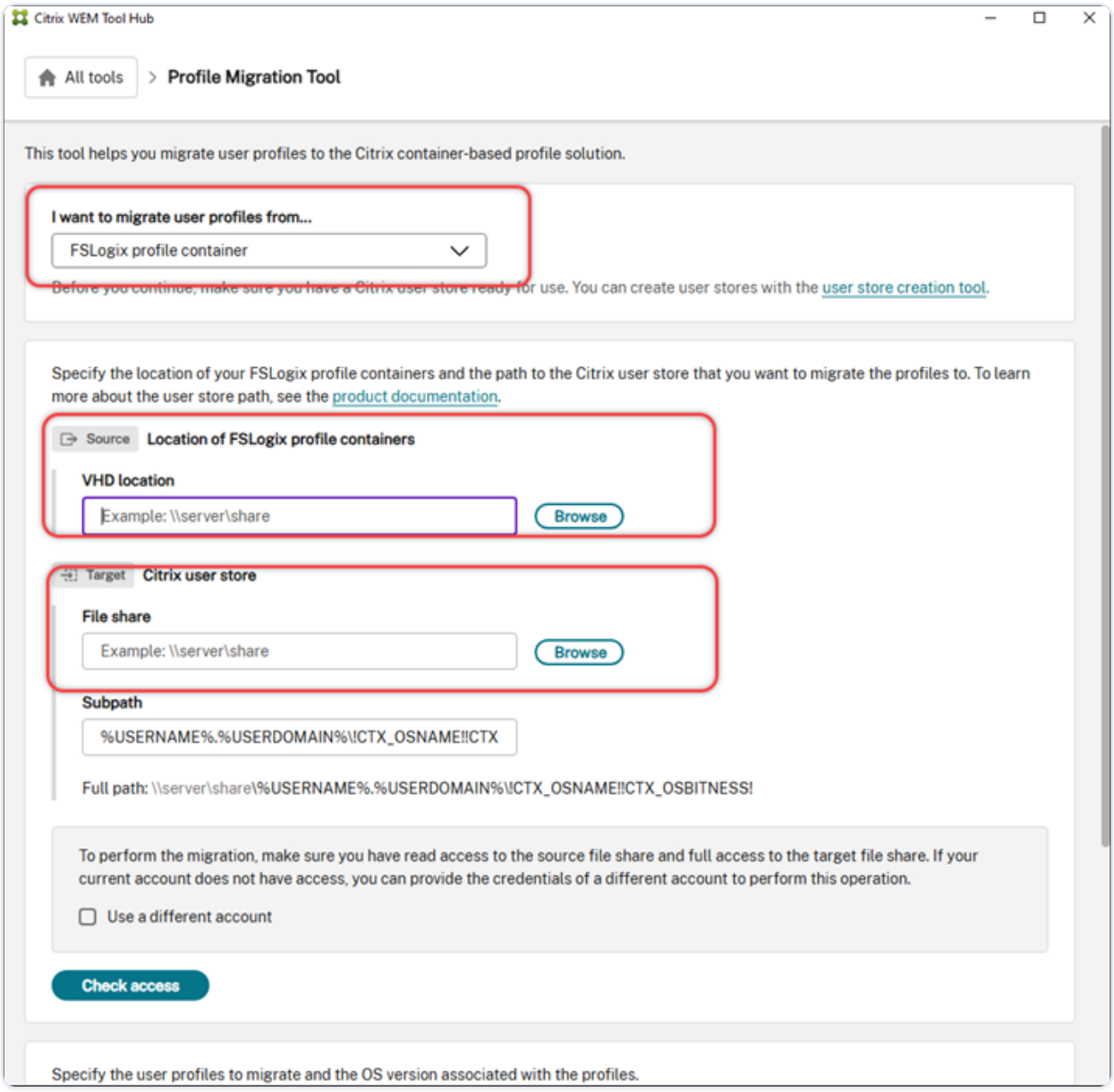
1. プロファイル移行ツールを開きます。

   Citrix Environment Tool Hubを起動し、**Profile Migration Tool**を選択します。



2. 移行の種類を選択します。

   I want to migrate user profiles from...リストから、**FSLogix profile container**を選択します。



3. FSLogix VHD の場所を入力します。

   Source セクションで、**Browse** を選択し、FSLogix VHD または VHDX ファイルを含むネットワーク共有の UNC パスを選択します。

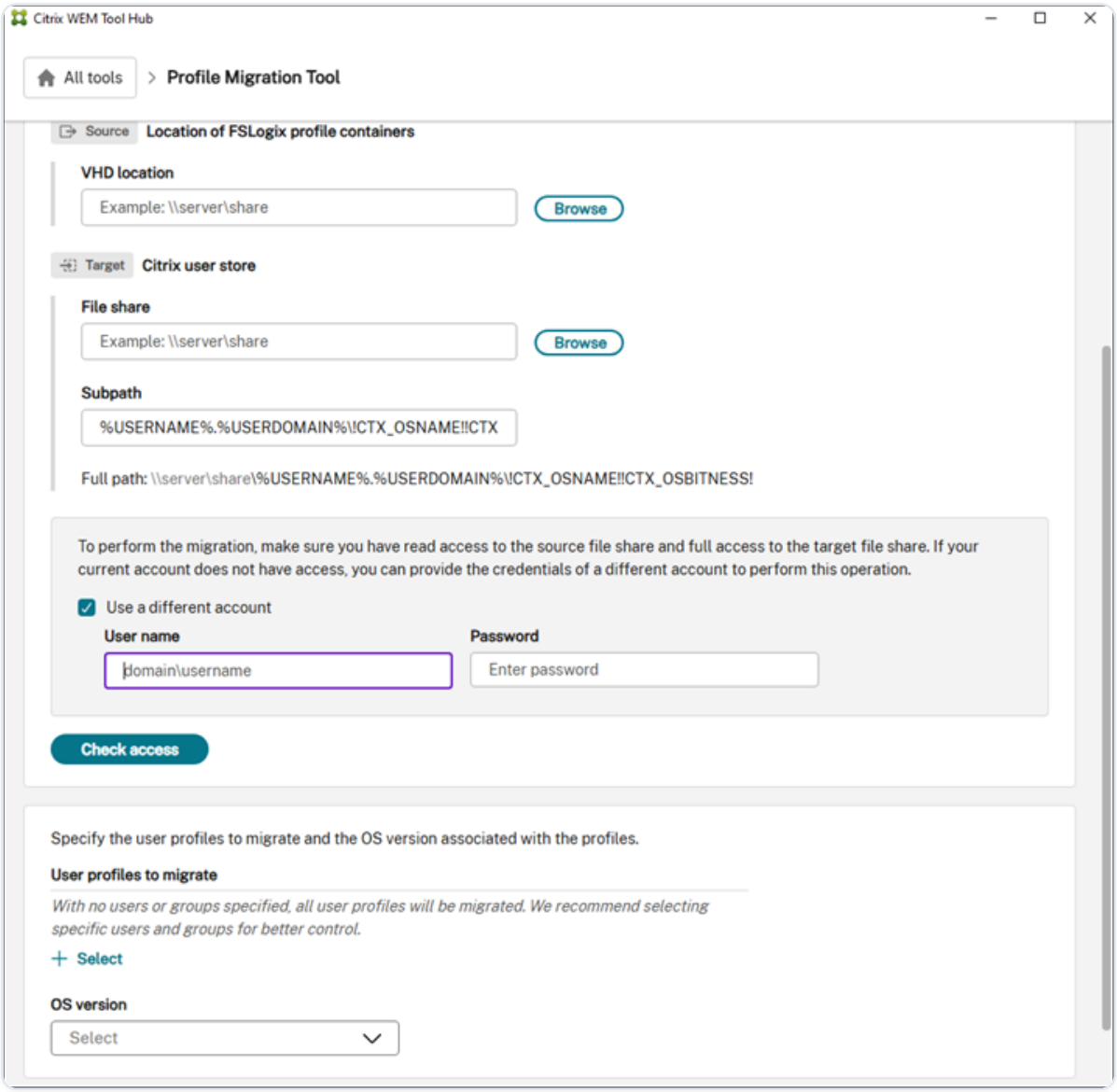
4. Citrix ユーザー ストアの場所を入力します。

   Target セクションで、**Browse** を選択し、Citrix Profile Management ユーザー ストアの UNC パスを選択します。

5. アクセスを確認します。

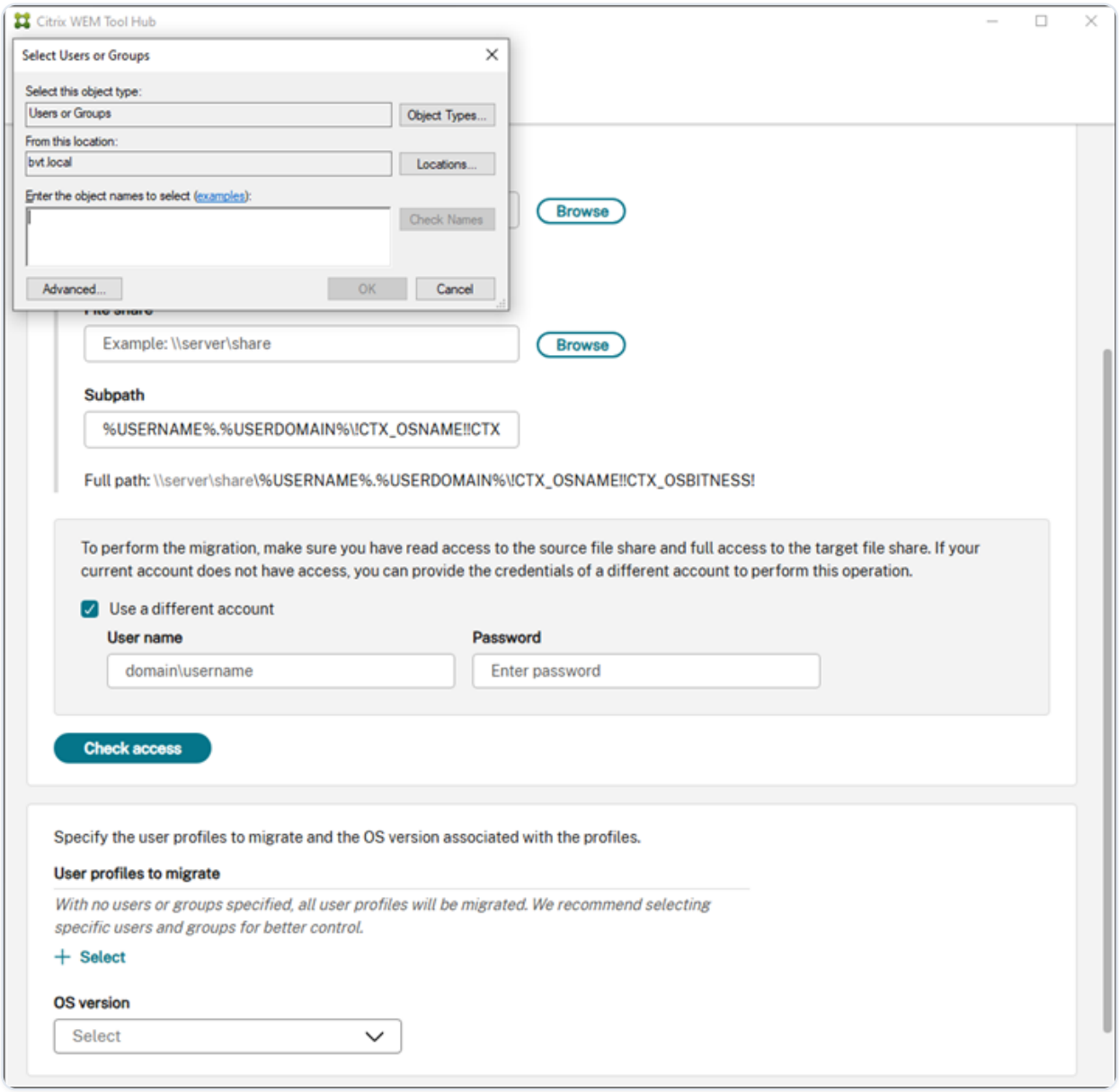
   a. **Check access** を選択して、アカウントがソースへの**Read** アクセスとターゲットへの**Full control** アクセスを持っていることを確認します。

   b. 現在のユーザーアカウントに必要な権限がない場合は、**Use a different account** を選択し、必要な権限を持つ資格情報を入力します。



6. ユーザーとグループを指定します。

   User profiles to migrate セクションで、**+ Select** を選択し、Windows オブジェクトピッカーを使用してユーザーまたはグループを追加します。



7. OS バージョンを選択します。

   OS version リストから、ソースプロファイルの Windows バージョン（例：Windows 10 または Windows Server 2022）を選択します。

8. 移行を開始します。

   「**移行を開始**」をクリックします。進行状況バーとログを使用してステータスを監視します。

移行後の構成

移行が完了したら、次の手順を実行します。

1. マシンにCitrix Profile Managementをインストールします。「インストールとセットアップ」を参照してください。

2. 特定のProfile Managementポリシーを構成して、コンテナベースのプロファイルソリューションをセットアップします。

   a. 「Profile Managementを有効にする」。

   b. 「ユーザー保存パスを指定する」。

   c. 「ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にする」。

   高度なコンテナ設定については、「Citrix Profile Managementプロファイルコンテナ」を参照してください。

3. マシンでFSLogix Profile Containerを無効にします。無効にしないと、Citrixコンテナベースのソリューションが正常に機能しません。詳細な手順は次のとおりです。

   a. **レジストリエディター**で、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\FSLogix\Profiles`に移動します。

   b. **Enabled**を`0`に設定します。

既知の問題

TEMP環境変数のリダイレクト

問題: FSLogixは`TEMP`変数をローカルパスにリダイレクトします。この設定はプロファイルに保存され、移行中に自動的に元に戻されません。

解決策: 移行後、グループポリシー、WEM、またはスクリプトを使用して、`TEMP`変数をデフォルトの場所（例: `%USERPROFILE%\AppData\Local\Temp`）にリセットします。

プロセス階層制御を使用してCitrix Workspace™環境を保護する

Citrix Workspace環境では、一部のアプリケーションが意図しない方法で起動される可能性があります。この状況は、特にCMDやPowerShellのような強力なWindowsツールが起動された場合に、セキュリティリスクをもたらす可能性があります。

As an administrator, you might want to restrict your users only to launching allowed applications. Workspace Environment Management™ (WEM) provides you with the process hierarchy control feature, which helps prevent end users from launching child processes.

Citrix Workspace環境で、特定の親プロセスから特定の子プロセスが起動できるかどうかを制御できます。この機能は、公開されたアプリケーションを介して意図しないプロセスが実行されるのを防ぎたいシナリオで役立ちます。

この記事では、CMDを例として使用します。プロセス階層制御を使用すると、公開されたアプリを介してCMDが起動されるのを防ぐことで、Citrix®仮想アプリ環境でCMDを介して開始される攻撃から保護できます。この機能を使用するための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. WEMエージェントでプロセス階層制御を有効にする
2. WEMコンソールでプロセス階層制御ルールを構成する

推奨事項

アプリケーションを公開するには、WEMツール**VUEMAppCmd**を使用することをお勧めします。このツールは、公開されたアプリケーションが起動する前に、WEMエージェントがプロセス階層制御ルールの処理を完了することを保証します。

フル構成管理インターフェイスを使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe**を指す実行可能ファイルパスを追加します。詳細については、「アプリケーション」を参照してください。

アプリケーション設定(/en-us/workspace-environment-management/service/media/application-settings-full-config.png)

WEMエージェントでプロセス階層制御を有効にする

この機能を有効にするには、エージェントマシンで**AppInfoViewer**ツールを使用します。このツールはエージェントのインストールフォルダーにあります。この機能を有効または無効にした後、マシンの再起動が必要です。

アプリケーション情報ビューア(/en-us/workspace-environment-management/service/media/application-info-viewer.png)

WEMコンソールでプロセス階層制御ルールを構成する

メモ帳を介してCMDが起動するのをブロックしたいとします。プロセス階層制御ルールを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「**レガシーコンソール > セキュリティ > プロセス階層制御**」に移動し、「**プロセス階層制御を有効にする**」を選択します。

   プロセス階層制御(/en-us/workspace-environment-management/service/media/process-hierarchy-control.png)
2. 「**ルールの追加**」をクリックし、次のように設定を構成して、「**次へ**」をクリックします。

> **注:**
>
> この例では、メモ帳を介したCMDの起動を防止するルールを作成します。親プロセスと子プロセスを指定するには、3つのルールタイプ（パス、発行元、ハッシュ）のいずれかを使用できます。「**割り当て**」で、ルールを適用するユーザーを選択します。設定の詳細については、「プロセス階層制御」を参照してください。

プロセス階層制御ルール1の追加(/en-us/workspace-environment-management/service/media/add-process-hierarchy-control-rule-1.png)

3. メモ帳を親プロセスとして構成し、「**次へ**」をクリックします。

> **注:**
>
> ユーザーインターフェイスは、手順2で選択したルールタイプによって異なります。

プロセス階層制御ルール2の追加(/en-us/workspace-environment-management/service/media/add-process-hierarchy-control-rule-2.png)

4. 必要に応じてルールに複数の子プロセスを追加し、「**作成**」をクリックします。

プロセス階層制御ルール3の追加(/en-us/workspace-environment-management/service/media/add-process-hierarchy-control-rule-3.png)

これでルールの作成は完了です。エージェントは、Citrix Workspace環境でメモ帳を介したCMDの起動を防止します。

Citrix Environment Tool HubとWEMを使用してログイン時間の問題をトラブルシューティングする

この記事は、Windowsシステム管理者がCitrix Environment Tool Hubを使用してログイン時間の問題をトラブルシューティングするためのガイドとして役立ちます。ログイン時間が長い場合、**Citrix Environment Tool Hub**は、問題を効率的に診断し解決するための構造化されたアプローチを提供します。

前提条件

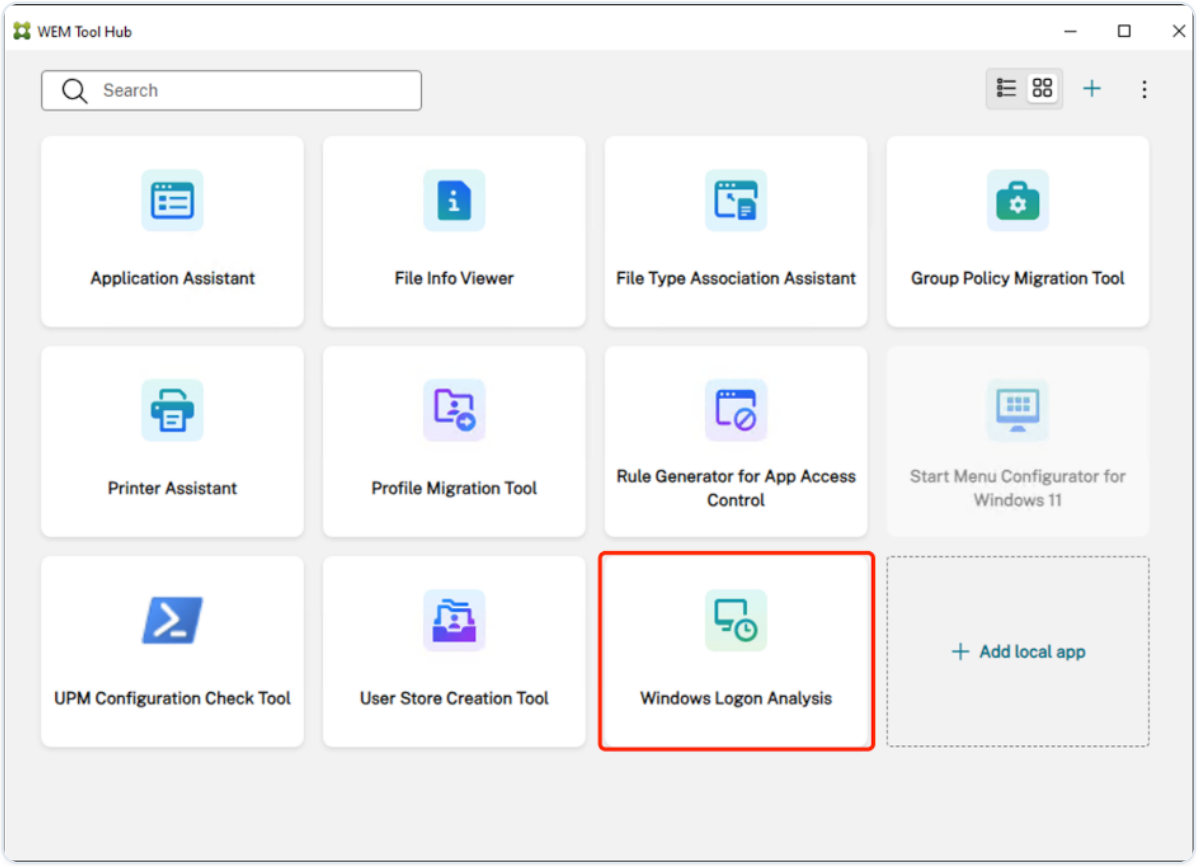
前提条件は以下のとおりです。

- **Citrix Environment Tool Hub**へのアクセス
- ターゲットのWindowsマシンに対する管理者権限

初期分析

ログイン時間が長い場合は、以下の手順を完了して**Citrix Environment Tool Hub**を使用して分析を実行します。

- 管理者権限で**Citrix Environment Tool Hub**を起動します。
- ホームページで**Windows Logon Analysis**を選択します。
- **Get Latest**を選択し、適切な時間（選択した時間がログイン期間をカバーしていることを確認してください）を選択して、**Get Reports**をクリックします。
- 新しいレポートが生成されるまでしばらく待ちます。
- 新しく生成されたレポートをクリックして詳細情報を表示します。グラフまたはテーブルを使用して、ログインプロセスでどのステップに時間がかかったかを特定します。



ログ収集を有効にする

これはオプションの手順です。初期分析でログイン時間が長くなる原因となっている段階が特定できない場合は、以下の手順を完了して詳細なログ収集を有効にします。

- 「**Logon Duration Analysis**」ツールのメインページで「**Enable Log Collection**」を選択します。
- ログオフ（切断ではなく、完全にログオフしていることを確認してください）してから、再度ログインします。
- 新しいレポートとログを確認するには、「Initial Analysis」セクションの手順に従って、再度「**Logon Duration Analysis**」を実行します。

ログ収集を有効にする(/en-us/workspace-environment-management/service/media/enable-log-collection-troubleshoot-login-issues.png)

分析のためにデバッグモードを有効にする

前のセクションで十分な情報が得られない場合は、さらなる分析のために「**Enable debug mode**」を選択します。

- ログオフ（切断ではなく、完全にログオフしていることを確認してください）してから、再度ログインします。
- Citrix Environment Tool Hubのメインページの右上にある3点メニューから「**Enable debug mode**」を有効にします。
- 新しいレポートとログを確認するには、「Initial Analysis」セクションの手順に従って、再度「**Logon Duration Analysis**」を実行します。
- 分析が完了したら、「**Open File Location**」メニューを選択して`.csv`ファイルを表示できます。このファイルには、ログオンプロセス中に生成されたすべてのWindowsイベントログが含まれています。これらのイベントログを検索して、異常なタイミングのイベントを特定できます。

デバッグモードを有効にする(/en-us/workspace-environment-management/service/media/enable-debug-mode-troubleshoot-login-issues.png)

プロセスモニタートレースを使用する（高度な分析）

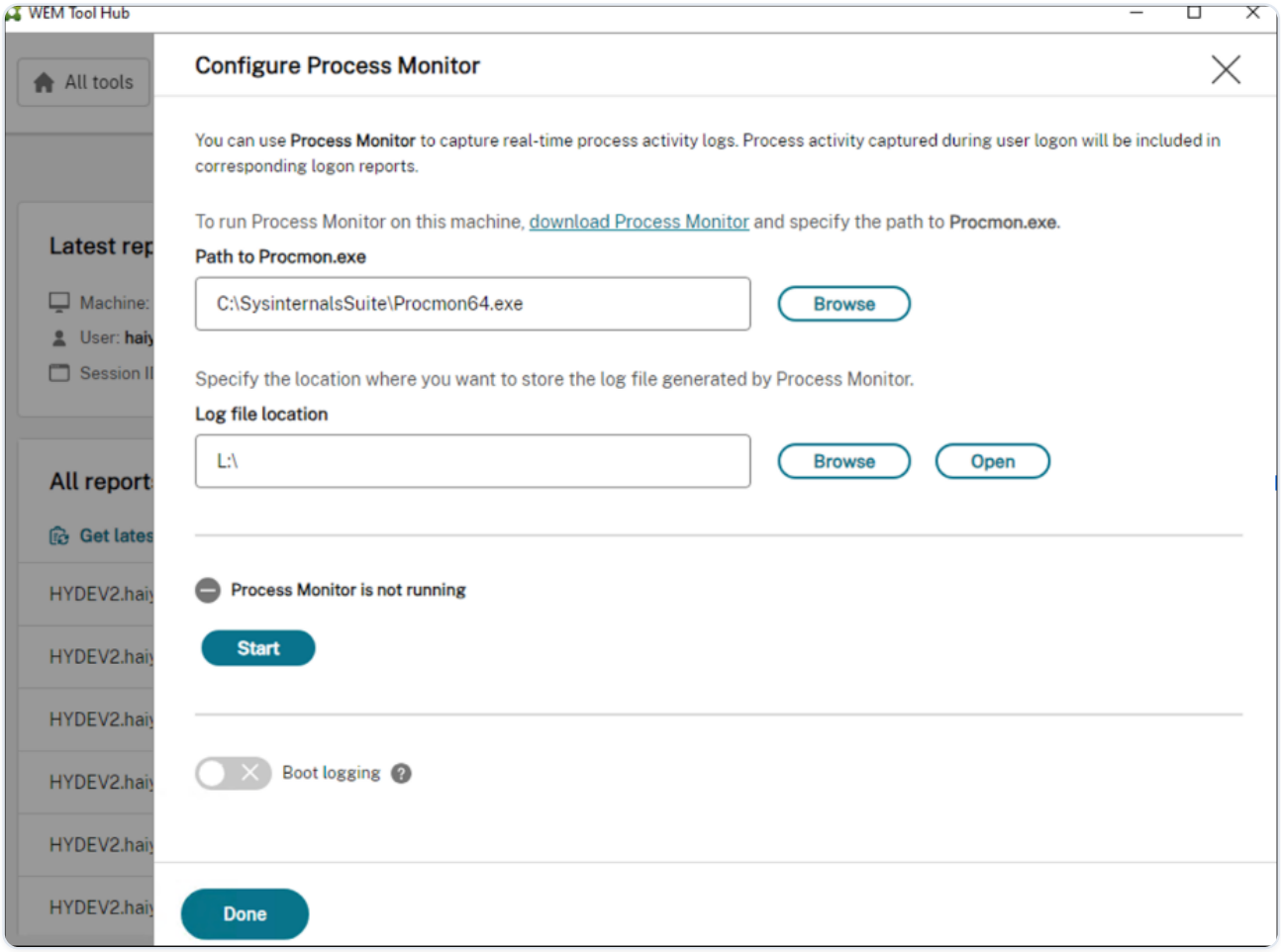
ログ収集とデバッグモードを有効にしても問題が追跡できない場合は、以下の手順を完了してプロセスモニターを使用してログオンプロセスをトレースします。

- 「**Logon Duration Analysis**」メインページの右隅にある「**Configure Process Monitor**」を選択して、プロセスモニターの設定に入ります。
- プロセスモニターがインストールされていない場合は、「**Citrix Environment Tool Hub**」でダウンロードしてパスを設定します。

- シナリオに基づいて、プロセスモニターを直接開始するか、**ブートロギング**を使用するかを選択します。
  - マルチセッション、マルチユーザーのシナリオの場合：別のユーザーで開始します。
  - シングルセッションまたはシングルユーザーのシナリオの場合：**Citrix Environment Tool Hub**がログイン中にプロセストレースを自動的に収集できるように、ブートロギングを使用します。

    > **注:**
    >
    > マシンの起動後、ブートロギングを長時間放置しないでください。そうしないと、ディスク容量を大量に消費する可能性があります。

- ログオフし（切断ではなく完全なログオフを実行していることを確認してください）、その後再ログインするか、マシンを再起動します（ブートロギングの方法を使用している場合）。
- **Citrix Environment Tool Hub**のメインページの右上隅にある三点メニューから、デバッグモードがオンになっていることを確認します。
- トレース収集が完了したら、初期分析の手順を繰り返します。
- レポートの詳細ビューで、右上隅にある**プロセスモニターログ**リンクをクリックして、プロセスモニターログを開きます。これらのログから、どのプロセスが時間、CPU、メモリなどを大量に消費しているかを特定します。



問題の特定と解決

収集されたデータとレポートに基づいて、特定された問題を診断し解決します。

- レポート内で、どのメトリックが総ログイン時間のより高い割合を占めているかを特定します。
- ヒントと推奨事項に基づいて問題を解決します。
  - 例えば、長いユーザープロファイル読み込み時間の問題に対処するために、**Citrix Profile Management**を構成して使用します。
  - 長いグループポリシー処理時間の問題を解決するために、**Citrix Environment Tool Hub**にある**Group Policy Migration Tool**を使用します。

事例研究：長いログイン時間のトラブルシューティング

背景: ユーザーはCitrix環境で長いログイン時間を経験し、管理者に助けを求めました。

初期分析: **Citrix Environment Tool Hub**を使用して、管理者は初期分析を実施し、**グループポリシー**の処理段階に著しく時間がかかっていることに気づきました。

グループポリシー処理(/en-us/workspace-environment-management/service/media/group-policy-processing.png)

ログ収集の有効化: 管理者はログ収集を有効にし、完全なログオフと再ログインを実行した後、分析を再実行して、グループポリシー処理が問題であることを確認しました。

グループポリシーオブジェクトの読み込み時間(/en-us/workspace-environment-management/service/media/gpo-time-to-load.png)

解決策: 管理者は**Citrix Environment Tool Hub**の**グループポリシー移行ツール**を使用して、問題のあるGPOを効率化し、その処理時間を大幅に短縮しました。

- **グループポリシー移行ツール**を起動します。

グループポリシー移行ツール(/en-us/workspace-environment-management/service/media/group-policy-migration-tool.png)

- グループポリシーオブジェクトを選択します。

GPOを選択(/en-us/workspace-environment-management/service/media/select-gpos.png)

- グループポリシーをファイルにエクスポートします。

エクスポート(/en-us/workspace-environment-management/service/media/export.png)。

- グループポリシーをWEMに移行します。

グループポリシーの移行(/en-us/workspace-environment-management/service/media/group-policy-migration.png)

- Active Directory側からグループポリシーを無効にします。

無効にする(/en-us/workspace-environment-management/service/media/disable.png)

結果: これらの手順に従った後、管理者はログイン時間の著しい改善を認め、ユーザー満足度も向上しました。

結果(/en-us/workspace-environment-management/service/media/outcome.png)

さらなる分析: 前述の手順で長いログイン時間の原因が明らかにならない場合は、**Citrix Environment Tool Hub**で分析プロセス中に生成されたすべてのファイルを収集し、さらなる分析のためにサポートに連絡してください。

結論: これらの手順に従うことで、システム管理者は**Citrix Environment Tool Hub**を使用してログイン時間の問題を体系的にトラブルシューティングできます。この構造化されたアプローチは、現在の問題を診断し、将来のログインパフォーマンスの改善に備えるのに役立ちます。

Monitor でのスクリプトタスク実行の問題のトラブルシューティング

DaaS Monitor を使用すると、**フィルター > マシン > マシンアクション > スクリプトタスクの実行**からスクリプトタスクを実行できます。ただし、スクリプトタスクの実行を試みると、次のようなエラーが発生する場合があります。

- `WEM Agent is not found`
- `WEM Agent is not recently connected`
- `WEM Agent version is not supported`

この記事では、これらのエラーの一般的な原因と解決方法について説明します。

WEM Agent がインストールされていない

原因: スクリプトタスクの実行機能には、WEM Agent がインストールされている必要があります。Citrix Virtual Apps and Desktops 2507 LTSR 以降では、WEM Agent は VDA に自動的にインストールされます。以前のバージョンでは、エージェントを手動でインストールする必要があります。

解決策: ターゲットマシンに WEM Agent がインストールされていることを確認します。デフォルトのインストールパスは次のとおりです。

```
C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent
```

WEM Agent が基本展開モードで実行されている

原因: WEM Agent が**基本展開**モードで実行されている場合、オフラインで動作し、ネットワークに接続しません。

スクリプトタスクでは、エージェントが**クラウドサービス展開**モードで実行され、AD参加済み（または*Cloud Connector*方式と呼ばれる）または非ドメイン参加方式を使用して WEM サービスに接続する必要があります。

解決策:

1. エージェントモードを確認するには、**WEM Health Check Tool** を使用します。ツールは次の場所にあります。 `C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Health Check Tool`
2. エージェントを**クラウドサービス展開**モードの AD 参加方式に切り替えるには、次のいずれかのアクションを実行します。
   - **Health Check Tool** を使用して、Cloud Connector の IP アドレスまたは FQDN を指定します。
   - グループポリシーを使用して、複数の VDA に Cloud Connector 設定を配布します。詳しくは、「グループポリシーの構成」を参照してください。

WEM Agent が WEM サービスに登録されていない

原因: WEM Agent は、WEM サービスの構成セットに登録されている必要があります。登録が完了していない場合、スクリプトタスクは実行できません。

解決策:

エージェントの登録ステータスを確認します。

1. **WEM Webコンソール**で、**監視 > エージェント > 登録**に移動します。
2. エージェントが**登録済み**または**未登録**として表示されるかどうかを確認します。
3. エージェントが未登録であるか、登録の問題が解決しない場合は、以下の構成セットのシナリオを確認して、問題をさらにトラブルシューティングしてください。
   - どの構成セットにもバインドされていないエージェント
   - 複数の構成セットにバインドされているエージェント

どの構成セットにもバインドされていないエージェント

原因: 構成セットがエージェントに割り当てられていません。

解決策: 次のいずれかの方法を使用して構成セットを割り当てます。

- Web Studioでマシンカタログを作成または編集する際にWEMオプションを構成する
- WEM Webコンソールでディレクトリオブジェクト（OU、グループ、または個々のマシン）を作成する。

複数の構成セットにバインドされているエージェント

原因: 競合する割り当てが存在します。例:

- マシンカタログが**構成セットA**にバインドされており、
- ドメインコンピューターグループが**構成セットB**にバインドされている。

解決策: WEM Webコンソールで、**Directory Objects**に移動し、バインディングを確認して、競合する構成セットの割り当てを削除します。

WEMサービスに接続されていないWEMエージェント

原因: ネットワークの問題またはファイアウォールの制限により、エージェントがWEMサービスに接続できません。

解決策: ネットワーク環境を確認し、WEMサービスへの必要なすべての接続が許可されていることを確認します。

スクリプトタスクのWEMエージェントバージョン制限

原因: 2207.1.0.1より前のWEMエージェントバージョンは、スクリプトタスクの実行をサポートしていません。

解決策: WEMエージェントをサポートされているバージョンにアップグレードします。

WEMサービスのアップグレードが進行中

原因: WEMインフラストラクチャサービスのアップグレード中に、WEMサービスが一時的に利用できません。

解決策: アップグレードが完了するまで待ってから、操作を再試行してください。

WEMデータベースがアーカイブされました

原因: 30日間連続して操作がなく、アクティブなエージェントが接続しない場合、WEMデータベースはアーカイブされる可能性があります。

解決策: WEM Webコンソールを手動で開いてデータベースのアーカイブを解除します。この操作により、アーカイブ解除プロセスが自動的にトリガーされます。

WEMサービスが準備できていません

原因: WEMサービスがまだプロビジョニングされていません。

解決策: WEMのプロビジョニングが完了し、必要なすべてのサービスが実行されていることを確認してから、操作を再試行してください。

Monitorでスクリプトタスクを使用して未登録のVDAをトラブルシューティングする

Virtual Delivery Agent (VDA) が未登録の場合、そのVDA上の公開アプリケーションとデスクトップはユーザーが利用できません。管理者は、多くの場合、マシンに接続し、ログを確認し、サービスをチェックし、起動を再試行する必要があります。これで、Monitorでスクリプトタスクを直接実行して、未登録のVDAを診断し、VDAへの個別のリモートセッションを開くことなく、影響を受けるWindowsサービスを再起動できます。

単一の未登録VDAをオンデマンドで調査する必要がある場合は、この記事を使用してください。複数のVDAにわたる繰り返し発生する問題については、Windowsイベントトリガーを使用してヘルスチェックを自動的に実行することを検討してください。詳細については、「VDA登録の問題を検出するためのトリガーとしてWindowsイベントを使用する」を参照してください。

前提条件

開始する前に、以下を確認してください。

- サイトでWEMが有効になっていること。
- ターゲットVDAがWEM構成セットにバインドされていること。
- WEMエージェントがターゲットVDAにインストールされ、実行されていること。
- ターゲットマシンでWEMスクリプトタスクを実行する権限があること。

スクリプトタスクを開始できない場合は、「Monitorでのスクリプトタスク実行の問題のトラブルシューティング」を参照してください。

症状

次の症状のいずれかまたは複数が現れた場合は、この手順を使用してください。

- ユーザーが、公開アプリケーションまたはデスクトップの起動に失敗したと報告する。
- Monitorで、影響を受けるVDAの**Failure Type**フィールドに**Unregistered**ステータスが表示される。

ワークフロー

問題を診断して修復するには、次のワークフローを使用します。

1. Monitorで未登録のVDAを見つける。
2. ターゲットVDAで、**Diagnose VDA Unregistration**スクリプトタスクを実行します。

3. スクリプトタスクの結果を確認し、失敗したチェックを特定します。
4. 結果が停止している、または異常なサービスを示している場合は、そのサービスに対して**Restart Windows Service**スクリプトタスクを実行します。
5. VDAが登録されていること、およびユーザーがアプリまたはデスクトップを起動できることを確認します。

ステップ1：未登録のVDAを見つける

1. **Monitor**から、左ペインで**Filters**を選択します。
2. **Machines**ビューまたは検索結果から、影響を受けるマシンを見つけます。
3. マシンの登録状態が**未登録**であることを確認します。

   VDAの未登録ステータス(/en-us/workspace-environment-management/service/media/vda-unregistered.png)

ステップ2：Diagnose VDA Unregistrationスクリプトタスクを実行する

1. 影響を受けるマシンを選択します。
2. **マシンアクション > スクリプトタスクの実行 > Diagnose VDA Unregistration** を選択します。

   Diagnose VDA Unregistrationスクリプトタスク(/en-us/workspace-environment-management/service/media/vda-unregistered-diagnose.png)

3. Always On Tracing (AOT) の障害ログを収集するための時間範囲を入力します。

   AOT障害ログを収集するための時間範囲(/en-us/workspace-environment-management/service/media/vda-unregistered-diagnose-period.png)

4. 「**実行**」をクリックしてタスクを送信します。

このタスクは、ターゲットVDAで診断チェックを実行し、合格、警告、失敗したチェックを要約した結果を生成します。

診断に含まれるチェック

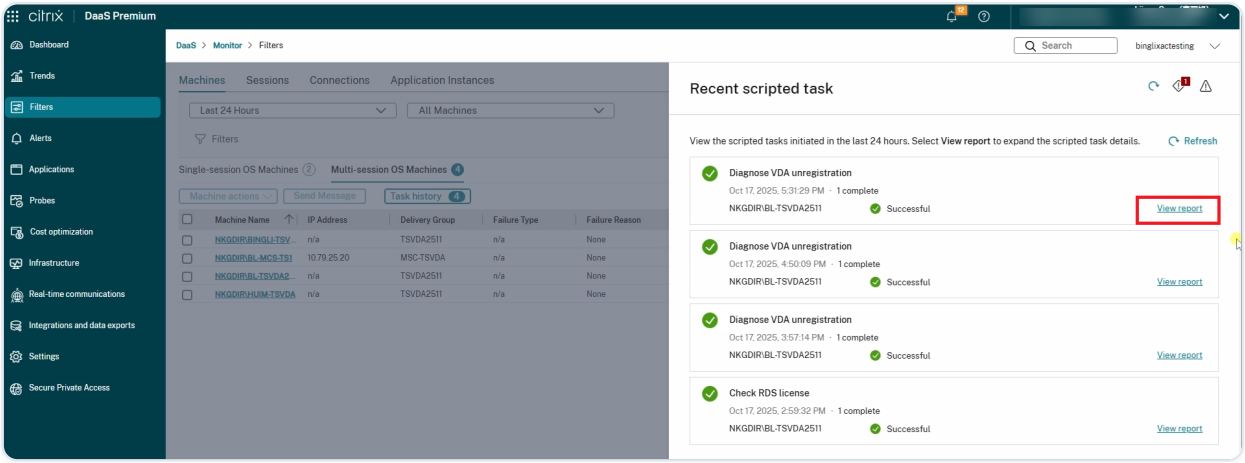
「**VDA登録解除の診断**」スクリプトタスクは、次の領域をチェックできます。

- **CHC (Citrix Health Check) チェック**。ファイアウォールルール、レジストリ設定、Delivery ControllerまたはCloud Connectorの構成、ドメイン信頼、証明書、TLS構成、時刻同期など、一般的なVDA登録の前提条件を検証します。

- **RDSチェック**。マルチセッションVDAの場合、リモートデスクトップサービスがインストールされ実行されていること、およびリモートデスクトップサービスのライセンスが正しく構成されていることを確認します。
- **DNSチェック**。VDAが構成済みのDelivery ControllerまたはCloud Connectorを解決できることを確認します。
- **Delivery Controller / Cloud Connector接続チェック**。VDAが、`80`や`443`などの必要なブローカーポートでDelivery ControllerまたはCloud Connectorに到達できるかどうかをテストします。
- **AOT障害ログチェック**。Citrix AOTログを収集およびフィルタリングし、最近の登録失敗の詳細を簡単に確認できるようにします。
- **イベントログスキャン**。最近のWindowsアプリケーションおよびシステムイベントログをスキャンして、既知の登録関連イベントを検索し、一致するものを一覧表示します。

ステップ3：診断結果を確認する

1. スクリプトタスクが完了したら、タスクの結果または出力を開きます。



2. 「**概要**」セクションで概要を確認し、失敗したチェックを特定します。
3. 結果の詳細を使用して、次のアクションを決定します。

一般的な検出結果は次のとおりです。

- **TCPポートエラー**。VDAが必要なポートでDaaSまたはCloud Connectorに到達できません。

  診断結果のTCPポートエラー(/en-us/workspace-environment-management/service/media/vda-unregistered-diagnose-result-tcp.png)

- **DNSエラー**。VDAがDNSサーバーに到達できません。

診断結果のDNSエラー(/en-us/workspace-environment-management/service/media/vda-unregistered-diagnose-result-dns.png)

- **Citrix Desktop Serviceエラー**。登録に必要なCitrixサービスが停止しているか、異常です。

  診断結果のサービスエラー(/en-us/workspace-environment-management/service/media/vda-unregistered-diagnose-result-service.png)

これらのエラーは通常、VDAの登録解除に関連しています。

診断結果のサービスエラー(/en-us/workspace-environment-management/service/media/vda-unregistered-diagnose-result-details.png)

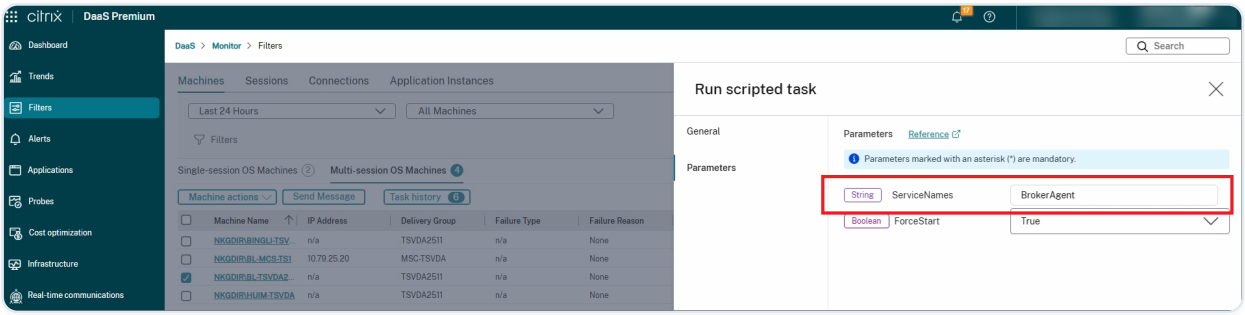
結果がネットワーク、DNS、コントローラー、ドメイン信頼、または証明書の問題を示している場合は、診断の詳細に基づいてそれらの問題を解決してください。結果が停止しているか異常なサービスを示している場合は、次のステップに進んでください。

ステップ4：影響を受けるWindowsサービスを再起動する

診断結果によって報告された*Citrix Desktop Service*エラーの場合にのみ、**Windowsサービスの再起動**スクリプトタスクを実行します。

1. 同じVDAを選択します。
2. **マシンアクション > スクリプトタスクの実行 > Windowsサービスの再起動**を選択します。

   Windowsサービスの再起動スクリプトタスク(/en-us/workspace-environment-management/service/media/vda-unregistered-restart.png)
3. 診断結果からサービス名を入力します。*例えば*、結果がBroker Agentサービスを特定した場合、`BrokerAgent`と入力します。



4. **実行**をクリックしてタスクを送信し、完了するまで待ちます。

このタスクは、指定されたサービスを再起動し、サービスが`Running`状態に戻ることを確認します。

ステップ5：VDA登録状態を確認する

1. **Monitor**で、マシンビューを更新します。
2. VDAの登録状態が**登録済み**に変わったことを確認します。
3. ユーザーにアプリまたはデスクトップを再度起動するよう依頼します。

VDAが未登録のままの場合は、診断結果をさらなるトラブルシューティングやサポートエスカレーションの証拠として使用してください。サポートケースをオープンする際には、失敗したチェック、関連するイベントID、およびAOT障害ログの詳細を含めてください。

関連情報

- スクリプトタスクを使用してVDA登録とセッション起動の問題をトラブルシューティングする
- Windowsイベントをトリガーとして使用してVDA登録の問題を検出する
- Monitorでのスクリプトタスク実行の問題をトラブルシューティングする
- スクリプトタスク

スクリプトタスクを使用してVDA登録とセッション起動の問題をトラブルシューティングする

管理者として、展開環境におけるVirtual Delivery Agents (VDA) に関連する問題をプロアクティブに発見したい場合があります。この洞察は、ユーザーが影響を受ける前に問題を時間内に解決するのに役立ちます。

Workspace Environment Management (WEM) には、VDAs の健全性を測定するためのチェックを実行できる組み込みのスクリプトタスク Cloud Health Check が用意されています。このタスクを使用すると、VDA 登録およびセッション起動の問題の考えられる原因を特定できます。タスクが実行されるたびに、詳細なヘルスチェックレポートが生成されます。レポートに基づいて、問題を分析し、適切に解決できます。

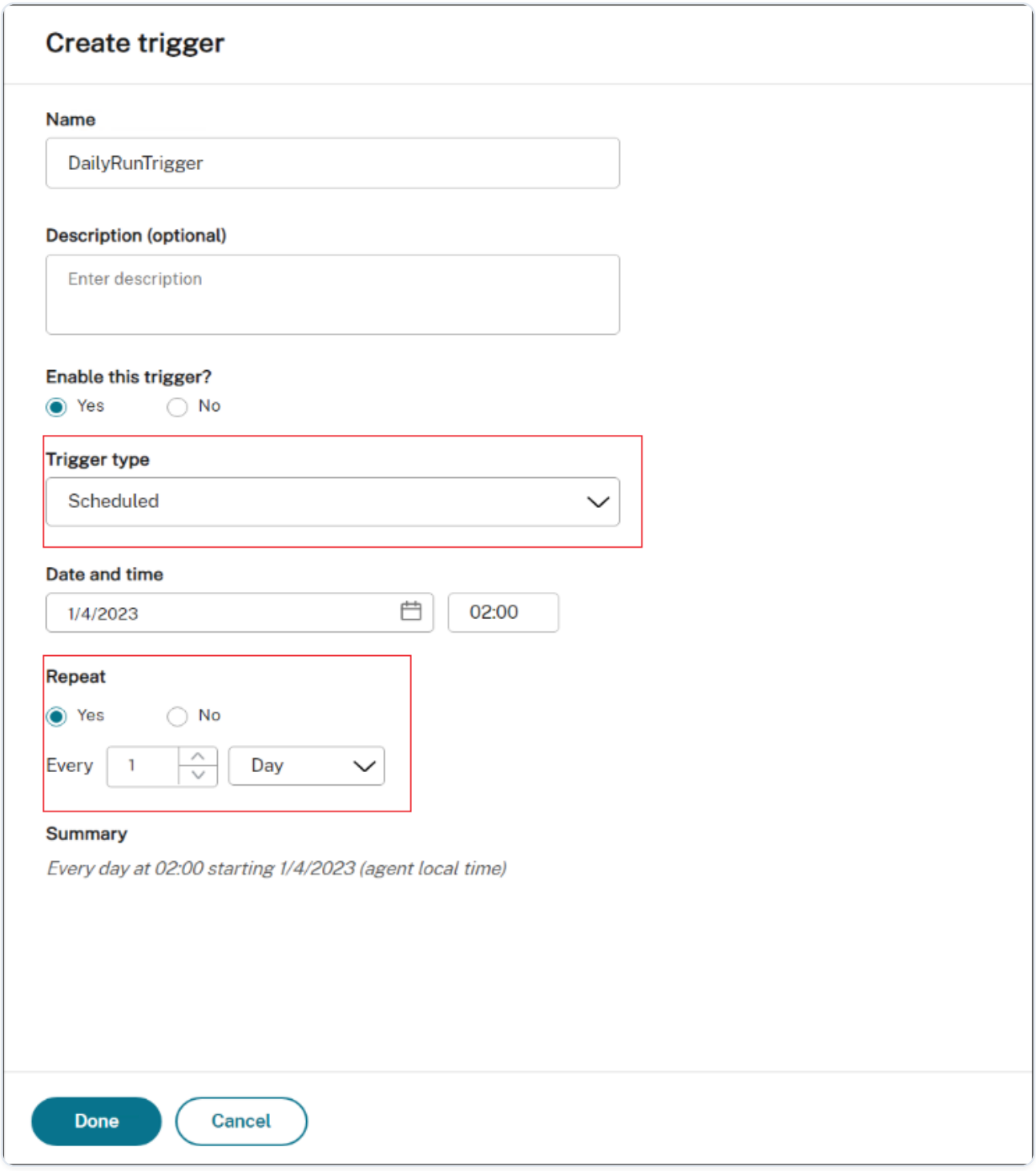
タスクを構成する一般的なワークフローは次のとおりです。

1. スケジュールされたトリガーを作成します。
2. トリガーをCloud Health Checkタスクに関連付けます。
3. ヘルスチェックレポートを表示します。

スケジュールされたトリガーを作成する

次の情報は、トリガーの作成 のガイダンスを補足するものです。スケジュールされたトリガーを追加するには、その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細に注意してください。

関連する構成セットに移動し、**トリガー** に移動して、次のようにトリガーを作成します。



この例では：

- トリガーに `DailyRunTrigger` という名前を付けます。
- **トリガーの種類** で、**スケジュール済み** を選択します。
- **日付と時刻**で、タスクが02:00, April 4, 2023に実行されるように構成します。
- 「**繰り返し**」では、タスクが毎日実行されるように構成します。

トリガーをCloud Health Checkタスクに関連付ける

以下の情報は、スクリプトタスクの構成のガイダンスを補足するものです。Cloud Health Checkタスクを構成するには、その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細に注意してください。

関連する構成セットに移動し、**スクリプトタスク設定**に移動して、Cloud Health Checkタスクを次のように構成します。

Cloud Health Checkのトリガー(/en-us/workspace-environment-management/service/media/trigger-for-cloud-health-check.png)

この例では、スケジュールされたトリガー`DailyRunTrigger`を選択して、Cloud Health Checkタスクに関連付けます。

ヘルスチェックレポートを表示する

Cloud Health Checkタスクは、スケジュールされた時刻に実行されます。完了後、レポートを確認することでヘルスチェックの結果を表示できます。詳細については、レポートを参照してください。

ヘルスチェックレポート(/en-us/workspace-environment-management/service/media/chc-health-check-report.png)

Web Console > ホーム > 概要で、VDAのヘルスステータスの概要を確認できます。VDAのヘルスステータスを詳細に表示するには：

- **通常**の下にある**表示**をクリックして、通常状態のVDAに関するレポートを表示します。
- **異常**の下にある**表示**をクリックして、異常状態のVDAに関するレポートを表示します。

VDAのヘルスステータス(/en-us/workspace-environment-management/service/media/vda-health-status.png)

異常状態のVDAに関するレポートには、発見された問題と修正の推奨事項が含まれています。それに応じて問題を解決できます。

Cloud Health Checkタスクをオンデマンドで実行する

WEM は、エージェントマシンでタスクをオンデマンドで実行する方法も提供します。これを行うには、次の手順を実行します。

1. **>** **>** に移動し、エージェントを選択して、 **>** を選択します。

   スクリプトタスクの実行(/en-us/workspace-environment-management/service/media/run-scripted-task-chc.png)

2. 表示されるウィザードで、タスクとして を選択し、 をクリックします。

   スクリプトタスクの実行(/en-us/workspace-environment-management/service/media/run-scripted-task-chc-2.png)

3. タスクが完了したら、レポートを確認してヘルスチェックの結果を表示できます。詳細については、「レポート」を参照してください。

Windowsイベントをトリガーとして使用してVDA登録の問題を検出する

管理者として、VDA登録の問題に遭遇した場合、各VDAにログオンしてCitrix Health Assistantを実行し、VDA登録の問題をトラブルシューティングする必要があるかもしれません。

Workspace Environment Management (WEM) を使用すると、Windowsイベントをトリガーとして使用してVDA登録の問題を検出できます。その後、トリガーをスクリプト化されたタスクである Cloud Health Checkに関連付けます。タスクが実行されるようにトリガーされ、考えられる原因が特定されます。最後に、タスクレポートを使用して、それに応じて問題を解決できます。これにより、VDA登録の問題を常に把握し、より多くのユーザーが影響を受ける前に時間内に解決できます。

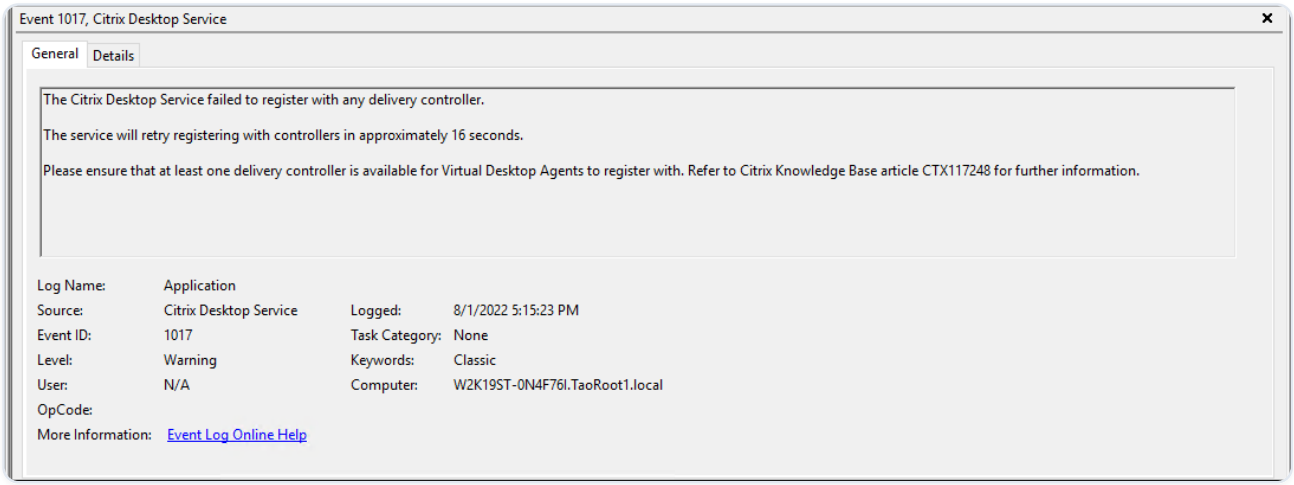
目標を達成するための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. VDA登録の問題に関連するWindowsイベントログを取得します。
2. VDA登録の問題を検出するためのWindowsイベントトリガーを作成します。
3. Windowsイベントトリガーをタスク「Cloud Health Check」に関連付けます。
4. タスク実行レポートを表示します。

Windowsイベントログを取得する

未登録のVDAから発生するWindowsイベントログを収集する必要があります。この情報は、VDAが未登録である理由を理解するための手がかりとなります。

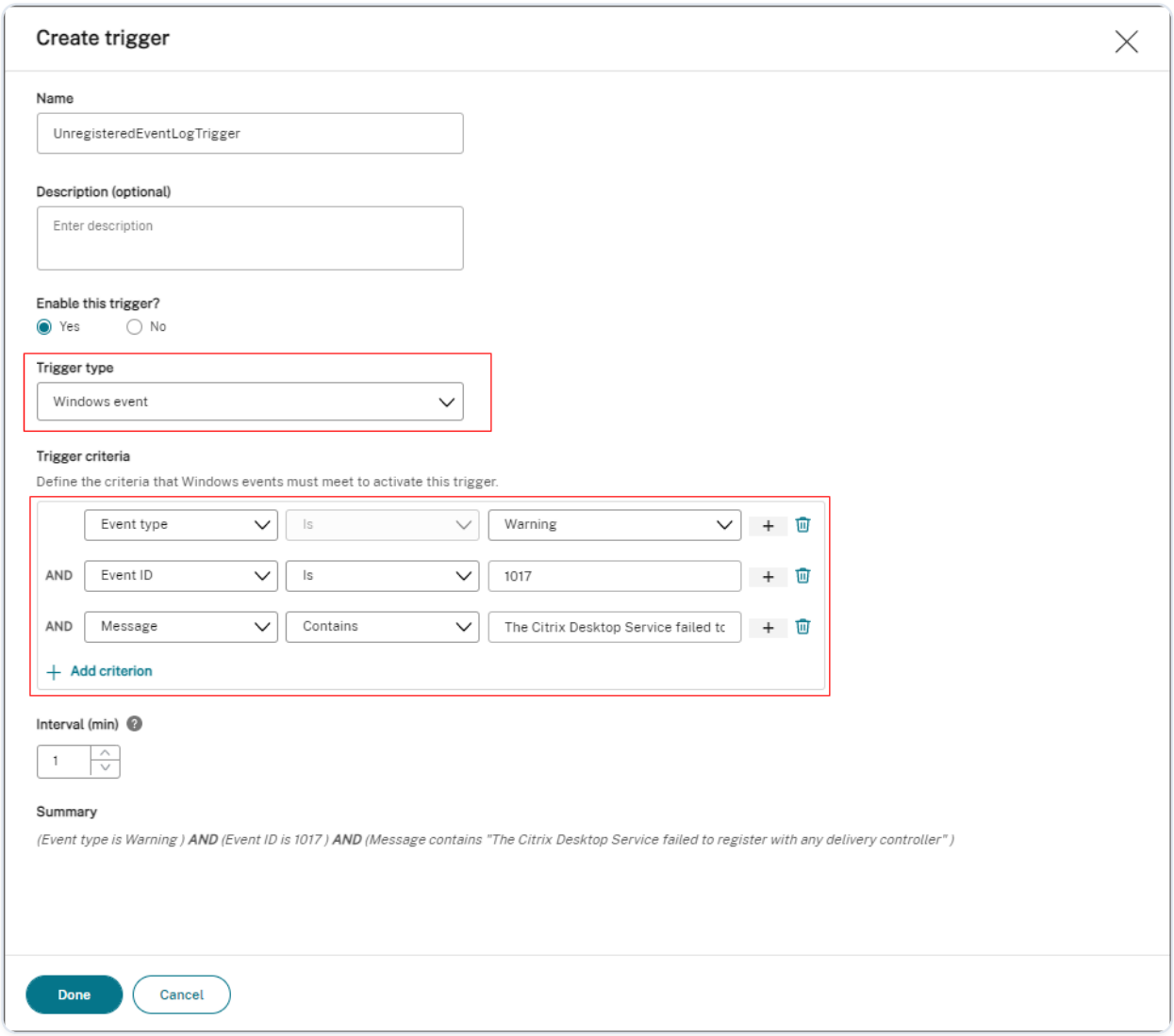
以下は、未登録のVDAに関連するWindowsイベントログのメッセージ例です。



Windowsイベントトリガーを作成する

以下の情報は、トリガーの作成のガイダンスを補足するものです。Windowsイベントトリガーを追加するには、その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細に注意してください。

- 関連する構成セットに移動し、**「トリガー」**に移動して、`UnregisteredEventLogTrigger`という名前のトリガーを作成します。



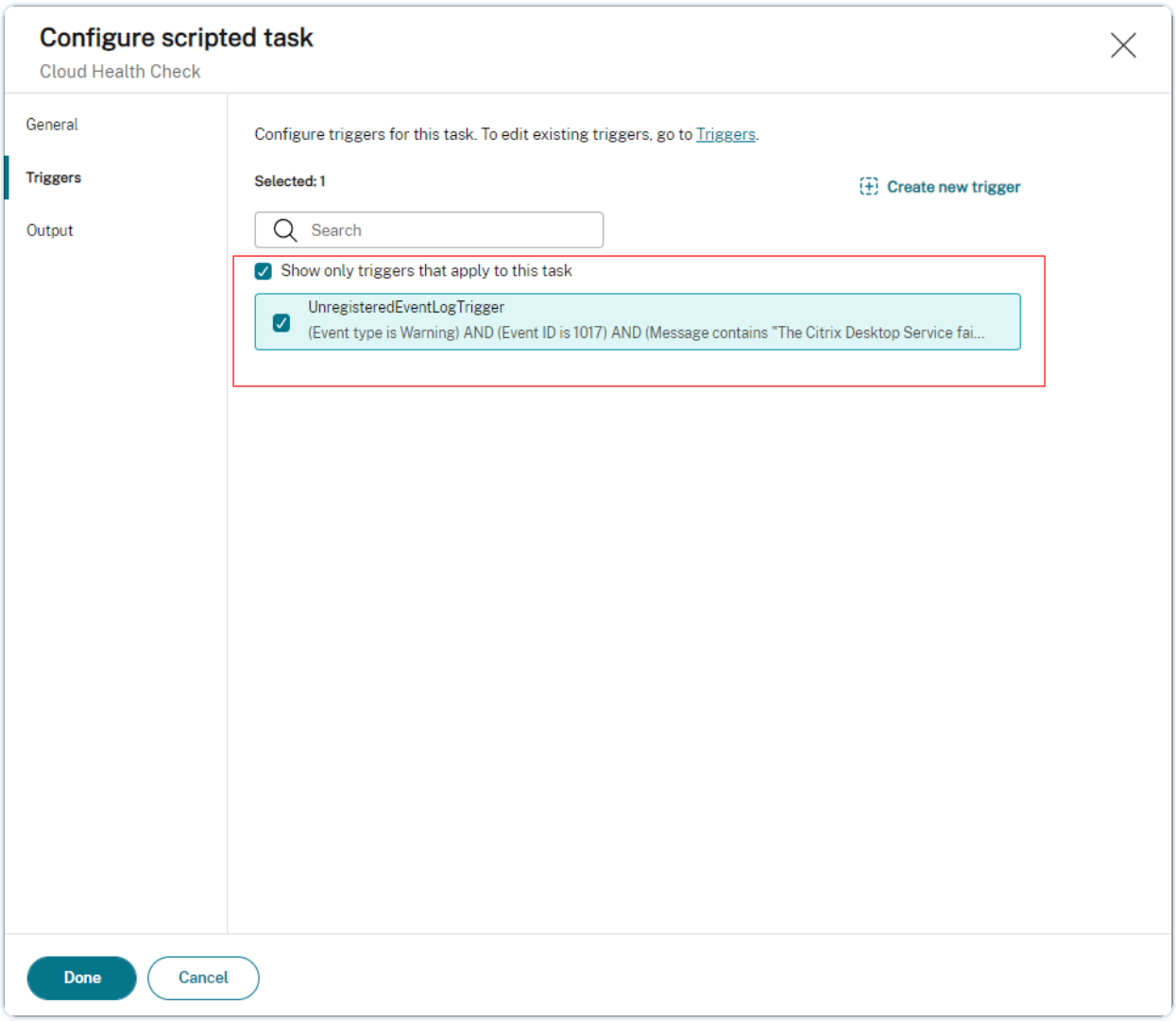
この例では、次のように設定を構成します。

- **トリガーの種類**には、**Windowsイベント**を選択します。
- **トリガー条件**の場合:
  - **イベントの種類**: 警告
  - **イベントID:** `1017`
  - **メッセージ:** `The Citrix Desktop Service failed to register with any Delivery Controller`

WindowsイベントトリガーをCloud Health Checkタスクに関連付ける

以下の情報は、スクリプトタスクの構成のガイダンスを補足するものです。Cloud Health Checkタスクを構成するには、その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細に注意してください。

- 関連する構成セットに移動し、**スクリプトタスク設定**に移動して、Cloud Health Checkタスクを構成します。

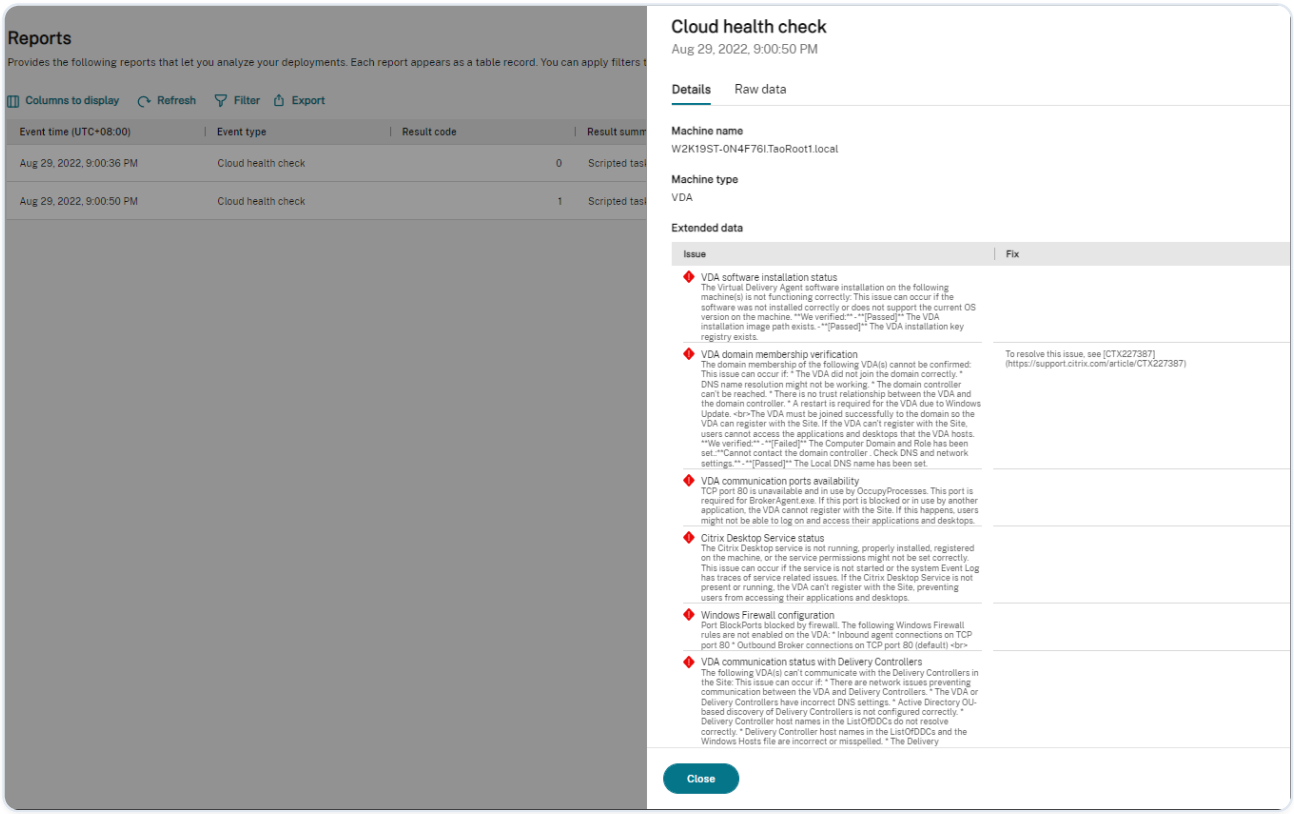


この例では、次のように設定を構成します。

- **トリガー**で、`UnregisteredEventLogTrigger`トリガーを選択して、Cloud Health Checkタスクに関連付けます。

タスク実行レポートを表示する

VDAが未登録状態の場合、WEMエージェントは対応するWindowsイベントログを検出します。Cloud Health Checkタスクは自動的に実行されます。レポートを確認することで結果を表示できます。詳細については、レポートを参照してください。この例では、次のレポートが表示されます。



レポートに基づいて、問題を分析し、適切に解決できます。

参照

特定のタスクを実行するには、以下の記事を使用してください。

- エージェントイベントログ
- エージェントインサイト
- CMDおよびUIモードのエージェント
- エージェント側の更新操作
- シトリックス環境ツールハブ(/ja-jp/workspace-environment-management/service/reference/wem-tool-hub.html)
- 一般的なコントロールパネルアプレット
- 顧客データ管理
- 動的トークン
- 環境設定レジストリ値
- フィルター条件
- ログパーサー
- ポート情報
- WEM ヘルスチェックツール(/ja-jp/workspace-environment-management/service/reference/wem-health-check-tool.html)
- XMLプリンターリスト構成

エージェントイベントログ

この記事では、WEMイベントログの包括的なリストと、それに対応する個別のイベントIDを提供します。

WEM構成セット

イベントID	レベル	メッセージ
1001	情報	エージェントは構成セットに正常に登録されました: 名前:

イベントID	レベル	メッセージ
		`configuration set name` (ID: `configuration set ID`) 。
1002	警告	エージェントはどの構成セットにも登録されていません

インフラストラクチャサービスへのWEMエージェント接続

イベントID	レベル	メッセージ
2001	情報	インフラストラクチャサービスに接続中: アドレス: `service address`
2002	エラー	無効なインフラストラクチャサービスアドレス
2003	エラー	WEMサービスに接続できません
2020	情報	WEMサービスに接続中: アドレス: `service address`
2021	情報	WEM用に構成されたCloud Connectorを取得中: `Cloud Connector list`
2022	情報	Citrix DaaS™からCloud Connectorを検出中: `Cloud Connector list`
2023	エラー	すべてのCloud Connectorに到達できません
2024	情報	Cloud Connector 稼働中: `Cloud Connector address`
2025	警告	Cloud Connector に到達できません: `Cloud Connector address`

イベントID	レベル	メッセージ
2026	エラー	Cloud Connector を介して WEM サービスに接続できません

エージェント構成の更新イベント

イベント ID	レベル	メッセージ
3001	情報	エージェント構成設定の更新を開始しています
3002	エラー	エージェント構成設定の更新が例外により失敗しました: `exception code`
3003	情報	エージェント構成設定が正常に更新されました

ディレクトリサービスイベント

イベントID	レベル	メッセージ
4001	警告	ユーザーのトークングループリストを取得できません
4002	警告	ユーザーのディレクトリサービスグループを取得できません
4003	警告	ユーザーが所属するすべてのグループを取得できません
4004	警告	ユーザーが所属するすべてのOUを取得できません
4005	警告	ローカルコンピューターのグループリストを取得できません

イベントID	レベル	メッセージ
4006	警告	ローカルコンピューターのOUリストを取得できません

マシンポリシーイベント

イベントID	レベル	メッセージ
5001	情報	コンピューターグループポリシーの処理を開始しています
5002	情報	前提条件が満たされていないため、マシンポリシーの処理をスキップしています
5003	情報	マシンポリシーの処理をスキップしています: グループポリシー設定の処理が有効になっていません
5004	警告	コンピューターが属するグループまたはOUを取得できません。グループポリシーの処理が終了しました
5005	情報	コンピューターグループポリシーが正常に適用されました
5006	警告	コンピューターグループポリシーを適用できません。失敗したGPOのリスト: `GPO list`

ユーザーポリシーイベント

イベントID	レベル	メッセージ
5501	情報	`user name` のユーザーグループポリシーの処理を開始しています

イベントID	レベル	メッセージ
5502	情報	前提条件が満たされていないため、ユーザーポリシーの処理をスキップしています
5503	情報	ユーザーポリシーの処理をスキップしています: グループポリシー設定の処理が有効になっていません
5504	情報	マップされたアカウントが見つからないため、ローカルユーザー `user identity name` のポリシー処理をスキップしました
5505	警告	ユーザーが属するグループまたはOUを取得できません。グループポリシーの処理は終了しました
5506	情報	ユーザーグループポリシーが正常に適用されました
5507	警告	ユーザーグループポリシーを適用できません。失敗したGPOのリスト: `GPO list`

キャッシュ同期イベント

イベントID	レベル	メッセージ
6001	情報	自動エージェントキャッシュ同期を開始しています
6002	情報	オンデマンドエージェントキャッシュ同期を開始しています

イベントID	レベル	メッセージ
6003	警告	ネットワークが利用できません。エージェントキャッシュの同期はスキップされました
6004	警告	エージェントキャッシュの同期はスキップされました: 無効なクラウドサービス設定
6005	警告	エージェントキャッシュの同期はスキップされました: 無効なインフラストラクチャサービスアドレス
6006	エラー	予期しないエラーによりエージェントキャッシュの同期に失敗しました
6007	情報	エージェントキャッシュの同期が正常に完了しました
6008	情報	ファイルベースのキャッシュ同期を開始しています。
6009	警告	キャッシュファイルが大きすぎて永続データ保存場所に保存できません。ファイルサイズ: `{size}`。
6010	情報	ファイルベースのキャッシュ同期が完了しました。
6011	情報	ファイルベースのキャッシュ情報: 同期モード: `{sync mode}`、キャッシュの場所: `{location}`
6012	エラー	ファイルベースのキャッシュ同期に失敗しました。エラー: `{error message}`

イベントID	レベル	メッセージ
6013	エラー	キャッシュを永続データ保存場所に保存できません。エラー: `{error message}`
6014	情報	永続キャッシュファイルが見つかりません。キャッシュは永続データ保存場所から復元されません。
6015	エラー	永続データロケーションからキャッシュを復元できません。エラー: `{error message}`
6016	情報	無効な永続キャッシュファイルを削除しています。
6017	エラー	基本展開モードの基本設定キャッシュを作成できません。エラー: `{error message}`
6018	情報	ファイルベースのキャッシュ同期に成功しました。キャッシュの場所: `{location}`

最適化イベント

CPU最適化

イベントIDが7003から7008までのメッセージを書き込むには、次のレジストリを追加します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host

名前: EnableExtraLoggingForOptimization

種類: REG_DWORD

値: 1

> **注意:**

レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる深刻な問題が発生する可能性があります。Citrix® は、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

イベントID	レベル	メッセージ
7001	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のCPUスパイク保護を初期化しています。各コアの平均CPU使用率の合計は `percentage value` で検出され、システム全体のCPU使用率は `percentage value` です。
7002	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のCPUスパイク保護を初期化しています。平均CPU使用率は `percentage value` で検出され、各コアの平均CPU使用率の合計は `percentage value` で検出されました。
7003	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) の優先度を `priority value` に変更しました。

イベントID	レベル	メッセージ
7004	警告	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) の優先度を `priority value` に変更できません。エラーコード: `error code`。
7005	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のアフィニティ (`affinity value`) が正常に処理されました。
7006	警告	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のアフィニティ (`affinity value`) を構成できませんでした。
7007	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) の I/O 優先度を `priority value` に変更しました。
7008	警告	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) の I/O 優先度を `priority value` に変更できませんでした。

メモリ最適化

イベント ID	レベル	メッセージ
8001	情報	プロセス `process name` (ID: `process ID`), ユーザー `user name` によって作成されたメモリ最適化を初期化しています。
8002	情報	プロセス `process name` (ID: `process ID`), ユーザー `user name` によって作成されたメモリ最適化が成功しました。
8003	警告	プロセス `process name` (ID: `process ID`), ユーザー `user name` によって作成されたメモリを最適化できません。

エージェントインサイト

エージェントインサイトは、WEMサービスエージェントに付属するツールで、セッションパフォーマンス、ユーザープロファイルの使用状況、ログオンアクティビティをリアルタイムで監視およびトラブルシューティングするのに役立ちます。

エージェントインサイト(/en-us/workspace-environment-management/service/media/agent-insights-panel.png)

> **注:**
>
> エージェントインサイトは、WEMサービスエージェントバージョン2511以降でのみ利用可能です。

> エージェントインサイトを使用すると、マシンで次の詳細を確認できます。

- **セッション**: 現在のセッションステータスと過去5分間のセッション品質。

- **プロファイル**: プロファイルの種類、プロファイルサイズ、大きなファイルのリスト、および（プロファイルコンテナの場合）容量を含むユーザープロファイルの詳細。
- **ログオン**: ログオン時間、開始時刻と終了時刻、および主要なログオンメトリック。

WEM管理者: WEMコンソールでエージェントインサイトを有効にして構成する

エージェントが**基本モード**以外のモードで実行されている場合は、WEM Webコンソールを使用して、マシンでエージェントインサイトを有効にして構成します。手順は次のとおりです。

1. WEM Webコンソールで、**構成セット**にある構成セットを開きます。
2. **詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > ユーザーインタラクション**に移動し、**エージェントメニューにエージェントインサイトを表示**を選択します。

   詳細については、「詳細設定」を参照してください。
3. ログオンデータが正しく表示されるようにするには、**詳細設定 > 監視設定 > 追加設定**に移動し、**エージェントインサイトに表示するためにレポートをローカルに保存**を選択します。

   詳細については、「追加設定」を参照してください。

Agentが**Basic mode**で実行されている場合は、グループポリシーを使用してこのAgent Insights設定を有効にします: `enableAgentInsightsManagement`。

詳細については、「Manage Basic Deployment Agents」を参照してください。

ユーザー: マシンでAgent Insightsを有効にして開く

WEM管理者がWEM web consoleでAgent Insightsを有効にして構成すると、エンドユーザーとして、ご自身のマシンからこの機能にアクセスできます。

Agent Insightsパネルを有効にして開き、詳細なセッションパフォーマンス、プロファイルコンテナの使用状況、ログオンアクティビティを表示します。これを行うには:

1. エージェントを**UI mode**で実行します。

   詳細については、「Agent in CMD and UI mode」を参照してください。
2. 通知領域のエージェントアイコンを右クリックし、**Enable Agent Insights**を選択します。

   Agent Insightsを無効にするには、アイコンをもう一度右クリックし、**Disable Agent Insights**を選択します。
3. 通知領域のエージェントアイコンをクリックします。Agent Insightsパネルが開きます。

4. パネルの左側にあるタブを使用して、次の情報を表示します:

   - セッション
   - プロファイル
   - ログオン

参照

Agent Insightsパネルの次のタブは、セッションパフォーマンス、ユーザープロファイルの使用状況、ログオンアクティビティのトラブルシューティングに役立つ詳細なメトリックを提供します:

- セッション
- プロファイル
- ログオン

セッションタブ

セッションタブでは、過去5分間の現在のセッションステータスとセッション品質に関する情報を提供します。

> **注:**
>
> このタブは、Citrix仮想デスクトップのデータのみを表示します。物理マシンには適用されません。

現在のセッションステータス

メトリック	説明
ICA® ラウンドトリップ時間	ユーザー操作とグラフィック応答の間の時間。ICA待機時間、エンドポイント遅延、ホスト遅延が含まれます。
ICA待機時間	ネットワーク待機時間を測定します。
ユーザー入力遅延	ユーザー入力（マウスのクリックやキーストロークなど）が処理されるまでに待機する時間。値が高い場合、リソースの競合やパフォーマンスの問題を示している可能性があります。

セッション品質

セッション品質セクションでは、過去5分間のユーザーエクスペリエンスを要約します。

品質	説明
良好	セッションは応答性があります。
普通	パフォーマンスの低下が見られます。
低い	高い遅延または遅延があり、ネットワークまたはシステムの問題が原因である可能性があります。

プロファイルタブ

プロファイルタブには、以下が表示されます。

- プロファイルの種類
- プロファイルサイズ
- 容量（プロファイルコンテナのみ）
- 大きいファイルの一覧

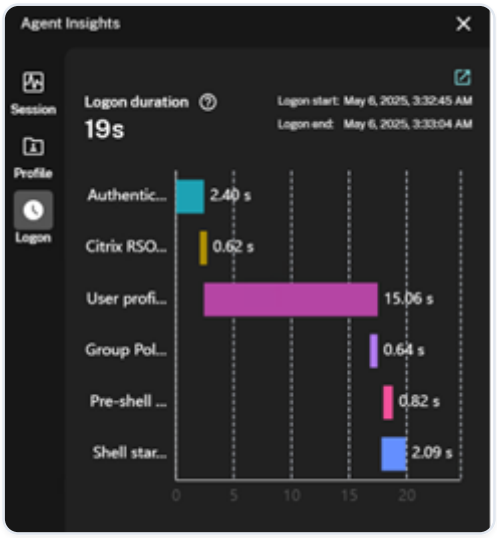
> **注:**
>
> プロファイルデータは、Agent Insights の読み込み時に更新されます。再スキャンするには、**更新**を選択します。

ログオンタブ

ログオンタブには、次のメトリックが表示されます。

メトリック	説明
ログオン時間	ログオンプロセスに必要な合計時間。
開始時刻と終了時刻	ログオンの開始時刻と終了時刻のタイムスタンプ。
基本メトリック	ログオンパフォーマンスの主要な指標。

ログオンデータが読み込まれる前に待機ページが表示されます。ユーザーがログオンすると、概要が表示されます。



ヒント:

Citrix Environment Tool Hubがインストールされている場合は、データ領域またはパネルの右上隅にあるアイコンを選択して、詳細を表示します。インストールされていない場合は、同じ場所にダウンロードリンクが表示されます。拡張診断および監視機能にアクセスするには、**Citrix Environment Tool Hub**をインストールしてください。

CMDモードとUIモードのエージェント

Workspace Environment Management™エージェントは、CMDモードとUIモードで実行できます。

ログオン時にエージェントを実行するように構成する場合、CMDモードまたはUIモードのどちらで起動するかを制御できます。そのためには、**管理コンソール > 詳細設定 > 構成 > メイン構成**タブにある**エージェントの種類**設定を使用します。詳細については、「詳細設定」を参照してください。

ログオン時にエージェントを自動的に実行するように構成しない場合、管理者またはエンドユーザーは、エージェントマシンでエージェントをCMDモードまたはUIモードで起動できます。そのためには、エージェントのインストールフォルダーに移動し、次の2つの.exeファイルを特定します。

- **VUEMCmdAgent.exe**。エージェントをCMDモードで実行できます。
- **VUEMUIAgent.exe**。エージェントをUIモードで実行できます。

CMDモードとUIモードの違い

CMDモードについては、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行される場合、CMDモードではコマンドプロンプトが表示されます。CMDモードは起動後に自動的に終了します。
- 起動時、CMDモードはユーザーに割り当てられたアクションをエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。
- 現在、CMDモードはコマンドライン操作をサポートしていません。

UIモードについては、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行される場合、UIモードではエージェントのスプラッシュ画面が表示されます。
- UIモードでは、次のオプションが表示されます。
    - **マイアプリケーション**。割り当てられているアプリケーションを表示できます。
    - **Capture Screen**。画面キャプチャツールを開きます。このオプションを有効にするには、**Administration Console > Advanced Settings > UI Agent Personalization > Helpdesk Options**タブで**Enable Screen Capture**を有効にする必要があります。詳細については、Helpdesk Optionsを参照してください。
    - **Reset Actions**。**Reset actions**ツールを開き、環境でリセットするアクションを指定できます。

    このオプションを有効にするには、**Administration Console > Advanced Settings > UI Agent Personalization > UI Agent Options**タブで**Allow Users to Reset Actions**を有効にする必要があります。詳細については、UI Agent Optionsを参照してください。

    - **Manage Applications**。**Manage applications**ツールを開き、アプリケーションを管理できます。

    このオプションを有効にするには、**Administration Console > Advanced Settings > UI Agent Personalization > UI Agent Options**タブで**Allow Users to Manage Applications**を有効にする必要があります。詳細については、UI Agent Optionsを参照してください。

    - **Manage Printers**。**Manage printers**ツールを開き、デフォルトのプリンターを構成し、印刷設定を変更できます。

このオプションを有効にするには、**Administration Console > Advanced Settings > UI Agent Personalization > UI Agent Options**タブで**Allow Users to Manage Printers**を有効にする必要があります。詳細については、UI Agent Optionsを参照してください。

- **Refresh**。エージェントを更新し、ユーザーに割り当てられたアクションをエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。
- **Help**。ヘルプを求めることができるWebサイトを開きます。

このオプションを有効にするには、**Administration Console > Advanced Settings > UI Agent Personalization > Helpdesk Options**タブで**Help Link Action**を指定する必要があります。詳細については、Helpdesk Optionsを参照してください。

- **About**。エージェントのバージョンに関する情報を表示します。
- **Exit**。エージェントを閉じます。

アクションをリセットし、アプリケーションとプリンターを管理するには、UIモードでエージェントを使用する必要なく、次のツール（エージェントのインストールフォルダーで利用可能）を直接使用できます。

- **ResetActionsUtil.exe**。**Reset actions**ツールを開きます。
- **AppsMgmtUtil.exe**。**Manage applications**ツールを開きます。
- **PrnsMgmtUtil.exe**。**プリンターの管理**ツールを開くことができます。

CMDモードとUIモードの主な違い：

- CMDエージェントは設定を適用してから終了します。WEMエージェントサービス（Citrix WEM Agent Host ServiceまたはCitrix WEM User Logon Service）を構成して、特定の時点（例：ログオンまたは再接続）でCMDエージェントを起動できます。必要に応じて、管理者はCMDエージェントを手動で呼び出すことができます。
- UIエージェントは実行を継続します。Citrix WEM Agent Host ServiceはUIエージェントを起動または停止します。UIエージェントはエンドユーザーにセルフサービスオプションを提供します。管理者がUIエージェントを手動で起動しないことをお勧めします。

> **注:**
>
> セッション内でCMDエージェントとUIエージェントを同時に実行することはできません。

エージェント側の更新操作

エージェント側では、次の更新操作を実行できます。

- キャッシュを更新します。エージェントのインストールフォルダーでコマンドラインを使用して *AgentCacheUtility.exe* を実行します。例:
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshCache`
- エージェントホスト設定を更新します。エージェントのインストールフォルダーでコマンドラインを使用して *AgentCacheUtility.exe* を実行します。例:
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings`
- ワークスペースエージェントを更新します。エージェントがUIモードの場合、エージェントメニューに移動し、**更新**をクリックします。

	インフラストラクチャサービスがオンラインの場合	インフラストラクチャサービスがオフラインの場合
キャッシュを更新	キャッシュを更新すると、エージェントのローカルキャッシュがインフラストラクチャサービスと同期されます。	エージェントのローカルキャッシュは更新できません。
エージェントホスト設定を更新	「**オンライン時でもキャッシュを使用**」オプションが有効になっている場合、エージェントはインフラストラクチャサービスからではなく、エージェントのローカルキャッシュから取得した設定を適用します。この場合、設定を更新する前にキャッシュを更新してください。「**オンライン時でもキャッシュを使用**」オプションが有効になっていない場合、エージェントはインフラストラクチャサービスから取得した設定を適用します。	エージェントは、エージェントのローカルキャッシュから取得した設定を適用します。

	インフラストラクチャサービスがオンラインの場合	インフラストラクチャサービスがオフラインの場合
ワークスペースエージェントを更新	「**オンライン時でもキャッシュを使用**」または「**キャッシュを使用してアクション処理を高速化**」オプションが有効になっている場合、エージェントはインフラストラクチャサービスからではなく、エージェントのローカルキャッシュから取得した設定を適用します。この場合、設定を更新する前にキャッシュを更新してください。「**オンライン時でもキャッシュを使用**」および「**キャッシュを使用してアクション処理を高速化**」オプションが有効になっていない場合、エージェントはインフラストラクチャサービスから取得した設定を適用します。	「**オフラインモードを有効にする**」オプションが有効になっている場合、エージェントはエージェントのローカルキャッシュから取得したユーザー割り当てアクションを適用します。「**オフラインモードを有効にする**」オプションが有効になっていない場合、エージェントは動作しません。

Citrix 環境ツールハブ

Citrix Environment Tool Hubは、Workspace Environment Management™ (WEM) 管理者の構成エクスペリエンスを簡素化することを目的としたツール群です。ダウンロードするには、**Citrix Cloud > WEMサービス > ユーティリティ**またはツールとユーティリティ > Citrix Environment Tool Hubにアクセスしてください。

Citrix Environment Tool Hubを実行するための前提条件は次のとおりです。

- .NET Framework 4.7.1 以降
- Microsoft Edge WebView2 Runtime バージョン98以降
- ローカル管理者権限

現在、以下のツールが利用可能です。

- アプリケーションアシスタント
- ファイル情報ビューア

- ファイルタイプ関連付けアシスタント
- グループポリシー移行ツール
- プリンターアシスタント
- プロファイル移行ツール
- アプリケーションアクセス制御用ルールジェネレーター
- プロファイルクリーンアップツール
- Windows 11 のスタートメニュー構成ツール
- Windows ログオン分析
- ユーザー ストア作成ツール
- WEMヘルスチェック
- スクリプトタスク検証ツール
- Ivanti Workspace Control 用移行ツール
- Profile Management ログパーサー
- Profile Management ヘルスチェック

注:

- Citrix Environment Tool Hub はデータを保存しません。ツールを終了するとデータはクリアされます。データ損失の可能性を避けるため、作業内容を必ず保存してください。
- Citrix Environment Tool Hub からコピーしたデータをWebコンソールに貼り付けるには、ブラウザがデータコピーを許可していることを確認してください。例: Microsoft Edge の場合、**サイトのアクセス許可 > クリップボード > サイトがクリップボードにコピーされたテキストと画像を表示しようとしたときに確認する** オプションが有効になっていることを確認してください。

ツールハブをダウンロードして起動する

1. 以下のいずれかのURLからツールハブの `.zip` ファイルをダウンロードします。
   - `<https://wem-production-ui.wem.cloud.com/utilities>`
   - `<https://www.citrix.com/downloads/citrix-tools/citrixtoolspage/CitrixEnvironmentToolHub.html>`

2. `.zip` ファイルを抽出します。
3. `Citrix.WEM.Admin.ToolHub.exe` をダブルクリックしてツールハブを起動します。

アプリケーションアシスタント

このツールを使用して、管理コンソールでアプリケーションを追加する際に使用するアイコンおよび Citrix Workspace™ リソースの構成情報を準備します。

ワークスペースリソース

> **注:**
>
> このツールを使用するには、Citrix Workspaceアプリがマシンにインストールされている必要があります。

> Webコンソールに「Citrix Workspaceリソース」タイプのアプリケーションを追加する場合、リソースを指定する必要があります。リソースの情報を取得するには、次の手順を実行します。

1. ストアURLまたはワークスペースURLを入力します。
2. **リソースの参照**をクリックして、リソースを参照します。リソースが列挙され、一覧表示されます。
3. リストから対象のアプリケーションを選択し、その情報をコピーします。

Webコンソールで、**リソース情報の貼り付け**をクリックして、コピーした情報を貼り付けます。アプリケーションの追加を参照してください。

アイコン

Webコンソールでアプリケーションのアイコンを設定する際に、新しいアイコンを追加できます。アイコンのデータを取得するには、次の手順を実行します。

1. **参照**をクリックして、アイコンを含むファイルを参照します。ファイル内のアイコンが読み込まれます。サポートされているファイルの種類: `.exe`、`.dll`、`.ico`。
2. アイコンを選択し、アイコンデータをコピーします。

Webコンソールで、**アイコンデータの貼り付け**をクリックして、コピーしたアイコンデータを貼り付けます。アプリケーションの追加を参照してください。

ファイル情報ビューアー

Citrix Environment Tool Hubを使用して、パス、発行元、ハッシュ値などのデータをすばやく取得し、Webコンソールで実行可能ルールを構成できるようになりました。このプロセスには、次の手順が含まれます。

- **Citrix Environment Tool Hub** > **すべてのツール** > **ファイル情報ビューアー**を選択します。
- 関連情報を取得するファイルまたはフォルダーを選択します。
- 基準のいずれか（パス情報、発行元情報、ファイルハッシュなど）からデータをコピーします。
- データを**Windows インストーラー規則の作成**ページに貼り付けます。

ファイルの種類関連付けアシスタント

このツールを使用して、管理コンソールで割り当て可能なアクションとして追加するために、FTA を構成するのに必要な情報を取得します。

ファイルの種類関連付けアシスタントを選択すると、Citrix Environment Tool Hub の**ファイルの種類関連付けアシスタント**ページに移動します。次の手順を実行して FTA を構成できます。

- ファイル名拡張子を入力すると、入力した内容で始まる一致するファイル名拡張子オプションから選択できます。
- 入力した拡張子に関連付けられた**ProgID**があるか、およびその**ProgID**がレジストリに関連付けられたアクションを持っているかを確認します。
- **参照**をクリックして、入力した**ProgID**が登録されているすべてのアプリケーションを一覧表示します。
- 関連付けたいアプリケーションを構成します。
- **アクションのカスタマイズ**を選択して、**開く**、**編集**、**印刷**のアクションを実行することもできます。
- **コピー**ボタンをクリックして、構成済みの FTA データをコピーできます。

詳細については、「ファイルの種類関連付け」を参照してください。

グループポリシー移行ツール

このツールを使用すると、グループポリシーの設定を WEM に移行できます。ポリシーと設定を WEM アクションに変換し、Web コンソールを使用して管理および割り当てることができます。

WEM のアクションは、Windows サインオンが完了した後、WEM エージェントを介してユーザー構成を処理します。Windows GPP とは異なり、WEM のアクションは Windows サインインプロセスに遅延を引き起こしません。

この機能を使用すると、グループポリシーの設定をWEMによって管理および処理されるアクションに変換でき、ユーザーサインオン時に必要な処理時間を短縮できます。

グループポリシーから設定を移行するには、次の前提条件を考慮してください。

- マシンがドメインに参加している必要があります
- 現在のユーザーはドメインユーザーである必要があります
- GPOバックアップに必要なモジュールがインストールされていること

グループポリシーの移行プロセス中に、ログオンスクリプトがWEM外部タスクに変換されると、スクリプト実行パラメーターの追加の最適化が追加されます。移行するログオンスクリプトは、次の2つの要件を満たしている必要があります。

1. スクリプトファイルの種類は、次のいずれかである必要があります: `cmd`、`bat`、`ps1`、または`vbs`。
2. スクリプトファイルは、ドメインコントローラー (DC) の組み込み共有パス (`\\{$domainName}\SysVol\{$domainName}\Policies\{GP_Id}\User\Scripts\Logon`) に保存されている必要があります。

次の手順を実行して、グループポリシーの移行を構成できます。

1. Citrix Environment Tool Hub を使用してGPPをローカルマシンにエクスポートする: 選択した設定をエクスポートし、エクスポートしたZIPファイルをWEM Webコンソールからアクセスできる場所に保存します。
2. WEM Webコンソールを使用してGPPをアクションとしてWEMにインポートする: Webコンソールで、構成セットの > に移動し、 を選択します。エクスポートされた設定で割り当てグループを作成し、それをユーザーに割り当てることができます。詳細については、「エクスポートされた設定を使用して割り当てグループを作成する」を参照してください。
3. 移行された設定をGPOから削除する: 設定の移行が完了したら、移行されたオプションを に設定して、移行された設定をGPOから削除します。サインアウトして確認します。
4. サインオン時間を比較します。

プリンターアシスタント

このツールを使用して、プリントサーバーからプリンターのリストを取得し、管理コンソールで割り当て可能なアクションとして追加できます。

ネットワークプリントサーバーからプリンターを追加する場合、プリンターを追加するための情報が必要です。プリンター情報を取得するには、次の手順を実行します。

1. プリントサーバーの完全な名前を入力します。
2. 特定の資格情報を使用してプリントサーバーに接続するかどうかを指定します。
3. プリンターリストを表示するには、**Connect** をクリックします。
4. リストから1つ以上のプリンターを選択し、プリンター情報をコピーします。

Webコンソールで、**Paste printer info** をクリックしてコピーした情報を貼り付けます。「プリントサーバーからプリンターを追加する」を参照してください。

プロファイル移行ツール

このツールを使用して、他のプロファイルをCitrix®コンテナベースのプロファイルソリューションに移行します。 プロセスには次の手順が含まれます。

1. 次のいずれかのソースプロファイルを選択します。
    - **FSLogix プロファイルコンテナ**
    - **Citrix ファイルベースソリューション**
    - **Windows ローミングプロファイル**
    - **ローカルマシン**
2. ソースプロファイルの場所を構成します。
    a. ステップ1で **FSLogix プロファイルコンテナ** を選択した場合は、このフィールドを構成します。
    - **VHDの場所**：FSLogixプロファイルが保存されているファイル共有の場所を入力します。（*例*：`\\<storage-account-name>.file.core.windows.net\<share-name>`）。または、**参照**をクリックしてファイル共有を選択します。

    a. 手順1で**Citrixファイルベースソリューション**または**Windowsローミングプロファイル**を選択した場合は、これらのフィールドを構成します。
    - **ファイル共有**: **参照**をクリックして必要なソースファイル共有の場所を選択するか、直接場所を入力します。
    - **サブパス**: デフォルトのコンテナフォルダを使用していない場合は、サブパスを入力します。

> **注:**
>
> 手順1で**ローカルマシン**を選択した場合は、Profile Migration Toolがローカルマシンプロファイルのデフォルト構成を自動的に取得するため、この手順をスキップしてください。

3. ターゲットCitrixユーザーストアの場所を構成します。
   - **ファイル共有**: **参照**をクリックして必要なターゲットファイル共有の場所を選択するか、直接場所を入力します。
   - **サブパス**: 必要なターゲットサブパスを入力します。
4. **アクセス確認**をクリックして、現在のユーザーアカウントまたは代替アカウントがソースファイル共有への読み取りアクセス権とターゲットファイル共有へのフルアクセス権を持っているかを確認します。現在のユーザーアカウントにアクセス権がない場合は、**代替資格情報を使用**チェックボックスを選択して、代替ユーザー名とパスワードを入力します。
5. プロファイルを移行するユーザーとグループを指定します。ユーザーまたはグループが指定されていない場合、ソースの場所にあるすべてのプロファイルが移行されます。
6. ソースプロファイルの**OSバージョン**を選択します。
7. **移行の開始**をクリックします。

Profile Migration Toolは、一度に1つのプロファイルを移行します。移行を停止する場合は、**停止**をクリックします。この操作により、現在のプロファイルの移行が完了し、残りのプロファイルの移行が停止します。**選択したものを再試行**をクリックして、移行を再試行できます。それ以外の場合は、別の移行を実行するには、**別の移行を実行**をクリックします。

失敗した場合は、**ログの表示**をクリックしてエラーログを確認できます。**選択したものを再試行**をクリックして、失敗したプロファイルの移行を再試行するオプションがあります。

アプリアクセスコントロール用ルールジェネレーター

このツールを使用して、アプリのアクセス制御またはリダイレクトのルールを生成します。一般的なワークフローは次のとおりです。

1. ルールを作成する
2. FSLogix の既存の構成を再利用するには、FSLogix ルールセットをインポートし、それらを編集して同等のアプリアクセス制御ルールをすばやく作成します。
3. ルールの生データを生成する

4. ルールを検証する

これらのルールを適用するには、Citrix Profile Management のアプリアクセス制御ポリシーを使用する必要があります。詳細については、「アプリアクセス制御」を参照してください。

ルールについて

このツールを使用して、次のルールを作成できます。

- **非表示ルール**。ファイル、フォルダー、レジストリ値、およびキーへのユーザーアクセスを制御します。
- **リダイレクトルール**。ユーザーのファイル、フォルダー、レジストリ値、およびキーをリダイレクトします。

ルールは Citrix Profile Management を介して実装されます。一般的なユースケースは次のとおりです。

- マシンにインストールされているアプリへのユーザーアクセスを制御します。関連するユーザーに対してアプリを非表示にするかどうかを制御します。
- データローミングを実装します。ユーザープロファイル以外のデータをファイル共有にリダイレクトし、ユーザーがどのマシンにサインインしても同じデータにアクセスできるようにします。
- データ保護を強化します。重要なデータを代替の場所または値にリダイレクトし、不正アクセスから保護します。
- ユーザーエクスペリエンスをカスタマイズします。特定の要件に基づいてアプリのエクスペリエンスを調整します。

ルールを作成する

アプリのアクセス制御またはリダイレクトのルールを作成するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで をクリックし、 または を選択します。
2. ページで、次の設定を構成します。
    - **アプリのルール名**。ルールを識別しやすいように名前を指定します。
    - **非表示にするオブジェクト**。ターゲットオブジェクトを追加します。ターゲットオブジェクトには、非表示にするアプリに関連するファイル、フォルダー、レジストリキー、および値を含めることができます。現在のマシンにインストールされているアプリと、各アプリに関連付けられているオブジェクトを をクリックして検索します。

- **リダイレクト**。ファイル、フォルダー、レジストリ値、およびキーをリダイレクトできます。各リダイレクトについて、ソースパスと宛先パスを指定します。

  注:

  - 特定のCitrixおよびWindowsサービスが依存するアイテムのパスを追加することはできません。そうしないと、これらのサービスが正常に動作しなくなる可能性があります。これらのパスの完全なリストについては、「追加できないパス」を参照してください。

3. ページで、ルールを割り当てるユーザー、コンピューター（組織単位）、およびプロセスを追加します。

   a. ユーザー、マシン、またはプロセスから割り当てタイプを選択します。
   b. セクションで、割り当てオブジェクトを指定します。オブジェクトが選択されていない場合、ルールはその割り当てタイプのすべてのオブジェクトに適用されます。
   c. 除外を指定するには、 セクションに移動し、必要な割り当てオブジェクトを追加します。
   d. 必要に応じて、別の割り当てタイプに対して手順aからcを繰り返します。

   注:

   - 割り当てが指定されていない場合、このルールは常にターゲットオブジェクトに適用されます。
   - 割り当てには、ユーザー、コンピューター、プロセスの3つのカテゴリがあります。カテゴリ内の項目間には `OR` 演算子が使用され、カテゴリ間には `AND` 演算子が使用されます。
   - 非ドメイン参加マシンまたはAzure Active Directory参加マシンでツールを実行している場合、ユーザーとコンピューターを追加することはできません。
   - 一括プロセスを追加できます。プロセス名（.exe拡張子を含む）を改行で区切って入力します。
   - AADユーザーまたはグループおよびNDJマシンにルールを割り当てるには、WEM Webコンソールの**AAD/NDJオブジェクトセレクター**を使用してターゲットオブジェ

> クトを選択します。詳細については、AADユーザー/グループおよびNDJマシンへのアプリアクセスルールの割り当てを参照してください。

4. 完了したら、**完了**をクリックします。

追加できないパス

特定のCitrixおよびWindowsサービスが依存する項目について、以下のパスとその親パスを追加することはできません。

Profile Management関連のレジストリ:

- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager`
- `HKLM:\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager`
- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager`
- `HKLM:\SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager`

WEM関連のレジストリ:

- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Norskale`
- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\WEM`
- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale`
- `HKLM:\SOFTWARE\Policies\Norskale`
- `HKLM:\SOFTWARE\Citrix\WEM`
- `HKLM:\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale`

Virtual Delivery Agent (VDA)関連のレジストリ:

- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\VirtualDesktopAgent`
- `HKLM:\SOFTWARE\Citrix\VirtualDesktopAgent`
- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall\Citrix Virtual Desktop Agent`
- `HKLM:\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall\Citrix Virtual Desktop Agent`

Windows関連のレジストリ:

- `HKCU:`:

- `HKEY_CURRENT_USER`
- `HKU:`:
- `HKEY_USERS`

WindowsおよびCitrixサービス関連のフォルダー:

- `c:\windows\system32`
- `\Citrix\User Profile Manager\`
- `\Citrix\Workspace Environment Management Agent\`
- `\Citrix\XenDesktopVdaSetup\`
- `\%windir\%\system32`

ルールの生データを生成する

Citrix Profile Managementに構成済みのルールを適用させるには、まずその生データを生成し、GPOまたはWEMを使用してProfile Managementの**アプリアクセス制御**ポリシー設定に入力する必要があります。

ルールの生データを生成するには、次の手順に従います。

1. 目的のルールを選択するか、**すべて選択**をクリックしてすべてのルールを選択します。
2. アクションバーで**Generate raw data**をクリックします。選択したルールに対して生データが生成されます。
3. **Generate raw data**ウィンドウで、後で復元するために生データをファイルに保存するか、生データをクリップボードにコピーします。

   > **注:**
   >
   > - WEM管理コンソールでルールを追加する場合、またはProfile Managementポリシーの**App access control**を構成する場合に、ルールを展開する方法に応じて生データを使用します。
   > - 生データをファイルに保存した後、そのファイルからルールを復元できます。そのためには、アクションバーの**Import**を使用します。

4. 完了したら、**Done**をクリックします。

ルールの検証

テスト環境または本番環境に展開する前に、ローカルマシンでアプリアクセス制御ルールを検証できます。

アプリアクセスルールをテストするには、次の手順を実行します。

1. 目的のルールを選択するか、**Select all**をクリックしてすべてのルールを選択します。
2. アクションバーで**Test**をクリックします。

    a. **Deploy to local machine**をクリックして、選択したルールをローカルマシンに展開し、ルールが期待どおりに機能しているかを確認します。ポップアップウィンドウで**Deploy**をクリックしてアクションを確定します。

    > **注:**
    >
    > アプリルールをテストしている間、ルールは現在のユーザーのみに影響します。

    b. **Clear deployed rules from local machine**をクリックして、展開されたアプリアクセス制御ルールをローカルマシンからクリアします。

FXLogixルールセットのインポート

既存の構成を再利用し、同等のApp Access Controlルールを迅速に作成するために、FSLogixルールセットをインポートします。

> **注:**
>
> FSLogixで使用される一部のルールタイプと割り当てタイプは、アプリアクセス制御でサポートされていません。環境を確認し、必要に応じて代替構成を検討してください。

> FSLogixルールセットをインポートするには：

1. インポートを開始するには、 **>** をクリックします。
2. をクリックし、FSLogix Rule Editorを使用して保存されたFSLogixルール定義ファイルを見つけて、 をクリックします。

> **注:**

> ルール定義ファイルとそれに関連付けられた割り当てファイルが同じフォルダーに保存されていることを確認してください。このツールは、サポートされているルールセットを割り当てとともに移行します。

1. 移行が完了したら、詳細を確認します。

   サポートされていないルールやデータがないか確認し、結果を検証します。移行後にルールを編集または追加できます。
2. プロセスを完了するには、 をクリックします。

インポートされたルールはテスト可能になり、既存のルールとともに保存できます。

アプリアクセスルールをAADユーザー/グループおよびNDJマシンに割り当てる

アプリアクセスルールをAADユーザーまたはグループおよびNDJマシンに割り当てるには、次の手順を実行します。

1. WEM Webコンソールで、 > サイト名 > > > の順に選択します。
2. チェックボックスをオンにし、 をクリックします。
3. ページで、 をクリックして、目的のAADユーザーとNDJマシンを追加します。
4. ユーザーまたはマシンデータをコピーします。
5. 「**Citrix Environment Tool Hub**」>「**Rule Generator for App Access Control**」に移動し、アプリルールを作成します。
6. 「**Assignments**」ページに移動し、データを貼り付けます。
7. 「**Done**」をクリックして、アプリアクセス制御ルールを作成します。
8. アプリアクセス制御ルールをコピーします。
9. WEM Webコンソールに移動します。「**configure set**」> サイト名 >「**Profile Management settings**」>「**App access control**」を選択し、そこにデータを貼り付けます。

プロファイルクリーンアップツール

このツールを使用して、ユーザーストア内の非アクティブなユーザープロファイルを削除またはアーカイブします。このツールは、ディスク領域の再利用、セキュリティの向上、データ保持ポリシーへの準拠に役立ちます。

一般的な使用例は次のとおりです。

- 従業員の退職処理：組織を離れた従業員のプロファイルを削除します。
- 非アクティブなアカウントの管理：指定された期間ログインしていないユーザーのプロファイルを削除またはアーカイブします。
- ストレージの制限への対処：不要なプロファイルを特定して削除することで、ディスク領域を解放します。
- セキュリティの強化：非アクティブなアカウントまたは侵害されたアカウントから機密データを削除します。

ユーザープロファイルをクリーンアップするには、次の手順に従います。

1. ツールを実行します。

   Citrix Environment Tool Hubがインストールされているマシンにサインインします。ツールハブを管理者として実行し、「**Profile Cleanup Tool**」をクリックしてUIを開きます。

2. ユーザー ストアの場所を指定します。

   ユーザープロファイルをクリーンアップするユーザー ストアへのパスを入力します。

> **ヒント:**
>
> マシンがCitrix Profile Management設定で構成されている場合は、 リンクをクリックして、プロファイルの場所フィールドを自動入力します。

フィールド	説明
ユーザーストアへのパス	ユーザー ストアへの完全なパスを入力します。詳細については、「ユーザー ストアへのパスを指定する」を参照してください。
レプリケートされたユーザー ストアへのパス (オプション)	レプリケートされたユーザー ストアが展開されている場合は、それらのパスを改行で区切って入力します (各パスの後に **Enter** キーを押します)。詳細については、「ユーザー ストアをレプリケートする」を参照してください。

フィールド	説明
VHDX ファイルのカスタマイズされたストレージパス (オプション)	VHDX ファイルがユーザー ストア以外のパスに保存されている場合は、そのパスを入力します。詳細については、「VHD コンテナのストレージ容量とパスを指定する」を参照してください。

3. 指定されたユーザー ストアへのアクセスを確認します。

   をクリックして、ユーザーアカウントに指定された場所への *読み取りおよび書き込み* 権限があることを確認します。アカウントにアクセス権がない場合は、 を選択し、有効なユーザー名とパスワードを入力して、もう一度 をクリックします。

4. プロファイルを検索します。

   a. 「**プロファイルの検索**」をクリックします。「**プロファイルの検索**」ページが開きます。

   b. 部分的なユーザー名、最終ログオン時刻、最終書き込み時刻、AD ユーザーの状態などの検索条件を入力します。

   c. をクリックします。検索が開始され、ユーザー ストアに多数のプロファイルが含まれている場合は時間がかかることがあります。

   > **注:**
   >
   > 200 を超えるプロファイルが見つかった場合、検索結果には最初の 200 件のみが表示されます。多数のプロファイルの場合は、バッチで操作することをお勧めします。

5. プロファイルを削除またはアーカイブします。

   a. 検索結果から1つ以上のユーザープロファイルを選択します。

   b. 適切なアクションボタンをクリックし、画面の指示に従ってアクションを完了します。

   - **削除**: 選択したユーザープロファイルを削除します。
   - **アーカイブ**: 選択したユーザープロファイルをユーザー ストアから指定した場所に移動します。

   > **注:**

> ユーザープロファイルをアーカイブするには、使用しているアカウントがターゲットの場所に*書き込み*権限を持っている必要があります。

操作が完了したら、次のことができます。

- **完了**をクリックして、**プロファイルの検索**結果をクリアし、**アクセス確認**ステータスに戻ります。
- **検索結果に戻る**をクリックして、正常に処理されたユーザーが削除された**プロファイルの検索**結果に戻ります。
- 失敗した結果がある場合：
  - 失敗した結果の横にある**詳細**をクリックして、操作中に発生したエラーを表示します。
  - **失敗したものを再試行**をクリックして、失敗した結果に対して操作を再試行します。

Windows 11のスタートメニューコンフィギュレーター

このツールを使用して、Windows 11のスタートメニューレイアウトを構成し、管理コンソールでアクションとして割り当てることができるJSON形式の構成を生成します。

Windows 11のスタートメニューレイアウトをカスタマイズするには、次の手順を完了します。

1. Citrix Environment Tool Hubで「**Windows 11用スタートメニュー構成ツール**」をクリックします。**スタート**メニューの「**ピン留め済み**」セクションに追加したいアプリケーションを選択し、必要に応じてレイアウトを配置します。
2. 「**構成を生成**」をクリックし、結果をコピーします。
3. Webコンソールで「**新しいJSONオブジェクトを追加**」をクリックし、「**Windows 11用スタートメニュー構成**」を選択します。「**JSONオブジェクトの追加**」ページに構成を貼り付け、「**完了**」をクリックします。
4. 「**割り当ての管理**」ページで必要な割り当てターゲットを選択して、JSONファイル構成をユーザーに割り当て、「**保存**」をクリックします。

アプリケーションの追加

Citrix Environment Tool Hubを使用してアプリケーションを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「**Windows 11用スタートメニュー構成ツール**」ページで「**アプリケーションの追加**」をクリックします。

2. 「**アプリケーションの追加**」ページで、スタートメニューに追加する必要なアプリケーションを選択し、「**追加**」をクリックします。
3. 「**ピン留め済み**」レイアウトセクションで、必要に応じてアプリケーションをドラッグして順序を変更できます。
4. 「**構成を生成**」をクリックし、構成が生成されたら「**コピー**」をクリックします。構成の生成中に、選択したレイアウトがスタートメニューに適用されます。

Windowsログオン分析

このツールを使用すると、ログオン期間レポートを表示し、ログオン期間の最適化とトラブルシューティングのヒントを得ることができます。この機能/ツールをWEMエージェントに統合し、ログオン直後にログオン期間を分析することもできます。

完全なレポートを受信するには、マシン上の関連するWindowsイベントログの**ログ収集を有効にします**。

- 「**Windowsログオン分析 > レポートの取得**」をクリックして、「**最新レポートの取得**」ウィザードにアクセスします。
- ドロップダウンリストからオプションの1つを選択して時間範囲を選択し、「**レポートの取得**」をクリックします。デフォルトの範囲は「**過去24時間**」です。
- フェーズと説明は、以下の表に基づいてグラフ形式で表示されます。

以下の表に、すべてのメトリック、サブメトリック、およびヒントを詳細に示します。

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
ログオン前	Windowsログオンにかかる時間。	-	Citrixログオン前	Windows前期間	-
			HDX™接続	-	-
認証	セッションへの認証を完了するのにかかった時間。	• **Windows Helloを使用する:** Windows Hello	セッション調停	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		は、顔や指紋を使用してPCにログインできる生体認証機能です。 • **ネットワーク/Active Directoryの速度:** 現在のマシンとActive Directory間のネットワーク通信が良好であることを確認してください。(https://learn.microsoft.com/ja-	ネットワークプロバイダー	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		jp/previous-versions/windows/it-pro/windows-server-2008-R2-and-2008/cc731968(v=ws.10))のようなツールを使用して確認できます。 • **ユーザー名とパスワードの効率的な入力:** ユーザー名とパスワードの入力が不正	Windows認証	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		確または遅延すると、認証時間が全体的に延長される可能性があります。	VDA認証	-	-
シトリックス アールソップ	Citrix RSOP (Resultant Set of Policy) の完了にかかる時間。	-	-	-	-
ユーザープロファイルの読み込み	ログオンするユーザーのプロファイル設定を読み込むのにかかる時間。	• **ディスク容量の不足を確認し、空き容量を確保する:** ハードドライブがほぼ満杯の場合、PCのログ	一時ファイルのトラバース	-	このメトリックは、PMLが存在する場合にのみ利用可能です。

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		オンプロセスが遅くなる可能性があります。ハードドライブに十分な空き容量があることを確認してください。 • **ProcMonツールを使用する:** 詳細を分析するには、ProcMonツールを使用して、ユーザーログオン中のユーザープ	ユーザープロファイル	Windows ユーザープロファイル ファイルと設定の読み込みにかかる時間。	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		ロファイル内のファイルI/Oをキャプチャします。 • **Citrix Profile Management:** Citrix Profile Managementを使用している場合、コンテナベースのソリューションを使用するか、フォルダのプロファイルストリーミングとフォ	SMBクライアント	リモート接続用のSMBクライアントの初期化にかかった時間。	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		ルダミラーリングの高速化が有効になっているファイルベースのソリューションを使用することで、ログオンプロセスを最適化できます。詳細はこちら			
		Citrix WEM を使用してプロファイル管理のヘルスチェックを構成する: Workspace Environment Management (WEM) は、エー	Citrix プロファイル管理	プロファイル管理設定の処理にかかった時間。	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		ジェントマシンでCitrix Profile Managementが最適に構成されているかどうかを確認できます。詳細はこちら	Citrixレイヤリングサービス	-	-
			デフォルトプロファイルのレプリケーション	ユーザーの初回ログオン時にデフォルトユーザープロファイルをコピーするのにかかった時間。	このメトリックは初回ログオン時のみ利用可能です。
			FSLogixプロファイルのロード	FSLogixプロファイルコンテナのロードにかかった時間。	-
グループポリシーの処理	グループポリシー設定の処理にかかった時間。	• **GPOキャッシュを無効にする:** gpedit.mscを実行し、パス: **コンピューターの構成 > 管理用テンプ**	フォルダーリダイレクト	フォルダーリダイレクトポリシーを適用し、ユーザーフォルダーをネットワークの場所にリンクするのにかかった時間。	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		レート > システム > グループポリシー に移動して、GPOキャッシュを無効にします。			
		GPOの数を減らす: 一度に処理されるGPOの数を減らします。グループポリシーの処理は並行して行われますが、同時に処理できるGPOの数には制限があります。一度に処理されるGPOの数を減らすことで、グループポリ	WMIフィルター	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		シーの処理を高速化できます。 • **Citrix WEM を使用してグループポリシーを非同期で処理する:** Citrix WEM を使用してグループポリシーを非同期で処理すると、ユーザーログオン前にグループポリシーを処理し、グループ	Winlogon 通知パッケージ	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		ポリシーの処理を高速化できます。詳細はこちら。Windows グループポリシーの現在の処理ステータスは同期です。	ログオン スケジュール済みタスク	グループポリシーのスケジュール済みタスクの実行にかかった時間。	-
			単一ログオン スケジュール済みタスク	-	-
			グループポリシー スクリプト	-	-
			グループポリシー スクリプト (非同期)	-	-
			グループポリシー CSE	グループポリシー クライアント側拡張機能の処理にかかった時間。	-
			グループポリシー	-	-
			グループポリシー キャッシュ書き込み	グループポリシーをローカルに書き込むのにかかった時間。	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
			Citrix WEM 合計時間	-	-
			Citrix WEM ユーザーグループポリシー	-	-
			Citrix WEM マシン グループ ポリシー	-	-
			Citrix WEM 構成の読み取り	-	-
			Citrix WEM 起動スクリプトタスク	-	-
			Citrix WEM キャッシュ (同期)	-	-
			Citrix WEM ホストサービスステータスの確認	-	-
			Citrix WEM JSON ファイル	-	-
			シトリックス アールエスオーピー	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
			グループポリシーオブジェクト	グループポリシーオブジェクトの読み込みにかかった時間。	-
			Citrix WEM LDAPユーザー情報のクエリ	-	-
シェルの起動	シェルの起動にかかった時間。	• **スタートアッププログラムを無効にする:** PCの電源を入れたときに自動的に起動するプログラムを無効にできます。Win11/Win10/Win Server 2022でスター	シェルの開始	Windows ユーザープロファイルの読み込み後にシェルを実行するのにかかった時間	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		トアッププログラムを無効にするには、次の手順を使用します。 1. **Windows + I** ショートカットを押して **設定** を開き、**アプリ > スタートアップ** を選択します。 2. 自動的に起動させたくないアプリやプログラムをオフにします。 3.	FSLogix シェル起動	FSLogix プロファイルコンテナの読み込み後にシェルを実行するのにかかった時間。	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		グローバルスタートアップフォルダーから不要なプログラムを削除します: `%allusersprofile%\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\StartUp`。4. ユーザーのスタートアップフォルダーから不要なプログラムを削除します:	アクティブセットアップ	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		`%userprofile%\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\Startup`。 • **スタートアッププログラムを無効にする:** 高速スタートアップは、シャットダウン後にコンピューターをより速く起動できるように	Appx 関連付け	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		する機能です。Windows 10で高速スタートアップを有効にするには、次の手順を使用します。1. **アイコン表示**で**コントロールパネル**を開き、**電源オプション**を選択します。2. サイドバーで**電源ボタンの動作を選択**をクリッ	Appx パッケージの読み込み	AppX パッケージの読み込みにかかった時間。	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		クします。3. **シャットダウン設定**の下で、**高速スタートアップを有効にする**チェックボックスを選択します。 • **スタートアッププログラムを無効にする:** Windows の外観とパフォーマンスを調整します。これを行うには、1.	プレシェル (Userinit)	「userinit.exe」から「explorer.exe」までの時間	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		マイコンピュータを右クリックし、**プロパティ**を選択します。2. **システムの詳細設定**を選択します。3. **パフォーマンス**の下で、**設定**を選択します。4. 外観とパフォーマンスを向上させるためにオプションを調整	ユーザーログオンスクリプト	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		します。 • **ログオンスクリプトを最適化する:** 不要なコマンドを削除し、スクリプトのサイズを小さくすることで、ログオンスクリプトを最適化できます。 • **グループポリシー設定を使用する:** グループポリシー設定は、ログオ	ログオンスクリプト処理	ログオンスクリプトの実行にかかった時間。	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		ンスクリプトの代わりに使用できます。これらは管理が容易で、ログオンスクリプトよりも高速に処理できます。 • **Citrix WEM 外部タスクを使用する:** 外部タスクを使用してログオンスクリプトを設定します。タスクの完了を待つか	アプリ準備タスク	アプリ準備タスクの完了にかかった時間。	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		どうか、および待機タイムアウトの長さを指定できます。待機時間を制限すると、ユーザーログオンの高速化に役立ちます。外部タスクの詳細については、製品ドキュメントを参照してください。			

WEMログオン期間機能をWEMエージェントと統合し、ログオン期間を分析するには、次の手順に従います。

1. エージェントマシンで、Citrix Environment Tool Hubを実行してログオン期間を監視します。
2. エージェントマシンにログオンします。WEMエージェントはログオン期間を分析し、レポートを自動的に生成します。
3. Citrix Environment Tool Hubを更新して、最新のレポートを表示します。
4. 現在のセッションのログオン期間レポートを確認します。続行する前に、レポート履歴を検証してください。

プロセスアクティビティと詳細

ユーザーログオン中にProcess Monitorでキャプチャされたプロセスアクティビティデータは、追加情報を提供し、ログオンの遅延を引き起こす問題を特定するのに役立ちます。この機能は、プロセスデータをログオンレポートに組み込み、ユーザーログオンのコンテキストでプロセスアクティビティを調査できるようにします。**Citrix Environment Tool Hub**は、**Windows Logon Analysis**ツールで**Process Monitor**設定を構成した後、**Windows Process Monitor**アプリケーションを自動的にトリガーして停止します。

ユーザーログオン中にプロセスデータを収集するには、次の手順に従います。

1. メインセッションで、Windows Logon Analysisツールの**Configure Process Monitor**をクリックします。セッションは、事前定義された設定でProcess Monitorアプリケーションを自動的に開始します。データ収集が完了したときにProcess Monitorを自動的に停止するようにセッションを構成することもできます。
2. サブセッションで、ターゲットユーザーのログオンをトリガーします。
3. メインセッションで、キャプチャされたプロセスアクティビティの詳細を含むログオンレポートを生成および分析します。

ユーザーストア作成ツール

このツールを使用して、現在のマシンまたは別のマシンにCitrix Profile Managementでユーザー ストアを作成します。ユーザー ストアのフォルダー パスと共有名を指定できます。ユーザー ストアが作成されると、ユーザー ストアへのパスの推奨構成が提供され、**Profile Management** 設定で直接使用できます。

現在のマシンまたは別のマシンにユーザー ストアを作成するには、次の手順に従います。

1. ユーザー ストアをインストールするマシンを指定します。
    - 別のマシンにユーザー ストアを作成するには、マシン名を指定し、そのマシンでローカル管理者権限を持つドメイン ユーザーの資格情報を入力します。そのマシンでPowerShellリモート処理が有効になっていることを確認してください。

- 現在のマシンにユーザー ストアを作成する場合は、この手順をスキップします。

2. ユーザー ストアの場所として設定する**フォルダー パス**を指定します。
3. フォルダーが存在する場合は、**停止して通知する**または**既存のフォルダーを使用する**を選択します。
4. オプションで、ファイル共有の名前を指定します。デフォルトでは、フォルダーの名前が共有名として使用されます。
5. 同じ名前の共有が存在する場合は、**停止して通知する**または**既存のアイテムの共有を停止して名前を使用する**を選択します。
6. (オプション) デフォルトでは、**Administrator** グループにはこのユーザー ストアへのフル コントロール アクセスが許可されています。より多くのユーザーまたはグループにフル コントロールを付与するには、次の手順に従います。
   a. **ユーザー ストア管理者 (オプション)** セクションで、**追加**をクリックします。ネイティブ AD セレクターが表示されます。
   b. オブジェクトの種類として**ユーザーまたはグループ**を選択します。
   c. **選択するオブジェクト名を入力**フィールドに、ユーザーまたはグループの名前を指定します。
   d. **OK**をクリックします。
7. **ユーザー ストアの作成**をクリックします。

エラー

関連するセクションに次のエラー メッセージが表示されます。

- ユーザー資格情報が正しくありません
- ユーザー権限が不足しています
- フォルダーは既に存在します
- 共有名が使用中です

上記以外のエラーメッセージが表示された場合は、ページ下部の「**エラーが発生しました。詳細を以下で確認してください**」というタイトルでエラーの詳細を表示できます。

別のユーザー ストアを作成するには、 をクリックします。この選択により、すべての入力がクリアされリセットされた状態で開始ページにリダイレクトされます。

プロファイル管理ログパーサー

このツールを使用して、Citrix Profile Management のログを分析します。このツールは、プロファイル関連の問題を特定し、トラブルシューティングするのに役立ちます。

ログを分析するには、次の手順に従います。

1. ログを選択します。
    - 単一の Citrix Profile Management ログファイルを選択するには、 をクリックします。
    - バッチ解析のために複数のログを含むディレクトリを選択するには、 をクリックします。

    選択を行うと、解析が自動的に開始されます。
2. セッションを選択します。

    解析が完了すると、セッションのリストが表示されます。特定のセッションをクリックして、その詳細を表示します。
3. 分析結果を確認する:
    - **概要**タブ: セッション期間、プロファイルの読み込み時間とログオフ時間、システム情報を表示します。**ログから特定された問題**セクションには、検出されたエラーが強調表示されます。
    - **ログ**タブ: 選択したセッションに関連する書式設定されたログエントリを表示します。
    - **適用された設定**タブ: そのセッション中にアクティブだったプロファイル管理ポリシーを表示します。

プロファイル管理ヘルスチェック

このツールを使用して、Citrix Profile Management環境のヘルスチェックを実行します。このツールは、ローカルのプロファイル管理構成、プロファイル管理ポリシー設定、イベントログ、およびログファイルデータを収集し、ヘルスステータスインジケーターと修復の推奨事項とともに結果を表示します。

ヘルスチェックを実行するには、**再実行**をクリックします。レポートの上部には、チェックのタイムスタンプとツールバージョンが表示されます。

レポートには次のタブが含まれます。

- **一般**タブ: 環境情報と最近のセッションアラートを表示します。
    - **サービスとドライバーのステータス**: プロファイル管理サービス、JITドライバー、およびアクションドライバーの実行ステータスとバージョンを表示します。

- **プロファイル情報**: プロファイルの種類、ユーザーストアへのパス、およびフォルダーとファイルの合計数を表示します。
- **マシン情報**: マシン名とオペレーティングシステムのバージョンを表示します。
- **過去24時間のユーザーセッションアラート**: ユーザー別にグループ化された最近のセッションアラートを一覧表示します。これには、プロファイルの読み込み時間とログオフ期間を含む、ログオンの遅延とログオフの遅延の検出が含まれます。**時間差のあるログ**を展開すると、大きな時間差が検出された連続するログエントリが表示されます。

- **構成**タブ: 折りたたみ可能なセクションに整理されたプロファイル管理ポリシー設定を表示します。
  - **必須設定**: ユーザーストアへのパスやマルチセッションライトバック設定などの主要な構成値を表示します。
  - **ログ設定**: 詳細ログのサブオプション（一般的な警告、一般的な情報、ファイルシステム通知、ファイルシステムアクション、レジストリアクション、ログオフ時のレジストリの差異、Active Directoryアクション、ログオン時およびログオフ時のポリシー値）および最大ログファイルサイズを含むログ構成を表示します。
  - **その他の設定**: ラベルと値のペアとして表示される追加のプロファイル管理設定を表示します。

WEMヘルスチェック

WEMヘルスチェックツールは、WEMコンポーネントのステータスをチェックし、WEM展開における構成の問題を特定して解決するのに役立ちます。Citrix Environment Tool Hub内にこのツールが配置されているため、WEM Webコンソールに移動してヘルスチェックプロセスを進めることができます。このツールには、エージェントバージョン2401以降が必要です。

スクリプトタスクバリデーター

スクリプトタスクバリデーターツールを使用すると、次のことができます。

- WEMエージェントマシンで実行し、結果を確認してスクリプトタスクを検証する
- 後でWEM Webコンソールにインポートするためにスクリプトタスクをエクスポートする

スクリプトタスクの検証とエクスポート

スクリプトタスクバリデーターツールを使用して、スクリプトタスクを実行し、実行結果を確認します。必要に応じて、後でWEM Webコンソールにインポートするためにタスクをエクスポートします。

1. **スクリプトを開く**をクリックして、ローカルで準備されたPowerShellスクリプトをロードします。または、**最近**のリストから最近開いたスクリプトを選択します。
2. 必要に応じて、コードエディター内でスクリプトを更新します。スクリプトタスクを編集するを参照してください。
3. **構成**タブに移動し、次の設定を構成します。スクリプトタスクを構成するを参照してください。
   - 権限
   - スクリプトを実行する前に署名を検証する
   - 作業フォルダー
   - 出力ファイル
   - 入力パラメーター
   - タイムアウト値
4. スクリプトの内容を確認するには、**実行**をクリックします。
5. **出力**コンソールを表示します。
6. **エクスポート**をクリックします。
7. **スクリプトのエクスポート**ウィザードで、次の設定を構成し、**保存**をクリックします。
   - **同じフォルダー内の他のすべてのファイルを含める**。オプションで、エクスポート時に同じディレクトリ内のすべてのファイルを含めるかどうかを選択します。
   - **署名を追加**。オプションで、エクスポート時にファイルに署名するかどうかを選択します。

     > **注:**
     >
     > ローカル証明書ストアにインストールされている証明書を選択します。証明書には秘密キーが含まれており、コード署名をサポートしている必要があります。
8. **エクスポート**をクリックします。

Ivanti Workspace Control 用移行ツール

Ivanti Workspace Control 用移行ツールを使用して、Ivanti Workspace Control の構成を WEM で使用できるように変換します。このツールは、ソースファイルの準備、設定の変換、結果の確認、および WEM へのインポート用に変換された構成のエクスポートをガイドします。

移行を完了するには、次の手順に従います。

1. ツールハブからツールを開きます。
2. ファイルを準備します。
    a. Ivanti Environment Manager から XML 構成ファイルをエクスポートします。
    b. (オプション) 管理ロール XML ファイルをエクスポートします。
3. 構成ファイルを変換します。
    a. 変換する XML 構成ファイルを選択します。
    b. (オプション) 管理ロール ファイルをインポートします。
    c. 変換を開始するには、**Convert** を選択します。
4. 変換結果を確認します。
    a. 次のタブで結果を確認します。
        - **Converted**: 正常に変換されたすべての設定を表示します。
        - **Unsupported**: 変換できず、除外された項目を表示します。
    b. エクスポートする構成項目を選択します。
    c. エクスポートされた項目に適用する名前のプレフィックスを指定します。
5. 変換された設定をエクスポートします。
    a. **Export selected** を選択します。
    b. ファイルを保存する場所を選択します。 ツールは、エクスポートされた構成を含む ZIP ファイルを生成します。
6. WEM Webコンソールで、エクスポートしたファイルをWEMにインポートします。
    a. WEM Webコンソールにサインインします。
    b. ZIPファイルを構成セットにインポートします。詳細については、「エクスポートされた設定を使用して割り当てグループを作成する」を参照してください。

制限事項

一部のIvanti Workspace Control構成は変換できません。これらの項目は、レビュー中に**サポートされていない**タブに表示されます。

OUの割り当て

Ivantiの組織単位（OU）に基づくアクセス制御は、WEMにマッピングできません。これらのアクセス制御ルールは、WEMで手動で再作成することをお勧めします。

空または無効な構成

このツールは、必要な情報が不足している構成項目を除外します。例：

- パスがないネットワークドライブ
- コマンドラインがないアプリケーション

クイックアクセス用のローカルアプリケーションを追加する

クイックアクセス用にローカルアプリケーションをCitrix Environment Tool Hubに追加します。追加されたアプリケーションは個人データの一部として扱われ、Profile Management環境でマシンを切り替えても保持されます。

ローカルアプリケーションを追加するには：

1. **ローカルアプリ**タブで、**ローカルアプリの追加**をクリックします。
2. 1つ以上のアプリケーションに移動して選択します。

ローカルのCitrixアプリケーション（Citrix Virtual Desktop Agent、Citrix Workspace、Citrix Workspace Environment Management Consoleなど）を追加するには：

1. **ローカルアプリ**タブで、**Citrixコンポーネントのスキャン**をクリックします。
2. スキャンによって検出されたアプリケーションの名前とパスを確認します。
3. 追加するアプリケーションを選択します。

> **注:**
>
> 追加したアプリケーションを削除するには、ごみ箱アイコンをクリックします。

一般的なコントロールパネルのアプレット

以下のコントロールパネルのアプレットはWindowsで一般的です。

アプレット名	**正規名**

アクションセンター	Microsoft.ActionCenter
管理ツール	Microsoft.AdministrativeTools
自動再生	Microsoft.AutoPlay
生体認証デバイス	Microsoft.BiometricDevices
BitLocker ドライブ暗号化	Microsoft.BitLockerDriveEncryption
色の管理	Microsoft.ColorManagement
資格情報マネージャー	Microsoft.CredentialManager
日付と時刻	Microsoft.DateAndTime
既定のプログラム	Microsoft.DefaultPrograms
デバイス マネージャー	Microsoft.DeviceManager
デバイスとプリンター	Microsoft.DevicesAndPrinters
表示	Microsoft.Display
コンピューターの簡単操作センター	Microsoft.EaseOfAccessCenter
ファミリー セーフティ	Microsoft.ParentalControls
ファイル履歴	Microsoft.FileHistory
フォルダーオプション	Microsoft.FolderOptions
フォント	Microsoft.Fonts
ホームグループ	Microsoft.HomeGroup
インデックスのオプション	Microsoft.IndexingOptions
赤外線	Microsoft.Infrared
インターネットオプション	Microsoft.InternetOptions
iSCSI イニシエーター	Microsoft.iSCSIInitiator

iSNS サーバー	Microsoft.iSNSServer
キーボード	Microsoft.Keyboard
言語	Microsoft.Language
位置情報の設定	Microsoft.LocationSettings
マウス	Microsoft.Mouse
MPIO構成	Microsoft.MPIOConfiguration
ネットワークと共有センター	Microsoft.NetworkAndSharingCenter
通知領域のアイコン	Microsoft.NotificationAreaIcons
ペンとタッチ	Microsoft.PenAndTouch
個人設定	Microsoft.Personalization
電話とモデム	Microsoft.PhoneAndModem
電源オプション	Microsoft.PowerOptions
プログラムと機能	Microsoft.ProgramsAndFeatures
回復	Microsoft.Recovery
リージョン	Microsoft.RegionAndLanguage
RemoteApp とデスクトップ接続	Microsoft.RemoteAppAndDesktopConnections
サウンド	Microsoft.Sound
音声認識	Microsoft.SpeechRecognition
記憶域スペース	Microsoft.StorageSpaces
同期センター	Microsoft.SyncCenter
システム	Microsoft.System
タブレットPC設定	Microsoft.TabletPCSettings

タスクバーとナビゲーション	Microsoft.Taskbar
トラブルシューティング	Microsoft.Troubleshooting
TSAppInstall	Microsoft.TSAppInstall
ユーザーアカウント	Microsoft.UserAccounts
Windows エニータイム アップグレード	Microsoft.WindowsAnytimeUpgrade
Windows ディフェンダー	Microsoft.WindowsDefender
Windows ファイアウォール	Microsoft.WindowsFirewall
Windows モビリティ センター	Microsoft.MobilityCenter
Windows トゥー ゴー	Microsoft.PortableWorkspaceCreator
Windows アップデート	Microsoft.WindowsUpdate
ワークフォルダー	Microsoft.WorkFolders

顧客データ管理

この記事では、Workspace Environment Management™ (WEM) サービスに関連する顧客データについて説明します。顧客データの収集、保存、および保持に関する情報を提供します。

概要

WEMサービスは、インテリジェントなリソース管理およびプロファイル管理テクノロジーを使用して、Citrix DaaS (旧Citrix Virtual Apps and Desktops™サービス) およびCitrix Virtual Apps and Desktopsの展開において、最高のパフォーマンス、デスクトップログオン、およびアプリケーション応答時間を提供します。これは、ソフトウェアのみで構成され、ドライバー不要のソリューションです。

データ所在地

以下のデータソースは、WEMサービスUIのURLに応じて、米国 (US) または欧州連合 (EU) にあるMicrosoft Azure Cloud環境に集約されます。

- EUベースのインスタンスが有効になる前にWEMサービスにオンボーディングした組織の場合、ストレージの場所は米国にあります。

- EUベースのインスタンスが有効になった後にWEMサービスにオンボーディングした組織の場合、ストレージの場所は、管理者がCitrix Cloudに組織をオンボーディングする際に選択したホームリージョンによって異なる場合があります。
  - ホームリージョンがEUの場合、ストレージの場所はEUにあります。
  - ホームリージョンがEUでない場合、ストレージの場所は米国にあります。

データ収集

WEMサービスには、次の3種類の顧客データが含まれます。

- WEM管理コンソールおよびWEMインフラストラクチャサービスから収集されたログ
- 管理者によって定義されたWEMサービスエージェントのアクションとポリシー
- WEMサービスエージェントによって報告されるエンドユーザーアクティビティに関連する統計

データ制御とストレージ

ログファイル。WEM管理コンソール（**管理**タブ）を使用して、WEMサービスに関連するログ設定をいつでも制御できます。ログ機能を有効または無効にすることもできます。「Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log」ログファイルは、WEMインフラストラクチャサービスのインストールディレクトリにあります。

WEMサービスエージェントのアクションとポリシー。設定したすべてのアクションとポリシーは、バックエンドのAzureデータベースに保存され、WEM管理コンソール（**Manage**タブ）を介してのみアクセスできます。

エンドユーザーアクティビティの統計。WEM管理コンソール（**Manage**タブ）で監視するすべての統計は、バックエンドのAzureデータベースに保存され、WEM管理コンソールを介してのみアクセスできます。

データ保持

WEMサービスに関連付けられた顧客データは、サービス期間全体にわたって識別可能な形式で保持されます。保持期間はデータの種類によって異なります。

- ログファイルはデフォルトで90日間保持され、その後削除されます。これらのログファイルをカスタム期間保持することはサポートされていません。
- WEMサービスエージェントのアクションとポリシーは長期的に保持されます。
- エンドユーザーアクティビティの統計はデフォルトで30日間保持され、その後削除されます。これらの統計をカスタム期間保持することはサポートされていません。

動的トークン

Workspace Environment Management の アクション で動的トークンを使用すると、より強力な機能を実現できます。

動的トークンは以下のフィールドで使用できます。

- グループポリシー設定
  - **アクション**が**削除**に設定されている場合: **値**
  - **アクション**が**値の設定**に設定され、**タイプ**が**REG_SZ: データ**に設定されている場合
  - **アクション**が**値の設定**に設定され、**タイプ**が**REG_EXPAND_SZ: データ**に設定されている場合
  - **アクション**が**値の設定**に設定され、**タイプ**が**REG_MULTI: データ**に設定されている場合

> **注:**
>
> グループポリシー設定には、マシン設定とユーザー設定の2種類があります。マシン設定では、一部の動的トークンはサポートされていません。グループポリシー設定の動的トークンサポート を参照してください。

グループポリシー設定の動的トークンサポート

グループポリシー設定 で動的トークンを使用すると、さまざまな環境でより適応性の高いポリシー構成が可能になり、手動構成が減り、ポリシー管理が簡素化されます。

グループポリシー設定には、次の2種類があります。

- **マシン設定**。これらの設定は、誰がログオンしているかに関係なく、マシンにのみ適用されます。
- **ユーザー設定**。これらの設定は、どのマシンにログオンしているかに関係なく、ユーザーにのみ適用されます。

すべての動的トークンがグループポリシー設定でサポートされています。ただし、以下のものはマシン設定ではサポートされていません。

- ハッシュタグ
  - ##FullUserName##

    - ##UserInitials##
    - ##ClientName##
    - ##ClientIPAddress##
    - ##UserLDAPPath##
    - ##ClientRemoteOS##
- AD属性
    -
- HKCU配下のレジストリ
- アプリケーション
    - アプリケーションの種類が**インストールアプリケーション**の場合: **コマンドライン**、**作業ディレクトリ**、および**パラメータ**
    - アプリケーションの種類が**ファイル/フォルダ**の場合: **ターゲット**
    - アプリケーションの種類が**URL**の場合: **ショートカットURL**
    - **アイコンファイル**
- プリンター
    - **ターゲットパス**
- ネットワークドライブ
    - **ターゲットパス**」と「**表示名**
- 仮想ドライブ
    - **ターゲットパス**
- レジストリ
    - **ターゲットパス**」、「**ターゲット名**」、および「**ターゲット値**

> **注:**
>
> 「**ターゲット値**」フィールドは、環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用すると、期待どおりに機能しません。

- 環境変数

- **変数値**

- ポート
  - **ポートターゲット**
- Ini ファイル
  - **ターゲットパス」、「ターゲットセクション」、「ターゲット値の名前」**、および「**ターゲット値**

> **注:**
>
> 「**ターゲットセクション」、「ターゲット値の名前」**、および「**ターゲット値**」フィールドは、環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用すると、期待どおりに機能しません。

- 外部タスク
  - **パス」**と「**引数**
- ファイルシステム操作
  - **ソースパス**と**ターゲットパス**
- 特定のフィルター条件
  - 例: 条件タイプが**Active Directory属性の一致**の場合: **テスト済みActive Directory属性**と**一致結果**

> **注:**
>
> フィルター条件でサポートされているフィールドの完全なリストについては、「フィルター条件のサポートマトリックス」を参照してください。

文字列操作

スクリプト内で文字列を操作してドライブをマッピングしたり、アプリケーションを起動したりする必要がある場合があります。Workspace Environment Management™エージェントは、次の文字列操作を受け入れます。

モーダル	説明	例
#レフト(string,length)#	指定された数の文字を左から返します。	`#Left(abcdef,2)#` は `ab` を返します
#ライト(string,length)#	指定された数の文字を右から返します。	`#Right(abcdef,2)#` は `ef` を返します
#トランケート(string,length)#	文字列の長さが指定された長さ以下の場合、文字列全体を返します。文字列の長さが指定された長さより大きい場合、指定された数の文字を左から返します。	`#Truncate(abcdef,3)#` は `abc` を返します
&Trim(文字列)&	文字列の先頭と末尾にあるすべての空白文字を削除します。	`&Trim( a b c )&` は `a b c` を返します
&RemoveSpaces(文字列)&	文字列内のすべての空白文字を削除します。	`&RemoveSpaces( a b c )&` は `abc` を返します
&Expand(文字列)&	文字列に \% で囲まれた環境変数が含まれている場合、その変数を展開します。	`&Expand(%userprofile%\destop)&` は `C:\Users\Jill\desktop` を返します
\$Split(string,[splitter],index)\$	[] で囲まれた区切り文字に基づいて文字列を部分文字列に分割し、インデックス付きの部分文字列を返します。	`$Split(abc-def-hij,[-],2)$` は `hij` を返します
#Mid(文字列,開始インデックス)#	文字列内の指定されたインデックスから開始し、それ以降のすべての文字を返します。	`#Mid(abcdef,2)#` は `cdef` を返します
!Mid(文字列,開始インデックス,長さ)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された数の文字を返します。	`!Mid(abcdef,1,2)!` は `bc` を返します

モーダル	説明	例
!Substring(文字列,開始インデックス,長さ)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された数の文字を返します。	`!Substring(abcdef,1,2)!` は `bc` を返します
#Mod(文字列,長さ)#	文字列を長さで除算し、余りを返します。文字列は整数に変換できる必要があります。	`#Mod(7,3)#` は `1` を返します

注:

- 文字列操作は、ハッシュタグとActive Directory属性でもサポートされています。例: 現在のドメインユーザーの名前属性が `Administrator` の場合、`#Left([ADAttribute:NAME],2)#` は `Ad` を返し、`$Split(##ClientIPAddress##,[\.],2)$` は `157` を返します。
- `!Mid(string,startindex,length)!` と `!Substring(string,startindex,length)!` の操作は常に最後に実行されます。

ハッシュタグ

ハッシュタグは、Workspace Environment Managementアイテムの処理で広く使用されている置換機能です。次の例は、ハッシュタグの使用方法を示しています。

.iniファイルに書き込むには、**.ini**ファイルのパスに**%UserName%**を使用できます。**Workspace Environment Managementはそれを処理し、最終ディレクトリを展開します。ただし、Workspace Environment Managementが**.ini**自体に書き込む値を評価することは、より複雑です。**%UserName%**を文字通り書き込むか、展開された値を書き込むかを選択できます。

柔軟性を高めるために、**##UserName##**はハッシュタグとして存在します。そのため、値に**%UserName%**を使用すると文字通り書き込まれ、**##UserName##**は展開された値を書き込みます。

例については、次の表を参照してください。

項目	説明	例
##UserName##	展開された環境変数「%username%」を返します	ジル
##UserProfile##	展開された環境変数「%userprofile%」を返します	C:\Users\Jill
##FullUserName##	Active Directory内のユーザーのフルネームを返します	ジル・チョウ
##UserInitials##	Active Directory内のユーザー名のイニシャルを返します	JC
##UserAppData##	特殊フォルダー RoamingAppData の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\AppData\Roaming
##UserPersonal##	特殊フォルダー ドキュメントの実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Documents
##UserDocuments##	特殊フォルダー ドキュメントの実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Documents
##UserDesktop##	特殊フォルダー デスクトップの実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Desktop
##UserFavorites##	特殊フォルダー お気に入りの実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Favorites
##UserTemplates##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - Templates	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Templates
##UserStartMenu##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - StartMenu	C:\ユーザー\Jill\AppData\ローミング\Microsoft\Windows\スタートメニュー
##UserStartMenuPrograms##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - Programs	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs

項目	説明	例
##UserLocalAppData##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - LocalAppData	C:\Users\Jill\AppData\Local
##UserMusic##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - Music	C:\Users\Jill\Music
##UserPictures##	特殊フォルダー - ピクチャ の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Pictures
##UserVideos##	特殊フォルダー - ビデオ の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Videos
##UserDownloads##	特殊フォルダー - ダウンロード の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Downloads
##UserLinks##	特殊フォルダー - リンク の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Links
##UserContacts##	特殊フォルダー - 連絡先 の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Contacts
##UserSearches##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - SavedSearches	C:\Users\Jill\Searches
##共通プログラム##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - CommonPrograms	C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs
##ComputerName##	マシンの名前を返します	WIN10EN-LR3B66L
##ClientName##	クライアントマシンの名前を返します	W2K16ST-5IS28JP
##ClientIPAddress##	クライアントマシンのIPアドレスを返します	10.150.153.138
##IpAddress##	マシンのIPアドレスを返します	10.150.153.213
##ADサイト##	マシンがメンバーであるActive Directoryサイトを返します	NKG

項目	説明	例
##DefaultRegValue##	-	常にstring.Empty
##UserLDAPPath##	現在のユーザーの識別名を返します	CN=Jill Chou,OU=ユーザーアカウント,OU=APAC,DC=citrite,DC=net
##VUEMAgentFolder##	エージェントフォルダーを返します	C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent
##RDSSessionID##	リモートデスクトップセッションIDを返します	2
##RDSSessionName##	リモートデスクトップセッション名を返します	RDP-Tcp#72
##ClientRemoteOS##	仮想デスクトップへの接続に使用されるマシンのオペレーティングシステムを返します	ウィンドウズ
##ClientOSInfos##	マシンのOS情報を返します	Windows 10 Enterprise 64 ビット

ハッシュタグ **##UserScreenCaptureComment##** は、製品の特定の箇所で使用するために実装されています。このタグは、**Advanced Settings** > **UI Agent Personalization** > **Helpdesk Options** の下のメールテンプレートに含めることができます。含めると、エージェントのスクリーンキャプチャユーティリティで、スクリーンキャプチャの下にコメントフィールドが表示されます。コメントは、メールテンプレートでタグを配置した場所にサポートメールに含まれます。

アクティブディレクトリ属性

Active Directory属性を操作するために、WEMは****の値を関連するActive Directory属性に置き換えます。 は、任意のActive Directory属性の動的トークンです。指定された属性の値をチェックする関連フィルターがあります。

ユーザー組織単位 (OU) 構造の場合、WEMは****の値を関連するActive Directory OU名に置き換えます。Active DirectoryパスはActive Directory内の完全なユーザーパス (LDAP) であり、はそのサブセットです。

たとえば、ユーザーが属するOUのネットワークドライブを構築したいとします。ネットワークドライブパスで動的トークン を使用して、ユーザーのOUを動的に解決できます。動的トークンを使用する方法は2つあります。

- ネットワークドライブのパスで動的トークンを直接使用します。たとえば、次のパスを使用できます: `\\Server\Share\[UserParentOU:0]\`。
- OUという環境変数を設定し、その値をに設定します。その後、`\\Server\Share\%OU%\`としてドライブをマップできます。

注:

- OU構造で到達したいレベルに対応する数値で「0」を置き換えることができます。
- パスに変数を追加できます。これを行うには、OUレイアウトと一致する正確なフォルダ構造があることを確認してください。

フィルタリング目的でActive Directory属性を使用することもできます。**管理 \> フィルタ \> 条件 \> フィルタ条件リスト**タブで、**追加**をクリックすると、新規フィルタ条件ウィンドウを開くことができます。新規フィルタ条件ウィンドウには、Active Directory属性に関連付けられた次の4つのフィルタ条件タイプが表示されます。

- Active Directory属性の一致
- Active Directoryグループの一致
- Active Directoryパスの一致
- Active Directoryサイトの一致

Active Directory属性の一致の場合、動的トークンはです。 Active Directoryグループの一致には動的トークンはありません。この条件タイプはグループメンバーシップの確認に使用されるためです。 Active Directoryパスの一致の場合、完全なLDAPパスの動的トークンは##UserLDAPPath##です。 Active Directoryサイトの一致の場合、動的トークンは##ADSite##です。

例については、次の表を参照してください。

モーダル	説明	例
[ADAttribute:attrName]	ドメインユーザーの指定された属性を返します	`[ADAttribute:name]` は `Administrator` を返します
[PrinterAttribute:printername|attrName]	指定されたドメインプリンターの指定された属性を返します	[PrinterAttribute:printer1|name] は printer1 を返します
[UserParentOU: level]	現在のユーザーの親 OU の指定されたレベルを返します	`CN=Jill Chou,OU=User Accounts,OU=APAC,DC=citrite,DC=net` の `[UserParentOU:1]` は `APAC` を返します

レジストリ

レジストリを操作するには、WEM は `[RegistryValue:<Registry path>]` の値を関連するレジストリ値に置き換えます。たとえば、次の値を指定できます。

-

XML ファイル

XML ファイルを操作するには、WEM は `[GetXmlValue:<XML path>|<tag name>]` の値を XML ファイル内の特定のタグ値に置き換えます。XML パスは、実際のパスまたはパスに解決される環境変数にすることができます。環境変数は % で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- \[GetXmlValue:C:\citrix\test.xml\|summary\] または
- \[GetXmlValue:%xmlpath%\|summary\]

INI ファイル

.ini ファイルを操作するには、WEM は `[GetIniValue:<INI path>|<section name in the .ini file>|<key name in the .ini.file>]` をキー値に置き換えます。INI パスは、実際のパスまたはパスに解決される環境変数にすることができます。環境変数は % で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- \[GetIniValue:C:\citrix\test.ini\|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0\|LicExpTime\] または
- \[GetIniValue:%inipath%\|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0\|LicExpTime\]

詳細情報

フィルター条件のサポートマトリックス

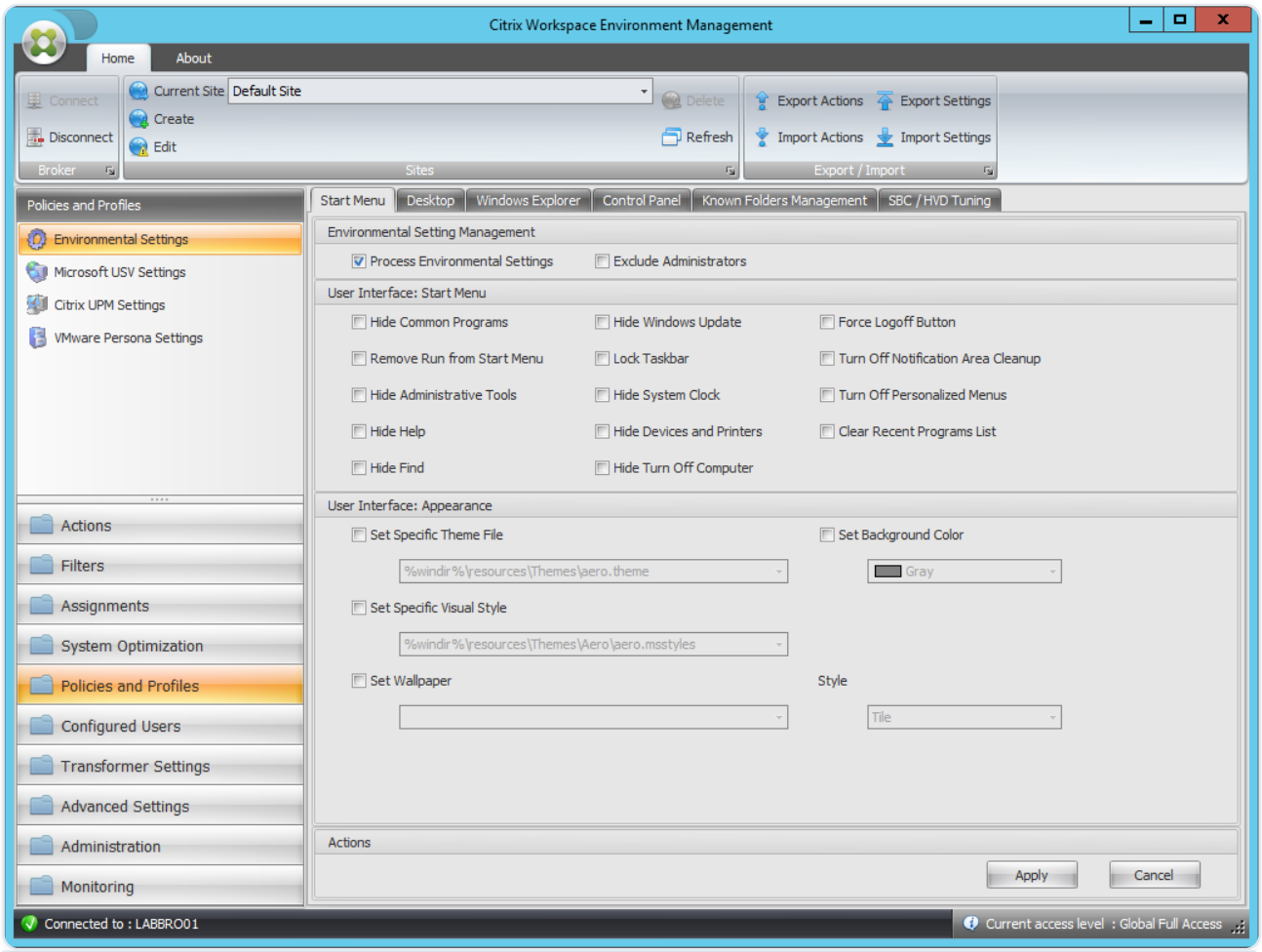
次の表に、テストされた値または一致する結果が動的トークンをサポートするすべての条件タイプを示します。

条件タイプ	テスト値	一致結果
ComputerNameの一致	-	はい
ClientNameの一致	-	はい
環境変数の一致	いいえ	はい
レジストリ値の一致	はい	はい
WMIクエリ結果の一致	-	はい
XenApp®ファーム名の一致	-	はい
XenAppゾーン名の一致	-	はい
XenDesktop®ファーム名の一致	-	はい
XenDesktopデスクトップグループ名の一致	-	はい
Active Directory属性の一致	はい	はい
名前または値がリストにある	はい	はい
ComputerNameの不一致	-	はい
クライアント名が一致しない	-	はい
環境変数が一致しない	いいえ	はい
レジストリ値が一致しない	はい	はい
WMIクエリ結果が一致しない	-	はい

条件タイプ	テスト値	一致結果
XenAppファーム名が一致しない	-	はい
XenAppゾーン名が一致しない	-	はい
XenDesktopファーム名が一致しない	-	はい
XenDesktopデスクトップグループ名が一致しない	-	はい
Active Directory属性が一致しない	はい	はい
名前または値がリストにない	はい	はい
動的値が一致	はい	はい
動的値が一致しない	はい	はい
ファイルバージョンが一致	はい	はい
ファイルバージョンが一致しない	はい	はい
公開リソース名	-	はい
名前がリストにある	はい	はい
名前がリストにない	はい	はい
ファイル/フォルダが存在する	-	はい
ファイル/フォルダが存在しない	-	はい

環境設定のレジストリ値

この記事では、Workspace Environment Management™ サービスにおける環境設定に関連付けられているレジストリ値について説明します。



共通プログラムを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoCommonGroups
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

スタートメニューから「ファイル名を指定して実行」を削除する	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoRun
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

管理ツールを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Advanced`
値の名前	Start_AdminToolsRoot
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ヘルプを非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoSMHelp
値の型	DWORD
有効な値	1

ヘルプを非表示	
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

検索を非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoFind
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

WINDOWS UPDATEを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoWindowsUpdate
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクバーをロック	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`

タスクバーをロック	
値の名前	LockTaskbar
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

システムクロックを非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	HideClock
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

デバイスとプリンターを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Advanced`
値の名前	Start_ShowPrinters
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コンピューターのシャットダウンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoClose
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

強制ログオフボタン	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	ForceStartMenuLogoff
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

通知領域のクリーンアップを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoAutoTrayNotify
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

通知領域のクリーンアップを無効にする	
処理	ログオン時のサービス

パーソナライズされたメニューをオフにする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	インテリメニュー
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

最近使用したプログラムリストをクリアする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	ClearRecentProgForNewUserInStartMenu
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

特定のテーマファイルを設定	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Personalization`
値の名前	ThemeFile

特定のテーマファイルを設定	
値の型	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しません
処理	ログオン時のサービス

背景色の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Colors`
値の名前	背景
値の型	REG_SZ
有効な値	設定された色 (R G B)
無効な値	値が存在しないか、以前に設定された値の場合は 0 0 0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

特定のビジュアルスタイルを設定	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Personalization`
値の名前	SetVisualStyle
値の型	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス

壁紙を設定	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	壁紙
値の型	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	WallpaperStyle
値の型	REG_SZ
有効値	スタイル値に依存
無効値	値なし
処理	ログオン時のサービス
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	TileWallpaper
値のタイプ	REG_SZ
有効値	スタイル値に依存
無効値	値なし
処理	ログオン時のサービス

環境設定デスクトップ(/en-us/workspace-environment-management/service/media/wem-admin-console-environmental-settings-02.png)

マイコンピュータアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{20D04FE0-3AEA-1069-A2D8-08002B30309D}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

ごみ箱アイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{645FF040-5081-101B-9F08-00AA002F954E}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

マイドキュメントアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{450D8FBA-AD25-11D0-98A8-0800361B1103}
値の型	DWORD
有効な値	1

マイドキュメントアイコンを非表示にする	
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

スタートではなくデスクトップに移動	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\StartPage`
値の名前	OpenAtLogon
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

システムプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoPropertiesMyComputer
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ごみ箱のプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`

ごみ箱のプロパティを無効にする	
値の名前	NoPropertiesRecycleBin
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

マイ ドキュメントのプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoPropertiesMyDocuments
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ネットワークアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

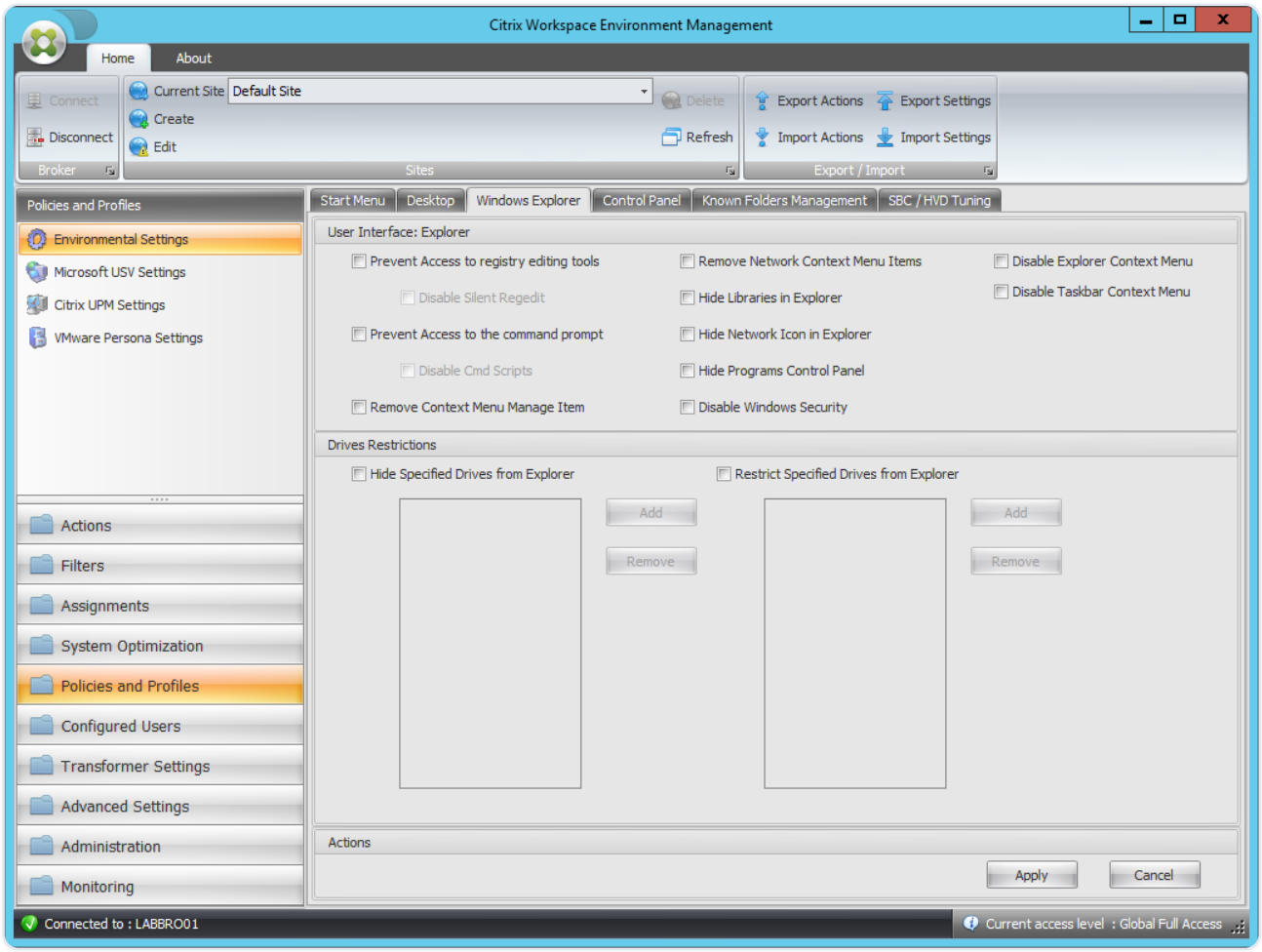
ネットワーク接続を非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNetworkConnections
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクマネージャーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	DisableTaskMgr
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

スイッチャーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImmersiveShell\EdgeUI`
値名	DisableTLcorner
値型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

スイッチャーを無効にする	
処理	ログオン時のサービス

チャームヒントを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImmersiveShell\EdgeUI`
値名	DisableCharmsHint
値型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス



レジストリ編集ツールへのアクセスを防止	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	DisableRegistryTools
値の型	DWORD
有効な値	サイレント Regedit の無効化？2 : 1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コマンドプロンプトへのアクセスを禁止する	
親キー	`HKCU\Software\Policies\System`
値の名前	DisableCMD
値の型	DWORD
有効な値	サイレントCmdスクリプトを無効にする？2 : 1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コンテキストメニューの管理項目を削除する	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoManageMyComputerVerb
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

コンテキストメニューの管理項目を削除する	
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ネットワークコンテキストメニュー項目を削除	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNetworkConnections
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

エクスプローラーでライブラリを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{031E4825-7B94-4dc3-B131-E946B44C8DD5}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

エクスプローラーでネットワークアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`

エクスプローラーでネットワークアイコンを非表示にする	
値の名前	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

プログラムのコントロールパネルを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Programs`
値の名前	NoProgramsCPL
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

WINDOWSセキュリティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNtSecurity
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

WINDOWSセキュリティを無効にする	
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

エクスプローラーのコンテキストメニューを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoViewContextMenu
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクバーのコンテキストメニューを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoTrayContextMenu
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたドライブをエクスプローラーから非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoDrives

指定されたドライブをエクスプローラーから非表示にする	
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理	ログオン時のサービス

指定されたドライブをエクスプローラーから制限する	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoViewOnDrive
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理	ログオン時のサービス

環境設定コントロールパネル(/en-us/workspace-environment-management/service/media/wem-admin-console-environmental-settings-04.png)

コントロールパネルを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoControlPanel
値の型	DWORD
有効な値	1

コントロールパネルを非表示にする	
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたコントロールパネルアプレットのみを表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	RestrictCpl
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

許可されたアプレットごとに	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer\RestrictCpl`
値の名前	アプレットインデックス (1から始まり、自動的にインクリメントされます)
値の型	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	Null / 削除済み
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたコントロールパネルアプレットを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	DisallowCpl
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

許可されていないアプレットごとに	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer\DisallowCpl`
値の名前	アプレットインデックス (1から始まり、自動的にインクリメントされます)
値の型	REG_SZ
有効な値	アプレット名
無効な値	Null / 削除済み
処理中	エージェントによって呼び出されるサービス

環境設定の既知のフォルダー管理(/en-us/workspace-environment-management/service/media/wem-admin-console-environmental-settings-05.png)

指定された既知のフォルダーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Explorer`
値の名前	DisableKnownFolders

指定された既知のフォルダーを無効にする	
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理	ログオン時のサービス

無効なフォルダーごとに	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Explorer\ DisableKnownFolders`
値の名前	無効なフォルダー名
値の型	REG_SZ
有効な値	無効なフォルダー名
無効な値	Null / 削除済み
処理	ログオン時のサービス

環境設定 SBC/HVDチューニング(/en-us/workspace-environment-management/service/media/wem-admin-console-environmental-settings-06.png)

ドラッグフルウィンドウを無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	DragFullWindows
値のタイプ	REG_SZ
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

カーソル点滅を無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	DisableCursorBlink
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

AUTOENDTASKS を有効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	AutoEndTasks
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

WAITTOKILLAPP タイムアウト	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	WaitToKillAppTimeout
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	20000 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

カーソル点滅速度の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	CursorBlinkRate
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	500 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

メニュー表示遅延の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	MenuShowDelay
値の型	DWORD
有効値	設定値
無効値	400 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

インタラクティブ遅延の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値名	InteractiveDelay
値の型	DWORD
有効値	設定値
無効な値	Null / 削除済み
処理	ログオン時のサービス

SMOOTHSCROLLを無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	SmoothScroll
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

MINANIMATEを無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	MinAnimate
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

フィルター条件

Workspace Environment Management には、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を構成するために使用する次のフィルター条件が含まれています。管理コンソールでのこれらの条件の使用方法の詳細については、「フィルター」を参照してください。

次のフィルター条件を使用する場合は、次の2つのシナリオに注意してください。

- エージェントがシングルセッションまたはマルチセッションOSにインストールされている場合:
    - 「クライアント」は、エージェントホストに接続するクライアントデバイスを指します。
    - 「コンピューター」と「クライアントリモート」は、エージェントホストを指します。

- エージェントが物理エンドポイントにインストールされている場合、条件名に「クライアント」が含まれる条件は適用されません。

条件名	常にTRUE
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	該当なし
予期される構文	該当なし
戻り値	真。

条件名	コンピューター名の一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。
予期される構文	単一の名前テスト: Computername 複数のテスト (OR): Computername1;Computername2 ワイルドカード (複数にも対応): ComputerName*
戻り値	現在のコンピューター名がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアント名の一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される値のタイプ	文字列。
予期される構文	単一の名前テスト: Clientname 複数のテスト (OR): Clientname1;Clientname2 ワイルドカード (複数にも対応): ClientName*
戻り値	現在のクライアント名がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	IPアドレスの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	IPアドレス。
予期される構文	単一の名前テスト: IpAddress 複数のテスト (OR): IpAddress1;IpAddress2 ワイルドカード (複数にも対応): IpAddress* 範囲 (複数にも対応): IpAddress1-IpAddress2
戻り値	現在のコンピューターのIPアドレスがテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	クライアントIPアドレスの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	IPアドレス。
予期される構文	単一の名前テスト: ClientIpAddress 複数のテスト (OR): ClientIpAddress1;ClientIpAddress2 ワイルドカード (複数でも機能します): ClientIpAddress* 範囲 (複数でも機能します): IpAddress1-IpAddress2
戻り値	現在のクライアントIPアドレスがテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	ACTIVE DIRECTORYサイトの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	テストするActive Directoryサイトの正確な名前。
予期される構文	Active Directoryサイト名。

条件名	ACTIVE DIRECTORYサイトの一致
戻り値	指定されたサイトが現在のサイトと一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	スケジュール設定
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	曜日 (例: 月曜日)。
予期される構文	単一の名前テスト: DayOfWeek 複数のテスト (OR): DayOfWeek1; DayOfWeek2
戻り値	今日がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	環境変数の一致
予期される値のタイプ	文字列。テスト対象の変数の名前。
予期される結果のタイプ	文字列。テスト対象の変数の予期される値。
予期される構文	単一の名前テスト: 値 Nullでないテスト: ?
戻り値	環境変数が存在し、値が一致する場合にTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	レジストリ値の一致
期待される値のタイプ	文字列。テストするレジストリ値の完全なパスと名前。例: レジストリキー **HKCU\Software\Citrix\TestValueName**
期待される結果のタイプ	文字列。テストされたレジストリエントリの期待される値。
期待される構文	単一の名前テスト: 値 Nullでないテスト: ?

条件名	レジストリ値の一致
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合にTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	WMIクエリ結果の一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。
予期される構文	有効なWMIクエリ。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/wmisdk/querying-with-wql>`を参照してください。
戻り値	クエリが成功し、結果がある場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザー国の一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。
予期される構文	2文字のISO言語名。
戻り値	ユーザーのISO言語名が指定された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザーUI言語の一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。2文字のISO言語名。例: FR。
予期される構文	2文字のISO言語名。例: FR。
戻り値	ユーザーのUI ISO言語名が指定された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザーSBCリソースタイプ
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	リストから選択。
予期される構文	該当なし
戻り値	ユーザーコンテキスト（公開されたデスクトップまたはアプリケーション）が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	OSプラットフォームの種類
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	マシンのプラットフォームの種類（x64またはx86）が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	接続状態
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	接続状態（オンラインまたはオフライン）が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	CITRIX PROVISIONING™ イメージモード
予期される値のタイプ	該当なし

条件名	CITRIX PROVISIONING™ イメージモード
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のCitrix Provisioningイメージモードが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアントOS
予期される値のタイプ	該当なし
期待される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
期待される構文	該当なし
戻り値	現在のクライアントオペレーティングシステムが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORY パスの照合
期待される値のタイプ	該当なし
期待される結果のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directoryパスの名前。
期待される構文	単一名テスト: 厳密なLDAPパス照合 ワイルドカードテスト: OU=Users* 複数エントリ: エントリをセミコロン (;) で区切る
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORY 属性の一致
予期される値のタイプ	文字列。テスト対象の Active Directory 属性の名前。

条件名	ACTIVE DIRECTORY 属性の一致
予期される結果のタイプ	文字列。テスト対象の Active Directory 属性の予期される値。
予期される構文	単一値テスト: 値 複数値エントリ: セミコロン (;) でエントリを区切る Null ではないことのテスト: ?
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	名前または値がリストにある
予期される値のタイプ	文字列。Integrity List manager ユーティリティによって生成された XML リストの完全なファイルパス。
予期される結果のタイプ	文字列。リスト内で検索する名前/値の予期される値。
予期される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前/値ペアに入力値が見つかった場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	コンピューター名不一致
否定条件の動作	**コンピューター名一致**を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**コンピューター名一致**を参照してください。

条件名	クライアント名不一致
否定条件の動作	ClientName Matchを実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**ClientName Match**を参照してください。

条件名	IPアドレス不一致
否定条件の動作	IP Address Matchを実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**IP Address Match**を参照してください。

条件名	クライアントIPアドレス不一致
否定条件の動作	クライアントIPアドレス一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**クライアントIPアドレス一致**を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORYサイト不一致
否定条件の動作	Active Directoryサイト一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**Active Directoryサイト一致**を参照してください。

条件名	環境変数不一致
否定条件の動作	環境変数一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**環境変数一致**を参照してください。

条件名	レジストリ値不一致
否定条件の動作	Registry Value Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Registry Value Match** を参照してください。

条件名	WMI クエリ結果の不一致
否定条件の動作	WMI Query result Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合

条件名	WMI クエリ結果の不一致
	は false)。詳細については、条件 **WMI Query result Match** を参照してください。

条件名	ユーザーの国との不一致
否定条件の動作	User Country Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **User Country Match** を参照してください。

条件名	ユーザー UI 言語の不一致
否定条件の動作	User UI Language Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **User UI Language Match** を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORY パスの不一致
否定条件の動作	Active Directory パスマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Active Directory パスマッチ** を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORY 属性の不一致
否定条件の動作	アクティブ属性パスマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **アクティブ属性パスマッチ** を参照してください。

条件名	名前または値がリストにない
否定条件の動作	名前または値がリストにあるを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **名前または値がリストにある** を参照してください。

条件名	クライアントリモート OS マッチ
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
期待される構文	該当なし
戻り値	現在のリモートクライアントオペレーティングシステムが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアントリモートOS不一致
否定条件の動作	クライアントリモートOS一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**クライアントリモートOS一致**を参照してください。

条件名	動的値一致
期待される値の型	文字列。環境変数または動的トークンを使用する任意の動的式。
期待される結果の型	文字列。テストされた式の期待される値。
期待される構文	単一の名前テスト: 値 Nullでないテスト: ?
戻り値	動的式の結果値が存在し、その値が一致する場合はtrue、それ以外の場合はfalse。

条件名	動的な値の不一致
否定条件の動作	動的な値の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**動的な値の一致**を参照してください。

条件名	トランスフォーマーモードの状態
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のトランスフォーマーの状態が選択された値と一致する場合はtrue、それ以外の場合はfalse。

条件名	クライアントOS不一致
否定条件の動作	クライアントOS一致を実行し、逆の結果を返します（偽の場合は真、真の場合は偽）。詳細については、条件「**クライアントOS一致**」を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORYグループ一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。
予期される構文	単一名テスト: グループNetBIOS名 (DOMAIN\Groupname) 複数テスト (OR): Groupname1;Groupname2
戻り値	現在のユーザーグループのいずれかがテスト値と一致する場合に真、それ以外の場合は偽。

条件名	ACTIVE DIRECTORYグループ不一致
否定条件の動作	Active Directory Group Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Active Directory Group Match** を参照してください。

条件名	ファイルバージョンの一致
予期される値の型	文字列。テストするファイルの完全パスと名前。
	例: **C:\Test\TestFile.dll**
予期される結果の型	文字列。テスト対象ファイルの予期されるファイルバージョン値。
予期される構文	単一の名前テスト: 値 Null ではないテスト: ?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	ファイルバージョン不一致
否定条件の動作	「ファイルバージョンの一致」を実行し、その逆の結果 (false の場合は true、true の場合は false) を返します。詳細については、条件「**ファイルバージョンの一致**」を参照してください。

条件名	ネットワーク接続状態
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のネットワーク接続状態が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

重要:

フィルター条件タイプとして公開リソース名を使用する前に、次の点に注意してください。公開リソースが公開アプリケーションである場合は、「**一致する結果**」フィールドにアプリ

ケーションのブラウザ名を入力します。公開リソースが公開デスクトップである場合は、「**一致する結果**」フィールドにデスクトップの公開名を入力します。

条件名	公開リソース名
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。公開リソースの名前 (Citrix Virtual Apps/Citrix Virtual Desktops/RDS)。
予期される構文	単一の名前テスト: 公開リソース名 複数テスト (OR): Name1;Name2 ワイルドカードテスト: Name*
戻り値	現在の公開リソース名がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	名前がリストにある
予期される値の型	文字列。Integrity List managerユーティリティによって生成されたXMLリストの完全なファイルパス。
予期される結果の型	文字列。リスト内で検索する名前の予期される値。
予期される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前/値ペアに名前の一致がある場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	名前がリストにない
否定条件の動作	「名前がリストにある」を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件「**名前がリストにある**」を参照してください。

条件名	ファイル/フォルダーが存在する
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。
予期される構文	テストするファイルシステムエントリ (ファイルまたはフォルダー) のフルパス。パスには引用符 (") を含めないでください。
戻り値	指定されたファイルシステムエントリが存在する場合は true、それ以外の場合は false。

条件名	ファイル/フォルダーが存在しない
否定条件の動作	「ファイル/フォルダーが存在する」を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件「**ファイル/フォルダーが存在する**」を参照してください。

条件名	日付時刻の一致
期待される値の型	該当なし
期待される結果の型	文字列としてのDateTime。テストする日付/時刻。
期待される構文	単一の日付: 06/01/2016 日付範囲: 06/01/2016-08/01/2016 複数のエントリ: entry1;entry2 範囲と単一の日付は混在できます
戻り値	実行日付/時刻が指定されたエントリのいずれかに一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	日付時刻の不一致
否定条件の動作	DateTime Matchを実行し、逆の結果を返します (falseの場合はtrue、trueの場合はfalse)。詳

条件名	日付時刻の不一致
	細については、条件**DateTime Match**を参照してください。

Citrix DaaSおよびCitrix Virtual Apps and Desktops™に関連するフィルター条件

WEMは、Citrix DaaS (旧称Citrix Virtual Apps and Desktops service) およびCitrix Virtual Apps and Desktopsの展開で使用するための以下のフィルター条件をサポートしています。これらの条件は、現在サポートされているすべてのバージョンに適用されます。バージョン一致条件を使用する場合は、以下の考慮事項に注意してください。

- バージョン番号はさまざまな形式で指定できます。たとえば、`7.30`、`7.30.0`、または`7.30.0.0`と入力します。必要に応じて、アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用することもできます。たとえば、`7.30*`。アスタリスクは0個以上の文字に一致します。
- 指定されたバージョンは、Virtual Delivery Agent のバージョン番号ではなく、Delivery Controller のバージョン番号です。バージョン番号を表示するには、インストールメディアで **AutoSelect** アプリケーション (AutoSelect.exe ファイル) を見つけ、**AutoSelect** を右クリックして、**詳細**タブをクリックします。**製品バージョン**フィールドには、WEM で指定できるバージョン番号が表示されます。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS バージョン一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。Citrix Virtual Apps バージョン。例: 7.30
予期される構文	該当なし
戻り値	バージョンが選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS ファーム名一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。Citrix Virtual Apps ファーム名。例: Farm。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS ファーム名一致
予期される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSゾーン名の一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。Citrix Virtual Appsゾーン名。例: Zone。
予期される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS™ ファーム名の一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。Citrix Virtual Desktopsファーム名。例: Farm。
予期される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPSデリバリーグループ名の一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。Citrix Virtual Desktopsデリバリーグループ。例: Group。
予期される構文	該当なし

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPSデリバリーグループ名の一致
戻り値	名前が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSのバージョン不一致
否定条件の動作	Citrix Virtual Apps Version Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Apps Version Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS ファーム名不一致
否定条件の動作	Citrix Virtual Apps Farm Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Apps Farm Name Match** を参照してください。

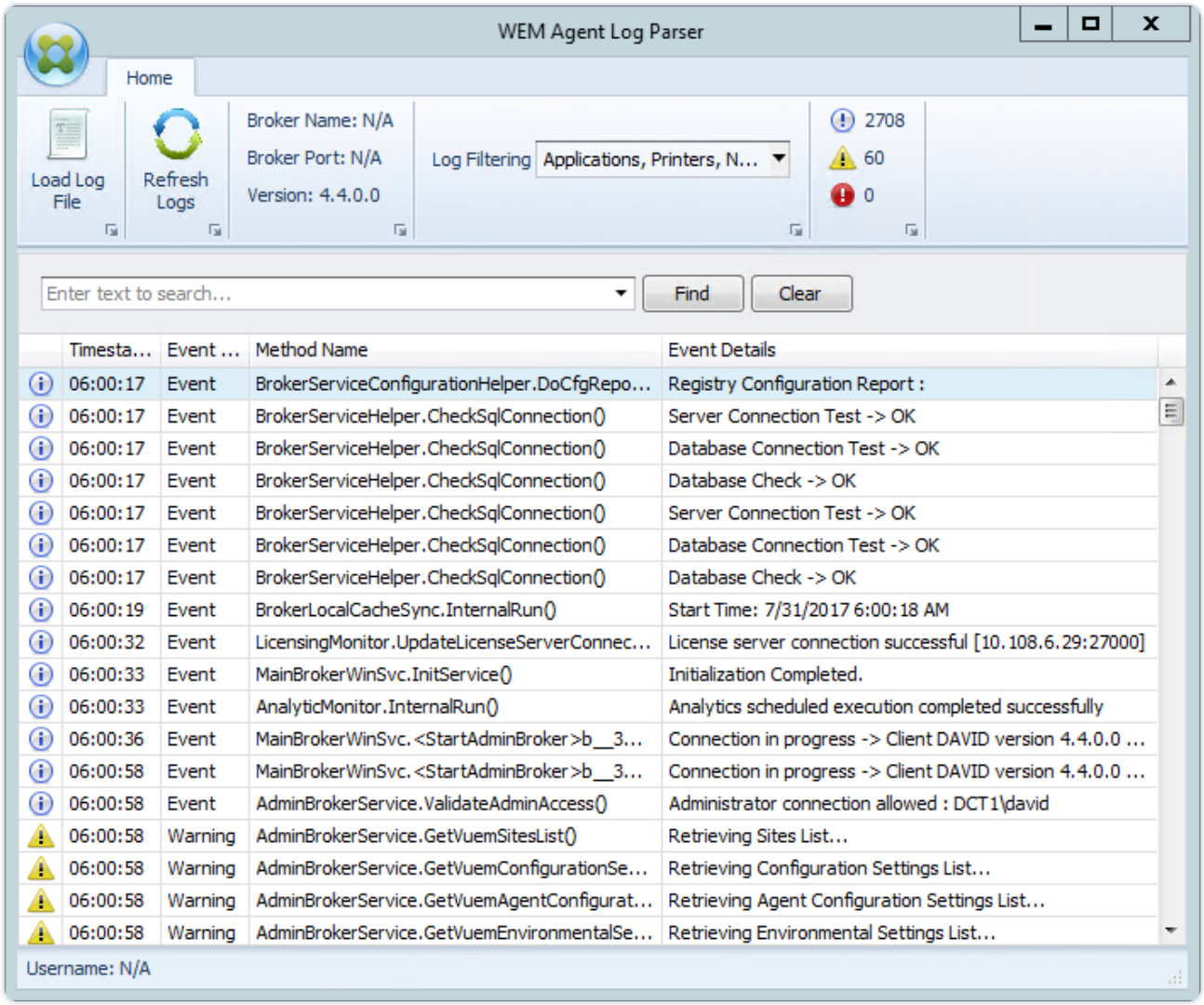
条件名	CITRIX VIRTUAL APPS ゾーン名不一致
否定条件の動作	Citrix Virtual Apps Zone Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Apps Zone Name Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS ファーム名不一致
否定条件の動作	Citrix Virtual Desktops Farm Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Desktops Farm Name Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS デリバリーグループ名不一致
否定条件の動作	Citrix Virtual Desktops Delivery Group Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件「**Citrix Virtual Desktops DDelivery Group Name Match**」を参照してください。

ログパーサー

Workspace Environment Management™ には、エージェントのインストールディレクトリにあるログパーサーアプリケーションが含まれています。



WEMエージェントログパーサーを使用すると、任意のWorkspace Environment Managementエージェントログファイルを開き、検索およびフィルタリング可能にすることができます。パーサーは、イベント、警告、例外の総数（リボンの右上）を要約します。また、ログファイルに関する

詳細（最初に接続したインフラストラクチャサービスの名前とポート、エージェントのバージョン、ユーザー名）も含まれています。

ポート情報

Workspace Environment Management™ サービスは、以下のポートを使用します。

ソース	宛先	タイプ	ポート	詳細
エージェント	WEMサービス	HTTPS	443	オンプレミスエージェントがCitrix CloudのWEMサービスに接続するポート。このポートは、アウトバウンドインターネット接続に利用できます。
エージェント	クラウドコネクタ	TCP	8080	オンプレミスエージェントがCloud Connectorに接続するポート。このポートは、アウトバウンドLAN（ローカルエリアネットワーク）接続に利用できます。このポートを介したメッセージは、Windows Communication Foundation (WCF) メッセージレベルセキュリティで保護されます。

ソース	宛先	タイプ	ポート	詳細
クラウドコネクタ	エージェントホスト	TCP	49752	「エージェントポート」。Cloud Connectorから指示を受信するエージェントホスト上のリスニングポート。Cloud ConnectorとWEMサービスエージェント間の内部通信を許可するようにファイアウォールが構成されていることを確認してください。このポートを介したメッセージは、メッセージレベルセキュリティで保護されます。

WEM ヘルスチェックツール

WEM ヘルスチェックツールは、WEM エージェントとともにインストールされるスタンドアロンユーティリティです。WEM コンポーネントのステータスをチェックし、WEM 展開における構成の問題を特定して解決するのに役立ちます。

ツールの起動

このツールを実行するには、**ローカル管理者**権限が必要です。WEM エージェントがインストールされているマシンで、次のパスにある `Citrix.WEM.Health.Check.Tool.exe` をダブルクリックして起動します。

`<Installation folder of WEM agent>\Health Check Tool` (例: `C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Health Check Tool`)

トラブルシューティングのためにログを収集するには、**デバッグモード**を有効にします。問題が発生した後、分析のためにログを取得します。

ホーム

ホームページには、次の構成が含まれています。

- WEM エージェントと WEM インフラストラクチャサーバーの両方の構成。**名前**、**エージェントの種類**、**エージェントのバージョン**、および**参加の種類**を選択します。
- **参加**の種類は、AD 参加済みまたは非ドメイン参加済みのいずれかである必要があります。
- WEM エージェントと WEM インフラストラクチャサーバーに対して、それぞれ**強制デバッグモード**または**デバッグモード**を有効にできます。
- **強制デバッグモード**を有効にすると、**管理**コンソールで指定された設定に関係なく、エージェントのデバッグモードがオンになります。
- WEM エージェントまたは WEM インフラストラクチャサーバーに変更をすぐに適用するには、`Citrix WEM agent Host Service` と `VUEMUIAgent.exe` または `Citrix WEM Infrastructure Service` をそれぞれ再起動できます。
- **ログの取得**を使用すると、ログを圧縮フォルダにパッケージとして取得して保存できます。その後、ローカルマシンに保存されたパッケージを確認できます。

サービスエージェント

WEM エージェントの構成を確認するには、**チェック開始**ボタンをクリックします。ヘルスチェックレポートの生成には、次のコンポーネントが考慮されます。

- Windows ファイアウォールの構成
- 接続方法
- キャッシュの場所
- ディレクトリサービス接続時間

> **注:**
>
> - エージェントキャッシュが永続的な場所に存在することを確認します。非永続的なキャッシュの場所を使用すると、キャッシュ同期の問題、過剰なネットワークデータ使用量、パフォーマンスの問題などが発生する可能性があります。

- ディレクトリサービスのタイムアウトは、接続時間に基づいて設定することをお勧めします。

WEMエージェントが期待どおりに機能するには、次のサービスが必要です。サービスが実行されており、各サービスのスタートアップの種類が自動に設定されていることを確認してください。

- システムイベント通知サービス
- Citrix WEM エージェントホストサービス
- Citrix WEM ユーザーログオンサービス

XMLプリンターリストの構成

Workspace Environment Management™には、XMLプリンターリストファイルを使用してユーザープリンターを構成する機能が含まれています。

XMLプリンターリストファイルを作成したら、管理コンソールで**アクションタイプ**オプションを**デバイスマッピングプリンターファイルを使用**に設定して、プリンターアクションを作成します。

注:

特定のWindows資格情報を必要としないプリンターのみがサポートされています。

XMLプリンターリストファイルの構造

XMLファイルはUTF-8でエンコードされており、以下の基本的なXML構造を持っています。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>



    <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:xsi="http://www.w3.org/
2001/XMLSchema-instance">

    ...
```

```
    </
ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

すべてのクライアントと関連デバイスは、以下のタイプのオブジェクトによって表されます。

```
SerializableKeyValuePair&lt;string, List&lt;VUEMUserAssignedPrinter>>>
```

各デバイスは次のように表されます。

```
    <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
        <Key>DEVICE1</Key>
        <Value>
            <VUEMUserAssignedPrinter>
               ...
            </VUEMUserAssignedPrinter>
        </Value>
    </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

注:

エージェントがシングルセッションまたはマルチセッションOSにインストールされている場合：

- **クライアント**は、エージェントホストに接続するクライアントデバイスを指します。
- **コンピューター**と**クライアントリモート**は、エージェントホストを指します。

各デバイスブロックは、特定のクライアント名またはコンピューター名に一致させる必要があります。**\<Key>タグには関連する名前が含まれます。\<Value>タグには、指定されたクライアントに割り当てられたプリンターに一致するVUEMUserAssignedPrinter**オブジェクトのリストが含まれます。

```
    <?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



 <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://
www.w3.org/2001/XMLSchema">

        <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

            <Key>DEVICE1</Key>

            <Value>

                <VUEMUserAssignedPrinter>

              ...

                </VUEMUserAssignedPrinter>

            </Value>

        </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

       </
ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

注:

WEMエージェントがXMLプリンターリストファイルにアクセスできるようにするには、XMLプリンターリストファイルはローカルマシンまたは共有ネットワークリソースに保存する必要があります。

VUEMUserAssignedPrinterタグの構文

各構成済みプリンターは、以下の属性を使用して**\<VUEMUserAssignedPrinter>**タグで定義する必要があります。

\<IdPrinter>. これは、構成されたプリンターのWorkspace Environment Managementプリンター IDです。各プリンターは異なるIDを持つ必要があります。**注** Workspace Environment Management管理コンソールで構成されたXMLプリンターリストアクションも、独自のIDを持つプリンターアクションであり、XMLリストで個別に構成されたプリンターのIDとは異なる必要があります。

\<IdSite>. 関連するWorkspace Environment ManagementサイトのサイトIDが含まれます。これは既存のサイトのIDと一致する必要があります。

\<State>. プリンターの状態を指定します。1はアクティブ、0は無効です。

\<ActionType>. 常に0である必要があります。

\<UseExtCredentials>. 0である必要があります。特定のWindows資格情報の使用は現在サポートされていません。

\<isDefault>. 1の場合、プリンターはデフォルトのWindowsプリンターです。0の場合、デフォルトとして構成されていません。

\<IdFilterRule>. 常に1である必要があります。

\<RevisionId>. 常に1である必要があります。プリンターのプロパティがさらに変更された場合は、この値を1増やしてエージェントホストに通知し、プリンターアクションが再処理されるようにします。

\<Name>. これは、Workspace Environment Managementエージェントホストによって認識されるプリンター名です。このフィールドは空白にすることは**できません**。

\<Description>. これは、Workspace Environment Managementエージェントホストによって認識されるプリンターの説明です。このフィールドは空白にできます。

\<DisplayName>. これは使用されておらず、空白のままにする必要があります。

\<TargetPath>. このパスは、プリンターへのUNCパスです。

\<ExtLogin>. 接続用のWindows資格情報を指定する際に使用されるWindowsアカウント名が含まれます。。

\<ExtPassword>. 接続用のWindows資格情報を指定する際に使用されるWindowsアカウントのパスワードが含まれます。。

\<Reserved01>. これには詳細設定が含まれています。いかなる方法でも変更**しないでください**。

```
&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabled&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/VUEMActionAdvancedOption
```

特定のプリンターオブジェクトの自己修復をアクティブにするには、上記のコンテンツをコピーして貼り付け、ハイライトされた **0** の値を **1** に変更するだけです。

プリンターオブジェクトの例

次の例では、クライアントまたはコンピューター **DEVICE1** に2つのアクティブなプリンターを割り当てます。

- UNCパス `\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series` 上の **HP LaserJet 2200 Series** (既定のプリンター)
- UNCパス `\\server.example.net\Canon C5531i Series` 上の **Canon C5531i Series** プリンター

また、クライアントまたはコンピューター DEVICE2 に1つのアクティブなプリンターを割り当てます。

- UNCパス `\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series` 上の **HP LaserJet 2200 Series**

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>

  <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">

    <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

        <Key>DEVICE1</Key>

        <Value>

            <VUEMUserAssignedPrinter>
```

```
                <IdPrinter>1</IdPrinter>

                <IdSite>1</IdSite>

                <State>1</State>

                <ActionType>0</ActionType>

                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>

                <isDefault>1</isDefault>

                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>

                <RevisionId>1</RevisionId>

                <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>

                <Description />

                <DisplayName />

                <TargetPath>\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series</
TargetPath>

                <ExtLogin />

                <ExtPassword />

                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value>

      <Value>
```

```
            <VUEMUserAssignedPrinter>

                <IdPrinter>2</IdPrinter>

                <IdSite>1</IdSite>

                <State>1</State>

                <ActionType>0</ActionType>

                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>

                <isDefault>0</isDefault>

                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>

                <RevisionId>1</RevisionId>

                <Name>Canon C5531i Series</Name>

                <Description />

                <DisplayName />

                <TargetPath>\\server.example.net\Canon C5531i Series</
TargetPath>

                <ExtLogin />

                <ExtPassword />

                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value></
SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

```
      <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
        <Key>DEVICE2</Key>
        <Value>
            <VUEMUserAssignedPrinter>
                <IdPrinter>1</IdPrinter>
                <IdSite>1</IdSite>
                <State>1</State>
                <ActionType>0</ActionType>
                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>
                <isDefault>0</isDefault>
                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>
                <RevisionId>1</RevisionId>
                <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>
                <Description />
                <DisplayName />
                <TargetPath>\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series</
TargetPath>
                <ExtLogin />
                <ExtPassword />
                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
```

```
Reserved01>

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value></
SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

   </ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

用語集

この記事には、Workspace Environment Management™ (WEM) ソフトウェアおよびドキュメントで使用される用語と定義が含まれています。

オンプレミス用語のみ

Citrix Cloud™ サービス用語のみ

Admin Broker Port。「管理ポート」のレガシー用語です。

管理コンソール。インフラストラクチャサービスに接続するインターフェイスです。管理コンソールを使用して、リソースの作成と割り当て、ポリシーの管理、ユーザーの承認などを行います。

Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの管理コンソールは、Citrix Cloud ベースの Citrix virtual apps™ サーバーでホストされます。Web ブラウザーを使用して、サービスの **Manage** タブから管理コンソールを使用して WEM のインストールを管理します。

管理ポート 。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートです。ポートの既定値は 8284 で、AdminPort コマンドライン引数に対応します。

エージェント。Workspace Environment Management エージェントは、エージェントサービスとセッションエージェントの2つのコンポーネントで構成されます。これらのコンポーネントはエージェントホストにインストールされます。

Agent Host executable。「セッションエージェント」のレガシー用語です。

Agent Host machine。「エージェントホスト」のレガシー用語です。

Agent Host service。「エージェントサービス」のレガシー用語です。

Agent Broker Port。「エージェントサービスポート」のレガシー用語です。

Agent Cache Synchronization Port。「キャッシュ同期ポート」のレガシー用語です。

エージェントホスト。エージェントがインストールされているマシンです。

エージェントホスト構成GPO。エージェントのインストール時にADMまたはADMXファイルとして提供されるグループポリシーオブジェクト (GPO) 管理用テンプレート。管理者はこれらのファイルをActive Directoryにインポートし、その後、適切な組織単位に設定を適用します。

エージェントポート 。インフラストラクチャサービスから指示を受信するエージェントホスト上のリスニングポート。たとえば、管理コンソールからエージェントを強制的に更新するために使用されます。ポートのデフォルトは49752です。

エージェントサービス。VDAまたはTransformerのユースケースにおける物理Windowsデバイスに展開されるサービスです。管理コンソールを使用して構成する設定を適用する責任があります。

エージェントサービスポート 。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。ポートのデフォルトは8286で、AgentPortコマンドライン引数に対応します。

エージェント同期ブローカーポート。「キャッシュ同期ポート」のレガシー用語。

ブローカー。「インフラストラクチャサービス」のレガシー用語。

ブローカーアカウント。「インフラストラクチャサービスアカウント」のレガシー用語。

ブローカーサーバー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

ブローカーサービスアカウント。「インフラストラクチャサービスアカウント」のレガシー用語。

キャッシュ同期ポート 。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期させるためのポート。ポートのデフォルトは8285で、AgentSyncPortコマンドライン引数に対応します。

Citrixライセンスサーバーポート 。Citrixライセンスサーバーがリッスンしており、インフラストラクチャサービスがライセンス検証のために接続するポート。ポートのデフォルトは27000です。

Citrix Cloud Connector™ 。リソースロケーション内のマシンがCitrix Cloudと通信できるようにするソフトウェア。各リソースロケーションで少なくとも1台のマシン（クラウドコネクタ）にインストールされます。

構成セット。Workspace Environment Managementの構成設定のセット。

コネクションブローカー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

データベース。Workspace Environment Managementの構成設定を含むデータベース。

Workspace Environment Management のオンプレミスバージョンでは、データベースは SQL Server インスタンスに作成されます。Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの設定は Microsoft Azure SQL Database サービスに保存されます。

データベースサーバーアカウント 。データベース作成ウィザードが SQL インスタンスに接続して Workspace Environment Management データベースを作成するために使用するアカウント。

DSN。データソース名 (DSN) には、データベース名、ディレクトリ、データベースドライバー、ユーザーID、パスワード、その他の情報が含まれます。特定のデータベース用に DSN を作成すると、アプリケーションでその DSN を使用してデータベースから情報を呼び出すことができます。

インフラストラクチャサーバー 。Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューター。

インフラストラクチャサーバー管理ポート。「管理ポート」のレガシー用語。

インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサーバーにインストールされているサービスで、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server、Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソール、エージェントホスト) と同期します。このサービスは以前「ブローカー」と呼ばれていました。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

インフラストラクチャサービスアカウント 。インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するアカウント。デフォルトでは、このアカウントは vuemUser SQL アカウントですが、データベース作成時に、インフラストラクチャサービスが使用する他の Windows 資格情報をオプションで指定できます。

インフラストラクチャサービスサーバー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサービスインストールプロセスによってインフラストラクチャサーバーにインストールされるサービス。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

初期管理者グループ 。データベース作成時に選択されるユーザーグループ。このグループのメンバーのみが、管理コンソールのすべての Workspace Environment Management サイトに対するフルアクセス権を持ちます。デフォルトでは、このグループがこのアクセス権を持つ唯一のグループです。

統合接続 。データベース作成ウィザードが SQL アカウントではなく、現在の Windows アカウントを使用して SQL インスタンスに接続すること。

キオスクモード。エージェントが Web またはアプリケーションランチャーとなり、ユーザーを単一のアプリまたはデスクトップエクスペリエンスにリダイレクトするモード。これにより、管理者はユーザー環境を単一のアプリまたはデスクトップにロックダウンできます。

監視ブローカーポート。「WEM 監視ポート」のレガシー用語。

混合モード認証 。SQL Serverにおいて、Windows認証とSQL Server認証の両方を有効にする認証モードです。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するためのデフォルトのメカニズムです。

ライセンスサーバーポート。「Citrix License Server port」のレガシー用語です。

ネットワークドライブ。LAN、サーバー、またはNASデバイス上の物理ストレージデバイスです。

リソースの場所 。サブスクライバーにサービスを提供するために必要なリソースを含む場所（パブリックまたはプライベートクラウド、支店、データセンターなど）です。

SaaS 。*Software as a service*は、サードパーティプロバイダーがアプリケーションをホストし、インターネット経由で顧客に提供するソフトウェア配布モデルです。

セルフサービスウィンドウ。エンドユーザーがWorkspace Environment Managementで構成された機能（アイコン、デフォルトプリンターなど）を選択できるインターフェイスです。このインターフェイスは、「UIモード」のセッションエージェントによって提供されます。

サービスプリンシパル名 (SPN)。サービスインスタンスの一意の識別子です。SPNは、Kerberos認証によってサービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために使用されます。

セッションエージェント。ユーザーセッションのアプリショートカットを構成するエージェントです。エージェントは「UIモード」と「コマンドライン」モードで動作します。UIモードは、ステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスを提供し、エンドユーザーはそこから特定の機能（アイコン、デフォルトプリンターなど）を選択できます。

サイト。「構成セット」のレガシー用語です。

SQLユーザーアカウント 。インストール中に作成される「vuemUser」という名前のSQLユーザーアカウントです。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するデフォルトのアカウントです。

トランスフォーマー。Workspace Environment Managementエージェントが制限されたキオスクモードで接続する機能です。

仮想ドライブ。**subst**コマンドまたは**DefineDosDevice**関数を使用して作成されたWindows仮想ドライブ（MS-DOSデバイス名とも呼ばれます）。仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングします。

仮想IPアドレス (VIP)。実際の物理ネットワークインターフェイス（ポート）に対応しないIPアドレスです。

VUEM。Virtual User Environment Management。これは、製品の一部の箇所に表示されるレガシーなNorskale用語です。

vuemUser 。Workspace Environment Managementデータベース作成時に作成されるSQLアカウントです。これは、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するデフォルトのアカウントです。

WEM Broker。「インフラストラクチャサービス」のレガシー用語。

WEM monitoring port 。監視サービスによって使用されるインフラストラクチャサーバー上のリスニングポート。ポートはデフォルトで8287です。（未実装）

WEM UI Agent executable。「セッションエージェント」のレガシー用語。

Windows account impersonation。サービスがWindowsアカウントのIDで実行される場合。

Windows AppLocker。ファイルの一意のIDに基づいて、組織内で特定のアプリケーションを実行できるユーザーまたはグループを指定できるWindows機能。AppLockerを使用すると、アプリケーションの実行を許可または拒否するルールを作成できます。

Windows authentication。SQL Serverにおいて、特定のWindowsユーザーアカウントとグループアカウントがSQL Serverへのログインを信頼されるデフォルトの認証モード。SQL Serverの代替認証モードは混合モード認証です。

Windows security。「Windows認証」のレガシー用語。

Workspace Environment Management (WEM) service 。WEM管理コンポーネントをSaaSサービスとして提供するCitrix Cloudサービス。

__index__

新機能の履歴

以前のWorkspace Environment Management (WEM) サービスリリースに関するセクションを、新機能からこの記事に移動しました。

2020年12月

メモリ管理の機能強化

このリリースには、メモリ管理機能の機能強化が含まれています。この機能には、メモリ管理を実行するための2つの追加オプションが用意されています。

- **合計利用可能メモリが超過した場合に最適化しない (MB)**。このオプションを使用すると、WEMがアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値を指定できます。
- **特定のプロセスに対するメモリ使用量制限を有効にする**。このオプションを使用すると、プロセスが消費できるメモリの上限を設定することで、プロセスのメモリ使用量を制限できます。

詳細については、「メモリ管理」を参照してください。

管理コンソール

管理コンソールのユーザーインターフェイスが変更されました。

- **システム最適化 > メモリ管理 > メモリ管理**タブに、**合計利用可能メモリが超過した場合に最適化しない (MB)**オプションが導入されました。このオプションを使用して、WEMがアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値を指定します。
- **システム最適化 > メモリ管理**に、新しい**メモリ使用量制限**タブがあります。このタブでは、特定のプロセスに対するメモリ使用量制限を構成できます。

修正

- 管理コンソールを介して行ったProfile Management設定の変更は、ターゲットマシンでCitrix Profile Managementサービスを再起動するまで有効にならない場合があります。

- WEMエージェントをバージョン1912にアップグレードした後、**Citrix WEM Agent Host Service**のメモリ消費量が2Gを超える場合があります。デバッグモードが有効になっている場合、**Citrix WEM Agent Host Service Debug.log**ファイルに次のメッセージが何度も表示されることがあります。
  - **DBライターキューに履歴エントリを追加しています**
  - **プロセスのプロセス制限スレッドを初期化しています**
- WEMエージェントをバージョン2005にアップグレードした後、**Citrix WEM Agent Host Service**がCPUリソース全体の10%から30%を消費し、ユーザーエクスペリエンスに影響を与える可能性があります。
- **Import from Registry File**ウィンドウでレジストリファイルを選択した後、**ESC**を押してウィンドウを終了し、**Yes**をクリックすると、**Manage**タブに黒い画面が表示されます。
- **Edit Rule**ウィンドウの**Exceptions**タブでアプリケーションセキュリティルールの例外を編集しようとすると、管理コンソールが予期せず終了する場合があります。次のメッセージが表示されます。
  - **管理コンソールへの接続が閉じられました**

  この問題は、**Add Rule**アクションを実行する前に例外を編集すると発生します。
- オンプレミスのWEM 2009データベースをWEMサービスに移行しようとすると、失敗する場合があります。

2020年11月

特権昇格（プレビュー）

このリリースでは、特権昇格機能が導入されています。この機能により、非管理者ユーザーの特権を、一部の実行可能ファイルに必要な管理者レベルに昇格させることができます。その結果、これらのユーザーは、管理者グループのメンバーであるかのように、それらの実行可能ファイルを開始できます。

この機能により、特定の実行可能ファイルに対してルールベースの特権昇格を実装できます。次のルールタイプが利用可能です。

- **パス**。実行可能ファイルのパスに基づいて、実行可能ファイルにルールを適用します。
- **発行元**。発行元情報に基づいてルールを適用します。
- **ハッシュ**。指定された同一の実行可能ファイルにルールを適用します。

オペレーティングシステムの種類に応じて、ルールの動作を構成できます。また、ルールが特定の時刻または特定の時間範囲内で有効になるかどうかを構成することもできます。ルールは、ユーザーごとまたはユーザーグループごとに割り当てます。詳細については、「特権の昇格」を参照してください。

レジストリキー下のすべての値を削除するサポート

以前は、グループポリシー設定を編集する際に、**値の設定**、**値の削除**、**キーの作成**、**キーの削除**というアクションしかありませんでした。WEMサービスでは、レジストリキー下のすべての値を削除できる追加のアクションが提供されるようになりました。

- **すべての値を削除**。GPO内のレジストリキーのすべての値をパージする場合に、このオプションを使用します。選択すると、**値**、**種類**、**データ**の各フィールドがグレー表示されます。 詳細については、「グループポリシー設定の編集」を参照してください。

管理コンソール

管理コンソールのユーザーインターフェイスが変更されました。

- **セキュリティ**に、新しい**特権の昇格**ペインがあります。このペインには、機能を有効にするかどうか、およびグローバル設定を適用するかどうかを制御するための**特権の昇格**タブがあります。このペインの下には、**実行可能ルール**ペインがあります。このペインには、ルールベースの特権の昇格を構成するための**特権の昇格**タブがあります。

修正

- WEM管理コンソールを使用して展開を管理しようとすると、失敗する場合があります。WEMエージェントがWEMサービスと同期できない場合があります。この問題は、SQLデータベースでのデッドロックが原因で発生します。

2020年10月

WEMエージェントの起動の最適化

以前のWEMエージェントの起動ワークフローには、次の問題がありました。

- エージェントは起動後にCitrix Cloud Connector™設定を更新しませんでした。その結果、グループポリシーを介してエージェントに展開されたCloud Connector設定が期待どおりに機能しませんでした。
- 非永続環境では、エージェントキャッシュファイルがベースイメージに存在する場合、エージェントでキャッシュ同期の問題が発生する可能性がありました。その結果、WEM設定が適切に適用されない可能性がありました。

このリリース以降、エージェントは他の設定を更新するのと同様に、起動後にCloud Connector設定を更新します。エージェントキャッシュが最新であることを保証するために、エージェントは非永続環境でキャッシュを自動的に再作成します。詳細については、「エージェントの起動動作」を参照してください。

WEMエージェントを最適に動作させる方法については、「前提条件と推奨事項」を参照してください。

新しいエージェントキャッシュユーティリティオプション

このリリースでは、以下のエージェントキャッシュユーティリティオプションが追加されました。

- `-RefreshSettings`または`-S`: エージェントホストの設定を更新します。
- `-Reinitialize`または`-I`: `-RefreshCache`オプションと組み合わせて使用すると、エージェントキャッシュを再初期化します。

詳しくは、「エージェントキャッシュユーティリティオプション」を参照してください。

Citrix オプティマイザー

Citrix Optimizerには、WEMがOSのテンプレートを自動的に選択できるようにする追加オプションが用意されました。

- **使用するテンプレートを自動的に選択**。どのテンプレートを使用すればよいかわからない場合は、このオプションを使用して、WEMに各OSに最適なテンプレートを選択させることができます。「**プレフィックスで始まるテンプレートの自動選択を有効にする**」オプションを使用すると、異なる名前形式のカスタムテンプレートにもこのオプションを適用できます。

詳しくは、「Citrix Optimizer」を参照してください。

Windows 10 2004テンプレートのサポート

WEMは、Citrix Optimizerで導入されたWindows 10 2004テンプレートのサポートを追加します。WEMを使用して、Windows 10 2004マシンに対してテンプレートベースのシステム最適化を実行できるようになりました。Citrix Optimizerの使用方法については、「Citrix Optimizer」を参照してください。

マルチセッションOSマシンの最適化のサポート

マルチセッションOSマシンは、単一のマシンから複数のセッションを実行して、ユーザーにデスクトップとアプリケーションを提供します。切断されたセッションはアクティブなままで、そのアプリケーションは引き続き実行されます。切断されたセッションは、同じマシンで実行されている接続されたデスクトップやアプリケーションに必要なリソースを消費する可能性があります。こ

の機能により、切断されたセッションが存在するマルチセッションOSマシンを最適化できるようになりました。この機能は、切断されたセッションが消費できるリソースの数を制限することで、接続されたセッションのユーザーエクスペリエンスを向上させます。詳しくは、「マルチセッションの最適化」を参照してください。

プロファイルコンテナのインサイト

WEMサービスでは、Profile ManagementおよびFSLogixのプロファイルコンテナを監視できるようになりました。この機能は、プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用しているセッションのステータス、検出された問題などに関するインサイトを提供します。この機能を使用すると、プロファイルコンテナのスペース使用状況を常に把握し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定できます。詳細については、「プロファイルコンテナのインサイト」を参照してください。

アクショングループの複数選択のサポート

以前は、アクショングループにアクションを追加する際、**利用可能**ペインにある各アクションを**構成済み**ペインに1つずつ移動していました。現在は、複数のアクションを1つの手順で移動できます。アクショングループの詳細については、「アクショングループ」を参照してください。

プロファイル管理

WEMサービスは、2009年までのすべてのバージョンのProfile Managementをサポートしています。以下の新しいオプションが、**管理コンソール > ポリシーとプロファイル > Citrix Profile Management設定 > プロファイルコンテナ設定**タブで利用可能になりました。

- **プロファイルコンテナのフォルダー除外を有効にする**（リストされたフォルダーをプロファイルコンテナから除外するオプション）
- **プロファイルコンテナのフォルダー含めるを有効にする**（親フォルダーが除外されている場合に、リストされたフォルダーをプロファイルコンテナに残すオプション）

詳細については、「プロファイルコンテナ設定」を参照してください。

管理コンソール

管理コンソールのユーザーインターフェイスが変更されました。

- **管理コンソール > ポリシーとプロファイル > Citrix Profile Management設定**に、Profile Managementのプロファイルコンテナ設定を構成するための新しい**プロファイルコンテナ設定**タブが追加されました。
- **プロファイルコンテナを有効にする**オプションは、**プロファイルコンテナ設定**タブに移動しました。以前は、このオプションは**同期**タブにありました。

修正

- WEM管理コンソールで、インストール済みアプリケーションの作業ディレクトリに対して行った変更が、次回アプリケーションを編集する際に表示されない場合があります。
- 非永続環境では、管理コンソールを通じて行った変更が、エージェントホストに適用されない場合があります。この問題は、ベースイメージ内のエージェントキャッシュファイルがキャッシュ同期の問題を引き起こす可能性があるために発生します。回避策として、ユーザーはまずエージェントホスト上のキャッシュを削除し、その後キャッシュを手動で更新して、インフラストラクチャサービスとキャッシュを同期する必要があります。

  エージェントキャッシュには永続的な場所を使用することが推奨されるベストプラクティスです。エージェントキャッシュが非永続的な場所にある場合は、ベースイメージをシールする前に次の手順を実行してください。

  a. **Citrix WEM Agent Host Service**を停止します。
  b. これらのエージェントローカルデータベースファイル（**LocalAgentCache.db**および**LocalAgentDatabase.db**）を削除します。

- 次のオプションは相互に排他的ではありません。ただし、管理コンソールでは同時に構成することはできません。

  - **エクスプローラーから指定されたドライブを非表示にする**および**エクスプローラーから指定されたドライブを制限する**（**ポリシーとプロファイル > 環境設定 > Windowsエクスプローラー**タブ）

- 公開されたデスクトップで、WEMエージェントが予期せず終了する場合があります。この問題は、トランスフォーマー機能を使用し、**Alt-Tabをロック**オプションを有効にしている場合に発生します。また、アプリケーションがキーボードフックを使用する環境でも発生する可能性があります。
- 自動エージェントアップグレード機能を使用してWEMエージェントをアップグレードすると、アップグレード完了後にNetlogonサービスが起動に失敗する場合があります。マシンを再起動するか、Netlogonサービスを手動で開始する必要があります。

2020年9月

ネットワークドライブに次に利用可能なドライブ文字を自動的に割り当てる機能のサポート

このリリースでは、ネットワークドライブに次に利用可能なドライブ文字を自動的に割り当てる機能が追加されました。ネットワークドライブを割り当てる際に、特定の文字の代わりにアスタ

リスク（*）文字を選択すると、WEMが次に利用可能なドライブ文字を自動的に割り当てます。詳細については、「割り当て」を参照してください。

エージェントの起動

このリリースでは、エージェントホストをリモートで起動できるWake on LAN機能が導入されました。WEMは、ターゲットエージェントと同じサブネットにあるエージェントを自動的に選択し、それらのエージェントをWake on LANメッセンジャーとして使用します。この機能には、Wake on LANに対応したハードウェアが必要です。この機能を使用するには、ターゲットマシンがハードウェア要件を満たし、関連するBIOS設定が構成されていることを確認してください。詳細については、「Wake on LAN」を参照してください。

WEMエージェント（事前通知）

Microsoft Sync Framework 2.1 は、January 12, 2021 にサポート終了となります。WEMは、関連するレガシーエージェントキャッシュ同期サービスを廃止し、最新のエージェントキャッシュ同期サービスを使用して、エージェントキャッシュをWEMサービスデータベースと同期させます。最新のエージェントキャッシュ同期サービスは、オープンソースの同期フレームワークである*Dotmim.Sync*に依存しています。この変更は、お客様にどのような影響を与えますか？

- WEMエージェントバージョン1911以降を使用している場合、この変更に関してお客様側での対応は不要です。
- WEMエージェントのバージョンが1911より前の場合は、エージェントを1911にアップグレードしてください。

この変更は、2020年12月に展開される予定です。

修正

- パッケージ化されたルールの例外を削除すると、それらの例外が再表示されます。
- パッケージ化されたルールに例外を1つだけ追加すると、次回そのタブに戻ったときに、**Edit Rule > Exceptions**タブの**Remove**ボタンがグレー表示されます。その例外を削除できなくなります。

2020年8月

グループポリシー設定の編集のサポート

以前は、GPO設定をインポートした後、GPOの名前と説明のみを変更できました。WEMサービスでは、GPOに関連付けられたレジストリ操作を編集できるようになりました。必要に応じて、新しいレジストリ操作をGPOに追加することもできます。現在、WEMサービスは、`HKEY_LOCAL_MACHINE`および`HKEY_CURRENT_USER`レジストリハイブに関連付けられているグ

ループポリシー 設定の追加と編集のみをサポートしています。詳細については、「グループポリシー設定の編集」を参照してください。

管理コンソール

管理コンソールのユーザーインターフェイスが変更されました。

- **System Optimization**に、新しい**Multi-session Optimization**ペインがあります。このペインには、切断されたセッションを持つマルチセッションOSマシンを最適化するように設計された設定を構成するための新しい**Multi-session Optimization**タブがあります。
- **Monitoring**に、新しい**Profile Container Insights**ペインがあります。このペインには2つのタブがあります。**Summary**タブには2つの円グラフが含まれており、プロファイルコンテナのステータスを示す概要を提供します。**Profile Container Status**タブには、プロファイルコンテナのステータスレコードのリストが表示されます。
- **Advanced Settings > Configuration**に、エージェントのWake on LANを有効にするための新しい**Wake on LAN**タブがあります。

修正

- デフォルトのパッケージ化されたルールを編集するときに、**Edit Rule**ウィンドウの**Publisher**タブで有効な値を入力するように求められ、**OK**ボタンがグレー表示されます。しかし、後で**Publisher**タブで有効な値を入力しても、**OK**ボタンはグレー表示されたままになります。
- 管理コンソールにアプリケーションを正常に追加した後、**アプリケーションの選択**ウィンドウのアプリケーションリストにアプリケーションが表示されない場合があります。**新しいアプリケーション**ウィンドウで**参照**をクリックすると、**アプリケーションの選択**ウィンドウが開きます。

2020年7月

EUベースのインスタンスの有効化

WEMサービスはグローバルに利用可能です。当初は米国ベースのインスタンスのみでしたが、このリリースから、WEMサービスは米国ベースとEUベースの両方のインスタンスを持つようになりました。

修正

- グループポリシー設定をWEMにインポートし終えたとき、管理コンソールを使用している管理者があなた一人である場合でも、次のメッセージが表示されることがあります。

    - 構成変更の更新: 管理者が構成関連の変更を行いました。OKをクリックして、現在の管理コンソールに変更を反映してください。

- **復元**ウィザードで選択したアクション項目の一部は、**戻る**ボタンをクリックして前のページに戻るとクリアされる場合があります。この問題は、**復元**ウィザードを使用して、**移行**ウィザードで変換されたGPOのzipバックアップを復元するときに発生します。
- Citrix Optimizerの**新しいカスタムテンプレート**ウィンドウで、グループを**構成済み**から**利用可能**に移動し、その後**テンプレート名**オプションを使用して別のテンプレートに切り替えると、そのグループが切り替えたテンプレートに引き継がれる場合があります。
- Workspace Environment Management™サービスの今後のアップグレードに関する通知を購読解除しても、引き続き通知を受け取る場合があります。

2020年6月

Windows 10 1909テンプレートのサポート

WEMは、Citrix Optimizerで導入されたWindows 10 1909テンプレートのサポートを追加します。WEMを使用して、Windows 10 1909マシンに対してテンプレートベースのシステム最適化を実行できるようになりました。Citrix Optimizerの使用方法については、Citrix Optimizerを参照してください。

修正

- **プロファイル管理の健全性ステータス**列で、プロファイル管理が正しく構成されている場合でも、アイコンがエラー（赤いXアイコン）として表示されます。
- グループポリシー設定のインポートが完了した後、**グループポリシー設定のインポート**ウィザードを終了するために**完了**をクリックすると、管理コンソールが予期せず終了する場合があります。

2020年5月

グループポリシーオブジェクト (GPO) の移行の機能強化

このリリースでは、GPO移行がさらに強化されています。グループポリシー設定 (レジストリベースの設定) をWEMにインポートできるようになりました。これは、グループポリシー基本設定 (GPP) のみを移行できる**移行**ウィザードとは異なります。設定をインポートした後、どのGPOを割り当てるかを決定する前に、各GPOに関連付けられている設定を項目別に表示できます。GPOを異なるADグループに割り当てることができます。グループポリシー設定をインポートするには、**管理コンソール > アクション > グループポリシー設定**に移動し、**グループポリシー設定の処**

理を有効にするを選択して、**インポート**をクリックしてインポートウィザードを開きます。詳しくは、「グループポリシー設定」を参照してください。

管理者のWEMサービスへのアクセスをカスタマイズするサポート (プレビュー)

管理者のWEMサービスへのアクセスをカスタマイズできるようになりました。この機能を使用すると、既存の管理者または招待する管理者のアクセス許可を、組織内での役割に合わせて定義できます。

既存の管理者向け

管理者向けにカスタムアクセスを構成します。手順については、Citrix Cloudドキュメントの「管理者権限の変更」を参照してください。**wemNew**オプションは、アクセスを許可するかどうかを制御します。

招待する新しい管理者向け

招待する管理者向けにカスタムアクセスを構成します。手順については、Citrix Cloudドキュメントの「新しい管理者の招待」を参照してください。**wemNew**オプションは、アクセスを許可するかどうかを制御します。

実行可能ファイルに関する情報を取得するツール

WEMサービスには、AppInfoViewerというツールが用意されており、実行可能ファイルから発行元、パス、ハッシュなどの情報を取得できます。このツールは、管理コンソールで構成するアプリケーションに関連情報を提供する場合に役立ちます。たとえば、アプリケーションセキュリティ機能を使用する際に、このツールを使用してアプリケーションから関連情報を抽出できます。このツールは、エージェントのインストールフォルダーにあります。

管理コンソール

管理コンソールのユーザーインターフェイスが変更されました。

- **アクション**に、新しい**グループポリシー設定**ペインが追加されました。このペインには、グループポリシー設定を構成するための**グループポリシー設定**タブがあります。

修正

- WEMエージェントが実行されている切断されたセッションに再接続しようとすると、次のエラーメッセージが表示されて失敗する場合があります: **単一のエージェントインスタンスのみがセッション内で実行できます。**
- エージェントUIの**マイアプリケーション**アイコンリストからアプリケーションを起動しようとすると失敗する場合があります。この問題は、StoreFront™ URLを使用して作成されたアプリケーションショートカットで発生します。

- エージェントがCitrix CloudのWEMサービスと同期できない場合があります。この問題は、エージェントがサービスと通信する方法を定義するためにHTTPSプロキシを構成した場合に発生します。
- 管理コンソール（**管理**タブ）で、ウィンドウを終了するために**Esc**キーを押すと、例外エラーが発生する場合があります。その結果、管理コンソールが応答しなくなり、予期せず終了します。たとえば、**移行**ウィザードを終了するために**Esc**キーを押し、その後**はい**をクリックした場合にこの問題が発生する可能性があります。
- アクションにアクショングループが含まれている場合、**復元**ウィザードを使用してアクションを別の構成セットに復元しようとすると失敗する場合があります。この問題は、同じ名前のアクショングループがその構成セットに存在する場合に発生します。
- Transformer（キオスク）モードで**ウィンドウモードを有効にする**が有効になっている場合、WEMエージェントが予期せず終了する場合があります。
- アプリケーションを割り当てて**タスクバーにピン留め**を有効にすると、アプリケーションはエージェントホストに正常に割り当てられますが、そのショートカットがタスクバーにピン留めされない場合があります。この問題は、**管理コンソール > 詳細設定 > 構成 > エージェントオプション**タブの**アクション処理を高速化するためにキャッシュを使用する**オプションが有効になっている場合に発生します。
- エージェントホストで、WEMがユーザーの一部のネットワークプリンターをマップできない場合があります。

2020年4月

プロファイル管理

WEMサービスは、2003年までのCitrix Profile Managementのすべてのバージョンをサポートするようになりました。管理コンソールで次のオプションが利用できるようになりました。

- **FSLogix Profile Containerのマルチセッションライトバックを有効にする。詳細設定**タブで利用できるこのオプションにより、Profile ManagementはFSLogix Profile Containerのマルチセッションシナリオで変更を保存できます。

詳細については、を参照してください。(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/policies-and-profiles/citrix-upm-settings.html#advanced-settings).

修正

- エージェントホスト上で、公開アプリケーションをアプリケーションショートカットとして起動しようとすると失敗する場合があります。この問題は、StoreFront URL を使用して作成されたアプリケーションショートカットで発生します。

2020年2月

アクション処理の最適化

このリリースから、WEM はインフラストラクチャサービスから設定を取得せずにアクションを処理することをサポートします。**管理コンソール > 詳細設定 > 構成 > エージェントオプション**タブに新しい「キャッシュを使用してアクション処理を高速化」オプションがあります。このオプションにより、WEM エージェントはエージェントのローカルキャッシュを使用してアクションを処理できます。その結果、エージェントはアクション処理時にインフラストラクチャサービスと通信する必要がなくなります。詳細については、「」を参照してください。(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/advanced-settings.html#agent-options).

ログオンパフォーマンスの最適化

以前のリリースでは、WEM はユーザーグループポリシー設定の処理が完了するまでユーザーログオンを遅延させていました。このリリースから、WEM はログオンを遅延させなくなり、ユーザーグループポリシー設定はデフォルトでバックグラウンドで処理されます。この動作の構成については、「」を参照してください。(/ja-jp/workspace-environment-management/service/get-started/install-and-configure.html#system-settings).

ファイルの種類関連付けの最適化

以前のリリースでは、テキスト (.txt) ファイル以外のファイルの種類関連付けは一貫して機能しませんでした。このリリースから、構成したファイルの種類関連付けは自動的にデフォルトの関連付けになります。この機能強化により、ユーザー環境をより効果的に管理できます。さらに、ファイルの種類関連付けの構成において、より柔軟性が増しました。**新しいファイル関連付け**ウィンドウで、次のフィールドを入力する必要がなくなりました: **アクション**、**ターゲットアプリケーション**、および**コマンド**。正しい**ProgID**を提供できる限り、これらのフィールドは空のままにできます。詳細については、「」を参照してください。(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/actions/file-associations.html).

外部タスク

このリリースには、外部タスク機能の機能強化が含まれています。この機能では、外部タスクを実行するタイミングを制御するための2つの追加オプションが提供されるようになりました。

- **ログオフ**。このオプションを使用すると、ユーザーがログオフするときに外部タスクを実行するかどうかを指定できます。
- **再接続**。このオプションを使用すると、ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続するときに外部タスクを実行するかどうかを指定できます。このオプションは、WEM

エージェントが物理 Windows デバイスにインストールされているシナリオには適用されません。

ログオフオプションは、ログオフ時にユーザー環境をパージしたいシナリオで役立ちます。詳細については、「」を参照してください。(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/actions/external-tasks.html).

修正

- レジストリエントリをアクショングループを介してユーザーまたはユーザーグループに割り当てた場合、有効にならないことがあります。ただし、直接割り当てた場合は有効になります。この問題は、レジストリエントリを次のいずれかの場所に作成するように割り当てた場合に発生します。
  - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Policies
  - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies
- ワークスペースエージェントの更新には、完了までに時間がかかる場合があります。この問題は、現在のユーザーが多数のユーザーグループに属しており、エージェントが処理するアクショングループまたは多数のアクションがある場合に発生します。

2020年1月

Citrix オプティマイザー

Citrix OptimizerがWorkspace Environment Management (WEM)で利用可能になりました。この機能を使用して、ユーザー環境を最適化し、パフォーマンスを向上させることができます。Citrix Optimizerは、ユーザー環境のクイックスキャンを実行し、テンプレートベースの最適化推奨事項を適用します。ユーザー環境を最適化するには、次の2つの方法があります。

- 組み込みテンプレートを使用して最適化を実行できます。そのためには、オペレーティングシステムに適用可能なテンプレートを選択します。
- または、必要な特定の最適化を含む独自のカスタムテンプレートを作成し、それらをWEMに追加することもできます。

詳細については、「Citrix Optimizer」を参照してください。

エージェントの自動アップグレード

このリリースでは、Workspace Environment Management (WEM)エージェントの自動アップグレードをスケジュールできる自動エージェントアップグレード機能が導入されました。この機能により、エージェントのアップグレードを手動で展開する必要なく、定期的なエージェントアップグレードが容易になります。この機能は、WEMエージェントのアップグレードにおいて柔軟性も提供します。

- WEMが構成セット内のすべてのエージェントマシンにアップグレードを自動的に展開する期間を指定できます。
- または、ユーザーがエージェントを手動でアップグレードできるように選択することもできます。

詳細については、「エージェントのアップグレード」を参照してください。

管理コンソール

管理コンソールのユーザーインターフェイスが変更されました。

- **システム最適化**に新しい**Citrix Optimizer**ペインが追加されました。このペインには、最適化関連の設定を構成するための**Citrix Optimizer**タブがあります。
- **詳細設定 > 構成**ペインに新しい**エージェントアップグレード**タブが追加されました。このタブでは、エージェントのアップグレードに関連する設定を構成できます。

修正

- レジストリファイルのインポートが、次のエラーメッセージ「Error "Import from Registry file" - Import Completed with Errors」で失敗する場合があります。この問題は、インポートするレジストリファイルに同じ名前の2つ以上の値が含まれている場合に発生します。
- 次のアクショングループの問題が発生する可能性があります。
  - アクショングループの割り当て解除が、次のエラーメッセージ「"Error while unassigning the selected item: The specified item is not already assigned."」で失敗する場合があります。この問題は、別の構成セットからインポートされたアクショングループの割り当てを解除するときに発生します。
  - アクショングループの名前変更が、次のエラーメッセージ「"Action Group name cannot be same as existing one."」で失敗する場合があります。この問題は、アクショングループの名前を変更した後、元の名前に戻した場合に発生します。

- **管理コンソール > セキュリティ**ペインの**ルールの編集**ウィンドウで割り当てリストをスクロールすると、管理コンソールが予期せず終了する場合があります。この問題は、同じルールを複数のユーザーやユーザーグループに割り当てた場合に発生します。

2019年12月

Microsoft SQL Server Compact (SQL CE) を SQLite に置き換える

Workspace Environment Management (WEM) エージェントはオフラインモードで動作できます。以前のリリースでは、エージェントはオフラインモードを容易にするために、Microsoft SQL Server Compact に依存して SQL Server と同期していました。Microsoft SQL Server Compact 3.5 Service Pack 2 は、この機能をサポートする最後のバージョンです。バージョン 4.0 以降は SQL Server との同期をサポートしていません。しかし、SQL Server Compact 3.5 Service Pack 2 は 2018年にサポート終了 (EOL) に達しました。このリリース以降、エージェントはオフラインモードで動作するために SQLite に依存します。

この変更がお客様に与える影響

Microsoft SQL Server Compact 3.5 Service Pack 2 を使用したくない場合は、最新のエージェントバージョンにアップグレードしてください。エージェントのアップグレードについては、「アップグレード」を参照してください。

このエージェントバージョンにアップグレードしないことを選択した場合、この置き換えに関してお客様側で対応は不要です。

ワークスペース環境管理エージェント

このリリース以降、Workspace Environment Management (WEM) エージェントは、Microsoft .NET Framework バージョン 4.5.2、4.6、4.6.1、4.6.2、および 4.7 をサポートしなくなりました。

エージェントを最新バージョンにインストールまたはアップグレードする場合

WEM エージェントインストーラーは、.NET Framework 4.7.1 がまだインストールされていない場合、またはインストールされているバージョンが 4.7.1 より古い場合、自動的に .NET Framework 4.7.1 をインストールします。インストールが正常に完了すると、マシンの再起動を求められます。再起動後、エージェントインストーラーを再度実行してください。

エージェントをアップグレードしない場合

.NET Framework バージョン 4.7.1 以降にアップグレードする必要はありません。WEM エージェントの以前のバージョンは、.NET Framework 4.5.2 以降をサポートしています。

アクションをリセットするオプション

このリリース以降、WEM は割り当てられたアクションのリセット（ユーザー環境内のアクション関連のレジストリエントリのパージ）をサポートします。この機能は、割り当てられたアクションをリセットする柔軟性も提供します。管理コンソールを使用してすべての割り当てられたアクションをリセットすることも、ユーザーが自分の環境で何をリセットするかを決定できるようにすることもできます。この機能は、ユーザーまたはユーザーグループに割り当てたアクションが有効にならないシナリオで役立つ場合があります。詳細については、「Advanced settings」を参照してください。

管理コンソール

管理コンソールのユーザーインターフェイスが変更されました。

- **Advanced Settings > UI Agent Personalization > UI Agent Options** タブに「Allow Users to Reset Actions」オプションが追加されました。このオプションを使用して、現在のユーザーが自分の環境でリセットするアクションを指定できるようにするかどうかを制御します。

修正

- 復元する AD オブジェクトの種類として **Machines** を選択し、**Next** をクリックした後、復元ウィザードが Active Directory (AD) オブジェクトを読み込むのに時間がかかる場合があります。この問題は、多数の OU (たとえば 4,000) がある場合に発生します。
- **Administration Console > Advanced Settings > Configuration > Agent Options** タブの **Use Cache Even When Online** オプションが機能しない場合があります。

2019年10月

構成セットのエクスポートとインポートのサポート

このリリース以降、Workspace Environment Management (WEM) サービスは、管理コンソールを使用して構成セットのエクスポートとインポートをサポートします。構成セットをエクスポートするには、**バックアップ**ウィザードを使用します。このウィザードでは、**バックアップする項目を選択**ページで**構成セット**オプションが利用可能です。構成セットをインポートするには、**復元**ウィザードを使用します。このウィザードでは、**復元する項目を選択**ページで**構成セット**オプションが利用可能です。一度にエクスポートおよびインポートできる構成セットは1つだけです。詳細については、「リボン」を参照してください。

レジストリファイルのインポートのサポート

このリリース以降、レジストリ設定を含むレジストリファイルをWorkspace Environment Managementサービスにインポートできます。詳細については、「レジストリファイルのインポート」を参照してください。

修正

- オンプレミスのWEMデータベースをWEMサービスに移行した後、マシンに最新バージョンがインストールされている場合でも、WEMサービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、WEMサービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュがWEMサービスデータベースと同期できないためです。
- Transformer (キオスク) モードで、ログオフ画面のリダイレクトが有効になっている場合、WEMはログオフ後にユーザーをログオンページにリダイレクトできない場合があります。
- プロセスコマンドラインフィールドに入力されたWindows組み込みアプリケーション (例: calc.exe) を起動するために、**管理コンソール > Transformer設定 > 詳細設定 > プロセスランチャー**タブでプロセスランチャーを有効にすると、Citrix WEM Agentを更新した後も、エージェントホストがアプリケーションを開き続ける可能性があります。

2019年9月

エージェントプロキシ構成

このリリースでは、グループポリシーを使用してCitrix Cloudと通信するためのWorkspace Environment Management (WEM) エージェントのHTTPSプロキシを構成するサポートが追加されました。その結果、**Citrix WEM Agent Service.exe.config** (旧Norskale Agent Host Service.exe.config) ファイルを構成する必要がなくなりました。代わりに、**エージェントプロキシ構成**ポリシーを使用して、エージェントがCitrix Cloudと通信するためのプロキシサーバーを簡単に指定できます。これにより、エージェントプロキシの構成が簡素化されます。詳細については、「手順3：グループポリシーの構成 (オプション)」を参照してください。

プロファイル管理

Workspace Environment Managementは、1909までのすべてのバージョンのProfile Managementをサポートするようになりました。**管理コンソール > ポリシーとプロファイル > Citrix Profile Management設定**ペインのタブで、以下の新しいオプションが利用可能になりました。

- **ユーザーストアの移行。メインのCitrix Profile Management設定**タブで利用可能なこのオプションを使用すると、データを失うことなくユーザーストアを移行できます。
- **既存のアプリケーションプロファイルの自動移行。プロファイル処理**タブで利用可能なこのオプションを使用すると、既存のアプリケーションプロファイルを自動的に移行できます。

- **Outlook 検索インデックスデータベース – バックアップと復元。詳細設定**タブで利用可能なこのオプションは、Outlook の検索インデックスローミングを有効にする機能の安定性を確保します。

詳細については、Citrix Profile Management の設定を参照してください。

Workspace Environment Management サービスアップグレード通知

このリリースでは、Workspace Environment Management (WEM) サービスの今後のアップグレードに関する通知を受け取ることができるメール通知サービスが導入されました。デフォルトでは、Citrix が WEM サービスをアップグレードする際に通知メールが届きます。今後このようなメールを受け取りたくない場合は、購読を解除できます。購読を解除するには、WEM サービスの**ユーティリティ**タブに移動し、**サービスアップグレード通知**セクションで**購読解除**をクリックします。

管理コンソール

システム最適化 > CPU管理 > CPU管理設定タブに「CPUスパイクの自動防止」オプションが用意されています。このオプションを使用すると、CPU に過負荷をかけるプロセスの CPU 優先度を自動的に下げることができます。詳細については、CPU管理を参照してください。

グループポリシーオブジェクト (GPO) の移行のサポート

このリリースから、GPO の zip バックアップを Workspace Environment Management (WEM) に移行できるようになりました。これを行うには、WEM 管理コンソールのリボンで**移行**をクリックします。**移行**ウィザードでは、GPO を柔軟に移行できます。移行には、**上書き**モードまたは**変換**モードを選択できます。**上書き**モードは、競合がある場合に既存の WEM 設定 (GPO) を上書きします。**変換**モードは、GPO を XML ファイルに変換します。その後、**復元**ウィザードを使用して XML ファイルを WEM に手動でインポートできます。これにより、インポートする設定をきめ細かく制御できます。詳細については、リボンを参照してください。

修正

- 管理コンソールの**Active Directory オブジェクト**タブで、**オブジェクトの追加**と**名前の確認**を使用してオブジェクトを検索および追加する場合、一度に1つのオブジェクトしか追加できません。別のオブジェクトを追加するには、 ダイアログを閉じてから再度開く必要があります。(Workspace Environment Management のオンプレミスバージョンでは、ダイアログを毎回閉じなくても複数のオブジェクトを識別して追加できます。)
- アプリケーションセキュリティルールを編集すると、Workspace Environment Management 管理コンソールが予期せず終了する場合があります。この問題は、**ルールの編集**ウィンドウに

ユーザーとユーザーグループの長いリストが表示されており、それらを表示するためにスクロールダウンしたときに発生します。

- Workspace Environment Management エージェントマシンにログオンすると、ログオンプロセスが完了するまでに時間がかかる場合があります。この問題は、Endpoint Management グループポリシー処理が無効になっているにもかかわらず、Workspace Environment Management エージェントログオンサービス (Citrix.Wem.Agent.LogonService.exe) がログオンプロセスを数秒間遅延させるために発生します。

2019年7月

Workspace Environment Management エージェントインストーラー

このリリースでは、まったく新しい統合された Workspace Environment Management (WEM) エージェントインストーラーが提供されます。このインストーラーは、WEM オンプレミスエージェントとサービスエージェントを単一の実行可能ファイルにバンドルします。これにより、ADMX テンプレートを構成したり、グループポリシーを編集したりする必要がなくなります。エージェントは、対話形式またはコマンドラインを使用してインストールできます。詳細については、インストールと構成を参照してください。

Active Directory (AD) オブジェクトのエクスポートとインポートのサポート

このリリースから、Workspace Environment Managementサービスは、管理コンソールを使用してADオブジェクトのエクスポートとインポートをサポートします。ADオブジェクトをエクスポートするには、**バックアップ**ウィザードを使用します。このウィザードの**バックアップする項目を選択**ページに**Active Directory (AD) オブジェクト**オプションがあります。ADオブジェクトをインポートするには、**復元**ウィザードを使用します。このウィザードの**復元する項目を選択**ページに**Active Directory (AD) オブジェクト**オプションがあります。バックアップおよび復元するADオブジェクトの種類を指定できます。詳しくは、「リボン」を参照してください。

VMware Persona設定の非推奨化

VMware Persona設定のサポートは非推奨になりました。次のリリースでは、VMware Persona設定に関するすべてのコンテンツがドキュメントから削除されます。

修正

- ユーザー統計に関連付けられたデータ量が多い場合、エージェントのスプラッシュ画面が長時間表示されたままになることがあります。
- グループポリシー管理コンソールの左ペインに**Citrixコンポーネント**ノードが2つ表示されることがあります。

2019年6月

アクショングループ

アクショングループ機能が、管理コンソールの**アクション**ペインに追加されました。この機能を使用すると、ユーザーまたはユーザーグループに割り当てるアクションのグループを構成できます。詳しくは、「アクショングループ」を参照してください。

管理コンソール

管理コンソールのユーザーインターフェイスが変更されました。

- **アクション**に新しい**アクショングループ**ペインがあります。**アクション > アクショングループ**ペインには、ユーザーまたはユーザーグループに割り当てるアクションのグループを構成するための新しい**アクショングループリスト**タブがあります。

修正

- GPOを使用してWindowsテーマをカスタマイズした場合、エージェントホストのWindowsテーマがデフォルトに戻ることがあります。この問題は、管理コンソールの**ポリシーとプロファイル > 環境設定 > スタートメニュー**タブで**特定のテーマファイルを設定**と**背景色を設定**を選択せずに、WEMエージェントが環境設定を処理するように有効にした場合に発生します。その結果、WEMエージェントはWindowsテーマに関連付けられたレジストリ設定を削除します。
- GPOを使用してWindowsのデスクトップ背景をカスタマイズすると、エージェントホストのWindowsデスクトップ背景がデフォルトに戻る場合があります。この問題は、管理コンソールの**Policies and Profiles > Environmental Settings > Start Menu**タブで**Set Specific Theme File**と**Set Background Color**を選択せずにWEMエージェントが環境設定を処理するように有効にした場合に発生します。その結果、WEMエージェントはWindowsデスクトップ背景に関連付けられたレジストリ設定を削除します。

2019年5月

TLS 1.2を介した通信のサポート

Workspace Environment Management (WEM) サービスは、Transport Layer Security (TLS) 1.2 プロトコルを利用して通信を保護します。TLS 1.2 は、以前の TLS バージョンよりも高いレベルのセキュリティを提供します。

この変更がお客様に与える影響

TLS 1.2 を有効にするには、WEM サービスエージェントの最新バージョンを使用する必要があります。最新の WEM サービスエージェントは、TLS 1.2 通信のみを許可します。

実行すること

TLS 1.2 のみを有効にする場合は、エージェントを最新バージョンにアップグレードしてください。WEM サービスエージェントのアップグレードについては、「アップグレード」を参照してください。

プロファイル管理

Workspace Environment Management サービスは、1903 までのすべてのバージョンのプロファイル管理をサポートするようになりました。**管理コンソール \> ポリシーとプロファイル \> Citrix Profile Management 設定 \> 同期**タブで、次の新しいオプションが利用可能になりました。

- プロファイルコンテナを有効にする（フォルダのコピーをローカルプロファイルに保存する必要をなくすオプション）

ワークスペース環境管理とエンドポイント管理の統合

このリリースには、Workspace Environment Management と Endpoint Management の統合に対する次の機能強化が含まれています。

- WEM サービスエージェントが実行されているマシンは、自動的に構成セットに関連付けられます。WEM サービス管理コンソールでマシン（エージェントホスト）を構成セットに手動で追加する必要はありません。その結果、該当するマシンにサービスエージェントをインストールした後、Endpoint Management コンソールを使用して WEM 設定（グループポリシー）を直接構成できるようになりました。詳細については、「Windows GPO 構成デバイスポリシー」を参照してください。

管理コンソール

Advanced Settings \> Configuration \> Agent Optionsタブに「通知を有効にする」オプションが用意されています。このオプションを使用すると、インフラストラクチャサービスへの接続が切断または復元されたときに、エージェントがエージェントホストに通知メッセージを表示するかどうかを制御できます。

修正

- **Administration Console \> Monitoring \> User Trends \> Devices Types**タブでまたはをクリックしても、レポートを表示できない場合があります。代わりに、**Administration Console \> Actions \> Applications \> Application List**タブに戻されます。
- Windows 10バージョン1809およびWindows Server 2019では、Workspace Environment Managementがアプリケーションをタスクバーにピン留めできません。

- WEMが最新バージョンにアップグレードされた後、以前のバージョンのエージェントをまだ使用している場合、エージェントはオフラインモードで正常に動作しません。この問題は、最新リリースでエージェントローカルキャッシュファイルのスコープが変更されたために発生します。回避策として、古いエージェントローカルキャッシュファイルを削除し、WEM Agent Host Service (Norskale Agent Hostサービス) を再起動します。
- 管理コンソールのタブで、ファイルハッシュ条件を使用して.exeまたは.dll拡張子を持つファイルのAppLockerルールを作成しても、そのルールは機能しません。この問題は、WEMがそのファイルのハッシュコードを誤って計算するために発生します。
- 管理コンソールのタブで、発行元条件を使用してファイルのAppLockerルールを作成しても、そのルールは機能しません。この問題は、WEMがファイル名を誤って解決するために発生します。
- 管理コンソールの**Policies and Profiles \> Environmental Settings \> SBC / HVD Tuning**タブにある**Enable AutoEndTasks**オプションは機能しません。
- 管理コンソールで**Add OU**をクリックすると、WEMが**Organizational Units**ウィンドウに何も表示しない場合があります。この問題は、フォレスト (現在または信頼済み) に多数のOUが含まれている場合に発生します。回避策として、**Cancel**をクリックしてから、**Add OU**を複数回クリックします。
- アプリケーションセキュリティ機能は、英語以外のWindowsオペレーティングシステムを使用するWindowsサーバーでは機能しません。この問題は、WEMが英語以外の言語環境でApplication Identityサービスを開始できないために発生します。

2019年4月

修正

- WEMデータベースをWEMサービスに移行しようとすると失敗する場合があります。この問題は、オンプレミスWEMデータベースのVUEMTasksHistoryテーブルのエントリに特殊文字が含まれている場合に発生します。回避策として、オンプレミスWEMデータベースからそれらのエントリを削除し、移行プロセスを再開します。

2019年3月

ワークスペース環境管理とエンドポイント管理の統合

このリリースから、Workspace Environment Managementサービスは、Endpoint Managementコンソールを介したグループポリシーの設定をサポートします。Endpoint Managementコンソールからグループポリシーを設定するには、Workspace Environment Managementサービスエージェ

ントの最新バージョンを実行していることを確認してください。統合の詳細については、「Windows GPO構成デバイスポリシー」を参照してください。

修正

現在のリリースで以下の問題が修正されました。

- 言語パックがインストールされている場合、メニュー > メニューのオプションが、選択した言語で表示されないことがあります。
- Workspace Environment Managementサービスの**管理**タブから管理コンソールにアクセスしようとすると失敗します。回避策として、ブラウザウィンドウを更新して再試行してください。
- WEMサービスがバージョン1811にアップグレードされた後、WEMが**組織単位**ウィンドウに何も表示しない場合、**OK**をクリックすると管理コンソールが予期せず終了することがあります。
- SQLファイルをアップロードした後、オンプレミスのWEMデータベースをWEMサービスに移行しようとすると失敗することがあります。この問題は、Azureでのデータベース作成がタイムアウトするために発生します。

2019年2月

データベースの移行

新しいプロセスにより、オンプレミスのWorkspace Environment Managementデータベースを Workspace Environment Managementサービスに移行できます。このプロセスは、WEMサービスの**ユーティリティ**タブで提供されます。詳細については、「移行」を参照してください。

管理コンソール

管理コンソールのユーザーインターフェイスの変更点：

- **割り当て** > **アクション割り当て**タブに「Everyone」デフォルトグループが提供されます。Active Directoryのすべてのユーザーにアクションを割り当てるのを簡素化するために、「Everyone」デフォルトグループを使用してアクションを割り当てることができます。
- **管理** > **エージェント** > **統計**タブに、Profile Managementの健全性ステータス列が提供されます。このリリースから、Workspace Environment Managementは、Profile Managementが最適に構成されているかどうかを判断するために、エージェントホストで自動ステータスチェックを実行することをサポートします。この列でステータスを表示できます。

プロファイル管理

このリリースから、Workspace Environment Management サービスは Citrix Profile Management 1808 のすべての設定構成をサポートします。サービスの**管理**タブにある管理コンソールで、以下の新しいオプションが利用可能になりました。

- **アプリケーションプロファイラーを有効にする** (アプリケーションベースのプロファイル処理を定義するオプション)
- **Microsoft Outlook ユーザーの検索インデックスローミングを有効にする** (Microsoft Outlook でメールを検索する際のユーザーエクスペリエンスを向上させるオプション)
- **ラージファイル処理を有効にする** (ネットワーク経由で大きなファイルを同期する必要性をなくすオプション)

新しい製品名

Citrix のお客様またはパートナーとして長年お付き合いいただいている方は、当社の製品やこの製品ドキュメントに新しい名前があることにお気づきでしょう。この Citrix 製品を初めてご利用になる方は、製品やコンポーネントに異なる名前が表示される場合があります。

新しい製品名とコンポーネント名は、Citrix のポートフォリオとクラウド戦略の拡大に由来しています。この製品ドキュメントの記事では、以下の名前を使用しています。

- **Citrix Virtual Apps and Desktops™:** Citrix Virtual Apps and Desktops は、クラウドサービスおよびオンプレミス製品として提供される仮想アプリおよびデスクトップソリューションであり、従業員がどこからでもあらゆるデバイスで作業できる自由を提供し、ITコストを削減します。Windows、Linux、Web、SaaSアプリケーション、または完全な仮想デスクトップを、パブリック、オンプレミス、ハイブリッドのあらゆるクラウドから配信します。Virtual Apps and Desktops は以前は XenApp および XenDesktop と呼ばれていました。
- **Citrix Workspace™ app:** Citrix Workspace アプリは、既存の Citrix Receiver™ テクノロジーとその他の Citrix Workspace クライアントテクノロジーを統合しています。エンドユーザーが最高の仕事をするために必要なすべての作業アプリ、ファイル、デバイスと対話できる、統一されたコンテキストに応じたエクスペリエンスを提供するために、追加機能が強化されています。
- **Citrix Provisioning:** Citrix Provisioning は、仮想マシンイメージを管理するためのソリューションであり、以前は Machine Creation Services™ (MCS) および Citrix Provisioning Services (PVS) として知られていたテクノロジーを組み合わせています。Citrix Provisioning は以前は Provisioning Services と呼ばれていました。

簡単なまとめです。

現在	以前
シトリックス バーチャル アプリおよびデスクトップ	ゼナップおよびゼンテスクトップ
Citrix Workspace アプリ	シトリックス レシーバー
シトリックス プロビジョニング™	プロビジョニングサービス

当社の製品およびそのドキュメントにおけるこの移行の実施は、現在進行中のプロセスです。

- 製品内のコンテンツには、以前の名称がまだ含まれている場合があります。たとえば、コンソールテキスト、メッセージ、ディレクトリ/ファイル名に以前の名称のインスタンスが表示されることがあります。
- 一部の項目（コマンドやMSIなど）は、既存の顧客スクリプトが破損するのを防ぐため、以前の名称を保持し続ける可能性があります。
- この製品のドキュメントからリンクされている関連製品ドキュメントやその他のリソース（ビデオやブログ投稿など）には、以前の名称がまだ含まれている場合があります。

この移行期間中の皆様のご理解とご協力に感謝いたします。

新しい製品およびコンポーネントのバージョン番号

このリリースでは、製品およびコンポーネントのバージョン番号は、***YYMM.c.m.b*** の形式で表示されます。

- *YYMM* = 機能が最終決定された年と月。たとえば、機能が8月に最終決定された場合、2018年9月のリリースは1808と表示されます。
- *c* = その月のCitrix Cloudリリース番号。
- *m* = メンテナンスバージョン（該当する場合）。
- *b* = ビルド番号。このフィールドは、製品の「バージョン情報」ページと、OSのプログラムの削除または変更機能にのみ表示されます。

例えば、**Workspace Environment Management service 1808.1.0.2** は、2018年8月に機能が確定したリリース製品がその月のCitrix Cloudリリース1に関連付けられており、メンテナンスバージョンではないことを示します。一部のUI要素には、バージョンの年と月のみが表示されます。例: **Workspace Environment Management service 1808**。

修正

現在のリリースでは、以下の問題が修正されています。

- セキュリティタブで、**DLLルールを処理**オプションをクリアすると、「DLLルール」コレクションの横に報告されるルール数が、WEMデータベース内の実際の数に関係なくゼロに設定されます。
- Workspace Environment Management Agent Hostの画面キャプチャ機能を使用すると、エンドユーザーは環境内のエラーメッセージのスクリーンショットを撮ることができます。その後、スクリーンショットをMicrosoft Outlook経由で管理者に送信してサポートを受けることができます。ただし、エンドユーザーが**サポートに送信**ボタンをクリックすると、「メールの送信中にエラーが発生しました。」というエラーメッセージが表示されます。
- コマンドラインを使用してWEMデータベースをアップグレードしようとすると、失敗する場合があります。
- WEMのオンプレミスバージョンでは、Active Directoryセキュリティグループを WEMエージェントのコンテナとして使用できます。ただし、WEMサービスはActive Directoryセキュリティグループをエージェントコンテナとして使用することをサポートしていません。オンプレミスインフラストラクチャサービスは、直接および間接OUをエージェントコンテナとして使用することもサポートしています。たとえば、WEMエージェントAGENT1がOU2に属し、OU2がOU1に属しているとします（OU1>OU2>AGENT1）。オンプレミスインフラストラクチャサービスは、AGENT1をOU1とOU2の両方のメンバーとして認識します。ただし、WEMサービスは間接OUをサポートしていません。上記の例では、WEMサービスはAGENT1をOU2のメンバーとしてのみ認識します。
- WEM管理コンソールの**割り当て**セクションで、特定のユーザーに割り当てられたWEMアクションのグローバルビューにモデリングウィザードを使用すると、アクションモデリングウィザードの**ユーザーグループ**タブにユーザーが属するグループが表示されます。ただし、WEMサービスでは、アクションモデリングウィザードの**ユーザーグループ**タブにユーザーが属するグループが表示されません。
- 管理コンソールの**システム最適化** > **CPU管理** > **CPUクランプ**タブで、プロセスにCPU処理能力の割合を初めて適用し、後で同じプロセスに異なる割合を設定しても、変更は有効になりません。
- WEMエージェントをバージョン4.7にアップグレードした後、管理コンソールの**システム最適化 \> CPU管理 \> CPU管理設定**タブで**インテリジェントCPU最適化を有効にする**および/または**インテリジェントI/O最適化を有効にする**を選択すると、Windowsイベントログにエラー87に関するエラーメッセージが頻繁に表示されます。この問題はユーザーエクスペリエンスには影響しないため、これらのエラーメッセージは無視できます。
- Citrix WEMエージェントが起動すると、現在のユーザーのUsersフォルダーのルートにCitrix WEM Agent Initファイル（.log）とCitrix WEM Agentファイル（.log）が別々に作成されます。ただし、WEMエージェントがCitrix WEM Agent InitファイルからCitrix WEM Agentファイルに切り替わる際に、一部のログが欠落する可能性があります。

2018年8月

エージェント

エージェントグループポリシテンプレート: このテンプレートを使用すると、Citrix Cloud Connectorのリストを指定できます。これはエージェントをインストールする前に行う必要があります。「」を参照してください。(/ja-jp/workspace-environment-management/service/get-started/install-and-configure.html).

Workspace Environment Managementサービスエージェント: サービス固有のエージェントが提供されます。このエージェントは、Workspace Environment Managementサービスに接続できます。エージェントをインストールする前に、ユーザードメインにCitrix Cloud Connectorを展開する必要があります。「」を参照してください。(/ja-jp/workspace-environment-management/service/get-started/install-and-configure.html).

管理コンソール

Workspace Environment Management 管理コンソール: Webブラウザを使用して、サービスの**管理**タブからWEMインストールを管理するためのWebベースの管理コンソールが提供されます。これは、オンプレミスバージョンの管理コンソールと同じ機能を提供します。

Microsoft Outlookユーザー向けの検索インデックスローミング: Microsoft Outlookでメールを検索する際のユーザーエクスペリエンスを向上させるための新しいオプションが提供されます。Citrix Profile Managementの設定を参照してください。

Workspace Environment Managementサービスのドキュメント履歴

次の表に、Workspace Environment Management サービスの製品ドキュメントに対する重要な変更点を示します。これらのアップデートに関する通知を受け取るには、RSSフィードを購読してください。

日付	変更	説明
23 Jun 2021	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
28 May 2021	[エージェントのアップグレードのスケジュール] オプションの説明が更新されました	詳細設定を参照してください。
26 May 2021	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
21 Apr 2021	動的トークンの追加	動的トークンを参照してください。
21 Apr 2021	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
15 Apr 2021	新しい記事を追加しました	ファイルのアップロードを参照してください。
01 Apr 2021	仮想ドライブの記事を更新しました。	仮想ドライブを参照してください。
22 Mar 2021	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。

日付	変更	説明
18 Mar 2021	[初期環境クリーンアップ] および [初期デスクトップ UI クリーンアップ] オプションの説明を更新しました。	詳細設定を参照してください。
04 Feb 2021	新しいセクションを追加しました	権限昇格を参照してください。
02 Feb 2021	新しい記事を追加しました	制限を参照してください。
01 Feb 2021	Citrix Optimizer の記事を更新しました	Citrix Optimizerを参照してください。
27 Jan 2021	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
08 Jan 2021	**[キャッシュを使用してアクションの処理を高速化]** 設定の推奨事項を追加しました	詳しくは、「詳細設定」を参照してください。
05 Jan 2021	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
07 Dec 2020	新しい記事を追加しました	REST APIを参照してください。
03 Dec 2020	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
30 Nov 2020	[アイテムの優先度] オプションの説明を更新しました	Active Directoryオブジェクトを参照してください。
09 Nov 2020	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
05 Nov 2020	アプリケーションの記事を更新しました	アプリケーションを参照してください。

日付	変更	説明
20 Oct 2020	「グループポリシー設定の編集」を更新しました	グループポリシー設定の編集を参照してください。
15 Oct 2020	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
15 Oct 2020	新しい記事を追加しました	エージェント側の更新操作を参照してください。
15 Oct 2020	顧客データ管理の記事を更新	顧客データ管理を参照してください。
12 Oct 2020	［CitrixDesktop Viewer アのロック］オプションの説明を更新しました	「トランスフォーマーの設定」を参照してください。
09 Oct 2020	エージェントプロキシ構成ポリシーの説明が更新されました	「WEM エージェントのインストールと構成」を参照してください。
21 Sep 2020	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
14 Sep 2020	更新オプションの説明の更新	「コンテキストメニューのオプション」を参照してください。
24 Aug 2020	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
20 Aug 2020	ストアURLの既知の制限を追加しました	「ストアを追加するには」を参照してください。
27 Jul 2020	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。

日付	変更	説明
16 Jul 2020	1 回実行の記述を更新しました	「外部タスク」を参照してください。
14 Jul 2020	更新されたトピック-新機能	「EU ベースのインスタンスの有効化」を参照してください。
08 Jul 2020	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
19 Jun 2020	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
11 Jun 2020	Cloud Connector 制限の説明を追加	「制限」を参照してください。
04 Jun 2020	アイドル優先時間の説明を更新	「CPU 管理設定」を参照してください。
26 May 2020	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
07 May 2020	アクションとインフラストラクチャサービスデータキャッシュの説明を追加	アクションおよびマシンを参照してください。
06 May 2020	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
17 Apr 2020	外部タスクと UI エージェントオプションの説明が更新されました	外部タスクおよびUI エージェントのオプションを参照してください。
08 Apr 2020	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。

日付	変更	説明
12 Mar 2020	エージェントの移行手順の説明	「移行後」を参照してください。
21 Feb 2020	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
14 Feb 2020	エージェントキャッシュの更新遅延の記述が更新されました	「サービスオプション」を参照してください。
20 Jan 2020	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
03 Dec 2019	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
16 Oct 2019	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
10 Sep 2019	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
16 Jul 2019	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
06 Jun 2019	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
10 May 2019	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。

日付	変更	説明
02 Apr 2019	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。
11 Mar 2019	解除	新機能および変更された機能の概要については、「新機能」を参照してください。